

---

# Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド

解説・手引書

3000-3-475-20

## マニュアルの購入方法

このマニュアル，及び関連するマニュアルを御購入の際は，  
巻末の用紙を御利用ください。

**HITACHI**

このマニュアルは、次ページに示すプログラムプロダクトの発行によって、第2版（3000-3-475-10）の内容を変更したものです。

#### 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

#### 商標類

AIX は、米国における米国 International Business Machines Corp. の登録商標です。

HACMP/6000 は、米国における米国 International Business Machines Corp. の商標です。

HP-UX は、米国 Hewlett-Packard Company のオペレーティングシステムの名称です。

Microsoft は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

MS-DOS は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Windows NT は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

イーサネットは、富士ゼロックス（株）の商品名称です。

平成 13 年 3 月（第1版） 3000-3-475（廃版）

平成 13 年 9 月（第2版） 3000-3-475-10（廃版）

平成 14 年 3 月（第3版） 3000-3-475-20

< プログラムプロダクト一覧 >

- P-1646-514 Groupmax Object Server Version 6 06-00 (適用 OS : HI-UX/WE2)
- P-1646-524 Groupmax Object Server Version 6 06-00 (適用 OS : HI-UX/WE2)
- P-1646-534 Groupmax Object Server Version 6 06-00 (適用 OS : HI-UX/WE2)
- P-1646-544 Groupmax Object Server Version 6 06-00 (適用 OS : HI-UX/WE2)
- P-1646-554 Groupmax Object Server Version 6 06-00 (適用 OS : HI-UX/WE2)
- P-1646-564 Groupmax Object Server Version 6 06-00 (適用 OS : HI-UX/WE2)
- P-1646-594 Groupmax Object Server Version 6 06-00 (適用 OS : HI-UX/WE2)
- P-1646-714 Groupmax High-end Object Server Version 6 06-00 (適用 OS : HI-UX/WE2)
- P-1B46-5141 Groupmax Object Server Version 6 06-00 (適用 OS : HP-UX)
- P-1B46-5241 Groupmax Object Server Version 6 06-00 (適用 OS : HP-UX)
- P-1B46-5341 Groupmax Object Server Version 6 06-00 (適用 OS : HP-UX)
- P-1B46-5441 Groupmax Object Server Version 6 06-00 (適用 OS : HP-UX)
- P-1B46-5541 Groupmax Object Server Version 6 06-00 (適用 OS : HP-UX)
- P-1B46-5641 Groupmax Object Server Version 6 06-00 (適用 OS : HP-UX)
- P-1B46-5941 Groupmax Object Server Version 6 06-00 (適用 OS : HP-UX)
- P-1B46-7141 Groupmax High-end Object Server Version 6 06-00 (適用 OS : HP-UX)
- P-1M46-5141 Groupmax Object Server Version 6 06-02 (適用 OS : AIX)
- P-1M46-5241 Groupmax Object Server Version 6 06-02 (適用 OS : AIX)
- P-1M46-5341 Groupmax Object Server Version 6 06-02 (適用 OS : AIX)
- P-1M46-5441 Groupmax Object Server Version 6 06-02 (適用 OS : AIX)
- P-1M46-5541 Groupmax Object Server Version 6 06-02 (適用 OS : AIX)
- P-1M46-5641 Groupmax Object Server Version 6 06-02 (適用 OS : AIX)
- P-1M46-7141 Groupmax High-end Object Server Version 6 06-02 (適用 OS : AIX)

## 変更内容

変更内容 (3000-3-475-20) Groupmax Object Server Version 6 06-02

追加・変更機能	変更箇所
AIX 対応のクラスタリング機能に関する記述を追加しました。	8.1.1(1), 8.15, 付録 H
AIX 対応のサーバ環境設定ユティリティ機能の記述を追加しました。	付録 E

なお, 単なる誤字・脱字などはお断りなく修正しました。

変更内容 (3000-3-475-10) Groupmax Object Server Version 6 06-00

追加・変更機能
AIX 対応の記述を追加しました。

# はじめに

このマニュアルは、Groupmax Enterprise Version 6 のデータベースとして、オブジェクト管理ファイルを管理及び運用するための機能と使い方について説明したものです。

Groupmax Object Server Version 6 及び Groupmax High-end Object Server Version 6 は、オペレーティングシステム AIX、HI-UX/WE2 又は HP-UX 上で動作します。

なお、マニュアル内では Groupmax Enterprise Version 6 を Groupmax と呼びます。ただし、Version 6 と Version 5 を区別する必要がある場合は、それぞれ Groupmax Version 6、Groupmax Version 5 と記述します。

また、Groupmax Object Server Version 6 及び Groupmax High-end Object Server Version 6 を、オブジェクトサーバと呼びます。

## 対象読者

このマニュアルは、オブジェクトサーバのオブジェクト管理ファイルを管理及び運用するシステム管理者を対象にしています。

## マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す八つの章と付録から構成されています。

### 第1章 概説

オブジェクトサーバの概要について説明しています。

### 第2章 オブジェクトサーバの環境設定

オブジェクトサーバを起動する前に必要な環境設定について説明しています。

### 第3章 オブジェクトサーバの運用

オブジェクトサーバの開始と終了の方法、及びログメッセージに関する運用について説明しています。

### 第4章 データベースの運用

オブジェクトサーバのデータベースの運用方法について説明しています。

### 第5章 システムファイルの運用

オブジェクトサーバのデータベースの運用に使用するシステムファイルの説明と、ステータスファイル及びジャーナルファイルの運用について説明しています。

### 第6章 障害対策

オブジェクトサーバで障害が発生した場合の対処について説明しています。

### 第7章 オブジェクトサーバのファイル

オブジェクトサーバのファイルを一覧で説明しています。また、環境設定時に作成しなくてはならないファイルの記述方法についても説明しています。

### 第8章 コマンド

オブジェクトサーバのコマンドの機能及び文法について説明しています。

## はじめに

### 付録 A 初期設定パラメタの指定例

Groupmax シリーズのプログラムとオブジェクトサーバを組み合わせて使うときの、初期設定パラメタの指定例を説明しています。

### 付録 B バッチファイルによる High-end Object Server のシステムファイル環境設定

High-end Object Server では、システムファイルの環境設定を、バッチファイルで実行できます。このバッチファイル及び使用するサンプルファイルについて説明していません。

### 付録 C Bibliotheca/OM を同じサーバで使用する場合

オブジェクトサーバと Bibliotheca/OM を同じサーバで使用する場合の注意事項について説明しています。

### 付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

Groupmax サーバ環境設定コマンドでの初期設定パラメタ、構成変更パラメタ、再編成パラメタ、及びカーネルパラメタの変更情報の作成方法について説明しています。

### 付録 E Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによる環境設定 (AIX を御利用の場合)

Groupmax サーバ環境設定ユーティリティでの初期設定パラメタ、再構成パラメタ及びカーネルパラメタの変更情報の作成方法について説明しています。

### 付録 F 障害予防

オブジェクトサーバを運用する上で注意することについて説明しています。

### 付録 G クラスタリング機能を使用した運用 (HP-UX を御利用の場合)

HP-UX でオブジェクトサーバを御使用の場合の、MC/ServiceGuard によって提供されているクラスタリング機能を使用するための運用方法について説明しています。

### 付録 H クラスタリング機能を使用した運用 (AIX を御利用の場合)

AIX でオブジェクトサーバを御使用の場合の HACMP for AIX によって提供されているクラスタリング機能を使用するための運用方法について説明しています。

### 付録 I プロセスの状態表示の出力例

xodpinfo コマンドの処理結果の表示内容について説明しています。

### 付録 J マルチオブジェクトサーバ (マルチ OMS) (High-end Object Server) (HP-UX を御利用の場合)

マルチオブジェクトサーバについて説明しています。

### 付録 K メッセージ

オブジェクトサーバが出力するメッセージ、アボートコード、及び詳細コードについて説明しています。

### 付録 L 用語解説

オブジェクトサーバで使用する用語について説明しています。

## 関連マニュアル

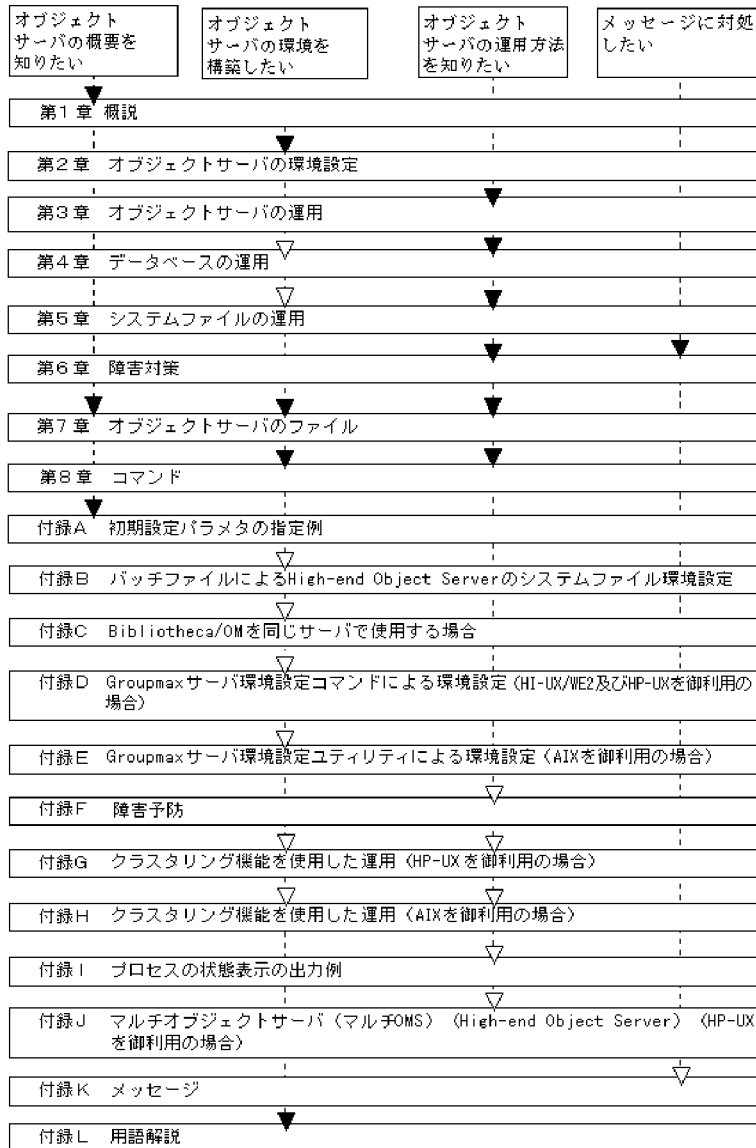
このマニュアルは次のマニュアルと関連がありますので、必要に応じてお読みください。

- Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編 (3000-3-471)
- Groupmax Document Manager Version 6 システム管理者ガイド (3000-3-473)
- Groupmax Workflow Version 6 システム管理者ガイド (3000-3-477)
- Groupmax System Agent - TCP/IP Version 5 システム管理者ガイド (3000-3-A50)

## 読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて章を選択してお読みいただけます。利用目的別に、次の流れに従ってお読みいただくことをお勧めします。

# はじめに



(凡例)

□ : 必ず読む項目

▽ : 必要に応じて読む項目

## マニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を、次のように定義します。



記号	説明
{ }	この記号で囲まれている複数の項目のうちから一つを選択することを示します。項目が縦に複数行にわたって記述されている場合は、そのうちの1行分を選択します。項目が横に並べられ、記号   で区切られている場合は、そのうちの一つを選択します。 (例) { A   B   C } では A, B 又は C のどれかを指定することを示します。
[ ]	この記号で囲まれている項目は省略してもよいことを意味します。複数の項目が縦又は横に並べて記述されている場合には、すべてを省略するか、記号 { } と同じくどれか一つを選択します。 (例)[ A ] は「何も指定しない」か、「A を指定する」ことを示します。 [ B   C ] では「何も指定しない」か、「B 又は C を指定する」ことを示します。
...	記述が省略されていることを示します。この記号の直前に示された項目を繰り返し複数個指定できます。 (例) A, B, B, ... では「A の後ろに B を必要個数指定する」ことを示します。
- (下線)	括弧で囲まれた複数項目のうち1項目に対し使用され、括弧内のすべてを省略したときシステムがとる標準値を示します。 (例)[ A   B   <u>C</u> ] では「A, B, C のどれも指定しなかった場合、システムは C が指定されたときと同じ処理をする」ことを示します。 [ A = { B   C   D } ] では「オペランド A を指定しなかった場合、システムは A = B を指定されたときと同じ処理をする」ことを示します。
< >	項目を記述するとき従わなければならない構文要素を示します。
計算式	計算式の答えの小数点以下を切り上げることを示します。

## マニュアルで使用する構文要素

このマニュアルで使用する構文要素の種類を次に示します。

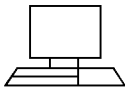
種類	定義
英字	A ~ Z, a ~ z, _ (下線) を使った文字列
英数字	英字, 0 ~ 9 を使った文字列
符号なし整数	0 ~ 9 を使った文字列
16進数字	0 ~ 9, a ~ f, A ~ F を使った文字列
識別子	先頭が 英字 である 英数字 を使った文字列
文字列	「"」(ダブルクォーテーション)を除く任意の文字列。「"」で囲むと、「"」を除いた部分を 文字列 と見なします。文字として「 」(空白),「,」(コンマ),「=」(イコール)を使用するときは、必ず「"」で囲んでください。

## 図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。

## はじめに

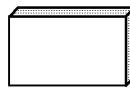
●ワークステーション,  
パーソナルコンピュータ



●入出力の動作



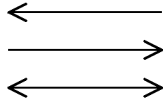
●プログラム



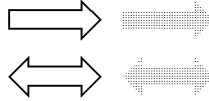
●ファイル



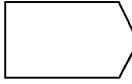
●制御の流れ



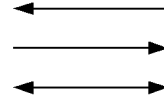
●データの流れ



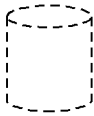
●工程, 作業項目の  
流れ



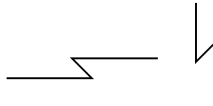
●その他の流れ



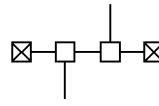
●仮想ファイル



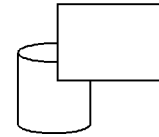
●通信回線



●バス形のLAN



●ファイルの内容



### マニュアルで使用する用語

このマニュアルで使用する用語について説明します。

- AIX, HI-UX/WE2 又は HP-UX などのオペレーティングシステムを OS (Operating System) と表記する場合があります。
- Groupmax Object Server 及び Groupmax High-end Object Server の管理するオブジェクト管理ファイルをデータベースと表記する場合があります。
- 本文及びメッセージ中では、次のように用語を呼び替えています。

用語	マニュアルで使用する用語
データベース	DB (Database)
オブジェクトサーバ	OMS (Object Management Server)
ユーザジャーナル	UJ (User Journal)
システムジャーナル	JN (System Journal)
ステータスファイル	STS (Status File)
アプリケーションプログラム	AP (Application Program)
パーソナルコンピュータ	PC (Personal Computer)

### このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名称を以下に示す略称で表記しています。

製品名称	略称
Groupmax Object Server Version 6	Object Server
Groupmax High-end Object Server Version 6	High-end Object Server
Groupmax Address Server Version 6	Groupmax Address Server
Groupmax Document Manager Version 6	Groupmax Document Manager

製品名称	略称
Groupmax High-end Document Manager Version 6	Groupmax High-end Document Manager
Groupmax Mail Server Version 6	Groupmax Mail Server
Groupmax Mail - X.400 Version 6	Groupmax Mail - X.400
Groupmax Mail-Administrator Utilities Version 3	Groupmax Mail-Administrator Utilities
Groupmax Workflow Server Version 6	Groupmax Workflow Server
Groupmax High-end Workflow Server Version 6	Groupmax High-end Workflow Server
Groupmax Agent Server Version 5	Groupmax Agent Server
Groupmax Agent Server Mail Option Version 5	Groupmax Agent Server Mail Option
Groupmax Agent - Mail Server Version 6	Groupmax Agent - Mail Server
Groupmax Agent - Mail Function Version 6	Groupmax Agent - Mail Function
Groupmax Agent - Document Manager Server Version 5	Groupmax Agent - Document Manager Server
Groupmax Agent - Workflow Server Version 5	Groupmax Agent - Workflow Server
Groupmax Facilities Manager Version 6	Groupmax Facilities Manager
Groupmax Remote Installation Server Version 3	Groupmax Remote Installation Server
Groupmax Scheduler Server Version 6	Groupmax Scheduler Server
Groupmax System Agent - TCP/IP Version 5	Groupmax System Agent - TCP/IP
Groupmax System Manager - TCP/IP Version 5	Groupmax System Manager - TCP/IP
Groupmax World Wide Web Desktop Version 6	Groupmax World Wide Web Desktop
Groupmax Form Server-Processing Option Version2.0	Groupmax Form Server
Groupmax Form Client - Design Version 6	Groupmax Form
Groupmax Integrated Desktop Version 6	Groupmax Integrated Desktop
High Availability Cluster Multi-Processing for AIX	HACMP for AIX
High Availability Cluster Multi-Processing for AIX Enhanced Scalability または High Availability Cluster Multi-Processing for AIX 拡張スケーラブル機能	HACMP/ES
Microsoft <sup>(R)</sup> MS-DOS <sup>(R)</sup>	MS-DOS
Microsoft <sup>(R)</sup> Windows <sup>(R)</sup> 95 Operating System , Microsoft <sup>(R)</sup> Windows <sup>(R)</sup> 98 Operating System 及び Microsoft <sup>(R)</sup> Windows <sup>(R)</sup> Millennium Edition Operating System	Windows
Microsoft <sup>(R)</sup> WindowsNT <sup>(R)</sup> Server Network Operating System Version4.0	Windows NT
Microsoft <sup>(R)</sup> Windows <sup>(R)</sup> 2000 Server Operating System	Windows 2000 Server
Microsoft <sup>(R)</sup> Windows <sup>(R)</sup> 2000 Advanced Server Operating System	Windows 2000 Advanced Server

また、このマニュアルでは製品を次に示す総称で表記しています。

## はじめに

製品名称	総称
Object Server High-end Object Server	オブジェクトサーバ
Groupmax Address Server Groupmax Mail Server	Groupmax Address/Mail Server
Groupmax Document Manager Groupmax High-end Document Manager	Groupmax Document Manager ( Groupmax High-end Document Manager だけの機能については、その都度「Groupmax High-end Document Manager」と表記しています。)
Groupmax Workflow Server Groupmax High-end Workflow Server	Groupmax Workflow Server ( Groupmax High-end Workflow Server だけの機能については、その都度「Groupmax High-end Workflow Server」と表記しています。)
Groupmax System Agent - TCP/IP Groupmax System Manager - TCP/IP	システム統合運用管理
Groupmax Agent - Mail Server Groupmax Agent - Mail Function Groupmax Agent - Document Manager Server Groupmax Agent - Workflow Server	Groupmax Agent - Application
Windows 2000 Server Windows 2000 Advanced Server	Windows 2000

注 Windows 2000 をご使用の方は、本文中の「Windows NT」を「Windows 2000」に読み替えてください。

### 常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としていますが、次に示す用語については、常用漢字以外の漢字を使用しています。

- 宛（あ）て先
- 一旦（いったん）
- 筐体（きょうたい）
- 汎（はん）用
- 必須（ひつす）
- 閉塞（へいそく）

### KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト、1,024<sup>2</sup> バイト、1,024<sup>3</sup> バイト、1,024<sup>4</sup> バイトです。

# 目次

<b>1. 概 説</b> .....	<b>1</b>
1.1 オブジェクトサーバとは .....	2
1.2 他のプログラムとの関係 .....	5
<b>2. オブジェクトサーバの環境設定</b> .....	<b>7</b>
2.1 概要 .....	8
2.2 環境設定の準備 .....	10
2.2.1 データベース容量の決定 .....	10
2.2.2 ディレクトリ構成の決定 .....	10
2.3 スーパーユーザによる環境設定 .....	12
2.3.1 システム管理者の登録と環境設定 .....	12
2.3.2 オブジェクトサーバのインストール .....	13
2.3.3 オブジェクトサーバの OS への登録 .....	14
2.4 システム管理者による環境設定 .....	16
2.4.1 ホームディレクトリの作成 .....	16
2.4.2 環境変数の設定 .....	16
2.4.3 定義ファイルの作成 .....	16
2.4.4 データベースの初期化 .....	17
2.4.5 システムファイルの作成 ( High-end Object Server ) .....	20
<b>3. オブジェクトサーバの運用</b> .....	<b>23</b>
3.1 開始方法 .....	24
3.1.1 開始形態 .....	24
3.1.2 実行モード .....	24
3.1.3 システム統合運用管理からオブジェクトサーバを起動する場合 .....	25
3.2 終了方法 .....	26
3.3 ログメッセージに関する運用 .....	27
3.3.1 ログメッセージとは .....	27
3.3.2 ログファイルの作成及び運用 .....	27
3.3.3 ログメッセージの出力 .....	27
3.4 起動時と終了時の注意 .....	29
<b>4. データベースの運用</b> .....	<b>31</b>
4.1 データベースの構成変更 .....	32
4.1.1 エリアの追加 .....	32
4.1.2 エリアの削除 .....	34
4.1.3 ファイルの追加 .....	35
4.1.4 ファイルの属性変更 .....	37
4.2 データベースの再編成 .....	39
4.3 データベースの状態表示 .....	43
4.3.1 スキーマ名の表示 .....	43
4.3.2 データベースエリアの使用状況表示 .....	43
4.3.3 データベースのエリアの情報表示 .....	49

## 目次

4.3.4	ディクショナリの情報表示	51
4.4	データベースのバックアップの取得	54
4.4.1	バックアップの対象となるファイル	54
4.4.2	OS の機能による取得方法	55
4.4.3	xodbekup コマンドによる取得手順	55
4.5	データベースの回復	59
4.5.1	回復の対象となるファイル	59
4.5.2	バックアップからのデータベースファイルの回復方法	59
4.5.3	データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する	59
4.5.4	データベースを障害発生時点から見て最新の同期点の状態に回復する ( High-end Object Server )	61
4.5.5	コマンドの実行	63
4.6	データベースの再構成	67
4.6.1	データベースのエリアの再作成	67
4.7	データベースの再初期化	73
4.7.1	エリアの再初期化	73
<b>5.</b>	<b>システムファイルの運用</b>	<b>77</b>
5.1	オブジェクトサーバのシステムファイル	78
5.1.1	システムファイル	78
5.2	ステータスファイルの運用 ( High-end Object Server )	80
5.2.1	ステータスファイル	80
5.3	ジャーナルファイルの運用	85
5.3.1	簡易ジャーナル ( Object Server )	85
5.3.2	システムジャーナル ( High-end Object Server )	86
5.3.3	ユーザジャーナル	91
<b>6.</b>	<b>障害対策</b>	<b>93</b>
6.1	異常終了時の回復方法	94
6.1.1	メッセージへの対処	94
6.1.2	データベース障害のメッセージが出力されていないとき	94
6.1.3	データベース障害のメッセージが出力されているとき	94
6.2	通信障害時の運用	96
6.2.1	通信障害が発生する要因	96
6.2.2	通信障害時に出力されるメッセージ	96
6.3	その他の障害	98
6.3.1	ユーザジャーナルファイルに障害が起こったとき	98
6.3.2	ステータスファイルに障害が起こったとき ( High-end Object Server )	98
6.3.3	ログファイルに障害が起こったとき	99
6.3.4	その他のファイルに障害が起こったとき	99
6.4	障害時の運用	100
6.4.1	障害発生後の起動環境の修復	100
6.4.2	障害回復に必要なファイル	102

<b>7. オブジェクトサーバのファイル</b> .....	<b>105</b>
7.1 オブジェクトサーバのファイル一覧 .....	106
7.1.1 システム制御ファイル .....	106
7.1.2 データベースファイル .....	109
7.2 システム共通定義ファイル .....	111
7.2.1 システム共通定義の形式 .....	111
7.2.2 システム共通定義の項目 .....	112
7.3 ステータスサービス定義ファイル (High-end Object Server) .....	121
7.3.1 ステータスサービス定義の形式 .....	121
7.3.2 ステータスサービス定義の項目 .....	121
7.3.3 ステータスサービス定義の注意事項 .....	122
7.4 システムジャーナルサービス定義ファイル (High-end Object Server) .....	123
7.4.1 システムジャーナルサービス定義の形式 .....	123
7.4.2 システムジャーナルサービス定義の項目 .....	123
7.5 初期設定パラメタファイル .....	126
7.5.1 初期設定パラメタの形式 .....	127
7.5.2 初期設定パラメタの項目 .....	127
7.6 構成変更パラメタファイル .....	135
7.6.1 構成変更パラメタの形式 .....	135
7.6.2 構成変更パラメタの項目 .....	135
7.6.3 構成変更パラメタの指定方法 .....	136
7.7 再編成パラメタファイル .....	138
7.7.1 再編成パラメタの形式 .....	138
7.7.2 再編成パラメタの項目 .....	138
7.8 再構成パラメタファイル .....	142
7.8.1 再構成パラメタの形式 .....	142
7.8.2 再構成パラメタの項目 .....	142
7.9 バックアップパラメタファイル .....	146
7.9.1 バックアップパラメタの形式 .....	146
7.9.2 バックアップパラメタの項目 .....	146
<b>8. コマンド</b> .....	<b>149</b>
8.1 コマンドの一覧と指定方法 .....	150
8.1.1 コマンドの一覧 .....	150
8.1.2 コマンドの指定方法 .....	153
8.2 システム管理コマンド .....	155
8.3 データベース管理コマンド .....	162
8.4 データベースの保守コマンド .....	170
8.5 データベースの再初期化コマンド .....	178
8.6 排他管理コマンド .....	180
8.7 ログメッセージ管理コマンド .....	181
8.8 データベース診断コマンド .....	183
8.9 ユーザジャーナル管理コマンド .....	187
8.10 システムジャーナルファイル管理コマンド ( High-end Object Server ) .....	188

## 目次

8.11 ステータスファイル管理コマンド ( High-end Object Server )	199
8.12 障害対策コマンド	206
8.13 サーバ管理コマンド	209
8.14 クラスタリング機能用コマンド ( HP-UX を御利用の場合 )	212
8.15 クラスタリング機能用コマンド ( AIX を御利用の場合 )	213
<b>付録</b>	<b>215</b>
付録 A 初期設定パラメタの指定例	216
付録 A.1 指定例	216
付録 A.2 ファイル容量の計算式	219
付録 B バッチファイルによる High-end Object Server のシステムファイル環境設定	221
付録 B.1 サンプルファイル	221
付録 B.2 バッチファイルの使用方法	221
付録 B.3 サンプルファイルの内容	222
付録 B.4 サンプルファイルを編集する場合の注意事項	224
付録 C Bibliotheca/OM を同じサーバで使用する場合	227
付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 ( HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合 )	228
付録 D.1 Groupmax サーバ環境設定コマンドとは	228
付録 D.2 Groupmax サーバ環境設定コマンドを使用できる範囲	228
付録 D.3 gset コマンドの文法	229
付録 D.4 初期設定パラメタを作成するには	231
付録 D.5 構成変更パラメタを作成するには	235
付録 D.6 再編成パラメタを作成するには	238
付録 D.7 再構成パラメタを作成するには	239
付録 D.8 カーネルパラメタの変更情報を作成するには	240
付録 D.9 サンプルファイル	241
付録 E Groupmax サーバ環境設定ユティリティによる環境設定 ( AIX を御利用の場合 )	256
付録 E.1 Groupmax サーバ環境設定ユティリティの機能	256
付録 E.2 環境設定の手順	259
付録 E.3 ダイアログボックスの操作	262
付録 E.4 作成ファイルの AIX サーバへの適用	293
付録 F 障害予防	295
付録 F.1 バックアップの取得による障害予防	295
付録 F.2 データベースの運用時の障害予防	297
付録 F.3 システム移行時の障害予防	303
付録 F.4 バージョンアップ時の障害予防	305
付録 F.5 ジャーナルファイル容量不足の対処	306
付録 F.6 HP-UX 版オブジェクトサーバを御利用の場合	307
付録 G クラスタリング機能を使用した運用 ( HP-UX を御利用の場合 )	308
付録 G.1 MC/ServiceGuard のクラスタリング機能	308
付録 G.2 クラスタリングシステムを使用する場合の環境設定	309
付録 G.3 オブジェクトサーバ障害発生時のフェールオーバー機能	312
付録 G.4 パッケージの登録	312



付録 H クラスタリング機能を使用した運用 (AIX を御利用の場合) .....	318
付録 H.1 HACMP for AIX のクラスタリング機能 .....	318
付録 H.2 クラスタリングシステムを使用する場合の環境設定 .....	319
付録 H.3 オブジェクトサーバ障害発生時のフェールオーバー機能 .....	322
付録 H.4 クラスタの定義 .....	323
付録 H.5 スクリプトの作成例 .....	329
付録 I プロセスの状態表示の出力例 .....	331
付録 J マルチオブジェクトサーバ (マルチ OMS) (High-end Object Server) (HP-UX を御利用の場合) .....	336
付録 J.1 他のプログラムとの関係 .....	336
付録 J.2 環境設定 .....	336
付録 K メッセージ .....	339
付録 K.1 メッセージの出力形式 .....	339
付録 K.2 メッセージの詳細 .....	340
付録 K.3 アボートコード .....	724
付録 K.4 詳細コード .....	746
付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号 .....	749
付録 L 用語解説 .....	752
<b>索引 .....</b>	<b>757</b>

# 目次

図 1-1 オフィスで使われるオブジェクトサーバ	3
図 1-2 Groupmax シリーズのシステム構成	5
図 2-1 オブジェクトサーバの環境設定の順序	8
図 2-2 xodbinit コマンドの処理結果の出力フォーマット	19
図 3-1 ログメッセージの出力形式	28
図 4-1 xodaradd コマンドの処理結果の出力フォーマット	33
図 4-2 xodararm コマンドの処理結果の出力フォーマット	35
図 4-3 xodfladd コマンドの処理結果の出力フォーマット	37
図 4-4 xodflalt コマンドの処理結果の出力フォーマット	38
図 4-5 xodbreog コマンドの処理結果の出力フォーマット (オブジェクトの再編成)	41
図 4-6 xodbreog コマンドの処理結果出力フォーマット (インデクスの再作成)	42
図 4-7 xodbuse コマンドの処理結果の出力フォーマット	44
図 4-8 xodbuse コマンドの表示例	47
図 4-9 xodarls コマンドの処理結果出力フォーマット	50
図 4-10 xoddiels コマンドの処理結果の出力フォーマット	52
図 4-11 xodbckup コマンドの処理結果の出力フォーマット	57
図 4-12 データベースの回復に使用するコマンドの位置付け	61
図 4-13 データベースの回復に使用するコマンドの運用の流れ	62
図 4-14 xodbrstr コマンドの処理結果の出力フォーマット	63
図 4-15 xodbrecv コマンドの処理結果の出力フォーマット	64
図 4-16 xodbkout コマンドの処理結果の出力フォーマット	66
図 4-17 xodbrrens コマンドの処理結果の出力フォーマット (ディクショナリ用エリアを再作成する場合)	69
図 4-18 xodbrrens コマンドの処理結果の出力フォーマット (ユーザ用エリアを再作成する場合)	70
図 4-19 xodbrrens コマンドの処理結果の出力フォーマット (インデクス用エリアを再作成する場合)	71
図 4-20 xodarint コマンドの処理結果の出力フォーマット	74
図 5-1 OS のファイルシステム領域とシステムファイル及びデータベースファイルとの関係	79
図 5-2 ステータスファイルの構成	81
図 5-3 ステータスファイルのスワップ	83
図 5-4 ステータスファイルの状態遷移	84
図 5-5 システムジャーナルファイルのスワップ	88
図 5-6 システムジャーナルファイルの状態遷移	90
図 5-7 システムジャーナルファイルのオープンとクローズ	91
図 6-1 オブジェクトサーバの異常終了時の処置の流れ	101
図 7-1 データベース初期化後の構造	126
図 8-1 xodpinfo コマンドの処理結果の出力フォーマット	210
図 E-1 Groupmax のサーバ環境設定の中での Groupmax サーバ環境設定ユティリティの機能	257
図 E-2 Groupmax サーバ環境設定ユティリティで作成されるファイル	259
図 E-3 データベース初期化の手順	260

図 E-4 データベース再構成の手順	261
図 E-5 カーネルパラメタの変更情報の作成手順	262
図 E-6 Groupmax サーバ環境設定ユティリティで使用するウィンドウとダイアログ	263
図 E-7 [ Groupmax 環境設定 ] ウィンドウ	263
図 E-8 [ Object Server 簡易設定 ] ダイアログ	264
図 E-9 [ データベース定義ファイルの作成 ] ダイアログ	266
図 E-10 [ データベース定義ファイルの参照・更新 ] ダイアログ	268
図 E-11 [ データベース定義ファイルの削除 ] ダイアログ	269
図 E-12 [ 再構成パラメタの作成 ] ダイアログ	270
図 E-13 [ システム構成の設定 ] ダイアログ	272
図 E-14 [ 詳細設定 ] ダイアログ	275
図 E-15 [ オプション設定 ] ダイアログ	282
図 E-16 [ ステータスサービス定義の設定 ] ダイアログ	283
図 E-17 [ システムジャーナルサービス定義の設定 ] ダイアログ	284
図 E-18 [ データベース容量の確認 ] ダイアログ	286
図 E-19 [ カーネルパラメタ情報設定 ] ダイアログ	288
図 E-20 [ カーネルパラメタの作成 ] ダイアログ	289
図 E-21 [ カーネルパラメタの参照・更新 ] ダイアログ	290
図 E-22 [ カーネルパラメタの削除 ] ダイアログ	291
図 E-23 [ カーネルパラメタ設定 ] ダイアログ	292
図 G-1 MC/ServiceGuard を使用したクラスタリングシステム構成例	308
図 G-2 Object Server を御使用の場合のパッケージの構成例	313
図 G-3 High-end Object Server を御使用の場合のパッケージの構成例	314
図 H-1 HACMP for AIX を使用したクラスタリングシステム構成例	319
図 H-2 Object Server を御使用の場合の構成例	324
図 H-3 High-end Object Server を御使用の場合の構成例	325
図 J-1 Groupmax シリーズのマルチサービスのシステム構成	336

# 表目次

表 2-1 システム管理者を登録するときの設定値	12
表 2-2 インストール後に作成されるファイル	14
表 2-3 設定する環境変数	16
表 2-4 xodbinit コマンドの処理結果の出力項目	19
表 3-1 開始形態	24
表 3-2 実行モード	24
表 3-3 終了形態	26
表 4-1 xodaradd コマンドの処理結果の出力項目	33
表 4-2 xodararm コマンドの処理結果の出力項目	35
表 4-3 xodbreog コマンドの処理結果の出力項目	42
表 4-4 xodbuse コマンドの処理結果の出力項目	44
表 4-5 xodarls コマンドの処理結果の出力項目	50
表 4-6 xoddiels コマンドの処理結果の出力項目	52
表 4-7 xodbckup コマンドの処理結果の出力項目	57
表 4-8 xodbrstr コマンドの処理結果の出力項目	63
表 4-9 xodbrecv コマンドの処理結果の出力項目	65
表 4-10 xodbkout コマンドの処理結果の出力項目	66
表 4-11 xodbrems コマンドの処理結果の出力項目	71
表 4-12 xodarint コマンドの処理結果の出力項目	74
表 5-1 ステータスファイルの運用に使用できるコマンド	84
表 5-2 システムジャーナルファイルの運用に使用できるコマンド	91
表 6-1 主な通信障害時のメッセージ	96
表 6-2 回復に使用するファイル	103
表 7-1 オブジェクトサーバのシステム制御ファイル一覧	106
表 7-2 オブジェクトサーバのデータベースファイル一覧	109
表 7-3 初期設定パラメタの指定値一覧	128
表 7-4 エリアの用途, 定義順序及び定義数	128
表 7-5 エリアの用途と識別子	130
表 8-1 使用できるコマンドの一覧	150
表 8-2 最大割り当て量に指定した値による仮定値の扱い	169
表 D-1 サンプルファイル	241
表 D-2 初期設定パラメタ, 構成変更パラメタ, 再構成パラメタ又はカーネルパラメタの 変更情報の作成用サンプルファイルの内容	244
表 D-3 再編成パラメタの作成用サンプルファイルの内容	255
表 E-1 それぞれのサーバプログラムでの設定項目	276
表 F-1 バックアップ対象ファイル一覧	297
表 G-1 オブジェクトサーバのディレクトリ及びファイルの格納ディスク	309
表 G-2 クラスタ定義ファイルに追加するパラメタ	315
表 G-3 Groupmax パッケージ用パッケージ定義ファイルに追加するパラメタ	315
表 G-4 Groupmax パッケージ用パッケージ制御スクリプトに追加するパラメタ	316
表 H-1 オブジェクトサーバのディレクトリ及びファイルの格納ディスク	320
表 H-2 「リソース・グループの追加」に指定するフィールド値	326

表 H-3 「アプリケーション・サーバの追加」に指定するフィールド値 .....	326
表 H-4 「リソース・グループのリソース/属性の変更/表示」に指定するフィールド値 ..	327
表 H-5 「ユーザー定義アプリケーション・モニターの追加」に指定するフィールド値 ....	328
表 K-1 オブジェクトサーバのアボートコード .....	724
表 K-2 オブジェクトサーバの詳細コード .....	746
表 K-3 UNIX システムコールのエラー番号 .....	750



---

# 1 . 概 説

---

この章では、オブジェクトサーバの概要及び他の Groupmax シリーズのアプリケーションプログラムとの関係について説明します。

---

**1.1 オブジェクトサーバとは**

**1.2 他のプログラムとの関係**

---

## 1.1 オブジェクトサーバとは

このマニュアルで「オブジェクトサーバ」と呼んでいるのは、Groupmax Object Server と Groupmax High-end Object Server の二つのプログラムです。

この節では、オブジェクトサーバの概要を説明します。

### (1) オブジェクトサーバの概要

オフィスにパーソナルコンピュータが普及している今、扱う情報は様々です。例えば、そのような情報の一つに文書があります。オフィス内の文書は多様な構造を持ち、互いに密接な関連を持っています。そして、このような情報の全体が、企業の大切な財産です。特に、オフィスでの業務を活性化するグループウェアのデータベースは、このような情報の全体を管理する必要があります。

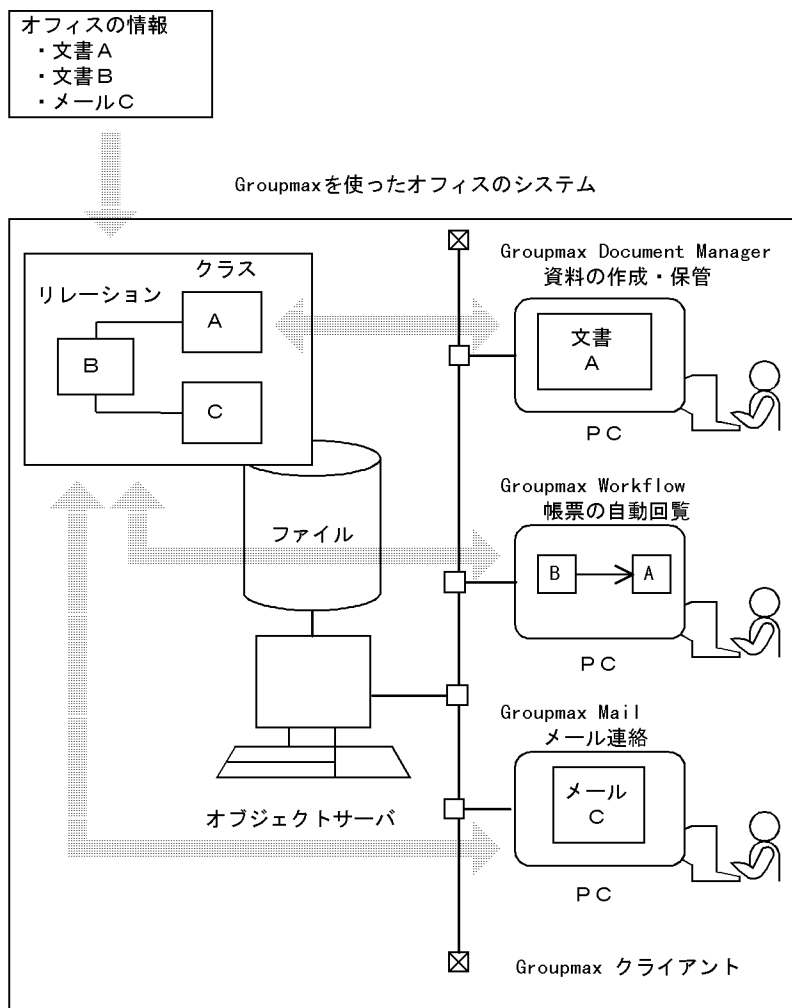
オブジェクトサーバ (Object Server 及び High-end Object Server) は、グループウェア Groupmax のデータベースとして、ビジネスで使用する、複雑で多様な構造と関連を持つ情報を「オブジェクト」として格納できます。そして、これらのオブジェクトを管理するための、高性能なデータベース管理機能を備えています。オブジェクトサーバは、オブジェクトクラス、属性、リレーションなどの、オブジェクト指向に基づいたデータ構造を持っていますので、オフィスで扱う様々なデータを柔軟に扱えます。

オブジェクトサーバと連携して、データ (オブジェクト) を格納する Groupmax シリーズのアプリケーションプログラムは、Groupmax Document Manager, Groupmax Workflow Server 及び Groupmax Address/Mail Server です。オブジェクトサーバのオブジェクトは、これらの Groupmax シリーズのアプリケーションプログラムを介して操作されます。

図 1-1 に、オフィスで使われるオブジェクトサーバを示します。



図 1-1 オフィスで使われるオブジェクトサーバ



## (2) Object Server と High-end Object Server

High-end Object Server は、Object Server に比べて、高い性能及び高い信頼性を実現するために、ステータスファイル及びシステムジャーナルの機能が追加されています。そのため、Object Server と High-end Object Server では、主にジャーナルの運用が異なります。

マニュアル中では、High-end Object Server だけの機能については、その都度「(High-end Object Server)」、Object Server だけの機能については、その都度「(Object Server)」とプログラム名を付けています。特にプログラム名の記載がなく、「オブジェクトサーバ」と表記している機能は、両方のプログラムに共通する機能です。

## (3) オブジェクトサーバが提供するコマンド

オブジェクトサーバは、次に示すように、ユーザの運用を支援するコマンドを提供しています。

## 1. 概 説

- システム管理コマンド  
オブジェクトサーバを開始又は終了したり、実行モードを変更したりできます。
- データベース管理コマンド  
データベースの初期化、データベースのエリアやファイルの追加、エリアの削除及びファイルの属性を変更してデータベースの環境を設定します。
- データベース保守コマンド  
データベースの空き領域やインデクスの乱れを取り除いたり、障害時のデータを回復したりするなどの、効率的なデータベース処理をします。
- データベース再構成コマンド  
データベースのエリアの再作成をします。
- データベースの再初期化コマンド  
障害の発生したデータベースを再初期化します。データベースのバックアップを取得していない場合に、データベースのファイルが削除されたなどのファイルの障害を回復するために使用します。
- 排他管理コマンド  
排他制御プールの使用率を表示できます。
- ログメッセージ管理コマンド  
ログメッセージを標準出力に出力します。
- データベース診断コマンド  
データベースのスキーマ名を表示したり、データベースエリア使用状況を表示したりできます。また、データベースのエリアの情報やディクショナリの情報も表示できます。
- ユーザジャーナル管理コマンド  
ユーザジャーナルのアンロードができます。
- ステータスファイル管理コマンド ( High-end Object Server )  
ステータスファイルの作成、操作、及び状態表示ができます。
- システムジャーナルファイル管理コマンド ( High-end Object Server )  
システムジャーナルファイルの作成、操作、及び状態表示ができます。
- 障害時の運用に使用するコマンド  
障害発生時にシステム管理者が使用する障害情報を、必要な場合は取得したり、不要になった場合は削除したりできます。
- クラスタリング機能を使用した運用のためのコマンド ( HP-UX )  
HP-UX 上でオブジェクトサーバを御使用の場合、HP-UX が提供する MC/ ServicesGuard のクラスタリング機能を使用した運用ができます。このとき、コマンドによって、オブジェクトサーバの稼働状態を監視できます。

## 1.2 他のプログラムとの関係

オブジェクトサーバは、Groupmax シリーズのアプリケーションプログラムの管理するデータを格納します。この節では、オブジェクトサーバと連携するプログラムについて説明し、それらを使用するときのシステム構成を示します。

なお、オブジェクトサーバは、サーバ上で稼働します。

### 連携するアプリケーションプログラム

オブジェクトサーバと連携する Groupmax シリーズのアプリケーションプログラムには、Groupmax Document Manager、Groupmax Workflow Server、及び Groupmax Address/Mail Server があります。それぞれのプログラムで、オブジェクトサーバに格納する情報を次に示します。

Groupmax Document Manager：Groupmax Document Manager によって付けられた文書の属性

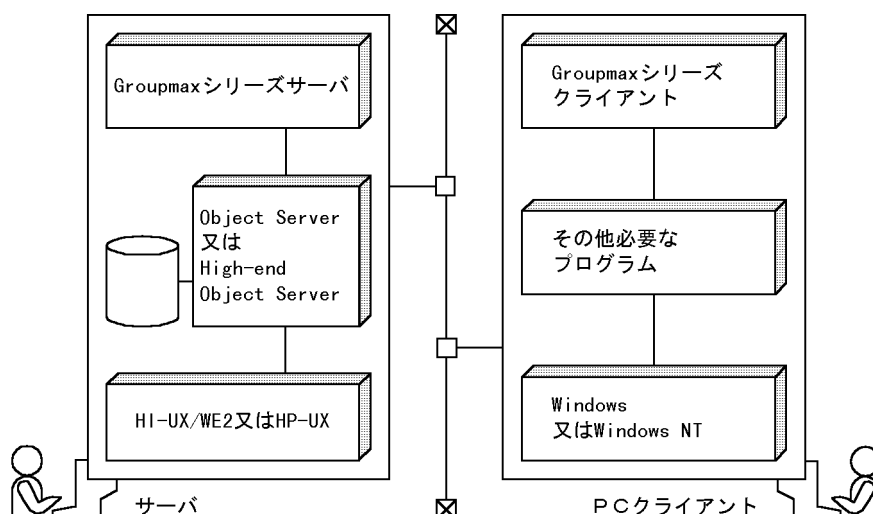
Groupmax Workflow Server：ワークフロー管理情報

Groupmax Address/Mail Server：登録情報（最上位情報，組織，ユーザ，グループ）

それぞれの Groupmax シリーズのアプリケーションプログラムでは、PC クライアントから情報を操作します。この情報は、それぞれのプログラムのサーバを介して、オブジェクトサーバに格納されます。

オブジェクトサーバを含む Groupmax シリーズのシステム構成を図 1-2 に示します。

図 1-2 Groupmax シリーズのシステム構成





---

## 2. オブジェクトサーバの環境設定

---

この章では、オブジェクトサーバを稼働する前に必要な環境設定について説明します。

オブジェクトサーバを含むシステムの環境を設定するときには、まずOSの環境を設定してから、オブジェクトサーバの環境を設定します。その後で、連携するプログラムの環境を設定してください。

---

### 2.1 概要

### 2.2 環境設定の準備

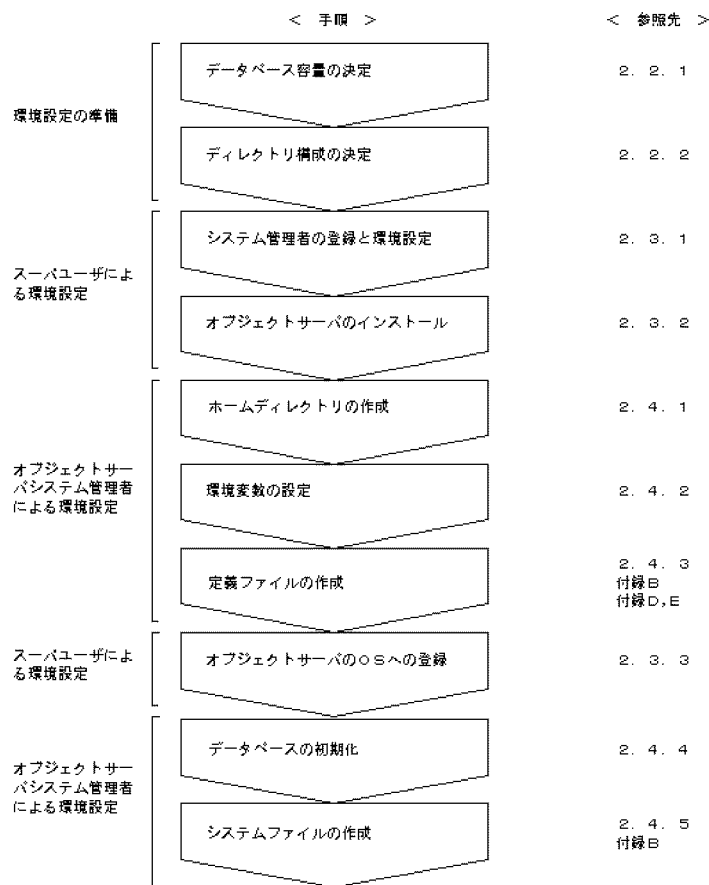
### 2.3 スーパユーザによる環境設定

### 2.4 システム管理者による環境設定

### 2.1 概要

オブジェクトサーバの環境設定の順序を、図 2-1 に示します。

図 2-1 オブジェクトサーバの環境設定の順序



#### 注 1

図 2-1 の手順のうち、下記の設定は Groupmax サーバ環境設定コマンドまたは Groupmax サーバ環境設定ユーティリティを使用すると簡単にできます。

- データベース容量の決定
- 定義ファイルの作成

Groupmax サーバ環境設定コマンドについては、「付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)」を参照してください。また、Groupmax サーバ環境設定ユーティリティについては、「付録 E Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによる環境設定 (AIX を御利用の場合)」を参照してください。

#### 注 2

図 2-1 の手順のうち、「システムファイルの作成」は、提供しているバッチファ

## 2. オブジェクトサーバの環境設定

イルを使用して設定できます。バッチファイルについては「付録 B バッチファイルによる High-end Object Server のシステムファイル環境設定」を参照してください。

### 2.2 環境設定の準備

オブジェクトサーバの環境を設定するときには、まず、次のような準備をしてください。

#### 2.2.1 データベース容量の決定

連携するプログラムのオブジェクトを管理するため、オブジェクトサーバのデータベースの容量を決定します。決定したデータベース容量によって、組み込み先の環境に問題がないか確認してください。

容量は次の手順で見積もってください。

1. 初期設定パラメタの指定値を見積もる。

「7.5 初期設定パラメタファイル」を参照して、初期設定パラメタの指定値を見積もってください。連携プログラムの初期設定パラメタは、各プログラムでの見積もり手順に従って見積もってください。

なお、HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合で、既にオブジェクトサーバが組み込まれている環境では、初期設定パラメタは、Groupmax サーバ環境設定コマンドを使用して見積もりができます。オブジェクトサーバの組み込み後にデータベース容量を見積もり直す場合は、Groupmax サーバ環境設定コマンドを使用してください。Groupmax サーバ環境設定コマンドについては、「付録 D

Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)」を参照してください。

また、AIX を御利用の場合は、オブジェクトサーバに添付される Windows 版の Groupmax サーバ環境設定ユーティリティを利用することにより、画面を使って初期設定パラメタを見積もることができます。Groupmax サーバ環境設定ユーティリティについては、「付録 E Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (AIX を御利用の場合)」を参照してください。

2. 初期設定パラメタの指定値から、データベースで使用するファイルの容量を見積もる。

手動でファイル容量を計算する場合の計算式については、「付録 A.2 ファイル容量の計算式」を参照してください。連携するプログラムで使用するファイル容量は、各プログラムの手順に従って見積もってください。

#### 2.2.2 ディレクトリ構成の決定

ファイルシステムは、通常ファイルを使用してください。

次のディレクトリに割り当てるファイルシステムを決定します。

オブジェクトサーバシステムディレクトリ

オブジェクトサーバを組み込むディレクトリです。

オブジェクトサーバのデータベース用ディレクトリ (任意)

オブジェクトサーバのデータベースを作成するディレクトリです。

ファイルシステムを決定する場合には、次のことに注意してください。

- バックアップを容易にするため、又は将来の拡張性を確保するため、上記



## 2. オブジェクトサーバの環境設定

の二つのディレクトリは、それぞれ別のファイルシステムにしてください。

- 同時にログインするユーザの数に応じて、十分なスワップファイルを確保してください。
- データベースを再編成するときに必要なアンロードファイル及びワークファイルのため、十分な領域を確保してください。

## 2.3 スーパーユーザによる環境設定

スーパーユーザが実施する環境設定を説明します。なお、操作の中で OS に依存する部分は、該当する OS のマニュアルを参照してください。

### 2.3.1 システム管理者の登録と環境設定

オブジェクトサーバのシステム管理者を OS に登録します。また、ネットワーク環境でオブジェクトサーバを使用する場合には、通信設定ファイルを設定してください。

#### (1) システム管理者の登録

オブジェクトサーバを管理・運用するのは、オブジェクトサーバのシステム管理者です。この管理者を、オブジェクトサーバをインストールする前に OS に登録します。登録のために必要な設定値を表 2-1 に示します。

表 2-1 システム管理者を登録するときの設定値

登録	項目	説明	登録ファイル
ユーザ ID	ユーザ名	名称は任意です。ただし、連携するプログラムの管理者を兼ねる場合は、そのプログラムで決められたユーザ名にしてください。	/etc/passwd
	ユーザ ID	名称は任意です。ただし、連携するプログラムによっては、制限があります。	
	グループ ID	オブジェクトサーバのグループ ID を登録します。グループ ID は連携するプログラムに合わせて設定してください。	
	ホームディレクトリ	名称は任意です。	
パスワード		必要であれば登録します。	
グループ	グループ名称	オブジェクトサーバのグループ名称を登録します。	/etc/group
	グループ ID	オブジェクトサーバのグループ ID を登録します。ユーザ ID に登録したグループ ID と同じにします。	

#### (2) 通信設定ファイルの設定

- オブジェクトサーバを他のプログラムと共にネットワーク環境（日立 CSMA/CD ネットワーク CD105(TCP/IP)) で使用する場合には、/etc/services ファイルを設定してください。
- /etc/hosts ファイルに自ホストの情報を記述したエントリを設定してください。DNS など自ホストのアドレスをネームサーバで解決する環境において、ネットワーク障害が発生するなど自ホストのアドレスを解決できない時、オブジェクトサーバの起動や停止が失敗したり、連携するアプリケーションプログラムが

オブジェクトサーバへ接続ができません。

### (3) 共用メモリの最大値の指定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

必要に応じて、オブジェクトサーバで使用できる共用メモリの最大値を設定します。使用している OS の、一つのプロセスで確保できる共用メモリの最大値が、システム共通定義ファイルで指定する最大量 (dynamic\_shmpool\_size 及び static\_shmpool\_size の指定値の合計) よりも小さい場合があります。この場合は、オブジェクトサーバの起動よりも前に、OS の shmmax パラメタの値をシステム共通定義の最大量より大きい値に変更して、カーネルのコンフィギュレーションをやり直してください。

dynamic\_shmpool\_size 及び static\_shmpool\_size については、「7.2.2 システム共通定義の項目」を参照してください。

### (4) UNIX カーネルパラメタの設定

Groupmax 運用時に、ユーザ数の増加やシステム構成の変更などによって UNIX カーネルパラメタの変更が必要な場合があります。値の見積もりには Groupmax サーバ環境設定コマンドまたは、Groupmax サーバ環境設定ユティリティを使用します。Groupmax サーバ環境設定コマンドについては、「付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)」を参照してください。また、Groupmax サーバ環境設定ユティリティについては、「付録 E Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (AIX を御利用の場合)」を参照してください。

なお、Groupmax Version 5 以前のバージョンから移行したときには、必ず見積もり直してください。

## 2.3.2 オブジェクトサーバのインストール

### (1) システムディレクトリの作成

オブジェクトサーバをインストールする前に、システムディレクトリ (オブジェクトサーバをインストールするディレクトリ) を作成します。ディレクトリ名及び所有者は次に示すように設定してください。

```
ディレクトリ名 : /usr/HiOODB ( HI-UX/WE2 の場合 )
                /opt/HiOODB ( AIX 及び HP-UX の場合 )
所有者          : root
```

### (2) インストールの方法

#### (a) HI-UX/WE2 の場合

HI-UX/WE2 のインストール機能を使用して、オブジェクトサーバをインストールします。HI-UX/WE2 のインストール機能については、マニュアル「HI-UX/WE2 システム管理 導入・保守編」を参照してください。

#### (b) AIX 及び HP-UX の場合

インストール方法については、「ソフトウェア添付資料」を参照してください。

## 2. オブジェクトサーバの環境設定

### (3) インストール後に作成されるファイル

オブジェクトサーバをインストールすると、表 2-2 に示すディレクトリ及びファイルが作成されます。

表 2-2 インストール後に作成されるファイル

名 称	用 途
/usr /HiOODB/bin	オブジェクトサーバ各種コマンド格納ディレクトリ
/usr /HiOODB/lib	オブジェクトサーバのサーバ内で使用するライブラリ格納ディレクトリ
/usr /HiOODB/tools	オブジェクトサーバのトラブルシュート用コマンドファイル
/usr /HiOODB/sample	オブジェクトサーバ環境設定のサンプルファイル格納ディレクトリ ( Groupmax High-end Object Server )
/usr /HiOODB/installlog	オブジェクトサーバのインストールログディレクトリ
/usr /HiOODB/ setupinf	オブジェクトサーバのセットアップ情報用ディレクトリ

注 AIX 及び HP-UX の場合は、/opt となります。

### 2.3.3 オブジェクトサーバの OS への登録

xodsetup コマンドで、オブジェクトサーバを OS に登録します。xodsetup コマンドは一つのマシン上に一つのオブジェクトサーバを OS に登録することができます。一つのマシン上に複数のオブジェクトサーバを環境設定する機能については、「付録 J マルチオブジェクトサーバ(マルチ OMS)( High-end Object Server )( HP-UX を御利用の場合)」を参照してください。

#### (1) 環境変数の設定

スーパーユーザの環境に次に示す環境変数を設定してください。

XODDIR : オブジェクトサーバのホームディレクトリを パス名 で指定してください。

#### (2) xodsetup コマンドの実行

xodsetup コマンドを実行して、オブジェクトサーバを OS に登録します。

xodsetup コマンドの実行例を次に示します。

- xodsetup コマンドを パス名 で実行する場合

```
/usr/HiOODB/bin/xodsetup $XODDIR
```

- /usr/HiOODB/bin にカレントディレクトリを移して xodsetup コマンドを実行する場合

```
cd /usr/HiOODB/bin  
xodsetup $XODDIR
```

なお、xodsetup コマンドを実行すると、/etc/inittab ファイル内にオブジェクトサーバの一部である「pred」が登録されます。

### <参考> prcd プロセスとオブジェクトサーバの自動起動

オブジェクトサーバの起動コマンドである `xodstart` コマンドは、`prcd` プロセスが既に起動されていることを前提に動作します。オブジェクトサーバを自動起動させる場合、UNIX の `ps` コマンドを使用し `prcd` プロセスが存在していることを確認した後、`prcd` プロセスの起動が完了するのを待つため数分待って、`xodstart` コマンドを発行してください。なお、タイミングの要因で `xodstart` コマンドが失敗することがあります。この場合は、数秒の間隔を空け、`xodstart` コマンドの発行を数回再試行してください。

### 2.4 システム管理者による環境設定

オブジェクトサーバのシステム管理者が実施する環境設定について説明します。

#### 2.4.1 ホームディレクトリの作成

オブジェクトサーバのホームディレクトリを作成します。ホームディレクトリは、システムディレクトリ（/usr/HiOODB）以外の任意のディレクトリとしてください。例えば、/usr/HiOODB/HOME などとしてください。

ホームディレクトリを作成したユーザが、オブジェクトサーバのシステム管理者となります。オブジェクトサーバのシステム管理者だけが、オブジェクトサーバのコマンドを実行できます。また、オブジェクトサーバのプロセスは、すべてホームディレクトリのユーザ権限で動作します。

#### 2.4.2 環境変数の設定

オブジェクトサーバのシステム管理者の環境に、表 2-3 に示す環境変数を設定してください。これらは、.profile 又は .login ファイルに設定すると便利です。

表 2-3 設定する環境変数

環境変数	説明
XODDIR	オブジェクトサーバのホームディレクトリをパス名で指定してください。
XODCONFPATH	オブジェクトサーバのシステム共通定義ファイルを格納するディレクトリ（\$XODDIR/conf）をパス名で指定してください。
PATH	オブジェクトサーバのコマンドを格納するディレクトリ（\$XODDIR/bin）をパス名で指定してください。

#### 2.4.3 定義ファイルの作成

オブジェクトサーバの初期設定パラメタファイル及びシステム定義ファイルを作成します。

HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合、これらの定義ファイルは、Groupmax サーバ環境設定コマンドを使うと、簡単に作成できます。また、AIX を御利用の場合、Groupmax サーバ環境設定ユティリティを使うと、簡単に作成できます。Groupmax サーバ環境設定コマンドについては、「付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定（HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合）」を参照してください。また、Groupmax サーバ環境設定ユティリティについては、「付録 E Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定（AIX を御利用の場合）」を参照してください。ここでは、手動で作成する場合の定義ファイルの作成方法について説明します。

##### (1) 初期設定パラメタファイルの作成

初期設定パラメタファイルには、データベースに使用するエリアの初期設定情報

を記述します。初期設定パラメタファイルは、vi などのエディタを使用してテキスト形式のファイルとして作成します。

初期設定パラメタファイルの記述例については「付録 A 初期設定パラメタの指定例」を参照してください。また、初期設定情報の記述方法については、「7.5 初期設定パラメタファイル」を参照してください。

## (2) システム共通定義ファイルの作成

システム共通定義ファイル(\$XODCONFPATH/xodrc)には、オブジェクトサーバのシステムに共通する定義情報を記述します。システム共通定義ファイルは、テキスト形式のファイルとして作成します。

次に、省略値（ユーザが値を定義しなかった場合に設定される値）を使用した、システム共通定義の例を示します。初期設定パラメタファイルに指定したマスタディレクトリファイルの名称、グローバルキャッシュの面数及びグローバルキャッシュの用途以外の省略値は、標準的な機器構成での定義値です。システム共通定義の定義項目については、「7.2 システム共通定義ファイル」を参照してください。

### 省略値を使用したシステム共通定義の例

```

set system_id = a                               a:
set lck_limit = 6000                             b:
set trn_tran_process_count = 32                 c:
set pro_process_count = 230                     d:
set static_shmpool_size = 5120                  e:
set dynamic_shmpool_size = 10000                f:
set dbm_master = マスタディレクトリのファイル名 g:
set ujerror = CONTINUE                          h:
gcache -n xod_gcache_area -m 200 -u AREA
gcache -n xod_gcache_oidindex -m 100 -u OIDINDEX i:j:k:
ujfile -n 正常時用ユーザジャーナル出力ファイル名 ¥ l:
      -e 障害時用ユーザジャーナル出力ファイル名 ¥ m:

```

(凡例)

- a: OMS識別子
- b: 最大同時排他要求数
- c: 並行して実行するトランザクションブランチ数
- d: 並行して実行するクライアントプロセス数
- e: システム開始から終了までに占有する共有メモリの総量
- f: A Pが使用する共用メモリ量
- g: 初期設定パラメタファイルに指定したマスタディレクトリファイルの名称「/」から始まるパス名（絶対パス名）
- h: ユーザジャーナルの出力に失敗したときに、処理を続けるか、中止するかを指定
- i: -n xod\_gcache\_oidindex（グローバルキャッシュの名称）
- j: -m 100（グローバルキャッシュの面数）
- k: -u OIDINDEX（グローバルキャッシュの用途）
- l: 正常時用のユーザジャーナル出力ファイルの名称「/」から始まるパス名（絶対パス名）
- m: 障害時用のユーザジャーナル出力ファイルの名称「/」から始まるパス名（絶対パス名）

## 2.4.4 データベースの初期化

初期設定パラメタファイルを作成した後、オブジェクトサーバの環境を初期化し

## 2. オブジェクトサーバの環境設定

まず、初期化には、データベース初期化ユーティリティの `xodbinit` コマンドを使用します。`xodbinit` コマンドについては、「8.3 データベース管理コマンド」を参照してください。

### (1) データベース用ディレクトリの作成

オブジェクトサーバのデータベースを作成するためのデータベース用ディレクトリを作成します。これは、「2.2.2 ディレクトリ構成の決定」で決めたものです。

### (2) `xodbinit` コマンドの実行

`xodbinit` コマンドを実行して、オブジェクトサーバのデータベースを初期化します。

`xodbinit` コマンドについては、「8.3 データベース管理コマンド」を参照してください。

`xodbinit` コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「`xodresult`」に出力されます。「`xodresult`」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「`xodresult`」というファイルが新規に作成されます。

`xodbinit` コマンドが正常に終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されるので、初期化状態を確認してください。エラーが発生した場合には、`xodresult` にはメッセージが出力されません。このときには、標準エラー出力に出力されたエラーメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、`xodbinit` コマンドを再実行してください。

図 2-2 に処理結果の出力フォーマットを示します。また、図 2-2 に示した出力フォーマットの項目を、表 2-4 に示します。図 2-2 と表 2-4 の図中文字は対応しています。



図 2-2 xodbinit コマンドの処理結果の出力フォーマット

```

**aaaaaaaaaaaa xodbinit(vv-rr)**          DB初期設定          yy-mm-dd hh:mm:ss

** エリア情報リスト **

----- ※1
エリア名 = bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb   用途 = cccccccccccccccccccc
合計ページ数 = eeeeeeeeee                   セグメントサイズ = ffffffff
利用可能ページ数 = gggggggggg              ページ長 = iiiiiiiiiii
----- ※2
NO.  n   ファイル名 = jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj
      初期割当量 = kkkkkkkkkk                [最大割当量 = oooooooooo] ※3
      ページ数 = llllllllll
-----
:
:
:
終了メッセージ
    
```

- 注※1 実線内は一つのエリアの情報です。この情報が、初期設定されたエリアの数だけ繰り返し表示されます。
- 注※2 破線内は一つのファイルの情報です。この情報が、初期設定されたエリアのファイルの数だけ繰り返し表示されます。
- 注※3 マスタディレクトリ及びデータディレクトリ用のエリアの場合は表示されません。

表 2-4 xodbinit コマンドの処理結果の出力項目

図中文字	項目	表示形式
aaa...aaa	システム ID	10 バイト (AIX 及び HP-UX の場合は 11 バイト)
vv-rr	バージョン・リビジョン番号	5 バイト
yy-mm-dd	xodbinit コマンド実行開始年月日	西暦の下 2 けた - 月 - 日
hh:mm:ss	xodbinit コマンド実行開始時刻	時 : 分 : 秒
bbb...bbb	エリア名	最大 30 バイト
ccc...ccc	エリアの用途	最大 20 バイト
eee...eee	エリア中の合計ページ数	10 進数 (右詰め)
fff...fff	エリアのセグメントサイズ	10 進数 (右詰め)
ggg...ggg	データベース利用可能ページ数	10 進数 (右詰め)
iii...iii	エリアのページ長	単位はバイト。10 進数 (右詰め)
n	ファイルの通番	10 進数 (右詰め)
jjj...jjj	ファイル名	最大 175 バイト
kkk...kkk	ファイルの初期割り当て量	10 進数 (右詰め)
lll...lll	ファイルのページ数	10 進数 (右詰め)
ooo...ooo	ファイルの最大割り当て量	10 進数 (右詰め) 最大割り当て量の指定を省略した場合は、「*****」と表示されます

## 2. オブジェクトサーバの環境設定

### 2.4.5 システムファイルの作成 ( High-end Object Server )

High-end Object Server を御使用の場合は、前述の環境設定のほかに、ステータスファイル及びシステムジャーナルの環境設定をする必要があります。この環境設定は、High-end Object Server のシステム管理者が実施してください。

ユーザジャーナルは、環境設定時に作成しなくても、システム共通定義ファイルにユーザジャーナルの名称を指定することで自動的に作成されます。

#### (1) ステータスファイルの作成

##### (a) ステータスファイルの作成

ステータスファイルは、High-end Object Server を開始する前に、xodstsinic コマンドで作成します。このとき、A 系及び B 系の二系統のファイルを作成する必要があります。xodstsinic コマンドについては、「8.11 ステータスファイル管理コマンド ( High-end Object Server )」を参照してください。

次に作成したステータスファイルの名称と論理ファイルの名称を、ステータスサービス定義で定義します。

##### (b) ステータスサービス定義ファイルの作成

ステータスサービス定義ファイル (\$XODDIR/conf/sts) には、High-end Object Server の環境下で動作する各システムサービスの状態を管理するための実行環境を定義します。ステータスサービス定義ファイルは、テキスト形式のファイルとして作成します。

なお、ステータス定義の定義項目については、「7.3 ステータスサービス定義ファイル ( High-end Object Server )」を参照してください。次に、ステータスサービス定義ファイルの例を示します。

##### ステータスサービス定義ファイルの例

```
set sts_file_name_1 = "stsfileA",      ¥           a:
    "/usr/OMS/cnt/fsys/xodfile/stsfile1",  ¥           b:
    "/usr/OMS/cnt/fsys/xodfile/stsfile2"   c:
set sts_file_name_2 = "stsfileB",      ¥
    "/usr/OMS/cnt/fsys/xodfile/stsfile3",  ¥
    "/usr/OMS/cnt/fsys/xodfile/stsfile4"
set sts_file_name_3 = "stsfileC",      ¥
    "/usr/OMS/cnt/fsys/xodfile/stsfile5",  ¥
    "/usr/OMS/cnt/fsys/xodfile/stsfile6"
```

( 凡例 )

- a: 論理ファイル名
- b: A系ステータスファイル名
- c: B系ステータスファイル名

#### (2) システムジャーナルファイルの作成

##### (a) ジャーナルファイルの作成

システムジャーナルファイルは、High-end Object Server を開始する前に、xodjnlinit コマンドで作成します。なお、xodjnlinit コマンドについては、「8.10 システムジャーナルファイル管理コマンド ( High-end Object Server )」を参照してく

ださい。次に、システムジャーナルサービス定義で、物理ファイルとファイルグループの対応関係を定義します。

### (b) システムジャーナルサービス定義ファイルの作成

システムジャーナルサービス定義ファイル (\$XODDIR/conf/sysjnl) には、High-end Object Server システムに障害が発生した場合の回復に必要な、システムジャーナルファイルを取得するための環境を定義します。

システムジャーナルサービス定義は、set 形式とコマンド形式があります。システムジャーナルサービス定義ファイルは、テキスト形式のファイルとして作成します。システムジャーナルサービス定義の定義項目については「7.4 システムジャーナルサービス定義ファイル (High-end Object Server)」を参照してください。

次に、システムジャーナルサービス定義ファイルの例を示します。

#### set 形式の例

```
set jnl_unload_check = Y          a:
set jnl_rerun_swap = N           b:
```

(凡例)

a: 交代先を選択するときアンロードチェックをするかどうかの指定  
b: システム再開時のスワップの指定

#### コマンド形式の例

```
jnladdfg -g jnlfile1 ONL                               a:
jnladdpf -g jnlfile1 -a /usr/OMS/cnt/fsys/xodfile/jnlfil01
b:
jnladdfg -g jnlfile2 ONL
jnladdpf -g jnlfile2 -a /usr/OMS/cnt/fsys/xodfile/jnlfil02
jnladdfg -g jnlfile3 ONL
jnladdpf -g jnlfile3 -a /usr/OMS/cnt/fsys/xodfile/jnlfil03
jnladdfg -g jnlfile4
jnladdpf -g jnlfile4 -a /usr/OMS/cnt/fsys/xodfile/jnlfil04
```

(凡例)

a: ファイルグループ名の指定  
b: 物理ファイル名の指定



---

## 3 . オブジェクトサーバの運用

---

この章では、オブジェクトサーバ ( Object Server 及び High-end Object Server ) の開始と終了の方法、ログメッセージに関する運用、及び起動時と終了時の注意について説明します。

---

### 3.1 開始方法

### 3.2 終了方法

### 3.3 ログメッセージに関する運用

### 3.4 起動時と終了時の注意

## 3.1 開始方法

ここでは、オブジェクトサーバを開始するときの形態、及び実行モードについて説明します。

### 3.1.1 開始形態

オブジェクトサーバは `xodstart` コマンドで開始します。オブジェクトサーバを開始するときには、表 3-1 に示す開始形態があります。開始形態はオブジェクトサーバの前の終了形態によって決定します。

表 3-1 開始形態

開始形態	入力コマンド	前回終了時の終了形態
正常開始	<code>xodstart</code>	正常終了
再開始	<code>xodstart</code>	強制終了、計画停止、異常終了
強制正常開始	<code>xodstart - n</code>	

注 `xodstart` コマンドについては、「8.2 システム管理コマンド」を参照してください。

#### (1) 正常開始

オブジェクトサーバの前の終了形態が、正常終了の場合の開始形態です。このとき、前回終了時の情報（ジャーナルの情報など）を引き継ぎません。

#### (2) 再開始

オブジェクトサーバの前の終了形態が、強制終了、計画停止、又は異常終了の場合の開始形態です。このとき、前回終了時の情報（ジャーナルの情報など）を引き継ぎます。したがって、前回終了時の状態でシステムを開始できます。

#### (3) 強制正常開始

オブジェクトサーバが再開始できないときに、強制的に開始する場合の開始形態です。前回終了時の状態を引き継がないため、オブジェクトサーバはデータベースの内容を回復できません。したがって、システム管理者がデータベースの内容を回復してください。

### 3.1.2 実行モード

オブジェクトサーバを開始するときには、表 3-2 に示す実行モードがあります。

表 3-2 実行モード

実行モード	入力コマンド
アプリケーションプログラム実行モード	<code>xodstart</code> , <code>xodstart - n</code>
ユティリティ実行モード	<code>xodstart - u</code>
回復ユティリティ実行モード (High-end Object Server)	<code>xodstart - r</code>

注 xodstart コマンドについては、「8.2 システム管理コマンド」を参照してください。

#### (1) アプリケーションプログラム実行モード

Groupmax シリーズのアプリケーションプログラムを実行できます。また、オブジェクトサーバのコマンドも実行できます。

#### (2) ユティリティ実行モード

次に示すユティリティだけを実行できます。アプリケーションプログラムは実行できません。また、同時に複数のユティリティを実行できません。

- データベース構成変更ユティリティ
- データベース再編成ユティリティ

上記のユティリティを実行した後にアプリケーションプログラムを実行するには、実行モードをアプリケーションプログラム実行モードに変更してください。操作方法は次のとおりです。

ユティリティを実行した後に、xodprmod -a コマンドで実行モードをアプリケーションプログラム実行モードに変更します。又は、いったんオブジェクトサーバを正常終了させます。その後、正常開始してください。

#### (3) 回復ユティリティ実行モード (High-end Object Server)

データベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド及び xodbkout コマンド) だけを実行できます。それ以外のオブジェクトサーバのユティリティ、コマンド、及びアプリケーションプログラムは実行できません。

上記のユティリティを実行した後にアプリケーションプログラムを実行するには、実行モードをアプリケーションプログラム実行モードに変更してください。操作方法は次のとおりです。

ユティリティを実行した後に、xodprmod -a コマンドで実行モードをアプリケーションプログラム実行モードに変更します。又は、いったんオブジェクトサーバを正常終了させます。その後、正常開始してください。

### 3.1.3 システム統合運用管理からオブジェクトサーバを起動する場合

システム統合運用管理からオブジェクトサーバを開始できます。開始方法については、マニュアル「Groupmax System Agent - TCP/IP Version 5 システム管理者ガイド」を参照してください。

システム統合運用管理からオブジェクトサーバを開始する場合の起動パラメタには、xodstart コマンドで指定するオプションと同様のオプションを指定します。

## 3.2 終了方法

オブジェクトサーバは `xodstop` コマンドで終了します。オブジェクトサーバを終了するときには、表 3-3 に示す終了形態があります。

表 3-3 終了形態

終了形態		入力コマンド	次回開始時の開始形態
正常終了		<code>xodstop</code>	正常開始
強制終了	core ダンプ出力なし	<code>xodstop -f</code>	再開始, 強制正常開始 <sup>1</sup>
	core ダンプ出力あり	<code>xodstop -f -d</code>	
計画停止 <sup>2</sup>		<code>xodstop -a</code>	
異常終了		コマンド入力なし	

注 `xodstop` コマンドについては、「8.2 システム管理コマンド」を参照してください。

注 1 強制正常開始すると、終了したときの状態（データベースの状態など）を引き継ぎません。

注 2 High-end Object Server だけの機能です。Object Server にはありません。

### (1) 正常終了

新たなクライアントプロセスの受け付けを禁止し、実行中及び処理待ちのクライアントプロセスの処理が終了した後にオブジェクトサーバを終了する形態です。

なお、アプリケーションプログラムが動作していると、オブジェクトサーバは終了できません。したがって、アプリケーションプログラムを終了させた後に、`xodstop` コマンドを入力してください。

### (2) 強制終了

処理中のクライアントプロセスの完了を待たないで、オブジェクトサーバを直ちに終了する形態です。処理中のクライアントプロセスは、再開時にロールバックの対象となります。

### (3) 計画停止 (High-end Object Server)

新たなクライアントプロセスの受け付けを禁止し、実行中及び処理待ちのクライアントプロセスの処理が終了した後にオブジェクトサーバを終了する形態です。次回開始時に、再開又は強制正常開始のどちらかを選べます。

なお、アプリケーションプログラムが動作していると、オブジェクトサーバは終了できません。したがって、アプリケーションプログラムを終了させた後に、`xodstop -a` コマンドを入力してください。

### (4) 異常終了

何らかの異常によってオブジェクトサーバが終了する形態です。処理中のクライアントプロセスは、再開時にロールバックの対象となります。



## 3.3 ログメッセージに関する運用

ここではログメッセージに関する運用方法について説明します。

### 3.3.1 ログメッセージとは

オブジェクトサーバの運転状況、又は障害が発生したときに出力されるメッセージはログファイルに出力されます。ログファイルに出力されるメッセージをログメッセージといいます。ユーザは、`xodlogcat` コマンドを使用して、このログメッセージを標準出力に出力できます。

ログメッセージは、オブジェクトサーバが出力するメッセージの履歴情報として、次に示す場合などに利用します。

- オブジェクトサーバが出力したメッセージを再度確認したい場合
- 障害が発生したときに異常箇所及び原因を調べたい場合

### 3.3.2 ログファイルの作成及び運用

#### (1) ログファイルの作成

ログファイルはオブジェクトサーバが自動的に作成します。作成されるファイルは次に示す二つのファイルです。

- `$XODDIR/spool/dclog1`
- `$XODDIR/spool/dclog2`

それぞれのログファイルの容量は最大 1,024 キロバイトです。オブジェクトサーバを開始するか又は片方のファイルが一杯になると、もう一方のファイルに出力先が切り替えられます。さらに、オブジェクトサーバを開始するか又はそのファイルが一杯になると、出力先が先のファイルに切り替えられ、古いログメッセージは消去されます。

#### (2) ログファイルの運用

オブジェクトサーバの開始以外でログメッセージの出力先が切り替わると、オブジェクトサーバはその旨のメッセージを出力します。このとき、システム管理者は次に示すことをしてください。

- 切り替え前のログファイル中のログメッセージを保存したい場合は、ログファイルのバックアップを取得してください。

また、現在のログメッセージ出力先ファイルを知りたい場合は、OS の `ls` コマンドでファイルの最終更新日時を調べてください。最終更新日時が新しい方が、現在のログメッセージ出力先ファイルです。

### 3.3.3 ログメッセージの出力

#### (1) 使用するコマンド

`xodlogcat` コマンドで、ログメッセージを標準出力に出力できます。出力されるログメッセージは時間順にソートされていて、古いログメッセージから順に出力されます。

`xodlogcat` コマンドについては、「8.7 ログメッセージ管理コマンド」を参照して

### 3. オブジェクトサーバの運用

ください。

#### (2) 出力される情報

##### (a) ファイル管理情報

ログファイル作成時に、ログファイルの先頭 20 バイトに出力されます。

- アイキャッチャー : 「##lhead」が 8 バイトで表示されます。
- 管理情報 : 12 バイトで表示されます。

##### (b) ログメッセージ

ログメッセージはファイル管理情報の後に出力されます。ログメッセージの出力形式を図 3-1 に示します。

図 3-1 ログメッセージの出力形式

<u>100</u>	<u>8410</u>	<u>2510</u>	<u>A</u>	<u>1996/07/11 15:32:46</u>	<u>host1</u>	<u>prc</u>	<u>KFX001809-1</u>	<u>OMSがオンライン状態</u>
1	2	3	4	5	6	7	8	9

になりました。

〔説明〕

1. メッセージ通番 : 半角英数字 7 文字
2. プロセス ID : 半角英数字 5 文字
3. 一つのプロセス内でのメッセージ通番 : 半角英数字 7 文字
4. OMS 識別子 : 半角英数字 2 文字
5. 出力を要求した日時 : 半角英数字 19 けた。YYYY/MM/DD hh:mm:ss の形式
6. 要求元ホスト名 : 半角英数字で、先頭 8 文字
7. 要求元プログラム ID : 半角英数字 3 文字
8. メッセージ ID : 半角英数字 11 文字
9. メッセージテキスト : 半角で最大 487 文字 (全角では 243 文字) を出力

出力データの文字数がこれらの文字数より少ない場合は、文字データは左詰め、数値データは右詰めで出力されます。また、各項目は、空白 1 文字で区切られています。

## 3.4 起動時と終了時の注意

この節では、オブジェクトサーバの起動時と終了時に注意することについて説明します。

### (1) 起動時に定義ファイルがオープンできない場合

メッセージ KFXO00242-E が出力されて定義ファイルをオープンできなかった場合は、次の原因が考えられます。

環境変数 (XODDIR 又は XODCONFPATH) にオブジェクトサーバのシステム管理者のホームディレクトリへのパス名称が設定されていない場合

- B シェルの例 :  

```
XODDIR = /usr/ObjSV/HOME
XODCONFPATH = $XODDIR/conf
export XODDIR XODCONFPATH
```
- 対策 :  
 設定したパス名称をオブジェクトサーバのシステム管理者のホームディレクトリのパス名称と一致させてください。

B シェルで \$XODDIR にパス名称を設定した後コマンドを実行していない場合

- B シェルの例 :  

```
export XODDIR XODCONFPATH
```
- 対策 :  
 B シェルで \$XODDIR にパス名称を設定した後に export コマンドを実行してください。

環境変数 (XODDIR) に設定したパス名称のうち、参照権限がないディレクトリがある場合

対策 :  
 chmod コマンドを実行して、ディレクトリに参照権限を追加してください。

環境変数 (XODDIR) に設定したパス名称が実際は存在しない場合

対策 :  
 コマンド `cd $XODDIR` を実行して、パス名称が存在していることを確認してください。

### (2) データベースを作り直した後にオブジェクトサーバを起動できない場合

メッセージ KFXO46044-E が表示されてオブジェクトサーバを起動できなかった場合は、データベースとジャーナルの不整合が発生しています。オブジェクトサーバを強制正常開始モードで起動してください。データベースを作り直しているのので、再開ではなく強制正常開始します。

### (3) 動作環境が整っていないためにオブジェクトサーバが起動できない場合

メッセージ KFXO00107-E 又は KFXO01801-E が表示されてオブジェクトサーバを起動できなかった場合は、スワップファイルやメモリなど、動作環境が整っていないことが考えられます。カーネルの共用メモリを設定し直したり、実メモリ、ス

### 3. オブジェクトサーバの運用

ワップファイル及びシステム共通定義（\$XODDIR/conf/xodrc）ファイル中の共用メモリのサイズを見直してください。

#### (4) 他のプログラムが停止していないためにオブジェクトサーバが停止できない場合

次に示す作業を行っているときに、誤って xodstop コマンドを実行してオブジェクトサーバを停止させると、メッセージ KFXO01840-I が表示されて、xodstop コマンドからの応答が数分間返ってこないことがあります。

連携プログラムを停止する前に xodstop コマンドを実行した場合

Groupmax 停止作業中に xodstop コマンドを実行した場合

上記障害に対処するためには、まず連携プログラムが稼働中かどうかを確認してください。稼働中であれば停止してください。連携プログラム停止後、xodstop コマンドが終了します。

連携プログラムを停止させなかった場合は、xodstop コマンド入力後 1 時間待つと、オブジェクトサーバは強制終了します。強制終了した場合は、連携プログラムを停止させた後で、オブジェクトサーバを再起動してください。

---

## 4 . データベースの運用

---

データベースの保守操作には、データベースの構成変更、データベースの再編成、データベースの状態表示、バックアップの取得、データベースの回復、及びデータベースの再構成があります。この章では、データベースの保守に関する操作について説明します。

- 
- 4.1 データベースの構成変更
  - 4.2 データベースの再編成
  - 4.3 データベースの状態表示
  - 4.4 データベースのバックアップの取得
  - 4.5 データベースの回復
  - 4.6 データベースの再構成
  - 4.7 データベースの再初期化

### 4.1 データベースの構成変更

使用中のオブジェクトサーバに対し、新たにオブジェクトサーバと連携するプログラムを追加するなどの理由で、データベースの構成を変更する場合があります。この節では、データベースの構成を変更するときの運用について説明します。

#### 4.1.1 エリアの追加

既に使用しているオブジェクトサーバのデータベースに、エリアを追加します。追加できるのはユーザデータベース用及びインデクス用のエリアです。それ以外の用途のエリアは追加できません。

##### (1) エリアの追加に使用するコマンド

データベースにエリアを追加するには、データベース構成変更ユーティリティの `xodaradd` コマンドを使います。`xodaradd` コマンドについては、「8.3 データベース管理コマンド」を参照してください。

##### (2) 手順

エリアを追加するときの手順を説明します。

###### (a) 構成変更パラメタファイルの作成

構成変更パラメタファイルは、`vi` などのエディタを使用してテキスト形式のファイルとして作成します。パラメタには、追加するエリアの名称、容量などを記述します。また、構成変更パラメタファイルの名称は任意です。構成変更パラメタファイルについては、「7.6 構成変更パラメタファイル」を参照してください。

なお、Groupmax サーバ環境設定コマンドを使用すると、構成変更パラメタファイルを簡単に作成できます。また、システム共通定義ファイルもこのコマンドで同時に作成できます。Groupmax サーバ環境設定コマンドについては、「付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)」を参照してください。

###### (b) `xodaradd` コマンドの実行

`xodaradd` コマンドを実行して、オブジェクトサーバのデータベースにエリアを追加します。

`xodaradd` コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「`xodresult`」に出力されます。`xodaradd` コマンドが正常に終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されます。

エラーが発生した場合には、正常終了のメッセージが出力されません。このときには、標準エラー出力に出力されたエラーメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、`xodaradd` コマンドを再実行してください。

##### (3) `xodaradd` コマンドの処理結果

`xodaradd` コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「`xodresult`」に出力されます。「`xodresult`」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、



## 4. データベースの運用

図中文字	項目	表示形式
lll...lll	ファイルのページ数	10進数（右詰め）
ooo...ooo	ファイルの最大割り当て量	10進数（右詰め） 最大割り当て量の指定を省略した場合は、「*****」と表示されます

### 4.1.2 エリアの削除

連携するプログラムの環境の削除などで不要になったエリアをオブジェクトサーバのデータベースから削除します。削除できるのはユーザデータベース用及びインデクス用のエリアです。それ以外の用途のエリアは削除できません。

#### (1) エリアの削除に使用するコマンド

データベースからエリアを削除するには、データベース構成変更ユーティリティの `xodarrm` コマンドを使います。`xodarrm` コマンドについては、「8.3 データベース管理コマンド」を参照してください。

#### (2) 手順

エリアを削除するときの手順を説明します。

##### (a) 連携するプログラム側からのデータベースの削除

削除しようとしているエリアに、連携するプログラムがデータベースを作成している場合は、まず連携プログラム側からそのデータベースを削除してください。連携するプログラムのデータベースがあるエリアは削除できません。

##### (b) `xodarrm` コマンドの実行

`xodarrm` コマンドを実行して、オブジェクトサーバのデータベースからエリアを削除します。指定するエリア名は、削除するエリアを作成又は追加したときに、初期設定パラメタ又は構成変更パラメタで指定したエリア名です。

`xodarrm` コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「`xodresult`」に出力されます。`xodarrm` コマンドが正常終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されます。

エラーが発生した場合には、正常終了のメッセージが出力されません。このときには、標準エラー出力に出力されたエラーメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、`xodarrm` コマンドを再実行してください。

#### (3) `xodarrm` コマンドの処理結果

`xodarrm` コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「`xodresult`」に出力されます。「`xodresult`」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「`xodresult`」というファイルが新規に作成されます。

図 4-2 に処理結果の出力フォーマットを示します。また図 4-2 に示した出力フォーマットの項目を表 4-2 に示します。図 4-2 と表 4-2 の図中の文字は対応しています。





## 4. データベースの運用

なお、ファイルを追加できるのは、次の用途のエリアです。マスタディレクトリのエリアには追加できません。

- データディレクトリ
- ディクショナリ
- OID インデクス
- ユーザデータベース
- インデクス

### (1) ファイルの追加に使用するコマンド

データベースにファイルを追加するには、データベース構成変更ユーティリティの `xodfladd` コマンドを使います。`xodfladd` コマンドについては、「8.3 データベース管理コマンド」を参照してください。

### (2) 手順

ファイルを追加するときの手順を説明します。

#### (a) 構成変更パラメタファイルの作成

構成変更パラメタファイルは、vi エディタなどを使用してテキスト形式のファイルとして作成します。パラメタには、ファイルが追加されるエリアの名称、これから追加するファイルの名称及び割り当て量を記述します。また、作成する構成変更パラメタファイルの名称は任意です。

構成変更パラメタファイルについては、「7.6 構成変更パラメタファイル」を参照してください。

なお、Groupmax サーバ環境設定コマンドを使用すると、構成変更パラメタファイルを簡単に作成できます。また、システム共通定義ファイルもこのコマンドで同時に作成できます。Groupmax サーバ環境設定コマンドについては、「付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)」を参照してください。

#### (b) `xodfladd` コマンドの実行

`xodfladd` コマンドを実行して、オブジェクトサーバのデータベースにファイルを追加します。

`xodfladd` コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「`xodresult`」に出力されます。`xodfladd` コマンドが正常終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されます。

エラーが発生した場合には、正常終了のメッセージが出力されません。このときには、標準エラー出力に出力されたメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、`xodfladd` コマンドを再実行してください。

### (3) `xodfladd` コマンドの処理結果

`xodfladd` コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「`xodresult`」に出力されます。「`xodresult`」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「`xodresult`」というファイルが新規に作成されます。

図 4-3 に処理結果の出力フォーマットを示します。また図 4-3 に示した出力フォー

マットの項目は表 4-1 を参照してください。図 4-3 と表 4-1 の図中の文字は対応しています。

図 4-3 xodfladd コマンドの処理結果の出力フォーマット

```

**aaaaaaaaaaaa xodfladd(vv-rr)**          DB構成変更          yy-mm-dd hh:mm:ss

** 追加ファイル情報リスト **

エリア名 = bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb      用途 = cccccccccccccccccccc
NO.  n   ファイル名 = jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj
      初期割当量 = kkkkkkkkkk                [最大割当量 = oooooooooo] ※
      ページ数   = llllllllll

終了メッセージ

```

注※ データディレクトリ用のエリアの場合は表示されません。

#### 4.1.4 ファイルの属性変更

既に使用しているデータベースのファイル属性を変更できます。変更できる属性は、ファイルの最大割り当て量です。

また、属性が変更できるのは、次に示す用途に使われるファイルだけです。それ以外の用途に使われるファイルの属性は変更できません。

- ディクショナリ
- OID インデクス
- ユーザデータベース
- インデクス

##### (1) ファイルの属性変更を使用するコマンド

ファイルの属性を変更するには、データベース構成変更ユーティリティの xodflalt コマンドを使います。xodflalt コマンドについては、「8.3 データベース管理コマンド」を参照してください。

##### (2) 手順

ファイルの属性を変更するときの手順を説明します。

###### (a) 最大割り当て量の見積もり

属性を変更するファイルについての変更後の最大割り当て量を見積もります。見積もり式については、初期設定パラメタ (file パラメタの -m オペランド) 及び xodflalt コマンドの -m オプションの説明中に記載しています。

file パラメタの -m オペランドについては、「7.5.2 初期設定パラメタの項目」を参照してください。

xodflalt コマンドの -m オプションについては、「8.3 データベース管理コマンド」を参照してください。

## 4. データベースの運用

### (b) xodflalt コマンドの実行

xodflalt コマンドを実行して、オブジェクトサーバのデータベースのファイル属性を変更します。

xodflalt コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「xodresult」に出力されます。xodflalt コマンドが正常に終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されます。

エラーが発生した場合には、正常終了のメッセージが出力されません。このときには、標準エラー出力に出力されたエラーメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、xodflalt コマンドを再実行してください。

### (3) xodflalt コマンドの処理結果

xodflalt コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「xodresult」に出力されます。「xodresult」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「xodresult」というファイルが新規に作成されます。

図 4-4 に処理結果の出力フォーマットを示します。また図 4-4 に示した出力フォーマットの項目は表 4-1 を参照してください。図 4-4 と表 4-1 の図中の文字は対応しています。

図 4-4 xodflalt コマンドの処理結果の出力フォーマット

```
**aaaaaaaaaa xodflalt(vv-rr)**          DB構成変更          yy-mm-dd hh:mm:ss

**   ファイル属性変更情報リスト   **

エリア名 = bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb   用途 = cccccccccccccccccccc
NO.   n   ファイル名 = jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj
      変更前
          最大割当量 = oooooooooo
      変更後
          最大割当量 = oooooooooo

終了メッセージ
```

## 4.2 データベースの再編成

データベースの再編成は、データベースにオブジェクトの追加や削除をすることによって生じるデータベースの配置の乱れを直し、適切な配置にします。これによって、オブジェクトのアクセス性能が向上し、データベースのスペース効率が最適になります。また、メッセージとして KFXO41012-I, KFXO41053-I, KFXO41055-I が出力されている場合は、データベースの配置の乱れや容量が満杯に近づいている可能性がありますので、「4.3 データベースの状態表示」を参照して使用状況を確認し、必要に応じてデータベースの再編成、構成変更、再構成を行ってください。

データベースを再編成するときの運用については、以下のことを考慮してください。

オブジェクトサーバのエリアの格納領域が不足してデータベースファイルの増分ができない（ディスクに空きがない、又は最大割り当て量に達している）場合、連携するアプリケーションプログラムからのオブジェクト、インデックスキーの追加が発生する操作（メールの送信など）がエラーになりますので、次に示す 1 と 2、又は 1 と 3 を実行してください。

1. OID インデックスエリア及びインデックスエリアの file パラメタの -m オペランドを指定しないでください。既に指定している場合は、xodflalt コマンドで最大割り当て量を 0 に変更して、指定を無効にしてください。これは、Groupmax のアプリケーションプログラムで使用するインデックスキーは通番キーが多いため、古く追加された削除キーの占めていた領域が再利用されにくく、ファイルが増分されやすいためです。
2. データベースファイルの増分に備えて、データベースファイルのあるパーティションに常に空き領域を確保してください。各ファイルのサイズやパーティションの空き容量から、ファイルの増分状況やパーティションの空き状況を確認し、必要に応じて xodbreog コマンドを実行してください。
3. オブジェクトの追加や削除の頻繁なアプリケーション（Groupmax Workflow Server, Groupmax Address/Mail Server など）を使用している場合、定期的（日々のバックアップ後、1 週間ごと、又は 1 か月ごとなど）に、xodbreog コマンドを実行してください。Groupmax サーバ環境設定ユーティリティで電子アドレス帳、メール及びワークフローの環境設定をした場合は、運用期間を 30 日と仮定しています。運用期間ごとに xodbreog コマンドを実行してください。

### (1) データベースの再編成に使用するコマンド

データベースを再編成するには、データベース再編成ユーティリティの xodbreog コマンドを使います。また、xodbreog コマンドでインデックスも再作成できます。xodbreog コマンドについては、「8.4 データベースの保守コマンド」を参照してください。

### (2) 手順

データベースを再編成するときの手順を説明します。

## 4. データベースの運用

### (a) 再編成パラメタファイルの作成

再編成パラメタファイルは、viなどのエディタを使用してテキスト形式のファイルとして作成します。パラメタには、ファイル名、ディレクトリ名などを記述します。再編成パラメタファイルについては「7.7 再編成パラメタファイル」を参照してください。

なお、Groupmax サーバ環境設定コマンドを使用すると、再編成パラメタファイルを簡単に作成できます。Groupmax サーバ環境設定コマンドについては、「付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定」を参照してください。

### (b) xodbreog コマンドの実行

xodbreog コマンドを実行して、オブジェクトサーバのデータベースを再編成します。データベースのオブジェクトは、いったんファイルにアンロードされ、再びデータベースに登録されることによって再編成されます。また、インデクスも作り直されます。

xodbreog コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「xodresult」に出力されます。xodbreog コマンドが正常に終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されます。

エラーが発生した場合には、正常終了のメッセージが出力されません。このときには、標準エラー出力に出力されたエラーメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、xodbreog コマンドを再実行してください。

### (3) xodbreog コマンドの処理結果

xodbreog コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「xodresult」に出力されます。「xodresult」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「xodresult」という名称のファイルが新規に作成されます。

図 4-5 にオブジェクトの再編成及び図 4-6 にインデクスの再作成の処理結果の出力フォーマットを示します。また図 4-5 及び図 4-6 に示した出力フォーマットの項目を表 4-3 に示します。図 4-5 及び図 4-6 と表 4-3 の図中の文字は対応しています。

図 4-5 xodbreog コマンドの処理結果の出力フォーマット (オブジェクトの再編成)

```

**aaaaaaaaaa xodbreog (vv-rr)**                DB再編成                yy-mm-dd hh:mm:ss
** ディクショナリ引き上げ情報リスト **
アンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb . . .
NO. nnnnn
  タイプ名 : cccccccccccccccccccc . . .
  総オブジェクト数 : eeeeeeeeeeeee
  最大オブジェクト長 : fffffffffffff
  :
  :
** ユーザエリア引き上げ情報リスト **                ※1
アンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb . . .
NO. nnnnn
  タイプ名 : cccccccccccccccccccc . . .
  総オブジェクト数 : eeeeeeeeeeeee
  最大オブジェクト長 : fffffffffffff
  :
  :
NO. nnnnn
ユニバーサル関連名 : ggggggggggggggggggggggggg . . .
  総オブジェクト数 : eeeeeeeeeeeee
  最大オブジェクト長 : fffffffffffff
  :
  :
** アンロードファイル情報リスト **                ※2
アンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb . . .
  容量 : jjjj.jk※3
  :
  :
  総容量 : jjjj.jk※3

** ユーザエリア再登録情報リスト **                ※1
アンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb . . .
NO. nnnnn
  タイプ名 : cccccccccccccccccccc . . .
  総オブジェクト数 : eeeeeeeeeeeee  OID数 : kkkkkkkkkkkk  PID登録数 : |oooooooooooo|※4
  :
  :
** インデクスメンテナンスリスト **
NO. nnnnn
  インデクス名 : iiiiiiiiiiiiiiiii . . .
  :
  :
NO. nnnnn
ユニバーサル関連名 : ggggggggggggggggggggggggg . . .
  総オブジェクト数 : eeeeeeeeeeeee  OID数 : kkkkkkkkkkkk  PID登録数 : |oooooooooooo|※4
  :
  :
** ディクショナリ再登録情報リスト **
アンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb . . .
NO. nnnnn
  タイプ名 : cccccccccccccccccccc . . .
  総オブジェクト数 : eeeeeeeeeeeee  OID数 : kkkkkkkkkkkk  PID登録数 : |oooooooooooo|※4
  :
  :
終了メッセージ

```

注※1 パラメタに指定されたアンロードファイルの名称はすべて表示されます。

注※2 作成されたアンロードファイルについて、ディクショナリエリア用、ユーザデータベースエリア用の順にアンロードファイルの名称、容量を表示します。1レコードも出力されなかったアンロードファイルは表示されません。ユーザデータベースエリア用はパラメタの指定順に表示されます。

注※3 容量、総容量はjjjj (バイト, 右詰め), jjjj.jk (キロバイト, 右詰め), jjjj.jM (メガバイト, 右詰め), jjjj.jG (ギガバイト, 右詰め) のいずれかで表示されます。総容量は、すべてのアンロードファイル容量の合計です。また、各容量は、小数点第2位以下を切り上げて表示されます。

注※4 PID登録数とは、当該タイプで、新旧物理オブジェクト識別子対応表に登録されたエン트리数のことです。

#### 4. データベースの運用

図 4-6 xodbreog コマンドの処理結果出力フォーマット (インデクスの再作成)

```

**aaaaaaaaaaaa xodbreog(vv-rr)**          DB再編成          yy-mm-dd hh:mm:ss

** インデクス再作成情報リスト **
NO. nnnnn
  タイプ名 : ccccccccccccccccccccc * . . .
    NO. nnnnn
      インデクス名 : iiiiiiiiiiiiiiiii * . . .
        :
        :
      終了メッセージ
  
```

表 4-3 xodbreog コマンドの処理結果の出力項目

図中文字	項目	表示形式
aaa...aaa	システム I D	10 バイト (AIX 及び HP-UX の場合は 11 バイト)
vv-rr	バージョン番号・リビジョン番号	5 バイト
yy-mm-dd	xodbreog コマンド実行開始年月日	西暦の下 2 けた - 月 - 日
hh:mm:ss	xodbreog コマンド実行開始時刻	時 : 分 : 秒
bbb...bbb	アンロードファイル名	最大 175 バイト
nnnnn	通番	10 進数 (左詰め)
ccc...ccc	タイプ名	最大 95 バイト
eee...eee	タイプ内の総オブジェクト数	10 進数 (左詰め)
fff...fff	最大オブジェクト長	単位はバイト。10 進数 (左詰め)
ggg...ggg	ユニバーサル関連名	最大 95 バイト
iii...iii	インデクス名	最大 95 バイト
jjjj-j	アンロードファイルの容量又は総容量	10 進数 (右詰め)
kkk...kkk	タイプ内の OID 数	10 進数 (右詰め)
lll...lll	タイプ内の PID 登録数	10 進数 (右詰め)



## 4.3 データベースの状態表示

この節では、使用中のオブジェクトサーバの稼働状況を確認するときの運用について説明します。

### 4.3.1 スキーマ名の表示

使用中のオブジェクトサーバに対して、新たにオブジェクトサーバと連携するプログラムを追加する場合、連携するプログラムの初期設定をするときにオブジェクトサーバのスキーマ名を指定する必要があります。このスキーマ名は、`xodschls` コマンドを使って表示してください。`xodschls` コマンドについては、「8.8 データベース診断コマンド」を参照してください。

### 4.3.2 データベースエリアの使用状況表示

オブジェクトサーバのデータベースのディクショナリ用エリア、OID インデクス用エリア、ユーザ用エリア及びインデクス用エリアの使用状況を表示します。使用状況は標準出力に出力されます。

データベースエリアの使用状況から、次のことが分かります。

- データベースエリアのファイルの増分
  - データベースの再編成が有効なエリア
  - データベースの満杯状態に近づいているエリア（ディクショナリ用エリア及びユーザ用エリア）
  - エリア再構成パラメタに指定する値の見積もり値
- 使用状況は定期的を確認してください。

#### (1) データベースエリアの使用状況の表示に使用するコマンド

データベースエリアの使用状況を表示するには、`xodbuse` コマンドを使用します。`xodbuse` コマンドについては、「8.8 データベース診断コマンド」を参照してください。

#### (2) 手順

データベースエリアの使用状況を表示するときの手順を説明します。

##### (a) `xodbuse` コマンドの実行

`xodbuse` コマンドを実行して、データベースエリアの使用状況を標準出力に出力します。

#### (3) `xodbuse` コマンドの処理結果

コマンドの処理結果として、データベースエリアの使用状況が標準出力に出力されます。

図 4-7 に処理結果の出力フォーマットを示します。また、図 4-7 に示した出力フォーマットの項目を表 4-4 に示します。図 4-7 と表 4-4 の図中の文字は対応しています。

## 4. データベースの運用

図 4-7 xodbuse コマンドの処理結果の出力フォーマット

```

**aaaaaaaaaa xodbuse (vv-rr)** DBエリア使用状況表示          yy-mm-dd hh:mm:ss
**DBエリア使用状況リスト**
  エリア名                使用      満杯      割当      セグメント
                        ページ数   ページ数   ページ数   数
                        ※1
-----
bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb 用途=cccccccccccccccccccc
                        セグメントサイズ=eeeeee 最大割当量=ffffff ※2
  gggggggggggg**gggggggggggg
                        |iiiiiiiiii|jjjjjjjjjj|kkkkkkkkkk|llllllllll| ※3
                        (nnnnn)   (ooooo)   (ppppp)
                        :
未使用セグメント      qqqqqqqqqq ssssssssss tttttttttt uuuuuuuuuu
[小計]                wwwwwwwwww xxxxxxxxxx zzzzzzzzzz AAAAAAAAAA
                        ※4
-----
bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb 用途=cccccccccccccccccccc
                        セグメントサイズ=eeeeee 最大割当量=ffffff
                        :
未使用セグメント      qqqqqqqqqq ssssssssss tttttttttt uuuuuuuuuu
                        :
-----
全エリア合計                BBBBBBBBBB          CCCCCCCCCC
  
```

- 注※1 エリア内にタイプ又はインデクスが定義されている時の表示形式です。点線内は一つのエリアの情報です。エリア数分繰り返し表示されます。
- 注※2 破線内は一つのタイプ又は一つのインデクスの情報です。タイプ数分又はインデクス数分繰り返し表示されます。
- 注※3 表示するタイプ名又はインデクス名が短い場合、若しくはタイプID又はインデクスIDを表示する場合は、一つの破線内は改行しないでタイプ名又はインデクス名、若しくはタイプID又はインデクスIDに続いて表示します。
- 注※4 エリア内にタイプ又はインデクスが定義されていない時の表示形式です。点線内は一つのエリアの情報です。エリア数分繰り返し表示されます。

表 4-4 xodbuse コマンドの処理結果の出力項目

図中文字	項目	表示形式
aaa...aaa	システム ID	10 バイト (AIX 及び HP-UX の場合は 11 バイト)
vv-rr	バージョン・リビジョン番号	5 バイト
yy-mm-dd	ユティリティ実行開始年月日	西暦の下 2 けた - 月 - 日
hh:mm:ss	ユティリティ実行開始時刻	時 : 分 : 秒
bbb...bbb	エリア名	最大 30 バイト
ccc...ccc	エリアの用途	最大 20 バイト
eee...eee	該当エリアのセグメントサイズ	10 進数 (右詰め)
fff...fff	該当エリア内のファイルの最大割り当て量の合計	10 進数 (右詰め) 該当エリア内の全ファイルに最大割り当て量が指定されている時だけ表示します

図中文字	項目	表示形式
ggg...ggg	・オブジェクトサーバ稼働中にこのコマンドを実行してオブジェクトサーバと接続できた場合は、タイプ名又はインデクス名 ・オブジェクトサーバが稼働中でないか、又はオブジェクトサーバと接続できなかった場合は、タイプ ID 又はインデクス ID	・タイプ名又はインデクス名の場合は、最大 95 バイトで表示 ・タイプ ID 又はインデクス ID の場合は、0x の後に 16 進数で 8 けた
iii...iii	該当タイプ又はインデクスの使用ページ数	10 進数 (右詰め)
jjj...jjj	該当タイプの満杯ページ数 (満杯状態になっているページのページ数)	10 進数 (右詰め) 対象がインデクスページの場合は、「-」を出力します
kkk...kkk	該当タイプ又はインデクスの割り当てページ数	10 進数 (右詰め)
lll...lll	該当タイプ又はインデクスのセグメント数	10 進数 (右詰め)
nnn...nnn	該当タイプ又はインデクスの最終セグメントの使用ページ数	10 進数 (右詰め) 各タイプ又は各インデクスが二つ以上のセグメントからなる場合に表示します
ooo...ooo	該当タイプ又はインデクスの最終セグメントの満杯ページ数	10 進数 (右詰め)
ppp...ppp	該当タイプ又はインデクスの最終セグメントの割り当てページ数	10 進数 (右詰め)
qqq...qqq	未使用セグメントの使用ページ数	10 進数 (右詰め) 常に 0 を表示します
sss...sss	未使用セグメントの満杯ページ数	10 進数 (右詰め) 対象がインデクスページの場合は、「-」を出力します
ttt...ttt	未使用セグメントの割り当てページ数	10 進数 (右詰め)
uuu...uuu	未使用セグメントのセグメント数	10 進数 (右詰め)
www...www	該当エリア内の使用ページ数合計	10 進数 (右詰め)
xxx...xxx	該当エリア内の満杯ページ数合計	10 進数 (右詰め)
zzz...zzz	該当エリア内の割り当てページ数合計	10 進数 (右詰め)
AAA...AAA	該当エリア内のセグメント数合計	10 進数 (右詰め)
BBB...BBB	表示した全エリアの使用ページ数合計	10 進数 (右詰め)
CCC...CCC	表示した全エリアの割り当てページ数合計	10 進数 (右詰め)

#### (4) データベースエリアの使用状況の表示から確認できる内容

データベースエリアの使用状況の表示内容の見方について説明します。  
データベースエリアの使用状況から、次のことが分かります。

##### (a) データベースエリアのファイルの増分

ファイルが増分されているエリアは、各エリアの小計の行に表示されているセグ

## 4. データベースの運用

メント数から分かります。この行のセグメント数が初期設定時の初期割り当て量よりも大きい場合は、ファイルが増分されています。また、未使用セグメントのセグメント数が0に近づいている場合は、間もなくファイルの増分が発生することを示します。

### (b) データベースの再編成が有効なエリア

データベースの再編成によって、スペース効率が向上するエリアを判断できます。データベースの再編成が有効なエリアは、次のようなエリアです。

- 未使用セグメントのセグメント数が0に近づいているエリア
- ファイルが増分されているエリア
- ディクショナリ用エリア及びユーザ用エリアで、各タイプの割り当てページ数から直下行の（ ）内の割り当てページ数を差し引いたページ数に対して、当該タイプの満杯ページ数から直下行の（ ）内の満杯ページ数を差し引いたページ数の割合が低いエリア

ただし、使用ページ数に対して、満杯ページ数の割合が高いエリアでは、データベースの再編成を実行しても、スペース効率の向上は期待できません。

### (c) データベースの満杯状態に近づいているエリア（ディクショナリ用エリア及びユーザ用エリア）

セグメント数が最大割り当て量に達していて、割り当てページ数に対する満杯ページ数の割合が高い場合は、データベースが満杯状態に近づいています。

この場合は、エリアを拡張するか、又は不要なオブジェクトを削除するなどの対処が必要です。対処方法については、「付録 F.2 データベースの運用時の障害予防」を参照してください。

### (d) 再構成パラメタに指定する値の見積もり

xodbuse コマンドで表示した数値を利用して、再構成パラメタに指定する値を見積もれます。再構成パラメタは、データベースのユーザエリア及びインデクスエリアの再作成に使用します。

再構成パラメタファイルの形式と項目については、「7.8 再構成パラメタファイル」を参照してください。

見積もりは、次の手順で実行してください。

1. xodbreog コマンドを実行する
2. xodbuse コマンドを実行する
3. 出力結果からエリア再作成パラメタの値を見積もる

図 4-8 に xodbuse コマンドの表示例を示します。

図 4-8 xodbuse コマンドの表示例

	.			
	.			
	.			
IS_system_area_1	用途=ユーザ			
	セグメントサイズ= 1			
0x000100a3		1	0	1
0x000100a6		1	0	1
	.			
未使用セグメント		0	0	38
[小計]		15	4	53
	.			
	.			
IS_class_area_1	用途=ユーザ			
	セグメントサイズ= 32			
0x000100bb		1	0	32
0x000100c3		14	13	32
0x000100d2		1	0	32
0x00010181		1	0	32
未使用セグメント		0	0	2912
[小計]		17	13	3040
	.			
	.			
WF_case_area	用途=ユーザ			
	セグメントサイズ=4416			
0x0001012e		482	481	4416
	.			
	.			
WF_index_area	用途=インデクス			
	セグメントサイズ= 32			
0x00020168		17	-	32
0x00020169		8	-	32
0x0002016a		4	-	32
未使用セグメント		0	-	64
[小計]		29	-	160
	.			
	.			
	.			

次に、図 4-8 のように表示された場合の、ユーザエリアとインデクスエリアの見積もり方法を説明します。見積もるのは、area パラメタに指定するセグメントサイズと file パラメタに指定する初期割り当て量です。

余裕値は、必要な値の 20% が目安です。ただし、データベースの使用状況の推移から、格納しているデータ量が増大する傾向があるエリアの場合は、余裕値を 50% にするなどして多く見積もる必要があります。

「見積もり例」には、図 4-8 の表示例から見積もった値を示します。

## 4. データベースの運用

### ユーザデータベースのエリアの見積もり

#### 「セグメントサイズ=1」のエリア

セグメントサイズを変更する必要はありません。初期割り当て量は、現在のデータを格納するのに必要なページ数に余裕値を加えた値を見積もります。

見積もり例 (IS\_system\_area\_1 の見積もり)

- セグメントサイズ: 1
- 初期割り当て量: 現在のデータを格納するページ「15」+ 余裕値

#### 「セグメントサイズ 1」かつ「定義タイプ数 > 1」のエリア

- オブジェクト格納時の空きページサーチ効率を優先する場合  
セグメントサイズは、エリア内の各タイプの使用ページ数の最大値に余裕値を加えた値を見積もります。初期割り当て量は、タイプ数に余裕値を加えた値を見積もります。

見積もり例 (IS\_class\_area\_1 の見積もり)

- セグメントサイズ: エリア内の各タイプの使用ページの最大値「14」+ 余裕値
- 初期割り当て量: タイプ数「4」+ 余裕値
- スペース効率 (少ないディスク所要量) を優先する場合  
各タイプには、セグメント単位でページが割り当てられます。つまり、1ページしか使用していなくても1セグメント分のページが割り当てられます。  
スペース効率を優先する場合は、セグメントサイズには各タイプの平均的な使用ページ数を見積もります。初期割り当て量には現在のデータを格納するのに必要なセグメント数に余裕値を加えた値を見積もります。  
なお、この場合はファイルの増分が起こりやすいので、定期的にデータベースの再編成を実行する必要があります。

見積もり例 (IS\_class\_area\_1 の見積もり)

- セグメントサイズ: 各タイプの平均的な使用ページ数「1」
- 初期割り当て量: 現在のデータを格納するのに必要なセグメント数「17」+ 余裕値

#### 「セグメントサイズ 1」かつ「定義タイプ数=1」のエリア

現在のデータを格納するのに必要なページ数に余裕値を加えた値をセグメントサイズに見積もります。初期割り当て量は1にします。

見積もり例 (WF\_case\_area の見積もり)

- セグメントサイズ: 現在のデータを格納するのに必要なページ数「482」+ 余裕値
- 初期割り当て量: 1

### インデクスエリアの見積もり

セグメントサイズには、「MIN (エリア内の各インデクスの使用ページ数の最大値 + 余裕値, 32)」を見積もります。初期割り当て量には、現在のデータを格納するのに必要なセグメント数に余裕値を加えた値を見積もります。

見積もり例 (WF\_index\_area の見積もり)

- セグメントサイズ：エリア内の各インデクスの使用ページ数の最大値「17」  
+ 余裕値
- 初期割り当て量：現在のデータを格納するのに必要なセグメント数「3」+  
余裕値

### 4.3.3 データベースのエリアの情報表示

データベースのエリアの情報表示では、次に示すデータベースのエリアの情報を表示します。

- エリア名称
- エリアの用途
- エリア番号
- エリア内の合計ページ数
- エリアのセグメントサイズ
- エリアの利用可能ページ数
- エリアのページ長
- ファイルの通番
- ファイル名称
- ファイルの現在割り当て量
- ファイルの最大割り当て量
- ファイルのページ数
- ファイルの初期化日時

なお、これらの情報は標準出力に出力されます。

#### (1) データベースのエリアの情報表示に使用するコマンド

データベースのエリアの情報を表示するには、`xodarls` コマンドを使用します。  
`xodarls` コマンドについては、「8.8 データベース診断コマンド」を参照してください。

#### (2) 手順

データベースのエリアの情報を表示するときの手順を説明します。

##### (a) `xodarls` コマンドの実行

`xodarls` コマンドを実行して、データベースのエリアの情報を標準出力に出力します。

#### (3) `xodarls` コマンドの処理結果

コマンドの処理結果として、データベースのエリアの情報が標準出力に表示されます。

図 4-9 に処理結果の出力フォーマットを示します。また、図 4-9 に示した出力フォーマットの項目を表 4-5 に示します。図 4-9 と表 4-5 の図中の文字は対応しています。





図中文字	項目	表示形式
ppp...ppp	該当エリア内のファイルの最大割り当て量	単位はセグメント数。10進数（右詰め） 最大割り当て量の指定を省略した場合は、「*****」と表示されます
YY-MM-DD	ファイルの初期化年月日 次のコマンドによってファイルを初期化した年月日 <ul style="list-style-type: none"> <li>• xodbinit コマンド</li> <li>• xodaradd コマンド</li> <li>• xodfladd コマンド</li> <li>• xodbrens コマンド</li> <li>• xodarint コマンド</li> </ul>	西暦の下2けた - 月 - 日
HH:MM:SS	ファイルの初期化時刻 次のコマンドによってファイルを初期化した時刻 <ul style="list-style-type: none"> <li>• xodbinit コマンド</li> <li>• xodaradd コマンド</li> <li>• xodfladd コマンド</li> <li>• xodbrens コマンド</li> <li>• xodarint コマンド</li> </ul>	時：分：秒

#### 4.3.4 ディクショナリの情報表示

ディクショナリの情報表示では、ディクショナリ用エリアのファイルを解析し、ディクショナリの情報を表示します。この情報は、標準出力に出力されます。

##### (1) ディクショナリの情報表示に使用するコマンド

ディクショナリの情報を表示するには、xoddicls コマンドを使用します。xoddicls コマンドについては、「8.8 データベース診断コマンド」を参照してください。

##### (2) 手順

ディクショナリの情報を表示するときの手順を説明します。

##### (a) xoddicls コマンドの実行

xoddicls コマンドを実行して、データベースのディクショナリの情報を標準出力に出力します。

##### (3) xoddicls コマンドの処理結果

コマンドの処理結果として、ディクショナリの情報が標準出力に出力されます。図 4-10 に処理結果の出力フォーマットを示します。また、図 4-10 に示した出力フォーマットの項目を表 4-6 に示します。図 4-10 と表 4-6 の図中の文字は対応しています。

## 4. データベースの運用

図 4-10 xoddicls コマンドの処理結果の出力フォーマット

```

**aaaaaaaaaaaa xoddicls(vv-rr)** ディクショナリ情報表示 YY-MM-DD HH:MM:SS

ノードID = bbbbbb

** エリア **
   エリア番号 エリア名                                     用途                                         ※1
   ccccc      eeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeee  ffffffff                      ※2
   NO. nn   ファイル名 = gggggggggggggggggggggggggggggggggggg ...

                                       |
スキーマ名 = |iiiii|

** タイプ **
   ID   エリア番号  更新日付  更新時間  種別  タイプ名                                     ※3
 0xJJJJJJJJ  kkkkk   yy-mm-dd  hh:mm:ss  |  oooooooooooooooooooooooooooooo...
  |インデクス番号 = 0xpppppppp  インデクス名 = qqqqqqqqqqqqqqqqqqqqqqqqqqqq ... ※4

                                       |
** ユニバーサル関連 **
   ID   エリア番号  更新日付  更新時間  ユニバーサル関連名                             ※5
 0xtttttttt  uuuuu   yy-mm-dd  hh:mm:ss  wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww ...

                                       |
** インデクス **
   ID   エリア番号  更新日付  更新時間  タイプID  インデクス名                             ※6
 0xzzzzzzzz  xxxxx   yy-mm-dd  hh:mm:ss  0xAaaaaaaa  BBBBbBBBBBBBBBBB ...

** ディクショナリ情報表示終了 **
    
```

- 注※1 点線内は一つのエリアの情報です。エリア数分繰り返し表示されます。  
 注※2 破線内は一つのファイルの情報です。ファイル数分繰り返し表示されます。  
 ファイルの情報は、名称順ソートオプションの指定にかかわらず、ファイルの番号順に表示されます。  
 注※3 点線内は一つのタイプの情報です。タイプ数分繰り返し表示されます。  
 ディクショナリのタイプの情報は表示されません。  
 注※4 破線内は一つのインデクスの情報です。インデクス数分繰り返し表示されます。  
 注※5 点線内は一つのユニバーサル関連の情報です。ユニバーサル関連数分繰り返し表示されます。  
 注※6 点線内は一つのインデクスの情報です。インデクス数分繰り返し表示されます。

表 4-6 xoddicls コマンドの処理結果の出力項目

図中文字	項目	表示形式
aaa...aaa	システム ID	10 バイト (AIX 及び HP-UX の場合は 11 バイト)
vv-rr	バージョン・リビジョン番号	5 バイト
yy-mm-dd	更新年月日	西暦の下 2 けた - 月 - 日
hh:mm:ss	更新時刻	時 : 分 : 秒
bbb...bbb	ノード ID	10 進数 (左詰め)
ccc...ccc	エリア番号	10 進数 (右詰め)

図中文字	項目	表示形式
eee...eee	エリア名	最大 30 バイト
fff...fff	エリアの用途	最大 20 バイト
nn	ファイルの通番	10 進数 (右詰め)
ggg...ggg	ファイル名	最大 175 バイト
iii...iii	スキーマ名	最大 63 バイト
jjj...jjj	タイプ ID	16 進数の 8 バイト
kkk...kkk	該当タイプの定義されたエリアの エリア番号	10 進数 (右詰め)
ll	定義種別	通常タイプ時には、空白が表示され ます。クラスタードストリングタイ プ時には、「CS」が表示されます。
ooo...ooo	タイプ名	最大 95 バイト
ppp...ppp	インデクス I D	16 進数の 8 バイト
qqq...qqq	インデクス名	最大 95 バイト
ttt...ttt	ユニバーサル関連 I D	16 進数の 8 バイト
uuu...uuu	該当ユニバーサル関連の定義され たエリアのエリア番号	10 進数 (右詰め)
www...www	ユニバーサル関連名	最大 95 バイト
zzz...zzz	インデクス ID	16 進数の 8 バイト
xxx...xxx	該当インデクスの定義されたエリ アのエリア番号	10 進数 (右詰め)
AAA...AAA	該当インデクスの定義されたタイ プのタイプ I D	16 進数の 8 バイト
BBB...BBB	インデクス名	最大 95 バイト
YY-MM-DD	コマンド実行開始年月日	西暦の下 2 けた - 月 - 日
HH : MM : SS	コマンド実行開始時刻	時 : 分 : 秒

### 4.4 データベースのバックアップの取得

ファイルに障害が起こったときのために、各種ファイルのバックアップを定期的  
に取ることをお勧めします。なお、バックアップを取得するときは、Groupmax シ  
ステムの運用を停止してください。データベースの更新中に取得したバックアップ  
では、データベースを回復できない場合があります。

バックアップには、OS の機能を使用して取得する方法と、xodbackup コマンドを  
使って取得する方法があります。

この節では、バックアップの対象となるファイル及びバックアップの取得方法を  
説明します。

#### 4.4.1 バックアップの対象となるファイル

バックアップの対象となるファイルを次に示します。

1. オブジェクトサーバ管理ファイル
2. 連携プログラム用データ格納ファイル
3. それぞれの連携プログラムで管理しているファイル

これらのうち、1と2は、初期設定パラメタファイルの中で定義した、オブジェ  
クトサーバのデータベースファイルです。オブジェクトサーバ管理ファイル及び連  
携プログラム用データ格納ファイルについては、「7.1.2 データベースファイル」を  
参照してください。

また、2、3のファイルの詳細については、それぞれの連携プログラムのマニ  
ユアルのバックアップについて参照してください。

バックアップを取得するときに取得もれがないようにしてください。特に、デー  
タベースを構成変更してエリアを追加又はファイルを追加している場合は、注意が  
必要です。

なお、\$XODDIR/spool 及び \$XODDIR/tmp の下のファイルは、バックアップを取  
得しないでください。

オブジェクトサーバのファイルのバックアップは、すべてのデータベースファイ  
ルを一括して取得するか、又はそれぞれの Groupmax のアプリケーションプログラ  
ムに関係するファイルを、アプリケーションプログラムごとに取得します。それぞ  
れの場合の注意事項を説明します。

##### (1) データベースファイルを一括して取得する

情報間の同期がずれないように、すべてのファイルのバックアップを同時に取得  
する方法です。連携プログラムが多い場合、バックアップ量が多くなりますが、  
バックアップ及び回復の運用が単純で、確実です。連携するプログラムの環境設定  
をした場合及びオブジェクトサーバのエリアを追加するなどの構成変更をした場合  
は、一括してバックアップを取得してください。

xodbreccv コマンドによってデータベースを回復する場合は、一括してデータバ  
ースのバックアップを取得してください。

##### (2) アプリケーションプログラムごとに取得する

アプリケーションプログラムごとにバックアップを取得するときは、次のファイ  
ルが対象になります。

- すべてのオブジェクトサーバ管理ファイル
- 対象となるアプリケーションプログラムの使用する連携プログラム用データ格納ファイル
- 対象となるアプリケーションプログラムが管理するファイル

ファイルのバックアップを取得するときは、同時にバックアップを取るなど、これらの情報間の同期がずれないように気を付けてください。特に、Groupmax Document Manager と連携している場合に、次の操作を行ったときは、オブジェクトサーバ管理ファイルと連携プログラム用データ格納ファイルの同期がずれないように気を付けてください。

- 一般文書データベース及びフォーム文書データベースを新規に定義したとき
- 一般文書データベース及びフォーム文書データベースに属性を追加したとき

**注意** High-end Object Server の `xodbrecv` コマンドでデータベースを回復する場合は、アプリケーションプログラムごとに取得したバックアップでは回復できません。

#### 4.4.2 OS の機能による取得方法

`tar` コマンドによるバックアップ取得例を次に示します。

初期設定パラメタに指定したファイルのうち、Groupmax Document Manager のファイルのバックアップを取得します。

```
tar cvf バックアップ先デバイス名 ¥
    /usr/OMSDB/master_dir ¥
    /usr/OMSDB/data_dir ¥
    /usr/OMSDB/dictionary ¥
    /usr/OMSDB/oidindex ¥
    /usr/OMSDB/user_db_1 ¥
    /usr/OMSDB/user_db_2 ¥
    /usr/OMSDB/user_db_3 ¥
    /usr/OMSDB/index_1 ¥
    /usr/OMSDB/index_2
```

#### 4.4.3 xodbckup コマンドによる取得手順

データベースバックアップユーティリティの `xodbckup` コマンドを使ってデータベースのバックアップを取得できます。このとき取得できるのはオブジェクトサーバのデータベースファイル（オブジェクトサーバ管理ファイル及び連携プログラム用データ格納ファイル）です。それぞれの連携プログラムで管理しているファイルは、別途バックアップを取得してください。

次に、`xodbckup` コマンドを使ってデータベースのバックアップの取得手順を説明します。

##### (1) バックアップパラメタファイルの作成

バックアップパラメタファイルにはデータベースの退避先ファイル名などを記述します。このファイルは、アプリケーションプログラムごとにバックアップを取得する場合に必要です。バックアップパラメタファイルについては、「7.9 バックアップパラメタファイル」を参照してください。

## 4. データベースの運用

### (2) xodbckup コマンドの実行

xodbckup コマンドを実行して、データベースのバックアップを取得します。

xodbckup コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「xodresult」に出力されます。

xodbckup コマンドが正常に終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されます。

エラーが発生した場合には、正常終了のメッセージが出力されません。このときには、標準エラー出力、又は「xodresult」ファイルに出力されたエラーメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、xodbckup コマンドを再実行してください。

### (3) xodbckup コマンドの処理結果

xodbckup コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「xodresult」に出力されます。「xodresult」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「xodresult」というファイルが新規に作成されます。コマンドが正常終了した後で、「xodresult」は保存してください。

また、ここで取得したバックアップを使用してデータベースを回復する場合には、現時点のシステムの状態を把握するために次の情報が必要です。保存しておくようにしてください。

- バックアップしたデータベースの容量の記録
- 現在のメモリ使用量及びディスク使用量の記録
- オブジェクトサーバのホームディレクトリ下の xodresult (コマンド等結果ファイル)
- \$XODDIR/conf/xodrc (システム共通定義ファイル)
- オブジェクトサーバの定義ファイル及びコマンドで使用しているパラメタファイル

図 4-11 に処理結果の出力フォーマットを示します。また図 4-11 に示した出力フォーマットの項目を表 4-7 に示します。図 4-11 と表 4-7 の図中文字は対応しています。

図 4-11 xodbackup コマンドの処理結果の出力フォーマット

```

**aaaaaaaaaa xodbackup(vv-rr)**  DBバックアップ          yy-mm-dd hh:mm:ss

** DBバックアップファイル情報 **
ファイル名 = bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb
開始時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss
終了時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss

** DBエリア情報 **
エリア名 = ccccccccccccccccccccccccccccccc 用途 = eeeeeeeeeeeeeeeeeee
エリア番号 = nnnnnnnnnn ページ長 = ffffffff
開始時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss
終了時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss

< DBエリア状況 >
利用可能ページ数 = gggggg
未使用ページ数(率) = iiiiii( jj. j%)
使用済ページ数(率) = iiiiii( jj. j%) 領域容量 = kkkk. kK
空き容量(率) = llll. lK ( jj. j%)

< DBエリア構成 >
NO. 1 ファイル名 = oooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo
NO. 2 ファイル名 = oooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo
:
:

** DBエリア情報 **
エリア名 = ccccccccccccccccccccccccccccccc
:
:

終了メッセージ

```

注※ マスタディレクトリ及びデータディレクトリ用のエリアの場合は出力されません。

表 4-7 xodbackup コマンドの処理結果の出力項目

図中文字	項目	表示形式
aaa...aaa	システム I D	10 バイト (AIX 及び HP-UX の場合は 11 バイト)
vv-rr	バージョン番号・リビジョン番号	5 バイト
yy-mm-dd	年月日	西暦の下 2 けた - 月 - 日
hh:mm:ss	時刻	時 : 分 : 秒
bbb...bbb	バックアップファイル名	最大 175 バイト
ccc...ccc	エリア名	最大 30 バイト
eee...eee	エリアの用途	最大 20 バイト
nnn...nnn	エリア番号	10 進数 (右詰め)
fffff	エリアのページ長	単位はバイト。10 進数 (右詰め)
gggggg	管理用を除いた利用可能なページ数	10 進数 (右詰め)
iiiiii	ggggg の内での各ページ数	10 進数 (右詰め)
jj.j	比率	%

#### 4. データベースの運用

図中文字	項目	表示形式
kkkk.k	使用済ページ領域の容量	kkkk.kM (メガバイト, 右詰め) kkkk.kK (キロバイト, 右詰め) kkkk (バイト, 右詰め) 小数点以下は, 第 2 位を切り上げて表示されます。
llll.l	使用済ページ内の空き領域の容量	llll.lM (メガバイト, 右詰め) llll.l (キロバイト, 右詰め) llll (バイト, 右詰め) 小数点以下は, 第 2 位を切り上げて表示されます。
ooo...ooo	エリアの構成ファイル名	最大 175 バイト



## 4.5 データベースの回復

この節では、データベースの回復方法を説明します。

### 4.5.1 回復の対象となるファイル

オブジェクトサーバをバックアップから回復する場合に対象となるファイルを次に示します。

1. オブジェクトサーバ管理ファイル
2. 連携プログラム用データ格納ファイル
3. それぞれの連携プログラムで管理しているファイル

### 4.5.2 バックアップからのデータベースファイルの回復方法

データベースをバックアップから回復するときには、連携プログラム及びオブジェクトサーバを停止させてから実行してください。

オブジェクトサーバのバックアップから回復させる方法は、バックアップを OS の機能を使用して取得しているか、又は `xodbackup` コマンドを使用して取得しているかによって異なります。

それぞれの場合について説明します。

#### (1) OS の機能による回復方法

`tar` コマンドなどの OS の機能を使用してファイルのバックアップを取得した場合は、OS の機能を使用してファイルを回復してください。

#### (2) `xodbrstr` コマンドによる回復方法

`xodbackup` コマンドを使用してバックアップを取得した場合は、`xodbrstr` コマンドを使用してデータベースファイルを回復する必要があります。

`xodbrstr` コマンドによる回復手順を示します。

1. データベースファイルがあるディスクに障害が発生した場合は、障害が発生したファイルを削除する
2. バックアップを取得したエリアのうち、特定のエリアだけを回復する場合は、バックアップパラメタファイルを作成する  
バックアップパラメタファイルについては、「7.9 バックアップパラメタファイル」を参照してください。
3. `xodbrstr` コマンドを実行する  
`xodbrstr` コマンドについては、「8.4 データベースの保守コマンド」を参照してください。
4. コマンドの実行結果を `xodresult` で確認する  
コマンドが正常終了していない場合は、1. から実行し直してください。

### 4.5.3 データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する

ここではデータベースをバックアップ時点の状態に回復する方法について説明します。この方法では、取得したバックアップだけを使用して回復します。バック

## 4. データベースの運用

アップからデータベースを回復するときには、連携プログラムで管理しているファイルも同時に回復する必要があります。

回復は、連携プログラム及びオブジェクトサーバを停止させてから実行してください。

正常に回復ができたなら、オブジェクトサーバを強制正常開始モードで起動してください。

データベースファイルの回復には、データベースファイルを一括して回復する方法と、アプリケーションプログラムごとに回復する方法があります。それぞれの方法について説明します。

### (1) データベースファイルを一括して回復する

バックアップからファイルを回復するときは、最新のバックアップファイルを使って、すべてのファイルを回復してください。

### (2) アプリケーションプログラムごとに回復する

アプリケーションプログラムごとに回復する方法について説明します。

#### 1. バックアップからデータベースを回復する

連携プログラム用データ格納ファイルをバックアップから回復してください。

ただし、次のことに注意してください。

- 次の操作を実行した場合、オブジェクトサーバ管理ファイルが更新されます。この操作を実行した連携プログラムを回復する場合は、オブジェクトサーバ管理ファイルと連携プログラム用データ格納ファイルの同期の取れたバックアップから回復する必要があります。  
連携しているプログラムの環境設定をした場合  
Groupmax Document Manager で、一般文書データベース及びフォーム文書データベースを新規に定義したとき  
Groupmax Document Manager で、一般文書データベース及びフォーム文書データベースに属性を追加したとき
- オブジェクトサーバ管理ファイルを回復する場合は、オブジェクトサーバ管理ファイルと同期の取れた Groupmax Document Manager のプログラム用データ格納ファイルを、バックアップから回復してください。

#### 2. xodbreog コマンドを実行して、OID インデクスを再作成する

バックアップから回復した状態では、各ファイルの整合性が取れていません。

再編成パラメタファイルの recreate パラメタに「-a OID インデクスエリア名」を指定して xodbreog コマンドを実行してください。

xodbreog コマンドについては「8.4. データベースの保守コマンド」を、再編成パラメタファイルについては「7.7 再編成パラメタファイル」を参照してください。

なお、再編成パラメタファイルの reorg パラメタ又は area パラメタを指定したデータベースの再編成は、各ファイルの整合性が取れていない状態では実行できません。必ず OID インデクスを再作成してから実行してください。

#### 4.5.4 データベースを障害発生時点から見て最新の同期点の状態に回復する (High-end Object Server)

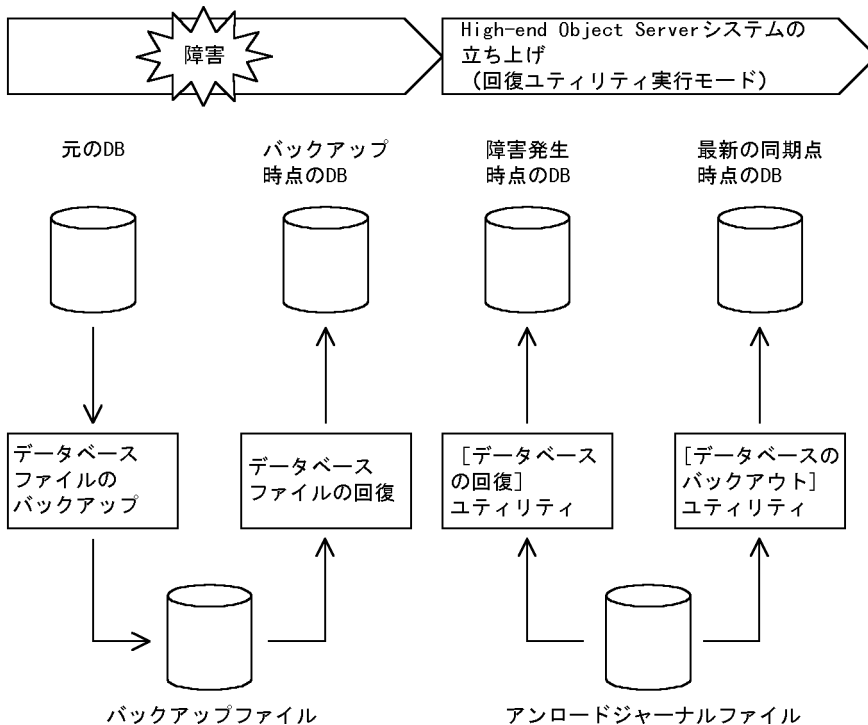
High-end Object Server では、データベースを障害発生時点から見て最新の同期点の状態に回復できます。これには、データベースを一括して取得したバックアップとシステムジャーナルをアンロードしたファイルを使用します。

データベースをバックアップから回復した後で、システムジャーナルをアンロードしたファイルを使用して、データベースを障害発生時点から見て最新の同期点の状態に回復します。データベースをバックアップから回復する方法については、「4.5.2 バックアップからのデータベースファイルの回復方法」を参照してください。

障害発生前の最新の同期点の状態にデータベースを回復するために使用するユーティリティの位置付けを図 4-12、各コマンドの運用の流れを図 4-13 に示します。なお、回復に使用するコマンドを実行する前に、次のことを確認してください。

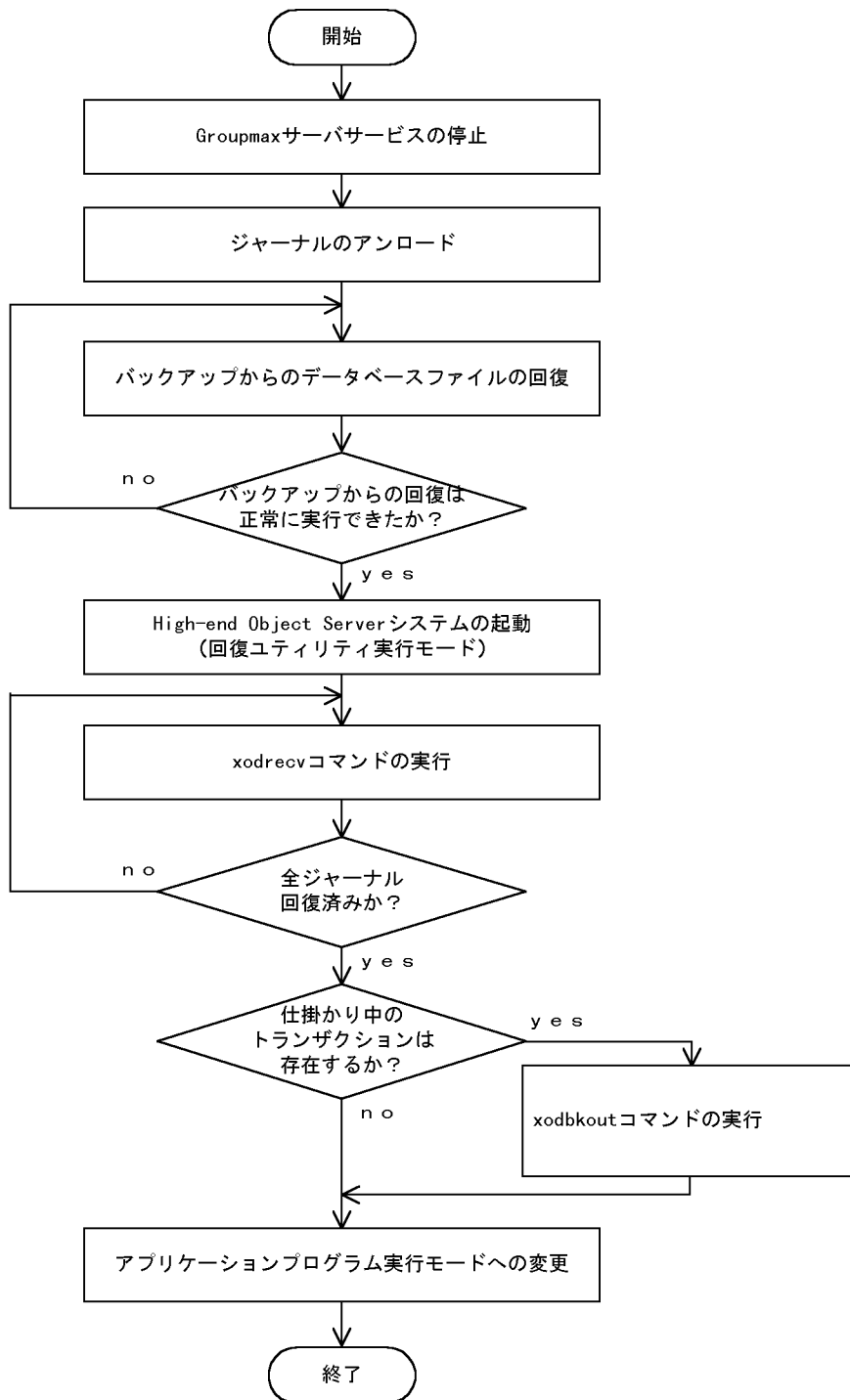
- 連携プログラムがすべて停止しているか
- バックアップ取得時のシステムの状態と比べて、回復先の環境に十分なディスク容量があるか

図 4-12 データベースの回復に使用するコマンドの位置付け



## 4. データベースの運用

図 4-13 データベースの回復に使用するコマンドの運用の流れ



xodprmod コマンドについては、「8.2 システム管理コマンド」を参照してください。

## 4.5.5 コマンドの実行

データベースの回復に使用するコマンドの実行方法を説明します。

### (1) xodbrstr コマンド

xodbekup コマンドによって取得したデータベースのバックアップファイルを入力して、バックアップ時点の状態にデータベースを回復します。

xodbrstr コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「xodresult」に出力されます。「xodresult」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「xodresult」というファイルが新規に作成されます。

図 4-14 に処理結果の出力フォーマットを示します。また、図 4-14 に示した出力フォーマットの項目を表 4-8 に示します。図 4-14 と表 4-8 の図中の文字は対応しています。

図 4-14 xodbrstr コマンドの処理結果の出力フォーマット

```

**aaaaaaaaaa xodbrstr (vv-rr)**  DBリストア          yy-mm-dd hh:mm:ss

*** DBリストア情報リスト ***

----- ※1 -----
エリア名 = bbbbbbbb                      用途 = cccccccc
ページ長 = eeeeeeee
開始時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss
終了時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss
バックアップ開始時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss
バックアップ終了時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss
----- ※2 -----
NO.   n   ファイル名 = ffffffffffffffffffffffffffffffffff
      ページ数   = gggggggg
      :
      :
      :
      :
終了メッセージ

```

注※1 点線内は一つのエリアの情報です。この情報が、回復したエリアの数だけ繰り返し表示されます。

注※2 破線内はファイルの情報です。この情報が、回復したエリアのファイルの数だけ繰り返し表示されます。

表 4-8 xodbrstr コマンドの処理結果の出力項目

図中文字	項目	表示形式
aaa...aaaa	システム ID	10 バイト (AIX 及び HP-UX の場合は 11 バイト)
vv-rr	バージョン番号・リビジョン番号	5 バイト
yy-mm-dd	年月日	西暦の下 2 けた - 月 - 日
hh:mm:ss	時刻	時 : 分 : 秒
bbb...bbb	回復したエリア名	最大 30 バイト

#### 4. データベースの運用

図中文字	項目	表示形式
ccc...ccc	回復したエリアの用途	最大 20 バイト
n	通番	10 進数 (右詰め)
eee...eee	回復したエリアのページ長	単位はバイト。10 進数 (右詰め)
fff...fff	回復したファイル名	最大 175 バイト
ggg...ggg	回復したエリアのページ数	10 進数 (右詰め)

#### (2) xodbrecv コマンド

xodbrstr コマンドでバックアップ取得時点に回復したデータベースを、障害発生直前の同期点に回復します。このとき、バックアップ取得時点以降のすべてのアンロードジャーナルファイルが必要です。これらのアンロードジャーナルファイルが xodbrecv コマンドの入力情報となります。なお、一度のコマンド実行ですべてのファイルを指定できない場合は、アンロードジャーナルファイルを時系列に複数回に分けて実行してもかまいません。

xodbrecv コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「xodresult」に出力されます。「xodresult」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「xodresult」というファイルが新規に作成されます。

図 4-15 に処理結果の出力フォーマットを示します。また、図 4-15 に示した出力フォーマットの項目を表 4-9 に示します。図 4-15 と表 4-9 の図中文字は対応しています。

図 4-15 xodbrecv コマンドの処理結果の出力フォーマット

```

**aaaaaaaaaaaa xodbrecv (vv-rr)**  DB回復                  yy-mm-dd hh:mm:ss

*** DB回復情報リスト ***

-----
エリア名 = bbbbbbbb                用途 = cccccccc
ページ長 = eeeeeeee
ジャーナル開始時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss
ジャーナル終了時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss
NO.  n   ファイル名 = ffffffffffffffffffffffffffffffff
    FJ総数 = gggggggg
-----
:
:
:
:
終了メッセージ

```

注※1 点線内は一つのエリアの情報です。この情報が、回復したエリアの数だけ繰り返し表示されます。

注※2 破線内はファイルの情報です。この情報が、回復したエリアのファイルの数だけ繰り返し表示されます。

表 4-9 xodbrecv コマンドの処理結果の出力項目

図中文字	項目	表示形式
aaa...aaa	システム ID	10 バイト (AIX 及び HP-UX の場合は 11 バイト)
vv-rr	バージョン番号・リビジョン番号	5 バイト
yy-mm-dd	年月日	西暦の下 2 けた - 月 - 日
hh:mm:ss	時刻	時 : 分 : 秒
bbb...bbb	回復したエリア名	最大 30 バイト
ccc...ccc	回復したエリアの用途	最大 20 バイト
n	通番	10 進数 (右詰め)
eee...eee	回復したエリアのページ長	単位はバイト。10 進数 (右詰め)
fff...fff	回復したファイル名	最大 175 バイト
ggg...ggg	回復したファイルに使用した更新ジャーナル (FJ) 件数	10 進数 (右詰め)

### (3) xodbkout コマンド

xodbrecv コマンドで作成されたバックアウト情報ファイルとアンロードジャーナルファイルを使用して、データベースの障害発生時からみて最新の同期点で仕掛かり中のトランザクションをロールバックします。xodbkout コマンドはアンロードジャーナルファイルに仕掛かり中のトランザクションが含まれる場合だけ必要です。

コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「xodresult」に出力されます。「xodresult」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「xodresult」というファイルが新規に作成されます。このファイルの内容を参照してコマンドが正常終了したことを確認してください。コマンドが正常終了していない場合は、回復中のデータベースは壊れています。この場合は、エラー原因を取り除いて、xodbrstr コマンドから実行し直してください。

図 4-16 に処理結果の出力フォーマットを示します。また、図 4-16 に示した出力フォーマットの項目を表 4-10 に示します。図 4-16 と表 4-10 の図中文字は対応しています。

#### 4. データベースの運用

図 4-16 xodbkout コマンドの処理結果の出力フォーマット

```

**aaaaaaaaaaaa xodbkout(vv-rr)**  DBバックアウト      yy-mm-dd hh:mm:ss

*** DBバックアウト情報リスト ***
最古のブロック番号 : bbbbbbbb 出力時刻 : hh:mm:ss / yy-mm-dd
最新のブロック番号 : cccccccc 出力時刻 : hh:mm:ss / yy-mm-dd

UAP情報
ユーザ名称  最古ジャーナルの出力時刻 : hh:mm:ss / yy-mm-dd
          ffffffff  最新ジャーナルの出力時刻 : hh:mm:ss / yy-mm-dd
                  レコード数                : eeeeeeee
                  :
                  :
終了メッセージ
    
```

表 4-10 xodbkout コマンドの処理結果の出力項目

図中文字	項目	表示形式
aaa...aaa	システム ID	10 バイト (AIX 及び HP-UX の場合は 11 バイト)
vv-rr	バージョン番号・リビジョン番号	5 バイト
yy-mm-dd	開始年月日	西暦の下 2 けた - 月 - 日
hh:mm:ss	開始時刻	時 : 分 : 秒
bbb...bbb	使用した最古ジャーナルのブロック番号	10 進数 (右詰め)
ccc...ccc	使用した最新ジャーナルのブロック番号	10 進数 (右詰め)
eee...eee	使用したジャーナルの FJ レコード数	10 進数 (右詰め)
fff...fff	ユーザ名称。ただし、オブジェクトサーバと連携するプログラムによって、ユーザ名称が設定されていない場合、「*****」が表示されます。	8 バイト



## 4.6 データベースの再構成

この節では、データベースの再構成の方法を説明します。

### 4.6.1 データベースのエリアの再作成

データベースのエリアの再作成は、ユーザの使用環境の変化によってパス、セグメントサイズ、初期割り当て量などが変更となったエリアを作成し直します。再作成の対象となるエリアは、ディクショナリ用エリア、ユーザ用エリア、OID インデクス用エリア及びインデクス用エリアです。

なお、データベースに障害が発生している場合、データベースのエリアの再作成はできません。

#### (1) データベースのエリアの再作成に使用するコマンド

データベースのエリアを再作成するには、`xodbrcons` コマンドを使います。

`xodbrcons` コマンドについては、「8.3 データベース管理コマンド」を参照してください。

**注意** エリアの再作成での障害、及びその後の障害に備えるため、`xodbrcons` コマンドを実行する前と後にデータベースファイルのバックアップをすべて取得しておいてください。バックアップの取得方法については、「4.4 データベースのバックアップの取得」を参照してください。

#### (2) 手順

データベースのエリアを再作成するときの手順を説明します。

##### (a) 再構成パラメタファイルの作成

再構成パラメタファイルは、テキスト形式のファイルとして作成します。パラメタには、エリア名、用途などを記述します。再構成パラメタファイルについては「7.8 再構成パラメタファイル」を参照してください。

##### (b) `xodbrcons` コマンドの実行

`xodbrcons` コマンドを実行して、オブジェクトサーバのデータベースのエリアを再作成します。再作成の対象となるエリアは、ディクショナリ用、ユーザ用、OID インデクス用及びインデクス用のエリアです。

ディクショナリ用、又はユーザ用エリアを再作成する場合、該当するエリアをアンロードし、エリアを再初期化した後にリロードします。リロードするときには、該当するエリアだけでなく、OID インデクスエリア、エリア内のオブジェクトに付けられたインデクス、及び関連付けられたオブジェクトを格納するエリアも更新します。

OID インデクス用、又はインデクス用のエリアを再作成する場合、該当するエリアを再初期化した後にインデクスを再作成します。インデクスの再作成では、タイプ中のオブジェクトデータを物理順に検索してインデクスの情報を生成し、その情報を基にインデクスを作り直します。

また、`xodbrcons` コマンドでは、マスタディレクトリ及びディクショナリエリアも更新します。

## 4. データベースの運用

コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「xodresult」に出力されます。コマンドが正常に終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されます。

エラーが発生した場合には、正常終了のメッセージが出力されません。このときには、標準出力に出力されたエラーメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

### (3) xodbrcons コマンドの処理結果

コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「xodresult」に出力されます。「xodresult」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「xodresult」というファイルが新規に作成されます。

図 4-17 にディクショナリ用エリアを再作成する場合、図 4-18 にユーザ用エリアを再作成する場合、及び図 4-19 にインデクス用エリアを再作成する場合の処理結果の出力フォーマットを示します。また図 4-17、図 4-18、及び図 4-19 に示した出力フォーマットの項目を表 4-11 に示します。図 4-17、図 4-18、及び図 4-19 と表 4-11 の図中文字は対応しています。

図 4-17 xodbrncs コマンドの処理結果の出力フォーマット (ディクショナリ用エリアを再作成する場合)

```

**aaaaaaaaaaaa xodbrncs(vv-rr)**          DB再構成          yy-mm-dd hh:mm:ss

** ディクショナリ引き上げ情報リスト **
アンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb . . . .
NO. nnnnn
  タイプ名 : ccccccccccccccccccc . . . .
  総オブジェクト数 : dddddddddddd
  最大オブジェクト長 : eeeeeeeeeeee
  :

** アンロードファイル情報リスト **          ※1
┌ アンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb . . . .
│   容量 : www.wk※2
│   総容量 : www.wk※2
└───────────────────────────────────────────────────────────────────────────┘

** 再作成エリア情報リスト **

エリア名 = ffffffffffffffffffffffffffffffffff 用途 = gggggggggggggggggg
エリア番号 = hhhhhhhhhh
再作成前
  合計ページ数 = iiiiiiiiii          セグメントサイズ = jjjjjjjjjj
  利用可能ページ数 = kkkkkkkkkk      ページ長 = llllllllll
NO. mファイル名 = oooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo
  現在割当量 = pppppppppp          最大割当量 = ssssssssss
  ページ数 = rrrrrrrrrr
  :

再作成後
  合計ページ数 = iiiiiiiiii          セグメントサイズ = jjjjjjjjjj
  利用可能ページ数 = kkkkkkkkkk      ページ長 = llllllllll
NO. mファイル名 = oooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo
  初期割当量 = qqqqqqqqqq          最大割当量 = ssssssssss
  ページ数 = rrrrrrrrrr
  :

** ディクショナリ再登録情報リスト **
アンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb . . . .
NO. nnnnn
  タイプ名 : ccccccccccccccccccc . . . .
  総オブジェクト数 : dddddddddddd  OID数 : xxxxxxxxxxxxxx  PID登録数 : zzzzzzzzzzzz※3
  :
  :

終了メッセージ

```

注※1 ディクショナリエリアのアンロードファイルについて表示されます。

注※2 容量, 総容量はwww (バイト, 右詰め), www.wk (キロバイト, 右詰め), www.wM (メガバイト, 右詰め), www.wG (ギガバイト, 右詰め) のいずれかで表示されます。総容量は, すべてのアンロードファイル容量の合計です。また, 各容量は, 小数点第2位以下を切り上げて表示されます。

注※3 PID登録数とは, 当該タイプで, 新旧物理オブジェクト識別子対応表に登録されたエントリ数のことです。

#### 4. データベースの運用

図 4-18 xodbrncs コマンドの処理結果の出力フォーマット (ユーザ用エリアを再作成する場合)

```

**aaaaaaaaaaaa xodbrncs(vv-rr)**          DB再構成          yy-mm-dd hh:mm:ss

** ユーザエリア引き上げ情報リスト **
アンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb ..... 1
NO. nnnnn
  タイプ名 : ccccccccccccccccccc .....
  総オブジェクト数 : dddddddddddd
  最大オブジェクト長 : eeeeeeeeeeee
  :
NO. nnnnn
  ユニバーサル関連名 : ttttttttttttttttt .....
  総オブジェクト数 : dddddddddddd
  最大オブジェクト長 : eeeeeeeeeeee
  :

** アンロードファイル情報リスト **
アンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb .....
容量 : wwwwww.wk**3
:
:
総容量 : wwwwww.wk**3

** 再作成エリア情報リスト **
エリア名 = ffffffffffffffffffffffffffffffff 用途 = gggggggggggggggggg
エリア番号 = hhhhhhhhhh
再作成前
  合計ページ数 = iiiiiiiiii          セグメントサイズ = jjjjjjjjjj
  利用可能ページ数 = kkkkkkkkkk      ページ長 = llllllllll
NO. mファイル名 = oooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo
  現在割当量 = pppppppppp          最大割当量 = ssssssssss
  ページ数 = rrrrrrrrrr
  :
再作成後
  合計ページ数 = iiiiiiiiii          セグメントサイズ = jjjjjjjjjj
  利用可能ページ数 = kkkkkkkkkk      ページ長 = llllllllll
NO. mファイル名 = oooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo
  初期割当量 = qqqqqqqqqq          最大割当量 = ssssssssss
  ページ数 = rrrrrrrrrr
  :

** ユーザエリア再登録情報リスト **
アンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb .....
NO. nnnnn
  タイプ名 : ccccccccccccccccccc .....
  総オブジェクト数 : dddddddddddd OID数 : xxxxxxxxxxxxxx PID登録数 : zzzzzzzzzzzz**4
  :

** インデクスメンテナンスリスト **
NO. nnnnn
  インデクス名 : uuuuuuuuuuuuuuu .....
  :
NO. nnnnn
  ユニバーサル関連名 : ttttttttttttttttt .....
  総オブジェクト数 : dddddddddddd OID数 : xxxxxxxxxxxxxx PID登録数 : zzzzzzzzzzzz**4
  :
終了メッセージ

```

注※1 パラメタに指定されたアンロードファイルの名称はすべて表示されます。  
注※2 作成されたユーザエリアのアンロードファイルについて、パラメタの指定順にファイル名、容量が表示されます。1レコードも出力されなかったアンロードファイルは表示されません。  
注※3 容量、総容量はwww (バイト, 右詰め), wwwwww.wk (キロバイト, 右詰め), wwwwww.wm (メガバイト, 右詰め), wwwwww.wG (ギガバイト, 右詰め) のいずれかで表示されます。総容量は、すべてのアンロードファイル容量の合計です。また、各容量は、小数点第2位以下を切り上げて表示されます。  
注※4 PID登録数とは、当該タイプで、新旧物理オブジェクト識別子対応表に登録されたエントリ数のことです。

図 4-19 xodbrcons コマンドの処理結果の出力フォーマット (インデクス用エリアを再作成する場合)

```

**aaaaaaaaaa xodbrcons (vv-rr)**           DB再構成           yy-mm-dd hh:mm:ss

** 再作成エリア情報リスト **

エリア名 = ffffffffffffffffffffffffffffffff 用途 = gggggggggggggggggg
エリア番号 = hhhhhhhhhh
再作成前
合計ページ数 = iiiiiiiiii           セグメントサイズ = jjjjjjjjjj
利用可能ページ数 = kkkkkkkkkk       ページ長 = llllllllll
NO. mファイル名 = oooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo
      現在割当量 = pppppppppp       最大割当量 = ssssssssss
      ページ数 = rrrrrrrrrr
      :

再作成後
合計ページ数 = iiiiiiiiii           セグメントサイズ = jjjjjjjjjj
利用可能ページ数 = kkkkkkkkkk       ページ長 = llllllllll
NO. mファイル名 = oooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo
      初期割当量 = qqqqqqqqqq       最大割当量 = ssssssssss
      ページ数 = rrrrrrrrrr
      :

** インデクス再作成情報リスト **
NO. nnnnn
   タイプ名 : ccccccccccccccccccccccc . . . .
NO. nnnnn
   インデクス名 : uuuuuuuuuuuuuuuuuuu . . . .
      :
      :

終了メッセージ

```

表 4-11 xodbrcons コマンドの処理結果の出力項目

図中文字	項目	表示形式
aaa...aaa	システム I D	10 バイト (AIX 及び HP-UX の場合は 11 バイト)
vv-rr	バージョン番号・リビジョン番号	5 バイト
yy-mm-dd	コマンド実行開始年月日	西暦の下 2 けた - 月 - 日
hh:mm:ss	コマンド実行開始時刻	時 : 分 : 秒
bbb...bbb	アンロードファイル名	最大 175 バイト
nnnnn	通番	10 進数 (左詰め)
ccc...ccc	タイプ名	最大 95 バイト
ddd...ddd	タイプ内の総オブジェクト数	10 進数 (左詰め)
eee...eee	最大オブジェクト長	単位はバイト。10 進数 (左詰め)
fff...fff	エリア名	最大 30 バイト
ggg...ggg	エリアの用途	最大 20 バイト
hhh...hhh	エリア番号	10 進数 (右詰め)

#### 4. データベースの運用

図中文字	項目	表示形式
iii...iii	エリア中の合計ページ数	10 進数 (右詰め)
jjj...jjj	エリアのセグメントサイズ	10 進数 (右詰め)
kkk...kkk	データベース利用可能ページ数	10 進数 (右詰め)
lll...lll	エリアのページ長	単位はバイト。10 進数 (右詰め)
m	ファイルの通番	10 進数 (右詰め)
ooo...ooo	ファイル名	最大 175 バイト
ppp...ppp	ファイルの現在の割り当て量	10 進数 (右詰め)
qqq...qqq	ファイルの初期割り当て量	10 進数 (右詰め)
rrr...rrr	ファイルのページ数	10 進数 (右詰め)
sss...sss	ファイルの最大割り当て量	10 進数 (右詰め) 最大割り当て量の指定を省略した場合は、「*****」と表示されます
ttt...ttt	ユニバーサル関連名	最大 95 バイト
uuu...uuu	インデクス名	最大 95 バイト
www...w	アンロードファイルの容量又は総容量	10 進数 (右詰め)
xxx...xxx	タイプ内の OID 数	10 進数 (右詰め)
zzz...zzz	タイプ内の PID 登録数	10 進数 (右詰め)

## 4.7 データベースの再初期化

この節では、データベースの再初期化の方法を説明します。

### 4.7.1 エリアの再初期化

エリアの再初期化は、オペレーティングシステム障害、ファイルシステム障害、運用誤りなどが原因で、データベースエリア中のファイルが削除されたり不正になったりしたデータベースエリアを初期化し直します。再初期化の対象となるエリアは、ユーザ用エリア、インデクス用エリアです。

障害のためにファイルが削除されると、オブジェクトサーバを起動できなくなります。また、ファイルが不正になると、オブジェクトサーバを起動できなくなる場合があります。障害になったファイルのバックアップがない場合には、エリアを再初期化して障害を回復します。

**注意** エリアの再初期化での障害、及びその後の障害に備えるため、`xodarint` コマンドを実行する前と後にデータベースファイルのバックアップをすべて取得しておいてください。バックアップの取得方法については、「4.4 データベースのバックアップの取得」を参照してください。

#### (1) データベースのエリアの再初期化に使用するコマンド

エリアを再初期化するには、`xodarint` コマンドを使います。`xodarint` コマンドについては、「8.4 データベースの保守コマンド」を参照してください。

#### (2) 手順

エリアを再初期化するときの手順を説明します。

##### (a) `xodarint` コマンドの実行

`xodarint` コマンドを実行して、オブジェクトサーバのデータベースエリアを再初期化します。再初期化の対象となるエリアは、ユーザ用、インデクス用のエリアです。

ユーザ用エリアで、再初期化するエリアにタイプが定義されている場合、該当するタイプのオブジェクト数は0件になります。再初期化した後に、`xodbreog` コマンドを使用してデータベース全体を再編成し、そして該当するエリアのデータの再登録や整合性の確保を連携プログラムで実行してください。

インデクス用エリアで、再初期化するエリアにインデクスが定義されている場合、該当するインデクスは未作成状態になります。再初期化した後に、`xodbreog` コマンドのインデクス再作成を使用するか、又はデータベース全体の再編成を実行して、再初期化したエリアのインデクスを再作成してください。

なお、このコマンドではファイルの最大割り当て量は指定できません。必要があれば、再初期化した後で、`xodflalt` コマンドを使用して最大割り当て量を設定してください。

コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「`xodresult`」に出力されます。

コマンドが正常に終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されます。





図中文字	項目	表示形式
lllllllll	エリアのセグメントサイズ	10 進数 (右詰め)
mmmmmmmm mm	エリア中のオブジェクトサーバ用の管理ページを除いた利用できるページ数	10 進数 (右詰め)
nnnnnnnnnn	エリアのページ長	10 進数 (右詰め)
o	ファイルの通番	10 進数 (右詰め)
pppp	ファイル名	最大 175 バイト
qqqqqqqqq	ファイルの割り当て量	10 進数 (右詰め)
rrrrrrrrrr	ファイルのページ数	10 進数 (右詰め)
sssssssss	ファイルの最大割り当て量	最大割り当て量指定なしの場合, 「*****」を表示します



---

## 5 . システムファイルの運用

---

この章では、オブジェクトサーバのデータベースの運用に使用するシステムファイルの説明と、ステータスファイル及びジャーナルファイルの運用について説明します。

---

- 5.1 オブジェクトサーバのシステムファイル
- 5.2 ステータスファイルの運用 ( High-end Object Server )
- 5.3 ジャーナルファイルの運用

### 5.1 オブジェクトサーバのシステムファイル

この節では、オブジェクトサーバのデータベースの運用に使用するシステムファイルについて説明します。

#### 5.1.1 システムファイル

システムファイルには、システムの回復に必要な履歴情報のように、信頼性が求められるデータを格納します。Object Server と High-end Object Server では、使用するシステムファイルが異なります。

##### (1) Object Server で使用するシステムファイル

Object Server で使用するシステムファイルには、次の2種類のファイルがあります。Object Server では、障害に備えた最低限の履歴を取得します。

- **簡易ジャーナルファイル**

最新のデータベース更新情報を1回の更新分だけ出力します。この簡易ジャーナルの情報は、データベースの更新が完了すると消去されますので、データベースに障害が起こった場合、1回の更新分だけしか回復できません。

- **ユーザジャーナルファイル**

Groupmax Workflow Server の履歴情報が出力されます。

##### (2) High-end Object Server で使用するシステムファイル

High-end Object Server で使用するシステムファイルには、次の3種類のファイルがあります。High-end Object Server では、高い信頼性を実現するために必要な履歴を取得します。

- **ステータスファイル**

システムの稼働状態や構成状態を格納して、障害が発生した場合の回復に使用します。

- **システムジャーナルファイル**

処理の履歴情報を格納して、障害が発生した場合の回復に使用します。

- **ユーザジャーナルファイル**

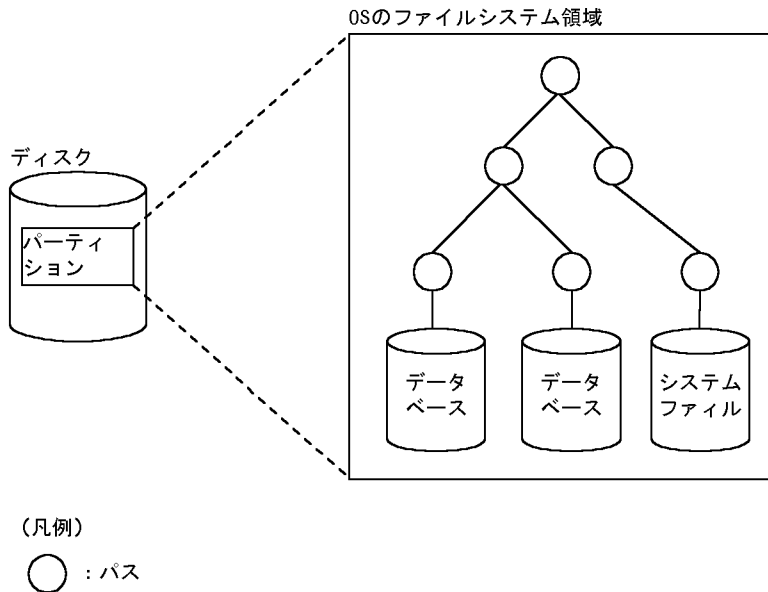
Groupmax Workflow Server の履歴情報が出力されます。

##### (3) OS のファイルシステム領域、及びデータベースファイルとの関係

オブジェクトサーバのデータベースファイルやシステムファイルは、複数のパーティションに分割して作成することもできます。

OS のファイルシステム領域とシステムファイル及びデータベースファイルとの関係を図 5-1 に示します。

図 5-1 OS のファイルシステム領域とシステムファイル及びデータベースファイルとの関係



#### (4) システムファイルの保護

システムファイルには、システムジャーナルファイルやステータスファイルのように重要なファイルを格納します。したがって、オブジェクトサーバのシステム管理者だけがシステムファイルを操作できるようにアクセス権を設定してください。これによって、ほかのユーザからのファイルの更新操作に対してシステムファイルを保護できます。

## 5.2 ステータスファイルの運用 (High-end Object Server)

この節では、システムの稼働状態や構成状態を格納する、ステータスファイルの運用方法について説明します。

### 5.2.1 ステータスファイル

#### (1) ステータスファイルの目的

ステータスファイルはシステムの稼働状態や構成状態を格納して、システムに障害が発生した場合の回復に使用します。ステータスファイルには、前回の終了形態を判断して自動的に再開始するためのデータが格納されます。

High-end Object Server を開始するために引き継ぐ情報を、システムステータス情報といいます。システムステータス情報は、サーバの開始時や終了時及びファイルのオープンやクローズなど、状態が変化した時点で格納されます。システムステータス情報は書きこまれるため、最新の情報だけが格納されます。

ステータスファイルに格納されるシステムステータス情報は、次のとおりです。

システムの開始形態を自動的に決定するための情報

- サーバの構成情報
- 前回の終了形態

システムの状態情報

- システムファイル状態
- その他の構成情報

#### (2) ステータスファイルの構成

ステータスファイルは OS のファイルシステム上に作成します。作成したステータスファイルをステータスサービス定義ファイルに定義します。

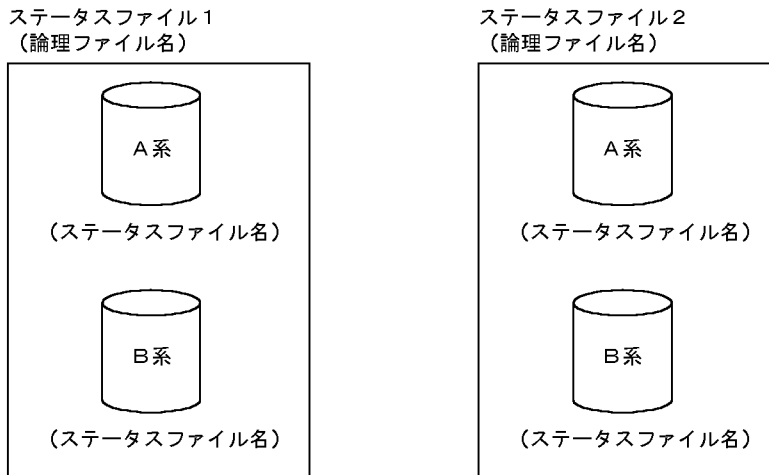
ステータスファイルは、障害が起こったときに High-end Object Server を開始するための重要なファイルです。ステータスファイルに障害が起こった場合でも High-end Object Server を開始できるように、二つのステータスファイルを組みにして二重化します。二つのステータスファイルを合わせた組みを論理ファイルといいます。また、個々のステータスファイルをそれぞれ A 系、B 系と区別します。

ステータスファイルは、論理ファイル単位で運用します。例えば、論理ファイル名を使用して、A 系及び B 系のステータスファイルを同時にオープンしたりクローズしたりできます。

ステータスファイルは、ステータスサービス定義で定義します。定義する主な内容は次のとおりです。

- 論理ファイル名の指定
  - 論理ファイルとステータスファイルの対応付け
- ステータスファイルの構成を、図 5-2 に示します。

図 5-2 ステータスファイルの構成



### (3) ステータスファイルの状態

ステータスファイルは、次の状態に分けられます。

現用：

現時点でシステムステータス情報の出力対象になっている状態です。このときステータスファイルはオープンしています。

現用の状態のステータスファイルを現用ファイルといいます。

予備：

現用のステータスファイルが入出力障害などで使用できなくなったとき、現用のステータスファイルと切り替えるための状態です。この状態のステータスファイルはオープンしています。

予備の状態のステータスファイルを予備ファイルといいます。

予約：

ステータスサービス定義に定義されていますが、クローズされている状態です。オープンしないと使用できません。

閉塞：

障害が発生して、クローズされている状態です。

High-end Object Server の開始（正常開始）時には、ステータスサービス定義で定義したすべてのステータスファイルがオープンされます。

ステータスサービス定義で最初に指定したステータスファイルが現用になります。残りのステータスファイルのうち、オープンできたものは予備になります。オープンできなかったものは予約になります。ただし障害が発生してオープンできなかったものは、閉塞になります。再開始すると、前回の現用ファイルが引き継がれます。

ステータスファイルに障害が発生しないかぎり、システムステータス情報は同じファイルに格納されます。

システムステータス情報は、まず A 系のステータスファイルに書き込まれ、その後、B 系のファイルに書き込まれます。このため、A 系ファイルに書き込み中に High-end Object Server が異常終了しても、B 系ファイルは元の状態を保っています。

## 5. システムファイルの運用

す。したがって、全面回復時に B 系ファイルを使用して再開始できます。

### (4) ステータスファイルの作成と定義

#### (a) ステータスファイルの作成

ステータスファイルは、OS のファイルシステム上に作成します。High-end Object Server のシステム管理者は、High-end Object Server を開始する前に、xodstsinit コマンドでステータスファイルを作成します。その後、作成したステータスファイルの名称と論理ファイルの名称を、ステータスサービス定義で定義します。

#### (b) ステータスファイルの定義

High-end Object Server は、ステータスファイルを A 系と B 系の組みにして管理します。ステータスファイルは、ステータスサービス定義で A 系、B 系それぞれ 7 個まで指定できます。また、A 系と B 系のステータスファイル名を一組みにするため、論理ファイル名を指定します。

### (5) ステータスファイルの操作

#### (a) ステータスファイルのスワップ

現用ファイル (A 系又は B 系) に入出力障害が起こったとき、High-end Object Server は予備のステータスファイルにステータス情報の出力先を切り替えます。これをスワップといいます。なお、xodstsswp コマンドでもステータスファイルのスワップできます。

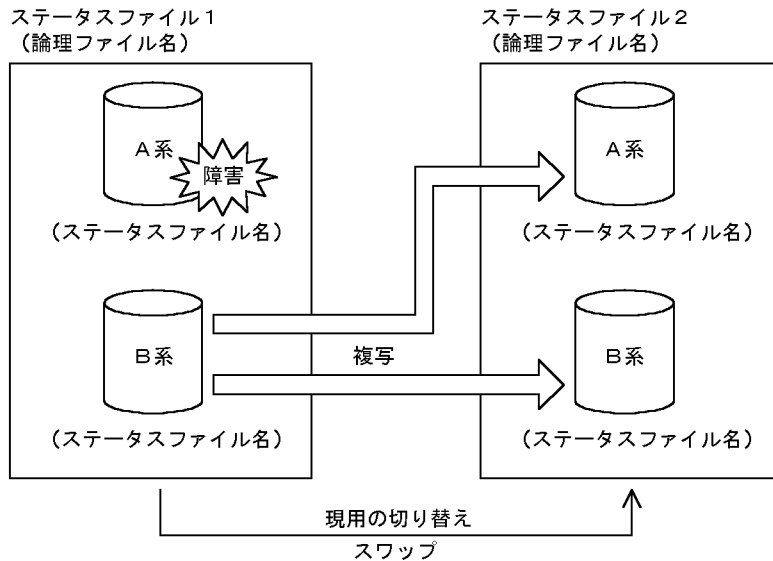
ステータスファイルは論理ファイルの単位でスワップします。

A 系又は B 系のファイルに障害が発生した場合、まず正常な系のファイルから予備の A 系ファイルにシステムステータス情報を複写します。次に予備の B 系ファイルに複写します。複写が終わった時点で、予備と現用を切り替えます。

ステータスファイルのスワップを、図 5-3 に示します。



図 5-3 ステータスファイルのスワップ



障害が発生してスワップしたステータスファイルは、閉塞の状態になります。閉塞したステータスファイルは、次の手順で予備の状態にできます。

1. 閉塞したステータスファイルを `xodstsrnm` コマンドで削除します。
2. `xodstsininit` コマンドで初期設定します。
3. `xodstsofn` コマンドでオープンします。

また、ステータスファイル内のシステムステータス情報は、スワップするとステータスファイルの先頭から再編成されます。High-end Object Server の開始と終了を繰り返すと、ステータスファイルにフラグメンテーションが発生することがあります。このため、High-end Object Server は必要に応じて自動的にステータスファイルをスワップして、フラグメンテーションを解消します。

#### (b) ステータスファイルの状態表示

ステータスファイルの使用状況は、`xodstsls` コマンドで表示できます。表示内容は、論理ファイル状態、ファイル内のレコード使用率などです。

#### (c) ステータスファイルのオープンとクローズ

ファイルの実体が現用又は予備の状態のことを、オープンといいます。これに対して、ファイルの実体が予約又は閉塞の状態のことを、クローズといいます。

予約のステータスファイルを `xodstsofn` コマンドでオープンすると、予備になります。

予備のステータスファイルを `xodstscsls` コマンドでクローズすると、予約になります。

#### (d) ステータスファイルの削除

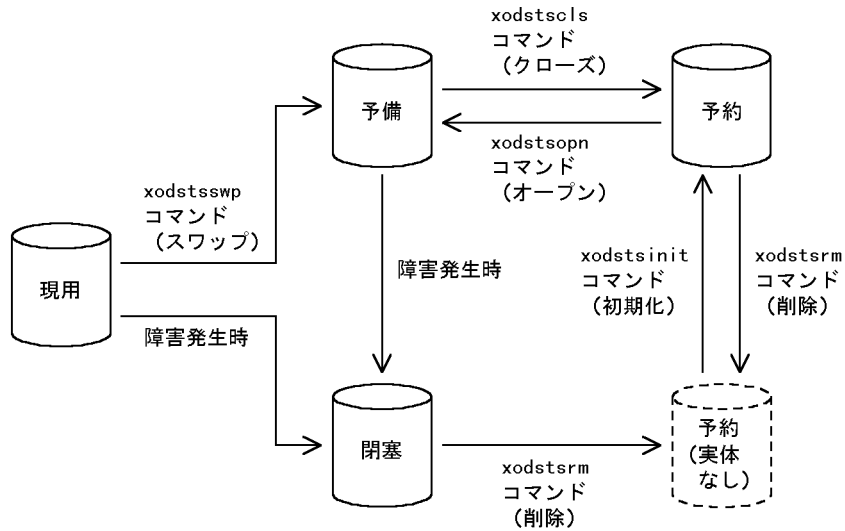
予約及び障害が発生して閉塞の状態になったステータスファイルは、`xodstsrnm` コマンドで削除できます。現用と予備の状態のステータスファイルは削除できません。

## 5. システムファイルの運用

### (e) ステータスファイルの状態遷移

ステータスファイルの状態遷移を、図 5-4 に示します。

図 5-4 ステータスファイルの状態遷移



### (6) ステータスファイルのコマンド

ステータスファイルの運用に使用できるコマンドを、表 5-1 に示します。

表 5-1 ステータスファイルの運用に使用できるコマンド

コマンド名	機能
xodstsrms	ステータスファイルの作成と初期化
xodstsofn	ステータスファイルのオープン
xodstscsls	ステータスファイルのクローズ
xodstsrms	ステータスファイルの削除
xodstsswp	ステータスファイルのスワップ
xodstsls	ステータスファイルの情報表示

## 5.3 ジャーナルファイルの運用

この節では、ジャーナルファイルの運用に関する運用方法について説明します。

オブジェクトサーバが取得するトランザクション処理の履歴情報を、ジャーナルといます。Object Server の履歴情報は、簡易ジャーナルのファイルに出力されます。一方、High-end Object Server の履歴情報は、システムジャーナルファイルに出力されます。

また、アプリケーションプログラムの履歴情報は、ユーザジャーナルファイルに出力されます。

### 5.3.1 簡易ジャーナル ( Object Server )

ここでは、Object Server で使用する簡易ジャーナルについて説明します。

#### (1) 簡易ジャーナルの目的

簡易ジャーナルのファイルには、最新のデータベース更新情報を 1 回の更新分だけ出力します。これによって、データベースに障害が発生したときに、1 回の更新分、データベースを回復できます。

ただし、簡易ジャーナルの情報は、データベースの更新が完了すると消去されますので、データベースに障害が起こった場合、1 回の更新分だけしか回復できません。このため、必要な時点で、定期的にデータベースのバックアップを取得することをお勧めします。

#### (2) 簡易ジャーナルの構成

簡易ジャーナルは、ジャーナルを格納する簡易ジャーナルファイルと、その簡易ジャーナルファイルについての情報を格納するジャーナル情報ファイルの二つのファイルで構成されています。どちらのファイルも Object Server によって作成されます。

#### (3) 簡易ジャーナルファイル

Object Server は、簡易ジャーナルファイルとして、\$XODDIR/spool/jnlfile を使用します。このパス名はシステム共通定義の jnl\_output\_file パラメータで任意のパス名に変更することもできます。

#### (4) ジャーナル情報ファイル

簡易ジャーナルファイルは任意のパス名に変更できるため、Object Server では、現在使用している簡易ジャーナルファイルの情報を、ジャーナル情報ファイルで管理します。Object Server は次の開始又は再開時にこのファイルを参照します。

ジャーナル情報ファイルは、マスタディレクトリファイルが格納されているディレクトリと同じディレクトリ内に、ファイル名 xodjnlinfo として作成されます。パス名は、<マスタディレクトリファイルの格納ディレクトリ>/xodjnlinfo です。

<マスタディレクトリファイルの格納ディレクトリ>とは、システム共通定義の dbm\_master パラメータに指定したパス名からファイル名を削除したパス名です。

なお、次の場合は、ジャーナル情報ファイルを Object Server の停止中に削除でき

## 5. システムファイルの運用

ます。

- Object Server が正常終了している場合
- Object Server を強制正常開始する場合

### 5.3.2 システムジャーナル (High-end Object Server)

#### (1) システムジャーナルファイルの目的

システムジャーナルファイルには、システムに障害が発生した場合の回復に必要な履歴情報が格納されます。履歴情報は、High-end Object Server が停止した場合の全面回復・部分回復に必要です。システムジャーナルファイルに出力される情報は、次のとおりです。

システム回復用ジャーナル情報

ファイルやテーブルの更新履歴情報です。ファイルやテーブルの情報を復元するために使用します。

#### (2) システムジャーナルファイルの作成

システムジャーナルファイルは、OS のファイルシステム上に作成します。High-end Object Server を開始する前にシステムジャーナルファイルを二つ以上作成します。その構成情報を、システムジャーナルサービス定義で定義します。ハードディスク障害に備えてデータベースとジャーナルを別のディスクに保存してください。また、ジャーナルのディスクは、複数のハードディスクに分割してください。性能の観点からもデータベースとジャーナルを別のディスクに保存することを推奨します。

High-end Object Server のシステム管理者は、High-end Object Server を開始する前に `xodjnlinit` コマンドで物理ファイルを作成します。その後、物理ファイルと論理ファイルの対応付けを、システムジャーナルサービス定義で定義します。

#### (3) システムジャーナルファイルの構成

システムジャーナルファイルは、ファイルグループという論理的な単位で運用します。ファイルグループを構成するファイルを、要素ファイルといいます。これに対して、実際にジャーナルを取得するファイルの実体を、物理ファイルといいます。

ファイルグループは、システムジャーナルファイルに 2 ~ 30 個まで定義できます。また、一つのファイルグループは、一つの要素ファイルで構成されます。さらに、一つのファイルグループは、一つの物理ファイルで構成されます。

ジャーナルを取得するための実行環境は、システムジャーナルサービス定義に定義します。論理ファイルと物理ファイルの対応付けも、システムジャーナルサービス定義で定義します。

#### (4) システムジャーナルファイルの状態

システムジャーナルファイルのファイルグループは、次の状態に分けられます。予約以外のファイルグループは、二つ以上必要です。

High-end Object Server を正常開始すると、システムジャーナルサービス定義で ONL と指定したファイルグループがすべてオープンされます。オープンされたファイルグループのうち、最初に指定したファイルグループが現用になり、その他は待機になります。オープンできなかったファイルグループ及び ONL と指定しなかった

ファイルグループは予約となります。再開始すると、前回現用だったファイルグループが引き継がれます。

現用：

現時点でジャーナルの出力対象になっている状態です。この状態のシステムジャーナルファイルはオープンしています。また、現用のファイルグループはシステムで一つです。現用の状態のシステムジャーナルファイルを、現用ファイルグループといいます。

待機：

現時点ではジャーナルの出力対象ではありませんが、現用のファイルグループと切り替えられるよう待機している状態です。この状態のステータスファイルはオープンしています。待機の状態のシステムジャーナルファイルを、待機ファイルグループといいます。

予約：

システムジャーナルサービス定義に定義されていますが、クローズされている状態です。オープンしないと使用できません。

### (5) システムジャーナルファイルの操作

システムジャーナルファイルの操作について説明します。なお、システムジャーナルファイルのスワップとシステムジャーナルファイルのアンロード、及びシステムジャーナルファイルのステータス変更はバッチファイルなどを作成すると自動化できます。

#### (a) システムジャーナルファイルのスワップ

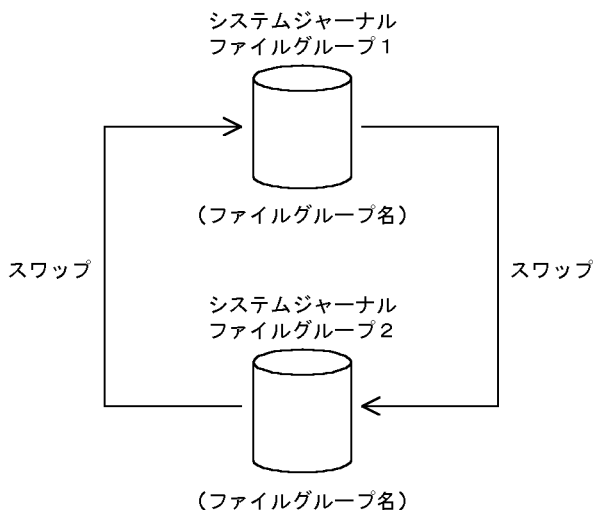
High-end Object Server は、一つのジャーナルファイルを現用としてジャーナルを出力します。

現用のファイルグループが一杯になると、上書きできる状態又はアンロード済みの待機ファイルグループを現用ファイルグループに切り替えてジャーナルを出力します。これをスワップといいます。定義されたファイルグループがすべて一杯になると、最初のファイルグループに戻ってジャーナルを出力します。

システムジャーナルファイルのスワップを、図 5-5 に示します。

## 5. システムファイルの運用

図 5-5 システムジャーナルファイルのスワップ



### 現用のファイルグループが一杯になった場合

現用のファイルグループが一杯になった場合、スワップして待機ファイルグループを現用にします。このとき、以前の現用ファイルは待機になります。

出力しようとした待機ファイルグループがアンロード待ち状態のときは、`xodjnlunl` コマンドでアンロードできます。あるいは、`xodjnlchg` コマンドでアンロードしないでステータスの状態を変更できます。ただしこの場合は、後からのアンロードはできません。

### 現用のファイルが出力障害になった場合

現用のファイルグループに出力障害が起きた場合は、スワップして待機ファイルグループを現用にします。このとき、以前の現用ファイルは予備になります。

予備になったファイルグループは、次の手順で再使用します。

1. 必要があれば `xodjnlunl` コマンドでアンロードする
2. 障害対策をした後、`xodjnlrm` コマンドで一度削除する
3. `xodjnlinit` コマンドでシステムジャーナルファイルを再作成する
4. `xodjnl opn` コマンドで待機としてファイルグループをオープンする

また、障害の内容によっては、ジャーナルファイルのアンロードができない場合があります。いったんオブジェクトサーバを正常終了させて、データベースのバックアップを取り直してください。

### コマンドによるスワップ

緊急に現用ファイルグループをアンロードしたり編集したりする場合は、`xodjnlswp` コマンドでスワップできます。ただしスワップ先のファイルグループがない場合はエラーになります。

### (b) システムジャーナルファイルのアンロード

一杯になったシステムジャーナルファイルは、`xodjnlunl` コマンドで任意のファイルに複写できます。任意のファイルにジャーナルを複写することを、アンロードと

います。アンロードして作成したファイルをアンロードジャーナルファイルといい、データベースの回復に使用します。

アンロードされていない待機ファイルグループは、スワップ先になりません。

一杯になったシステムジャーナルファイルは、`xodjnlunl` コマンドでアンロードできます。ジャーナルをアンロードするまでジャーナルを保存している状態を、アンロード待ち状態といいます。アンロード待ち状態のファイルは、現用にできません。

アンロード待ち状態のファイルグループを `xodjnlunl` コマンドでアンロードした状態を、アンロード済み状態といいます。アンロード待ち状態のファイルグループを `xodjnlchg` コマンドで破棄した状態もアンロード済み状態になります。

### (c) システムジャーナルファイルの上書き

システムの回復に必要なジャーナルを含んでいるため、上書きできないように保護している状態を、上書きできない状態といいます。上書きできない状態のファイルグループは、現用になりません。

上書きできない状態のファイルグループは、High-end Object Server がチェックポイントを取得すると、上書きできる状態になります。

### (d) 全面回復時に使用するジャーナルファイル

High-end Object Server の全面回復には、最新のチェックポイントの取得以降に出力されたジャーナルを元に回復します。

チェックポイントとは次の時点をいいます。

- High-end Object Server の開始及び再開始処理が完了した時点
- ジャーナルファイルのスワップが発生した時点
- 前回のチェックポイントを取得してから、ジャーナルサービス定義で指定した件数のジャーナル情報を取得した時点
- システムの終了準備処理が完了した時点

### (e) 全面回復時の予約状態のオープン

オンライン障害発生後の全面回復時、High-end Object Server はトランザクションを決着するためのジャーナルを出力します。このとき、システムジャーナルファイルにジャーナルを格納しきれなくなると、High-end Object Server は再び異常終了します。

全面回復時にジャーナルファイルが不足したとき、予約状態のファイルをオープンしてジャーナルを格納できます。予約状態のファイルをオープンするかどうかは、システムジャーナルサービス定義で定義します。また、アンロードすればスワップ先としてジャーナルを格納できます。上書きできる状態のシステムジャーナルファイルがある場合には、予約状態のファイルをオープンしません。`xodjnlunl` コマンドでジャーナルをアンロードしてください。

### (f) システムジャーナルファイルの再使用

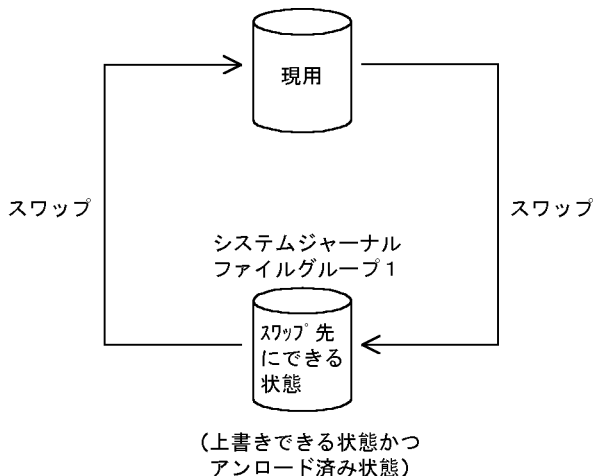
待機状態になったファイルグループを再使用するためには、次の条件を満たす必要があります。これらの条件を満たしている場合は、次回スワップ時に現用として使用できます。

- ファイルグループが上書きできる状態
- ファイルグループがアンロード済み状態

## 5. システムファイルの運用

(システムジャーナルサービス定義に `jnl_unload_check=N` を指定している場合はチェックしません)  
システムジャーナルファイルの状態遷移を、図 5-6 に示します。

図 5-6 システムジャーナルファイルの状態遷移



### (g) スワップ先のファイルグループがない場合

スワップする場合、スワップ先に待機状態のファイルグループがないと異常終了します。したがって High-end Object Server のシステム管理者は、スワップ先のできるファイルグループを必ず用意してください。

スワップ先のファイルグループがなくて異常終了した場合は、次の手順で回復してください。

1. `xodjnlunl` コマンドで、アンロード待ちのファイルグループをアンロードします。
2. 待機ファイルグループを用意して、High-end Object Server を再開始します。
3. High-end Object Server を再開始できない場合は、新たなファイルグループを追加します。新たなファイルグループは、システムジャーナルサービス定義で ONL を指定したファイルグループを指定します。
4. その後再び High-end Object Server を再開始します。

### (h) システムジャーナルファイルの情報の表示

システムジャーナルファイル情報は、`xodjnlls` コマンドで表示できます。

表示内容はファイルグループ名称、ファイル種別、ファイルグループの状態などです。

### (i) システムジャーナルファイルのオープンとクローズ

予約のファイルグループを `xodjnlopn` コマンドでオープンすると、待機のファイルグループになります。

また、上書きできる状態のファイルグループを `xodjnlcls` コマンドでクローズすると、予約のファイルグループになります。上書きできない状態のファイルグループ

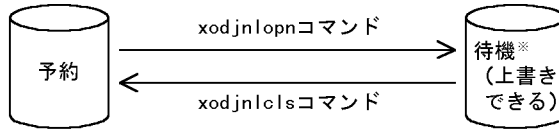


は、回復に必要なジャーナルがあるため、クローズできません。

なお、上書きできる状態のファイルグループが一つしかない場合、そのファイルグループはクローズできません。

システムジャーナルファイルのオープンとクローズを、図 5-7 に示します。

図 5-7 システムジャーナルファイルのオープンとクローズ



注※ 再開始の場合は、上書きできない待機のファイルグループになります。

#### (j) システムジャーナルファイルのステータスの変更

アンロード待ち状態の待機のファイルグループを強制的にアンロード済み状態にするには、`xodjnlchg` コマンドを使用します。強制的にアンロード済み状態にしても、ジャーナルはキャラクタ型スペシャルファイル上の任意のファイルにコピーされませんので注意してください。

アンロード済み状態になったファイルグループは、上書きできる状態であれば、次回スワップ時に現用として使用できます。

#### (k) 全面回復時のシステムジャーナルファイルの状態回復

High-end Object Server を再開始すると、前回の異常終了直前のジャーナルファイルのオープン状態を回復します。また、ファイルグループの状態を回復しようとしています。前回の異常終了直前にクローズしていたファイルグループでも、再開始に必要と判断されればオープンして、回復処理に使用します。オープンできないファイルグループがあると、ログにエラーメッセージを出力して再開始を続行します。

### (6) システムジャーナルファイルのコマンド

システムジャーナルファイルの運用に使用できるコマンドを、表 5-2 に示します。

表 5-2 システムジャーナルファイルの運用に使用できるコマンド

コマンド名	機能
<code>xodjnlinit</code>	システムジャーナルファイルの初期化
<code>xodjnl opn</code>	システムジャーナルファイルのオープン
<code>xodjnl cls</code>	システムジャーナルファイルのクローズ
<code>xodjnl swp</code>	システムジャーナルファイルのスワップ
<code>xodjnl rm</code>	システムジャーナルファイルの削除
<code>xodjnl chg</code>	システムジャーナルファイルのステータス変更
<code>xodjnl unl</code>	システムジャーナルファイルのアンロード
<code>xodjnl ls</code>	システムジャーナルファイルの情報表示

### 5.3.3 ユーザジャーナル

ユーザジャーナルのファイルには、アプリケーションプログラムの履歴情報を出

## 5. システムファイルの運用

力します。ユーザジャーナルには、正常時用ユーザジャーナル出力ファイルと障害時用ユーザジャーナル出力ファイルの二つのファイルを割り当てます。ファイル名はシステム共通定義の `ujfile` で指定します。

正常時用ユーザジャーナル出力ファイルに障害が発生したときには、ユーザジャーナルの出力が障害時用ユーザジャーナル出力ファイルに自動的に切り替えられます。このような場合は、正常時用ユーザジャーナル出力ファイルを別なファイルにアンロードしてください。正常時用ユーザジャーナル出力ファイルが初期化されて、ユーザジャーナル情報を出力できるようになります。また、ユーザジャーナルは追加書きのため、使用しているうちにファイル容量が増加していきますので、定期的にアンロードする必要があります。

障害時用ユーザジャーナル出力ファイルにも障害が起こった場合には、ユーザジャーナルを出力できません。この時に処理を続行するかどうかは、システム共通定義ファイルの `ujerror` の指定値に従います。

---

## 6 . 障害対策

---

この章では、オブジェクトサーバに障害が起こったときの対処方法について説明します。

---

- 6.1 異常終了時の回復方法
- 6.2 通信障害時の運用
- 6.3 その他の障害
- 6.4 障害時の運用

## 6.1 異常終了時の回復方法

### 6.1.1 メッセージへの対処

オブジェクトサーバに各種の障害が起こったときには、「KFXO」で始まるメッセージが次に示す箇所に出力されます。

- コマンドを入力したウィンドウ
- システムコンソール (/dev/console)
- ログファイル

このようなときには、システムコンソールに出力されたメッセージと、ログファイルに出力されたログメッセージを調査してください。ログメッセージは xodlogcat コマンドで標準出力に出力できます。xodlogcat コマンドについては、「8.7 ログメッセージ管理コマンド」を参照してください。

また、システムコンソールに出力されたメッセージは、システムコンソールメッセージ退避ファイル (\$XODDIR/spool/consolemsg) に追加書きで保存されます。

調査の結果、障害のメッセージが出力されていれば、「付録 K メッセージ」を参照して、そこに示された障害の要因を取り除いてください。そしてその後で、「6.1.2

データベース障害のメッセージが出力されていないとき」、又は「6.1.3 データベース障害のメッセージが出力されているとき」に従って対処してください。

ただし、OS に障害が起こった場合には、オブジェクトサーバが異常終了してもメッセージが出力されないことがあります。このようなときは、「6.1.2 データベース障害のメッセージが出力されていないとき」に従って操作してください。

### 6.1.2 データベース障害のメッセージが出力されていないとき

データベース障害のメッセージが出力されていない場合は、次の手順で対処してください。最後に実行した処理が取り消されて、データベースが回復されます。

1. オブジェクトサーバを使用するプログラムが動作している場合は、そのプログラムを終了させます。
2. オブジェクトサーバをもう一度起動させます。

### 6.1.3 データベース障害のメッセージが出力されているとき

データベース障害が発生したときには、データベースをバックアップから回復してください。そのために、システム管理者は、定期的にバックアップを取得する必要があります。バックアップについては、「4.4 データベースのバックアップの取得」を参照してください。もし、バックアップを取得していない場合にデータベースのファイルが削除されたなどのファイル障害が発生したときには、xodarint コマンドを使用して、データベースを再初期化してください。

ここでは、バックアップからデータベースを回復する手順を次に示します。

#### (1) Object Server の場合

1. データベースのバックアップからデータベースを回復します。バックアップの取得に xodbackup コマンドを使用している場合は、まず xodbrstr コマンドで

データベースを回復します。

- Object Server を強制正常開始で起動させて、バックアップ取得以降の業務をもう一度実行します。

## (2) High-end Object Server の場合

- ジャーナルを取得している場合は、すべてのジャーナルをアンロードします。
- データベースのバックアップからデータベースを回復します。バックアップの取得に `xodbckup` コマンドを使用している場合は、まず `xodbrstr` コマンドでデータベースを回復します。
- High-end Object Server を回復ユティリティ実行モードで起動します。
- `xodbrcv` コマンドと `xodbkout` コマンドを使用してデータベースを回復します。
- High-end Object Server を停止し、データベースのバックアップを取得します。バックアップ時点の状態にデータベースを回復する場合は、手順 3 ~ 5 を実行しないで、High-end Object Server を強制正常開始します。

## 6.2 通信障害時の運用

### 6.2.1 通信障害が発生する要因

ここでは、通信障害が発生する要因について説明します。また、どのような要因で障害が発生したかを確認する方法についても説明します。

#### (1) 要因

オブジェクトサーバでは、次のような要因によって、プロセス間通信で障害が発生します。

- イーサネット・ボードやケーブルなどのハードウェアで障害が発生している
- ネットワーク定義の設定が間違っている
- オブジェクトサーバが起動していない
- ポート、ソケット又はメモリなどのシステム資源が不足している
- システム環境又はネットワーク環境に高い負荷がかかっている

このような場合、オブジェクトサーバのエラーメッセージがコンソール又はシステムログに出力されます。

#### (2) 確認方法

システム管理者は、次に示す方法で要因を確認して、要因を取り除いてください。

UNIX の提供するコマンドで、ノードの接続状態を調べる

netstat コマンドなどを使用して確認します。

UNIX の提供するコマンドで、システムの負荷状態を調べる

ps コマンド、top コマンド、vmstat コマンド又は sar コマンドなどを使用して確認します。

ネットワーク環境の定義を見直す

DNS 環境や、/etc/hosts 及び /etc/services などに定義している内容を確認します。

### 6.2.2 通信障害時に出力されるメッセージ

通信障害が発生した場合に出力される主なメッセージを、表 6-1 に示します。なお、それぞれのメッセージの詳細な対処方法については、「付録 K メッセージ」の該当メッセージを参照してください。

表 6-1 主な通信障害時のメッセージ

メッセージ ID	付加情報	対 処
KFXO00105-E	code=p000406 info [PRCIHEL, call_hello2=-.00306] (又は -.00307)	自ノードの IP アドレスが取得できません。/ etc/hosts ファイルの指定又は DNS 環境の設 定が間違っていないかを見直してください。
KFXO00606-E	ノード名	

メッセージ ID	付加情報	対 処
KFXO00306-E	PID, ポート番号	ネットワークが正常動作しているかを確認してください。その後、システムの電源を切って再起動してください。 繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。
KFXO00330-W	ポート番号	ほかのプログラムがオブジェクトサーバで使用しているポートにデータを送信しました。詳細は付加情報を参照してください。 /etc/services ファイルに当該ポート番号が指定されていないかどうか見直してください。
KFXO00340-W	PID, ポート番号	実メモリの見積もりを見直してください。OS がバッファキャッシュとして使用する割合が動的になっている場合は、Groupmax として使用できる実メモリが不足しないような値に変更してください。

---

## 6.3 その他の障害

その他のオブジェクトサーバの障害について説明します。

### 6.3.1 ユーザジャーナルファイルに障害が起こったとき

ユーザジャーナルファイルに障害が起こったときは、正常用ファイルから異常用ファイルに出力先を切り替えて処理が続けられます。両方のファイルに障害が発生したときは、システム共通定義の `ujerror` の指定値に従って、処理を続行するか、オブジェクトサーバを停止するかを決定します。

ユーザジャーナルファイルは、`xodujunl` コマンドを実行するとファイルが再作成され、処理が続行されます。

### 6.3.2 ステータスファイルに障害が起こったとき (High-end Object Server)

オンライン中、ステータスファイルに障害が起こったときの対処方法を説明します。

#### (1) ステータスファイルの書き込み時に起こったとき

##### (a) 予備ファイルがある場合

1. High-end Object Server は現用ファイルを予備にスワップします。その後、次の手順で、障害が発生したステータスファイルを初期設定してください。
2. 障害が発生して閉塞したステータスファイルを、`xodstsrn` コマンドで削除します。
3. ステータスファイルを、`xodstsinit` コマンドで作成します。
4. 作成したステータスファイルを `xodstsopn` コマンドでオープンして、予備状態にします。

##### (b) 予備ファイルがない場合

予備ファイルがない場合、High-end Object Server は異常終了します。したがって、予備ファイルを用意した後、High-end Object Server を再開始します。その後、「予備ファイルがある場合」と同じ手順で障害が発生したステータスファイルを初期設定してください。

#### (2) ステータスファイルの読み込み時に起こったとき

ステータスファイルは二重化された現用ファイルの A 系から読み込まれます。A 系の現用ファイルを読み込み中に障害が起こった場合、B 系の現用ファイルを読み込めるかどうかで対処が異なります。

##### (a) B 系の現用ファイルが読み込める場合

予備ファイルがある場合、High-end Object Server は読み込みできたファイルの内容を予備ファイルに複写します。

予備ファイルがない場合、High-end Object Server は停止します。予備ファイルを



用意した後、High-end Object Server を再開してください。その後、次の手順で新しいステータスファイルを用意してください。

1. 障害が起こって閉塞した物理ファイルを xodstsrsm コマンドで削除します。
2. 物理ファイルを xodstsinit コマンドで初期設定します。
3. 初期設定したファイルを xodstsopn コマンドでオープンします。

#### (b) A 系及び B 系の現用ファイルが読み込めない場合

この場合、High-end Object Server は停止します。

なお、High-end Object Server の再開はできないため、「6.1.3 データベース障害のメッセージが出力されているとき」に従ってデータベースを回復した後、High-end Object Server を正常開始してください。

### 6.3.3 ログファイルに障害が起こったとき

ログファイルに障害が発生すると、ログメッセージの出力先がログファイルから標準出力に変更されます。この場合、次に示す操作を実行してください。

1. 障害が発生する前のログメッセージを保存したい場合は、OS のコマンドでログファイルのバックアップを取得します。
2. xodstop コマンドで、オブジェクトサーバを正常終了します。
3. OS のコマンドで、\$XODDIR/spool/dclog1, dclog2 ファイルを削除します。
4. xodstart コマンドで、オブジェクトサーバを正常開始します。

### 6.3.4 その他のファイルに障害が起こったとき

このような場合は、「6.1 異常終了時の回復方法」を参照して、メッセージに従って対処してください。

オブジェクトサーバを使用するプログラムが Object Server ライブラリ中で異常終了したとき、\$XODDIR/spool/save ディレクトリにトレース情報（ファイル名 YYMMDDhhmmss, 又は xodtrace）が生成されます。この情報は不要になった時点で削除してください。

---

### 6.4 障害時の運用

この節では、障害対策に関する運用について説明します。

#### 6.4.1 障害発生後の起動環境の修復

オブジェクトサーバでは、障害が発生した時に、システム管理者が障害内容の調査に使用する障害情報を出力しています。これらの障害情報はオブジェクトサーバによって自動的に削除されません。したがって、障害情報がハードディスクの容量を圧迫している場合には、コマンドを使用して不要な障害情報を削除してください。

##### (1) 障害発生後の起動環境を修復するコマンド

障害情報の削除には、`xodclear` コマンドを使用します。`xodclear` コマンドについては、「8.12 障害対策コマンド」を参照してください。

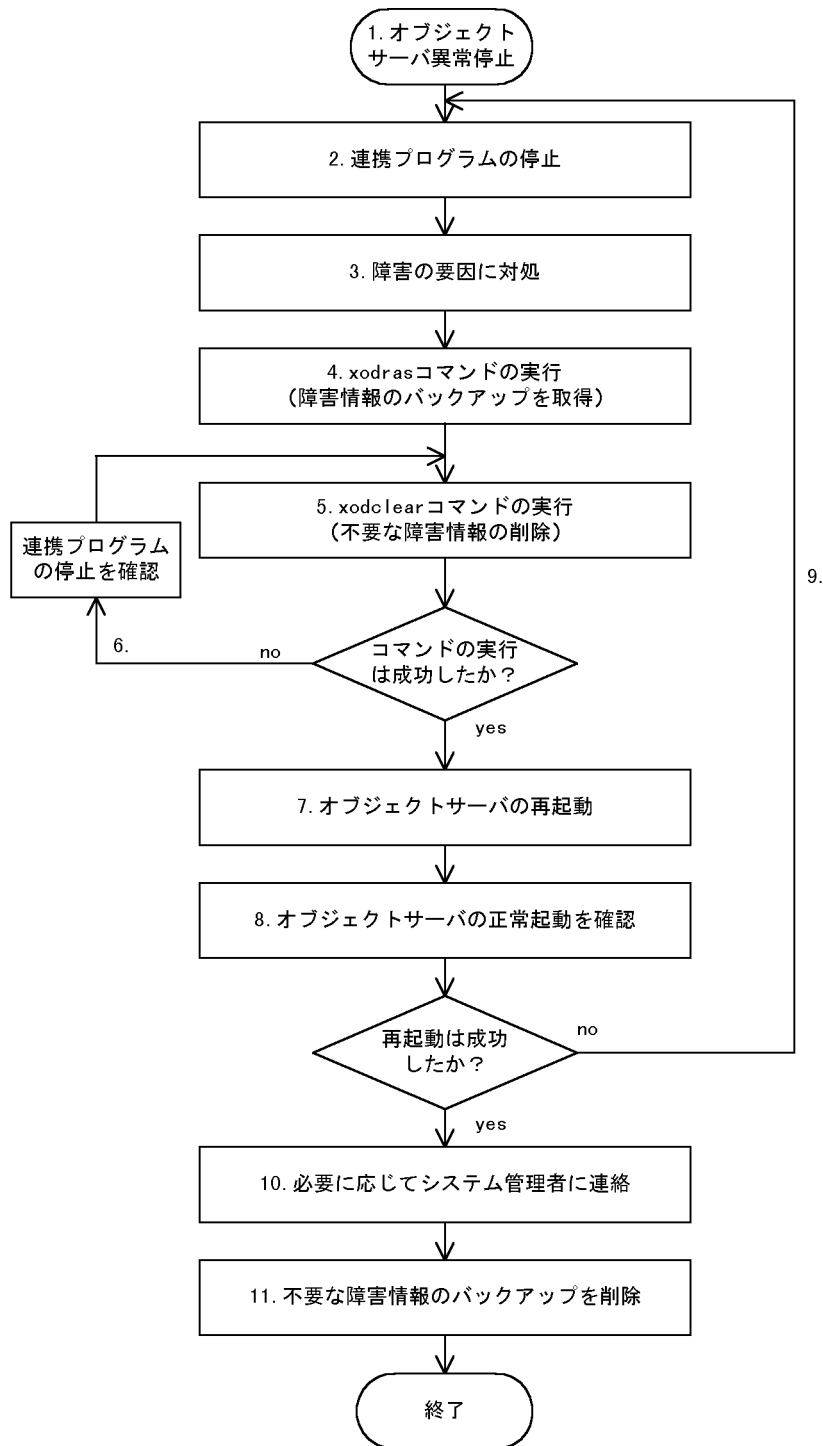
このコマンドはバッチファイル等を使用して自動化できます。

##### (2) 手順

オブジェクトサーバが異常終了してから、不要な障害情報を削除してオブジェクトサーバを再起動するまでの手順を説明します。なお、`xodclear` コマンドはオブジェクトサーバを停止させてから実行してください。

図 6-1 にオブジェクトサーバの異常終了時の処置の流れを示します。手順に従って不要な障害情報を削除してください。

図 6-1 オブジェクトサーバの異常終了時の処置の流れ



説明：

1. オブジェクトサーバの異常停止を，システムコンソールに出力されたメッセー

## 6. 障害対策

- ジとログファイルに出力されたメッセージから確認します。
2. オブジェクトサーバと連携しているプログラムをすべて終了します。
  3. イベントログに出力されている障害メッセージを参照して、障害の要因に対処します。障害の要因は複数出力されている場合がありますので、すべての障害メッセージを参照して要因を調査してください。データベースの障害の場合は、「4.5 データベースの回復」を参照して障害を回復してください。
  4. xodras コマンドを実行します。このコマンドを実行すると、システム管理者に連絡するときに必要な障害情報のバックアップを取得できます。
  5. xodeclear コマンドを実行します。このコマンドは障害情報を削除して、`$XODDIR/spool` 及び `$XODDIR/tmp` を初期状態にします。
  6. xodeclear コマンドの実行が失敗した場合は、`$XODDIR/spool/save/xodeclear.log` に出力されているメッセージから、失敗の要因を確認してください。`KFXO01897-E` が出力された場合は、`$XODDIR/spool` が存在しないことが原因です。`$XODDIR/spool` ディレクトリを作成して、4. で取得したバックアップから `$XODDIR/spool/jnlfile` (又はシステム共通定義ファイルで指定した簡易ジャーナルファイル) を復元してください。
  7. オブジェクトサーバを再起動します。
  8. オブジェクトサーバが正常起動したことを示すメッセージ `KFXO01809-I` が出力されているかどうか確認します。
  9. 再起動が失敗した場合は、次の要因が考えられます。出力されたメッセージを参照して対処してください。
    - 障害の要因が対処できていない
    - オブジェクトサーバのジャーナルなどの資源が再起動によって不足した
    - ディスクの空き容量などの環境の資源が再起動によって不足した対処後、再び 2. から実行してください。繰り返しオブジェクトサーバの起動が失敗する場合は、システム管理者に連絡してください。
  10. システム管理者に連絡する場合、4. で取得した障害情報のバックアップが必要です。異常終了に対する対処、及びシステム管理者による調査が完了したら、障害情報は必要ありません。4. で取得した障害情報のバックアップを削除してください。

### 6.4.2 障害回復に必要なファイル

オブジェクトサーバでは、障害発生後の再開始時に、表 6-2 に示すファイルを使用してシステム及びデータベースファイルの回復を行います。これらのファイルは、障害回復に必要な前回の稼働情報が書き込まれているため、バックアップから回復したり新規に作成したりすると、オブジェクトサーバを再開始できないことがあるので注意してください。

表 6-2 回復に使用するファイル

ファイル種別		ファイル名	ファイルの用途
Object Server	簡易ジャーナルファイル	\$XODDIR/spool/jnlfile 又はシステム共通定義ファイルで指定した簡易ジャーナルファイル	データベースを回復する
High-end Object Server	システムジャーナルファイル	システムジャーナルサービス定義ファイルで設定したファイル	データベースを回復する
	ステータスファイル	ステータスサービス定義ファイルで設定したファイル	再開始処理を決定する



---

## 7. オブジェクトサーバのファイル

---

オブジェクトサーバは、動作する時にいろいろなファイルを使用します。これらのファイルのうち、ユーザは、幾つかのファイルを作成する必要があります。

この章では、まず、オブジェクトサーバの使用するファイルを一覧で示します。そして、ユーザが作成するファイルの記述形式及び項目について説明します。

- 
- 7.1 オブジェクトサーバのファイル一覧
  - 7.2 システム共通定義ファイル
  - 7.3 ステータスサービス定義ファイル (High-end Object Server)
  - 7.4 システムジャーナルサービス定義ファイル (High-end Object Server)
  - 7.5 初期設定パラメタファイル
  - 7.6 構成変更パラメタファイル
  - 7.7 再編成パラメタファイル
  - 7.8 再構成パラメタファイル
  - 7.9 バックアップパラメタファイル

## 7.1 オブジェクトサーバのファイル一覧

オブジェクトサーバのファイルについて説明します。

### 7.1.1 システム制御ファイル

表 7-1 にシステム制御ファイルの一覧を示します。

ファイルの詳細は、表中の参照に示した節又は項を参照してください。

表 7-1 オブジェクトサーバのシステム制御ファイル一覧

ファイル種別		ディレクトリ又は ファイル名	作成時期	作成者	Object Server	High- end	参照先	
プログラムラ イブラリ	OMS サー バ	/usr/HiOODB/lib/ server	組み込み 時	任意部 分： ユーザ ファイ ル：シ ステム			2.3.2	
	コマンド	/usr/HiOODB/bin					2.3.2	
オブジェクトサーバ各種 情報格納用ディレクトリ		\$XODDIR/spool		システ ム			-	
		\$XODDIR/tmp					-	
定義ファイル	初期設定 パラメタ	ユーザ任意	初期化コ マンド実 行前	ユーザ			7.5	
	構成変更 パラメタ	ユーザ任意	構成変更 コマンド 実行前				7.6	
	再編成パ ラメタ	ユーザ任意	再編成コ マンド実 行前				7.7	
	再構成パ ラメタ	ユーザ任意	デー タ ベースの エリアの 再作成コ マンド実 行前				7.8	
	バック アップパ ラメタ	ユーザ任意	バック アップ、 回復コマ ンド実行 前				7.9	
	システム 共通定義	\$XODDIR/conf/ xodrc	サービ ス 起動前				7.2	
	ステー タ スサー ビス定 義	\$XODDIR/conf/ sts	ステー タ スサー ビス実 行前				×	7.3
	システ ム ジャー ナルサー ビス定 義	\$XODDIR/conf/ sysjnl	ジャー ナルサー ビス実 行前				×	7.4



## 7. オブジェクトサーバのファイル

ファイル種別	ディレクトリ又は ファイル名	作成時期	作成者	Object Server	High- end	参照先
ステータスファイル	ユーザ任意	環境設定 時		×		2.4.5
システムジャーナルファイル				×		2.4.5
コマンドファイル等結果 ファイル	\$(XODDIR/ xodresult	コマンド 実行時	システ ム			4.
ログファイル	\$(XODDIR/spool/ dclog1 \$(XODDIR/spool/ dclog2	ログメッ セージ出 力時				3.3
システムコンソールメッ セージ退避ファイル	\$(XODDIR/spool/ consolemsg	システム コンソ ールメッ セージ出 力時				-
ダンプ退避ファイル	\$(XODDIR/spool/ save/_ サーバ名 n	起動時				-
エラー情報ファイル	\$(XODDIR/spool/ pdmp プロセス ID	エラー検 知時				-
トレースファイル	\$(XODDIR/spool/ save/ YYMMDDhhmm ss \$(XODDIR/spool/ save/xodtrace	連携プロ グラムの 異常終了 時				-
システム情報ファイル	\$(XODDIR/spool/	適宜				-
カレントワーキングディ レクトリ	\$(XODDIR/tmp/ home/	ダンプ出 力時				-
簡易ジャーナルファイル	\$(XODDIR/spool/ jnfile (デフォル ト)	DB 更新 時			×	
	\$(XODDIR/spool/ jnfile2	起動時		×		-
ジャーナル情報ファイル	マスタディレクトリ ファイルの格納 ディレクトリ/ xodjnlinf	起動時		×		5.3.1
	\$(XODDIR/spool/ xodjnlinf2	エラー検 知時		×		-
	\$(XODDIR/spool/ PART_PUT_FIL E	DB 更新 時		×		-

## 7. オブジェクトサーバのファイル

ファイル種別	ディレクトリ又はファイル名	作成時期	作成者	Object Server	High-end	参照先	
サンプルファイル	システムファイル 作成用 バッチ ファイル	\$XODDIR/ sample/ DBSINT.BAT	定義ファイル 作成時	システム	×		-
	ステータスサービス 定義 ファイル サンプル	\$XODDIR/ sample/sts			×		7.3
	システム ジャーナルサービス 定義 ファイル サンプル	\$XODDIR/ sample/sysjnl			×		7.4
	システム 共通定義 ファイル サンプル	\$XODDIR/ sample/xodrc					7.2

(凡例)

- ：このプログラムで使用するファイル。
- ×
- ：該当する節又は項はない。

表 7-1 の説明

- \$XODDIR/ は、インストール時に作成したオブジェクトサーバのホームディレクトリを環境変数として設定したものです。
- ダンプ退避ファイルについて：カレントワーキングディレクトリの下にダンプが存在する場合、このディレクトリに退避されます。n は退避ファイルの通番 (1 ~ 3) です。
- トレースファイルについて：xodtrace は時刻の取得ができないときに作成されます。
- システム情報ファイルについて：システム実行時に生成される各種ファイルが格納されます。
- カレントワーキングディレクトリについて：ダンプ出力時に \$XODDIR/tmp/home/\_サーバ名の下にダンプが出力されます。
- 簡易ジャーナルファイルについて：Object Server を御使用の場合に作成されるファイルです。High-end Object Server を使用の場合には、システムジャーナルを使用するので、作成されません。  
ファイル名はデフォルトでは \$XODDIR/spool/jnlfile ですが、システム共通定義ファイルで変更できます。また、Object Server の起動時には、\$XODDIR/spool/jnlfile2 として退避されます。
- ジャーナル情報ファイルについて：Object Server を御使用の場合に作成されるファイルです。High-end Object Server を御使用の場合には、システム

ジャーナルを使用するので、作成されません。

ディレクトリ名の「マスタディレクトリファイルの格納ディレクトリ名」は、システム共通定義の dbm\_master パラメタで指定したパス名から取得されます。

また、エラーを検知した時は、\$XODDIR/spool/xodjnlinfo2 として退避されます。

- 「ダンプ退避ファイル」、「エラー情報ファイル」、及び「トレースファイル」は、障害時に出力されるファイルです。障害が回復した後、削除してください。

## 7.1.2 データベースファイル

### (1) データベースファイル一覧

表 7-2 にデータベースファイルの一覧を示します。

これらのファイルの定義内容は、初期設定パラメタファイル又は構成変更パラメタファイルに記述します。そして、xodbinit コマンド又は xodaradd, xodfladd コマンドを実行すると、ファイルが初期化又は追加されます。

これらのファイルは、すべて UNIX 形式です。ファイルの詳細については、「7.5 初期設定パラメタファイル」を参照してください。

表 7-2 オブジェクトサーバのデータベースファイル一覧

ファイル種別	ディレクトリ又はファイル名	作成時期	作成者	参照先
マスタディレクトリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザ任意</li> <li>• パス名</li> </ul>	コマンド実行時	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ファイル名はユーザが決定</li> <li>• ファイルはシステムが作成</li> </ul>	7.5
データディクショナリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザ任意</li> <li>• パス名</li> </ul>	コマンド実行時	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ファイル名はユーザが決定</li> <li>• ファイルはシステムが作成</li> </ul>	7.5 , 7.6
ディクショナリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザ任意</li> <li>• パス名</li> </ul>	コマンド実行時	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ファイル名はユーザが決定</li> <li>• ファイルはシステムが作成</li> </ul>	7.5 , 7.6
OID インデクス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザ任意</li> <li>• パス名</li> </ul>	コマンド実行時	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ファイル名はユーザが決定</li> <li>• ファイルはシステムが作成</li> </ul>	7.5 , 7.6
ユーザデータベース	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザ任意</li> <li>• パス名</li> </ul>	コマンド実行時	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ファイル名はユーザが決定</li> <li>• ファイルはシステムが作成</li> </ul>	7.5 , 7.6
インデクス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザ任意</li> <li>• パス名</li> </ul>	コマンド実行時	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ファイル名はユーザが決定</li> <li>• ファイルはシステムが作成</li> </ul>	7.5 , 7.6

### (2) ファイルグループ

データベースファイルは、その働きによって、次に示す二つのファイルグループに分けられます。

オブジェクトサーバ管理ファイル

オブジェクトサーバのデータベースを管理するための情報を保存するファイル

## 7. オブジェクトサーバのファイル

です。次の4種類のファイルがこれに相当します。

- マスタディレクトリ
- データディレクトリ
- ディクショナリ
- OID インデクス

### 連携プログラム用データ格納ファイル

オブジェクトサーバと連携するプログラム用のデータベースファイルです。各プログラムごとに名称及び指定数が決まっています。次の2種類のファイルがこれに相当します。

- ユーザデータベース
- インデクス

## 7.2 システム共通定義ファイル

システム共通定義ファイルには、システムに共通するオブジェクトサーバの環境情報を記述します。

この節では、システム共通定義の定義項目について説明します。

### 7.2.1 システム共通定義の形式

システム共通定義の形式を示します。括弧内は、省略値（ユーザが値を定義しなかった場合に設定される値）です。gcache パラメタ以外の省略値は、標準的な機器構成での定義値を表します。

システム共通定義ファイルは、必ずオブジェクトサーバを停止してから編集してください。オブジェクトサーバの起動中に変更してしまった場合は、一度元に戻して、オブジェクトサーバを停止してから、変更してください。

システム共通定義の形式

```
[set system_id = OMS識別子(スペース)]
[set lck_limit = 最大同時排他要求数(6000)]
[set prc_process_count = 最大プロセス数(230)]
[set trn_tran_process_count = 並行して実行するトランザクション数(32)]
[set sysloglevel = 出力するメッセージの種類(err)]
[set static_shmpool_size =
  システム開始から終了までに占有する共用メモリの総量(5120)]
[set dynamic_shmpool_size =
  システムが一時的に使用する共用メモリの最大量(10000)]
  set dbm_master = マスタディレクトリのファイル名
[set add_area_limit = 最大追加エリア数(32)] 1
[set ujerror = CONTINUE | STOP]
[ujfile -n 正常時uj出力ファイル名
  -e 障害時uj出力ファイル名]
[set jnl_output_file = 簡易ジャーナルの出力先ファイル名(オブジェクトサーバのホームディレクトリ/spool/jnlfile)] 2
[set logprint_system_id = Y|N]
[gcache -n グローバルキャッシュ名
  [-m グローバルキャッシュ面数(80)] 3
  -u グローバルキャッシュ用途] 4...
[resipool -n 常駐ページプール名
  -m 常駐ページプール面数
  -u 常駐ページプール用途] 5...
[resiobj -s スキーマ名
  -t タイプ名, ...] 5...
```

注 1 add\_area\_limit は High-end Object Server を使用している場合だけ指定します。

注 2 jnl\_output\_file は Object Server を使用する場合に指定します。

注 3 gcache パラメタの -u オペランドに OIDINDEX が指定された場合、グローバルキャッシュ面数の省略値は 100 になります。

注 4 gcache パラメタがすべて省略された場合は、次の省略値が仮定されません。

```
gcache -n xod_gcache_area -m 200 -u AREA
```

## 7. オブジェクトサーバのファイル

```
gcache -n xod_gcache_oidindex -m 100 -u OIDINDEX
```

注 5 resipool パラメタ及び resiobj パラメタの具体的な指定値は、オブジェクトサーバと連携するプログラムでの算出方法に従ってください。

### 規則

システム共通定義は、次のように指定します。

- 1行 80 バイト以内で指定します。80 バイトを超える場合は、複数行で指定します。
- 一つの項目を複数行にわたって指定する場合には、継続行の末尾に「¥」を記述してください。
- 定義中に「¥」を文字として指定する場合は、文字列全体を「"」で囲んでください。
- コメント行の先頭には「#」を指定してください。

### 7.2.2 システム共通定義の項目

それぞれの項目について説明します。

#### (1) system\_id パラメタ

説明：ここに指定した値が OMS 識別子となります。

OMS 識別子を変更した場合は、ステータスファイルとジャーナルファイルを再度初期設定して、オブジェクトサーバを再起動してください。

規則：最大 2 文字の 識別子 を半角で指定します。

#### (2) lck\_limit パラメタ

説明：

同時に要求できる、データベースの排他の最大数を定義します。ここに指定した値に 30 (システムで使用する排他数) を加えた値が、複数ユーザからのデータベース更新、及び参照を保証するための制御情報の数 (排他制御テーブルのプール数) となります。この値は、同時に参照、又は更新できるデータベースの量によって決まります。

lck\_limit の定義値は、次の計算式を参考にして決定してください。

$$\text{lck\_limit} = \sum_{x=1}^t \text{bx}$$

t：同時にログインするユーザ数

b：一つのトランザクションで必要とする排他資源数。

オブジェクトサーバを使用するプログラムの見積もり値をすべて加えた値を指定します。

各プログラムの見積もり値については、それぞれのマニュアルを参照してください。

規則：256 ~ 32767 の 符号なし整数 を指定します。

**(3) prc\_process\_count パラメタ**

説明：

オブジェクトサーバと同時に接続するプロセスの最大数を定義します。定義値には、同時に接続するクライアントの数を指定してください。

規則：1 ~ 230 の 符号なし整数 を指定します。

**(4) trn\_tran\_process\_count パラメタ**

説明：

オブジェクトサーバの下で同時に実行できるトランザクションの最大数を定義します。定義値には、同時にログインするユーザの数を指定してください。

規則：1 ~ 255 の 符号なし整数 を指定します。

**(5) sysloglevel パラメタ**

説明：

システムログに出力するメッセージの種類を指定します。この指定によってオブジェクトサーバのログに出力しているメッセージをシステムログにも出力します。ただし、オブジェクトサーバのログに出力できなかったメッセージは、指定したメッセージの種類に関係なくシステムログに出力します。出力するメッセージの種類には、次の指定をします。

err：

メッセージの種類が E のメッセージをシステムログに出力します。

warning：

メッセージの種類が E と W のメッセージをシステムログに出力します。

all：

すべてのメッセージをシステムログに出力します。

規則：

指定した種類が誤っている場合、メッセージの種類が E のメッセージをシステムログに出力します。なお、HP-UX を使用している場合、2 バイトコードの文字が表示できないため、メッセージテキストの 2 バイトコードの文字を ".." に変換して出力します。

**(6) static\_shmpool\_size パラメタ**

説明：

オブジェクトサーバシステムが、開始から終了までの間に占有する共用メモリを、静的共用メモリといいます。この静的共用メモリの総量をキロバイト単位で指定します。定義値は、次の計算式を使って算出してください。

## 7. オブジェクトサーバのファイル

```
static_shmpool_size (キロバイト)
=↑ {1,952,640 + (lck_limit値 + 30) × 144
    + 7,904 × trn_tran_process_count値
    + 37,520 + (3,808 + 4) × (初期設定パラメタで指定した
                              ユーザ用・インデクス用エリ
                              アの数
                              + 構成変更ユティリティで追加し
                              たユーザ用・インデクスエリアの数
                              + 58 ※ )
    + 20,492 + 224 × (gcacheパラメタ数 + resipoolパラメタ数)
    + 8,416 × (gcacheパラメタの-mオペランドの合計
              + resipoolパラメタの-mオペランドの合計)
+320} ÷ 1,024 ↑
```

注※ Object Serverを使用する場合は、58です。  
High-end Object Serverを使用する場合は、  
add\_area\_limit値 + 26として算出してください。

注意：

- xodaradd コマンドでデータベースにエリアを追加した後でオブジェクトサーバを再起動すると、追加したエリア数分だけ静的共用メモリの総量が増加しますので、指定値を増やす必要があります。static\_shmpool\_size は、余裕を持って計算してください。
- HI-UX/WE2 及び HP-UX を使用し static\_shmpool\_size 又は dynamic\_shmpool\_size を大きくした場合、OS のカーネルパラメタ shmmmax 値を増やしてください。これを行わずに xodstart コマンドを実行すると、オブジェクトサーバが起動できなくなることがあります。

規則：5120 ~ 750000 の 符号なし整数 を指定します。

### (7) dynamic\_shmpool\_size パラメタ

説明：

オブジェクトサーバシステムが、ワークエリアとして一時的に使用する共用メモリを、動的共用メモリといいます。この共用メモリの最大量をキロバイト単位で定義します。定義値には、オブジェクトサーバと連携するプログラムごとに次の計算式を使って算出した値の、合計を指定してください。この共用メモリは、実際にオブジェクトサーバにアクセスしているユーザが使用します。計算式中の「同時にアクセスするユーザ数」には、ログインをして、ほかの業務をしているようなユーザは含まれません。

一つのプログラムで使用する共用メモリ量 × 同時にオブジェクトサーバにアクセスするユーザ数

- オブジェクトサーバと連携するプログラムで使用する共用メモリ量は、それぞれの仕様に従ってください。
- フラグメンテーションを考慮して、10% 程度の余裕を見込んで見積もってください。

注意：



- `static_shmpool_size` 及び `dynamic_shmpool_size` で指定した共用メモリ量が大きいと仮想メモリに指定サイズの連続領域を確保できないことがあります。この場合エラーメッセージ (KFXO00100-E) が出力されますので、`static_shmpool_size` 又は `dynamic_shmpool_size` の指定値を小さくしてください。
- HI-UX/WE2 及び HP-UX を使用し `static_shmpool_size` 又は `dynamic_shmpool_size` を大きくした場合、OS のカーネルパラメタ `shmmax` 値を増やしてください。これを行わずに `xodstart` コマンドを実行すると、オブジェクトサーバが起動できなくなることがあります。

規則：0 ~ 750000 の 符号なし数字 を指定します。

### (8) `dbm_master` パラメタ

説明：

初期設定パラメタで指定したマスタディレクトリのファイル名を指定します。

規則：

ファイル名を、2 ~ 175 バイトの「/」で始まる パス名 で指定します。

(例)

```
/groupbase/database/master_dir
```

### (9) `add_area_limit` パラメタ (High-end Object Server)

次の値のうち、どちらか大きい値を定義します。

- 一度 High-end Object Server を起動してから終了するまでの間に、`xodaradd` コマンドで追加するユーザ用、インデクス用エリアの数の上限値
- データベースのバックアップの取得後、次のデータベースのバックアップを取得するまでの間に、`xodaradd` コマンドで追加するユーザ用、インデクス用エリアの数の上限値

定義値を超えて追加したエリアは、High-end Object Server を再起動するまで使用できません。

注意

- 一度 High-end Object Server を起動してから終了するまでの間にエリアを削除した場合は、定義した値に削除したエリアの数を加えた値が上限になります。削除したエリアの領域は、エリアを追加したときに再利用されません。
- データベースのバックアップの取得後追加したエリアがこの数を超えていた場合、そのエリアの更新ジャーナルを含むアンロードジャーナルを使用してデータベースの回復、又はバックアウトを実行するとエラーになります。この場合、`xodbrstr` コマンドの再実行の後、この値を大きくして、オブジェクトサーバを再起動し、データベースの回復、又はバックアウトを再実行してください。

規則：32 ~ 3173 の 符号なし整数 を指定します。

## 7. オブジェクトサーバのファイル

### (10) ujerror パラメタ

説明：

ユーザジャーナルの出力に失敗した際、処理を続行するか中止するかを指定します。

CONTINUE：処理を続行する。

STOP：処理を中止する。

規則：CONTINUE，又は STOP の 識別子 を一つだけ指定します。

省略時は CONTINUE が仮定されます。

### (11) ujfile パラメタ

UAP 履歴情報の出力ファイルとして、正常時用ユーザジャーナル出力ファイルと障害時用ユーザジャーナル出力ファイルの二つのファイル名を指定します。この指定は、Groupmax Workflow Server の環境設定ユティリティで、ワークフローログレベル0以外を指定したときに必要です。使用方法については、Groupmax Workflow のバージョンによって異なるため、マニュアル「Groupmax Workflow Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

#### (a) -n オペランド

説明：UAP 履歴情報を出力するファイル名を指定します。

規則：

ファイル名は 1 ~ 175 バイトの「/」で始まるパス名で指定します。

#### (b) -e オペランド

説明：

正常時用ユーザジャーナル出力ファイルへの出力に失敗した場合に切り替えて使用する、UAP 履歴情報出力ファイル名を指定します。

規則：

ファイル名は 1 ~ 175 バイトの「/」で始まるパス名で指定します。

### (12) jnl\_output\_file パラメタ (Object Server)

説明：

簡易ジャーナルの出力先のファイル名を定義します。ファイルのパス名は、システム管理者の権限で作成できるパス名で指定してください。この項目を追加又は変更する場合は、出力先にファイルが存在しないようにしてください。

注意：

この項目は、Object Server の異常終了時に追加又は変更しないでください。データベースの回復に必要な前回のジャーナルが読めなくなる場合があります。この場合、Object Server はメッセージを出力して、異常終了します。Object Server が正常終了していることを確認してから、追加又は変更してください。また、追加又は変更後は、エラーメッセージが出力されずに正常に開始することを確認してください。

規則：

ファイル名を、1 ~ 175 バイトの「/」から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。

なお、パス名中のディレクトリはあらかじめ作成しておいてください。

（例）

```
/groupbase/spool/jnlfile
```

### (13) logprint\_system\_id パラメタ

説明：

system\_id パラメタに指定した OMS 識別子をメッセージ（「付録 K.1 メッセージの出力形式」参照）に付加するかどうかを指定します。

Y：OMS 識別子をメッセージに付加する。

N：OMS 識別子をメッセージに付加しない。

規則：

半角 1 文字で Y 又は N を指定します。

省略時は N が仮定されます。

### (14) gcache パラメタ

gcache パラメタでは、グローバルキャッシュを定義します。グローバルキャッシュとはオブジェクトサーバのデータベースページの入出力用バッファキャッシュです。グローバルキャッシュは共用メモリ上に確保されます。

gcache パラメタは、グローバルキャッシュの用途ごとに 1 個ずつ、4 個まで指定できます。

なお、gcache がすべて省略された場合は、次の省略値が仮定されます。

```
gcache -n xod_gcach_area -m 200 -u AREA
gcache -n xod_gcach_oidindex -m 100 -u OIDINDEX
```

#### (a) -n オペランド

説明：

グローバルキャッシュの名称を指定します。グローバルキャッシュ名は、オブジェクトサーバの中で一意な名称を指定してください。

規則：

-n の後ろに 1 ~ 30 バイトの 文字列 を指定します。半角文字と全角文字の両方を指定できます（混在も可能）。

#### (b) -m オペランド

説明：

グローバルキャッシュの面数を指定します。グローバルキャッシュの一面の大きさは、8 キロバイトです。また、グローバルキャッシュの一面に一つのページを入力できます。

規則：

20 ~ 80000 の 符号なし整数 を指定します。-m オペランドを省略すると、-u オペランドの識別子の指定によって、次の値が仮定されます。

## 7. オブジェクトサーバのファイル

-u オペランドに OIDINDEX が指定された場合：100

-u オペランドに OIDINDEX 以外の識別子が指定された場合：80

### (c) -u オペランド

説明：

グローバルキャッシュの用途を、次の識別子のどれかを使って指定します。

AREA：

グローバルキャッシュを、データベースの各エリアの入出力用に使用します。AREA を指定した gcache パラメタを省略すると、次の省略値が仮定されます。

```
gcache -n xod_gcache_area -m 200 -u AREA
```

INDEX：

グローバルキャッシュをインデクス用のエリアの入出力用に使用します。INDEX を使用した gcache パラメタを省略すると、-u AREA のグローバルキャッシュが、インデクス用のエリアの入出力に使用されます。

OIDINDEX：

グローバルキャッシュを OID インデクス用のエリアの入出力に使用します。OIDINDEX を指定した gcache パラメタを省略すると、次の省略値が仮定されます。

```
gcache -n xod_gcache_oidindex -m 100 -u OIDINDEX
```

DICTIONARY：

グローバルキャッシュを、ディクショナリ用のエリアの入出力に使用します。DICTIONARY を指定した gcache パラメタを省略すると、-u AREA のグローバルキャッシュが、ディクショナリ用のエリアの入出力に使用されます。

規則：-u の後ろに AREA,INDEX,OIDINDEX, 又は DICTIONARY の 識別子 を一つだけ指定します。

### (15) resipool パラメタ

resipool パラメタでは、常駐ページプールを定義します。常駐ページプールとは、オブジェクトサーバのデータベースページを共用メモリに常駐するために用意するページプールです。

オブジェクトサーバのデータベースを共用メモリに常駐すると、データベースの入出力回数が削減されるので、性能が向上します。

resipool パラメタは、常駐プールの用途ごとに1個ずつ、3個まで指定できます。

また、-u オペランドに USER 又は CSTYPE を指定した resipool パラメタを指定するときは、必ず resiobj パラメタを共に指定してください。どちらか一方だけを指定しても、ページは常駐されません。

### (a) -n オペランド

説明：

常駐ページプール名称を指定します。この名称は、オブジェクトサーバの中で一意な名称を指定してください。

規則：

1 ~ 30 バイトの 文字列 を指定します。半角文字と全角文字の両方が指定できます（混在も可能）。

### (b) -m オペランド

説明：

常駐ページプールの面数を指定します。常駐ページプールの1面の大きさは、8 キロバイトです。常駐ページプールの1面には、1 ページを常駐します。常駐ページをすべて使用したときには、メッセージが表示されます。常駐ページプールの面数を増やす場合には、一度オブジェクトサーバを終了させてから指定し直してください。

規則：1 ~ 80000 の 符号なし整数 を指定します。

### (c) -u オペランド

説明：常駐ページプールの用途を次の識別子のどれかを使って指定します。

USER：

常駐ページプールをユーザデータベース用エリアのページの常駐に使用します。

CSTYPE：

常駐ページプールをクラスタードストリングタイプオブジェクトのページの常駐に使用します。

DICTIONARY：

常駐ページプールをディクショナリ用エリアのページの常駐に使用します。

規則：USER、CSTYPE、又は DICTIONARY の中から 識別子 を一つだけ指定します。

## (16) resiobj パラメタ

共用メモリに常駐するオブジェクトのタイプを指定します。指定したタイプのオブジェクトが参照又は更新されたときに、そのオブジェクトを含むデータベースページが共用メモリに常駐されます。オブジェクトサーバのデータベースを共用メモリに常駐すると、データベースの入出力回数が削減されるので、性能が向上します。

resiobj パラメタで常駐指定できるタイプ数は、すべてのスキーマのタイプの合計が 32 までです。32 を超えて指定した場合は、33 番目以降の指定は無視されます。resiobj パラメタの -t オペランドにタイプを指定するときは、必ず -u オペランドに USER を指定した resipool パラメタを共に指定してください。また、resiobj パラメタの -t オペランドにクラスタードストリングタイプを指定するときは、必ず -u オペランドに CSTYPE を指定した resipool パラメタを共に指定してください。resiobj パラメタだけを指定しても、ページは常駐されません。

### (a) -s オペランド

説明：

## 7. オブジェクトサーバのファイル

共用メモリ上に常駐するオブジェクトのタイプを定義しているスキーマ名を指定します。指定するスキーマ名は、オブジェクトサーバと連携するプログラムによって決まっています。それぞれのプログラムの規則に従って指定してください。

規則：

1 ~ 63 バイトの 文字列 を指定します。半角文字と全角文字の両方が指定できます（混在も可能）。

### (b) -t オペランド

説明：

共用メモリ上に常駐するオブジェクトのタイプを指定します。指定するタイプ名は、オブジェクトサーバを使用するそれぞれのプログラムによって決まっています。それぞれのプログラムの規則に従って指定してください。常駐の対象となるのは、既にデータベースに定義されているタイプだけです。つまり、オブジェクトサーバを起動してから現在までに新規に定義したタイプは、常駐の対象となりません。このような場合は、オブジェクトサーバをいったん停止して、再起動する必要があります。また、このオペランドで常駐すると指定したタイプは、オブジェクトサーバの動作中に削除できません。

規則：

1 ~ 95 バイトの 文字列 を指定します。半角文字と全角文字の両方が指定できます（混在も可能）。

## 7.3 ステータスサービス定義ファイル (High-end Object Server)

ステータスサービス定義ファイルには、High-end Object Server の環境下で動作する各システムサービスの状態を管理するための実行環境を記述します。ステータスサービスはシステムの稼働状態や終了状態を格納して、障害が発生した場合の回復に使用します。

この節では、ステータスサービス定義の定義項目について説明します。

### 7.3.1 ステータスサービス定義の形式

ステータスサービス定義ファイルは、1行80バイト以内で指定します。80バイトを超える場合は、複数行で指定します。ステータスサービス定義ファイルを複数行にわたって指定する場合には、継続行の末尾に「¥」を記述してください。定義中に「¥」を文字として指定する場合には、文字列全体を「"」で囲ってください。また、コメント行の先頭には「#」を指定してください。

次にステータスサービス定義の形式を示します。

#### ステータスサービス定義の形式

```
set sts_file_name_1="論理ファイル名", ¥
    "A系ステータスファイル名", "B系ステータスファイル名"
[set sts_file_name_2="論理ファイル名", ¥
    "A系ステータスファイル名", "B系ステータスファイル名"]
[set sts_file_name_3="論理ファイル名", ¥
    "A系ステータスファイル名", "B系ステータスファイル名"]
[set sts_file_name_4="論理ファイル名", ¥
    "A系ステータスファイル名", "B系ステータスファイル名"]
[set sts_file_name_5="論理ファイル名", ¥
    "A系ステータスファイル名", "B系ステータスファイル名"]
[set sts_file_name_6="論理ファイル名", ¥
    "A系ステータスファイル名", "B系ステータスファイル名"]
[set sts_file_name_7="論理ファイル名", ¥
    "A系ステータスファイル名", "B系ステータスファイル名"]
```

### 7.3.2 ステータスサービス定義の項目

それぞれの項目について説明します。

#### (1) sts\_file\_name\_1 ~ sts\_file\_name\_7 パラメタ

説明：

最大7個のステータスファイルを指定できます。1個を現用ファイルとして、残り6個を予備ファイルとして作成します。なお、sts\_file\_name\_1からsts\_file\_name\_7に指定する論理ファイル名、A系ステータスファイル名及びB系ステータスファイル名は一意的な名称を指定してください。

規則：

論理ファイル名：

ステータスファイルの論理ファイルを、1～8バイトの識別子で指定しま

## 7. オブジェクトサーバのファイル

す。

A系ステータスファイル：

論理ファイルを構成するA系ステータスファイル名を `パス名` で指定します。

B系ステータスファイル：

論理ファイルを構成するB系ステータスファイル名を `パス名` で指定します。なお、B系ステータスファイルには、A系ステータスファイルと同じレコード長及びレコード数のファイルを指定します。

### 7.3.3 ステータスサービス定義の注意事項

- High-end Object Server の正常開始時に、ステータスサービス定義で最初に指定したステータスファイルが現用になります。残りのステータスファイルのうちオープンできたものは予備、オープンできなかったものは予約になります。
- 再開時には、前回の現用ファイルを引き継ぎます。
- ステータスサービス定義に指定していないステータスファイルは、オンライン中に追加できません。このため、予約の状態を作る場合でも、名称だけはあらかじめ指定しておく必要があります。ファイルの実体は開始時、必ずしもすべて必要ではありません。オンライン中に実体を作成してオープンしてください。
- オブジェクトサーバの正常開始時、再開時又はオンライン中にステータスファイル障害が発生した場合、ステータスファイルをスワップします。ステータスファイルをスワップするには、現用ファイルのほかに、予備用のステータス論理ファイルを定義する必要があります。



## 7.4 システムジャーナルサービス定義ファイル (High-end Object Server)

システムジャーナルサービス定義ファイルには、High-end Object Server で使用するシステムジャーナルファイルにジャーナルを取得するための実行環境を定義します。システムジャーナルファイルには、システムに障害が発生した場合の回復に必要な履歴情報が格納されます。履歴情報は、High-end Object Server が停止した場合の全面回復・部分回復に必要です。High-end Object Server が取得するトランザクション処理の履歴情報を、ジャーナルといいます。

この節では、システムジャーナルサービス定義の定義項目について説明します。

### 7.4.1 システムジャーナルサービス定義の形式

#### (1) set 形式とコマンド形式

システムジャーナルサービス定義には、set 形式とコマンド形式があります。どちらの形式でも、High-end Object Server の開始時に値が決定します。ただしコマンド形式で入力した値は、オンライン中の運用コマンドの入力によって開始時に決定した値の変更ができます。

set 形式は、コマンド形式よりも先に定義してください。

#### (2) set 形式

コメント行の先頭には「#」を指定してください。

```
[set jnl_unload_check = Y|N]
[set jnl_rerun_swap=Y|N]
[set jnl_cdinterval = CDインターバル(100)]
```

#### (3) コマンド形式

```
{{jnladdfg -g ファイルグループ名 [ONL] }}
{{jnladdpf -g ファイルグループ名 -a 物理ファイル名}}
```

### 7.4.2 システムジャーナルサービス定義の項目

それぞれの項目について説明します。

#### (1) set 形式

##### (a) jnl\_unload\_check パラメタ

説明：

交代先を選択する時に、アンロードされていないファイルであっても交代選択時の対象とするかどうかを指定します。Y の場合は、アンロードチェックをするため、交代先選択時の対象としません。N を指定した場合、ジャーナルのアンロードをしなくても良いため運用は容易になりますが、ジャーナルによるデータベースのバックアップからの回復はできなくなります。運用方法により選択してください。

Y：アンロードチェックをするため、交代先選択時の対象としません。

N：アンロードチェックをしないため、交代先選択時の対象とします。

## 7. オブジェクトサーバのファイル

規則：省略した場合は Y が仮定されます。

### (b) jnl\_rerun\_swap パラメタ

説明：

システム再開時にジャーナルをスワップするかどうかを指定します。スワップすることで、物理的にジャーナルを分けることができます。

Y：ジャーナルをスワップします。

N：ジャーナルをスワップしません。

規則：省略した場合は N が仮定されます。

### (c) jnl\_cdinterval パラメタ

説明：

チェックポイントを取得する間隔をジャーナルのブロック数で指定します。1 ブロックは 32 キロバイトです。チェックポイントでは、データベースファイルへ、それまでのデータベースの更新内容がすべて反映されます。オブジェクトサーバの再開時には、チェックポイント以降のジャーナルを基にデータベースが回復されます。データベースの回復時間は、ジャーナル件数に比例するため、再開時間に見合ったチェックポイント間隔を指定してください。

なお、データベースファイルへの write 回数を削減したいなど、チューニングのためにこの値を大きくすることができます。チューニングについては、連携する各 Groupmax のアプリケーションの指示に従ってください。

規則：100 ~ 32000 の 符号なし整数 を指定します。

## (2) コマンド形式

### (a) jnladdfg (ジャーナルのファイルグループの指定)

形式

```
{ {jnladdfg -g ファイルグループ名 [ONL] } }
```

機能

システムジャーナルを構成するファイルグループを指定します。

jnladdfg コマンドは、システムジャーナルサービス定義内に 2 ~ 30 個指定できます。なお、ONL を指定した jnladdfg コマンドは 2 個以上必要です。

ただし、ファイルグループ名は、システムジャーナルサービス定義内で一意な名称にしてください。

オプション

-g ファイルグループ名

ファイルグループ名を 1 ~ 8 バイトの識別子で指定します。

ONL

このファイルグループを、オンライン開始と同時にオープンする場合に指定します。省略した場合は、オンライン開始時にはクローズ状態の予約のファイルグループになります。

運用中にスワップ先のファイルグループがなくて異常終了した場合、前回

起動時にシステムジャーナルサービス定義ファイルの `jnladdfg` のオプションに `ONL` を指定していないファイルグループを `ONL` に変更しても、再起動時、`ONL` の指定は有効にはなりません。スワップ先のファイルグループがなくて異常終了した場合は、「5.3.2 (5) システムジャーナルファイルの操作」の「(g) スワップ先のファイルグループがない場合」に記述している対処を行い、High-end Object Server を再開始してください。再開始が完了した時点で、`ONL` の指定は有効になります。

### (b) `jnladdpf` (ジャーナルの物理ファイルの指定)

#### 形式

```
{ {jnladdpf -g ファイルグループ名 -a 物理ファイル名} }
```

#### 機能

ファイルグループを構成する物理ファイルを指定します。

`jnladdpf` コマンドは、ファイルグループに対して1個だけ指定します。

なお、物理ファイル名は、システム内で一意な名称にしてください。

#### オプション

`-g` ファイルグループ名

ファイルグループ名を1～8バイトの識別子で指定します。

ここで指定するファイルグループ名は、あらかじめ `jnladdfg` コマンドで定義しておきます。

`-a` 物理ファイル名

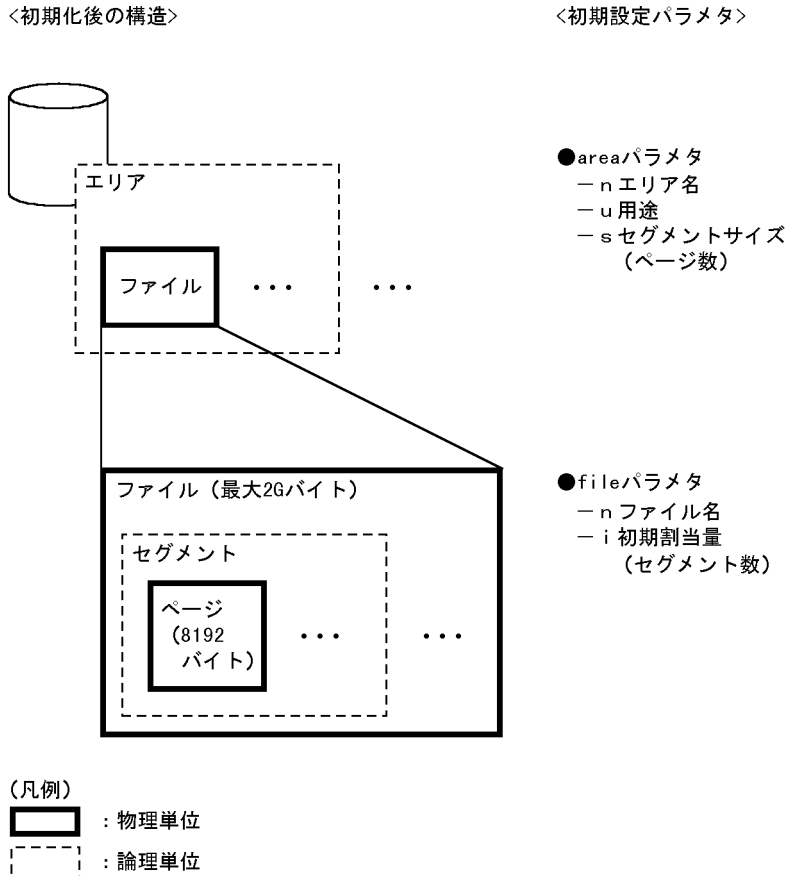
`-g` オプションで指定したファイルグループを構成する物理ファイル名をパス名 名で指定します。

この物理ファイルはジャーナル関係のファイル用として作成したファイルを使用します。

## 7.5 初期設定パラメタファイル

初期設定パラメタファイルには、オブジェクトサーバのデータベースファイルを初期化するために必要な情報を記述します。xodbinit コマンドを実行すると、このファイルに記述した値で、データベースが初期化されます。図 7-1 にデータベース初期化後の構造を示します。

図 7-1 データベース初期化後の構造



データベースを初期化すると、データベースはページという単位に分けられます。1 ページは 8,192 バイトです。複数のページは、セグメントという論理単位にまとめられ、セグメントが集まってファイルとなります。更にファイルは、用途によって、エリアという論理単位にまとめられます。

初期設定パラメタでは、area パラメタにエリアの名称、用途及びセグメントサイズを指定します。エリアに含まれるファイルについては、area パラメタに続く file パラメタによって、名称及び初期割り当て量を指定します。

この節では、初期設定パラメタファイルの定義項目について説明します。

また、初期設定パラメタの指定値から、データベースで使用するファイルの容量を見積もるための計算式については、付録 A.2 参照。

### 7.5.1 初期設定パラメタの形式

初期設定パラメタの形式を示します。

```
{area -n エリア名
    -u 用途
    -s セグメントサイズ
  {{file -n ファイル名
    -i 初期割り当て量
    [-m 最大割り当て量] }}...}...
```

- 1行 80 バイト以内で定義してください。
- 一つのパラメタを複数行にわたって指定する場合には、継続行の末尾に「¥」を指定してください。ただし、「¥」の後ろに空白などの文字があると「¥」以降を継続行とみなしませんので、注意してください。
- パラメタ中に「¥」を文字として指定する場合は、文字列全体を「"」で囲んでください。
- コメント行の先頭には、「#」を指定してください。

(例) Groupmax Document Manager を使用する場合

```
area -n master -u MASTER -s 50
file -n /usr/OMSDB/master_dir -i 2
area -n datadir -u DATADIR -s 50
file -n /usr/OMSDB/data_dir -i 1
area -n dictionary -u DICTIONARY -s 8
file -n /usr/OMSDB/dictionary -i 124
area -n oidindex -u OIDINDEX -s 32
file -n /usr/OMSDB/oidindex -i 41
area -n IS_system_area -u USER -s 1
file -n /usr/OMSDB/user_db_1 -i 175
area -n IS_class_area_1 -u USER -s 32
file -n /usr/OMSDB/user_db_2 -i 233
area -n IS_string_area_1 -u USER -s 1
file -n /usr/OMSDB/user_db_3 -i 568
area -n IS_string_area_2 -u USER -s 1
file -n /usr/OMSDB/user_db_4 -i 568
area -n IS_version_area -u USER -s 190
file -n /usr/OMSDB/version_db -i 1
area -n IS_users_area -u USER -s 26
file -n /usr/OMSDB/users_db -i 1
area -n IS_index_1_area_1 -u INDEX -s 1
file -n /usr/OMSDB/index_1 -i 3444
area -n IS_index_2_area_1 -u INDEX -s 1
file -n /usr/OMSDB/index_2 -i 3444
area -n IS_version_index -u INDEX -s 32
file -n /usr/OMSDB/version_index -i 33
area -n IS_users_index -u INDEX -s 32
file -n /usr/OMSDB/users_index -i 4
```

初期設定パラメタの指定例については、「付録 A 初期設定パラメタの指定例」を参照してください。

### 7.5.2 初期設定パラメタの項目

表 7-3 に初期設定パラメタの項目と指定値の一覧を示します。そして、初期設定パラメタとそれぞれのオペランドについて説明します。

## 7. オブジェクトサーバのファイル

表 7-3 初期設定パラメタの指定値一覧

パラメタ	オペランド	指定内容	指定値					
			マスタディレクトリ	データディレクトリ	ディクシヨナリ	OID インデクス	ユーザデータベース	インデクス
area	-n	エリア名	任意				連携プログラムによる	
	-u	用途	MASTER	DATADIR	DICTIONARY	OIDINDEX	USER	INDEX
	-s	セグメントサイズ	50	50	8	見積もり式 (1)	データ量によってディスクアクセス性能とディスク格納効率を考慮	
file	-n	ファイル名	任意。2 ~ 175 バイトの「/」で始まるパス名を指定					
	-i	初期割り当て量	連携プログラム及び環境による					
	-m	最大割り当て量	不要		<ul style="list-style-type: none"> <li>省略値の計算あり</li> <li>セグメントサイズと最大割り当て量の積が 524,288 以下。それ以上の場合はオブジェクトサーバが定義値を補正 (計算式あり)</li> </ul>			

- 表中の「見積もり式 (1)」は、本文中の見積もり式と対応しています。
- ユーザデータベース用及びインデクス用のセグメントサイズ (area -s) 及び初期割り当て量 (file -i) の適切な設定値の見積もり方法は、それぞれの連携プログラムのマニュアルを参照してください。

### (1) area パラメタ

area パラメタは、オブジェクトサーバで使用するエリアの数だけ、繰り返して指定します。xodbinit コマンドを実行すると、このパラメタに指定したエリア名を持ち、(2) で説明する file パラメタに指定したファイルから構成されるエリアが作成されます。

area パラメタでは、それぞれのエリアの名称と用途を決定します。用途によっては、定義順序及び定義数が決まっています。表 7-4 に、エリアの用途、定義順序及び定義数を示します。

表 7-4 エリアの用途、定義順序及び定義数

項番	エリアの用途	定義順序	定義数	エリアの使用目的
1	マスタディレクトリ	1	1	エリアやファイル、ユーザデータベースやインデクスの構成情報を管理
2	データディレクトリ	2	1	ユーザデータベースやインデクスの定義情報を管理
3	ディクシヨナリ	3	1	

項番	エリアの用途	定義順序	定義数	エリアの使用目的
4	OID インデクス	4	1	ユーザデータベースのオブジェクト ID のインデクス
5	ユーザデータベース	5	1 以上	ユーザデータの格納
6	インデクス	6	0 以上 ユーザデータベース用エリアとインデクス用エリアは、合わせて 3174 個以下にしてください。	ユーザデータベースのインデクスを格納

## 説明：

項番 1 ~ 4 は、オブジェクトサーバのデータベースを管理するためのエリア（オブジェクトサーバ管理ファイル）です。連携するプログラムやシステム的环境によって、設定値が決まります。

項番 5,6 は、連携するプログラムによって使用されるエリア（連携プログラム用データ格納ファイル）です。エリアの設定値については、それぞれのプログラムの規則に従ってください。ユーザデータベース及びインデクスのエリアの設定値を見積もるための連携プログラムの規則及び見積もり方法については、それぞれのマニュアルを参照してください。

## 規則：

初期設定パラメタファイルでは、まず項番 1 ~ 4 のエリアの設定値を記述します。次に、項番 5, 6 については、それぞれにプログラムごとの設定値を並べて指定します。例えば、ユーザデータベースエリアの場合、まず、Groupmax Document Manager の設定値を記述して、次に Groupmax Workflow Server の設定値を記述し、更に Groupmax Address Server の設定値を記述してください。また、初期設定パラメタの例については、「付録 A 初期設定パラメタの指定例」を参照してください。

**(a) -n オペランド**

## 説明：

オブジェクトサーバで使用するエリアの名称を指定します。このエリア名は、オブジェクトサーバの中で一意な名称を指定してください。

## 規則：

-n の後に、1 ~ 30 バイトの 文字列 を指定します。半角文字と全角文字の両方が指定できます（混在も可能）。また、連携するプログラムによって、エリアの名称が決まっている場合があります。それぞれのプログラムの規則に従ってエリア名を指定してください。

**(b) -u オペランド**

## 説明：

オブジェクトサーバで使用するエリアの用途を、次の識別子を使って指定します。オブジェクトサーバのデータベースには、これらのすべての用途のエリア

## 7. オブジェクトサーバのファイル

が必要です。表 7-5 にエリアの用途と識別子を示します。

表 7-5 エリアの用途と識別子

エリアの用途	識別子
マスタディレクトリ	MASTER
データディレクトリ	DATADIR
ディクショナリ	DICTIONARY
OID インデクス	OIDINDEX
ユーザデータベース	USER
インデクス	INDEX

規則：-u の後に識別子を一つだけ指定します。

### (c) -s オペランド

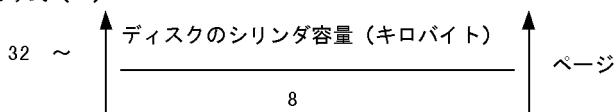
説明：

一つのセグメントの大きさ（セグメントサイズ）を、ページ数で指定します。1 ページのページ長は、8,192 バイトです。ページは、オブジェクトサーバの入出力の単位です。また、セグメントはファイルの割り当て及び増分の単位です。次のエリアのセグメントのサイズは固定です。これ以外の数を指定すると、オブジェクトサーバがこのページ数に補正します。

- ・マスタディレクトリのエリア：50 ページ
- ・データディレクトリのエリア：50 ページ
- ・ディクショナリのエリア：8 ページ

また、OID インデクスのセグメントサイズは次の見積もり式で算出してください。なお、OID インデクスの場合は、ディスクのシリンダ容量が分からない場合、セグメントサイズとして 32 又は 64 を指定してください。

見積もり式（1）



そのほかのエリアのセグメントの大きさは、ディスクアクセス性能と、ディスク格納効率の両方を考慮して決定してください。ただし、セグメントサイズの最大値 16,000 ページを超えないようにしてください。

セグメントのサイズにシリンダサイズを指定すると、アクセス性能が向上します。しかし、セグメントサイズに比べてデータ量が少ない場合には、シリンダサイズより小さい値を指定した方が、格納（スペース）効率が向上します。

また、連携するプログラムによって、エリアのセグメントサイズが決まっている場合があります。それぞれのプログラムの規則に従ってセグメントサイズを指定してください。

シリンダサイズについては、ディスクのハードウェアマニュアルの内容を参照してください。

規則：1 ~ 16000 の 符号なし整数 を指定します。



**(2) file パラメタ**

file パラメタでは、オブジェクトサーバのエリアを構成する、一つ又は複数のファイルを定義します。

file パラメタは、一つの area パラメタ中に、そのエリアに含まれるファイルの数だけ、繰り返して指定します。xodbinit コマンドを実行すると、このパラメタに指定したファイル名、及び大きさ（初期割り当て量）のファイルが作成されます。作成されるファイルの属性を次に示します。

所有者：xodbinit コマンドを実行した人

ファイルパーミッションビット :0664

また、一度作成したファイルを増分する場合の割り当て量は、1 回につき 1 メガバイトです（ただし、セグメントサイズで切り上げます）。なおマスタディレクトリ及びデータディレクトリは増分できません。

**(a) -n オペランド**

説明：

-n オペランドでは、エリアを構成するファイルの名称を指定します。一つのエリアに対して、ファイルは 1 ~ 16 個指定できます。ただし、マスタディレクトリ用エリアには、一つのファイルしか指定できません。

また、一つの連携するプログラムが使用するファイル数とオブジェクトサーバのマスタディレクトリ、データディレクトリ、ディクショナリ、及び OID インデクスのファイル数との合計が、90 個以内になるように定義してください。複数のプログラムと連携している場合は、それぞれが使用するファイル数とオブジェクトサーバのファイル数との合計が、どれも 90 個以内になるように定義してください。91 個以上を指定すると、連携するプログラム及びユーザアプリケーションプログラムの処理を実行するときに、エラーになったり、性能が低下する場合があります。（一つのプログラムが使用するファイル数を見積もるとき、Groupmax Mail Server 以外のプログラムでは、Groupmax Mail Server が使用するファイル数も加えてください。）

また、ファイルサイズの最大値は 2G バイトです。

ファイルを分割すると、一つのファイルのサイズの制限が緩和されます。複数のファイルを別ディスクに割り当てて、負荷を分散させることもできます。

規則：

ファイル名には、2 ~ 175 バイトの「/」で始まる パス名 を指定します。このファイル名は、オブジェクトサーバの中で重複しないよう指定してください。また、OS のファイルシステムの規則に合った名称を指定してください。パス名には空白を含まないようにしてください。

**(b) -i オペランド**

説明：

ファイルの初期割り当て量をセグメント数で指定します。ファイルサイズの最大値は 2G バイトです。次に示す式を満たす値を -i オペランドに指定してください。

## 7. オブジェクトサーバのファイル

$$\begin{array}{l} \text{areaパラメタの} \\ \text{-sオペランドの指定値} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{fileパラメタの} \\ \text{-iオペランドの指定値} \end{array} \leq 262,080$$

オブジェクトサーバ自身が使用するエリアの初期割り当て量の見積もり方法を次に説明します。連携プログラムが使用するエリアの初期割り当て量の固有の規則については、それぞれのマニュアルを参照してください。

### マスタディレクトリ

マスタディレクトリ用のエリアのファイルには、2以上の値を指定してください。2未満の値を指定すると、オブジェクトサーバが定義値を2に補正します。

- Groupmax Document Manager だけを使用する場合及び Groupmax Document Manager と Groupmax Workflow Server 及び Groupmax Address Server を使用する場合：マニュアル「Groupmax Document Manager Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。
- Groupmax Workflow Server, Groupmax Address Server のどちらか一方又は両方を使用する場合：2

### データディレクトリ

- Groupmax Document Manager だけを使用する場合及び Groupmax Document Manager とそれ以外のアプリケーションを共に使用する場合：マニュアル「Groupmax Document Manager Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。
- Groupmax Workflow Server, Groupmax Address Server のどちらか一方又は両方を使用する場合：1

### ディクショナリ

ディクショナリ用エリアのファイルには、15以上の値を指定してください。15未満の値を指定すると、オブジェクトサーバが定義値を15に補正します。

Groupmax Document Manager 使用分 + Groupmax Workflow Server 使用分 + Groupmax Address Server 使用分

それぞれプログラムの使用分については、次に示す、それぞれのマニュアルを参照してください。

- 「Groupmax Document Manager Version 6 システム管理者ガイド」
- 「Groupmax Workflow Version 6 システム管理者ガイド」
- 「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」

### OID インデクス

$$\frac{\text{連携するプログラムが生成するオブジェクト数の合計}}{150 \times \text{OIDインデクスのセグメントサイズ}}$$

注 連携するプログラムが生成するオブジェクト数には、[データベースの再編成]ユーティリティによって、OIDインデクスを再編成するまでに削除されたオブジェクト分も含まれます。

それぞれプログラムの使用分については、それぞれのマニュアルを参照してください。

マスタディレクトリとデータディレクトリのエリアには、初期割り当て量として所要セグメント数を指定してください。これらのファイルは増分されませんので、将来使用する所要量も見込んで計算してください。なお、データディレクトリの場合は、ファイルは増分されませんが、xodaradd コマンドでファイルを追加して、エリアの容量を増やせます。

ディクショナリ、OID インデクス、ユーザデータベース及びインデクスのエリアはファイルが増分されますので、初期割り当て量は所要セグメント数以下でもかまいません。複数のファイルを使用する場合は、file パラメタを複数指定してください。

規則：

1 ~ 524288 の 符号なし整数 を指定します。また、セグメントサイズ（ページ数）と初期割り当て量（セグメント数）の積が 524,288 以下になるよう指定してください。

### (c) -m オペランド

説明：

ファイルの最大割り当て量をセグメント数で指定します。-m オペランドは、ファイルの割り当て量を制限する場合に指定します。次に示す式を満たす値を -m オペランドに指定してください。

$$\text{areaパラメタの} \quad \times \quad \text{fileパラメタの} \quad \leq \quad 262,080$$

-sオペランドの指定値      -mオペランドの指定値

ファイルは、次の状態のどれかになるまで増分されます。

-m オペランドを指定した場合

- ファイルのセグメント数が -m オペランドで指定した最大割り当て量になる
- ファイルシステムが一杯になる
- ファイルサイズが 2G バイトになる
- ファイルのセグメント数が次の値になる

## 7. オブジェクトサーバのファイル

$$\frac{\text{初期割り当て量}}{64,000} \times 64,000$$

-m オペランドを省略した場合

- ファイルシステムが一杯になる
- ファイルサイズが 2G バイトになる
- ファイルのセグメント数が次の値になる

$$\frac{\text{初期割り当て量}}{64,000} \times 64,000$$

ただし -m オペランドは、マスタディレクトリ用及びデータディレクトリ用のエリアに指定しても無視されます。

また、OID インデクスエリア及びインデクスエリアの file パラメタに -m オペランドを指定しないでください。これは、Groupmax のアプリケーションで使用するインデクスキーは通番キーが多いため、古く追加された削除キーの占めていた領域が再利用されにくく、ファイルが増分されやすいためです。

規則：

2 ~ 524288 の 符号なし整数 を指定します。最大割り当て量には、初期割り当て量よりも大きい値を指定してください。また、セグメントサイズと最大割り当て量の積が 524,288 以下になるように指定してください。なお、オブジェクトサーバは最大割り当て量の定義値を次の計算式で求められる値に補正します。

$$\frac{\text{最大割り当て量の定義値} - \text{初期割り当て量}}{\frac{128}{\text{セグメントサイズ}}} \times \frac{128}{\text{セグメントサイズ}} + \text{初期割り当て量}$$

値を見積もるときは、以下の点も考慮してください。

最大割り当て量が小さ過ぎると、エリアの容量が不足したときにファイルの増分ができず、データベースへの書き込みができなくなってしまいます。また、最大割り当て量が大き過ぎると、むだにディスクを使用することがあります。なお、Groupmax サーバ環境設定コマンドを使用して生成されたパラメタの -m オペランドを省略に変更することは好ましくありません。もし、省略に変更した場合は必ず定期的にデータベースの再編成を実行してください。

## 7.6 構成変更パラメタファイル

構成変更パラメタファイルには、オブジェクトサーバのデータベース構成を変更するために必要な情報を記述します。このファイルに、データベースの構成を変更する情報を記述して、データベースの構成を変更するコマンドを実行すると、データベースの構成が変更されます。

### 7.6.1 構成変更パラメタの形式

構成変更パラメタファイルの形式は、初期設定パラメタの形式と同様です。次に、形式を示します。

```
{area -n エリア名
    -u 用途
    -s セグメントサイズ
  {{file -n ファイル名
    -i 初期割り当て量
    [-m 最大割り当て量]}}...}
```

- 1行 80 バイト以内で定義してください。
- 一つのパラメタを複数行にわたって指定する場合には、継続行の末尾に「¥」を指定してください。ただし、「¥」の後ろに空白などの文字があると「¥」以降を継続行とみなしませんので、注意してください。
- パラメタ中に「¥」を文字として指定する場合は、文字列全体を「"」で囲んでください。
- コメント行の先頭には、「#」を指定してください。

### 7.6.2 構成変更パラメタの項目

構成変更パラメタの項目は、初期設定パラメタと同様です。初期設定パラメタについては「7.5.2 初期設定パラメタの項目」を参照してください。ここでは、それぞれの項目を簡単に説明します。

#### (1) area パラメタ

追加するエリアの数だけ、繰り返して指定します。初期設定パラメタとは異なり、エリアの定義順は任意です。

構成変更をするときに追加できるのは、ユーザデータベース及びインデクスのエリアです。連携するプログラムによって、指定値が決まっている場合がありますので、それぞれのプログラムの規則に従って指定してください。

#### (a) -n オペランド

説明：エリアの名称を指定します。

規則：1 ~ 30 バイトの 文字列 を指定します。

#### (b) -u オペランド

説明：エリアの用途を、識別子を使って指定します。

- ユーザデータベース：USER

## 7. オブジェクトサーバのファイル

・インデクス：INDEX

規則：-u の後に識別子を一つだけ指定します。

### (c) -s オペランド

説明：

セグメントサイズをページ数で指定します。1 ページのページ長は、8,192 バイトです。

規則：1 ~ 16000 の 符号なし整数 を指定します。

## (2) file パラメタ

file パラメタは、一つの area パラメタ中に、そのエリアに含まれるファイルの数だけ、繰り返して指定します。

### (a) -n オペランド

説明：ファイルの名称を指定します。

規則：2 ~ 175 バイトの「/」で始まる パス名 を指定します。

### (b) -i オペランド

説明：ファイルの初期割り当て量をセグメント数で指定します。

規則：1 ~ 524288 の 符号なし整数 を指定します。

### (c) -m オペランド

説明：

ファイルの最大割り当て量をセグメント数で指定します。ファイルの割り当て量を制限したい場合にだけ指定してください。ただし、OID インデクスエリア及びインデクスエリアの file パラメタには指定しないでください。

なお、Groupmax サーバ環境設定コマンドを使用して生成されたパラメタの -m オペランドを省略に変更することは好ましくありません。もし、省略に変更した場合は必ず定期的にデータベースの再編成を実行してください。

規則：2 ~ 524288 の 符号なし整数 を指定します。

## 7.6.3 構成変更パラメタの指定方法

構成変更の内容ごとに、構成変更パラメタの指定方法を説明します。

### (1) エリアの追加

構成変更パラメタのすべての項目を指定できます。

area パラメタは、追加するエリアの数だけ、繰り返して指定します。初期設定パラメタとは異なり、エリアの定義順は任意です。file パラメタは、一つの area パラメタ中に、そのエリアに含まれるファイルの数だけ、繰り返して指定します。

追加できるのは、ユーザデータベース用及びインデクス用のエリアです。連携するプログラムによって指定値が決まっている場合がありますので、それぞれのプロ

グラムの規則に従って指定してください。

### (2) ファイルの追加

area パラメタは -n オペランドだけ、file パラメタにはすべてのオペランドを指定できます。それぞれのパラメタは、一つの構成変更パラメタファイルにつき、一つずつしか指定できません。

area パラメタには、ファイルを追加する既成のエリアの名称を指定します。file パラメタには、これから追加するファイルの情報を指定します。

ファイルを追加できるのは、データディレクトリ、ディクショナリ、OID インデクス、ユーザデータベース及びインデクスのエリアです。マスタディレクトリのエリアには追加できません。

### 7.7 再編成パラメタファイル

再編成パラメタファイルには、オブジェクトサーバのデータベースを再編成、又はインデクスを再作成するために必要な情報を記述します。このファイルに、再編成するときを使うファイルなどの情報を記述して、xodbreog コマンドを実行すると、データベースが再編成されます。

#### 7.7.1 再編成パラメタの形式

データベースを再編成するときには reorg パラメタと area パラメタを、インデクスを作り直すときには recreate パラメタを指定してください。三つのパラメタの形式を次に示します。

データベースの再編成 ( reorg パラメタ, area パラメタ )

```
{reorg -u ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称 ¥
      [, ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称]...
      -d ディクショナリエリアのアンロードファイルの名称 ¥
      [-w ワークファイルのディレクトリ名]
      [area -n ユーザエリア名 | ディクショナリエリア名]}...
```

インデクスの再作成 ( recreate パラメタ )

```
{recreate [-d] ¥
      {-t タイプ名 | タイプ番号 [-i インデクス名 | インデクス番号] ¥
      | -a インデクスエリア名 ¥}
      [-w ワークファイルのディレクトリ名]}...
```

規則

- 1行 80 バイト以内で定義してください。
- 一つの項目を複数行にわたって指定する場合には、継続行の末尾に「¥」を指定してください。ただし、「¥」の後ろに空白などの文字があると「¥」以降を継続行とみなしませんので、注意してください。
- パラメタ中に「¥」を文字として指定する場合は、文字列全体を「"」で囲んでください。
- コメントの先頭行には、「#」を指定してください。

#### 7.7.2 再編成パラメタの項目

それぞれの項目について説明します。

##### (1) reorg パラメタ

area パラメタを指定していない場合、再編成の対象となるのは、ユーザデータベースとディクショナリエリア ( エリア中のすべてのオブジェクト ) です。area パラメタを指定すると、area パラメタで指定したエリアのオブジェクトが再編成の対象となります。

また、オブジェクトの再編成と合わせて、インデクスも再作成されます。area パラメタを指定していない場合、OID インデクスも再作成されます。area パラメタを指定している場合、OID インデクスは、オブジェクトの再編成と合わせて自動的に更新されます。



reorg パラメタの -u 及び -d オペランドで指定したアンロードファイルは、xodbreog コマンドの実行時に作成され、xodbreog コマンドが正常終了したときに削除されます。xodbreog コマンドが異常終了した場合には、このファイルは削除されません。このため、再度同じファイル名で xodbreog コマンドを実行する場合は、実行前にこのアンロードファイルを削除してください。

reorg パラメタを複数指定する場合は、繰り返して指定します。reorg パラメタを複数指定した場合は、次のように動作します。

- xodbreog コマンドが正常終了した場合は、指定したパラメタがすべて実行されています。
- パラメタエラーがあった場合は、xodbreog コマンドは実行されません。
- xodbreog コマンドの実行中にエラーが発生した場合は、エラーが発生したパラメタまで実行されています。それ以降のパラメタは実行されずに異常終了します。

### (a) -u オペランド

説明：

ユーザデータベースのエリアを再編成するための、アンロードファイルの名称を指定します。

ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称は、最大 128 個まで指定できます。同じファイル名を指定するとエラーになります。

また、指定されたすべてのユーザデータベースエリアのアンロードファイルは、ユーザデータベースエリアのアンロード処理の開始時にオープンできるかどうか検証されます。

一つのアンロードファイルの所要サイズが、ディスクの空き領域サイズを超えるような大きなデータベースであっても、ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称を 2 つ以上指定することで、xodbreog コマンドを実行できるようになります。

ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称が 2 つ以上指定された場合、100M バイト出力するごとに、その次に指定されたアンロードファイルに出力先が切り替えられます。最後に指定されたアンロードファイルの次の切り替え先は、最初に指定されたアンロードファイルです。

また、アンロードファイルが、以下のいずれかの状態になった場合も、次のアンロードファイルに切り替えられます。

- ディスクに十分な空き領域がないため、アンロードファイルへ書き込めない
- アンロードファイルのサイズが 2G バイトに達した
- プロセスで書き込めるファイルの大きさの上限、又は最大ファイルの大きさに達した

上記の状態になったアンロードファイルは、以後、切り替え先の対象にはなりません。

area パラメタを指定して、-n オペランドにユーザ用エリアのエリア名を指定していない場合、このオペランドの指定は不要です。

規則：1 ~ 175 バイトの パス名 を指定します。

## 7. オブジェクトサーバのファイル

### (b) -d オペランド

説明：

ディクショナリエリアを再編成するための、アンロードファイルの名称を指定します。area パラメタを指定して、-n オペランドにディクショナリ用エリアのエリア名を指定していない場合、このオペランドの指定は不要です。

規則：1 ~ 175 バイトの パス名 を指定します。

### (c) -w オペランド

説明：ワークファイルを作成するディレクトリの名称を指定します。

規則：

1 ~ 175 バイトの パス名 を指定します。省略すると AIX の場合は /tmp , HI-UX/WE2 の場合は /usr/tmp , HP-UX の場合は /var/tmp が仮定されます。

## (2) area パラメタ

再編成パラメタファイルにこのパラメタを指定することで、指定したエリアだけを再編成できます。このパラメタは、reorg パラメタのすぐ後に指定します。複数のエリアを再編成する場合は、繰り返して指定します。

ユニバーサル関連の張られたエリア、及びクラスタードストリングタイプが定義されたエリアを指定した場合、そのユニバーサル関連の管理エリア、及びそのクラスタードストリングタイプを使用しているタイプのあるエリアが指定されていなくてもそれらのエリアにある情報が自動的に更新されます。また、マスタディレクトリエリアについても更新される場合があります。

### (a) -n オプション

説明：

再編成の対象となるエリア名を指定します。

規則：

エリア名は重複して指定できません。また、指定できるエリアは、ユーザ用エリアとディクショナリ用エリアだけです。

## (3) recreate パラメタ

インデクス中のむだな空き領域をなくしたい場合、又はインデクスの内容が不正になった場合、再編成パラメタファイルにこのパラメタを指定することで、インデクスだけ再作成できます。このときオブジェクトは再編成されません。再作成はタイプ単位（インデクス単位）又はエリア単位で実行できます。

複数のインデクスを再編成する場合は、繰り返して指定します。recreate パラメタを複数指定した場合、次のように動作します。

- xodbreog コマンドが正常終了した場合は、指定したパラメタがすべて実行されています。
- パラメタエラーがあった場合は、xodbreog コマンドは実行されません。
- xodbreog コマンドの実行中にエラーが発生した場合は、エラーが発生したパラメタまで実行されています。それ以降のパラメタは実行されずに異常終了しま

す。

### (a) -d オプション

説明：

-d オプションを指定した場合、-i オペランド、-t オペランドでは、インデクス番号及びタイプ番号を指定します。インデクスの障害（KFXO42121-E エラー）によって、インデクスを再作成する場合、-i オペランド、-t オペランドでは、このメッセージに表示されるインデクス番号、タイプ番号を指定してください。  
-d オプションを省略した場合、-i オペランド、-t オペランドでは、インデクスの名称及びタイプ名を指定します。

### (b) -t オペランド

説明：再作成するインデクスを定義したタイプ名又はタイプ番号を指定します。

規則：

タイプ名を指定するときは 1 ~ 95 バイトの 文字列 を、タイプ番号を指定するときは 1 ~ 4294967295 の 符号なし整数 を指定します。

### (c) -i オペランド

説明：

再作成するインデクスの名称又はインデクス番号を指定します。省略すると、-t オペランドで指定したタイプ中のすべてのインデクスが再作成されます。

規則：

インデクスの名称を指定する時は 1 ~ 95 バイトの 文字列 を、インデクス番号を指定するときは 1 ~ 4294967295 の 符号なし整数 を指定します。

### (d) -a オペランド

説明：再作成するインデクスを定義したインデクスエリア名を指定します。

### (e) -w オペランド

説明：ワークファイルを作成するディレクトリの名称を指定します。

規則：

1 ~ 175 バイトの パス名 を指定します。省略すると AIX の場合は /tmp、HI-UX/WE2 の場合は /usr/tmp、HP-UX の場合は /var/tmp が仮定されます。

### 7.8 再構成パラメタファイル

再構成パラメタファイルには、オブジェクトサーバのデータベースの再構成をするために必要な情報を記述します。このファイルに、データベースの再構成をする情報を記述して、データベースの再構成をする `xodbrcons` コマンドを実行すると、データベースが再構成されます。

なお、再構成パラメタファイルに指定する値は、`xodbuse` コマンドで出力した使用状況から見積もれます。見積もり方法については「4.3.2 データベースエリアの使用状況表示」を参照してください。

#### 7.8.1 再構成パラメタの形式

再構成パラメタファイルの形式を次に示します。

```
recreate -u ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称 ¥
          [, ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称]...
          -d ディクショナリエリアのアンロードファイルの名称 ¥
          [-w ワークファイルのディレクトリ名]
{area -n エリア名 ¥
  -u 用途 ¥
  -s セグメントサイズ
{file -n ファイル名 ¥
  -i 初期割り当て量 ¥
  [-m 最大割り当て量]}...}...
```

規則

- 1行 80 バイト以内で定義してください。
- 一つのパラメタを複数行にわたって指定する場合には、継続行の末尾に「¥」を指定してください。ただし、「¥」の後ろに空白などの文字があると「¥」以降を継続行とみなしませんので、注意してください。
- パラメタ中に「¥」を文字として指定する場合は、文字列全体を「"」で囲んでください。
- コメント行の先頭には、「#」を指定してください。

#### 7.8.2 再構成パラメタの項目

それぞれの項目について説明します。area パラメタ及び file パラメタの項目は、初期設定パラメタと同様です。詳細については「7.5.2 初期設定パラメタの項目」を参照してください。

##### (1) recreate パラメタ

再作成の対象となるエリアは、ディクショナリ用エリア、ユーザ用エリア、OID インデクス用エリア及びインデクス用エリアです。

recreate パラメタの `-u` 及び `-d` オペランドで指定したアンロードファイルは、`xodbrcons` コマンドの実行時に作成され、`xodbrcons` コマンドが正常終了したときに削除されます。`xodbrcons` コマンドが異常終了した場合には、このファイルは削除されません。このため同じファイル名で、再度、`xodbrcons` コマンドを実行する場合は、実行前にこのアンロードファイルを削除してください。

### (a) -u オペランド

説明：

ユーザデータベースのエリアを再作成するための、アンロードファイルの名称を指定します。

ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称は、最大 128 個まで指定できます。同じファイル名を指定するとエラーになります。

また、指定されたすべてのユーザデータベースエリアのアンロードファイルは、ユーザデータベースエリアのアンロード処理の開始時にオープンできるかどうか検証されます。

一つのアンロードファイルの所要サイズが、ディスクの空き領域サイズを超えるような大きなデータベースであっても、ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称を 2 つ以上指定することで、xodbrcons コマンドを実行できるようになります。

ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称が 2 つ以上指定された場合、100M バイト出力するごとに、その次に指定されたアンロードファイルに出力先が切り替えられます。最後に指定されたアンロードファイルの次の切り替え先は、最初に指定されたアンロードファイルです。

また、アンロードファイルが、以下のいずれかの状態になった場合も、次のアンロードファイルに切り替えられます。

- ディスクに十分な空き領域がないため、アンロードファイルへ書き込めない
- アンロードファイルのサイズが 2G バイトに達した
- プロセスで書き込めるファイルの大きさの上限、又は最大ファイルの大きさに達した

上記の状態になったアンロードファイルは、以後、切り替え先の対象にはなりません。

ユーザデータベースのエリアを再作成しない場合は、このオペランドの指定は不要です。

規則：1 ~ 175 バイトの「/」から始まるパス名（絶対パス名）を指定します。

### (b) -d オペランド

説明：

ディクショナリエリアを再作成するための、アンロードファイルの名称を指定します。

ディクショナリエリアを再作成しない場合は、このオペランドの指定は不要です。

規則：1 ~ 175 バイトの「/」から始まるパス名（絶対パス名）を指定します。

### (c) -w オペランド

説明：ワークファイルを作成するディレクトリの名称を指定します。

規則：

1 ~ 175 バイトの「/」から始まるパス名（絶対パス名）を指定します。省略す

## 7. オブジェクトサーバのファイル

ると AIX の場合は /tmp , HI-UX/WE2 の場合は /usr/tmp , HP-UX の場合は /var/tmp が仮定されます。

### (2) area パラメタ

再作成するエリアの数だけ、繰り返して指定します。エリアの定義順は任意です。再作成できるのは、ディクショナリ用エリア、ユーザデータベース用エリア、OID インデクス用エリア及びインデクス用エリアです。連携するプログラムによって、指定値が決まっている場合がありますので、それぞれのプログラムの規則に従って指定してください。

#### (a) -n オペランド

説明：エリアの名称を指定します。

規則：1 ~ 30 バイトの <文字列> を指定します。

#### (b) -u オペランド

説明：エリアの用途を、識別子を使って指定します。

- ・ディクショナリ：DICTIONARY
- ・ユーザデータベース：USER
- ・OID インデクス：OIDINDEX
- ・インデクス：INDEX

規則：-u の後に <識別子> を一つだけ指定します。

#### (c) -s オペランド

説明：

セグメントサイズをページ数で指定します。1 ページのページ長は、8,192 バイトです。

規則：1 ~ 16000 の <符号なし整数> を指定します。

### (3) file パラメタ

file パラメタは、一つの area パラメタ中に、そのエリアに含まれるファイルの数だけ、繰り返して指定します。既存のファイルと異なるファイルを指定できます。

#### (a) -n オペランド

説明：ファイルの名称を指定します。

規則：2 ~ 175 バイトの「/」から始まるパス名（絶対パス名）を指定します。

#### (b) -i オペランド

説明：ファイルの初期割り当て量をセグメント数で指定します。

規則：1 ~ 524288 の <符号なし整数> を指定します。

### (c) -m オペランド

説明：

ファイルの最大割り当て量をセグメント数で指定します。ファイルの割り当て量を制限したい場合にだけ指定してください。ただし、OID インデクスエリア及びインデクスエリアの file パラメタには指定しないでください。

なお、Groupmax サーバ環境設定コマンドを使用して生成されたパラメタの -m オペランドを省略に変更することは好ましくありません。もし、省略に変更した場合は必ず定期的にデータベースの再編成を実行してください。

規則：2 ~ 524288 の <符号なし整数> を指定します。

## 7.9 バックアップパラメタファイル

バックアップパラメタファイルは、特定のエリアのバックアップを取る場合に必要です。データベースのすべてのエリアのバックアップを取得する場合は、作成する必要はありません。

バックアップパラメタファイルには、オブジェクトサーバのデータベースのバックアップを取得するために必要な情報、又はデータベースのバックアップを回復するために必要な情報を記述します。このファイルにデータベースの退避先のバックアップファイルの名称を記述して、xodbckup コマンドを実行すると、データベースのバックアップが取得されます。また、xodbrstr コマンドを実行するとバックアップファイル名で指定されたファイルからデータベースを回復します。

### 7.9.1 バックアップパラメタの形式

バックアップパラメタファイルの形式を示します。

バックアップパラメタファイルの形式

```
backup -n バックアップファイル名
[area -n 処理対象エリア名]
.
.
```

- 1行80バイト以内で定義してください。
- 一つの項目を複数行にわたって指定する場合には、継続行の末尾に「¥」を指定してください。ただし、「¥」の後ろに空白などの文字があると「¥」以降を継続行とみなしませんので、注意してください。
- パラメタ中に「¥」を文字として指定する場合は、文字列全体を「"」で囲ってください。
- コメントの先頭行には、「#」を指定してください。

### 7.9.2 バックアップパラメタの項目

それぞれの項目について説明します。

#### (1) backup パラメタ

##### (a) -n バックアップファイル名

説明：

バックアップに使用する場合は、バックアップ先のファイル（データベースバックアップファイル）の名称を指定します。リストアに使用する場合は、xodbckup コマンドで取得したバックアップファイルの名称を指定します。

規則：データベースバックアップファイルの「/」から始まるパス名（絶対パス名）を指定します。



### (2) area パラメタ

説明：

バックアップ，及び回復対象のエリアを限定する場合に，エリアの数だけ繰り返し指定します。なお，対象とするエリアを限定するには注意が必要です。詳細については「4.4 データベースのバックアップの取得」を参照してください。

このパラメタの指定内容は，使用するコマンドによって，次のような意味を持ちます。

xodbckup コマンドで使用する場合

バックアップを取得するエリアを指定します。このパラメタを省略すると，データベース中のすべてのエリアを仮定します。

xodbrstr コマンドで使用する場合

バックアップファイル中に含まれているエリアのうち，特定のエリアだけを回復したい場合に指定します。このパラメタを省略すると，バックアップファイル中のすべてのエリアを仮定します。

#### (a) -n 処理対象エリア名

説明：

処理対象とするエリアのエリア名を指定します。エリア名には，一意な名称を指定してください。

規則：1 ~ 30 バイトの 文字列 を指定します。



---

## 8 . コマンド

---

この章では、オブジェクトサーバ ( Object Server 及び High-end Object Server ) で使用するコマンドについて説明します。

- 8.1 コマンドの一覧と指定方法
- 8.2 システム管理コマンド
- 8.3 データベース管理コマンド
- 8.4 データベースの保守コマンド
- 8.5 データベースの再初期化コマンド
- 8.6 排他管理コマンド
- 8.7 ログメッセージ管理コマンド
- 8.8 データベース診断コマンド
- 8.9 ユーザジャーナル管理コマンド
- 8.10 システムジャーナルファイル管理コマンド ( High-end Object Server )
- 8.11 ステータスファイル管理コマンド ( High-end Object Server )
- 8.12 障害対策コマンド
- 8.13 サーバ管理コマンド
- 8.14 クラスタリング機能用コマンド ( HP-UX を御利用の場合 )
- 8.15 クラスタリング機能用コマンド ( AIX を御利用の場合 )

## 8.1 コマンドの一覧と指定方法

この節ではコマンドの一覧と指定方法について説明します。

### 8.1.1 コマンドの一覧

#### (1) 使用できるコマンドの一覧

オブジェクトサーバで使用できるコマンドの一覧を表 8-1 に示します。

表 8-1 使用できるコマンドの一覧

	コマンド名称	Object Server	High-end Object Server		実行権限		
			動作中に実行	停止中に実行		動作中に実行	停止中に実行
システム管理	アプリケーションプログラム実行モードへの変更	xodprmod	-	-		×	オブジェクトサーバのシステム管理者
	オブジェクトサーバの OS への登録・削除	xodsetup	×		×		スーパーユーザ
	オブジェクトサーバの起動	xodstart	×		×		オブジェクトサーバのシステム管理者
	オブジェクトサーバの終了	xodstop		×		×	
	マルチサービス用のオブジェクトサーバの OS への登録・削除	xodmltup	×	×	×		
データベース管理	データベースへのエリアの追加	xodaradd		×		×	
	データベースのエリアの削除	xodarm		×		×	
	データベースの初期化	xodbinit	×		×		
	データベースへのファイルの追加	xodfladd		×		×	
	データベースのファイルの属性変更	xodflalt		×		×	
データベースの保守	データベースのバックアップ取得	xodbekup	×		×		
	データベースのバックアウト	xodbkout	-	-		×	
	データベースの回復	xodbrecv	-	-		×	
	データベースの再編成	xodbreog		×		×	

コマンド名称			Object Server		High-end Object Server		実行権限
			動作中に実行	停止中に実行	動作中に実行	停止中に実行	
	データベースのリストア	xodbrstr	×		×		
データベースの再構成	データベースのエリアの再作成	xodbrcons		×		×	
データベースの再初期化	データベースのエリアの再初期化	xodarint	×		×		
排他管理	排他制御テーブルのプール使用率の表示	xodlckpl		×		×	
ログメッセージ管理	ログメッセージの出力	xodlogcat					
データベース診断	スキーマ名の表示	xodschls					
	データベースエリアの使用状況の表示	xodbuse					
	データベースのエリアの情報表示	xodarls		×		×	
	ディクショナリの情報表示	xoddicls					
ユーザジャーナル管理	ユーザジャーナルのアンロード	xodujunl		×		×	
ジャーナルファイル管理	システムジャーナルファイルのステータス変更	xodjnlchg	-	-			
	システムジャーナルファイルのクローズ	xodjnlels	-	-		×	
	システムジャーナルファイルの初期設定	xodjnlinit	-	-			
	システムジャーナルの情報表示	xodjnlls	-	-		×	
	システムジャーナルファイルのオープン	xodjnlopn	-	-		×	
	システムジャーナルファイルの削除	xodjnlrm	-	-			
	システムジャーナルファイルのスワップ	xodjnlswp	-	-		×	
	システムジャーナルファイルのアンロード	xodjnlunl	-	-			

## 8. コマンド

コマンド名称		Object Server		High-end Object Server		実行権限
		動作中に実行	停止中に実行	動作中に実行	停止中に実行	
ステータスファイル管理	ステータスファイルのクローズ	xodstscsls	-	-		×
	ステータスファイルの初期設定	xodstsininit	-	-		
	ステータスファイルの情報表示	xodstsls	-	-		×
	ステータスファイルのオープン	xodstsupn	-	-		×
	ステータスファイルの削除	xodstsrnm	-	-		
	ステータスファイルのスワップ	xodstsswp	-	-		×
障害時用	障害発生後の起動環境の修復	xodclear	×		×	
	障害情報の取得	xodras				
サーバ管理	プロセスの状態表示	xodpinfo		×		×
クラスタリング機能	オブジェクトサーバの稼働状態の確認	xodmonitor				
		xodrunchk				

(凡例)

：実行できます。

：ユティリティ実行モードで実行してください。なお、ユティリティ実行モードでは、連携プログラムの実行はできません。

：回復ユティリティ実行モードで実行してください。なお、回復ユティリティ実行モードでは、連携プログラムの実行はできません。

×：実行できません。

-：このプログラムでは使用できません。

注 HP-UX および AIX で御利用の場合だけ使用する機能です。

### (2) コマンド実行時の注意事項

コマンドは、オブジェクトサーバのシステム管理者が実行してください。ただし、xodsetup コマンドは、スーパーユーザが実行してください。

運用コマンドを実行する環境に、環境変数を指定しておくことが必要です。環境変数については、「2.4.2 環境変数の設定」を参照してください。

ステータスファイルの作成と初期化 (xodstsininit) 及びステータスファイルの削除

(xodstsrn) は、現用又は予備状態のファイルには実行できません。

## 8.1.2 コマンドの指定方法

### (1) コマンドの入力方法

オブジェクトサーバのコマンドは、シェルに入力して実行します。

### (2) コマンドの記述形式

コマンドの記述形式を次に示します。

コマンド名 [ オプション ... ] [ コマンド引数 ... ]

(例)

```
$ cmd -n -o 99 server1
cmd      : コマンド名
-n, -o 99 : オプション
server1  : コマンド引数
```

#### (a) コマンド名

コマンド名は、実行するコマンドのファイル名称です。スーパーユーザ又はオブジェクトサーバのシステム管理者だけが、これらのファイルにアクセスできます。

#### (b) オプション

オプションの入力方法を次に示します。

なお、次の説明中に使用する「\$」はシェルのプロンプト、「cmd」はコマンド名称を表します。

オプションの形式

オプションはマイナス記号 (-) で始まる文字列で、場合によっては一つの引数をとります。

形式 1 : - オプションフラグ

形式 2 : - オプションフラグ フラグ引数

(凡例)

オプションフラグ : 1 文字の英文字。大文字と小文字は区別されます。

フラグ引数 : オプションフラグに対する引数です。

なお、一つのコマンドに指定できるフラグ引数の長さ (バイト数) の総和は、(256 - 指定されたフラグ引数の数) 以下でなければなりません。

オプションの指定規則

- フラグ引数をとらないオプションフラグは、一つのマイナス記号の後にまとめて指定できます。

(例)

次の二つは同じ意味です。

```
$ cmd -a -b -c
```

```
$ cmd -abc
```

- フラグ引数をとるオプションフラグのフラグ引数は、省略できません。
- オプションフラグとフラグ引数の間には、空白又はタブが必要です。

## 8. コマンド

(例)

誤 : \$ cmd -f

正 : \$ cmd -f

- フラグ引数中に空白を含める場合は、前後を引用符 (") で囲まなければなりません。

(例)

オプションフラグ : f

フラグ引数 : 1 2

\$ cmd -f "1 2"

- 同じオプションフラグを 2 回以上指定できません。

(例)

誤 : \$ cmd -a 1 -a 2

- オプションは、コマンド引数の前に指定しなければなりません。

(例)

オプションフラグ a が引数をとらない場合、file 及び -b はコマンド引数とみなされます。

\$ cmd -a file -b

- 二つのマイナス記号は、オプションの終わりを示します。

(例)

-b はコマンド引数とみなされます。

\$ cmd -a -- -b

- マイナス記号だけのオプションは入力できません。

(例)

- は、コマンド引数とみなされます。

\$ cmd -

### (c) コマンド引数

コマンド引数は、コマンドの操作対象を表します。

なお、一つのコマンドに指定できるコマンド引数の長さ (バイト数) の総和は、(256 - 指定されたコマンド引数の数) 以下でなければなりません。



---

## 8.2 システム管理コマンド

この節では、システムを管理する上で使用するコマンドについて説明します。  
次にシステム管理コマンドを示します。

xodprmod (アプリケーションプログラム実行モードへの変更)

xodsetup (オブジェクトサーバの OS への登録・削除)

xodstart (オブジェクトサーバの起動)

xodstop (オブジェクトサーバの終了)

xodmltup (マルチサービス用のオブジェクトサーバの OS への登録・削除)  
(High-end Object Server) (HP-UX を御利用の場合)

---

### xodprmod (アプリケーションプログラム実行モードへの変更)

#### 形式

```
xodprmod -a
```

#### 機能

オブジェクトサーバの実行モードをユティリティ実行モード及び回復ユティリティ実行モードから、アプリケーションプログラム実行モードに変更します。オブジェクトサーバを起動するときに、ユティリティ実行モード又は回復ユティリティ実行モードで起動した場合は、連携するプログラムを実行する前に、このコマンドでアプリケーションプログラム実行モードに変更してください。

#### オプション

-a

オブジェクトサーバの状態をアプリケーションプログラム実行モードに変更します。

#### 注意事項

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

このコマンドは、ほかのコマンドと同時に実行できません。

このコマンドでモードを変更した後で、コマンドによって、更にユティリティ実行モードに戻すことはできません。再度ユティリティを実行する場合は、いったんオブジェクトサーバを終了させて、ユティリティ実行モードで起動してください。

---

### xodsetup (オブジェクトサーバの OS への登録・削除)

#### 形式

```
xodsetup [-d [-y | -n]] homedir
```

#### 機能

指定されたディレクトリ (homedir) にオブジェクトサーバの実行環境を設定して、オブジェクトサーバを OS に登録します。あるいは、OS の登録からオブジェクトサーバを削除します。登録か削除かはオプションで指定します。

オブジェクトサーバが OS に登録されると、次回からは、OS を起動した時点でオブジェクトサーバの一部のシステムが起動する環境になります。この環境では、OS を起動した時点でオブジェクトサーバの開始コマンド (xodstart) を入力できます。

#### オプション

##### 省略

指定されたディレクトリ (homedir) にあるオブジェクトサーバを OS に登録します。

##### -d

指定されたディレクトリ (homedir) にあるオブジェクトサーバを、OS の登録から削除します。このオプションを指定すると、システムは homedir にあるオブジェクトサーバを削除するかどうか質問してきます。

##### -y

このオプションを指定すると、-d オプションを指定することによって表示される、オブジェクトサーバを削除するかどうかの問い合わせに対して、y を応答するとみなします。

##### -n

このオプションを指定すると、-d オプションを指定することによって表示される、オブジェクトサーバを削除するかどうかの問い合わせに対して、n を応答するとみなします。

#### コマンド引数

##### homedir

OS に登録、又は OS から削除するオブジェクトサーバのホームディレクトリをパス名 で指定します。

#### 注意事項

このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。

オブジェクトサーバを OS の登録から削除する場合は、オブジェクトサーバが終了してから、このコマンドを実行してください。

このコマンドは、必ず次のどちらかの方法で実行してください。このとき、`/usr/HiOODB/bin` (OS が AIX 及び HP-UX の場合は `/opt/HiOODB/bin`) を環境変数の PATH に設定しないでください。

- `xodsetup` コマンドを パス名 (`/usr/HiOODB/bin/xodsetup`) で実行します。
- `/usr/HiOODB/bin` にカレントディレクトリを移して実行します。

このコマンドでの OS の登録がエラーになった場合は、一度 `xodsetup -d` コマンドを実行してください。その後再度 `xodsetup` コマンドを実行してください。

このコマンドで一つのマシン上に複数のオブジェクトサーバを登録しないでください。

上書きインストール (プログラムのバージョンアップ) やアンインストール (プログラムの削除) など、オブジェクトサーバのロードモジュールの入れ替えや削除を行う場合は、`xodsetup -d` コマンドを実行してから行ってください。

## xodstart (オブジェクトサーバの起動)

### 形式

```
xodstart [-n | -u | -r]
```

### 機能

オブジェクトサーバを起動します。起動時のモードにはアプリケーションプログラム実行モード、ユティリティ実行モード及び回復ユティリティ実行モードがあります。起動時のモードはオプションによって指定します。

### オプション

#### 省略

前回の終了形態から開始形態を決定します。

#### -n

前回の終了形態を無視して正常開始します。データベースをバックアップからリストアした場合に指定します。

#### -u

ユティリティ実行モードで起動します。

前回の終了形態が正常終了の場合だけ、起動できます。異常終了の場合には、まずデータベースを回復してから、再度、ユティリティ実行モードで起動してください。データベースの回復方法については、「6.1 異常終了時の回復方法」を参照してください。

回復ユティリティ (`xodbrecv` コマンド及び `xodbkout` コマンド) 以外のオブジェクトサーバのユティリティを実行できます。

#### -r (High-end Object Server)

回復ユティリティ実行モードで起動します。前回の終了形態を無視して正常開始

## 8. コマンド

します。回復ユティリティ (xodbrecv コマンド及び xodbkout コマンド) を実行できます。

### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

- 0 : 正常終了
- 0 以外 : 異常終了

### 注意事項

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。必ずオブジェクトサーバのシステム管理者がこのコマンドを入力して、起動させてください。

オブジェクトサーバを自動起動しようとした時に、システムコンソールに次のメッセージが出力されて自動起動できない場合があります。

- KFXO01815-E システムでエラーが発生しました。名称 : semctl 関数値 =-1 errno=22
- KFXO00105-E YYY (ZZZ) (pid=XXXX) killed by code=ascmw11 info[ adm scmdw]

メッセージの詳細は「付録 K メッセージ」の、対応するメッセージを参照してください。

これは、`/etc/inittab` に登録されているオブジェクトサーバのプロセス制御プロセス (名称 : `prcd`) が起動する前に、`xodstart` コマンドを実行したためです。

この場合、次の手順に従って自動起動を実行してください。

1. プロセス制御プロセス (`prcd` プロセス) を起動します。  
起動は、OS の `init` デーモンによって自動的に起動されます。
2. `ps -ef | grep prcd` を実行して、プロセス制御プロセスが実行していることを確認します。
3. 手順 2. を確認してから 3 分以上経ってから、`xodstart` コマンドを実行します。

`xodstart` コマンドは、`prcd` プロセスの起動が完了してから起動する必要があります。このため、`xodstart` コマンドの実行は、`at` コマンドなどでジョブスケジューリングしてください。

---

## xodstop (オブジェクトサーバの終了)

### 形式

```
xodstop [-a | -f][-d]
```

### 機能

オブジェクトサーバを終了します。

## オプション

### 省略

オブジェクトサーバを正常に終了させます（正常終了）。通常、オブジェクトサーバを終了させる場合に使用します。オブジェクトサーバを正常終了させると、データベースにアクセスしているユーザがいる場合は、処理を終了してからオブジェクトサーバを終了します。この間、新たにデータベースにアクセスできません。

### -a ( High-end Object Server )

オブジェクトサーバを計画停止で終了させます。次回開始時に、再開又は強制正常開始のどちらかを選べます。

### -f

オブジェクトサーバを強制的に終了させます（強制終了）。強制終了は、システムを即時に終了させたい場合に使用します。

オブジェクトサーバを強制終了させても、動作中の、オブジェクトサーバと連携しているプログラムは終了しません。また、データベースの更新中に強制終了させると、データベースが不正な状態になる場合があります。

### -d

オブジェクトサーバを強制終了させて、同時にコアダンプを出力します。このオプションは、`-f` オプションを指定したときだけ有効です。

## 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

- 0 : 正常終了
- 0 以外 : 異常終了

## 注意事項

オブジェクトサーバのシステム管理者がこのコマンドを入力してください。オブジェクトサーバを終了してこのコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

`xodstop` コマンドは、オブジェクトサーバを使用するほかのプログラムを終了した後実行してください。

オブジェクトサーバを強制終了させた場合、データベースが一部だけ更新されて、不正な状態になっている場合があります。そのため、データベースのバックアップを取るなどの操作は、オブジェクトサーバを正常終了させた後に実行してください。なお、強制終了によって不正になったデータベースは、オブジェクトサーバを再起動すると、回復されます。

次の場合、`xodstop` コマンドの応答が数分間ない場合があります。

- オブジェクトサーバの連携プログラムを停止する前に `xodstop` コマンドによってオブジェクトサーバを停止した場合
- Groupmax の停止作業中に `xodstop` コマンドを実行した時、メッセージ `KFXO01840-I` が出力された場合

## 8. コマンド

これらの場合、連携プログラムが稼働しているかどうか確認して、稼働している場合は停止してください。連携プログラムの停止後、xodstop コマンドが停止します。

なお、連携プログラムを停止させなかった場合、xodstop コマンド入力後、一時間経つと、オブジェクトサーバは強制終了します。この場合は、データベースを回復するために、xodstart コマンドを実行してください。正常に起動できたことを確認した後、再度 xodstop コマンドを実行してオブジェクトサーバを正常終了させてください。

---

### xodmltup ( マルチサービス用のオブジェクトサーバの OS への登録・削除 )( High-end Object Server )( HP-UX を御利用の場合 )

#### 形 式

```
xodmltup -s homedir
xodmltup -d homedir [-y|-n]
xodmltup -v
```

#### 機 能

HP-UX 上で動作する High-end Object Server だけの機能です。

一つのマシン上に複数のオブジェクトサーバを OS に登録したり、削除します。

指定されたディレクトリ ( homedir ) にオブジェクトサーバの実行環境を設定して、オブジェクトサーバを OS に登録します。あるいは、OS の登録からオブジェクトサーバを削除します。また、このコマンドで OS に登録したオブジェクトサーバの情報を表示します。

オブジェクトサーバが OS に登録されると、次回からは、OS を起動した時点でオブジェクトサーバの一部のシステムが起動する環境になります。この環境では、OS を起動した時点でオブジェクトサーバの開始コマンド ( xodstart ) を入力できます。

#### オプション

##### -s homedir

オブジェクトサーバの実行環境を設定するディレクトリのパス名をホームディレクトリ ( homedir ) として指定します。指定されたディレクトリ ( homedir ) にあるオブジェクトサーバを OS に登録します。

##### -d homedir [-y | -n]

OS の登録から削除するオブジェクトサーバのホームディレクトリのパス名を homedir に指定します。このオプションを指定すると、システムは homedir にあるオブジェクトサーバを削除するかどうか質問してきます。ただし、-y オプションを指定すると、-d オプションを指定することによって表示される、オブジェクトサーバを削除するかどうかの問い合わせに対して、y を応答するとみなします。

-n オプションを指定すると、-d オプションを指定することによって表示される、オブジェクトサーバを削除するかどうかの問い合わせに対して、n を応答するとみなします。

-v

OS に登録したオブジェクトサーバの情報を表示します。

### 出力形式

-v オプションを指定した時の出力形式を、以下に示します。

```
homedir
1 aa...aa
2 bb...bb
:
```

(凡例)

aa...aa,bb...bb : -s オプションで指定されたディレクトリ (homedir)

### 注意事項

このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。

オブジェクトサーバを OS の登録から削除する場合は、指定するディレクトリに対応したオブジェクトサーバが終了してから、このコマンドを実行してください。

このコマンドでの OS の登録がエラーになった場合は、一度 `xodmltup -d` コマンドを実行してください。その後再度 `xodmltup` コマンドを実行してください。

上書きインストール (プログラムのバージョンアップ) やアンインストール (プログラムの削除) など、オブジェクトサーバのロードモジュールの入れ替えや削除を行う場合は、OS へ登録したホームディレクトリをすべて `xodmltup -d` コマンドを実行し OS の登録から削除後、行ってください。

`xodsetup` コマンドで OS へ登録しているホームディレクトリがある場合は、このコマンドを実行しないでください。

このコマンドで OS へ登録しているホームディレクトリがある場合は、`xodsetup` コマンドを実行しないでください。

---

## 8.3 データベース管理コマンド

この節では、データベースを管理するためのコマンドについて説明します。データベース運用 / 保守のコマンドは次の六つです。

xodaradd ( データベースへのエリアの追加 )  
xodarrm ( データベースのエリアの削除 )  
xodbinit ( データベースの初期化 )  
xodbcns ( データベースのエリアの再作成 )  
xodfladd ( データベースへのファイルの追加 )  
xodflalt ( データベースのファイルの属性変更 )

---

### xodaradd ( データベースへのエリアの追加 )

#### 形 式

xodaradd -f 構成変更パラメタファイル名

#### 機 能

オブジェクトサーバのデータベースに、構成変更パラメタファイル中の area パラメタ及び file パラメタで指定されたエリアを追加します。追加できるのは、ユーザデータベース用及びインデクス用のエリアです。このコマンドは、構成変更パラメタファイルを作成した後で実行してください。

コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「xodresult」に出力されます。

#### オプション

##### -f 構成変更パラメタファイル名

構成変更パラメタファイル名を 255 バイト以下の パス名 で指定します。

#### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了。すべてのエリアの追加に成功しました。

0 以外 : 異常終了。一部のエリアの追加が成功している場合を含みます。

#### 注意事項

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

一度オブジェクトサーバを起動してから終了するまでの間に追加することができるエリア数は、Object Server では 32 個、High-end Object Server ではシステム共通定義の add\_area\_limit の値です。この数を超えてエリアを追加した場合、オブジェクトサーバを再起動するまで、そのエリアに対してオブジェクト



サーバと連携するプログラムのデータベースの作成，エリアの削除，ファイルの追加，及びファイルの属性変更はできません。

ただし，Object Server では 32 個，High-end Object Server では `add_area_limit` の値に一度オブジェクトサーバを起動してから終了するまでの間に削除したエリアの数を加えた個数が上限になります。削除したエリアの領域は，エリアを追加したときに再利用されます。

オブジェクトサーバのデータベースは，`xodbinit` コマンドですべて再初期化する場合を除いて，OS のコマンドによってデータベースのファイルを削除しないでください。OS のコマンドによってファイルを削除した場合，マスタディレクトリとの不整合が発生し，オブジェクトサーバが起動できなくなります。誤って削除してしまった場合は，「4.5 データベースの回復」に従って情報間の同期ずれが発生しないようにデータベースを回復してください。

ファイルを削除する場合は，必ず `xodarrm` コマンドを使用してエリア単位で削除してください。エリアの削除によって，エリアを構成するすべてのファイルが削除されます。

エリアを追加した後で，オブジェクトサーバを再起動すると，追加したエリア数分だけ静的共用メモリの総量が増加するので，システム共通定義で指定する `static_shmpool_size` は，余裕を持って計算してください。

`xodaradd` コマンドが正常終了した時点で，バックアップを取得してください。

High-end Object Server では，`xodaradd` コマンドの実行後の運用に備えて，システムジャーナルファイルの容量を見直してください。システムジャーナルサービス定義で `set` 形式に「`set jnl_unload_check=Y`」を指定した場合又は `set` 形式の指定を省略した場合は，必ずシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。

## xodarrm ( データベースのエリアの削除 )

### 形 式

```
xodarrm -n エリア名
```

### 機 能

連携するプログラムの環境の削除などで不要になったエリアを，オブジェクトサーバのデータベースから削除します。削除できるのは，ユーザデータベース用及びインデクス用のエリアです。エリアの削除によって，エリアを構成するすべてのファイルが削除されます。

コマンドの処理結果は，オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「`xodresult`」に出力されます。

### オプション

#### -n エリア名

エリア名を 1 ~ 30 バイトの 文字列 で指定します。

## 8. コマンド

### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

- 0 : 正常終了
- 0 以外 : 異常終了

### 注意事項

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

削除するエリアに連携しているプログラムがデータベースを作成していると、そのエリアを削除することはできません。まず、連携するプログラム側でそれらのデータベースを削除してから、データベースのエリア削除コマンドを実行してください。

xodarrm コマンドが正常終了した時点で、バックアップを取得してください。

High-end Object Server では、xodarrm コマンドの実行後の運用に備えて、システムジャーナルファイルの容量を見直してください。システムジャーナルサービス定義で set 形式に「set jnl\_unload\_check=Y」を指定した場合又は set 形式の指定を省略した場合は、必ずシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。

---

## xodbinit (データベースの初期化)

### 形式

```
xodbinit [-n ノード ID] -f 初期設定パラメタファイル名
```

### 機能

オブジェクトサーバのデータベースを初期化します。オブジェクトサーバを導入するときに、初期設定パラメタファイルを作成した後で実行してください。

コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「xodresult」に出力されます。

### オプション

#### -n ノード ID

ここで指定した値が、このオブジェクトサーバのノード ID になります。複数のオブジェクトサーバを運用する場合には、ノード ID によってデータベースを識別しますので、それぞれが異なるノード ID を持つように指定してください。データベースを初期化するときには、同じノード ID を持つデータベースがあるかどうかをチェックしません。

ノード ID を指定すると、オブジェクトを生成するとき、そのデータベースのノード ID がオブジェクト ID の中に設定されます。そのため、すべてのオブジェクト ID が一意な値になります。

- ・ 1 ~ 16382 の 符号なし整数 を指定してください。

**-f 初期設定パラメタファイル名**

初期設定パラメタファイル名を `パス名` で指定します。

**終了ステータス**

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了

0 以外 : 異常終了

**注意事項**

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

すべてのエリアの初期化が正常に終了したときだけ、このコマンドは正常終了します。コマンドの実行中にエラーが起こった場合には、エラーの原因を取り除いてから、すべてのエリアを初期化してください。

xodbinit コマンドの処理中にエラーが発生すると、xodbinit コマンドで作成したファイルは、すべて削除されます。

データベースを再度初期化したい場合、まず、xodbinit コマンドで作成したファイルをすべて削除してから、xodbinit コマンドを実行してください。

xodbinit コマンドでデータベースをすべて再初期化する場合を除いて、OSのコマンドでオブジェクトサーバのデータベースのファイルを削除しないでください。OSのコマンドによってファイルを削除した場合、マスタディレクトリとの不整合が発生し、オブジェクトサーバが起動できなくなります。誤って削除してしまった場合は、「4.5 データベースの回復」に従って情報間の同期ずれが発生しないようにデータベースを回復してください。

ファイルを削除する場合は、必ず xodarrm コマンドを使用してエリア単位で削除してください。エリアの削除によって、エリアを構成するすべてのファイルが削除されます。

High-end Object Server で xodbinit コマンドの実行後の運用に備えて、システムジャーナルファイルの容量を見直してください。システムジャーナルサービス定義で set 形式に「set jnl\_unload\_check=Y」を指定した場合又は set 形式の指定を省略した場合は、必ずシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。

**xodbrcons (データベースのエリアの再作成)****形 式**

```
xodbrcons -f 再構成パラメタファイル名
```

**機 能**

ユーザの使用環境の変化によって構成が不適切となったエリアを指定されたパラメタで作成し直します。再作成の対象となるエリアは、ディクショナリ用エリア、ユーザ用エリア、OID インデクス用エリア及びインデクス用エリアです。

## 8. コマンド

なお、データベースに障害が発生している場合、データベースのエリアの再作成はできません。

ディクショナリ用、又はユーザ用エリアを再作成する場合、該当するエリアをアンロードし、エリアを再初期化した後にリロードします。リロードするときには、該当するエリアだけでなく、OID インデクスエリア、エリア内のオブジェクトに付けられたインデクス、及び関連付けられたオブジェクトを格納するエリアも更新しません。

OID インデクス用エリア及びインデクス用のエリアを再作成する場合、該当するエリアを再初期化した後にインデクスを再作成します。インデクスの再作成では、オブジェクトデータを物理順に検索してインデクスの情報を生成し、その情報を基にインデクスを作り直します。

また、xodbrcons コマンドでは、マスタディレクトリ及びディクショナリエリアも更新します。

コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「xodresult」に出力されます。コマンドが正常に終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されます。

エラーが発生した場合には、正常終了のメッセージが出力されません。このときには、標準出力に出力されたエラーメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

### オプション

#### -f 再構成パラメタファイル名

再構成パラメタファイル名を 255 バイト以下のパス名で指定します。

### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了

0 以外 : 異常終了

### 注意事項

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

このコマンドでは、再作成するエリア、及びリロードで更新するエリアの更新情報をジャーナルファイルに出力しないため、障害発生時にジャーナルを使ったデータベースの回復ができません。障害に備えてコマンド実行前にデータベースのバックアップを取得してください。また、コマンドが正常終了した場合もその後の障害に備えてバックアップを取得してください。

このコマンドで作成したアンロードファイルは、データベースの障害時のバックアップには使用できません。データベースの障害を回復するためのバックアップは、xodbekup コマンドを使用して取得しておいてください。

このコマンドを実行すると再構成パラメタファイルの `recreate -u` 及び `-d` オペランドで指定したアンロード用ファイルが作成されます。このファイルは正常終

了時には削除されますが、異常終了時には削除されません。そのため異常終了した後に同じアンロード用ファイルを使って xodbrcons コマンドを実行するときは、このファイルを削除してください。

このコマンドが異常終了した場合、その終了メッセージが KFXO57977-E のときはデータベースが不完全な状態になっています。この場合、再構成パラメタファイルの file パラメタで指定したファイルが残っていることがあるので削除してください。その後、データベースをバックアップによって回復してください。終了メッセージが KFXO57032-E のときには、データベースの回復は必要ありません。

High-end Object Server で xodbrcons コマンドの実行後の運用に備えて、システムジャーナルファイルの容量を見直してください。システムジャーナルサービス定義で set 形式に「set jnl\_unload\_check=Y」を指定した場合又は set 形式の指定を省略した場合は、必ずシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。

## xodfladd ( データベースへのファイルの追加 )

### 形 式

```
xodfladd -f 構成変更パラメタファイル名
```

### 機 能

構成変更パラメタファイル中の area パラメタで指定されたエリアに、file パラメタで指定されたファイルを追加します。ただし、マスタディレクトリのエリアには、ファイルを追加できません。

このコマンドは、構成変更パラメタファイルを作成した後で実行してください。

コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「xodresult」に出力されます。

### オプション

#### -f 構成変更パラメタファイル名

構成変更パラメタファイル名を 255 バイト以下の パス名 で指定します。

### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了  
0 以外 : 異常終了

### 注意事項

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

オブジェクトサーバのデータベースは、xodbinit コマンドですべて再初期化する場合を除いて、OS のコマンドによってデータベースのファイルを削除しないで

## 8. コマンド

ください。OS のコマンドによってファイルを削除した場合、マスタディレクトリとの不整合が発生し、オブジェクトサーバが起動できなくなります。誤って削除してしまった場合は、「4.5 データベースの回復」に従って情報間の同期ずれが発生しないようにデータベースを回復してください。

ファイルを削除する場合は、必ず `xodarrm` コマンドを使用してエリア単位で削除してください。エリアの削除によって、エリアを構成するすべてのファイルが削除されます。

`xodfladd` コマンドが正常終了した時点で、バックアップを取得してください。

High-end Object Server では、`xodfladd` コマンドの実行後の運用に備えてシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。システムジャーナルサービス定義で `set` 形式に「`set jnl_unload_check=Y`」を指定した場合又は `set` 形式の指定を省略した場合は、必ずシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。

---

### xodflalt (データベースのファイルの属性変更)

#### 形式

```
xodflalt -n エリア名 -f ファイル名 -m 最大割り当て量
```

#### 機能

指定されたファイルの属性を変更します。変更できるのは、ファイルの最大割り当て量です。

#### オプション

##### -n エリア名

属性を変更するファイルのあるエリアのエリア名を 1 ~ 30 バイトの 文字列 で指定します。

##### -f ファイル名

属性を変更するファイルのファイル名を 2 ~ 175 バイトの パス名 で指定します。

##### -m 最大割り当て量

変更後の最大割り当て量をセグメント数で指定します。0 ~ 524288 の 符号なし整数 を指定してください。

セグメントサイズと最大割り当て量の積は、524,288 以下にしてください。また、次に示す式の値より小さい数を指定してください。これらが守られなかった場合には、エラーになります。

$$\frac{\text{MAX}(i, m)}{64,000} \times 64,000$$

(凡例) i : 初期設定パラメタで指定した、このファイルの初期割り当て量 (セグメント)  
 m : 初期設定パラメタで指定した、このファイルの最大割り当て量 (セグメント)

-m オプションに指定した値によって、変更後の最大割り当て量は表 8-2 のように扱われます。

表 8-2 最大割り当て量に指定した値による仮定値の扱い

指定値	オブジェクトサーバの処理
0	省略値とみなす。 (初期設定パラメタでの省略値と同様) 注：Groupmax サーバ環境設定コマンドを使用して生成された初期設定パラメタ、構成変更パラメタ、再構成パラメタを使用して、このエリアを作成している場合、この指定 (0) に変更することは好ましくありません (ファイルを増分させるために一時的に 0 に変更することは構いません)。もし、長期間、最大割り当て量をこの指定 (0) に変更したまま運用する場合は必ず定期的にデータベースの再編成を実行してください。
現在のセグメント数を超える	-m オプションに指定した値に変更する。
現在のセグメント数以下	エラーとなる。最大割り当て量は変更しない。

### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

- 0 : 正常終了
- 0 以外 : 異常終了

### 注意事項

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

High-end Object Server では、xodflalt コマンドの実行後の運用に備えて、システムジャーナルサービス定義で、set 形式に「set jnl\_unload\_check=Y」を指定した場合又は set 形式の指定を省略した場合には、必ずシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。

## 8.4 データベースの保守コマンド

この節ではデータベースを保守するために使用するコマンドについて説明します。

xodbckup (データベースのバックアップ取得)

xodbkout (データベースのバックアウト [High-end Object Server])

xodbrecv (ジャーナルによるデータベースの回復 [High-end Object Server])

xodbreog (データベースの再編成)

xodbrstr (データベースのリストア)

### xodbckup (データベースのバックアップ取得)

#### 形式

```
xodbckup { -b DB バックアップファイル名 | -f バックアップパラメタ  
ファイル名 }
```

#### 機能

データベースの障害・破壊時に備えて、正常なデータベースの内容をファイルに退避します。入力となるデータベース定義情報は、システム共通定義ファイルに指定してあるマスタディレクトリ用ファイルから取得します。退避先のファイルをデータベースバックアップファイルといいます。このコマンドで作成したデータベースバックアップファイルは、xodbrecv コマンドを使って、回復します。

データベースのバックアップは、OS のバックアップ機能 (tar など) を使って取得することもできます。しかし、データベースファイル内の使用率が低い場合、xodbckup コマンドを使えばバックアップ先の容量の削減やバックアップ時間の短縮が図れます。

特定のエリアのバックアップを取得する場合は、バックアップパラメタファイルを作成した後で実行してください。バックアップパラメタファイルについては、「7.9 バックアップパラメタファイル」を参照してください。

コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「xodresult」に出力されます。また、次に示すエリアについては、使用状況も出力されます。

ディクショナリ用エリア

ユーザ用エリア

インデクス用エリア

OID インデクス用エリア

#### オプション

##### -b バックアップファイル名

データベース全体のバックアップを取得するときに指定します。



データベースファイルの退避先ファイルであるデータベースバックアップファイルの名称を `パス名` で指定します。なお、バックアップファイルは、新規に作成しますので、既に使用しているファイル名は指定しないでください。

また、バックアップファイルのファイルサイズの最大値は 2G バイトです。これを超える場合やファイルシステムに十分な空き領域がない場合は、`-b` オプション指定でなく、`-f` オプション指定で複数のバックアップファイルに分割してバックアップを取得してください。バックアップパラメタファイル中に `area` パラメタを記述することによって、エリア単位にバックアップを取得できます。これによって、複数のバックアップファイルに分割してバックアップを取得できます。

#### **-f バックアップパラメタファイル名**

バックアップパラメタファイル名を `パス名` で指定します。

#### **終了ステータス**

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了

0 以外 : 異常終了

#### **注意事項**

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

このコマンドはオブジェクトサーバが停止しているときだけ、実行できます。したがって、データベースのバックアップを取得する場合は、オブジェクトサーバを正常停止させた後にデータベースのバックアップコマンドを実行してください。オブジェクトサーバが既に停止していて、前回の停止状態が分からない場合には、一度オブジェクトサーバを起動して、正常停止してから実行してください。

---

## **xodbkout ( データベースのバックアウト [ High-end Object Server ] )**

### **形 式**

```
xodbkout -j アンロードジャーナルファイル名, . . .
```

### **機 能**

`xodbrecv` コマンドで使用したアンロードジャーナル中にオブジェクトサーバが異常終了した時点で仕掛かり中だったトランザクションが含まれている場合 ( `KFXO54002-I` メッセージが出力されている )、回復されたデータベースは、仕掛かり中のトランザクションの更新内容が無効にされていない場合もあります。このコマンドを実行することで障害が発生した時点の仕掛かり中トランザクションの更新内容を無効にします。

このコマンドは、`-j` オプションに指定されたアンロードジャーナルファイルと `xodbrecv` コマンド実行時に出力されたバックアウト情報ファイル ( `$XODDIR/spool/xodrecinf` ) を基にロールバックを実行します。

このコマンドは、回復ユティリティ実行モードで実行します。

## 8. コマンド

### オプション

#### -j アンロードジャーナルファイル名

xodjnlunl (ユーザジャーナルファイルのアンロード) コマンドで作成したアンロードジャーナルファイル名を <パス名> で指定します。

なお、このオプションには、仕掛中のトランザクションのジャーナルを含むすべてのアンロードジャーナルファイルを指定してください。このオプションで指定できるアンロードジャーナルファイル名、・・・の文字数は、最大 255 バイトです。

### 注意事項

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

このコマンドに指定するアンロードジャーナルファイルは必ずディスク上にある必要があります。

このコマンドでエラーが発生した場合、エラーの要因を取り除いて、xodbrstr (データベースのリストア) コマンドから再実行してください。

---

## xodbrecv (データベースの回復 [ High-end Object Server ])

### 形式

xodbrecv -j アンロードジャーナルファイル名、・・・ [-s アンロードジャーナルのソートオプション]

### 機能

オブジェクトサーバのデータベースに障害が発生した場合 (ディスクの障害、アプリケーションプログラムによるデータ破壊、ディレクトリとディクショナリの不整合等) に、ある時点の正常な状態にデータベースを回復します。

このコマンドはデータベースのバックアップ取得以後のアンロードジャーナルファイルを読み込んで、障害が発生したデータベースを回復します。このコマンドは実行前にあらかじめ xodbrstr コマンド、又は OS の機能 (tar など) によって、データベースのバックアップ取得時点の状態にデータベースを回復してから実行してください。また、このコマンドは回復ユティリティ実行モードで実行します。回復ユティリティ実行モードでの起動方法については、「8.2 システム管理コマンド」の xodstart コマンドを参照してください。

回復に使用するアンロードジャーナルファイルは、システムジャーナルファイルのアンロードコマンド (xodjnlunl コマンド) で作成されたファイルです。

### オプション

#### -j アンロードジャーナルファイル名

回復に使用するアンロードジャーナルファイル名を パス名 で指定します。

このオプションで指定できるアンロードジャーナルファイル名、・・・の文字数の最大は、アンロードジャーナルのソートオプションを指定する場合は最大 253 バイト、指定しない場合は最大 255 バイトです。

アンロードジャーナルファイルは、システムジャーナルファイルのアンロードコマンド (xodjnlunl コマンド) で作成されたファイルです。

なお、xodbrstr コマンドで回復に使用したバックアップファイルよりも新しいアンロードジャーナルファイルを指定してください。

### -s アンロードジャーナルファイルのソートオプション

アンロードジャーナルファイルをソートする場合は 'y' を、ソートしない場合は 'n' を指定します。同じページに対する更新が多く発生している場合は、ソートすると指定した方が高性能が期待できます。

なお、このオプションの指定を省略した場合は、'n' が仮定されます。また、'y' を指定する場合、次に示す環境変数を設定してください。

#### ソート用ワークバッファ

「SORT」プログラムが使用するワークバッファサイズをキロバイト単位で指定します。ワーク用バッファサイズが大きいくほど処理時間が短縮されます。指定値が 128 キロバイト未満の場合、及び省略した場合は、1,024 キロバイトになります。

#### 指定方法

`SORTOPT=-y` ワーク用バッファサイズ

#### 一時ファイルのディレクトリ

「SORT」プログラムが使用する一時ファイルを作成するディレクトリ名を指定します。省略時は、次のディレクトリに仮定します。

- 環境変数 `TMPDIR` を指定している場合  
環境変数 `TMPDIR` の内容
- 環境変数 `TMPDIR` を指定していない場合又は指定が不正な場合

AIX の場合：/tmp

HI-UX/WE2 の場合：/usr/tmp 又は /tmp

HP-UX の場合：/var/tmp 又は /tmp

一時ファイルの容量は、アンロードジャーナルファイルの合計ファイル長分が必要です。

#### 指定方法

`SORTOPT=-T` ディレクトリ名

**注意** 環境変数 `SORTOPT` に複数の情報を指定するときは、カンマ (,) で区切って指定してください。

(例) `SORTOPT = -y2048,-T/usr/tmp/sort`

### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

- 0 : 正常終了
- 0 以外 : 異常終了

### 注意事項

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけで

## 8. コマンド

す。

回復に使用するジャーナルファイルは、バックアップ取得以降から障害発生時点（発生時使用中のジャーナルを含む）までのアンロードジャーナルファイルを過不足なく指定してください。また、1回のコマンド実行ですべてのファイルを指定できない場合、アンロードジャーナルの時系列順に複数に分けて実行してください。

このコマンドに指定するアンロードジャーナルファイルは、必ずディスク上にある必要があります。

このコマンドは、xodbkout（データベースのバックアウト）コマンドへの引き継ぎ情報としてのバックアウト情報ファイル（\$XODDIR/spool/xodrecinf）を作成します。このコマンドでエラーが発生した場合は、バックアウト情報ファイルを削除し、直ちに処理を中断します。そしてエラーの要因を取り除き、xodbrstr コマンドから再度実行してください。

OSの機能を使用してデータベースファイルのバックアップ及びリストアをしている場合、1回目のデータベースの回復コマンドを実行する前にバックアウト情報ファイルがあるか確認してください。バックアウト情報ファイルがあれば、ファイルを削除してください。

xodbreog（データベースの再編成）コマンド及びxodbrcons（データベースのエリアの再作成）コマンドは、コマンド実行中にジャーナルを取得しません。コマンド実行時点以降の状態にデータベースを回復するために、コマンド実行後にデータベースファイルのバックアップを取得してください。

また、連携するプログラムの中にジャーナルを取得しないコマンド、ユティリティを持ったものがありますので、連携するプログラムのコマンド、ユティリティを実行する場合のバックアップの手順については、各コマンド、ユティリティの指示に従ってください。

---

### xodbreog（データベースの再編成）

#### 形 式

xodbreog -f 再編成パラメタファイル名

#### 機 能

データベースにオブジェクトの追加や削除を繰り返すと、オブジェクトの配置に乱れが生じてきます。データベース再編成コマンドは、データベースを再編成して、この乱れを直し、オブジェクトを適切に配置します。この再編成によって、オブジェクトのアクセス性能が向上し、データベースのスペース効率が最適になります。

データベース再編成コマンドは、再編成パラメタファイルを作成した後で実行してください。再編成パラメタファイルについては、「7.7 再編成パラメタファイル」を参照してください。簡単に作成する方法については、「付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定（HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合）」を参照してください。

このコマンドによって再編成されるのは、次に示す用途のエリアです。

ユーザデータベース

データディクショナリ

インデクス

OID インデクス

このコマンドは、再編成パラメタファイルを作成した後で実行してください。

コマンドの処理結果は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「xodresult」に出力されます。

このコマンドを実行したときの処理を説明します。

オブジェクトの再編成

再編成パラメタファイルに reorg を指定した場合は、オブジェクトが再編成されます。データベースのオブジェクトは、いったんアンロードファイルに出力されて、再びデータベースに登録されることによって再配置されます。このとき、すべてのオブジェクトが対象となります。

オブジェクトの再編成には、インデクス及び OID インデクスの再作成も含まれます。再作成では、インデクス及び OID インデクス中のむだな空き領域をなくします。また、インデクスの再作成時には、その後のインデクスキーの追加を高速にするための予備領域を確保します。

インデクス再作成

再編成パラメタファイルに recreate を指定した場合は、インデクスの再作成だけが実行されます。これは、タイプ中のオブジェクトデータを物理順に検索して、インデクスの情報を生成し、その情報を基にインデクスを作り直す機能です。インデクス中のむだな領域をなくしたい場合、及び何らかの理由によってインデクスの内容が不正になった場合に実行してください。

なお、インデクスの再作成時には、この後のインデクスキーの追加を高速にするため、インデクスページ内にインデクスキー追加のための予備領域を確保します。

## オプション

### -f 再編成パラメタファイル名

再編成パラメタファイル名を 255 バイト以下の パス名 で指定します。

## 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了  
0 以外 : 異常終了

## 注意事項

このコマンドを使用するときは、次のような対処によって障害に備える必要があります。

- コマンド開始前のバックアップを保存する
- コマンド正常終了後にオブジェクトサーバを停止してバックアップを取得する

## 8. コマンド

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

このコマンドで作成したアンロードファイルは、データベースに障害が起こったときのバックアップに使用できません。障害時の回復に利用するバックアップについては、「4.4 データベースのバックアップの取得」に示す方法で取得してください。

このコマンドを実行すると、再編成パラメタファイルの `reorg -u` 及び `-d` オペラントで指定したアンロード用のファイルを作成します。このファイルは、正常終了時には削除されますが、異常終了時には削除されません。そのため、異常終了した後に同じアンロード用ファイルを使って、データベースの再編成を実行するときは、このファイルを削除してください。

このコマンドでは、再編成パラメタファイルの `-w` オペラントで指定した作業領域を使用します。`-w` オペラントの指定を省略した場合は、オペレーティングシステムごとに作業領域の作成される場所が異なります。

- AIX の場合           : /tmp
- HI-UX/WE2 の場合   : /usr/tmp
- HP-UX の場合        : /var/tmp

容量が十分に空いていることを確認してからコマンドを実行してください。再編成が失敗した場合は、いったんオブジェクトサーバを停止させ、再編成の直前で取得したデータベース部分のバックアップから回復してください。

このコマンドが異常終了した場合、その終了メッセージが `KFXO56035-E` 又は `KFXO56998-E` の時はデータベースが不完全な状態になっています。この場合は、コマンドを実行する前に取得したバックアップによって回復した後で、コマンドを再実行してください。`KFXO56002-E` 又は `KFXO56999-E` という終了メッセージが表示されたときは、データベースの回復は不要です。

---

## xodbrstr (データベースのリストア)

### 形式

```
xodbrstr { -b バックアップファイル名 | -f バックアップパラメタ  
ファイル名 }
```

### 機能

オブジェクトサーバのデータベースに障害が発生した場合（ディスク障害、アプリケーションプログラムによるデータ破壊、ディレクトリとディクショナリの不整合など）に、データベースをバックアップ取得時点まで戻します。このコマンドはある時点のバックアップファイル（`xodbckup` コマンドで取得したファイル）を読み込み、障害が発生したデータベースを回復します。

バックアップを取得したエリア内の特定のエリアをリストアする場合は、バックアップパラメタファイルを作成した後で実行してください。バックアップパラメタファイルについては、「7.9 バックアップパラメタファイル」を参照してください。

## オプション

### **-b** バックアップファイル名

xodbekup コマンドで取得したデータベースバックアップファイルの名称を `パス名` で指定します。

### **-f** バックアップパラメタファイル名

バックアップパラメタファイルの名称を `パス名` で指定します。

## 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了

0 以外 : 異常終了

## 注意事項

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

オブジェクトサーバのデータベースにディスクの障害が発生した場合には、このコマンドの実行前に障害の発生したファイルを削除しておいてください。

このコマンドは、データベースのファイルだけ回復します。ファイルシステムのディレクトリは回復できません。

このコマンドはオブジェクトサーバの停止時にだけ起動できます。

アプリケーションプログラムごとにデータベースを回復した場合は、OID インデクスの整合性をとるために xodbreog コマンドで OID インデクスの再作成をしてください。

このコマンド実行中にエラーが発生した場合は、エラー原因に対処して、コマンドをはじめてから実行し直してください。

---

## 8.5 データベースの再初期化コマンド

この節では、データベースのバックアップを取得していない場合に、データベースのファイルが削除されたなどのファイル障害を回復するための、データベースのエリアの再初期化コマンドの機能について説明します。

xodarint (データベースのエリアの再初期化)

---

### xodarint (データベースのエリアの再初期化)

#### 形式

```
xodarint -n エリア名 [-i 割り当て量]
```

#### 機能

オブジェクトサーバのデータベースのエリアを再初期化します。再初期化の対象となるエリアは、ユーザ用及びインデクス用のエリアです。

ユーザ用エリアで、該当するエリアにタイプが定義されている場合、エリアを再初期化した後、マスタディレクトリを参照してタイプ定義を復旧します。このとき、該当するタイプのオブジェクト数は0件になります。再初期化した後に、xodbreog コマンドを使用してデータベース全体を再編成し、そして該当するエリアのデータの再登録や整合性の確保を連携プログラムで実行してください。

インデクス用エリアで、該当するエリアにインデクスが定義されている場合、エリアを再初期化した後、マスタディレクトリを参照して、インデクス定義を復旧します。このとき、該当するインデクスは未作成の状態になります。再初期化した後に、xodbreog コマンドのインデクス再作成を使用するか、又はデータベース全体の再編成を実行して、再初期化したエリアのインデクスを再作成してください。

なお、再初期化時、エリアの用途、セグメントサイズ、及びファイル名は、再初期化前の情報を引き継ぎます。

#### オプション

##### -n エリア名

再初期化するエリア名を1～30バイトまでの<文字列>で指定します。全角・半角のどちらの文字も使用できます。

##### -i 割り当て量

-n オプションで指定したエリアの割り当て量をセグメント数で指定します。1～524288の<符号なし整数>を指定してください。

指定を省略した場合は、割り当て量1として再初期化されます。また、ファイルサイズが2ギガバイトを超える場合も、割り当て量1として再初期化されます。

ただし、再初期化するエリア中に正常なファイルが存在する場合には、その正常なファイルに対しては割り当て量の指定は無視され、再初期化前の割り当て量で再初期化されます。



## 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了

0以外: 異常終了

## 注意事項

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

このコマンドは、オブジェクトサーバを停止させてから実行してください。オブジェクトサーバの起動中には実行しないでください。

再初期化するエリア中のすべてのファイル実体のサイズが0ではなく、すべてのファイル実体が存在しているときにこのコマンドを実行すると、エラーメッセージが出力されて終了します。この状態のときに再初期化を実行したい場合は、該当するエリア中のファイルの一部又はすべてを削除してから、コマンドを実行してください。

このコマンドでは、ファイルの最大割り当て量を指定できません。最大割り当て量を指定したい場合は、再初期化を実行した後で、`xodflalt` コマンドを使用して、最大割り当て量を設定してください。ただし、再初期化するエリア中に正常なファイルが存在する場合、その正常なファイルは、再初期化前の最大割り当て量で再初期化されますので、`xodflalt` コマンドを使用して最大割り当て量を設定する必要はありません。

コマンド実行時の障害や、誤ったエリアを再初期化してしまった場合に備えて、コマンドを実行する前にデータベースのバックアップを取得しておくようにしてください。また、コマンドが正常終了した場合、その後の障害に備えて、コマンド実行後のデータベースのバックアップを取得しておいてください。

---

## 8.6 排他管理コマンド

この節では、排他管理で使用するコマンドについて説明します。

xodlckpl (排他制御テーブルのプール使用率の表示)

---

### xodlckpl (排他制御テーブルのプール使用率の表示)

#### 形式

xodlckpl

#### 機能

排他制御用テーブルのプール数 (システム共通定義の lck\_limit に指定した値に 30 を加えた値) に対する、現在の排他要求数 (プール使用率) を、標準出力に表示します。

#### 注意事項

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

#### 出力形式

プール使用率の出力形式を、次に示します。

定義名 定義数 使用数 使用率

lck\_limit ddddd eeeee fff%

(凡例) ddddd : 排他制御用テーブルのプール数

eeeee : 現在の排他要求数

fff : 現在の排他制御テーブルのプール使用率 (%)

## 8.7 ログメッセージ管理コマンド

この節では、ログメッセージの管理で使用するコマンドについて説明します。

xodlogcat (ログメッセージの出力)

### xodlogcat (ログメッセージの出力)

#### 形式

```
xodlogcat [-n][-i][-N][-I][-d][-t][-H][-p]
```

#### 機能

指定されたログファイル中のログメッセージを標準出力へ表示します。表示するときには、二つのログファイル「\$XODDIR/spool/dclog1」及び「\$XODDIR/spool/dclog2」の内容を時間順にマージします。

#### オプション

メッセージ ID、メッセージテキストに加えて表示する情報を、オプションによって指定します。これらの情報は、次の説明順に、メッセージ ID 及びメッセージテキストの前に付け加えられます。

1. -n : メッセージ通番を表示します。
2. -i : プロセス ID を表示します。
3. -N : プロセス内メッセージ通番を表示します。
4. -I : OMS 識別子を表示します。
5. -d : 年月日を表示します。
6. -t : 時間を表示します。
7. -H : 要求元ホスト名を表示します。
8. -p : 要求元プログラム ID を表示します。これは、システムの保守情報です。
9. 省略 : OMS 識別子、年月日、時間、要求元プログラム ID、メッセージ ID、及びメッセージテキストが表示されます。この表示内容は、オプション「-Idtp」を指定した場合と同じです。

#### 注意事項

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

#### 出力例

オプションを指定しない場合 (オプションに「-Idtp」が仮定される。)

```
A^^1994/09/15^01:03:52^prc^KFX000705-E^定義ファイルの解析中にエラーを検出しました。
```

オプションをすべて指定した場合

```
^^^1530^^4321^^^11254^A^^1994/09/15^01:03:52^host1^^^prc^KFX000705-E^定義ファイルの解析中にエラーを検出しました。
```

オプションに、「-nNIIt」を指定した場合

```
^^^1530^^^11254^A^^01:03:52^prc^KFX000705-E^定義ファイルの解析
```

## 8. コマンド

中にエラーを検出しました。

## 8.8 データベース診断コマンド

この節では、データベースの内容を調査するためのコマンドの機能について説明します。

- xodschls (スキーマ名の表示)
- xodbuse (データベースエリア使用状況の表示)
- xodarls (データベースのエリアの情報表示)
- xoddicls (ディクショナリの情報表示)

### xodschls (スキーマ名の表示)

#### 形式

```
xodschls
```

#### 機能

データベースに定義されているスキーマ名称を表示します。

既に稼働している Groupmax システムに連携プログラムを追加する場合、連携プログラムのデータベースの初期化時に、オブジェクトサーバのスキーマ名を指定する必要があります。スキーマ名は、既に稼働している連携プログラムの初期化をするときに定義されています。オブジェクトサーバのスキーマ名の表示コマンドで確認してください。

#### 注意事項

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

#### 出力例

スキーマ名の出力例

```
KFX058205-I 定義しているスキーマ数は1件です。
スキーマ名
GroupmaxSchema
```

### xodbuse (データベースエリア使用状況の表示)

#### 形式

```
xodbuse [-m マスタディレクトリのファイル名] [-a エリア名称 [, エリア
名称] . . . ]
```

#### 機能

データベースエリアの使用状況の表示では、ディクショナリ用エリア、ユーザ用エリア、OID インデクス用エリア及びインデクス用エリアの使用状況を表示します。使用状況は標準出力に出力されます。設定によってファイルに出力することもできます。

データベースエリアの使用状況から、次のことが分かります。

- データベースエリアのファイルの増分

## 8. コマンド

- データベースの再編成が有効なエリア
  - データベースが満杯に近づいているエリア（ユーザ用エリア及びインデクス用エリア）
  - エリア再構成パラメタに指定する値の見積もり値
- 出力した表示の見方については、「4.3.2 データベースエリアの使用状況表示」を参照してください。

### オプション

#### **-m マスタディレクトリのファイル名称**

使用状況を表示するデータベースのマスタディレクトリのファイル名称を指定します。2 ~ 175 バイトのパス名で指定します。通常、このオプションを指定する必要はありません。

オブジェクトサーバが起動中にこのコマンドを実行してオブジェクトサーバと接続できた場合は、このオプションの指定は無視されます。

このオプションを省略した場合、オブジェクトサーバが停止中にこのコマンドを実行したとき、又はオブジェクトサーバと接続できなかったときには、システム共通定義ファイル（\$XODCONFPATH/xodrc）で定義しているマスタディレクトリのファイル名称が仮定されます。

#### **-a エリア名称 [ , エリア名称 ] . . .**

表示対象エリアを限定する場合に、表示するエリアの数だけ繰り返して指定します。一つのエリア名称は1 ~ 30 バイトの<文字列>で指定します。このオプションを省略すると、すべてのエリアを表示対象にします。

なお、このオプションで指定できるエリア名、. . . の文字数の最大は、-m オプションを指定する場合は（254 - 指定したマスタディレクトリのファイル名のバイト数）バイト、指定しない場合は 255 バイトです。

### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

- 0 : 正常終了
- 0 以外 : 異常終了

### 出力例

xodbuse コマンドで出力した表示状況を、ファイルに出力する実行方法の例を次に示します。

- ファイル「result」にデータベースエリアの使用状況を出力する
- ```
xodbuse > result
```

### 注意事項

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

---

## xodarls (データベースのエリアの情報表示)

### 形式

```
xodarls
```

### 機能

次に示すデータベースのエリアの情報を表示します。情報は、標準出力に出力されます。

- エリア名称
- エリアの用途
- エリア番号
- エリア内の合計ページ数
- エリアのセグメントサイズ
- エリアの利用可能ページ数
- エリアのページ長
- ファイルの通番
- ファイル名称
- ファイルの現在割り当て量
- ファイルの最大割り当て量
- ファイルのページ数
- ファイルの初期化日時

出力した表示の見方については、「4.3.3 データベースのエリアの情報表示」を参照してください。

### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

- 0 : 正常終了
- 0 以外 : 異常終了

### 注意事項

オブジェクトサーバを起動してから停止するまでの間に追加できるエリア数の上限値を超えて追加したエリアの情報については、オブジェクトサーバを再起動すると表示できます。

---

## xoddicls (ディクショナリの情報表示)

### 形式

```
xoddicls [-d ディクショナリ用エリアのファイル名称] [-a]
```

### 機能

ディクショナリに登録されている次の情報を表示します。情報は、標準出力に出力されます。

- ノード ID
- エリア情報
- スキーマ名

## 8. コマンド

- タイプ種別
- ユニバーサル関連
- インデクス情報

出力した表示の見方については、「4.3.4 ディクショナリの情報表示」を参照してください。

### オプション

#### -d ディクショナリ用エリアのファイル名称

情報を表示するディクショナリ用エリアのファイル名称を、2 ~ 175 バイトの「/」で始まるパス名で指定します。ただし、オブジェクトサーバが動作中の場合は、この指定は無視されます。

このオプションを省略した場合は、システム共通定義ファイル (\$XODCONFPATH/xodrc) で定義しているマスタディレクトリのファイル名称からマスタディレクトリが参照され、取得されたディクショナリのファイル名称が仮定されます。

#### -a

ディクショナリ用エリアの情報を出力する順序を指定します。

このオプションを指定した場合、ディクショナリの情報は、次の名称を基にソートされて表示されます。

- エリア名称
- タイプ名称
- インデクス名称
- ユニバーサル関連名称

このオプションの指定を省略した場合、ディクショナリの情報は、次の番号を基にソートされて表示されます。

- エリア番号
- タイプ ID
- インデクス ID
- ユニバーサル関連 ID

### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

- 0 : 正常終了
- 0 以外 : 異常終了



---

## 8.9 ユーザジャーナル管理コマンド

この節では、システムの運用を支援する上で使用するコマンドについて説明しています。

xodujunl ( ユーザジャーナルのアンロード )

---

### xodujunl ( ユーザジャーナルのアンロード )

#### 形 式

xodujunl -f ユーザジャーナル出力ファイル名 -o アンロード先ファイル名

#### 機 能

指定されたユーザジャーナル出力ファイルを、アンロード先ファイルにアンロードします。

#### オプション

##### -f ユーザジャーナル出力ファイル名

ユーザジャーナルの出力ファイル名を 2 ~ 175 バイトの パス名 で指定します。ここには、システム共通定義の `ujfile` パラメタで指定したパス名と同じものを指定します。

##### -o アンロード先ファイル名

アンロード先のファイル名を 2 ~ 175 バイトの パス名 で指定します。

#### 注意事項

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

-o に指定したアンロード先のファイル名と同じ名称のファイルがあった場合は、そのファイルにユーザジャーナルの内容が上書きされます。

指定できるユーザジャーナル出力ファイル名のバイト数とアンロード先ファイル名のバイト数は、それらの和が最大 254 バイトになるまでです。

---

## 8.10 システムジャーナルファイル管理コマンド ( High-end Object Server )

この節では、システムジャーナルファイル管理に使用するコマンドの文法を説明します。それぞれのコマンドの形式、機能、オプション及び終了ステータスを記載しています。

この節で説明するコマンドを次に示します。

xodjnlchg ( システムジャーナルファイルのステータス変更 )

xodjnlcls ( システムジャーナルファイルのクローズ )

xodjnlinit ( システムジャーナルファイルの初期設定 )

xodjnlcls ( システムジャーナルファイルの情報表示 )

xodjnlopn ( システムジャーナルファイルのオープン )

xodjnlrm ( システムジャーナルファイルの削除 )

xodjnlswp ( システムジャーナルファイルのスワップ )

xodjnlunl ( システムジャーナルファイルのアンロード )

---

### xodjnlchg ( システムジャーナルファイルのステータス変更 )

#### 形 式

```
xodjnlchg -j sys -g ファイルグループ名
```

#### 機 能

指定したファイルグループをアンロード済み状態にします。ただし、現用ファイルグループ及びアンロード済みのファイルグループのステータスは変更できません。

#### オプション

##### -j sys

システムジャーナルファイルのステータスを変更します。必ず指定してください。

##### -g ファイルグループ名

ステータスを変更するシステムジャーナルファイルのファイルグループ名を 1 ~ 8 バイトの識別子で指定します。

#### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了

0 以外 : 異常終了

#### 注意事項

このコマンドはオブジェクトサーバのシステム管理者だけが実行できます。

このコマンドは、ジャーナルサービス開始中に実行しないでください。誤って実行した場合は、システムジャーナルファイルの状態が High-end Object Server に反映されないことがあります。このような場合は、次の手順でシステムジャーナルファイルの状態を High-end Object Server に反映させてください。

1. ジャーナルサービスの開始又は再開始処理完了後に `xodjnlcls` コマンドで、該当するファイルグループをクローズする。
2. その後 `xodjnlopn` コマンドでオープンする。

---

## xodjnlcls (システムジャーナルファイルのクローズ)

### 形式

```
xodjnlcls -j sys -g ファイルグループ名
```

### 機能

指定したファイルグループを構成するオープン中の物理ファイルをクローズして、オンラインで使用しないようにします。ただし、次のファイルグループを構成する物理ファイルはクローズできません。

現用及び `xodjnlls` コマンドで上書きできない状態のシステムジャーナルファイル

なお、`xodjnlcls` コマンドは、High-end Object Server が動作中で、かつジャーナルサーバが動作中のときだけ入力できます。

### オプション

#### -j sys

システムジャーナルファイルをクローズします。必ず指定してください。

#### -g ファイルグループ名

クローズするジャーナル関係のファイルグループ名を 1 ~ 8 バイトの識別子で指定します。

### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了

0 以外 : 異常終了

### 注意事項

このコマンドをスワップ処理中か、又は他のコマンドの処理中に入力するとエラーになることがあります。

---

## xodjnlinit (システムジャーナルファイルの初期設定)

### 形式

```
xodjnlinit -j jnl -f 物理ファイル名 {-n レコード数 | -s 作成サイズ}
```

## 8. コマンド

### 機能

UNIX ファイルシステム下にシステムジャーナルファイルを作成します。さらに、オンラインで使用できるように初期設定します。

### オプション

#### **-j jnl**

システムジャーナルファイルを初期設定します。必ず指定してください。

#### **-f 物理ファイル名**

初期設定する物理ファイル名を 1 ~ 63 バイトの `パス名` で指定します。

コマンドを実行すると、ここで指定したファイルが作成されますので、既にある物理ファイルを指定するとエラーになります。

#### **-n レコード数**

初期設定するファイルのレコード数を 20 ~ 262144 の `符号なし整数` で指定します。なお、ここでいうレコードとはジャーナルサーバが管理するファイルシステム上のエリアの単位です。1 レコードは 4,096 バイトです。

#### **-s 作成サイズ**

初期化するファイルのサイズをキロバイト単位で指定します。指定できる範囲は、80 ~ 1048576 までです。なお、指定された値は、4 キロバイト単位に切り上げられます。

### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

- 0 : 正常終了
- 0 以外 : 異常終了

### 注意事項

このコマンドはオブジェクトサーバのシステム管理者だけが実行できます。

既に、存在する物理ファイル名を指定するとエラーとなります。

作成する物理ファイルの容量は次の計算式で求められます。

- 「`xodjnlinit -j jnl -f 物理ファイル名 -n レコード数`」と入力した場合  
物理ファイルの容量 (バイト) = 4,096 × レコード数
- 「`xodjnlinit -j jnl -f 物理ファイル名 -s 作成サイズ`」と入力した場合

$$\text{物理ファイルの容量 (バイト)} = \left\lceil \frac{\text{指定サイズ}}{4} \right\rceil \times 4,096$$

## xodjnl1s (システムジャーナルファイルの情報表示)

### 形式

```
xodjnl1s -j sys [-g ファイルグループ名] [-d]
```

### 機能

ジャーナルファイルについての情報を表示します。  
オブジェクトサーバ停止中に実行すると、ファイルグループ名だけが表示され  
ます。

### オプション

#### -j sys

システムジャーナルファイルについての情報を表示する場合に指定します。

#### -g ファイルグループ名

システムジャーナルファイルの情報を表示するとき、特定のファイルグループの  
情報を表示する場合に 8 バイト以内の識別子で指定します。このオプションを省略  
すると、すべてのファイルグループの情報を表示します。

#### -d

システムジャーナルファイルの情報を表示するとき、要素ファイルの情報を表示  
する場合に指定します。このオプションの指定を省略すると、要素ファイルの情報  
は表示されません。

### 注意事項

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけで  
す。

ファイルグループの状態を変更中にこのコマンドを実行すると、正しい状態が  
表示されないこともあります。ファイルグループの状態変更とは、次のような  
場合です。

- スワップ中
- ファイルグループを操作するコマンド、又は xodjnl1s 以外のコマンドの処理中

### 出力例

```
グループ 種別 世代番号 状態   ラン ID   ブロック番号   . . . 1
aaaaaaa  bbb  ccccccc  defghi  jjjjjjjj  kkkkkkkkk  llllllll

      要素      要素状態      レコード数  物理状態   . . . 2
      mmmmmmm  nopqr  ssssssss  tttttttt  uvwxy
```

1 : ファイルグループ情報を示します。

2 : 要素ファイル情報を示します。

(凡例)

## 8. コマンド

aaaaaaaa : ファイルグループ名

bbb : ファイル種別

sys : システムジャーナルファイル

ccccccc : ファイルの世代番号 (16 進数)

defghi :

ファイルグループの状態が、6 文字で表されます。それぞれの意味は次のとおりです。

### **d : ファイルグループのオープン状態**

o : オープン中

該当するファイルグループを構成する要素ファイルがオープンされています。

c : クローズ中

該当するファイルグループを構成する要素ファイルがクローズされています。

### **e : ファイルグループの状態**

c : 現用

ファイルグループが有効な要素ファイルで構成されていて、現時点でジャーナルの出力対象になっています。

s : 待機

ファイルグループが有効な要素ファイルで構成されていて、現時点でジャーナルの出力対象になっていません。

n : 予約

ファイルグループが有効な要素ファイルで構成されていません。

### **f : ファイルグループのアンロード状態**

u : アンロード待ち

スワップされて現用でなくなり、アンロードする必要のあるジャーナルを含んでいます。

- : アンロード済み

### **g : ファイルグループが上書きできるかできないかの状態**

d : 上書きできません

システムの回復に必要なジャーナルを含んでいます。

- : 上書きできます

システムの回復に必要なジャーナルを含んでいません。

### **h : ファイルグループのオブジェクトサーバでの状態**

b :

xodjnlunl コマンド、又は xodjnlchg コマンドで使用がか、あるいは回復処理で使用中の状態です。

- :

xodjnlunl コマンド、又は xodjnlchg コマンドで使用がか、あるいは回復処理で使用でない状態です。

### **i : ファイルグループの不整合状態**

c :  
過去に現用として使われていたときに、障害によって管理情報が現用のま  
まとなっている要素ファイルがあります。例えば現用中にジャーナルの出  
力障害が発生したファイルグループなどです。

- :  
過去に現用として使用され、正しく処理されているファイルです。

jjjjjjj : ラン ID (16 進数)

ファイルが使用されたときのジャーナルサービスのラン ID です。

kkkkkkkk : 先頭ブロック番号 (16 進数)

lllllll : 最終ブロック番号 (16 進数)

mmmmmmmm : 要素ファイル名

nopqr : 要素ファイルの状態

要素ファイルの状態が、5 文字で表されます。それぞれの意味は次のとおり  
です。

**n : 要素ファイルのオープン状態**

o : オープン状態

該当する要素ファイルを構成する物理ファイルがオープンされています。

c : クローズ状態

該当する要素ファイルを構成する物理ファイルがクローズされています。

**o : 要素ファイルが使用できるかどうかの状態**

n :

要素ファイルが、オンラインで使用できる物理ファイルで構成されていま  
せん

u :

要素ファイルが、オンラインで使用できる物理ファイルで構成されていま  
す。

**p : 要素ファイルのアンロード状態**

u : アンロード待ち

アンロードする必要のあるジャーナルを含んでいます。

- : アンロード済み

**q : 要素ファイルの閉塞状態**

h : 閉塞中

該当する要素ファイルを構成する物理ファイルで障害が発生したため、以  
降ジャーナルを取得していない物理ファイルを含む要素ファイルです。

- : 閉塞中ではありません (正常な要素ファイルです)

**r : 要素ファイルが読み込みできるかどうかの状態**

r :

該当する要素ファイルを構成する物理ファイルが読み込みできない状態  
です。全面回復又は部分回復しようとしても、ジャーナルが消去 (初期化)  
されていて、読み込みできません。システムジャーナルファイルの障害の  
要因を取り除いた後、物理ファイルを再作成してオープンした場合、この

## 8. コマンド

状態になります。

- :

該当する要素ファイルを構成する物理ファイルが読み込みできる状態です。

ssssssss : 該当するファイルでの使用済みレコード数 (16 進表示)

ジャーナルを出力したオブジェクトサーバファイルシステム上のレコード数です。0 が表示されているときは、ジャーナルが 1 件も出力されていない場合です。全面回復完了後、現用以外の状態の場合、使用済みレコード数の内容が正しくなくなることがあります。

tttttttt : 該当するファイル内の全レコード数 (16 進表示)

ジャーナルを出力できるオブジェクトサーバファイルシステム上のレコード数です。ファイル内の全レコード数はジャーナルサービスがジャーナルブロックを出力できるオブジェクトサーバファイルのレコード数です。この値は xodjnlinit コマンドの -n オプションで指定したレコード数から 4 を引いて求めます。

uvwxy :

物理ファイルの状態が、5 文字で表されます。それぞれの意味は次のとおりです。

**u : 物理ファイルのオープン状態**

o : オープン中

ジャーナルサービスが該当する物理ファイルをオープンしています。

c : クローズ中

ジャーナルサービスが該当する物理ファイルをオープンしていません。

**v : 物理ファイルの状態**

c : 現用

・ファイルグループの状態が現用のとき :

実際にジャーナルの出力対象になっていることを示します。

・ファイルグループの状態が現用でないとき :

過去に現用だったときに障害が発生し、回復されていないためにシステムステータス情報が残っている状態です。この場合は、次のどちらかの処理をしないと再使用できません。

1. xodjnlunl コマンド、又は xodjnlchg コマンドで状態を回復します。

2. xodjnlinit コマンドで初期設定します。

s : 待機

**w : 物理ファイルのアンロード状態**

o : アンロード待ち

該当する物理ファイルに、アンロードする必要のあるジャーナルがあります。

- : アンロード済み

該当する物理ファイルには、アンロードする必要のあるジャーナルはありません。

**x : 物理ファイルの閉塞状態**

h : 閉塞中



ジャーナルの出力，又はジャーナルファイルヘッダの入出力で障害が発生し，以降ジャーナルを出力していません。

-: 閉塞中ではありません

ジャーナルを出力できます。

**y** : 物理ファイルが読み込みできるかどうかの状態

r : 読み込みできない状態

全面回復，部分回復しようとしても，ジャーナルが消去（初期化）されていて，読み込みできません。システムジャーナルファイルの障害の要因を取り除いた後，物理ファイルを再作成してオープンした場合，この状態になります。

-: 読み込みできる状態です。

**注意** 1レコードとは，ジャーナルサーバで管理するファイルシステム上の 4,096 バイトのエリアのことです。

## xodjnlpn (システムジャーナルファイルのオープン)

### 形式

```
xodjnlpn -j sys -g ファイルグループ名
```

### 機能

指定したファイルグループを構成するクローズ中の物理ファイルをオープンして，オンラインで使用できるようにします。

このコマンドは，High-end Object Server が動作中で，かつジャーナルサーバが動作中のときだけ入力できます。

### オプション

**-j sys**

システムジャーナルファイルをオープンします。必ず指定してください。

**-g ファイルグループ名**

オープンするジャーナル関係のファイルのファイルグループ名を 1 ~ 8 バイトの識別子で指定します。

### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了

0 以外 : 異常終了

### 注意事項

このコマンドをスワップ処理中又はほかのコマンドの処理中に入力すると，エラーになることがあります。

---

## xodjnlrm (システムジャーナルファイルの削除)

### 形式

```
xodjnlrm -f 物理ファイル名
```

### 機能

ジャーナル関係のファイルを削除します。指定したファイルがオープン中の場合は、削除できません。

### オプション

#### -f 物理ファイル名

削除する物理ファイル名を パス名 で指定します。

### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了

0以外: 異常終了

---

## xodjnlswp (システムジャーナルファイルのスワップ)

### 形式

```
xodjnlswp -j sys
```

### 機能

現用のファイルグループを即時に切り替えます。スワップ先のファイルグループがない場合は、エラーになります。

このコマンドは、High-end Object Server が動作中で、かつジャーナルサーバが動作中のときだけ入力できます。

### オプション

#### -j sys

システムジャーナルファイルをスワップします。必ず指定してください。

### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了

0以外: 異常終了

### 注意事項

スワップ中に xodjnl opn コマンドを実行すると、エラーになります。

---

## xodjnlunl (システムジャーナルファイルのアンロード)

### 形式

```
xodjnlunl -j sys -g ファイルグループ名 -o 出力先ファイル名
```

[-d システムジャーナルサービス定義ファイル名] [-n]

## 機能

指定されたファイルグループを出力先のファイル又は標準出力へアンロードします。これによって、ファイルグループはアンロード済みの状態になります。

ただし、次のファイルグループのアンロードはできません。

現用のファイルグループ

アンロード済みのファイルグループ

## オプション

### -j sys

システムジャーナルファイルのステータスをアンロードします。必ず指定してください。

### -g ファイルグループ名

アンロードするシステムジャーナルファイルのファイルグループ名を 1 ~ 8 バイトの識別子で指定します。必ず、システムジャーナルファイルのファイルグループ名を指定してください。

### -o 出力先ファイル名

アンロード先のファイル名を指定します。ファイル名として "\*" を指定すると、標準出力へ出力されます。

### -d システムジャーナルサービス定義ファイル名

アンロードするファイルグループを定義している、システムジャーナルサービス定義ファイル名を次のどちらかの方法で指定します。

パス名 を指定

定義ファイル名だけを指定

定義ファイル名だけを指定する場合は、環境変数 XODCONFPATH にあらかじめ定義ファイルが格納されているディレクトリをセットしておく必要があります。

このオプションの指定を省略すると、名称が \$XODCONFPATH/sysjnl である、システムジャーナルサービス定義ファイルで指定されているファイル名を仮定します。

### -n

このオプションを指定すると、ファイルグループの状態を変更しないで、アンロード待ちの状態を継続します。このように指定することによって、ファイルに対して繰り返しアンロードできます。そして、複数のアンロードファイルを作成できます。

## 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了

## 8. コマンド

0 以外：異常終了

### **注意事項**

このコマンドはオブジェクトサーバのシステム管理者だけが実行できます。

## 8.11 ステータスファイル管理コマンド ( High-end Object Server )

この節では、ステータスファイル管理に使用するコマンドの文法を説明します。それぞれのコマンドの形式、機能、オプション及び終了ステータスを記載しています。

この節で説明するコマンドを次に示します。

```
xodstscsls (ステータスファイルのクローズ)
xodstsinits (ステータスファイルの初期設定)
xodstsls (ステータスファイルの情報)
xodstsofn (ステータスファイルのオープン)
xodstsrn (ステータスファイルの削除)
xodstsswp (ステータスファイルのスワップ)
```

---

### xodstscsls (ステータスファイルのクローズ)

#### 形式

```
xodstscsls -n 論理ファイル名
xodstscsls -f 物理ファイル名
```

#### 機能

オープン状態のステータスファイルをクローズします。ただし、現用で使用中のファイルはクローズできません。

xodstscsls コマンドでクローズできるファイルはステータスサービス定義で指定したステータスファイルだけです。さらに、ステータスサーバが動作中のときに有効です。

#### オプション

##### -n 論理ファイル名

クローズする論理ファイルの名称を 1 ~ 8 バイトの識別子で指定します。指定した論理ファイルを構成する A 系及び B 系の両方のファイルをクローズします。論理ファイル名は、次の状態のときに指定できます。

A 系または B 系のどちらかのファイルがオープンしている

A 系及び B 系の両方のファイルがオープンしている

論理ファイル名を指定すると、ステータスファイルの実体のパス名を意識する必要はありません。

##### -f 物理ファイル名

クローズする物理ファイルの名称を 1 ~ 63 バイトのパス名で指定します。

## 8. コマンド

-f オプションは、正常な系をクローズするときに指定します。したがって、ステータスファイルに障害が発生して閉塞状態になった系をクローズする場合には指定できません。

### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了

0 以外 : 異常終了

### 注意事項

次の指定方法は同じ意味を表します。

「xodstscls -f A系物理ファイル名」, 「xodstscls -f B系物理ファイル名」と2回入力する

「xodstscls -n 論理ファイル名」と入力する

---

## xodstsinit (ステータスファイルの初期設定)

### 形式

```
xodstsinit -f 物理ファイル名 [-c レコード数]
```

### 機能

UNIX ファイルシステムをステータスサーバが使用できる形式に初期設定します。ステータスサーバがオンラインで使用(現用, 又は予備の状態)のステータスファイルは初期設定できません。

### オプション

#### -f 物理ファイル名

初期設定する物理ファイルの名称を 1 ~ 63 バイトのパス名で指定します。

#### -c レコード数

ステータスファイルのレコード数 (32 ~ 4194304) を指定します。

指定を省略した場合は、256 が設定されます。

### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了

0 以外 : 異常終了

### 注意事項

ステータスサーバが起動中のときだけ、現用ステータスファイルを管理しています。そのため、このコマンドを実行する場合、次のことに注意してください。

- オンライン中に使用した現用のステータスファイルを初期設定しないでください。
- 障害が発生して閉塞状態になったステータスファイルだけを初期設定してください。

さい。

一つの論理ファイルを構成する A 系と B 系の物理ファイルは、レコード数が等しくなるように初期設定してください。ただし、論理ファイルごとであれば、レコード数を変えてもかまいません。

ステータスファイルのレコード数は High-end Object Server のシステム構成に依存します。オンライン中の場合は、xodstsls コマンドでステータスファイルのレコード使用率を確認できます。レコード使用率を参考にしてレコード数を変更してください。オンライン中にレコード使用率が高くなった場合、現用のファイルよりレコード数の多いステータスファイルを予備のファイルとして初期設定できます。

ステータスファイルの容量は、次の計算式で求められます。  
 ステータスファイルの容量 (バイト) = 4,608 × レコード数

## xodstsls (ステータスファイルの情報表示)

### 形式

```
xodstsls [-n 論理ファイル名]
xodstsls [-f 物理ファイル名]
xodstsls [-a]
xodstsls [-l]
xodstsls [-p]
```

### 機能

オンライン中にステータスファイルの状態を表示します。このコマンドは、ステータスサーバが操作しているときに有効です。

### オプション

#### -n 論理ファイル名

状態を表示する論理ファイルの名称を 1 ~ 8 バイトの識別子で指定します。

#### -f 物理ファイル名

状態を表示する物理ファイルの名称を パス名 で指定します。

#### -a

ステータスサービスで使用しているすべてのステータスファイルの状態を短縮形式で表示します。

#### -l

ステータスサービスで使用しているすべての論理ファイルの状態を表示します。

#### -p

ステータスサービスで使用しているすべての物理ファイルの状態を表示します。  
 なお、オプションの指定を省略した場合、ステータスサービスで使用しているすべてのステータスファイルの状態を表示します。

## 8. コマンド

### 注意事項

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

ステータスサーバが動作中のときだけ、ステータスファイルの状態を管理しています。

このため、ステータスサービスの動作中に次のコマンドを実行しても、表示されるファイル状態は変わりません。

- クローズ状態のファイルに xodstsinit コマンドを実行する。
- クローズ状態のファイルに xodstsrn コマンドを実行する。

**注意** クローズ状態とは次の状態を指します。

- CLOSE (予約ファイル)
- NONE (ファイル実体がない)
- BLOCKADE (障害閉塞ファイル)

現在のファイル状態は次の手順で表示できます。

xodstsinit 又は xodstsrn コマンドを実行する。

xodstsopn コマンドを実行する。

xodstsls コマンドを実行する。

### 出力例

```
論理ファイル名  論理状態  使用率  連続空き  管理数
aaaaaaaa         bbbbbbbb  ccc%   dddddddd  eeeeeeee

系  物理状態  レコード長  レコード数  パス名
f   gggggggg  hhhhhhhh   iiiiiiiii  jj...jj
```

(凡例)

aaaaaaaa : 論理ファイル名 (8文字以内)

bbbbbbbb : 論理ファイルの状態

ACTIVE : 現用ファイル

BLOCKADE : 障害閉塞ファイル

CLOSE : 予約ファイル (クローズファイル)

NONE : ファイルの実体なし

STANDBY : 予備ファイル

ccc : ファイル内のレコード使用率 (3けたの%表示)

ddddddd : ファイル内の連続空きレコード数 (10進数)

eeeeeee : ファイル内管理レコード数 (10進数)

f : 物理ファイルの系の表示

A : A系

B : B系



gggggggg : 物理ファイルの状態

- a : 現用ファイル
- b : 障害閉塞ファイル
- c : クローズファイル
- i : 初期設定状態
- l : 論理エラー
- n : ファイルの実体がない状態
- o : オープンファイル
- p : 物理エラー
- r : 障害情報によるファイル状態回復
- s : 予備ファイル
- u : 使用済みファイル

hhhhhhhh : レコード長 (10 進数)

iiiiiii : レコード数 (10 進数)

jjjjjjj : 物理ファイル名 (63 文字以内)

## xodstsopn (ステータスファイルのオープン)

### 形式

```
xodstsopn -n 論理ファイル名
xodstsopn -f 物理ファイル名
```

### 機能

次のどちらかの状態のステータスファイルをオープンします。

xodstsinit コマンドで初期設定したステータスファイル

xodstscls コマンドを実行してクローズ状態にしたステータスファイル

ただし、xodstsopn コマンドでオープンできるステータスファイルは、ステータスサービス定義で指定したステータスファイルだけです。さらに、ステータスサーバが動作中のときに有効です。

### オプション

#### -n 論理ファイル名

オープンする論理ファイルの名称を 1 ~ 8 バイトの識別子で指定します。指定した論理ファイルを構成する A 系及び B 系の両方のファイルをオープンします。

論理ファイル名は、次の状態のときに指定できます。

A 系又は B 系のどちらかのファイルがクローズしている

A 系及び B 系の両方のファイルがクローズしている

論理ファイル名を指定すると、ステータスファイルの実体のパス名を意識する必要はありません。

## 8. コマンド

### -f 物理ファイル名

オープンする物理ファイルの名称を 1 ~ 63 バイトの パス名 で指定します。

-f オプションは、次のどちらかの状態であるファイルをオープンする場合に指定します。

ステータスファイルに障害が発生し、閉塞状態になったステータスファイル  
容量を拡張するために xodstsinit コマンドで初期設定した物理ファイル

### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了

0 以外 : 異常終了

### 注意事項

次の指定方法は同じ意味を表します。

「xodstsopn -f A 系物理ファイル名」, 「xodstsopn -f B 系物理ファイル名」と 2 回  
入力する

「xodstsopn -n 論理ファイル名」と入力する

---

## xodstsrn (ステータスファイルの削除)

### 形式

xodstsrn -f 物理ファイル名

### 機能

High-end Object Server が停止中にステータスファイルを削除します。

ステータスサーバがオンラインで使用 (現用, 又は予備の状態) のステータス  
ファイルは削除できません。

### オプション

#### -f 物理ファイル名

削除する物理ファイルの名称を 1 ~ 63 バイトの パス名 で指定します。

### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了

0 以外 : 異常終了

### 注意事項

ステータスサーバが起動中のときだけ、現用ステータスファイルを管理していま  
す。

そのため、xodstsrn コマンドを実行する場合、次のことに注意してください。

オンライン中に使用した現用のステータスファイルを削除しないでください。

障害が発生して閉塞状態になったステータスファイルだけを削除してください。

---

## **xodstsswp (ステータスファイルのスワップ)**

### **形 式**

`xodstsswp`

### **機 能**

ステータスファイルの状態を切り替えます。  
現用のステータスファイルを予備として、予備のステータスファイルを現用とします。

### **終了ステータス**

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了

0 以外 : 異常終了

---

## 8.12 障害対策コマンド

この節では、障害時の運用に使用するコマンドについて説明します。障害時の運用コマンドは次の二つです。

xodclear ( 障害発生後の起動環境の修復 )

xodras ( 障害情報の取得 )

---

### xodclear ( 障害発生後の起動環境の修復 )

#### 形式

```
xodclear
```

#### 機能

不要になった障害情報を削除します。障害情報とは、システム管理者が障害の原因を調査するために使用する情報のことです。xodclear コマンドを実行すると、\$XODDIR/spool 及び \$XODDIR/tmp ディレクトリ下の障害情報、及び不要なファイルを削除します。

#### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了

0 以外 : 異常終了

#### 注意事項

このコマンドを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

障害情報ファイル ( shmdump , core など ) を削除するので、障害情報が必要な場合は \$XODDIR/spool 及び \$XODDIR/tmp のバックアップを取得しておいてください。また、Object Server で簡易ジャーナルファイルの出力先を変更している場合は、その出力先のファイルのバックアップも取得しておいてください。

---

### xodras ( 障害情報の取得 )

#### 形式

```
xodras -t デバイスファイル [ -a ファイル名 ] { -c | -r }
```

#### 機能

オブジェクトサーバで障害が発生した場合、障害調査に必要な最低限の情報を取得します。このコマンドを実行すると、次のファイル及びディレクトリを取得できます。

ヘッダ ( 日付 , OS , ディスク状態 , インストール情報 )

\$XODDIR/spool

\$XODDIR/conf

\$XODDIR/tmp

システムログ

AIX の場合：/usr/adm/syslog/syslogfile

HI-UX/WE2 の場合：/usr/adm/syslogfile

HP-UX の場合：/usr/adm/syslog

## オプション

### -t デバイスファイル名又はディスクファイル名

取得した障害情報を格納するファイル名を指定します。

### -a 通常取得するファイル以外のファイル名

上記取得ファイル及びディレクトリ以外に取得したいファイルを指定する場合に使用します。

### -c

-t オプションで指定したデバイスファイルへ上書きする場合に指定します。

### -r

-t オプションで指定したデバイスファイルへ追加書きする場合に指定します。

ただし、HI-UX/WE2 上では、CMT、QIC 及び 8mm テープに対して -r オプションを指定できません。これら媒体を障害情報の格納先に指定する場合は、-c オプションを指定してください。

## 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了

0 以外：異常終了

## 注意事項

このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。

このコマンドを実行するために環境変数 XODDIR を設定してください。

障害情報を取得するシェルは、\$XODDIR/bin 下に作成されます。

-t オプションには、tar コマンドの -f オプションで取り扱える媒体を指定することもでき、デバイスファイルの代わりにディスクファイルを指定することもできます。しかし、障害情報には shmdump が含まれ、大容量（数 10MB）となるため、あらかじめディスク空き容量を十分考慮してください。また、格納先に指定したファイルは、アーカイブ形式のバイナリファイルであるため、ftp で転送するときは注意してください。

記録容量が満杯であることを意味するメッセージが表示された場合は、tar コマンドを実行したときと同じように、記録媒体を交換し、メッセージにตอบสนองして

## 8. コマンド

ください。

---

## 8.13 サーバ管理コマンド

この節では、サーバ管理コマンドについて説明します。

xodpinfo (プロセスの状態表示)

---

### xodpinfo (プロセスの状態表示)

#### 形式

xodpinfo

#### 機能

オブジェクトサーバプロセスとオブジェクトサーバに接続中のプロセスの状態を表示します。また、トランザクションの状態を表示します。

データベースの操作を行うプロセスはオブジェクトサーバに接続して各々の操作を行います。そのプロセスの状態を表示します。

稼働中バックアップ開始コマンドが長時間終了しない時に、その要因となるプロセスを特定する場合、その時点で動作しているトランザクションがないか確認する必要があります。その場合、xodpinfo コマンドを利用します。

#### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : 正常終了

0以外: 異常終了

#### 注意事項

システムに影響を与えないように排他制御を行わないため、更新中の情報を出力する場合があります。

#### 出力例

コマンドの処理結果として、プロセスの状態の情報が標準出力に出力されます。図 8-1 に処理結果の出力フォーマットを示します。なお、図 8-1 に示した出力フォーマットの項目の詳細は「付録 I プロセスの状態表示の出力例」の説明を参照してください。

## 8. コマンド

図 8-1 xodpinfo コマンドの処理結果の出力フォーマット

```

** a...a xodpinfo(vv-rr) **
ExecuteTime = b...b
HostName = c...c
XODDIR = d...d
SystemID = ee
** PROCESS_INFOMATION **
== MANAGER_INFO ==
ProcessCount = a...a
ConnectProcessCount = b...b
ServerMode = c...c
PrcdPid = d...d
OnlineBackup = ee      WaitProcess = f...f
== PROCESS_INFO ==
Pid = a...a      Status = b
Uid = c...c      Gid = d...d
ServerName = e...e
LoadName = f...f
ServiceGroupName = g...g
CriticalCount = h...h CriticalMask = 0xi...i
CreateTime = j...j
FirstDownTime = k...k
DupCheckStatus = l...l
:
** End (PROCESS_INFOMATION) **
** TRANSACTION_INFOMATION **
== MANAGER_INFO ==
RunID = a...a
Status = b...b
TransactionCount = c...c
TransactionSequence = d...d
StartTime = e...e
== TRANSACTION_INFO ==
PID = a...a(b...b) TransactionID = c...c
Status1 = d...d Status2 = e
JNL = f...f
DBAccessMode = h
OnlineBackup = iii
RpcAddress = 0xj...j RpcPort = k...k
:
** End (TRANSACTION_INFOMATION) **
** End (xodpinfo) **

```

- 注※1 実線内はこのコマンドの情報が表示されます。
- 注※2 点線内はプロセスの状態が表示されます。
- 注※3 破線内はプロセスの管理情報が表示されます。
- 注※4 破線内は個々のプロセス情報が表示されます。サーバプロセスとコマンド/ユーティリティ/アプリケーションプロセスの数分表示されず。
- 注※5 点線内はトランザクションの状態が表示されます。
- 注※6 破線内はトランザクションの管理情報が表示されます。
- 注※7 破線内は個々のトランザクション情報が表示されます。実行中トランザクションの数分表示されず。

### このコマンドで確認できる内容

稼働中バックアップ開始コマンドで長時間終了しない場合、その要因となるプロセスを特定します。次に示す手順で要因となるプロセスを特定してください。



1. すべてのトランザクション情報から、図の 7 枠内の「iii」に示す値が「ON」であるトランザクション情報を探してください。
2. 該当するトランザクション情報の「a...a」に示す PID を確認してください。
3. すべてのプロセス情報から、図の 4 枠内の「a...a」に示す値が上記 PID と一致するプロセス情報を探してください。
4. 該当するプロセス情報の「g...g」に示すサービスグループ名でプログラム名と実行ファイル名を確認してください。

---

### 8.14 クラスタリング機能用コマンド (HP-UX を御利用の場合)

この節では、HP-UX で提供される MC/ServiceGuard のクラスタリング機能を使用するためのコマンドについて説明します。クラスタリング機能で使用するコマンドは、次の一つです。

xodmonitor ( オブジェクトサーバの稼働状態の監視 )

---

#### xodmonitor ( オブジェクトサーバの稼働状態の監視 )

##### 形式

```
xodmonitor -d home_dir -t interval_time
```

##### 機能

HP-UX で提供する MC/ServiceGuard のクラスタリング機能を使用する場合に、オブジェクトサーバの稼働状態を監視するプロセスを常駐します。このプロセスは、指定した監視時間間隔で、オブジェクトサーバの稼働状態を確認します。

このプロセスによって、オブジェクトサーバに障害が発生した場合に、サーバをクラスタリング機能によってフェールオーバーさせることができます。

なお、このコマンドで常駐したプロセスは、オブジェクトサーバが停止するまで常駐しています。

##### オプション

**-d home\_dir**

オブジェクトサーバのホームディレクトリを絶対パス名で指定します。

**-t interval\_time**

オブジェクトサーバの稼働状態を監視する時間間隔を秒単位で指定します。1 ~ 7,200 秒まで指定できます。

##### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : オブジェクトサーバの停止

1 : パラメタの不正

##### 注意事項

メッセージは、標準出力又は標準エラー出力に出力されます。

---

## 8.15 クラスタリング機能用コマンド (AIX を御利用の場合)

この節では、HACMP for AIX を使用したクラスタリング機能を使用するためのコマンドについて説明します。クラスタリング機能で使用するコマンドは、次の一つです。

xodrunchk (オブジェクトサーバの稼働状態の監視)

---

### xodrunchk (オブジェクトサーバの稼働状態の確認)

#### 形式

```
xodrunchk -d home_dir
```

#### 機能

HACMP for AIX を使用したクラスタリング機能を使用し、オブジェクトサーバの稼働状態を監視する場合に指定します。

このプロセスによって、オブジェクトサーバに障害が発生した場合に、サーバをクラスタリング機能によってフェールオーバーさせることができます。

#### オプション

**-d home\_dir**

オブジェクトサーバのホームディレクトリを絶対パス名で指定します。

#### 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

0 : オブジェクトサーバの稼働中

1 : オブジェクトサーバの停止, 又はパラメタの不正

#### 注意事項

メッセージは、標準出力又は標準エラー出力に出力されます。



---

# 付録

---

- 付録 A 初期設定パラメタの指定例
- 付録 B バッチファイルによる High-end Object Server のシステムファイル環境設定
- 付録 C Bibliotheca/OM を同じサーバで使用する場合
- 付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)
- 付録 E Groupmax サーバ環境設定ユティリティによる環境設定 (AIX を御利用の場合)
- 付録 F 障害予防
- 付録 G クラスタリング機能を使用した運用 (HP-UX を御利用の場合)
- 付録 H クラスタリング機能を使用した運用 (AIX を御利用の場合)
- 付録 I プロセスの状態表示の出力例
- 付録 J マルチオブジェクトサーバ (マルチ OMS) (High-end Object Server) (HP-UX を御利用の場合)
- 付録 K メッセージ
- 付録 L 用語解説

## 付録 A 初期設定パラメタの指定例

オブジェクトサーバを Groupmax シリーズのプログラムと連携して使用する場合は、初期設定パラメタの指定例を示します。連携プログラムによる見積もり方法については、使用する連携プログラムごとに、次のマニュアルを参照してください。

- Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編
- Groupmax Document Manager Version 6 システム管理者ガイド
- Groupmax Workflow Version 6 システム管理者ガイド

また、ファイル容量の計算式も示します。

### 付録 A.1 指定例

#### (1) 初期設定パラメタファイルの例

初期設定パラメタファイルの記述例です。オブジェクトサーバの初期設定パラメタは、オブジェクトサーバ管理ファイルを指定します。指定方法については、「7.5.2

初期設定パラメタの項目」を参照してください。また、ユーザデータベースは、連携プログラム用データ格納ファイルを指定します。

##### 初期設定パラメタファイルの記述例

```

*****#
## オブジェクトサーバの初期設定パラメタ      **# - これ以降は、
*****#                                     オブジェクトサーバ
##          マスタディレクトリ                **# 管理ファイルを
*****#                                     指定します。
area -n master -u MASTER -s 50
file -n /usr/OMSDB/master_dir -i 2
*****#
##          データディレクトリ                **#
*****#
area -n datadir -u DATADIR -s 50
file -n /usr/OMSDB/data_dir -i 1
*****#
##          ディクショナリ                  **#
*****#
area -n dictionary -u DICTIONARY -s 8
file -n /usr/OMSDB/dictionary -i 128
*****#
##          OIDインデクス                    **#
*****#
area -n oidindex -u OIDINDEX -s 32
file -n /usr/OMSDB/oidindex -i 1362
*****#
##          ユーザデータベース                **# - これ以降は、
*****#                                     連携プログラム用
##          Document manager                  **# データ格納ファイル
*****#                                     を指定します。
area -n IS_system_area -u USER -s 1
file -n /usr/OMSDB/user_db_1 -i 175
area -n IS_class_area_1 -u USER -s 32
file -n /usr/OMSDB/user_db_2 -i 233
area -n IS_string_area_1 -u USER -s 1
file -n /usr/OMSDB/user_db_3 -i 568
area -n IS_string_area_2 -u USER -s 1

```

```

file -n /usr/OMSDB/user_db_4 -i 568
area -n IS_version_area -u USER -s 190
file -n /usr/OMSDB/version_db -i 1
area -n IS_users_area -u USER -s 26
file -n /usr/OMSDB/users_db -i 1
#####
***          Workflow          ***
#####
area -n WF_is_system -u USER -s 1
file -n /usr/OMSDB/wf_db_1 -i 32
area -n WF_is_class -u USER -s 192
file -n /usr/OMSDB/wf_db_2 -i 5
area -n WF_is_string -u USER -s 64
file -n /usr/OMSDB/wf_db_3 -i 16
area -n WF_manager_area -u USER -s 32
file -n /usr/OMSDB/wf_mng -i 2
area -n WF_bp_area -u USER -s 128
file -n /usr/OMSDB/wf_bp -i 1
area -n WF_work_area -u USER -s 576
file -n /usr/OMSDB/wf_work -i 1
area -n WF_case_area -u USER -s 544
file -n /usr/OMSDB/wf_case -i 1
area -n WF_role_area -u USER -s 128
file -n /usr/OMSDB/wf_role -i 1
area -n WF_user_area -u USER -s 256
file -n /usr/OMSDB/wf_user -i 1
area -n WF_op_list_area -u USER -s 128
file -n /usr/OMSDB/wf_op_list -i 1
area -n WF_case_inf_area -u USER -s 128
file -n /usr/OMSDB/wf_case_inf -i 1
area -n WF_counter_area -u USER -s 352
file -n /usr/OMSDB/wf_counter -i 1
area -n WF_class_lock_area -u USER -s 1
file -n /usr/OMSDB/wf_class_lock -i 1
area -n WF_send_area -u USER -s 32
file -n /usr/OMSDB/wf_send -i 1
area -n WF_relation_area -u USER -s 128
file -n /usr/OMSDB/wf_relation -i 1
area -n WF_auto_deliver_area -u USER -s 320
file -n /usr/OMSDB/wf_auto_deliver -i 1
area -n WF_case_add_area -u USER -s 192
file -n /usr/OMSDB/wf_case_add -i 1
area -n WF_data_obj_area -u USER -s 320
file -n /usr/OMSDB/wf_data_obj -i 1
area -n WF_mb_master_bp_manager_area -u USER -s 32
file -n /usr/OMSDB/wf_mb_master_bp_manager -i 1
area -n WF_db_bp_distribution_area -u USER -s 32
file -n /usr/OMSDB/wf_db_bp_distribution -i 1
area -n WF_dr_role_distribution_area -u USER -s 288
file -n /usr/OMSDB/wf_dr_role_distribution -i 1
area -n WF_oa_operation_auth_area -u USER -s 192
file -n /usr/OMSDB/wf_oa_operation_auth -i 1
area -n WF_or_role_manager_area -u USER -s 32
file -n /usr/OMSDB/wf_or_role_manager -i 1
area -n WF_ua_user_auth_area -u USER -s 32
file -n /usr/OMSDB/wf_ua_user_auth -i 1
#####
***          Address          ***
#####
area -n GMA_LASTSEQNO_Type -u USER -s 2

```

## 付録 A 初期設定パラメタの指定例

```
file -n /usr/OMSDB/GMA_LASTSEQNO_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_USERCONFIG_Type -u USER -s 14
file -n /usr/OMSDB/GMA_USERCONFIG_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_USERCONFIG_ORNAME -u USER -s 3
file -n /usr/OMSDB/GMA_USERCONFIG_ORNAME -i 1 -m 3
area -n GMA_SENDMAILMAIN_Type -u USER -s 627
file -n /usr/OMSDB/GMA_SENDMAILMAIN_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_SENDRECIPIENTS_Type -u USER -s 1297
file -n /usr/OMSDB/GMA_SENDRECIPIENTS_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_SENDRECIPIENTS_ORNAME -u USER -s 856
file -n /usr/OMSDB/GMA_SENDRECIPIENTS_ORNAME -i 1 -m 3
area -n GMA_KMLT_Type -u USER -s 6
file -n /usr/OMSDB/GMA_KMLT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_RECVMAILMAIN_Type -u USER -s 3247
file -n /usr/OMSDB/GMA_RECVMAILMAIN_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_REPORTMAIN_Type -u USER -s 710
file -n /usr/OMSDB/GMA_REPORTMAIN_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_NOTICEMAIN_Type -u USER -s 6526
file -n /usr/OMSDB/GMA_NOTICEMAIN_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_RODATA_Type -u USER -s 1
file -n /usr/OMSDB/GMA_RODATA_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_AORT_Type -u USER -s 4
file -n /usr/OMSDB/GMA_AORT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_CMPT_Type -u USER -s 1
file -n /usr/OMSDB/GMA_CMPT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_IORT_Type -u USER -s 9
file -n /usr/OMSDB/GMA_IORT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_LORT_Type -u USER -s 2
file -n /usr/OMSDB/GMA_LORT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_LUST_Type -u USER -s 15
file -n /usr/OMSDB/GMA_LUST_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_NXCT_Type -u USER -s 1
file -n /usr/OMSDB/GMA_NXCT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_NXIT_Type -u USER -s 3
file -n /usr/OMSDB/GMA_NXIT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_NXIT_OR_NAME -u USER -s 2
file -n /usr/OMSDB/GMA_NXIT_OR_NAME -i 1 -m 3
area -n GMA_NXLT_Type -u USER -s 4
file -n /usr/OMSDB/GMA_NXLT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_TEMT_Type -u USER -s 2
file -n /usr/OMSDB/GMA_TEMT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_TERMT_Type -u USER -s 1
file -n /usr/OMSDB/GMA_TERMT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_USRT_Type -u USER -s 25
file -n /usr/OMSDB/GMA_USRT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_USRT_OR_NAME -u USER -s 7
file -n /usr/OMSDB/GMA_USRT_OR_NAME -i 1 -m 3
area -n GMA_BDIT_Type -u USER -s 3
file -n /usr/OMSDB/GMA_BDIT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_BRDT_Type -u USER -s 2
file -n /usr/OMSDB/GMA_BRDT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_KAIRANDB_Type -u USER -s 1
file -n /usr/OMSDB/GMA_KAIRANDB_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_HUST_Type -u USER -s 30
file -n /usr/OMSDB/GMA_HUST_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_UDAT_Type -u USER -s 9
file -n /usr/OMSDB/GMA_UDAT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_UDNT_Type -u USER -s 14
file -n /usr/OMSDB/GMA_UDNT_Type -i 1 -m 3
```



```

area -n GMA_GMAT_Type -u USER -s 4
file -n /usr/OMSDB/GMA_GMAT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_GMAT_ATTR -u USER -s 14
file -n /usr/OMSDB/GMA_GMAT_ATTR -i 1 -m 3
#####
***          インデクス          ***
#####
***          Document manager      ***
#####
area -n IS_index_1_area_1 -u INDEX -s 1
file -n /usr/OMSDB/index_1 -i 3444
area -n IS_index_2_area_1 -u INDEX -s 1
file -n /usr/OMSDB/index_2 -i 3444
area -n IS_version_index -u INDEX -s 32
file -n /usr/OMSDB/version_index -i 33
area -n IS_users_index -u INDEX -s 32
file -n /usr/OMSDB/users_index -i 4
#####
***          Workflow              ***
#####
area -n WF_index_area -u INDEX -s 160
file -n /usr/OMSDB/wf_index -i 7
#####
***          Mail                  ***
#####
area -n GMA_INDEX_MAIL -u INDEX -s 290
file -n /usr/OMSDB/GMA_INDEX_MAIL -i 14
area -n GMA_INDEX_USER -u INDEX -s 4
file -n /usr/OMSDB/GMA_INDEX_USER -i 32

```

## 付録 A.2 ファイル容量の計算式

初期設定パラメタの指定値から、データベースで使用するファイルの容量（キロバイト）を見積もるための計算式を示します。

なお、計算式の文字で「s」はセグメントサイズ、「i」は初期割り当て量及び「m」は最大割り当て量（初期設定パラメタで指定を省略した場合は0としてください）を表します。

### (1) マスタディレクトリ

マスタディレクトリのファイル容量を見積もるための計算式を次に示します。

$$(70 + 51 \times i) \times 8$$

### (2) データディレクトリ

データディレクトリのファイル容量を見積もるための計算式を次に示します。

先頭ファイル

$$(44 + 51 \times i) \times 8$$

2 番目以降のファイル

$$(1 + 51 \times i) \times 8$$

### (3) ディクショナリ及びユーザデータベース

ディクショナリ及びユーザデータベースのファイル容量を見積もるための計算式を次に示します。

先頭ファイル

$$\left( 6 + \left\lceil \frac{\text{MAX}(i, m)}{64000} \right\rceil + \left\lceil \frac{i}{\frac{8120}{40 + \left\lceil \frac{S}{32} \right\rceil \times 12}} \right\rceil + S \times i \right) \times 8$$

2 番目以降のファイル

$$\left( 1 + \left\lceil \frac{\text{MAX}(i, m)}{64000} \right\rceil + \left\lceil \frac{i}{\frac{8120}{40 + \left\lceil \frac{S}{32} \right\rceil \times 12}} \right\rceil + S \times i \right) \times 8$$

### (4) OID インデクス及びインデクス

OID インデクス及びインデクスのファイル容量を見積もるための計算式を次に示します。

先頭ファイル

$$\left( 8 + \left\lceil \frac{\text{MAX}(i, m)}{64000} \right\rceil + \left\lceil \frac{i}{\frac{8120}{40 + \left\lceil \frac{S}{32} \right\rceil \times 12}} \right\rceil + S \times i \right) \times 8$$

2 番目以降のファイル

$$\left( 1 + \left\lceil \frac{\text{MAX}(i, m)}{64000} \right\rceil + \left\lceil \frac{i}{\frac{8120}{40 + \left\lceil \frac{S}{32} \right\rceil \times 12}} \right\rceil + S \times i \right) \times 8$$

## 付録 B バッチファイルによる High-end Object Server のシステムファイル環境設定

High-end Object Server では、環境設定時に実施するシステムファイルの作成及び初期化を、バッチファイルで提供しています。このバッチファイルを利用すると、システムファイルの環境を容易に設定できます。

ここでは、提供しているサンプルファイル及びその使い方を説明します。

### 付録 B.1 サンプルファイル

サンプルファイルはインストール時に作成されるサンプルディレクトリ (/usr/HiOODB/sample (AIX 及び HP-UX の場合は /opt/HiOODB/sample)) にインストールされます。

提供するサンプルファイルは次の四つです。

バッチファイル (1 ファイル)

High-end Object Server のシステムファイルを作成するためのコマンド xodstsinit (ステータスファイルの初期化) 及び xodjnlinit (ジャーナルファイルの初期化) を一連で実行するためのバッチファイルです。

バッチファイルに対応する定義ファイル (それぞれ 1 ファイル, 計 2 ファイル)

- システムジャーナルサービス定義
- ステータスサービス定義

システム共通定義 (1 ファイル)

Groupmax サーバ環境設定コマンドまたは Groupmax サーバ環境設定ユーティリティを使用する場合は、このサンプルファイルを使用しないで、Groupmax サーバ環境設定コマンドまたは Groupmax サーバ環境設定ユーティリティで作成されたシステム共通定義ファイルを使用してください。

Groupmax サーバ環境設定コマンドについては、「付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)」を参照してください。

また、Groupmax サーバ環境設定ユーティリティについては、「付録 E Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (AIX を御利用の場合)」を参照してください。

### 付録 B.2 バッチファイルの使用方法

バッチファイルを使った環境設定の手順を説明します。

#### (1) バッチファイルの実行

バッチファイルの実行手順を次に示します。

1. サンプルディレクトリからバッチファイルをユーザ任意のディレクトリにコピーします。再インストール時に上書きされますので、必ずコピーしてください。

2. コピーしたバッチファイルを、vi などのエディタで開き、パス名などをそれぞれの環境に合わせて変更します。
3. バッチファイルを実行します。

## (2) 各定義ファイルの編集

各定義ファイルの編集手順を次に示します。

1. サンプルディレクトリから各定義ファイルを環境変数 \$XODCONFPATH/ のディレクトリにコピーします。
2. コピーした各定義ファイルを、vi などのエディタで開き、パス名などをそれぞれの環境に合わせて変更します。  
システムジャーナルサービス定義ファイル及びステータスサービス定義ファイルで定義するジャーナルファイル及びステータスファイルのパス名は、バッチファイルで作成したジャーナルファイル及びステータスファイルのパス名と一致させてください。

## 付録 B.3 サンプルファイルの内容

提供するサンプルファイルの内容を示します。下線の箇所は、システムの環境によって変更のある値です。使用する環境に合った値に編集してお使いください。また、「付録 B.4 サンプルファイルを編集する場合の注意」も参照して、それぞれの環境に適した内容に編集してお使いください。

### (1) システムファイル作成用バッチファイル

システムファイル作成用バッチファイルの内容を次に示します。

ファイル名 : DBSINT.BAT

```
#!/bin/sh
#
*****
# * ALL RIGHTS RESERVED,COPYRIGHT (C) 1996,1999,HITACHI,LTD.
# * LICENSED MATERIAL OF HITACHI, LTD.
#
*****
#
*****
# * Object Serverシステムファイルの作成
# * 改訂内容:
# * (1) Groupmax Object Server Version 5 05-00において
# * システムジャーナルファイルの作成場所を変更しました。
# * (2) Groupmax Object Server Version 5 05-00において
# * ステータスファイルの作成場所を変更しました。
# * (3) Groupmax Object Server Version 5 05-00において
# * システムジャーナルファイルのレコード数を25000に変更しました。
#
*****

FILE_SYSTEM_JNL1=/OBJSVFILE1/XODFILEJNL
export FILE_SYSTEM_JNL1
FILE_SYSTEM_JNL2=/OBJSVFILE2/XODFILEJNL
export FILE_SYSTEM_JNL2
FILE_SYSTEM_STS1=/OBJSVFILE1/XODFILESTS1
export FILE_SYSTEM_STS1
FILE_SYSTEM_STS2=/OBJSVFILE2/XODFILESTS2
```

```

export FILE_SYSTEM_STS2

echo "ジャーナルファイルシステムを構築します。"
xodjnlinit -j jnl -f $FILE_SYSTEM_JNL1/jnlfile1 -n 25000
xodjnlinit -j jnl -f $FILE_SYSTEM_JNL1/jnlfile2 -n 25000
xodjnlinit -j jnl -f $FILE_SYSTEM_JNL1/jnlfile3 -n 25000
xodjnlinit -j jnl -f $FILE_SYSTEM_JNL1/jnlfile4 -n 25000
xodjnlinit -j jnl -f $FILE_SYSTEM_JNL2/jnlfile5 -n 25000
xodjnlinit -j jnl -f $FILE_SYSTEM_JNL2/jnlfile6 -n 25000
xodjnlinit -j jnl -f $FILE_SYSTEM_JNL2/jnlfile7 -n 25000
xodjnlinit -j jnl -f $FILE_SYSTEM_JNL2/jnlfile8 -n 25000
echo "ステータスファイルシステムを構築します。"
xodstsinit -f $FILE_SYSTEM_STS1/stsfile1A -c 32
xodstsinit -f $FILE_SYSTEM_STS2/stsfile1B -c 32
xodstsinit -f $FILE_SYSTEM_STS1/stsfile2A -c 32
xodstsinit -f $FILE_SYSTEM_STS1/stsfile2B -c 32
xodstsinit -f $FILE_SYSTEM_STS2/stsfile3A -c 32
xodstsinit -f $FILE_SYSTEM_STS2/stsfile3B -c 32

echo "**** 終了しました。 ****"

```

## (2) システムジャーナルサービス定義

システムジャーナルサービス定義の内容を次に示します。

ファイル名 : sysjnl

```

#
*****
# ALL RIGHTS RESERVED,COPYRIGHT (C) 1996,1999,HITACHI,LTD.
# LICENSED MATERIAL OF HITACHI, LTD.
#
*****
#
*****
# * 改訂内容:
# * (1) Groupmax Object Server Version 5 05-00において
# * システムジャーナルファイルの作成場所を変更しました。
# * (2) Groupmax Object Server Version 5 05-00において
# * jnl_cdintervalパラメタを200に設定しました。
#
*****
set jnl_cdinterval = 200

jnladdfg -g jnlfile1 ONL
jnladdpf -g jnlfile1 -a /OBJSVFILE1/XODFILEJNL/jnlfile1
jnladdfg -g jnlfile2 ONL
jnladdpf -g jnlfile2 -a /OBJSVFILE1/XODFILEJNL/jnlfile2
jnladdfg -g jnlfile3 ONL
jnladdpf -g jnlfile3 -a /OBJSVFILE1/XODFILEJNL/jnlfile3
jnladdfg -g jnlfile4 ONL
jnladdpf -g jnlfile4 -a /OBJSVFILE1/XODFILEJNL/jnlfile4
jnladdfg -g jnlfile5 ONL
jnladdpf -g jnlfile5 -a /OBJSVFILE2/XODFILEJNL/jnlfile5
jnladdfg -g jnlfile6 ONL
jnladdpf -g jnlfile6 -a /OBJSVFILE2/XODFILEJNL/jnlfile6
jnladdfg -g jnlfile7 ONL
jnladdpf -g jnlfile7 -a /OBJSVFILE2/XODFILEJNL/jnlfile7
jnladdfg -g jnlfile8 ONL
jnladdpf -g jnlfile8 -a /OBJSVFILE2/XODFILEJNL/jnlfile8

```

### (3) ステータスサービス定義

ステータスサービス定義の内容を次に示します。

ファイル名: sts

```
#
*****
# ALL RIGHTS RESERVED,COPYRIGHT (C) 1996,1999,HITACHI,LTD.
# LICENSED MATERIAL OF HITACHI, LTD.
#
*****
#
# * 改訂内容:
# * (1) Groupmax Object Server Version 5 05-00において
# * ステータスファイルの作成場所を変更しました
#
*****
set sts_file_name_1 = "stsfile1", ¥
"/OBJSVFILE1/XODFILESTS1/stsfile1A", ¥
"/OBJSVFILE2/XODFILESTS2/stsfile1B"
set sts_file_name_2 = "stsfile2", ¥
"/OBJSVFILE1/XODFILESTS1/stsfile2A", ¥
"/OBJSVFILE1/XODFILESTS1/stsfile2B"
set sts_file_name_3 = "stsfile3", ¥
"/OBJSVFILE2/XODFILESTS2/stsfile3A", ¥
"/OBJSVFILE2/XODFILESTS2/stsfile3B"
```

### (4) システム共通定義

システム共通定義の内容を次に示します。

ファイル名: xodrc

```
#
*****
# ALL RIGHTS RESERVED,COPYRIGHT (C) 1996,1999,HITACHI,LTD.
# LICENSED MATERIAL OF HITACHI, LTD.
#
*****
set system_id = a1
set lck_limit = 6000
set trn_tran_process_count = 32
set static_shmpool_size = 5120
set dbm_master = /OBJSVFILE/DB/master01
# グローバルキャッシュ定義
gcache -n xod_gcache_area -m 200 -u AREA
gcache -n xod_gcache_oidindex -m 100 -u OIDINDEX
```

## 付録 B.4 サンプルファイルを編集する場合の注意事項

サンプルファイルは、次の内容を考慮して、それぞれの環境に適した内容に変更して編集してください。

### (1) ジャーナルファイル及びシステムジャーナルサービス定義についての注意事項

#### (a) ジャーナルファイルを作成するディスク

性能及び運用の観点から、ジャーナルファイルはデータベースが格納されているドライブとは別のディスクに作成することを推奨します。

ハードディスクの障害によって、すべての物理ファイルが障害にならないようにするため、ジャーナルファイルは複数のディスクに分けて作成することを推奨します。

### (b) システムジャーナルサービス定義の jnl\_cdinterval パラメタの指定値

システムジャーナルサービス定義の jnl\_cdinterval パラメタには、次の設定値以上の値を指定してください。

設定値

- Groupmax Mail Server 及び Groupmax Workflow Server を使用しない場合：100
- Groupmax Mail Server を使用する場合：200
- Groupmax Mail Server 及び Groupmax Workflow Server を使用する場合：300

その後は、連携する Groupmax アプリケーションの指示に従ってチューニングしてください。jnl\_cdinterval パラメタについては、「7.4 システムジャーナルサービス定義ファイル (High-end Object Server)」を参照してください。

### (c) ジャーナルファイルの見積もり

ジャーナルファイルのジャーナル容量の見積もり方法について、推奨する方法について説明します。ここでは、二通りの方法について説明します。

なお、これらの方法は、毎日夜間にジャーナルのアンロードをする運用であることを前提にしています。

Groupmax の各連携プログラムの計算式に従ってジャーナル出力量を見積もる方法

1. 1日のジャーナル出力量を Groupmax の各連携プログラムの計算式に従って見積もります。
2. 次の指針に従って、一つのジャーナルファイルの容量を求めます。
  - ジャーナルのスワップ回数は、数回/日が推奨されています。
  - ジャーナルファイルの障害に備えて、アンロードしなくても、1日ですべてのジャーナルファイルを使い切らないように一つのファイルのサイズを決定します。例えば、ジャーナルファイルが8個ある場合、3個～4個は使わずに残るようにします。
3. 運用を開始した後、ジャーナルファイルの使用状況を監視して、手順1.で見積もったジャーナル出力量の見積もり値を検証します。

Groupmax の各連携プログラムの計算式を使用しない見積もり方法

1日のジャーナル出力量を Groupmax の各連携プログラムの計算式から見積もることが困難な場合は、次の手順で見積もってください。

1. 仮のジャーナルサイズでジャーナルファイルを複数作成します。  
例えば、サンプルファイルの指定サイズ及び指定ファイル分で、ジャーナルファイルを作成します。
2. High-end Object Server のシステムジャーナルサービス定義の、ジャーナルアンロードチェックの指定 (jnl\_unload\_check パラメタ) を、一時的に「N (ジャー

ナルアンロードチェックをしない)」に変更します。

N を指定した場合、ジャーナルのアンロードをしなくても自動的にジャーナルファイルが再利用されます。ただし、ジャーナルによるデータベースの回復ができなくなりますので、データベースのバックアップを毎日取得するなどして、障害に備えてください。

3. ジャーナルファイルのスワップ回数など、ジャーナルの使用状況を監視して、1 日で必要なジャーナル容量を求めます。
4. 求められた値を基に、ジャーナルファイルを再作成します。
5. High-end Object Server のシステムジャーナルサービス定義のジャーナルアンロードチェックの指定 (jnl\_unload\_check パラメタ) を Y に戻します。

## (2) ステータスファイル及びステータスサービス定義についての注意事項

### (a) ステータスファイルを作成するディスク

性能及び運用の観点から、ステータスファイルはデータベースが格納されているディスクとは別のディスクに作成することを推奨します。

ハードディスクの障害によって、すべてのステータスファイルが障害とならないようにするために、A 系ファイル名と B 系ファイル名はできるだけ別ディスクに作成することを推奨します。また、それぞれの論理ファイルも、できるだけ別ディスクに作成することを推奨します。

**注意** すべてのステータスファイルが障害となった場合、High-end Object Server は異常終了して、再開できない状態になります。

### (b) 使用するレコード数の指定

High-end Object Server は、32 以上のレコード数を使用しません。このため、サンプルファイルでのステータスファイルのレコード数の指定値を変更する必要はありません。



---

## 付録 C Bibliotheca/OM を同じサーバで使用する場合

オブジェクトサーバと Bibliotheca/OM を同じサーバで使用する場合の注意事項を説明します。

### (1) 環境を設定するときの注意

オブジェクトサーバの環境を設定するとき、次に示す番号又は ID は、Bibliotheca/OM と異なる番号又は ID を指定してください。

#### (a) ポート番号

ポート番号は、通信設定ファイル及びシステム共通定義ファイルで設定します。

#### (b) OMS 識別子

OMS 識別子は、システム共通定義ファイルで設定します。

#### (c) ノード ID

ノード ID は、初期設定パラメタファイルで設定します。

### (2) オブジェクトサーバを運用するときの注意

オブジェクトサーバと Bibliotheca/OM は、どちらも環境変数 XODDIR、XODCONFPATH を使用しています。そのため、同一の環境では、どちらかのシステムしか起動又はシステム共通定義ができません。

また、環境変数 PATH には、どちらかのディレクトリだけを指定してください。両方のディレクトリを指定すると、コマンドなどを実行するときに、エラーが起こることがあります。

### (3) メッセージの要因を調べるときの注意

オブジェクトサーバと Bibliotheca/OM のメッセージ ID は同じであるため、コンソールに表示されているメッセージでは、どちらから出力されているかを見分けられません。そのため、エラーメッセージが表示されたときには、xodlogcat コマンドでログファイルの内容を表示させるか、又は標準エラー出力に出力されたメッセージを参照して、その中の OMS 識別子がどちらのものかを調べてください。

ログファイル又は標準エラー出力にメッセージが出力されていない場合は、どちらのメッセージかを特定することは困難です。障害の発生順序など他の要因を調べて対処してください。

## 付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

オブジェクトサーバで必要とする各種パラメタを、Groupmax サーバ環境設定コマンドで作成できます。これによって、システム管理者がパラメタ中の項目を一つずつ指定する必要がなくなり、パラメタを作成するときの負荷を軽減できます。

Groupmax 運用時に、ユーザ数の増加やシステム構成の変更などによって UNIX カーネルパラメタの変更が必要な場合があります。また、Groupmax Version 5 以前のバージョンから移行したときには、必ず見積もり直してください。

なお、Groupmax Version 5 以前のバージョンの Groupmax サーバ環境設定コマンドで作成したパラメタファイルは、Groupmax Version 6 の Groupmax サーバ環境設定コマンドでは使用できません。Groupmax Version 6 で新しく追加された項目を設定して、パラメタファイルを作成し直してください。このとき、パラメタファイルを既存の項目の値はそのまま使用できます。

ここでは、Groupmax サーバ環境設定コマンドの機能及び操作方法を説明します。

### 付録 D.1 Groupmax サーバ環境設定コマンドとは

Groupmax サーバ環境設定コマンド (gseset コマンド) とは、システム管理者が実施する次に示す作業を支援するコマンドです。

- 初期設定パラメタの作成
- 構成変更パラメタの作成
- 再編成パラメタの作成
- 再構成パラメタの作成

通常、システム管理者は上記のパラメタ中の項目を一つずつ指定します。しかし、gseset コマンドを使用すると、簡単な入力情報を指定するだけで上記のパラメタが作成できます。これによって、システム管理者がパラメタを作成するときの負荷を軽減できます。ただし、既に Groupmax Version 6 の Groupmax サーバ環境設定コマンドで作成したパラメタファイルを基に作成したデータベースを構成変更する場合、gseset コマンドでは、新しいプログラムを追加するための構成変更パラメタだけが作成できます。

また、上記のパラメタを入力して作成されるシステム構成のシステム共通定義、及びカーネルパラメタの変更情報 (カーネルパラメタの見積もり値) もファイルに出力されます。初期設定パラメタを作成する場合は、データベースの割り当て容量も標準出力に出力されます。

なお、gseset コマンドで作成されるファイルのオーナー及びグループは起動ユーザと同じとなります。ファイルモードは 644 となります。

### 付録 D.2 Groupmax サーバ環境設定コマンドを使用できる範囲

Groupmax サーバ環境設定コマンドによってデータベースの環境設定に使用するパラメタファイルを作成できるのは、次に示す条件を満たしている場合です。

すべてのサーバプログラムについての条件

- それぞれのプログラムの設定可能な範囲でパラメタの値を入力した場合
- データベースの運用期間 (データベースの再編成までの期間) が 30 日以内の場合

Groupmax Address/Mail Server を使用する場合の条件

- (システム内の全ユーザ数) ÷ (このサーバに登録するユーザ数) が 400 以下の場合
- システム内の全ユーザ数が 32,500 以下の場合
- このサーバに登録するユーザ数が 5,000 以下の場合

Groupmax Workflow Server を使用する場合の条件

- ワーク処理日数とワーク保存日数の合計が 30 日以内の場合

これらの条件を満たさない場合、Groupmax サーバ環境設定コマンドでは正しい値のパラメタファイルを作成できません。この場合は、それぞれのプログラムの手順に従ってパラメタファイルを作成してください。Groupmax Address/Mail でのパラメタファイルの指定値の見積もりについては、「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」を、Groupmax Workflow Server でのパラメタファイルの指定値の見積もりについては、「Groupmax Workflow Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

## 付録 D.3 gset コマンドの文法

### (1) 形式

```
gset { -n | -c | -r | -s | -k } -f 入力ファイル名 [-o 出力先ディレクトリ名]
```

### (2) 機能

次に示すパラメタ、及びカーネルパラメタの変更情報を作成します。

- 初期設定パラメタ
- 構成変更パラメタ
- 再編成パラメタ
- 再構成パラメタ
- カーネルパラメタの変更情報 (カーネルパラメタの見積もり値)

### (3) オプション

-n

初期設定パラメタを作成する場合に指定します。

また、この初期設定パラメタを入力して作成されるシステム構成のシステム共通定義、及びカーネルパラメタの見積もり値もファイルに出力されます。データベースの割り当て容量は標準出力に出力されます。

-c

構成変更パラメタを作成する場合に指定します。

また、この構成変更パラメタを入力して作成されるシステム構成のシステム共通定義、及びカーネルパラメタの見積もり値もファイルに出力されます。

なお、このコマンドを実行する前に、\$XODDIR/conf/xodrc ファイルを作成してい

## 付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

るかどうかを確認してください。作成していない場合は、\$XODDIR/conf/xodrc ファイルを作成してからこのコマンドを実行してください。

-r

再編成パラメタを作成する場合に指定します。作成できる再編成パラメタは、再編成用パラメタ reorg だけです。インデクスの再作成用パラメタ recreate は作成できません。

なお、システム共通定義、及びカーネルパラメタの見積もり値は出力されません。

-s

再構成パラメタを作成する場合に指定します。

なお、システム共通定義、及びカーネルパラメタの見積もり値は出力されません。

-k

カーネルパラメタの変更情報 (カーネルパラメタの見積もり値) だけを作成する場合に指定します。

Groupmax 運用時に、ユーザ数の増加やシステム構成の変更などによって UNIX カーネルパラメタの変更が必要な場合や Groupmax Version 5 以前のバージョンから移行したときには、このパラメタを指定してカーネルパラメタを見積もり直してください。

-f 入力ファイル名

パラメタを作成するための入力情報を格納したファイルを指定します。

なお、入力情報のサンプルファイルがあります。これを利用して入力情報ファイルを作成してください。サンプルファイルについては、「付録 D.9 サンプルファイル」を参照してください。

-o 出力先ディレクトリ名

作成されたパラメタを格納するファイルのディレクトリ名を指定します。省略すると、カレントディレクトリが仮定されます。出力ファイルの名称は次のとおり固定です。

- 初期設定パラメタを格納するファイル：esetinit
- 構成変更パラメタを格納するファイル：esetcons
- 再編成パラメタを格納するファイル：esetreog
- 再構成パラメタを格納するファイル：esetreco
- システム共通定義を格納するファイル：esetre
- カーネルパラメタの見積もり値を格納するファイル：esetknl

なお、次に示す場合は、このコマンドを実行したときにエラーとなります。

- ここで指定するディレクトリを作成していない場合
- -n, -c, -r, -s, -k オプションに対応したファイルを格納するディレクトリを指定した場合
- ここで指定するディレクトリ下にファイルがある場合

### (4) 終了ステータス

コマンドの終了ステータスを示します。

- 0 : 正常終了
- 0以外 : 異常終了

## (5) 注意事項

- xodsetup コマンドを実行してから、gset コマンドを実行してください。
- gset コマンドは、環境変数を設定した後に実行してください。設定する環境変数については、「2.4.2 環境変数の設定」を参照してください。
- 構成変更パラメタと同時に作成されるカーネルパラメタ変更情報ファイルには、増加した値だけが設定されます。既に初期設定パラメタを作成したときに作成されたカーネルパラメタ変更情報ファイルの内容に、構成変更パラメタを作成した時に作成されたカーネルパラメタ変更情報ファイルの内容を追加した値が、Groupmax で必要なカーネルパラメタの値になります。

## 付録 D.4 初期設定パラメタを作成するには

### (1) 操作手順

次に示す手順に従って、初期設定パラメタを作成してください。

1. サンプルファイルを利用して、gset コマンドの入力ファイル (gset コマンドの -f オプションに指定するファイル) を作成します。サンプルファイルについては、「付録 D.9 サンプルファイル」を参照してください。  
なお、サンプルファイルでは、データベースファイルを作成するディレクトリパス名の指定が「/usr/OMSDB」になっています (MasterDBPath=/usr/OMSDB)。性能及び運用の観点から、データベースは OS や Groupmax サーバ用のディスクとは別のボリュームを作成することを推奨します。
2. gset コマンドの出力結果ファイルを格納するディレクトリ (gset コマンドの -o オプションに指定するディレクトリ) を作成します。
3. gset コマンドを実行します。指定するオプションは次のとおりです。
  - -n オプション
  - -f オプション (1. で作成したファイルを指定します。)
  - -o オプション (2. で作成したディレクトリを指定します。)

上記の操作をすると、esetinit ファイルに初期設定パラメタが作成されます。ここで作成した初期設定パラメタを入力情報として、xodbinit コマンドを実行してください。

#### esetinit ファイルに作成される初期設定パラメタの例

```
*****
#* All Rights Reserved, Copyright (C) 1996,2001,Hitachi,Ltd.
#* Licensed Material of Hitachi,Ltd.
*****
#*****
# This file is made by Eset_Utl
# VR:0600 date:2001/02/15 11:26:29
#*****
#*****
#**   初期設定パラメタファイル
#*****
#*****
#**   Object Server   **
#*****
area -n master -u MASTER -s 50
file -n "/usr/OMSDB/master_dir" -i 2
```

## 付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

```
area -n datadir -u DATADIR -s 50
file -n "/usr/OMSDB/data_dir_1" -i 1
area -n dictionary -u DICTIONARY -s 8
file -n "/usr/OMSDB/dictionary_1" -i 165
area -n oidindex -u OIDINDEX -s 32
file -n "/usr/OMSDB/oidindex_1" -i 98
#*****
#** Document Manager **
#*****
area -n IS_system_area_1 -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/user_db_1_1" -i 49
area -n IS_class_area_1 -u USER -s 32
file -n "/usr/OMSDB/user_db_2_1_1" -i 68
area -n IS_string_area_1 -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/user_db_3_1_1" -i 208
area -n IS_version_area -u USER -s 28
file -n "/usr/OMSDB/user_db_4_1" -i 1
area -n IS_users_area -u USER -s 44
file -n "/usr/OMSDB/user_db_5_1" -i 1
#*****
#** Index **
#*****
area -n IS_index_1_area_1 -u INDEX -s 1
file -n "/usr/OMSDB/index_1_1_1" -i 524
area -n IS_index_2_area_1 -u INDEX -s 1
file -n "/usr/OMSDB/index_2_1_1" -i 524
area -n IS_version_index -u INDEX -s 32
file -n "/usr/OMSDB/index_3_1" -i 2
area -n IS_users_index -u INDEX -s 32
file -n "/usr/OMSDB/index_4_1" -i 7
area -n WF_index_area -u INDEX -s 10048
file -n "/usr/OMSDB/wf_index" -i 7
area -n GMA_INDEX_MAIL -u INDEX -s 861
file -n "/usr/OMSDB/GMA_INDEX_MAIL" -i 14
area -n GMA_INDEX_USER -u INDEX -s 101
file -n "/usr/OMSDB/GMA_INDEX_USER" -i 32
```

### (2) 初期設定パラメタと一緒に作成される情報

gseset コマンドを実行すると、初期設定パラメタのほかに次に示す情報が作成されます。

- システム共通定義
- カーネルパラメタの見積もり値
- データベースの割り当て容量

#### (a) システム共通定義の作成

システム共通定義が esetrc ファイルに作成されます。esetrc ファイルの内容を \$XODDIR/conf/xodrc にコピーして、オブジェクトサーバを開始してください。

esetrc ファイルに作成されるシステム共通定義の例

```
#*****
#* All Rights Reserved, Copyright (C) 1996,2001,Hitachi,Ltd.
#* Licensed Material of Hitachi,Ltd.
#*****
#*****
# This file is made by Eset_Utl
# VR:0600 date:2001/02/14 09:51:32
```

```

#*****
set system_id = a1
set lck_limit = 32767
set prc_process_count = 230
set trn_tran_process_count = 115
set static_shmpool_size = 71421
set dynamic_shmpool_size = 10000
set dbm_master = "/usr/OMSDB/master_dir"
set logprint_system_id = N
gcache -n gmax_gcache_area -m 5873 -u AREA
gcache -n gmax_gcache_oidindex -m 526 -u OIDINDEX
gcache -n gmax_gcache_index -m 256 -u INDEX
resipool -n gmax_resipool_dictionary -m 375 -u DICTIONARY
resipool -n gmax_resipool_user -m 279 -u USER
resipool -n gmax_resipool_cstype -m 2 -u CSTYPE
resiobj -s gmax -t _GM_USRT_Type
resiobj -s gmax -t _GM_USERCONFIG_Type
resiobj -s gmax -t _GM_LASTSEQNO_Type
resiobj -s gmax -t _GM_IORT_Type
resiobj -s gmax -t _GM_BDIT_Type
resiobj -s gmax -t _GM_CMPT_Type
resiobj -s gmax -t _GM_USERCONFIG_ORNAME_CSType
resiobj -s gmax -t _GM_USRT_OR_NAME_CSType
resiobj -s gmax -t WF_manager_class
resiobj -s gmax -t WF_bp_class
resiobj -s gmax -t WF_role_class
resiobj -s gmax -t WF_user_class
resiobj -s gmax -t WF_operation_list_class
resiobj -s gmax -t WF_counter_class
resiobj -s gmax -t WF_send_class
resiobj -s gmax -t WF_auto_deliver_key_class
resiobj -s gmax -t WF_manager_que_class
resiobj -s gmax -t WF_mb_master_bp_manager_class
resiobj -s gmax -t WF_db_bp_distribution_manager_class
resiobj -s gmax -t WF_dr_role_distribution_manager_class
resiobj -s gmax -t WF_oa_operation_auth_class
resiobj -s gmax -t WF_or_role_manager_class
resiobj -s gmax -t WF_if4_trans_que_class
resiobj -s gmax -t WF_ua_user_auth_class
resiobj -s gmax -t GIS_meta_root_doc_class

```

**(b) カーネルパラメタの見積もり値の作成**

ここで作成した初期設定パラメタを入力して作成されるシステム構成のカーネルパラメタの見積もり値が esetknl ファイルに出力されます。ここで出力される情報は、Groupmax の環境設定に関連して変更が必要なカーネルパラメタだけです。esetknl ファイルに出力される情報を参考にして、OS の sam コマンドでカーネルパラメタを変更してください。

なお、esetknl ファイルには、Groupmax システムの一部のアプリケーションプログラムで必要なカーネルパラメタの見積もり値だけが出力されます。したがって、カーネルパラメタには、esetknl ファイルに出力された見積もり値とほかのシステムで必要なカーネルパラメタの見積もり値を加算して指定してください。

esetknl ファイルに作成されるカーネルパラメタの見積もり値の例

```

#*****
#* All Rights Reserved, Copyright (C) 1996,2001,Hitachi,Ltd.

```

付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

```

#* Licensed Material of Hitachi,Ltd.
#*****
#*****
# This file is made by Eset_Utl
# VR:0600 date:2001/02/15 17:26:56
#*****
#*****
#* Groupmaxのプログラムを使用する場合、オペレーティングシステム
#* (カーネル)パラメタのカスタマイズが必要です。以下に記述して
#* いるパラメタは、Groupmaxのプログラムが動作するためだけにカス
#* タマイズが必要な数値を示しています。
#* 同じシステム上で動作するGroupmax以外のプログラムを考慮した上
#* で、オペレーティングシステムパラメタの数値を決定して下さい。
#* なお、オペレーティングシステムパラメタのカスタマイズには、SAM
#* コマンドを使用します。
#*****
#*****
#* nfile,nflocks,ninode,maxuprc,nproc,semnu,msgmni,
#* msgtql,shmmni,semms,semni,msgmax,msgmb,msgseg,
#* msgsszパラメタは、現在設定されている値にGroupmax
#* で必要となる以下の値を加算した値を設定して下さい。ただし、
#* 現在設定されている値が十分に大きな値であれば、設定値を変更す
#* る必要はありません。
#*****
nfile      = 5308      # Max Number of Open Files
nflocks    = 317      # Max Number of File Locks
ninode     = 1159     # Max Number of Open Inodes
maxuprc    = 305      # Max Number of User Processes
nproc      = 408      # Max Number of Processes
semnu      = 248      # Max Number of Semaphore Undo Structures
msgmni     = 19       # Number of Message Queue Identifiers
msgtql     = 330      # Number of Message Headers
shmmni     = 13       # Number of Shared Memory Identifiers
semms      = 80       # Max Number of Semaphores
semni      = 80       # Number of Semaphore Identifiers
msgmax     = 0        # Message Max Size(bytes)
msgmb      = 0        # Max Number of Bytes on Message Queue
msgseg     = 0        # Number of Segments Available for Messages
msgssz     = 0        # Message Segment Size
#*****
#* shmmaxパラメタは、現在設定されている値と以下の値を比較し、大
#* きな方の値を設定してください。
#*****
shmmax     = 84567040  # Max Shared Memory segment (bytes)
maxdsize   = 0         # Max Data Segment Size(bytes)
#*****
#* ncalloutパラメタのHI-UX/WE2 04-00,04-01,05-00での変更は不
#* 要です。それ以外のシステムでは、nproc+64以上の値を設定して下
#* さい。
#*****
ncallout   >= nproc + 64 # Max Number of Pending Timeouts
#*****
#* maxfiles,maxfiles_limパラメタは3050RXシリーズ、3500シリ
#* ーズ、HPのみで指定可能です。
#*****
maxfiles   = 200      # Soft File Limit per Process
maxfiles_lim = 200    # Hard File Limit per Process

```

(c) データベースの割り当て容量

データベースの割り当て容量が標準出力に出力されます。



## 付録 D.5 構成変更パラメタを作成するには

### (1) 操作手順

次に示す手順に従って、構成変更パラメタを作成してください。

1. サンプルファイルを利用して、gset コマンドの入力ファイル (gset コマンドの -f オプションに指定するファイル) を作成します。サンプルファイルについては、「付録 D.9 サンプルファイル」を参照してください。
2. gset コマンドの出力結果ファイルを格納するディレクトリ (gset コマンドの -o オプションに指定するディレクトリ) を作成します。
3. gset コマンドを実行します。指定するオプションは次のとおりです。
  - -c オプション
  - -f オプション (1. で作成したファイルを指定します。)
  - -o オプション (2. で作成したディレクトリを指定します。)

上記の操作をすると、esetcons ファイルに構成変更パラメタが作成されます。ここで作成した構成変更パラメタを入力情報として、xodaradd 又は xodfladd コマンドを実行してください。

esetcons ファイルに作成される構成変更パラメタの例

```
*****
#* All Rights Reserved, Copyright (C) 1996,2001,Hitachi,Ltd.
#* Licensed Material of Hitachi,Ltd.
*****
# This file is made by Eset_Utl
# VR:0600 date:2001/02/07 11:25:57
*****
*** 構成変更パラメタファイル
*****
*** Document Manager **
*****
area -n IS_system_area_1 -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/user_db_1_1" -i 53
area -n IS_class_area_1 -u USER -s 32
file -n "/usr/OMSDB/user_db_2_1_1" -i 95
area -n IS_string_area_1 -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/user_db_3_1_1" -i 1462
area -n IS_version_area -u USER -s 188
file -n "/usr/OMSDB/user_db_4_1" -i 1
area -n IS_users_area -u USER -s 10
file -n "/usr/OMSDB/user_db_5_1" -i 1
*****
*** Workflow **
*****
area -n WF_is_system -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/wf_is_db_1" -i 32
area -n WF_is_class -u USER -s 960
file -n "/usr/OMSDB/wf_is_db_2" -i 5
area -n WF_is_string -u USER -s 224
file -n "/usr/OMSDB/wf_is_db_3" -i 16
area -n WF_manager_area -u USER -s 32
file -n "/usr/OMSDB/wf_mng_1" -i 2
```

付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

```
area -n WF_bp_area -u USER -s 128
file -n "/usr/OMSDB/wf_bp" -i 1
area -n WF_work_area -u USER -s 3168
file -n "/usr/OMSDB/wf_work" -i 1
area -n WF_case_area -u USER -s 4416
file -n "/usr/OMSDB/wf_case" -i 1
area -n WF_role_area -u USER -s 128
file -n "/usr/OMSDB/wf_role" -i 1
area -n WF_user_area -u USER -s 256
file -n "/usr/OMSDB/wf_user" -i 1
area -n WF_op_list_area -u USER -s 128
file -n "/usr/OMSDB/wf_op_list" -i 1
area -n WF_case_inf_area -u USER -s 128
file -n "/usr/OMSDB/wf_case_inf" -i 1
area -n WF_counter_area -u USER -s 32
file -n "/usr/OMSDB/wf_counter" -i 1
area -n WF_class_lock_area -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/wf_class_lock" -i 1
area -n WF_send_area -u USER -s 32
file -n "/usr/OMSDB/wf_send" -i 1
area -n WF_case_add_area -u USER -s 800
file -n "/usr/OMSDB/wf_case_add" -i 1
area -n WF_auto_deliver_area -u USER -s 64
file -n "/usr/OMSDB/wf_auto_deliver" -i 1
area -n WF_data_obj_area -u USER -s 2592
file -n "/usr/OMSDB/wf_data_obj" -i 1
area -n WF_relation_area -u USER -s 128
file -n "/usr/OMSDB/wf_relation" -i 1
area -n WF_mb_master_bp_manager_area -u USER -s 32
file -n "/usr/OMSDB/wf_mb_master_bp_manager" -i 1
area -n WF_db_bp_distribution_area -u USER -s 32
file -n "/usr/OMSDB/wf_db_bp_distribution" -i 1
area -n WF_dr_role_distribution_area -u USER -s 32
file -n "/usr/OMSDB/wf_dr_role_distribution" -i 1
area -n WF_oa_operation_auth_area -u USER -s 64
file -n "/usr/OMSDB/wf_oa_operation_auth" -i 1
area -n WF_or_role_manager_area -u USER -s 32
file -n "/usr/OMSDB/wf_or_role_manager" -i 1
area -n WF_ua_user_auth_area -u USER -s 32
file -n "/usr/OMSDB/wf_ua_user_auth" -i 1
#*****
#** Mail **
#*****
area -n GMA_LASTSEQNO_Type -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/GMA_LASTSEQNO_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_USERCONFIG_Type -u USER -s 2
file -n "/usr/OMSDB/GMA_USERCONFIG_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_USERCONFIG_ORNAME -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/GMA_USERCONFIG_ORNAME" -i 1 -m 3
area -n GMA_SENDMAILMAIN_Type -u USER -s 52
file -n "/usr/OMSDB/GMA_SENDMAILMAIN_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_SENDRECIPIENTS_Type -u USER -s 43
file -n "/usr/OMSDB/GMA_SENDRECIPIENTS_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_SENDRECIPIENTS_ORNAME -u USER -s 29
file -n "/usr/OMSDB/GMA_SENDRECIPIENTS_ORNAME" -i 1 -m 3
area -n GMA_KMLT_Type -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/GMA_KMLT_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_RECVMAILMAIN_Type -u USER -s 134
file -n "/usr/OMSDB/GMA_RECVMAILMAIN_Type" -i 1 -m 3
```

付録D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

```

area -n GMA_REPORTMAIN_Type -u USER -s 39
file -n "/usr/OMSDB/GMA_REPORTMAIN_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_NOTICEMAIN_Type -u USER -s 215
file -n "/usr/OMSDB/GMA_NOTICEMAIN_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_RODATA_Type -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/GMA_RODATA_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_AORT_Type -u USER -s 2
file -n "/usr/OMSDB/GMA_AORT_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_CMPT_Type -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/GMA_CMPT_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_IORT_Type -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/GMA_IORT_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_LORT_Type -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/GMA_LORT_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_LUST_Type -u USER -s 5
file -n "/usr/OMSDB/GMA_LUST_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_NXCT_Type -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/GMA_NXCT_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_NXIT_Type -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/GMA_NXIT_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_NXIT_OR_NAME -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/GMA_NXIT_OR_NAME" -i 1 -m 3
area -n GMA_NXLT_Type -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/GMA_NXLT_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_TEMT_Type -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/GMA_TEMT_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_TERMT_Type -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/GMA_TERMT_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_USRT_Type -u USER -s 9
file -n "/usr/OMSDB/GMA_USRT_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_USRT_OR_NAME -u USER -s 3
file -n "/usr/OMSDB/GMA_USRT_OR_NAME" -i 1 -m 3
area -n GMA_BDIT_Type -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/GMA_BDIT_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_BRDT_Type -u USER -s 2
file -n "/usr/OMSDB/GMA_BRDT_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_KAIRANDB_Type -u USER -s 1
file -n "/usr/OMSDB/GMA_KAIRANDB_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_HUST_Type -u USER -s 10
file -n "/usr/OMSDB/GMA_HUST_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_UDAT_Type -u USER -s 3
file -n "/usr/OMSDB/GMA_UDAT_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_UDNT_Type -u USER -s 14
file -n "/usr/OMSDB/GMA_UDNT_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_GMAT_Type -u USER -s 2
file -n "/usr/OMSDB/GMA_GMAT_Type" -i 1 -m 3
area -n GMA_GMAT_ATTR -u USER -s 5
file -n "/usr/OMSDB/GMA_GMAT_ATTR" -i 1 -m 3
#*****
#**      Index      **
#*****
area -n IS_index_1_area_1 -u INDEX -s 1
file -n "/usr/OMSDB/index_1_1_1" -i 2212
area -n IS_index_2_area_1 -u INDEX -s 1
file -n "/usr/OMSDB/index_2_1_1" -i 2212
area -n IS_version_index -u INDEX -s 32
file -n "/usr/OMSDB/index_3_1" -i 2
area -n IS_users_index -u INDEX -s 32
file -n "/usr/OMSDB/index_4_1" -i 3

```

## 付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

```
area -n WF_index_area -u INDEX -s 160
file -n "/usr/OMSDB/wf_index" -i 7
area -n GMA_INDEX_MAIL -u INDEX -s 12
file -n "/usr/OMSDB/GMA_INDEX_MAIL" -i 14
area -n GMA_INDEX_USER -u INDEX -s 1
file -n "/usr/OMSDB/GMA_INDEX_USER" -i 32
```

### (2) 構成変更パラメタと一緒に作成される情報

gseset コマンドを実行すると、構成変更パラメタのほかに次に示す情報が作成されます。

- システム共通定義
- カーネルパラメタの見積もり値

#### (a) システム共通定義の作成

システム共通定義が esetrc ファイルに作成されます。esetrc ファイルの内容を \$XODDIR/conf/xodrc にコピーして、オブジェクトサーバを開始してください。

esetrc ファイルに作成されるシステム共通定義の例

「付録 D.4(2) 初期設定パラメタと一緒に作成される情報」の「(a) システム共通定義の作成」を参照してください。

#### (b) カーネルパラメタの見積もり値の作成

ここで作成した構成変更パラメタを入力して作成されるシステム構成のカーネルパラメタの見積もり値が esetknl ファイルに出力されます。ここで出力される情報は、Groupmax の環境設定に関連して変更が必要なカーネルパラメタだけです。esetknl ファイルに出力される情報を参考にして、OS の sam コマンドでカーネルパラメタを変更してください。

なお、esetknl ファイルには、Groupmax システムの一部のアプリケーションプログラムに必要なカーネルパラメタの見積もり値だけが出力されます。したがって、カーネルパラメタには、esetknl ファイルに出力された見積もり値とほかのシステムに必要なカーネルパラメタの見積もり値を加算して指定してください。

esetknl ファイルに作成されるカーネルパラメタの見積もり値の例

「付録 D.4(2) 初期設定パラメタと一緒に作成される情報」の「(b) カーネルパラメタの見積もり値の作成」を参照してください。

## 付録 D.6 再編成パラメタを作成するには

作成できる再編成パラメタは、再編成用パラメタ reorg だけです。インデックスの再作成用パラメタ recreate は作成できません。

### (1) 操作手順

次に示す手順に従って、再編成パラメタを作成してください。

1. サンプルファイルを利用して、gseset コマンドの入力ファイル (gseset コマンドの -f オプションに指定するファイル) を作成します。サンプルファイルについては、「付録 D.9 サンプルファイル」を参照してください。
2. gseset コマンドの出力結果ファイルを格納するディレクトリ (gseset コマンド

の -o オプションに指定するディレクトリ)を作成します。

3. gset コマンドを実行します。指定するオプションは次のとおりです。

- -r オプション
- -f オプション (1. で作成したファイルを指定します。)
- -o オプション (2. で作成したディレクトリを指定します。)

上記の操作をすると, esetreog ファイルに再編成パラメタが作成されます。ここで作成した再編成パラメタを入力情報として, xodbreog コマンドを実行してください。

esetreog ファイルに作成される再編成パラメタの例

```
*****
#* All Rights Reserved, Copyright (C) 1996,2001,Hitachi,Ltd.
#* Licensed Material of Hitachi,Ltd.
*****
# This file is made by Eset_Utl
# VR:0600 date:2001/02/15 17:26:56
*****
reorg -u "/usr/OMSDB/usr_reog" ¥
-d "/usr/OMSDB/dic_reog" ¥
-w "/usr/OMSDB"
```

## (2) 再編成パラメタと一緒に作成される情報

ありません。

## 付録 D.7 再構成パラメタを作成するには

### (1) 操作手順

次に示す手順に従って, 再構成パラメタを作成してください。

1. サンプルファイルを利用して, gset コマンドの入力ファイル (gset コマンドの -f オプションに指定するファイル)を作成します。サンプルファイルについては,「付録 D.9 サンプルファイル」を参照してください。
2. gset コマンドの出力結果ファイルを格納するディレクトリ (gset コマンドの -o オプションに指定するディレクトリ)を作成します。
3. gset コマンドを実行します。指定するオプションは次のとおりです。
  - -s オプション
  - -f オプション (1. で作成したファイルを指定します。)
  - -o オプション (2. で作成したディレクトリを指定します。)

上記の操作をすると, esetreco ファイルに再構成パラメタが作成されます。ここで作成した再構成パラメタを入力情報として, xodbrcons コマンドを実行してください。

### 注意

再構成パラメタファイルを使用して Groupmax Document Manager 用のデータベースエリアの再構成をする場合, 次のことに注意してください。

- 次に示すエリア名のデータベースエリアでは, それぞれのエリアが複数存在する場合があります。
  - IS\_class\_area

## 付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

- IS\_string\_area
- IS\_index\_1\_area
- IS\_index\_2\_area

これらのエリアが複数存在する場合、例えば「IS\_class\_area\_2」のように、それぞれのエリア名の後に n (n は 2 以上の整数) が付加されます。(エリア名は xodarls コマンドで確認できます。)

再構成パラメタファイルを作成した時点で、これらのエリア名の数が変わる場合、作成した再構成パラメタファイルは使用できません。

- 再構成パラメタファイルの作成時に、Groupmax Document Manager で複数グループアクセス権を新たに設定した場合、作成した再構成パラメタは使用できません。

これらの場合のエリアの再構成については、マニュアル「Groupmax Document Manager Version 6 システム管理者ガイド」を参照して、対応してください。

esetrec0 ファイルに作成される再構成パラメタの例

```
*****
#* All Rights Reserved, Copyright (C) 1996,2001,Hitachi,Ltd.
#* Licensed Material of Hitachi,Ltd.
*****
# This file is made by Eset_Utl
# VR:0600 date:2001/02/15 17:26:56
*****
recreate -u "/usr/OMSDB/usr_rec" ¥
-d "/usr/OMSDB/dic_rec" ¥
-w "/usr/OMSDB"
```

### (2) 再構成パラメタと一緒に作成される情報

ありません。

## 付録 D.8 カーネルパラメタの変更情報を作成するには

Groupmax 運用時に、ユーザ数の増加やシステム構成の変更などによって UNIX カーネルパラメタの変更が必要な場合や Groupmax Version 5 以前のバージョンから移行したときには、カーネルパラメタの変更情報を基にカーネルパラメタを見積もり直します。

### (1) 操作手順

次に示す手順に従って、再編成パラメタを作成してください。

1. サンプルファイルを利用して、gsetset コマンドの入力ファイル (gsetset コマンドの -f オプションに指定するファイル) を作成します。サンプルファイルについては、「付録 D.9 サンプルファイル」を参照してください。指定方法は、初期設定パラメタを作成する場合と同じですが、データベースの名称、及び各プログラムのデータベースのパス名は指定しません。
2. gsetset コマンドの出力結果ファイルを格納するディレクトリ (gsetset コマンドの -o オプションに指定するディレクトリ) を作成します。
3. gsetset コマンドを実行します。指定するオプションは次のとおりです。

- -k オプション
- -f オプション (1. で作成したファイルを指定します。)
- -o オプション (2. で作成したディレクトリを指定します。)

上記の操作をすると、esetknl ファイルにカーネルパラメタの変更情報が作成されます。

ここで作成したカーネルパラメタの変更情報 (esetknl ファイル) は、Groupmax の環境設定に関連して変更が必要なカーネルパラメタだけです。esetknl ファイルに出力される情報を参考にして、OS の sam コマンドでカーネルパラメタを変更してください。

なお、esetknl ファイルには、Groupmax システムの一部のアプリケーションプログラムで必要なカーネルパラメタの見積もり値だけが出力されます。したがって、カーネルパラメタには、esetknl ファイルに出力された見積もり値とほかのシステムで必要なカーネルパラメタの見積もり値を加算して指定してください。

esetknl ファイルに作成されるカーネルパラメタの見積もり値の例

「付録 D.4(2) 初期設定パラメタと一緒に作成される情報」の「(b) カーネルパラメタの見積もり値の作成」を参照してください。

**(2) カーネルパラメタの変更情報と一緒に作成される情報**  
ありません。

## 付録 D.9 サンプルファイル

サンプルファイルを表 D-1 に示します。HP-UX の場合、サンプルファイルの格納位置は、/opt/HiOODB/sample/ になります。

表 D-1 サンプルファイル

| サンプルファイルの種類               | サンプルファイルの格納位置                        |
|---------------------------|--------------------------------------|
| 初期設定パラメタの作成用サンプルファイル      | /usr/HiOODB/sample/<br>esetnc.sample |
| 構成変更パラメタの作成用サンプルファイル      |                                      |
| 再構成パラメタの作成用サンプルファイル       |                                      |
| カーネルパラメタの変更情報の作成用サンプルファイル |                                      |
| 再編成パラメタの作成用サンプルファイル       | /usr/HiOODB/sample/<br>esetr.sample  |

**(1) 初期設定パラメタ、構成変更パラメタ、再構成パラメタ又はカーネルパラメタの変更情報の作成用サンプルファイル**

初期設定パラメタ、構成変更パラメタ、又はカーネルパラメタの変更情報の作成用サンプルファイルを次に示します。また、初期設定パラメタ、構成変更パラメタ、又はカーネルパラメタの変更情報の作成用サンプルファイルの内容を表 D-2 に示します。

初期設定パラメタ、構成変更パラメタ、再構成パラメタ又はカーネルパラメタの変更情報の作成用サンプルファイル

\*\*\*\*\*

付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

```

#* All Rights Reserved, Copyright (C) 1996,2001,Hitachi,Ltd.
#* Licensed Material of Hitachi,Ltd.
#*****
# esetnc.sample
#
# パラメタを無効にする場合には、パラメタの先頭に # をキーインし
# て下さい。
#
# 全プログラムに共通する定義 (必ず指定して下さい)。
#
# RecoULPathパラメタは-sオプションの時に有効ですが、指定省略し
# た場合、/usr/OMSDBを仮定します。
#
SchemaName      = gmax          # データベース名称
TotalUser       = 100          # システム全体のユーザ数(1~99999)
LocalUser       = 10          # このサーバをホームサーバとする
                                   # ユーザ数(1~5000)
MemorySize      = 128          # ハードウェアに実装されたメモリサ
                                   # イズ(64~2048)
SSSWide         = NO          # 性能優先モード
ObjMultiChk     = NO          # マルチサービス対応
ObjOMSID        = al          # OMS識別子
MasterDBPath    = /usr/OMSDB  # Object Serverが使用するデータベ
                                   # スパス名
RecoULPath      = /usr/OMSDB  # 再構成のデータベースのアンロード先
                                   # パス名及びワークファイル作成ディレ
                                   # クトリパス名

# <プログラムの選択>
# データベース初期設定用パラメタを作成する場合は、使用するプロ
# グラムにYESをそれ以外にはNOを指定します。データベース構成変
# 更用パラメタを作成する場合は追加するプログラムにYESをそれ以外
# にはNOを指定します。
# Address,Mail,Workflow,Documentのうちどれも選択しなかった場
# 合、出力ファイルはesetknlのみになります。
#
Address          = YES         # 電子アドレス帳を使用又は追加します。
Mail             = YES         # メールを使用又は追加します。
Workflow        = YES         # ワークフローを使用又は追加します。
HighendWorkflow = NO         # ハイエンドワークフローを使用又は追加
                                   # します。
WFDomain        = NO         # ワークフロードメイン間連携機能を使用
                                   # 又は追加します。
Document        = YES         # 文書管理を使用又は追加します。
HighendDocument = NO         # ハイエンド文書管理を使用又は追加しま
                                   # す。
Schedule        = NO         # スケジュール管理を使用又は追加します。
Facilities      = NO         # 施設管理を使用又は追加します。
SystemManager   = NO         # 統合運転席を使用又は追加します。
AgentServ       = NO         # エージェントサーバを使用又は追加しま
                                   # す。
AgentMailOpt    = NO         # エージェントメールオプションを使用又
                                   # は追加します。
AgentMailServer = NO         # エージェントメールサーバを使用又は
                                   # 追加します。
AgentMailFunc   = NO         # エージェントメールファンクションを
                                   # 使用又は追加します。
AgentDocMan     = NO         # エージェント文書管理サーバを使用又
                                   # は追加します。
WorkflowAgent   = NO         # エージェントワークフローサーバを

```



付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

```

# 使用又は追加します。
WWW = NO # World Wide Webを使用又は追加します。
RemoteInstall = NO # リモートインストールを使用又は追加し
# ます。

#
# 電子アドレス帳の定義
#
ADDDataBasePath = /usr/OMSDB # 電子アドレス帳が使用するデー
# タベースパス名
ADAllOrganization = 7 # 全組織数(1~9999)
ADUserDefineAverage = 1 # 1ユーザ当たりのユーザ任意情報
# の定義数の平均(1~8)

#
# メールの定義
#
MAAddressesPerMail = 2 # 送信メール1通当たりの宛て先数の
# 平均(1~999)
MAAllMasterNotice = 6 # 全マスタ掲示板数(1~9999)
MARecivedMailsInBox = 60 # 1つのメールボックスが保持する受信
# メール数の平均(1~999)
MASentMailsPerHead = 5 # 1人が1日に送信するメール数の平均
# (1~999)
MARecivedMailsPerServer = 107 # サーバ1台が1日当たりに受信するメ
# ール数の平均(1~999999)
MAEMailAveLength = 50 # E-mailアドレスの平均長(1~256)
#
# ワークフローの定義
#
WFDataBasePath = /usr/OMSDB # ワークフローが使用するデータベー
# スパス名
WFWorksPerDay = 500 # 1日当たりのワーク数(1~9999)
WFStoppedDays = 10 # ワーク処理日数(1~999)
WFSavedDays = 7 # ワーク保存日数(1~999)
WFDefNodesPerBP = 10 # 1ビジネスプロセス当たりのノード数
# (1~999)
WFAAllDefBP = 50 # ビジネスプロセス定義数(1~9999)
WFCasesPerWork = 1 # ワーク内のケース数(1~999)
WFDocumentsPerCase = 1 # ケース内の文書数(1~999)
WFAAllRoll = 100 # ロール数(1~9999)
WFLoginUsers = 10 # 最大ログインユーザ数(1~4096)
WFSession = 2 # 1ユーザ当たりの同時接続セッション数
# (1~5)
WFCash = 5 # キャッシュメモリサイズ(1~32)
WFDatabaseAccess = 2 # ワークフローデータベースの同時アク
# セス数(1~32)
WFMultiServer = 32 # マルチサーバの総サーバ数(0~400)
WFLoginUser02 = 32 # 管理者用最大ログインユーザ数
# (1~200)
WFDomainCase = 0 # 1日当たりのドメイン間連携ノードに
# 到達するケース数(0~8000)
WFDomainWork = 0 # 1日当たりのドメイン間連携機能で投入
# されるワーク数(0~9999)。ただし,1
# 日当たりのワーク数の内数で指定
WFDomainSave = 2520 # ワークフローの環境設定の「ドメイン
# 間連携管理情報最大保存期間」で指定
# した値(0~70560)
WFWorkIdSaiban = NO # ワークID採番用管理情報遅延更新機能
# を指定

```

付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

```

WFWorkObjnum          = 1          # ワーク下のオブジェクト数 (最大値)
                          # (1 ~ 32767)

#
# 文書管理の定義
#
DMDataBasePath        = /usr/OMSDB # 文書管理が使用するデータベースパス名
DMAccessDocumentPerUser = 2      # 1 ユーザ当たりの同時アクセス文書数
                          # (1 ~ 999)
DMAllFormDocNum       = 0          # 全フォーム文書数 (0 ~ 1000000)
DMDocKeepVersion      = 2          # 文書当たりに保持するバージョン数
                          # (0 ~ 99)
DMAllIndex            = 12         # 分類, 分類索引の総数 (0 ~ 1000000)
DMRegularDocNum       = 500        # 全文書数 (一般文書のみ) (0 ~ 1000000)
DMFormDBNum           = 0          # フォーム文書データベース数 (0 ~ 5000)
DMRegularDBNum        = 50         # 一般文書データベース数 (0 ~ 5000)
DMHaifuGroupNum       = 6          # 配布文書グループ数 (0 ~ 1500)
DMTorikomiDocNum      = 0          # 配布で取り込まれた文書の総数
                          # (0 ~ 1000000)
DMStringAttrPerDocDB  = 0          # 1 つの一般文書データベースの文字列型
                          # ユーザ定義属性数の平均値 (0 ~ 100)
DMStringAttrPerFormDocDB = 0      # 1 つのフォーム文書データベースの文字
                          # 列型ユーザ定義属性数の平均値 (0 ~ 100)
DMAllFolder           = 15         # フォルダ数 (2 ~ 1000000)
DMLoginUserNum        = 10         # 同時にログインするユーザ数 (1 ~ 256)
DMGroupAccess         = NO         # 複数グループアクセス権の可否
#
# スケジュール管理の定義
#
SCAllOrganization     = 7          # スケジュール管理の全組織数 (1 ~ 9999)

#
# 施設管理の定義
#
SCAllRank              = 5          # 施設を登録した全階層数 (1 ~ 9999)
SCFacilities           = 30         # 当該サーバに登録する施設数 (1 ~ 10000)

#
# エージェントサーバの定義
#
AGClassB               = 8          # 同時に動作するエージェント数
                          # (クラスB) (1 ~ 32)
AGClassC               = 4          # 同時に動作するエージェント数
                          # (クラスC) (1 ~ 32)
AGPPServerNum          = 8          # 接続するPPサーバ数の最大 (1 ~ 64)
AGMaxUserNum           = 16         # 同時に接続するユーザ数の最大 (1 ~ 256)

```

表 D-2 初期設定パラメタ, 構成変更パラメタ, 再構成パラメタ又はカーネルパラメタの変更情報の作成用サンプルファイルの内容

| パラメタ名      | パラメタの仮定値 | パラメタの指定範囲  | 指定内容                        | 備考 |
|------------|----------|------------|-----------------------------|----|
| SchemaName | gmax     | -          | データベースの名称を指定します。            | -  |
| TotalUser  | 100      | 1 ~ 99,999 | Groupmax システム全体のユーザ数を指定します。 | -  |

付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

| パラメタ名        | パラメタの仮定値       | パラメタの指定範囲  | 指定内容                                                                                                                          | 備考                                                                                   |
|--------------|----------------|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| LocalUser    | 10             | 1 ~ 5,000  | オブジェクトサーバをホームサーバとするユーザ数を指定します。                                                                                                | -                                                                                    |
| MemorySize   | 128            | 64 ~ 2,048 | ハードウェアに実装されたメモリサイズを指定します。                                                                                                     | -                                                                                    |
| SSSWide      | NO             | -          | Groupmax サーバの動作性能を向上するために、共用メモリ (static_shmpool_size) を拡大するかどうかを指定します。YES の場合は 750 メガバイトまで、NO の場合は 70 メガバイトまで、共用メモリの値が計算されます。 | -                                                                                    |
| ObjMultiChk  | NO             | -          | マルチサービス機能を使用する場合は YES を、使用しない場合は NO を指定します。                                                                                   | High-end Object Server を使用する場合だけ、YES を指定できます。Object Server を使用する場合は、必ず NO を指定してください。 |
| ObjOMSID     | a1             | -          | OMS 識別子を指定します。                                                                                                                | ObjMultiChk=YES の時以外は、必ず a1 を指定してください。                                               |
| MasterDBPath | /usr/<br>OMSDB | -          | オブジェクトサーバが使用するデータベースのパス名を指定します。                                                                                               | -                                                                                    |
| Address      | YES            | -          | 電子アドレス帳を使用する場合は YES を、使用しない場合は NO を指定します。                                                                                     | -                                                                                    |
| Mail         | YES            | -          | メール (Groupmax Mail Server) を使用する場合は YES を、使用しない場合は NO を指定します。                                                                 | -                                                                                    |
| Workflow     | YES            | -          | ワークフロー (Groupmax Workflow Server) を使用する場合は YES を、使用しない場合は NO を指定します。                                                          | -                                                                                    |

付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

| パラメタ名           | パラメタの仮定値 | パラメタの指定範囲 | 指定内容                                                                                 | 備考                                                               |
|-----------------|----------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| HighendWorkflow | NO       | -         | ハイエンドワークフロー (Groupmax High-end Workflow) を使用する場合は, YES を, 使用しない場合は NO を指定します。        | Workflow と同時に YES を指定しないでください。同時に指定した場合は Workflow=YES の指定を優先します。 |
| WFDomain        | NO       | -         | ワークフロードメイン間連携機能を使用する場合は YES を, 使用しない場合は NO を指定します。                                   | YES を指定する場合は, Workflow 及び HighendWorkflow のどちらかと併用で指定してください。     |
| Document        | YES      | -         | 文書管理 (Groupmax Document Manager) を使用する場合は YES を, 使用しない場合は NO を指定します。                 | -                                                                |
| HighendDocument | NO       | -         | ハイエンド 文書管理 (Groupmax High-end Document Manager) を使用する場合は, YES を, 使用しない場合は NO を指定します。 | Document と同時に YES を指定しないでください。同時に指定した場合は Document=YES の指定を優先します。 |
| Schedule        | NO       | -         | スケジュール管理 (Groupmax Scheduler Server) を使用する場合は YES を, 使用しない場合は NO を指定します。             | -                                                                |
| Facilities      | NO       | -         | 施設管理 (Groupmax Facilities Manager) を使用する場合は YES を, 使用しない場合は NO を指定します。               | -                                                                |
| SystemManager   | NO       | -         | 統合運転席 (Groupmax System Agent -TCP/IP) を使用する場合は YES を, 使用しない場合は NO を指定します。            | -                                                                |

付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

| パラメタ名           | パラメタの仮定値 | パラメタの指定範囲 | 指定内容                                                                                        | 備考 |
|-----------------|----------|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| AgentServ       | NO       | -         | エージェントサーバ (Groupmax Agent Server) を使用する場合は YES を、使用しない場合は NO を指定します。                        | -  |
| AgentMailOpt    | NO       | -         | エージェントメールオプション (Groupmax Agent Server Mail Option) を使用する場合は YES を、使用しない場合は NO を指定します。       | -  |
| AgentMailServer | NO       | -         | エージェントメールサーバ (Groupmax Agent - Mail Server) を使用する場合は YES を、使用しない場合は NO を指定します。              | -  |
| AgentMailFunc   | NO       | -         | エージェントメールファンクション (Groupmax Agent - Mail Function) を使用する場合は YES を、使用しない場合は NO を指定します。        | -  |
| AgentDocMan     | NO       | -         | エージェント文書管理サーバ (Groupmax Agent - Document Manager Server) を使用する場合は YES を、使用しない場合は NO を指定します。 | -  |
| WorkflowAgent   | NO       | -         | エージェントワークフローサーバ (Groupmax Agent - Workflow Server) を使用する場合は YES を、使用しない場合は NO を指定します。       | -  |
| WWW             | NO       | -         | WorldWideWeb (Groupmax World Wide Web Desktop) を使用する場合は YES を、使用しない場合は NO を指定します。           | -  |

付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

| パラメタ名                   | パラメタの仮定値       | パラメタの指定範囲   | 指定内容                                                                                 | 備考                                                                     |
|-------------------------|----------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| RemoteInstall           | NO             | -           | リモートインストール (Groupmax Remote Instillation Server) を使用する場合は YES を, 使用しない場合は NO を指定します。 | -                                                                      |
| ADDataBasePath          | /usr/<br>OMSDB | -           | 電子アドレス帳が使用するデータベースのパス名を指定します。                                                        | -                                                                      |
| ADAllOrganization       | 7              | 1 ~ 9,999   | 組織の総数を指定します。                                                                         | 組織とは, 一人以上のユーザから構成される集まりです。例えば会社の構造では, 部や課に相当します。                      |
| ADUserDefineAverage     | 1              | 1 ~ 8       | 1 ユーザ当たりのユーザ任意情報の定義数の平均を指定します。                                                       |                                                                        |
| MAAddressesPerMail      | 2              | 1 ~ 999     | 送信メール 1 通当たりのあて先数の平均値を指定します。                                                         | 個人メール中心であれば 1 ~ 2, 業務上あて先が多いことが分かっている場合は, それに相当する値を指定します。              |
| MAAllMasterNotice       | 6              | 1 ~ 9,999   | マスタ掲示板の総数を指定します。                                                                     | マスタ掲示板とレプリカ (マスタ掲示板の複写) 掲示板から構成されるすべての掲示板のうち, レプリカ掲示板を除いた掲示板の総数を指定します。 |
| MARecivedMailsInBox     | 60             | 1 ~ 999     | 一つのメールボックスが管理する受信メール数平均値を指定します。                                                      | 組織又はユーザ単位に作成された, 個々のメールボックスが管理する受信メール数の平均値を指定します。                      |
| MASentMailsPerHead      | 5              | 1 ~ 999     | 1 ユーザが一日に送信するメール数の平均値を指定します。                                                         | -                                                                      |
| MARecivedMailsPerServer | 107            | 1 ~ 999,999 | 1 台のサーバが一日当たり受信するメール数の平均値を指定します。                                                     | -                                                                      |
| MAEMailAveLength        | 50             | 1 ~ 256     | E-mail アドレスの平均長を指定します。                                                               | -                                                                      |

付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

| パラメタ名              | パラメタの仮定値   | パラメタの指定範囲 | 指定内容                            | 備考                                                                                      |
|--------------------|------------|-----------|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| WFDataBasePath     | /usr/OMSDB | -         | ワークフローサーバが使用するデータベースのパス名を指定します。 | -                                                                                       |
| WFWorksPerDay      | 500        | 1 ~ 9,999 | 一日に発生するワークの総数を指定します。            | -                                                                                       |
| WFStoppedDays      | 10         | 1 ~ 999   | ワークの処理日数を指定します。                 | ワークの処理日数とは、ソースから入力した回覧データがシンクで終了するまでの平均処理日数を示します。                                       |
| WFSavedDays        | 7          | 1 ~ 999   | ワークの保存日数を指定します。                 | ワークの保存日数とは、終了したワークを保存する日数です。                                                            |
| WFDefNodesPerBP    | 10         | 1 ~ 999   | 1 ビジネスプロセスのノード数の平均値を指定します。      | ノードとは、ビジネスプロセス上で、ユーザ又はシステムが何らかの処理をする場所を示します。                                            |
| WFAllDefBP         | 50         | 1 ~ 9,999 | ビジネスプロセス定義の総数を指定します。            | ビジネスプロセスとは、基本フローモデルに基づいて表現した業務の流れを示します。                                                 |
| WFCasesPerWork     | 1          | 1 ~ 999   | ワーク内のケース数の平均値を指定します。            | ケースとは、ワークフローで回覧される文書又はメモを格納する入れ物です。ビジネスプロセス定義で定義するケースのほか、システムが自動的に作成するルートケースがあります。      |
| WFDocumentsPerCase | 1          | 1 ~ 999   | ワーク内の文書数の平均値を指定します。             | ここでの文書とは、ケースに格納して送る書類を指します。文書は、各種アプリケーション固有の形式で作成された文書実体ファイルと、文書全体を管理する文書オブジェクトで構成されます。 |

付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

| パラメタ名            | パラメタの仮定値 | パラメタの指定範囲                    | 指定内容                                                                           | 備考                                                                                                              |
|------------------|----------|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| WFAIRoll         | 100      | 1 ~ 9,999                    | ロール数を指定します。                                                                    | ロールとは、仕事をする上での役割です。複数のユーザがグループ化されて、ビジネスプロセス定義のノードの作業者として割り当てられます。                                               |
| WFLoginUsers     | 10       | 1 ~ 1,000<br>又は<br>1 ~ 4,096 | ログインするユーザ数の最大値を指定します。                                                          | Groupmax Workflow Server を使用する場合は 1 ~ 1,000 で指定します。Groupmax High-end Workflow Server を使用する場合は、1 ~ 4,096 を指定します。 |
| WFSession        | 2        | 1 ~ 5                        | 1 ユーザあたりの同時に接続するセッション数の最大値を指定します。                                              | -                                                                                                               |
| WFCash           | 5        | 1 ~ 32                       | キャッシュのメモリサイズを指定します。単位はメガバイトです。                                                 | -                                                                                                               |
| WFDatabaseAccess | 2        | 1 ~ 32                       | ワークフローデータベースへの同時アクセス数を指定します。<br>Groupmax Workflow Server を使用する場合は 2 を指定してください。 | -                                                                                                               |
| WFMultiServer    | 32       | 0 ~ 400                      | マルチサーバ構成の場合の、サーバ数を指定します。<br>シングルサーバ構成の場合は 0 を指定してください。                         | -                                                                                                               |
| WFLoginUser02    | 32       | 1 ~ 200                      | 管理用にログインするユーザの最大値を指定します。                                                       | -                                                                                                               |
| WFDomainCase     | 0        | 0 ~ 8,000                    | 1 日当たりのドメイン間連携ノードに到達するケース数を指定します。                                              |                                                                                                                 |
| WFDomainWork     | 0        | 0 ~ 9,999                    | 1 日当たりのドメイン間連携機能で投入されるワーク数を指定します。                                              |                                                                                                                 |



付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

| パラメタ名                   | パラメタの仮定値       | パラメタの指定範囲        | 指定内容                                                                                        | 備考                                                            |
|-------------------------|----------------|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| WFDomainSave            | 2,520          | 0 ~ 70,560       | ワークフローの環境設定の「ドメイン間連携管理情報最大保存期間」で設定した値を指定します。                                                |                                                               |
| WFWorkIdSaiban          | NO             | -                | ワーク ID 採番用管理情報遅延更新機能を使用するかどうかを指定します。使用する場合は YES を、使用しない場合は NO を指定してください。                    | -                                                             |
| WFWorkObjnum            | 1              | 1 ~ 32,767       | ワーク下のオブジェクト数は、次の計算式で指定してください。<br>ワーク内ケース定義数 × (ケース内文書数 + データメモ数) × 複写ノードでの送付先総数を指定します。      | 複写ノードが無い場合、複写ノードでの送付先総数を 1 としてください。複写ノードをループする場合も考慮し加算してください。 |
| DMDDataBasePath         | /usr/<br>OMSDB | -                | 文書管理が使用するデータベースのパス名を指定します。                                                                  | -                                                             |
| DMAccessDocumentPerUser | 2              | 1 ~ 999          | 一人のユーザがログイン中に参照・編集などの操作を実施する一般文書とフォーム文書の平均の数を指定します。                                         | -                                                             |
| DMAAllFormDocNum        | 0              | 0 ~<br>1,000,000 | すべてのフォーム文書データベースに格納されるフォーム文書の総数を指定します。                                                      | -                                                             |
| DMDocKeepVersion        | 2              | 0 ~ 99           | 一つの一般文書が保持するバージョン数を指定します。Groupmax Document Manager の環境設定で「文書の最大バージョン数」に設定した値を指定します。         | -                                                             |
| DMAAllIndex             | 12             | 0 ~<br>1,000,000 | 分類索引とは、一般文書を分類する分類体系の一つです。サーバに対して複数の分類索引を定義できます。分類とは、分類索引を構成する節のことです。ここでは、分類索引と分類の総数を指定します。 | -                                                             |

付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

| パラメタ名           | パラメタの仮定値 | パラメタの指定範囲     | 指定内容                                      | 備考                                                                                                                                                                                 |
|-----------------|----------|---------------|-------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| DMRegularDocNum | 500      | 0 ~ 1,000,000 | すべての一般文書データベースに格納される文書の総数を指定します。          | -                                                                                                                                                                                  |
| DMFormDBNum     | 0        | 0 ~ 5,000     | フォーム文書データベースの総数を指定します。                    | フォーム文書データベースとは、日報などの定型文書の情報を主体に管理するデータベースです。定型文書の種類ごとにフォーム文書データベースを定義して使用します。定型文書固有の情報はユーザ定義属性として定義します。属性の登録には、Groupmax Form で作成したフォーム (電子帳票) を使用します。アプリケーションファイルは添付ファイルとして操作できます。 |
| DMRegularDBNum  | 50       | 1 ~ 5,000     | システム文書データベースとユーザが作成する一般文書データベースの総数を指定します。 | 一般文書データベースとは、日報などの定型文書の情報を主体に管理するデータベースです。システム文書データベースの属性として定義されている文書の書誌情報のほかに、ユーザが文書群に共通の情報をユーザ定義属性として個別に定義して一般文書データベースを作成できます。                                                   |

付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

| パラメタ名                    | パラメタの仮定値 | パラメタの指定範囲     | 指定内容                                                                        | 備考                                                                                                                                     |
|--------------------------|----------|---------------|-----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| DMHaifuGroupNum          | 6        | 0 ~ 1,500     | 文書配布対象グループの総数を指定します。                                                        | 一つのサーバの一般文書を別のサーバに配布することを文書配布といいます。文書を配布する側のサーバを配布元サーバ、配布される側のサーバを配布先サーバといいます。文書は、配布元サーバで配布対象となる文書を定義して配布します。これらの文書群を文書配布対象グループ数といいます。 |
| DMTorikomiDocNum         | 0        | 0 ~ 1,000,000 | 文書配布機能を使用して取り込まれる一般文書の総数を指定します。配布元サーバでは、一般文書数の中に含まれます。                      | -                                                                                                                                      |
| DMStringAttrPerDocDB     | 0        | 0 ~ 100       | 一般文書データベースに登録する文字列型のユーザ定義属性の平均値を指定します。                                      | 一般文書データベースにはユーザ固有の情報を定義できます。この情報をユーザ定義属性と呼びます。例えば、「会議録」データベースに「開催日」という属性を定義できます。                                                       |
| DMStringAttrPerFormDocDB | 0        | 0 ~ 100       | フォーム文書データベースに指定する可変長文字列型のユーザ定義属性の定義数の平均値を指定します。フォーム文書の項目の定義にはリッチテキストも含まれます。 | -                                                                                                                                      |

付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 (HI-UX/WE2 及び HP-UX を御利用の場合)

| パラメタ名             | パラメタの仮定値 | パラメタの指定範囲     | 指定内容                                                     | 備考                                                                                                                         |
|-------------------|----------|---------------|----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| DMAIIFolder       | 15       | 2 ~ 1,000,000 | サーバ上に作成されるフォルダの総数を指定します。                                 | フォルダとは、一般文書を分類する体系の一つです。一つのサーバに一つのフォルダ体系が存在します。通常、Groupmax Integrated Desktop の共用キャビネット下に表示されます。フォルダは、物理的格納位置との対応付けができません。 |
| SCAllOrganization | 7        | 1 ~ 9,999     | スケジューラ (Groupmax Scheduler Server) の組織の総数を指定します。         | -                                                                                                                          |
| SCALLRank         | 5        | 1 ~ 9,999     | Groupmax Facilities Manager で、施設を階層化したときの階層数を指定します。      | -                                                                                                                          |
| SCFacilities      | 30       | 1 ~ 10,000    | このサーバに登録する施設 (会議室や体育館など) の総数を指定します。                      | -                                                                                                                          |
| AGClassB          | 8        | 1 ~ 32        | 同時に動作させるクラス B のエージェントの数を指定します。                           | -                                                                                                                          |
| AGClassC          | 4        | 1 ~ 32        | 同時に動作させるクラス C のエージェントの数を指定します。                           | -                                                                                                                          |
| AGPPServerNum     | 8        | 1 ~ 64        | エージェントサーバ (Groupmax Agent Server) に接続する最大 PP サーバ数を指定します。 | -                                                                                                                          |
| AGMaxUserNum      | 16       | 1 ~ 256       | エージェントサーバ (Groupmax Agent Server) に同時に接続する最大ユーザ数を指定します。  | -                                                                                                                          |

| パラメタ名          | パラメタの仮定値 | パラメタの指定範囲                  | 指定内容                                                 | 備考                                                                                                              |
|----------------|----------|----------------------------|------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| DMLoginUserNum | 10       | 1 ~ 256<br>又は<br>1 ~ 1,000 | Document Manager に同時にログインするユーザ数を指定します。               | Groupmax Document Manager を使用する場合は 1 ~ 256 で指定します。Groupmax High-end Document Manager を使用する場合は 1 ~ 1,000 を指定します。 |
| DMGroupAccess  | NO       | -                          | Document Manager データベースで、複数グループアクセス権を使用するかどうかを指定します。 | -                                                                                                               |

電子アドレス帳/メール/ワークフローの場合、データベース運用期間(データベースの再編成までの期間)は、30日を仮定しています。運用期間ごとに再編成ユーティリティ(xodbreog コマンド)を実行してください。または、データベースファイルの増分にそなえてファイルシステムの空きが十分か定期的に確認を行ってください。

ここで求められる値は1サーバの値です。workflowの複数サービス機能(HI-UXのみ)を使用する場合は、各サーバの値で作成した個々のカーネルパラメタ変更情報ファイルを手作業でマージする必要があります。

## (2) 再編成パラメタの作成用サンプルファイル

再編成パラメタの作成用サンプルファイルを次に示します。また、再編成パラメタの作成用サンプルファイルの内容を表 D-3 に示します。

### 再編成パラメタの作成用サンプルファイル

```

*****
#* All Rights Reserved, Copyright (C) 1996,2001,Hitachi,Ltd.
#* Licensed Material of Hitachi,Ltd.
*****
# esetr.sample
#
# パラメタを無効にする場合には、パラメタの先頭に # をキーインして下さい。
#
ReogULPath = /usr/OMSDB          # データベースのアンロード先パス名及び
                                # ワークファイル作成ディレクトリパス名

```

表 D-3 再編成パラメタの作成用サンプルファイルの内容

| パラメタ名      | パラメタの仮定値   | 内 容                                              |
|------------|------------|--------------------------------------------------|
| ReogULPath | /usr/OMSDB | 再編成用のアンロードファイルのパス名及びワークファイルを作成するディレクトリパス名を指定します。 |

## 付録 E Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによる環境設定 (AIX を御利用の場合)

AIX では、オブジェクトサーバに添付される Windows 版の Groupmax サーバ環境設定ユーティリティ (サーバ環境設定簡易化機能) を利用することにより、画面を使ってオブジェクトサーバの定義ファイルを簡単に作成することができます。これによって、システム管理者がパラメタ中の項目を一つずつ計算する必要がなくなり、パラメタを作成するときの負荷を軽減できます。

### 付録 E.1 Groupmax サーバ環境設定ユーティリティの機能

#### (1) Groupmax 環境設定を支援します

ここでは、Groupmax サーバ環境設定ユーティリティの機能及び操作方法を説明します。

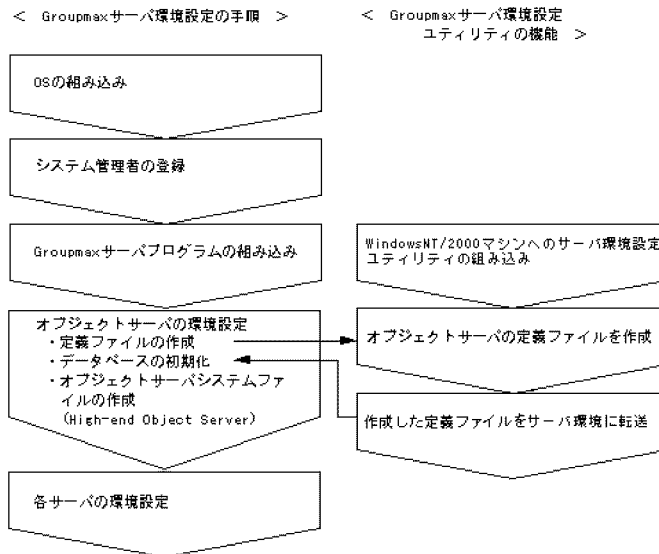
##### (a) Groupmax サーバ環境設定ユーティリティの概要

Groupmax サーバ環境設定ユーティリティは、次に示す機能によって、環境設定を支援します。

- 定義ファイルの作成  
それぞれの環境におけるユーザ数などのデータを入力するだけで、オブジェクトサーバの定義ファイルが自動生成されます。作成された定義ファイルは、データベースの初期化又は再構成を実行するときに使用します。  
High-end Object Server 指定時は、ステータスサービス定義ファイル、システムジャーナルサービス定義ファイル、及びそれらを初期化するためのバッチファイルを作成します。
- カーネルパラメタ変更情報の作成  
Groupmax を運用する場合に必要なカーネルパラメタの変更情報の通知ファイルを、それぞれの環境におけるユーザ数などのデータを入力するだけで自動生成できます。  
また、システム構成の変更によってカーネルパラメタの値を見積り直す場合に必要なカーネルパラメタの変更情報を作成できます。  
次のような場合には、カーネルパラメタ変更情報を作成して、カーネルパラメタの値を変更してください。
  - Groupmax サーバ環境設定ユーティリティ以外で AIX サーバの環境を設定した場合
  - Groupmax の運用形態、ユーザ数及びデータ件数を変更した場合

図 E-1 に、Groupmax のサーバ環境を初期化するときの、全体の操作手順の中での Groupmax サーバ環境設定ユーティリティの機能を示します。

図 E-1 Groupmax のサーバ環境設定の中での Groupmax サーバ環境設定ユーティリティの機能



**(b) Groupmax サーバ環境設定ユーティリティを使用できる範囲**

Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによってデータベースの環境設定に使用するパラメタファイルを作成できるのは、次に示す条件を満たしている場合です。

- すべてのサーバプログラムについての条件
  - それぞれのプログラムの設定可能な範囲でパラメタの値を入力した場合
  - データベースの運用期間 (データベースの再編成までの期間) が 30 日以内の場合
- Groupmax Address/Mail Server を使用する場合の条件
  - (システム内の全ユーザ数) ÷ (このサーバに登録するユーザ数) が 400 以下の場合
  - システム内の全ユーザ数が 32500 以下の場合
  - このサーバに登録するユーザ数が 5000 以下の場合
- Groupmax Workflow Server を使用する場合の条件
  - ワーク処理日数とワーク保存日数の合計が 30 日以内の場合

これらの条件を満たさない場合、Groupmax サーバ環境設定ユーティリティでは正しい値のパラメタファイルを作成できません。この場合は、それぞれのプログラムの手順に従ってパラメタファイルを作成してください。

**(2) オブジェクトサーバ簡易設定 (定義ファイルの作成)**

オブジェクトサーバで使用する定義ファイルを作成します。作成するファイルを次に示します。

- 初期設定パラメタファイル
- 再構成パラメタファイル
- ステータスサービス定義ファイル
- システムジャーナルサービス定義ファイル

## 付録 E Groupmax サーバ環境設定ユティリティによる環境設定 (AIX を御利用の場合)

- システムファイル作成用バッチファイル
  - システム共通定義ファイル
  - カーネルパラメタの変更情報の通知ファイル
- それぞれについて簡単に説明します。

### (a) 初期設定パラメタファイル

初期設定パラメタが、ユーザ数や実装メモリなどのシステム構成情報を基に自動生成されます。パラメタが格納されるファイルは `esetinit.txt` です。同時にシステム共通定義ファイルも作成されます。High-end Object Server 指定時は、ステータスサービス定義ファイル、システムジャーナルサービス定義ファイル及びシステムファイル作成用バッチファイルも同時に作成されます。

作成ファイルを、ftp を使って AIX サーバに転送してから、`xodbinit` を実行してください。

### (b) 再構成パラメタファイル

再構成パラメタファイルの再構成用パラメタ `recreate` が自動生成されます。パラメタが格納されるファイルは `esetreco.txt` です。

作成ファイルを、ftp を使って AIX サーバに転送してから、`xodbrncs` を実行してください。

### (c) システム共通定義ファイル

初期設定パラメタファイル又は再構成パラメタファイルの作成と同期して、システム共通定義ファイルが作成されます。作成されるファイルは `esetrc.txt` です。

作成ファイルを、ftp を使って AIX サーバに転送してから、`$XODDIR/conf/xodrc` というファイル名でコピーしてください。

### (d) ステータスサービス定義ファイル

定義画面で入力した内容を元に、High-end Object Server を使用する場合に必要なステータスサービス定義ファイルが自動作成されます。

作成された定義ファイルを、ftp を使って AIX サーバに転送してから、`$XODDIR/conf/sts` というファイル名でコピーしてください。

### (e) システムジャーナルサービス定義ファイル

定義画面で入力した内容を元に、High-end Object Server を使用する場合に必要なシステムジャーナルサービス定義ファイルが自動作成されます。

作成された定義ファイルを、ftp を使って AIX サーバに転送してから、`$XODDIR/conf/sysjnl` というファイル名でコピーしてください。

### (f) システムファイル作成用バッチファイル

ステータスファイルとジャーナルファイルを初期化するバッチファイルです。

作成されたバッチファイルを、ftp を使って AIX サーバに転送してから、実行してください。

## (3) カーネルパラメタ変更情報の通知ファイルの作成

AIX サーバでの Groupmax の環境設定に関連して変更が必要なカーネルパラメタとその変更値が、変更情報の通知ファイル (`esetknl.txt`) に出力されます。変更情報



の通知ファイルはシステム構成を基に自動生成できます。このファイルを参考にし、カーネルパラメタの設定コマンドを使って、カーネルパラメタを変更してください。

#### (4) 作成されるファイル

Groupmax サーバ環境設定ユーティリティで作成されたパラメタを格納する、ファイル及びディレクトリを図 E-2 に示します。ファイルシステムは、Windows NT の NTFS を使用します。

図 E-2 Groupmax サーバ環境設定ユーティリティで作成されるファイル

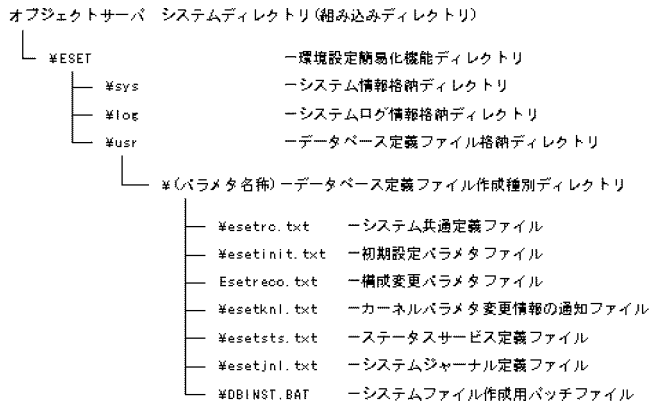


図 E-2 に示したディレクトリの中で、ESET、sys、log、及び usr のディレクトリは、Grpupmax サーバ環境設定ユーティリティの組み込み時に作成されます。

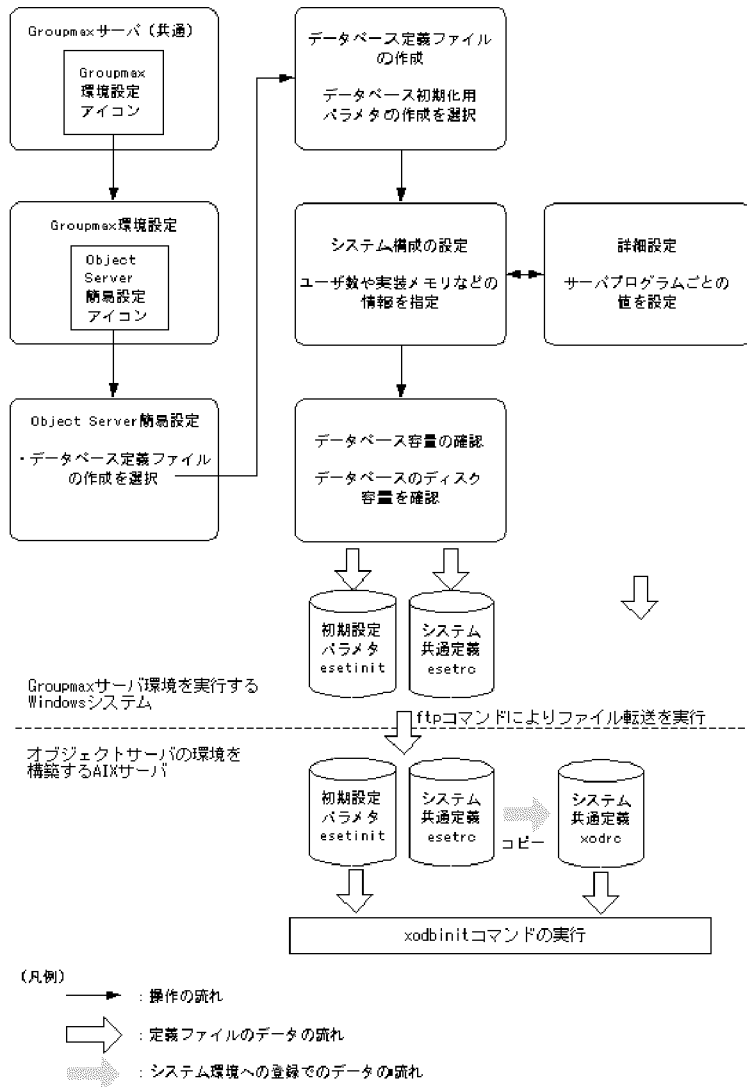
## 付録 E.2 環境設定の手順

環境設定の手順を、ダイアログボックスを追って説明します。

### (1) データベース初期化

データベース初期化のための情報は、[ システム構成の設定 ] ダイアログで設定します。図 E-3 に手順を示します。

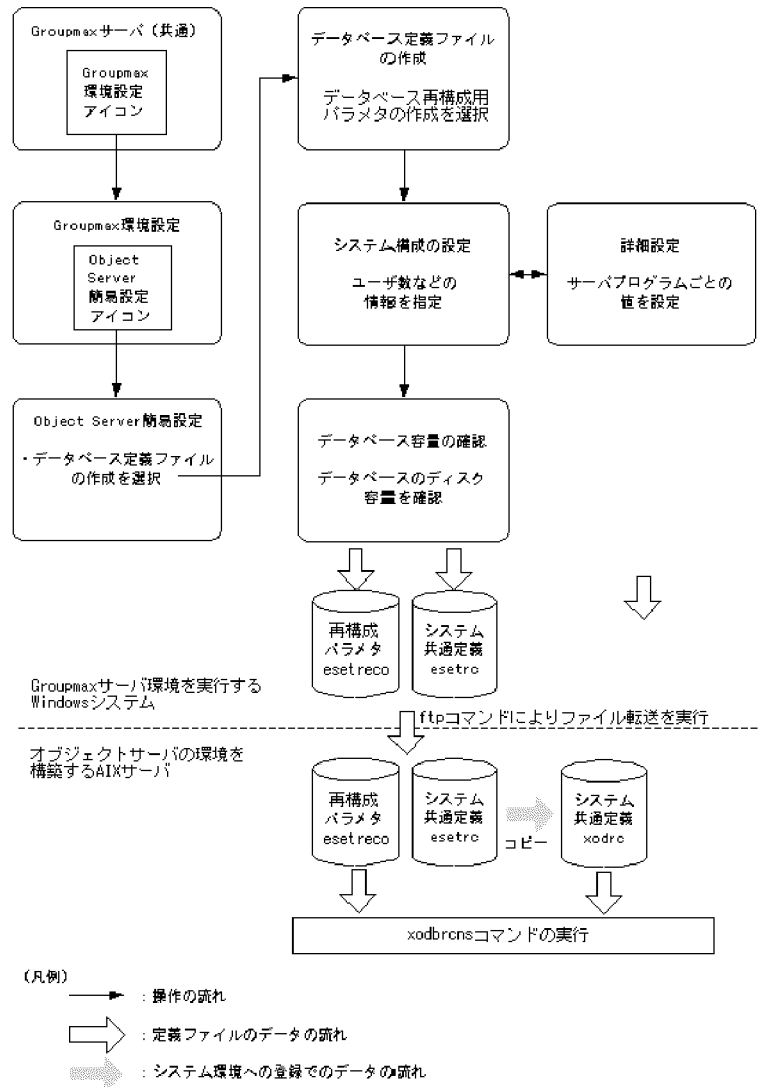
図 E-3 データベース初期化の手順



## (2) データベース再構成

データベース再構成のための情報は、[再構成パラメタの作成]ダイアログで設定します。図 E-4 に手順を示します。

図 E-4 データベース再構成の手順



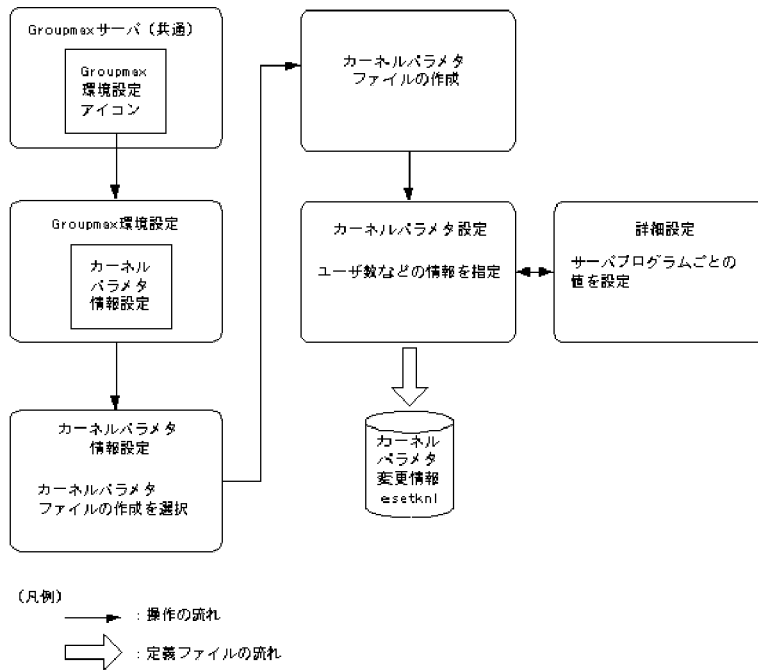
再構成を行う前に文書管理のデータベースの特定のエリアが複数存在している場合、及び再構成によりエリアの追加又は削除が発生する場合は再構成パラメタファイルが使用できません。

また、複数グループアクセス機能を新たに設定した場合もエリアの追加が行われず。この場合も、再構成パラメタファイルが使用できません。

### (3) カーネルパラメタの変更情報の作成

カーネルパラメタの変更情報は、[カーネルパラメタ設定] ダイアログで作成します。図 E-5 に手順を示します。

図 E-5 カーネルパラメタの変更情報の作成手順



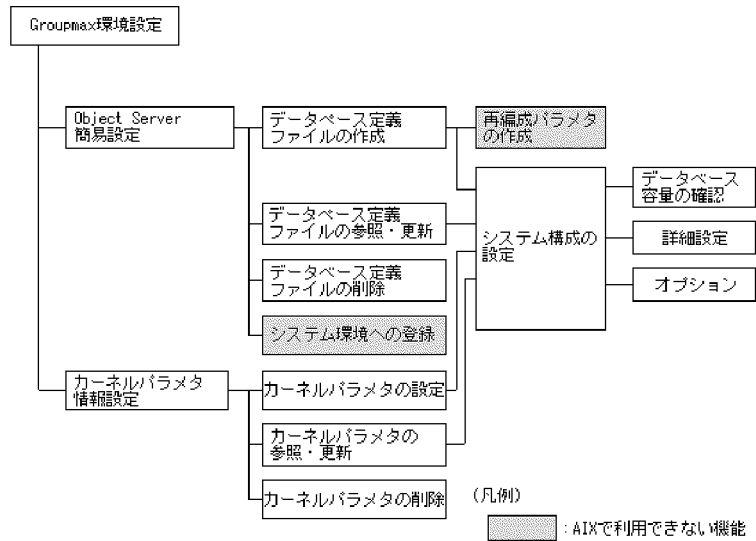
Groupmax サーバ環境設定ユーティリティを使用しないで Groupmax の環境を作成した場合、又は Groupmax のシステム構成や運用形態を変更する場合は、作成したカーネルパラメタの変更情報を基に、カーネルパラメタの値を変更してください。

### 付録 E.3 ダイアログボックスの操作

Groupmax サーバ環境設定ユーティリティのダイアログボックスについて説明します。

図 E-6 に Groupmax サーバ環境設定ユーティリティで使用するウィンドウとダイアログとの関係を示します。

図 E-6 Groupmax サーバ環境設定ユーティリティで使用するウィンドウとダイアログ



### (1) [ Groupmax 環境設定 ] ウィンドウ

Groupmax サーバ環境設定ユーティリティの起動方法を説明します。

1. [ Groupmax サーバ ( 共通 ) ] ウィンドウから [ Groupmax 環境設定 ] アイコンを選択する  
[ Groupmax 環境設定 ] ウィンドウが表示されます。  
図 E-7 に [ Groupmax 環境設定 ] ウィンドウを示します。

図 E-7 [ Groupmax 環境設定 ] ウィンドウ



### (2) [ Object Server 簡易設定 ] ダイアログ

#### (a) 機能

[ Object Server 簡易設定 ] ダイアログでは、定義ファイルに対してどのような操作をするかを指定します。

注意

## 付録 E Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによる環境設定 (AIX を御利用の場合)

[ Object Server 簡易設定 ] ダイアログは、[ カーネルパラメタ情報設定 ] ダイアログと同時に起動することはできません。[ カーネルパラメタ情報設定 ] ダイアログを終了させてから実行してください。

### (b) 操作

[ Object Server 簡易設定 ] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [ Groupmax 環境設定 ] ウィンドウの [ Object Server 簡易設定 ] アイコンを選択する  
[ Object Server 簡易設定 ] ダイアログが表示されます。
2. 該当する項目を選択する
3. [ 次へ (N)...> ] ボタンを選択する  
選択した操作を実行する、次のダイアログが表示されます。

### (c) ダイアログで指定する項目

図 E-8 に [ Object Server 簡易設定 ] ダイアログを示します。

図 E-8 [ Object Server 簡易設定 ] ダイアログ



データベース定義ファイルの作成 (M) :

データベース定義ファイルを作成する場合に選択します。選択すると、次に [ データベース定義ファイルの作成 ] ダイアログが表示されます。

データベース定義ファイルの参照・更新 (R) :

作成済みのデータベース定義ファイルの内容を参照したり、更新したりする場合に選択します。選択すると、次に [ データベース定義ファイルの参照・更新 ] ダイアログが表示されます。

データベース定義ファイルの削除 (D) :

作成済みのデータベース定義ファイルの内容を削除する場合に選択します。選択すると、次に [ データベース定義ファイルの削除 ] ダイアログが表示されません。

システム環境への登録 (E) :

AIX ではこの機能は利用できません。

次へ (N)... > :

選択した項目に対するダイアログを開きます。

閉じる (C) :

[ Object Server 簡易設定 ] ダイアログを終了して、[ Groupmax 環境設定 ] ウィンドウに戻ります。

ヘルプ (H) :

[ Object Server 簡易設定 ] ダイアログのヘルプを表示します。

### (3) [ データベース定義ファイルの作成 ] ダイアログ

#### (a) 機能

[ データベース定義ファイルの作成 ] ダイアログでは、作成する定義ファイルの内容を指定します。定義ファイルには次の 4 種類があります。

- データベース初期化用パラメタ
- データベース構成変更用パラメタ
- データベース再編成用パラメタ
- データベース再構成用パラメタ

AIX では、データベース初期化用パラメタ及びデータベース再構成パラメタのみ利用できます。

なお、データベース定義ファイルは、[ システム構成の設定 ] ダイアログで、メール (M)、文書管理 (F)、電子アドレス帳 (A)、及びワークフロー (W) を選択した場合に作成されます。

#### (b) 操作

[ データベース定義ファイルの作成 ] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [ Object Server 簡易設定 ] ダイアログの「データベース定義ファイルの作成」を選択する  
[ データベース定義ファイルの作成 ] ダイアログが表示されます。
2. パラメタ名称を入力する
3. 作成する定義ファイルを選択する
4. [ 次へ (N)...> ] ボタンを選択する  
選択した操作を実行すると、次のダイアログが表示されます。

#### (c) ダイアログで指定する項目

図 E-9 に [ データベース定義ファイルの作成 ] ダイアログを示します。

図 E-9 [ データベース定義ファイルの作成 ] ダイアログ



パラメタ名称 (S) :

データベース定義ファイルに付ける論理的な名称を 1 ~ 31 バイトの半角英数字で入力します。既に存在するパラメタ名称を入力すると、エラーとなります。パラメタ名称は、これから作成する定義ファイルを特定する名称です。物理的には、パラメタ名称のディレクトリに、定義ファイルが格納されます。

- デフォルト値として、次の文字列が表示されます。
- データベース初期化用パラメタ : "myhost"
- データベース再構成用パラメタ : "recoprm"

データベース初期化用パラメタの作成 (I) :

データベースの初期設定パラメタとシステム共通定義パラメタを作成する場合には選択します。システム導入後、最初にデータベースを作成する場合は、このメニューを選択してください。選択すると、次に [ システム構成の設定 ] ダイアログが表示されます。また、あわせてカーネルパラメタの変更情報の通知ファイルも作成します。

データベース構成変更用パラメタの作成 (A) :

AIX ではこの機能は利用できません。

データベース再編成用パラメタの作成 (R) :

AIX ではこの機能は利用できません。

データベース再構成用パラメタの作成 (E) :

データベース再構成パラメタを作成する場合には選択します。データベースのエリアのサイズを変更する場合には選択してください。選択すると、次に [ 再構成パラメタの作成 ] ダイアログが表示されます。また、あわせてカーネルパラメタの変更情報の通知ファイルも作成します。

なお、データベースのディレクトリ名は変更できません。

データベースのディレクトリ名を変更する場合は、パラメタファイル作成後 (オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ) ¥ESET¥usr¥ (パラメタ名称)



のディレクトリにある esetreco.txt ファイルをエディタで修正してください。

閉じる (C) :

[ データベース定義ファイルの作成 ] ダイアログを終了して, [ Groupmax 環境設定 ] ウィンドウに戻ります。

< 戻る (B) :

[ データベース定義ファイルの作成 ] ダイアログを終了して, [ Object Server 簡易設定 ] ダイアログに戻ります。

次へ (N)... > :

選択した項目に対するダイアログを開きます。

ヘルプ (H) :

[ データベース定義ファイルの作成 ] ダイアログのヘルプを表示します。

#### (4) [ データベース定義ファイルの参照・更新 ] ダイアログ

##### (a) 機能

[ データベース定義ファイルの参照・更新 ] ダイアログでは, 参照・更新するパラメタ名称を指定します。指定したファイルの設定情報が, [ システム構成の設定 ] ダイアログ及び [ 詳細設定 ] ダイアログに表示されます。

なお, データベース定義ファイルは, [ システム構成の設定 ] ダイアログで, メール (M), 文書管理 (F), 電子アドレス帳 (A), 及びワークフロー (W) の選択を変更した場合に更新されます。

ただし, [ カーネルパラメタ情報設定 ] ダイアログで作成したパラメタ名称を指定した場合は, 参照だけができます。更新はできません。

##### (b) 操作

[ データベース定義ファイルの参照・更新 ] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [ Object Server 簡易設定 ] ダイアログの「データベース定義ファイルの参照・更新」を選択する

[ データベース定義ファイルの参照・更新 ] ダイアログが表示されます。

2. パラメタ名称を入力する
3. [ 次へ (N)... > ] ボタンを選択する

[ システム構成の設定 ] ダイアログが表示されます。

##### (c) ダイアログで指定する項目

図 E-10 に [ データベース定義ファイルの参照・更新 ] ダイアログを示します。

図 E-10 [ データベース定義ファイルの参照・更新 ] ダイアログ



パラメタ名称 (S) :

データベース定義ファイル作成時に付けた論理的な名称を 1 ~ 31 バイトの半角英数字で入力します。パラメタ名称は、リストから選択できます。ただし、存在しないパラメタ名称を入力するとエラーとなります。

< 戻る (B) :

[ データベース定義ファイルの参照・更新 ] ダイアログを終了して、[ Object Server 簡易設定 ] ダイアログに戻ります。

次へ (N)... > :

[ システム構成の設定 ] ダイアログを開きます。

ヘルプ (H) :

[ データベース定義ファイルの参照・更新 ] ダイアログのヘルプを表示します。

## (5) [ データベース定義ファイルの削除 ] ダイアログ

### (a) 機能

[ データベース定義ファイルの削除 ] ダイアログで、指定した定義ファイルを削除します。

### (b) 操作

データベース定義ファイルの削除 ] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [ Object Server 簡易設定 ] ダイアログの「データベース定義ファイルの削除」を選択する  
[ データベース定義ファイルの削除 ] ダイアログが表示されます。
2. パラメタ名称を入力する
3. [ 削除 (D) ] ボタンを選択する  
指定したファイルが削除されます。

### (c) ダイアログで指定する項目

図 E-11 に [ データベース定義ファイルの削除 ] ダイアログを示します。

図 E-11 [ データベース定義ファイルの削除 ] ダイアログ



**パラメタ名称 (S) :**

データベース定義ファイル作成時に付けた論理的な名称を 1 ~ 31 バイトの半角英数字で入力します。パラメタ名称は、リストから選択できます。存在しないパラメタ名称を入力するとエラーとなります。

**削除 (D) :**

指定した定義ファイルを削除します。その後、[ Object Server 簡易設定 ] ダイアログに戻ります。

**キャンセル :**

定義ファイルを削除しないで [ データベース定義ファイルの削除 ] ダイアログを終了します。その後 [ Object Server 簡易設定 ] ダイアログに戻ります。

**ヘルプ (H) :**

[ データベース定義ファイルの削除 ] ダイアログのヘルプを表示します。

**(6) [ システム環境への登録 ] ダイアログ**

この機能は AIX では利用できません。

**(7) [ 再編成パラメタの作成 ] ダイアログ**

この機能は AIX では利用できません。

**(8) [ 再構成パラメタの作成 ] ダイアログ**

**(a) 機能**

[ 再構成パラメタの作成 ] ダイアログで指定した内容を基に、再構成パラメタファイルが作成されます。

**(b) 操作**

[ 再構成パラメタの作成 ] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [ データベース定義ファイルの作成 ] ダイアログの「データベース再構成用パラメタの作成」を選択する
2. [ 再構成パラメタの作成 ] ダイアログが表示されます。
3. パラメタ名称を入力する
4. ディレクトリ名称を入力する
5. [ 次へ ...> ] ボタンを選択する

データベース再構成用パラメタが作成されます。

[ データベースエリアの再作成 ] ユティリティ実行後に、作成された esetrc.txt

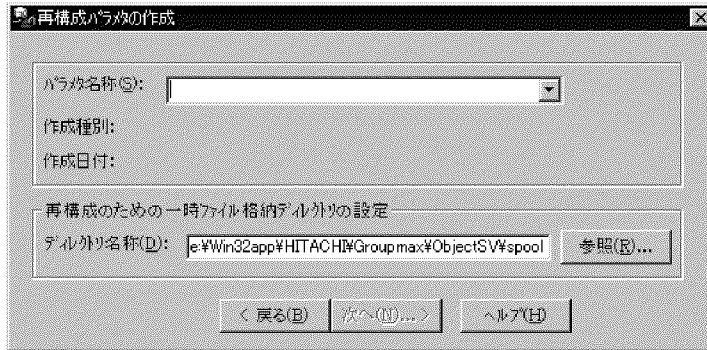
## 付録 E Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによる環境設定 (AIX を御利用の場合)

を xodrc に上書きしてください。

### (c) ダイアログで指定する項目

図 E-12 に [再構成パラメタの作成] ダイアログを示します。

図 E-12 [再構成パラメタの作成] ダイアログ



#### パラメタ名称 (S) :

データベース定義ファイル作成時に付けた論理的な名称を 1 ~ 31 バイトの半角英数字で入力します。パラメタ名称は、リストから選択出来ます。

パラメタ名称は、データベース初期化用パラメタのパラメタ名称を指定して下さい。

他のパラメタを指定した場合、[次へ...>] ボタンが活性化されません。また、存在しないパラメタ名称を入力するとエラーとなります。

再構成のための一時ファイル格納ディレクトリの設定

#### ディレクトリ名称 (D) :

データベース再構成のアンロードファイル及びワークファイルを作成するディレクトリを指定します。デフォルト値として、「Groupmax サーバ環境設定ユーティリティの組み込みディレクトリ ¥spool¥work」が表示されていますので、適切なディレクトリ名称 (/usr/spool/work など) を入力してください。

なお、指定するディレクトリ名称は、「オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ (/usr/HiOODB など)」を含まない名称にしてください。

#### 参照 (R)... :

この機能は AIX では利用できません。

#### < 戻る (B) :

[再構成パラメタの作成] ダイアログを終了して、[データベース定義ファイルの作成] ダイアログに戻ります。

#### 次へ (N)... > :

[システム構成の設定] ダイアログを開きます。

#### ヘルプ (H) :

[再構成パラメタの作成] ダイアログのヘルプを表示します。

## (9) [システム構成の設定] ダイアログ

### (a) 機能

[システム構成の設定] ダイアログでは、データベース初期化用パラメタ又はデータベース再構成用パラメタを作成するための情報を設定します。

ここで指定するのは、システム全体の情報です。Groupmax サーバ環境設定ユーティリティは、この情報をそれぞれのサーバプログラムの詳細な指定値へと展開し、それを基にパラメタの指定値を決めます。各サーバプログラムの詳細な指定値は、[詳細 (Y)...] ボタンを選択して表示される [詳細設定] ダイアログで参照及び変更できます。

これらで指定した内容を基に、パラメタファイル、システム共通定義ファイル及びカーネルパラメタの変更情報の通知ファイルが作成されます。

### (b) 操作

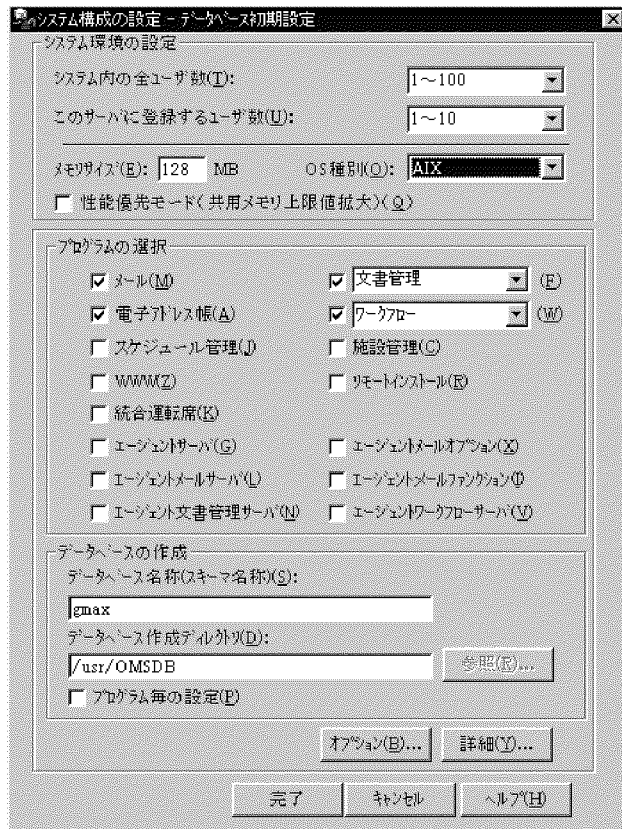
[システム構成の設定] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [データベース定義ファイルの作成] ダイアログの「データベース初期化用パラメタの作成」又は「データベース構成変更用パラメタの作成」を選択する  
[システム構成の設定] ダイアログが表示されます。
2. 構築する環境に見合う値をそれぞれの項目に入力する  
詳細設定が必要な場合は、[詳細 (Y)...] を選択すると表示される [詳細設定] ダイアログで指定してください。
3. [完了] ボタンを選択する  
データベース初期化用パラメタ又はデータベース構成変更用パラメタが作成されます。

### (c) ダイアログで指定する項目

図 E-13 に [システム構成の設定] ダイアログを示します。

図 E-13 [システム構成の設定] ダイアログ



### システム環境の設定

#### システム内の全ユーザ数 (T) :

各サーバで登録するユーザ数の総数を指定します。

次の固定値を選択できます。また、任意のユーザ数を直接入力することもできます。デフォルト値として、1 ~ 100 が表示されています。

- 1 ~ 100
- 101 ~ 1000
- 1001 ~ 5000
- 5001 ~ 10000
- 10001 ~ 20000

#### このサーバに登録するユーザ数 (U) :

設定しようとしているサーバに登録するユーザ数を指定します。

次の固定値を選択できます。また、任意のユーザ数を直接入力することもできます。デフォルト値として、1 ~ 10 が表示されています。

- 1 ~ 10
- 11 ~ 50
- 51 ~ 100
- 101 ~ 1000

- 1001 ~ 2000
- 2001 ~ 3000
- 3001 ~ 4000
- 4001 ~ 5000

メモリサイズ (E) :

このサーバのハードウェアに実装されたメモリサイズを入力します。指定できる値は 64 ~ 2048 です。

OS 種別 (O) :

パラメタを作成するシステムの OS を次の中から選択します。AIX を選択してください。

性能優先モード (共用メモリ上限値拡大) (Q) :

Groupmax サーバの動作性能を向上するために、共用メモリ (static\_shmpool\_size) の上限値を拡大するかどうかを指定します。デフォルト値は拡大しない (チェックなし) です。チェックしない場合、共用メモリの最大は 73500 になります。チェックした場合、最大を 745000 として値を計算します。

プログラムの選択 :

パラメタ作成の対象となるサーバプログラムのチェックボックスを選択します。対象となるサーバプログラムがインストールされていなくても、選択して、パラメタを作成できます。

- メール (M) : Groupmax Mail Server
- 文書管理 (F) : Groupmax Document Manager
- 文書管理 (高機能版) (F) : Groupmax High-end Document Manager(ただし、表示では「ハイエンド文書管理」)
- 電子アドレス帳 (A) : Groupmax Address Server
- ワークフロー (W) : Groupmax Workflow Server
- ワークフロー (高機能版) (W) : Groupmax High-end Workflow Server(ただし、表示では「ハイエンドワークフロー」)
- ワークフロー (ドメイン間連携機能使用時) (W) : Groupmax Workflow Server + Groupmax Workflow Server Connection(ただし、表示では「ワークフロー (ドメイン)」)
- ワークフロー (高機能版 : ドメイン間連携機能使用時) (W) : Groupmax High-end Workflow Server + Groupmax Workflow Server Connection(ただし、表示では「ハイエンド WF(ドメイン)」)
- スケジュール管理 (J) : Groupmax Scheduler Server
- 施設管理 (C) : Groupmax Facilities Manager
- WWW(Z) : Groupmax World Wide Web
- リモートインストール (R) : Groupmax Remote Installation Server
- 統合運転席 (K) : Groupmax System Agent - TCP/IP
- エージェントサーバ (G) : Groupmax Agent Server
- エージェントメールオプション (X) : Groupmax Agent Server Mail Option

## 付録 E Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによる環境設定 (AIX を御利用の場合)

- エージェントメールサーバ (L) : Groupmax Agent - Mail Server
- エージェントメールファンクション (I) : Groupmax Agent - Mail Function
- エージェント文書管理サーバ (N) : Groupmax Agent - Document Manager Server
- エージェントワークフローサーバ (V) : Groupmax Agent - Workflow Server

メールを選択すると、電子アドレス帳も選択されます。それ以外のプログラムはそれぞれ単独で選択できます。

また、文書管理とワークフローは高機能版かどうかをリストボックスから選択します。

### データベースの作成

データベース名称 (スキーマ名称) (S) :

初期設定時は、データベースに付けるスキーマ名称を設定します。

データベースディレクトリ名称 (D) :

データベースファイルを作成するディレクトリを指定します。デフォルト値として、「/usr/OMSDB」が表示されています。

参照 (R)... :

ファイルシステムからデータベースを作成するディレクトリを選択できません。

プログラム毎の設定 (P) :

チェックボックスを選択すると、プログラムごとにデータベース作成ディレクトリを分けられます。ディレクトリ名称は、[ 詳細設定 ] ダイアログで指定します。

詳細 (Y)... :

[ 詳細設定 ] ダイアログが表示されます。

オプション (B)... :

[ オプション設定 ] ダイアログが表示されます。

完了 :

データベース容量を確認してから、データベース初期設定用パラメタを作成します。その後、[ Object Server 簡易設定 ] ダイアログに戻ります。

キャンセル :

パラメタを作成しないで [ システム構成の設定 ] ダイアログを終了します。その後 [ Object Server 簡易設定 ] ダイアログに戻ります。

ヘルプ (H) :

[ システム構成の設定 ] ダイアログのヘルプを表示します。

## (10) [ 詳細設定 ] ダイアログ

### (a) 機能

[ 詳細設定 ] ダイアログでは、データベース初期化用パラメタ又は再構成用パラメタを作成するための情報を設定します。

ここで指定するのは、各サーバプログラムの詳細な指定値です。[ システム構成の設定 ] ダイアログで選択したサーバプログラムの指定値を参照、更新できます。



この内容を基に、パラメタファイル、システム共通定義ファイル及びカーネルパラメタの変更情報の通知ファイルが作成されます。

なお、[ 詳細設定 ] ダイアログで設定値を変更、確定した後に [ システム構成の設定 ] ダイアログでの指定値を変更すると、[ 詳細設定 ] ダイアログでの設定値は無効になりますので、ご注意ください。

### (b) 操作

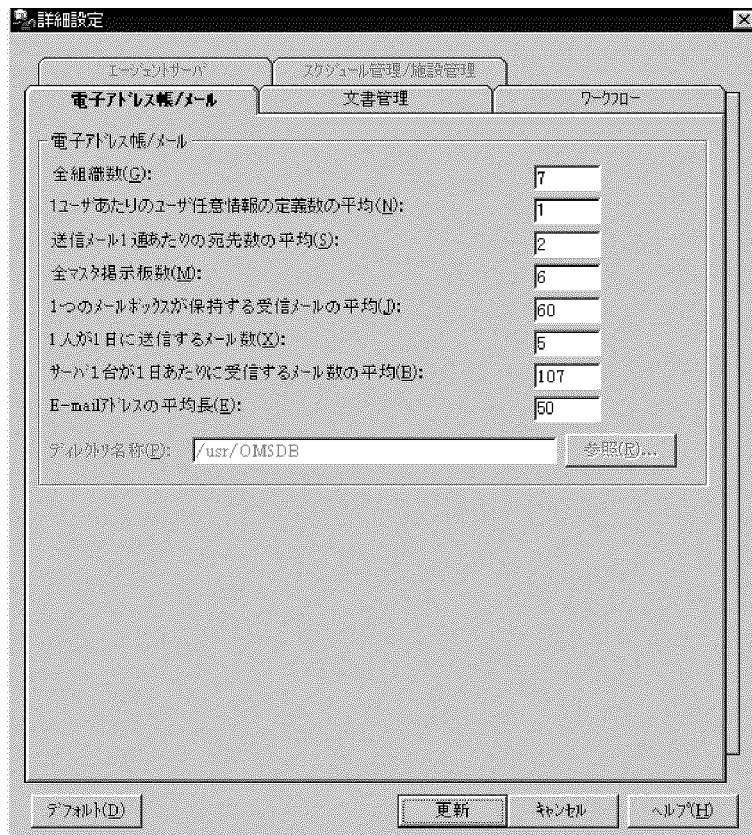
[ 詳細設定 ] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [ システム構成の設定 ] ダイアログの [ 詳細 (Y)... ] を選択する  
[ 詳細設定 ] ダイアログが表示されます。
2. 構築する環境に見合う値をそれぞれの項目に入力する
3. [ 更新 ] ボタンを選択する  
指定値を確定して、[ 詳細設定 ] ダイアログを終了し、[ システム構成の設定 ] ダイアログに戻ります。

### (c) ダイアログで指定する項目

図 E-14 に [ 詳細設定 ] ダイアログを示します。

図 E-14 [ 詳細設定 ] ダイアログ



それぞれのサーバプログラムでの設定項目：

[ 電子アドレス帳 / メール / 文書管理 ] 又は [ ワークフロー ] のタグを選択する

付録 E Groupmax サーバ環境設定ユティリティによる環境設定 (AIX を御利用の場合)

と、それぞれのサーバプログラムでの詳細な設定項目が表示されます。ここで、[システム構成の設定] ダイアログで選択したプログラムの指定値の参照、更新ができます。それぞれの項目には、[システム構成の設定] ダイアログで設定した値から算出された値が表示されています。

表 E-1 にそれぞれのサーバプログラムでの設定項目を示します。

表 E-1 それぞれのサーバプログラムでの設定項目

| プログラム名  | 指定内容                                     | 説明                                                                                          |
|---------|------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 電子アドレス帳 | 全組織数 (1 ~ 9999)                          | 一人以上のユーザから構成される集まりが組織です。<br>会社の構造に例えると部や課に相当します。この組織の総数を指定します。                              |
|         | 1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均 (1 ~ 8)          | 見出し (項目) の数を指定します。ユーザ任意情報を使用しない場合は 1 を指定します。                                                |
| メール     | 送信メール 1 通あたりの宛先数の平均 (1 ~ 999)            | メールを送信する場合の宛先数の平均値を入力します。個人メール中心であれば 1 ~ 2、業務上、宛先数が多いことが判明している場合は、その値を指定します。                |
|         | 全マスタ掲示板数 (1 ~ 9999)                      | 掲示物を登録するものが掲示板であり、マスタ掲示板とレプリカ (マスタ掲示板の複写) 掲示板から構成されます。すべての掲示板のうち、レプリカ掲示板を除いた掲示板の総数を指定します。   |
|         | 1 つのメールボックスが保持する受信メールの平均 (1 ~ 999)       | メールボックスは組織、ユーザ単位に作成します。この一つのメールボックスが保持する受信メール数の平均を指定します。                                    |
|         | 1 人が 1 日に送信するメール数 (1 ~ 999)              | 一人のユーザが 1 日に送信するメール数の平均を指定します。                                                              |
|         | サーバ 1 台が 1 日あたりに受信するメール数の平均 (1 ~ 999999) | 1 台のサーバが 1 日に受信するメール数の平均を指定します。                                                             |
|         | E-mail アドレスの平均長 (1 ~ 256)                | E-mail アドレスの平均長を指定します。                                                                      |
| 文書管理    | 1 ユーザあたりの同時アクセス文書数 (1 ~ 999)             | 一人のユーザがログイン中に参照・編集などの操作を実施する一般文書とフォーム文書の平均の数を指定します。                                         |
|         | 全フォーム文書数 (0 ~ 1000000)                   | すべてのフォーム文書データベースに格納されるフォーム文書の総数を指定します。                                                      |
|         | 文書あたりに保持するバージョン数 (0 ~ 99)                | 一つの一般文書が保持するバージョン数を指定します。Groupmax Document Manager の環境設定で「文書の最大バージョン数」に設定した値を指定します。         |
|         | 分類、分類索引の総数 (0 ~ 1000000)                 | 分類索引とは、一般文書を分類する分類体系の一つです。サーバに対して複数の分類索引を定義できます。分類とは、分類索引を構成する節のことです。ここでは、分類索引と分類の総数を指定します。 |

| プログラム名 | 指定内容                                       | 説明                                                                                                                                                                                                            |
|--------|--------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | 全一般文書数 (0 ~ 1000000)                       | すべての一般文書データベースに格納される文書の総数を指定します。                                                                                                                                                                              |
|        | フォーム文書データベース数 (0 ~ 5000)                   | フォーム文書データベースとは、日報などの定型文書の情報を主体に管理するデータベースです。定型文書の種類ごとにフォーム文書データベースを定義して使用します。定型文書固有の情報はユーザ定義属性として定義します。属性の登録には、Groupmax Form で作成したフォーム (電子帳票) を使用します。アプリケーションファイルは添付ファイルとして操作できます。ここでは、フォーム文書データベースの総数を指定します。 |
| 文書管理   | 一般文書データベース数 (1 ~ 5000)                     | 一般文書データベースとは、日報などの定型文書の情報を主体に管理するデータベースです。システム文書データベースの属性として定義されている文書の書誌情報のほかに、ユーザが文書群に共通の情報をユーザ定義属性として個別に定義して一般文書データベースを作成できます。ここでは、システム文書データベースとユーザが作成する一般文書データベースの総数を指定します。                                |
|        | 配布文書グループ数 (0 ~ 1500)                       | 一つのサーバの一般文書を別のサーバに配布することを文書配布といいます。文書を配布する側のサーバを配布元サーバ、配布される側のサーバを配布先サーバといいます。文書は、配布元サーバで配布対象となる文書を定義して配布します。これらの文書群を文書配布対象グループ数といいます。ここでは、この文書配布対象グループの総数を指定します。                                             |
|        | 配布で取り込まれた文書の総数 (0 ~ 1000000)               | 文書配布機能を使用して取り込まれる一般文書の総数を指定します。配布元サーバでは、一般文書数の中に含まれます。                                                                                                                                                        |
|        | 1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値 (0 ~ 100)   | 一般文書データベースにはユーザ固有の情報を定義できます。この情報をユーザ定義属性と呼びます。例えば、「会議録」データベースに「開催日」という属性を定義できます。ここでは、一般文書データベースに登録する文字列型のユーザ定義属性の平均値を指定します。                                                                                   |
|        | 1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値 (0 ~ 100) | フォーム文書データベースに指定する可変長文字列型のユーザ定義属性の定義数の平均値を指定します。フォーム文書の項目の定義にはリッチテキストも含まれます。                                                                                                                                   |
|        | フォルダ数 (2 ~ 1000000)                        | フォルダとは、一般文書を分類する体系の一つです。一つのサーバに一つのフォルダ体系が存在します。通常、Groupmax Integrated Desktop の共用キャビネット下に表示されます。フォルダは、物理的格納位置との対応付けができます。ここでは、サーバ上に作成されるフォルダの総数を指定します。                                                        |

付録 E Groupmax サーバ環境設定ユティリティによる環境設定 (AIX を御利用の場合)

| プログラム名 | 指定内容                                                                          | 説明                                                                                                             |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | 同時ログインユーザ数 (1 ~ 256。ただし、Groupmax High-end Document Manager を使用する場合は 1 ~ 1000) | 同時にログインするユーザ数の最大値を指定します。                                                                                       |
|        | 複数グループアクセス権機能 (ON,OFF)                                                        | 1 つしかできないデータベースへのグループアクセス権を複数個設定できる機能を、使用するかどうかを指定します。                                                         |
| ワークフロー | 1 日あたりのワーク数 (1 ~ 9999)                                                        | 1 日に発生するワーク数を指定します。                                                                                            |
|        | ワーク処理日数 (1 ~ 999)                                                             | ソースから投入した回覧データがシンクで終了するまでの平均処理日数を指定します。                                                                        |
|        | ワーク保存日数 (1 ~ 999)                                                             | 終了したワークを保存するための日数を指定します。保存日数を過ぎたワークはワーク削除ユティリティで削除できます。                                                        |
|        | 1 ビジネスプロセスあたりの定義ノード数 (1 ~ 999)                                                | ビジネスプロセス上で、ユーザ又はシステムが何らかの処理をする場所をノードと呼びます。ビジネスプロセス上の平均ノード数を指定します。                                              |
|        | ビジネスプロセス定義数 (1 ~ 9999)                                                        | 基本フローモデルに基づいて表現した業務の流れをビジネスプロセスといいます。このビジネスプロセス定義の総数を指定します。                                                    |
|        | ワーク内のケース数 (1 ~ 999)                                                           | ワークフローで回覧される文書又はメモを格納する入れ物をケースといいます。ケースには、ビジネスプロセス定義で定義するケースの他にシステムが自動的に作成するルートケースがあります。ワークに投入される平均ケース数を指定します。 |
|        | ケース内の文書数 (1 ~ 999)                                                            | ケースに格納して送付する書類を文書といいます。文書は、各種アプリケーション固有の形式で作成された文書実体ファイルと、文書全体を管理する文書オブジェクトで構成されます。ケースに格納する平均文書数を指定します。        |
|        | ロール数 (1 ~ 9999)                                                               | ロールは仕事をする上での役割です。複数のユーザをロールとしてグループ化し、ビジネスプロセス定義のノード上の作業者として割り当てることができます。このロールの総数を指定します。                        |
|        | 最大ログインユーザ数 (1 ~ 1000。ただし、Groupmax High-end Workflow Server を使用する場合は 1 ~ 4096) | ログインするユーザ数の最大値を指定します。                                                                                          |
|        | 1 ユーザあたりの同時接続セッション数 (1 ~ 5)                                                   | 1 ユーザあたりの同時に接続するセッション数の最大値を設定します。                                                                              |

付録 E Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによる環境設定 (AIX を御利用の場合)

| プログラム名          | 指定内容                                                 | 説明                                                                                                                                           |
|-----------------|------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                 | キャッシュメモリサイズ (MB) (1 ~ 32)                            | キャッシュのメモリサイズを指定します。単位はメガバイトです。                                                                                                               |
|                 | ワークフローデータベースへの同時アクセス数 (1 ~ 32)                       | ワークフローデータベースへの同時アクセス数を指定します。                                                                                                                 |
|                 | マルチサーバの総サーバ数 (0 ~ 400)                               | マルチサーバ構成時のサーバ数を指定します。シングルサーバ構成の場合は 0 を指定してください。                                                                                              |
|                 | 管理者用最大ログインユーザ数 (1 ~ 200)                             | 同時にログインする管理者用のユーザ数の最大値を指定します。                                                                                                                |
|                 | ワーク ID 採番用管理情報遅延機能 (ON,OFF)                          | ワーク ID 採番用管理情報遅延機能を使用するかどうかを指定します。                                                                                                           |
|                 | 1 日あたりのドメイン間連携ノードに到達するケース数 (0 ~ 8000)                | 1 日あたりのドメイン間連携ノードに到達するケース数を指定します。                                                                                                            |
|                 | 1 日あたりのドメイン間連携機能で投入されるワーク数 (0 ~ 9999)                | 1 日あたりのドメイン間連携機能で投入されるワーク数を指定します。ただし、ワークフローの 1 日あたりのワーク数の内数で指定します。                                                                           |
|                 | Workflow の環境設定の「ドメイン間連携管理情報最大保存期間」で指定した値 (0 ~ 70560) | Workflow の環境設定の「ドメイン間連携管理情報最大保存期間」で指定した値を指定します。単位は分です。                                                                                       |
|                 | ワーク下のオブジェクト数 (1 ~ 32767)                             | ワーク下のオブジェクト数は、次の計算式で求めてください。ワーク内ケース定義数 × (ケース内文書数 + データメモ数) × 複写ノードでの送付先総数<br>複写ノードが無い場合、複写ノードでの送付先総数は 1 としてください。複写ノードをループする場合も考慮して加算してください。 |
| エージェントサーバ       | 同時に動作するエージェント数 (クラス B) (1 ~ 32)                      | 同時に動作させるクラス B のエージェントの数を指定します。                                                                                                               |
|                 | 同時に動作するエージェント数 (クラス C) (1 ~ 32)                      | 同時に動作させるクラス C のエージェントの数を指定します。                                                                                                               |
|                 | 接続する PP サーバ数の最大 (1 ~ 64)                             | エージェントサーバに接続する最大 PP サーバ数を指定します。                                                                                                              |
|                 | 同時に接続するユーザ数の最大 (1 ~ 256)                             | エージェントサーバに同時に接続する最大ユーザ数を指定します。                                                                                                               |
| スケジュール管理 / 施設管理 | ユーザが所属する組織の数 (旧: 全組織数) (1 ~ 9999)                    | 一人以上のユーザから構成される集まりが組織です。会社の構造にたとえると部や課に相当します。この組織の総数を指定します。                                                                                  |

付録 E Groupmax サーバ環境設定ユティリティによる環境設定 (AIX を御利用の場合)

| プログラム名 | 指定内容                                        | 説明                                                          |
|--------|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
|        | 施設が所属する組織の数 (1 ~ 9999)                      | 一箇所以上の施設から構成される集まりが組織です。会社の構造にたとえると部や課に相当します。この組織の総数を指定します。 |
|        | 当該サーバに登録する施設数 (1 ~ 10000)                   | 会議室や体育館などの施設の総数を指定します。                                      |
|        | ユーザに登録する組織の階層数の最大値 (1 ~ 50)                 | ユーザを階層化したときの階層数を指定します。                                      |
|        | 施設に登録する組織の階層数の最大値 (旧: 施設に登録した全階層数) (1 ~ 50) | 施設を階層化したときの階層数を指定します。                                       |

電子アドレス帳 / メール / ワークフローの場合、データベース運用期間 (データベースの再編成までの期間) は 30 日を仮定しています。運用期間ごとにデータベースの再編成を行ってください。又は、データベースのファイルの増分にそなえてディスクのパーティションの空きが十分に定期的に確認してください。ここで求められる値は 1 サーバの値です。workflow の複数サービス機能を使用する場合は、各サーバの値で作成した個々のカーネルパラメタ変更情報ファイルを手作業で加算する必要があります。

ディレクトリ名称 (F), (P), (K) :

[ システム構成の設定 ] ダイアログで、[ プログラム毎の設定 ] を選択すると、入力できます。プログラムごとに異なるディレクトリにデータベースファイルを作成する場合に指定します。

参照 (I)... , (L)... , (R)... :

プログラムごとに異なるディレクトリにデータベースファイルを作成する場合に、ファイルシステムからデータベースを作成するディレクトリを選択できます。

デフォルト (D) :

手前に表示しているプログラムの設定値が、[ システム構成の設定 ] ダイアログの内容からシステムが算出したデフォルト値に戻ります。

更新 :

指定値を確定して、[ 詳細設定 ] ダイアログを終了し、[ システム構成の設定 ] ダイアログに戻ります。

キャンセル :

指定値を確定しないで [ 詳細設定 ] ダイアログを終了し、[ システム構成の設定 ] ダイアログに戻ります。

ヘルプ (H) :

[ 詳細設定 ] ダイアログのヘルプを表示します。

## (11)[ オプション設定 ] ダイアログ

### (a) 機能

[ オプション設定 ] ダイアログでは、Object Server 又は High-end Object Server で必要な、次に示す項目を設定します。

- Object Server で使用する簡易ジャーナルの設定
- High-end Object Server で使用するステータスファイル及びシステムジャーナルファイルの定義ファイルの作成
- ステータスファイル及びシステムジャーナルファイルを初期化する、バッチファイルの作成
- マルチサービス対応の設定

カーネルパラメタ変更情報作成時には [ オプション設定 ] を行うことはできません。

### (b) 操作

[ オプション設定 ] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [ システム構成の設定 ] ダイアログの [ オプション (B)... ] を選択する  
[ オプション設定 ] ダイアログが表示されます。
2. 必要な情報を入力します。

Object Server を使用する場合の設定項目：

- Object Server(O) のラジオボタンを選択する。  
簡易ジャーナルファイル名を指定します。

High-end Object Server を使用する場合の設定項目：

- High-end Object Server(E) のラジオボタンを選択する。
- ステータスファイルの定義を行う。新たに追加する場合は [ 追加 ] ボタンを押す。
- 削除する場合は削除する項目を選択後、[ 削除 ] ボタンを押す。
- 設定した内容を修正する場合は修正する項目を選択後、[ 修正 ] ボタンを押す。
- ステータスファイルの項目を最大で 7 つまで定義する。  
ステータスファイルの障害に備えて、A 系、B 系はそれぞれ別々のパーティション上に作成してください。
- システムジャーナルサービスの定義を行う。  
操作はステータスファイルの作成と同じです。ジャーナルファイルも物理ファイルを複数のディスクに分けてください
- マルチサービス対応の設定をする。  
マルチサービス対応を使用する場合、マルチサービス対応 (M) のチェックボックスを選択して、OMS 識別子 (S) を入力します。OMS 識別子は、半角英字で始まる、半角英数字 2 文字で入力してください。

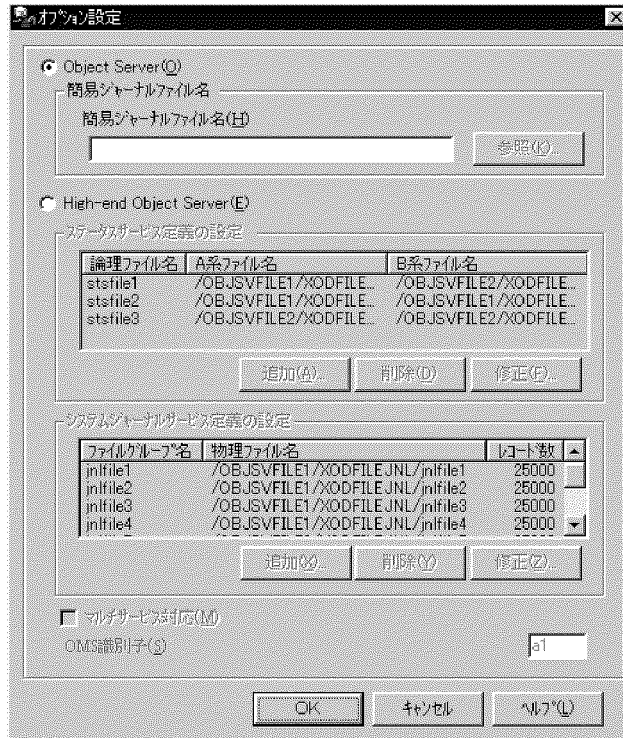
3. [ OK ] ボタンを選択する

指定値を確定して、[ オプション設定 ] ダイアログを終了し、[ システム構成の設定 ] ダイアログに戻ります。

(c) ダイアログで指定する項目

図 E-15 に [ オプション設定 ] ダイアログを示します。

図 E-15 [ オプション設定 ] ダイアログ



Object Server(O) :

Object Server を使用する場合に選択します。

High-end Document Manager 又は High-end Workflow Server を選択している場合は、選択できません。

簡易ジャーナルファイル名 (H) :

簡易ジャーナルファイルの出力先ファイル名を指定します。デフォルト値は空欄です。

デフォルト値を変更する場合は、「オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ」を含まないファイル名称にしてください。

指定を省略した (空欄にする) 場合、以下に示すファイル名が仮定されます。

- \$XODDIR/spool/sysjnl

参照 (K)... :

この機能は AIX では利用できません。

High-end Object Server(E) :

High-end Object Server を使用する場合に選択します。

追加 (A)..., 追加 (X)... :

新たにステータスサービス定義又はシステムジャーナルサービス定義を行う場



合に選択します。

削除 (D)..., 削除 (Y)... :

選択したステータスサービス定義又はシステムジャーナルサービス定義を削除します。

修正 (F)..., 修正 (Z)... :

選択したステータスサービス定義又はシステムジャーナルサービス定義を修正します。

マルチサービス対応 (M) :

マルチサービス対応を使用する場合に選択します。

OMS 識別子 (S) :

OMS 識別子を指定します。

OK :

設定した内容を確定して、[ オプション設定 ] ダイアログを終了し、[ システム構成の設定 ] ダイアログに戻ります。

キャンセル :

設定した内容を確定しないで [ オプション設定 ] ダイアログを終了し、[ システム構成の設定 ] ダイアログに戻ります。

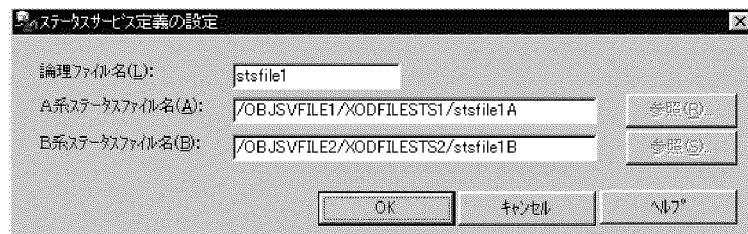
ヘルプ (L) :

[ オプション設定 ] ダイアログのヘルプを表示します。

## (12) ステータスサービス定義の設定画面で指定する項目

図 E-16 に [ ステータスサービス定義の設定 ] ダイアログを示します。

図 E-16 [ ステータスサービス定義の設定 ] ダイアログ



論理ファイル名 (L) :

ステータスファイルの論理ファイル名を、先頭が英字で 1 ~ 8 バイトの半角英数字で指定します。

A 系ステータスファイル名 (A) :

B 系ステータスファイル名 (B) :

論理ファイルを構成する A 系及び B 系ステータスファイル名を 63 バイト以下のルートパスから始まる絶対パス名で指定します。

性能及び運用の観点から、ステータスファイルはデータベースが格納されているディスクとは別のディスクに作成することを推奨します。

## 付録 E Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによる環境設定 (AIX を御利用の場合)

ハードディスクの障害によりすべてのステータスファイルが障害とならないようにするため、A系ファイル名とB系ファイル名はできるだけ別ディスクに作成することを推奨します。また、それぞれの論理ファイルも、できるだけ別ディスクに作成することを推奨します。

すべてのステータスファイルが障害となった場合、High-end Object Server は異常終了して、再開が行えない状態となります。

参照 (R)..., 参照 (S)... :

この機能は AIX では利用できません。

OK :

設定を有効にして、[ オプション設定 ] ダイアログに戻ります。

キャンセル :

設定を破棄して、[ オプション設定 ] ダイアログに戻ります。

ヘルプ :

[ ステータスサービス定義の設定 ] ダイアログのヘルプを表示します。

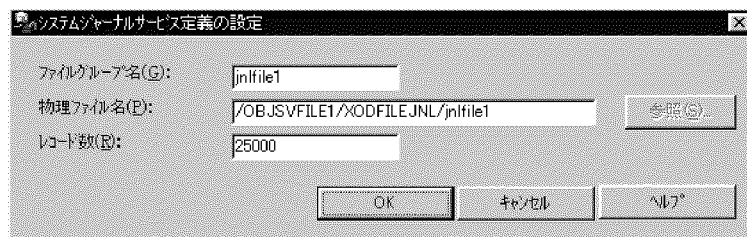
注意事項

- A系, B系ステータスファイルのレコード数は 32 固定となります。  
High-end Object Server は、レコード数 32 を超えて使用しないので、生成されたパラメタを変更する必要はありません。
- 1レコードは 4608 バイトです。

### (13) システムジャーナルサービス定義の設定画面で指定する項目

図 E-17 に [ システムジャーナルサービス定義の設定 ] ダイアログを示します。

図 E-17 [ システムジャーナルサービス定義の設定 ] ダイアログ



ファイルグループ名 (G) :

ジャーナルファイルのグループ名を 1 ~ 8 バイトの半角英数字で指定します。  
ただし、先頭文字に数字を用いることができません。

物理ファイル名 (P) :

ファイルグループを構成する物理ファイル名を 63 バイト以下のルートパス名から始まる絶対パス名で指定します。

性能及び運用の観点から、物理ファイルはデータベースが格納されているディスクとは別のディスクに作成することを推奨します。

ハードディスクの障害によりすべての物理ファイルが障害とならないようにするため、複数のディスクに物理ファイルを作成することを推奨します。

参照 (S)... :

この機能は AIX では利用できません。

レコード数 (R) :

初期設定するレコード数 (20 ~ 262144) を指定します。

OK :

設定を有効にして、[ オプション設定 ] ダイアログに戻ります。

キャンセル :

設定を破棄して、[ オプション設定 ] ダイアログに戻ります。

ヘルプ :

[ システムジャーナルサービス定義の設定 ] ダイアログのヘルプを表示します。

#### 注意事項

- レコード数のデフォルト値は 25000 です。
- 1 レコードは 4096 バイトです。
- jnl\_unload\_check=Y になります。
- jnl\_return\_swap=N になります。
- jnl\_cdinterval の値は以下の値を設定します。連携する Groupmax アプリケーションの指示に従ってチューニングしてください。

#### 【設定値】

メール及びワークフローを使用しない場合 : 100

メールを使用する場合 : 200

メール及びワークフローを使用する場合 : 300

#### (14) ジャーナルファイルの見積もりについて

ジャーナルの容量は、次に示した方法で見積られる事をおすすめします。なお、次に示す方法は、毎日夜間にジャーナルのアンロードを行うという運用を前提にしています。

1. 1日のジャーナル出力量を Groupmax の各 PP の計算式より見積る。
2. 以下の指針から、1つのジャーナルファイルの容量を求める。  
ジャーナルのスワップ回数は、数回/日が推奨。  
ジャーナルファイルの障害に備えて、アンロードしなくても、1日ですべてのジャーナルファイルを使い切らない様に (例えば、8つジャーナルファイルがあれば3~4つは使わず残るように)、1つのファイルサイズを決定する。
3. 運用後、ジャーナルファイルの使用状況を監視し、ジャーナル量の見積もり値を検証する。

1日のジャーナル出力量を Groupmax の各 PP の計算式より見積る事が困難な場合は、以下の手順で見積もりを行って下さい。

1. 仮のジャーナルサイズでジャーナルファイルを複数作成する (例: デフォルトサイズ及び個数)。
2. High-end Object Server のシステムサービス定義の、ジャーナルアンロードチェックの指定 (jnl\_unload\_check) を、一時的に N 指定 (ジャーナルアンロードチェックを行わない) に変更する。

N を指定した場合、ジャーナルのアンロードをしなくても、自動的にジャーナルファイルが再利用されます。しかし、ジャーナルによるデータベースの回復が出来なくなりますので、DB のバックアップを毎日取得する等により、障害に備えて下さい。

3. ジャーナルファイルのスワップ回数の監視等により、ジャーナルの使用状況を監視して、1 日で必要なジャーナル容量を求める。
4. 求められた値により、ジャーナルファイルを再作成する。
5. High-end Object Server のシステムサービス定義のジャーナルアンロードチェックの指定 (jnl\_unload\_check) を元に戻す。

### (15) [ データベース容量の確認 ] ダイアログ

#### (a) 機能

[ データベース容量の確認 ] ダイアログでは、作成したパラメタを使用してデータベースを作成したときの、データベース容量を確認できます。

#### (b) 操作

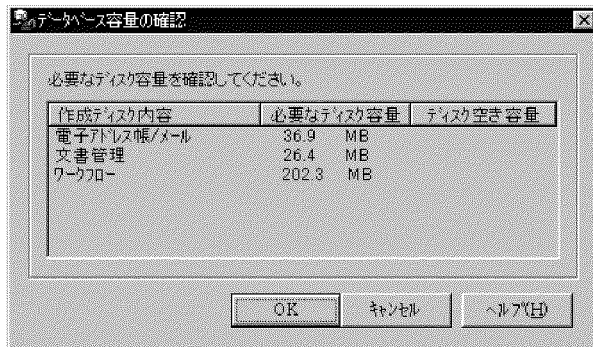
[ データベース容量の確認 ] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [ システム構成の設定 ] ダイアログの [ 完了 ] を選択する  
[ データベース容量の確認 ] ダイアログが表示されます。
2. データベース容量を確認する  
データベース容量が不足していても、パラメタ作成に支障はありませんが、データベース初期設定、又は構成変更を実行するまでに、必要なディスク容量を確保してください。ディスク容量を確保できない場合は、[ システム構成の設定 ] ダイアログ及び [ 詳細設定 ] ダイアログで、設定値を見直してください。
3. 確認後、問題がなければ [ OK ] ボタンを選択する  
データベース初期化用パラメタ又はデータベース構成変更用パラメタが作成されます。作成後、[ Object Server 簡易設定 ] ダイアログに戻ります。

#### (c) ダイアログで表示する項目及び指定する項目

図 E-18 に [ データベース容量の確認 ] ダイアログを示します。

図 E-18 [ データベース容量の確認 ] ダイアログ



必要なディスク容量：

プログラム単位に必要なディスク容量が表示されます。

ディスク空き容量：  
表示されません。

OK：  
データベース初期化用パラメタ又はデータベース構成変更用パラメタを作成します。その後、[ Object Server 簡易設定 ] ダイアログに戻ります。

キャンセル：  
パラメタを作成しないで [ データベース容量の確認 ] ダイアログを終了し、[ システム構成の設定 ] ダイアログに戻ります。

ヘルプ (H)：  
[ データベース容量の確認 ] ダイアログのヘルプを表示します。

## (16) [ カーネルパラメタ情報設定 ] ダイアログ

### (a) 機能

[ カーネルパラメタ情報設定 ] ダイアログでは、AIX サーバで用いるカーネルパラメタ変更情報ファイルに対する操作種別を指定します。

#### 注意

[ カーネルパラメタ情報設定 ] ダイアログは、[ Object Server 簡易設定 ] ダイアログと同時に起動することはできません。[ Object Server 簡易設定 ] ダイアログを終了させてから実行してください。

### (b) 操作

[ カーネルパラメタ情報設定 ] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [ Groupmax 環境設定 ] ウィンドウの [ カーネルパラメタ情報設定 ] アイコンを選択する  
[ カーネルパラメタ情報設定 ] ダイアログが表示されます。
2. 該当する項目を選択する
3. [ 次へ (N)...> ] ボタンを選択する  
選択した操作を実行する、次のダイアログが表示されます。

### (c) ダイアログで指定する項目

図 E-19 に [ カーネルパラメタ情報設定 ] ダイアログを示します。

図 E-19 [カーネルパラメタ情報設定] ダイアログ



カーネルパラメタの作成 (M) :

AIX で用いるカーネルパラメタ変更情報ファイルを作成する場合に選択します。選択すると、次に [カーネルパラメタの作成] ダイアログが表示されます。

カーネルパラメタの参照・更新 (R) :

作成済みのカーネルパラメタ変更情報ファイルの内容を参照したり、更新したりする場合に選択します。選択すると、次に [カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログが表示されます。

カーネルパラメタの削除 (D) :

作成済みのカーネルパラメタ変更情報ファイルの内容を削除する場合に選択します。選択すると、次に [カーネルパラメタの削除] ダイアログが表示されます。

### (17) [カーネルパラメタの作成] ダイアログ

#### (a) 機能

[カーネルパラメタの作成] ダイアログでは、AIX サーバの環境設定に必要なカーネルパラメタ変更情報の通知ファイルを新規に作成するための設定をします。

ここで指定するのは、カーネルパラメタ変更情報の通知ファイルの論理的な名称です。

#### (b) 操作

[カーネルパラメタの作成] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [カーネルパラメタ情報設定] ダイアログの [カーネルパラメタの作成] を選択する  
[カーネルパラメタの作成] ダイアログが表示されます。
2. パラメタ名称を入力する
3. [次へ (N)...>] ボタンを選択する  
[カーネルパラメタ設定] ダイアログが表示されます。

#### (c) ダイアログで設定する項目

図 E-20 に [カーネルパラメタの作成] ダイアログを示します。

図 E-20 [カーネルパラメタの作成] ダイアログ



**パラメタ名称 (S) :**

カーネルパラメタ変更情報通知ファイルに付ける論理的な名称を 1 ~ 31 バイトの半角英数字で入力します。既に存在するパラメタ名称を入力すると、エラーになります。  
デフォルト値として "myhost" が表示されます。

**閉じる (C) :**

[カーネルパラメタの作成] ダイアログを終了して、[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログに戻ります。

**次へ (N) :**

[カーネルパラメタ設定] ダイアログを開きます。

**ヘルプ (H) :**

[カーネルパラメタの作成] ダイアログのヘルプを表示します。

**(18)[カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログ**

**(a) 機能**

[カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログでは、参照・更新するパラメタ名称を指定します。指定したフィルの設定情報が、[カーネルパラメタ設定] ダイアログ及び [詳細設定] ダイアログに表示されます。

**(b) 操作**

[カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [カーネルパラメタ情報設定] ダイアログの [カーネルパラメタの参照・更新] を選択する  
[カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログが表示されます。
2. パラメタ名称を入力する
3. [次へ (N)...>] ボタンを選択する  
[カーネルパラメタ設定] ダイアログが表示されます。

**(c) ダイアログで設定する項目**

図 E-21 に [カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログを示します。

図 E-21 [カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログ



**パラメタ名称 (S) :**

カーネルパラメタの作成時に付けた論理的な名称を 1 ~ 31 バイトの半角英数字で入力します。パラメタ名称は、リストから選択できます。ただし、存在しないパラメタ名称を入力すると、エラーになります。

**戻る (B) :**

[カーネルパラメタの参照・設定] ダイアログを終了して、[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログに戻ります。

**次へ (N) :**

[カーネルパラメタ設定] ダイアログを開きます。

**ヘルプ (H) :**

[カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログのヘルプを表示します。

**(19)[カーネルパラメタの削除] ダイアログ**

**(a) 機能**

[カーネルパラメタの削除] ダイアログでは、指定したカーネルパラメタファイルを削除します。

**(b) 操作**

[カーネルパラメタの削除] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [カーネルパラメタ情報設定] ダイアログの [カーネルパラメタの削除] を選択する  
[カーネルパラメタの削除] ダイアログが表示されます。
2. パラメタ名称を入力する
3. [削除 (D)] ボタンを選択する  
指定したファイルが削除されます。

**(c) ダイアログで設定する項目**

図 E-22 に [カーネルパラメタの削除] ダイアログを示します。



図 E-22 [カーネルパラメタの削除] ダイアログ



**パラメタ名称 (S) :**

カーネルパラメタファイル作成時に付けた論理的な名称を 1 ~ 31 バイトの半角英数字で入力します。パラメタ名称は、リストから選択できます。ただし、存在しないパラメタ名称を入力すると、エラーになります。

**削除 (D) :**

指定したカーネルパラメタファイルを削除します。その後 [カーネルパラメタ情報設定] ダイアログに戻ります。

**キャンセル :**

カーネルパラメタファイルを削除しないで [カーネルパラメタの削除] ダイアログを終了します。その後 [カーネルパラメタ情報設定] ダイアログに戻ります。

**ヘルプ (H) :**

[カーネルパラメタの削除] ダイアログのヘルプを表示します。

**(20)[カーネルパラメタ設定] ダイアログ**

**(a) 機能**

[カーネルパラメタ設定] ダイアログでは、カーネルパラメタ変更情報の通知ファイルを作成するための情報を設定します。

ここで指定するのは、システム全体の情報です。Groupmax サーバ環境設定ユーティリティは、この情報をそれぞれのサーバプログラムの詳細な指定値へと展開し、それを基にパラメタの指定値を決めます。各サーバプログラムの詳細な指定値は、[詳細 (Y)...] ボタンを選択して表示される [詳細設定] ダイアログで参照及び変更できます。

これらで指定した内容を基に、カーネルパラメタ変更情報の通知ファイルが作成されます

**(b) 操作**

[カーネルパラメタ設定] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [カーネルパラメタの作成] ダイアログ又は [カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログの「次へ (N)...>」を選択する

[カーネルパラメタ設定] ダイアログが表示されます。

2. 構築する環境に見合う値をそれぞれの項目に入力する  
詳細設定が必要な場合は、[詳細 (Y)...] を選択すると表示される [詳細設定] ダイアログで指定してください。

[ オプション (B) ] は選択できません。

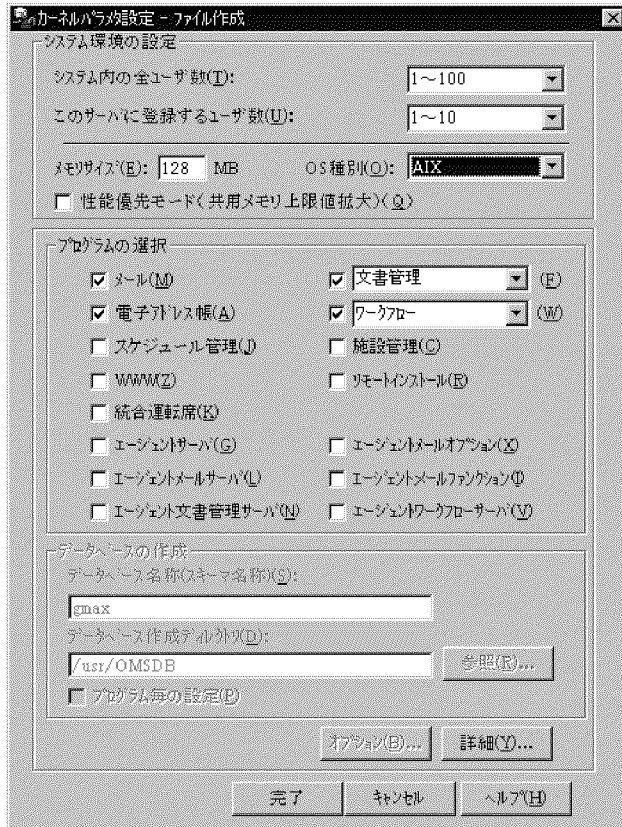
3. [ 完了 ] ボタンを選択する

カーネルパラメタ変更情報の通知ファイルを作成します。

(c) ダイアログで指定する項目

図 E-23 に [ カーネルパラメタ設定 ] ダイアログを示します。

図 E-23 [ カーネルパラメタ設定 ] ダイアログ



次に示す項目については、「(9) [ システム構成の設定 ] ダイアログ (c) ダイアログで指定する項目」の説明を参照してください。

- システム内の全ユーザ数 (T)
- このサーバに登録するユーザ数 (U)
- メモリサイズ (E)
- OS 種別 (O)
- プログラムの選択

なお、プログラムの選択には、デフォルト値としてメール (M)、文書管理 (F)、電子アドレス帳 (A)、ワークフロー (W) が選択されています。必要に応じて使用するプログラムを選択してください。

OS 種別 (O) :

AIX を選択してください。

データベースの作成 :

このダイアログでデータベースの作成はできません。

完了 :

カーネルパラメタ変更情報の通知ファイルを作成して、[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログに戻ります。

キャンセル :

カーネルパラメタ変更情報の通知ファイルを作成しないで、[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログに戻ります。

ヘルプ (H) :

[カーネルパラメタ設定] ダイアログのヘルプを表示します。

## 付録 E.4 作成ファイルの AIX サーバへの適用

Groupmax サーバ環境設定ユーティリティで作成した定義ファイルを AIX サーバに適用する場合の手順を説明します。

ファイルを AIX サーバに適用する場合、「システム環境への登録」機能は利用できません。作成したファイルを ftp コマンドにより AIX サーバに転送する必要があります。

### (a) 実行手順

次の手順で xodbinit コマンドを実行してください。

1. AIX 用として作成した ¥ESET¥usr¥ (パラメタ名称) 下の初期設定パラメタファイル (esetinit.txt) 又は再構成パラメタファイル (esetrec.txt) 及びシステム共通定義ファイル (esetrc.txt) を ftp で他のサーバに転送する。  
High-end Object Server を使用する場合は、更に、ステータスサービス定義ファイル (esetsts.jnl.txt)、システムジャーナルサービス定義ファイル (esetjnl.txt)、システムファイル作成用バッチファイル (DBSINT.BAT) も転送する。
2. 転送先のサーバにログインする。
3. データベースの初期化をする場合は、システム共通定義ファイルを、\$XODDIR/conf/xodrc として格納する。
4. esetknl.txt の内容を参考にして、OS の sam コマンドを使ってカーネルパラメタ値を変更する。  
カーネルパラメタ値の変更方法は「(b) カーネルパラメタ値の変更」を参照してください。
5. オブジェクトサーバの xodbinit コマンドを実行する。  
実行時に、転送されてきた初期設定パラメタファイルの名称を指定します。  
High-end Object Server を使用する場合は、初期設定時、システムファイル作成用バッチファイルを起動してください。その後、ステータスサービス定義ファイルを \$XODDIR/conf/sts、システムジャーナルサービス定義ファイルを \$XODDIR/conf/sysjnl としてそれぞれ格納します。

### (b) カーネルパラメタ値の変更

AIX では、xodbinit コマンドを実行する前に、カーネルパラメタ値を変更する必

## 付録 E Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによる環境設定 (AIX を御利用の場合)

必要があります。変更には、`chuser` コマンド及び `chdev` コマンドを使ってください。また、このユーティリティで作成したカーネルパラメタの変更情報の通知ファイルに記載されたパラメタごとの指定方法に従ってください。

次に、パラメタごとの指定方法を説明します。

- `nfile`, `nflocks`, `ninode`, `maxuprc`, `nproc`, `semmnu`, `msgmni`, `msgtql`, `shmmni`, `semmns`, `semmni`, `msgmax`, `msgmnb`, `msgseg`, `msgssz` パラメタ  
カーネルパラメタの変更情報の通知ファイルに記載された値は、Groupmax を運用するために必要となる値です。初期設定パラメタ、構成変更パラメタを作成した場合は、現在設定されている値に、通知ファイルの値を加算した値を設定してください。再構成を行った場合は、Groupmax として今までに加算した値より増えた分だけを加算してください。ただし、既に、Groupmax を含むシステム環境を運用するために十分な値が設定されていれば、変更する必要はありません。また、システムの上限值を超えない範囲で値を加算してください。
- `shmmmax`, `maxdsize` パラメタ  
現在設定されている値とカーネルパラメタの変更情報の通知ファイルに記載された値を比較して、大きい方の値を設定してください。
- `nofiles`, `data_hard`, `maxuproc` パラメタ  
AIX 版でのみ使用できます。

## 付録 F 障害予防

オブジェクトサーバを運用していく上で注意する必要がある項目について説明します。また、障害が発生したときに備えて必要な作業について説明します。

### 付録 F.1 バックアップの取得による障害予防

障害の発生に備えてバックアップを取得します。バックアップの取得方法とバックアップからの回復方法については、「4.4 データベースのバックアップの取得」、「4.5 データベースの回復」を参照してください。

#### (1) バックアップを取得する時点

オブジェクトサーバの運用時には、障害の発生に備えて次の時点でバックアップを取得するようにしてください。

##### 定期的な取得

ファイル障害などに備えて、バックアップは定期的に取得するようにしてください。

##### データベースを構成変更及び再編成するコマンドの実行前

データベースを構成変更又は再編成したときに障害が発生した場合に備えて、バックアップを取得します。次に示すコマンドを実行する前には、すべてのファイルのバックアップを取得してください。

- xodaradd コマンド
- xodarrm コマンド
- xodfladd コマンド
- xodbrcons コマンド
- xodbreog コマンド

##### データベースを構成変更及び再編成するコマンドの実行後

次に示すコマンドが正常終了した時に、すべてのファイルのバックアップを取得してください。なお、このバックアップは、安全のためにコマンド実行前に取得したバックアップとは別に保存してください。

- xodaradd コマンド
- xodarrm コマンド
- xodfladd コマンド
- xodbrcons コマンド
- xodbreog コマンド

##### システムを移行するとき

##### システムをバージョンアップするとき

#### (2) バックアップの運用時の注意事項

バックアップを取得するとき、及びバックアップからデータベースを回復するときには注意することについて説明します。

##### バックアップを取得するとき

- 連携プログラムはすべて停止してください。
- オブジェクトサーバを正常終了させてください。オブジェクトサーバが既に停止していて前回の停止時の状態が分からない場合は、一度オブジェクトサーバを起動させてから、正常終了してください。
- バックアップの取得もれがないようにしてください。特に、データベースにエリアを追加した場合、及びファイルを追加した場合は注意してください。

バックアップから回復するとき

- バックアップからデータベースを回復するときには、使用するバックアップファイルが、どの時点のバックアップファイルかを確認してください。確認には、バックアップを取得した時に記録したシステムの状態や保管したファイル、及びログ情報などを参照してください。
- データベースの回復中にエラーが発生した場合は、回復中のデータベースは壊れています。この場合は、エラーの原因に対処した後で、回復をはじめから実行し直してください。

**(3) バックアップ対象ファイル一覧**

バックアップを取得するとき、対象となるファイル一覧を表 F-1 に示します。

表 F-1 バックアップ対象ファイル一覧

| プログラム                  | 対象データ (ファイル種別)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | ファイル                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Object Server          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. システム共通定義ファイル (xodrc)</li> <li>2. データベースファイル</li> <li>3. 初期設定, 構成変更パラメタファイル</li> <li>4. ユティリティ実行結果ファイル (xodresult)</li> <li>5. 環境設定ユティリティファイル</li> <li>6. ユーザジャーナル</li> </ol> <p>注)4. はシステム運用上必須ではないがシステム保守履歴情報として移行後も保持することが望ましい。5. は HI-UX/WE2 及び HP-UX 環境で環境設定ユティリティを使用してパラメタファイルを作成した場合のみ<br/>パラメタファイルは, 必要な場合にバックアップして下さい。パラメタファイルが不明な時は, xodarls コマンドで DB 情報を確認できます。</p>                                                                                                                                      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. \$XODDIR/conf/xodrc</li> <li>2. 「4.4 データベースのバックアップの取得」を参照してください。</li> <li>3. データベースの初期化及び構成変更時に指定したパラメタファイル</li> <li>4. \$XODDIR/xodresult</li> <li>5. gset コマンド実行時に出力されたファイル</li> <li>6. ユーザジャーナル</li> </ol>                                                                                                                                           |
| High-end Object Server | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. システム共通定義ファイル (xodrc)</li> <li>2. データベースファイル</li> <li>3. 初期設定, 構成変更パラメタファイル</li> <li>4. ユティリティ実行結果ファイル (xodresult)</li> <li>5. ステータスサービス定義ファイル</li> <li>6. システムジャーナル定義ファイル</li> <li>7. ステータスファイル</li> <li>8. システムジャーナルファイル</li> <li>9. 環境設定ユティリティファイル</li> <li>10. ユーザジャーナル</li> </ol> <p>注)4. はシステム運用上必須ではないがシステム保守履歴情報として移行後も保持することが望ましい。5. ~ 8. は移行後, 再作成する場合は不要<br/>9. は HI-UX/WE2 及び HP-UX 環境で環境設定ユティリティを使用してパラメタファイルを作成した場合のみ<br/>パラメタファイルは, 必要な場合にバックアップして下さい。パラメタファイルが不明な時は, xodarls コマンドで DB 情報を確認できます</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. \$XODDIR/conf/xodrc</li> <li>2. 「4.4 データベースのバックアップの取得」を参照してください。</li> <li>3. データベースの初期化及び構成変更時に指定したパラメタファイル</li> <li>4. \$XODDIR/xodresult</li> <li>5. \$XODDIR/conf/sts</li> <li>6. \$XODDIR/conf/sysjnl</li> <li>7. ステータスサービス定義ファイルで指定したファイル</li> <li>8. システムジャーナル定義ファイルで指定したファイル</li> <li>9. gset コマンド実行時に出力されたファイル</li> <li>10. ユーザジャーナル</li> </ol> |

## 付録 F.2 データベースの運用時の障害予防

データベースの運用中に注意することについて説明します。

### (1) システム環境を設定及び変更するとき

ディスク容量の確認

データベースを運用中に発生するファイルの増分を考慮してください。初期設定パラメタの file パラメタで -m オペランド（ファイルの最大割り当て量）の指定を省略している場合は、ファイルは最大 2G バイトまで増分します。増分に十分なファイルシステムを用意するか又はファイルの最大割り当て量を設定してください。

ファイルの変更時の注意

オブジェクトサーバの起動中に、次のファイルは変更しないでください。

- 通信設定ファイル (/etc/services)
- システム共通定義

誤ってオブジェクトサーバの起動中にシステム共通定義を変更してしまった場合は、システム共通定義を元に戻して、オブジェクトサーバを停止してください。その後、システム共通定義を変更してオブジェクトサーバを起動してください。

また、オブジェクトサーバの使用する共用メモリを増やすためにシステム共通定義ファイルの static\_shmpool\_size 又は dynamic\_shmpool\_size を大きく変更する場合は、カーネルパラメタ shmmax 値を増やしてからサイズを変更後、xodstart コマンドを実行してください。

## (2) データベースファイルを削除するとき

オブジェクトサーバのデータベースファイルは、xodarrm コマンドを使用して削除してください。

なお、xodarrm コマンドで削除できるエリアの種別については、「8.3 データベース管理コマンド」を参照してください。

## (3) データベースを再編成するとき

作業領域の確認

再編成を実行するときは、再編成パラメタファイルの -w オペランドで指定した作業領域を使用します。-w オペランドの指定を省略した場合は、AIX の場合は /tmp，HI-UX/WE2 の場合は /usr/tmp，HP-UX の場合は /var/tmp が仮定されます。

再編成によってデータベースの不整合が発生した場合の対処

xodbreog コマンドを実行したときに、メッセージ KFXO56035-E が出力されてユティリティが異常終了した場合は、データベースファイルが不整合になっている可能性があります。この場合は、連携プログラムとオブジェクトサーバを停止して、データベースをバックアップから回復してください。

## (4) データベース満杯状態の回避

データベース運用中にデータベースが満杯状態になるのを防ぐための方法について説明します。データベースの使用状況は、xodbuse コマンドによって確認できます。コマンドについては、「8.8 データベース診断コマンド」を参照してください。なお、メッセージとして KFXO41012-I，KFXO41053-I，KFXO41055-I が出力されている場合についても、データベースの容量が満杯に近付いている可能性がありますので、同様にデータベースの使用状況の表示で使用状況を確認し必要に応じて対



処を行ってください。出力した使用状況の見方については、「4.3.2 データベースエリアの使用状況表示」を参照してください。これによって、データベースが満杯状態に近づいていることを確認した場合は、次に示す方法で対処してください。

- データベースのエリアを拡張する
- 不要なオブジェクトを削除する

また、メッセージ KFXO40401-E 及び KFXOE40402-E が出力された場合も、オブジェクトサーバのデータベースエリアの容量が不足していますので、対処が必要です。

#### (a) データベースのエリアを拡張する

データベースエリアを拡張する方法について説明します。

Groupmax Address/Mail Server, Groupmax Document Manager 及び Groupmax Workflow Server でのユーザ数の増加や業務の適用範囲の拡張など、環境の変更に伴ってエリアを拡張する必要がある場合も、次の方法で実行してください。

##### エリアの拡張方法の検討

エリアを拡張するには、`xodflalt` コマンドでファイルの属性（最大割り当て量）を変更する方法、`xodfladd` コマンドでファイルを追加する方法、及び `xodbrcons` コマンドを使用してエリアを再作成する方法があります。

- `xodflalt` コマンドでファイルの属性（最大割り当て量）を変更する方法（データベースのファイルの属性変更）

次のような場合、この方法を利用してください。

- 「最大割り当て量」の指定があるファイルで、データベースが満杯状態になった場合又は満杯状態に近づいている場合に、至急エリアを拡張したいとき

- `xodfladd` コマンドでファイルを追加する（データベースのファイルの追加）
- 次のような場合、この方法を利用してください。

- ファイルがあるパーティションに十分な空き領域がなく、別のパーティションにファイルを追加したいとき

- `xodbrcons` コマンドでエリアを再作成する（データベースのエリアの再作成）
- 次のような場合、この方法を利用してください。

- ユーザ追加などによって、エリアを再構成する場合
- サーバの統合などによって、サーバの再構築時にエリアを再構成する場合
- 一時的にデータベースのファイルの属性変更やデータベースへのファイルの追加でエリアの拡張をしてきた後で、エリアを再構成する場合
- データベースのファイルの属性変更及びデータベースへのファイルの追加では対処できない場合

データベースのエリアを再作成することによって、エリアのセグメントサイズ、エリアを構成するファイル、ファイルの初期割り当て量及びファイルの最大割り当て量を変更できます。

##### 事前準備

エリアを拡張するために、まず、「最大割り当て量」の変更が必要かどうかを検証します。

なお、これは「最大割り当て量」を指定しているファイルのエリアを拡張する

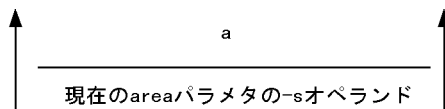
場合だけ行ってください。また、インデクス用エリア及び OID インデクス用エリアの場合は、検証する必要はありません。  
検証方法について次に示します。

[ エリアのファイルの「最大割り当て量」の変更を検証する式 ]

$$a = \begin{array}{l} \text{再見積もり後の} \\ \text{areaパラメタの-sオペランド} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{再見積もり後の} \\ \text{fileパラメタの-mオペランド} \end{array}$$

$$b = \begin{array}{l} \text{現在の} \\ \text{areaパラメタの-sオペランド} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{現在の} \\ \text{fileパラメタの-mオペランド} \end{array} \quad *1 \quad *2$$

- 上記の式が「 $a > b$ 」の時、file パラメタの -m オペランド（最大割り当て量）の変更が必要です。  
変更後の -m オペランドの値には、次の値を指定してください。



この値は、a 式の「再見積もり後の file パラメタの -m オペランド」に代入してください。

- 上記の式が「 $a > b$ 」でない場合でも、そのデータベースのファイルが満杯になっている場合は、file パラメタの -m オペランド（最大割り当て量）の変更が必要です。

この場合、a 式の値の見積もり誤りが考えられます。「現在の file パラメタの -m オペランド」に適当な安全係数（1.2 倍など）を掛けた値を、変更後の -m オペランドの値としてください。この値は、a 式の「再見積もり後の file パラメタの -m オペランド」に代入してください。

なお、次の手順により a 式と b 式を簡単に求めることもできます。

[ a 式の求め方 ]

a 式への代入値は、次の方法で求めることができます。

1. Groupmax サーバ環境設定コマンド（gseset コマンド）で、再見積もり後のシステム構成情報を指定した入力ファイルを指定して、構成変更パラメタファイルを作成します。  
Groupmax サーバ環境設定コマンドについては、「付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定」を参照してください。  
出力先ディレクトリに構成変更パラメタファイル（esetcons）、カーネルパラメタの見積もり値を格納したファイル（esetknl）及びシステム共通定義ファイル（esetrc）が作成されます。
2. 出力されたパラメタを参照して、「セグメントサイズ」及び「最大割り当て量」を、a 式に代入してください。

[ b 式の求め方 ]

b 式への代入値は、次の方法で求めることができます。

- Object Server 02-31 以降又は High-end Object Server 02-31 以降のシ

システムを運用している場合

xodarls コマンドを実行して、表示結果から確認してください。表示結果の「セグメントサイズ」「最大割り当て量」を、b 式に代入してください。

- Object Server 02-30 以前又は High-end Object Server 02-30 以前のシステムを運用している場合

次のコマンドの処理結果として出力されるリストの表示内容から確認してください。

- xodbinit コマンド
- xodaradd コマンド
- xodfladd コマンド
- xodflalt コマンド

現在の「セグメントサイズ」及び「最大割り当て量」<sup>1</sup>を b 式に代入してください。

- Object Server 02-30 以前又は High-end Object Server 02-30 以前のシステムを運用している場合で、かつ、上記のコマンド (xodbinit コマンド、xodaradd コマンド、xodfladd コマンド又は xodflalt コマンド) の処理結果リストがない場合

次のコマンドを実行したときに使用したパラメタファイルの内容から確認してください。

- xodbinit コマンドを実行した時の初期設定パラメタファイル
- xodaradd コマンドを実行した時の構成変更パラメタファイル
- xodfladd コマンドを実行した時の構成変更パラメタファイル

これらのパラメタファイルに指定した「セグメントサイズ」及び「最大割り当て量」<sup>2</sup>を b 式に代入してください。

注 1 当該エリアを初期化した時に指定したファイルの「最大割り当て量」は、指定した値よりも大きな値に補正されている場合があります。その場合、現在のセグメント数は当該エリアを初期化した時に指定したファイルの「最大割り当て量」よりも大きくなっている場合があります。補正のされ方については、「7.5.2 初期設定パラメタの項目」の「(2) file パラメタ」の -m オペランドの説明を参照してください。

注 2 当該エリアを初期化した時に指定したファイルの「最大割り当て量」は、指定した値よりも大きな値に補正されている場合があります。その場合、現在のセグメント数は当該エリアを初期化した時に指定したファイルの「最大割り当て量」よりも大きくなっている場合があります。「最大割り当て量」が補正されている場合は、補正後の「最大割り当て量」を b 式に代入してください。

補正のされ方については、「7.5.2 初期設定パラメタの項目」の「(2) file パラメタ」の -m オペランドの説明を参照してください。

エリア拡張前の確認

エリアを拡張する前に、次のことを確認してください。

- 構成変更パラメタファイルの file パラメタの -f オプションに指定するファイ

ル名称に、空白を含んでいないこと。

データベースのファイル名称には空白を含まないようにしてください。

- データベースへのファイルの追加 (xodfladd コマンド) を実行する場合は、ファイルを追加するための十分な空き領域が確保されていること。空き領域がない場合は、不要なファイルを削除するか、領域を作成してください。
- データベースのエリアの再作成 (xodbrcons コマンド) を実行する場合は、エリアを再作成するための十分な空き領域が確保されていること。空き領域がない場合は、不要なファイルを削除するか、領域を作成してください。
- OID インデクス用エリア及びインデクス用エリアの file パラメタの -m オペランドは指定してしないこと。指定している場合、-m オプションは無効にしてください。

#### エリアを拡張する手順

エリアは次の手順で拡張します。

1. オブジェクトサーバのシステム管理者のユーザ ID でログインする
2. オブジェクトサーバを正常停止する。既にオブジェクトサーバが停止していて、前回の停止状態が不明な場合は、いったんオブジェクトサーバを起動して、正常停止する
3. オブジェクトサーバのデータベースファイルのバックアップを取得する  
構成変更が失敗した場合に備えます。なお、以降の手順で xodflalt コマンドだけを実行する場合は、データベースファイルのバックアップの取得は省略してもかまいません。
4. オブジェクトサーバをユティリティ実行モードで起動する  
「xodstart -u」を実行します。
5. ファイルを追加する場合は、xodfladd コマンドを実行する  
「xodfladd -f 構成変更パラメタファイル」を実行します。
6. ファイルの最大割り当て量を変更してファイルを拡張する場合は、xodflalt コマンドを実行する  
「xodflalt -n エリア名 -f ファイル名 -m 変更後の最大割り当て量」を実行します。
7. エリアを再作成する場合は、xodbrcons コマンドを実行する  
「xodbrcons -f 再構成パラメタファイル」を実行します。
8. インデクス用エリア及び OID インデクス用エリアの file パラメタに -m オペランドを指定していた場合は、xodflalt コマンドを実行して、-m の指定値を無効にする  
「xodflalt -n エリア名 -f ファイル名 -m 0」を実行します。
9. xodbreog コマンドを実行して、データベースを再編成する  
なお、この後も定期的にデータベース再編成は実行するようにしてください。
10. オブジェクトサーバを正常停止する
11. オブジェクトサーバのデータベースのファイルのバックアップを取得する

エラー発生時の対処

エリアの拡張時にエラーが発生した場合は、次のように対処してください。

- データベースのエリアの再作成 (xodbrcons コマンド) 又はデータベースへのファイルの追加 (xodfladd コマンド) 実行中にエラーが発生した場合
  1. オブジェクトサーバを停止する
  2. xodbrcons コマンド又は xodfladd コマンドで作成中のデータベースのファイルが残っている場合は削除する
  3. バックアップからリストアする
  4. エラーの要因を取り除いて、「エリアを拡張する手順」の手順 4. から再度実行する
- データベースのファイルの属性変更 (xodflalt コマンド) の実行中にエラーが発生した場合  
エラーの要因を取り除いて、xodflalt コマンドを再度実行してください。

#### (b) 不要なオブジェクトを削除する

データベースの満杯状態が近づいてエリアのページ不足が発生した場合に、不要なオブジェクトを削除して空きページを作成する方法について説明します。

Groupmax Mail の自動削除デーモンの起動

データベースが満杯に近づいているエリアが Groupmax Address/Mail Server で使用しているエリアの場合は、Groupmax Mail Server の自動削除デーモンを起動して、不要なオブジェクトを削除できます。ただし、この場合、エリアからユーザのメールを削除することになるので、計画的な運用をしてください。

Groupmax Mail Server の自動削除デーモンについては、「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。

また、自動削除デーモンを使用した運用をする場合は、定期的に [ データベースの再編成 ] コマンドを実行してデータベースを再編成することをお勧めします。不要なオブジェクトを削除して空きページを作った後でデータベースの再編成を実行すると、まとまった空き領域を確保できます。xodbreog コマンドについては、「8.4 データベースの保守コマンド」を参照してください。

### 付録 F.3 システム移行時の障害予防

システムを移行するときに注意することについて説明します。また、Object Server から High-end Object Server にシステムを移行する方法について説明します。

#### (1) システム移行時の注意

システムを移行するときに注意することについて説明します。

移行先環境の確認

移行先のサーバ環境の仮想メモリやディスク容量を確認して、必要に応じてスワップ領域やディスク空き領域を確保してください。

データベースの互換性の確認

Object Server と High-end Object Server で作成したデータベースには、次のよ

うな互換性があります。

- Object Server で作成したデータベースは High-end Object Server で使用できません。
- High-end Object Server で作成したデータベースは、Object Server では使用できません。

また、Object Server で作成したデータベースを High-end Object Server で更新した場合は、Object Server で使用できなくなります。

したがって、Object Server から High-end Object Server に移行する場合は、データベースのバックアップをあらかじめ取得しておき、Object Server に戻す場合は、データベースもバックアップから回復するようにしてください。

- 移行元の Object Server のバージョン・レビジョン以降の High-end Object Server に移行できます。

Object Server から High-end Object Server に移行する場合、移行元の Object Server と移行先の High-end Object Server のバージョン・レビジョンが同じか、又は移行元よりも移行先の High-end Object Server のバージョン・レビジョンが新しい必要があります。

例えば、次のような場合は移行できます。

[ 移行できる例 ]

Object Server 06-00 を High-end Object Server 06-00 に移行する

Object Server 03-00 を High-end Object Server 03-10 に移行する

Object Server 03-10 を High-end Object Server 06-00 に移行する

また、次のような場合は移行できません。

[ 移行できない例 ]

Object Server 03-10 を High-end Object Server 03-00 に移行する

Object Server 06-00 を High-end Object Server 03-10 に移行する

## (2) システムの移行手順

Object Server から High-end Object Server にシステムを移行する手順について説明します。

システムを移行する手順

1. Object Server のシステム管理者でログオンする
2. 連携プログラム（Groupmax のプログラム）が稼働中であれば、すべて正常終了する
3. Object Server を正常停止する

既に Object Server が停止状態であり、前回の停止状態が不明な場合は、いったん Object Server を起動して、正常停止してください。

4. Object Server のデータベースのバックアップを取得する

Object Server のすべてのデータベースファイルと連携プログラムが使用するファイルのバックアップを同時に取得してください。バックアップは次のどちらかの方法で取得できます。

- OS の機能を使用してバックアップを取得する
- Object Server の xodbckup コマンドを使用して取得する（02-31 以降の

バージョンの Object Server の場合)

データベースのバックアップについては、「4.4 データベースのバックアップの取得」及び「8.4 データベースの保守コマンド」を参照してください。

5. コマンド「xodsetup -d」を実行する  
「指定した OMS ディレクトリの下を削除しますか？」の旨の応答に、「y」と応答してください。
6. Object Server をアンインストールする
7. High-end Object Server をインストールする
8. xodsetup コマンドを実行して、High-end Object Server を OS に登録する  
なお、Object Server のホームディレクトリを High-end Object Server でもそのまま使用できますが、変更する場合は、XODDIR 環境変数、XODCONFPATH 環境変数を変更してください。
9. High-end Object Server の環境設定及びシステム管理者の登録をする
  - システム管理者を変更しない場合は、移行前のシステム管理者の情報をそのまま使用できます。
  - 通信設定に変更がない場合は、移行前の設定をそのまま使用できます。
  - システム共通定義（\$XODDIR/conf/xodrc）の設定は、見積もり直して変更する必要がある場合があります。設定内容の詳細については、「7.2 システム共通定義ファイル」を参照してください。
10. システムファイルを作成する  
次のファイルを作成します。
  - ステータスサービス定義ファイル  
作成方法については「7.3 ステータスサービス定義ファイル（High-end Object Server）」を参照してください。
  - ステータスファイル
  - システムジャーナルサービス定義ファイル  
作成方法については「7.4 システムジャーナルサービス定義ファイル（High-end Object Server）」を参照してください。
  - システムジャーナルファイル
11. High-end Object Server を起動する

## 付録 F.4 バージョンアップ時の障害予防

システムをバージョンアップするときに注意することについて説明します。

システムの停止の確認

バージョンアップするシステムがすべて正常に停止していることを確認してください。既にオブジェクトサーバが停止していて、前回の停止状態が分からない場合は、一度オブジェクトサーバを起動してから正常終了してください。

バージョンアップ前のバックアップの取得

システムの停止後、システム全体のバックアップを取得してください。

データベースの互換性の確認

Bibliotheca/OM で作成したデータベースは、Groupmax High-end Object

Server で使用できません。Object Server で作成したデータベースは、Groupmax High-end Object Server で使用できます。High-end Object Server で作成したデータベースは、Object Server、Bibliotheca/OM では使用できません。

オブジェクトサーバの OS からの削除

システムの停止後、コマンド `xodsetup -d` を必ず実行してください。

「指定した OMS ホームディレクトリの下を削除しますか？」の旨の応答には、「y」を応答してください。

連携プログラムのバージョンアップ

連携プログラムのバージョンアップは、各プログラムごとでの手順に従ってください。

バージョンアップに伴ってエリアが追加される場合は、追加したエリアの数分システム共通定義の静的共用メモリの総数が増加します。この場合はシステム共通定義ファイルの `static_shmpool_size` の値を増やしてください。

## 付録 F.5 ジャーナルファイル容量不足の対処

High-end Object Server は、全面回復時に回復用ジャーナルを出力することがあります。そのため、ジャーナルファイルが満杯になってシステムダウンした直後にそのまま起動すると、再びジャーナルファイルが満杯となってシステムダウンする場合があります。ここでは、不足したジャーナルファイルの容量を拡張するときにご注意することについて説明します。

### (1) 要因

ジャーナルファイルが容量不足になる要因は次のとおりです。

ジャーナル容量見積もりが少なすぎた場合

sysjnl に `jnl_unload_check = Y` を指定しているのに、使用済みジャーナルファイルをアンロードしていない場合

以前に High-end Object Server がシステムダウンした後、強制正常開始したときに、以前に使用していたジャーナルファイルのアンロード又は初期化を行っていない場合

sysjnl に `jnl_unload_check = N` を指定していてもアンロードしないと再使用しないため、必ずすべてのジャーナルをアンロードする必要があります。

ディスク障害などで、ジャーナルファイルが使用できなくなった場合

OMS 識別子（システム共通定義ファイルに定義する `system_id`）を変更した後、ジャーナルファイルの初期化を行わないでそのまま使用した場合

### (2) 対処方法

通常は障害要因を調査し、使用可能なジャーナルファイルを作成すると再起動できます。ただし、調査に時間がかかることが予想される場合は、次に示す事前準備及び対策を行い、システムダウン時間を短縮してください。



**(a) 事前準備**

ファイル容量不足によって追加ジャーナルが作成できないことを予測して、予備のジャーナルファイルをあらかじめ作成しておいてください。

**(b) システムダウン時の対処**

予備のジャーナルファイルをシステムジャーナルサービス定義 (sysjnl) に追加して再起動してください。

**(c) ジャーナルファイルを追加して再起動した後の対処**

次に示す方法のうち、どれかを選択して対処してください。

- ジャーナルファイルを追加したまま業務を続行し、別の予備のジャーナルファイルを用意してください。ただし、並行してジャーナルファイル容量を再度見積もり直し、業務をやめるタイミングでジャーナルファイルを追加、又はファイル容量を拡張してください。
- High-end Object Server を正常終了させ、データベースのバックアップを取り直してください。その後、ジャーナルファイルを作り直してサーバを起動し、業務を続行してください。使用できないジャーナルファイルが残っており、他に対処が分からない場合はこの対処を実施してください。

**(3) 運用時の注意**

ジャーナルファイルはデータベースの更新履歴を蓄積するファイルであり、データベースの障害が発生した場合の回復に必要な情報が出力されています。システムダウンした後にサーバを再起動したり、データベースを回復する前にジャーナルファイルを削除又は再初期化しないでください。

回復に必要な情報を含むジャーナルファイルが消去されるとデータベースを回復できなくなります。High-end Object Server を正常停止させた後にジャーナルファイルを削除又は再初期化してください。

**付録 F.6 HP-UX 版オブジェクトサーバを御利用の場合**

オブジェクトサーバでは、HP-UX 10.20 からサポートされたラージユーザ ID 及びラージグループ ID を使用できません。オブジェクトサーバで処理できるユーザ ID 及びグループ ID の最大値は 59999 です。誤ってラージユーザ ID 及びラージグループ ID を使用すると、オブジェクトサーバは所有者及びグループのアクセス権限のチェック処理中に異常終了する場合があります。

なお、オブジェクトサーバのシステム管理者のユーザ ID 及びグループ ID として、60000 以上の ID を使用しなければ、動作に問題はありません。

## 付録 G クラスタリング機能を使用した運用（HP-UX を御利用の場合）

HP-UX でオブジェクトサーバを御利用の場合、HP-UX が提供する MC/ServiceGuard の機能を使用して、クラスタリングシステムで運用できます。ここでは、オブジェクトサーバをクラスタリングシステムで運用する方法について説明します。

### 付録 G.1 MC/ServiceGuard のクラスタリング機能

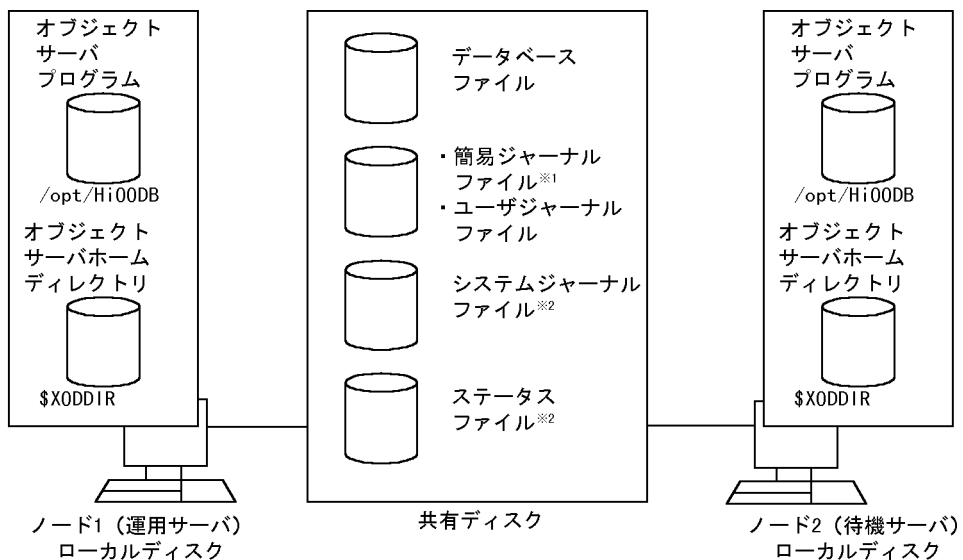
オブジェクトサーバは、MC/ServiceGuard を使用してクラスタリングシステムで運用することができます。オブジェクトサーバのデータベースやジャーナルファイルを共有ディスクで管理することによって、可用性と信頼性を向上できます。

オブジェクトサーバが対応する機能は次のとおりです。

- 同じパッケージがアクティブとなるノードは一つだけです。待機サーバはフェールオーバーするまで動作しません。
- ノード障害、ネットワーク障害、ハードディスク障害などのシステム障害時にフェールオーバーします。
- オブジェクトサーバの稼働状態を監視することによって、オブジェクトサーバの障害によってフェールオーバーします。

図 G-1 に、MC/ServiceGuard を使用して、オブジェクトサーバをクラスタリングシステムで構成した例を示します。

図 G-1 MC/ServiceGuard を使用したクラスタリングシステム構成例



注※1 Object Serverを御使用の場合に使用します。

注※2 High-end Object Serverを御使用の場合に使用します。

## 付録 G.2 クラスタリングシステムを使用する場合の環境設定

ここでは、クラスタリングシステムを使用する場合のオブジェクトサーバの環境設定について説明します。

環境設定は、次の流れで実行します。

1. ディレクトリ及びファイルの配置を決定する
2. オブジェクトサーバをインストールする
3. オブジェクトサーバを OS に登録する
4. オブジェクトサーバの定義ファイルを作成する
5. データベースを初期化する
6. システムジャーナルファイル及びステータスファイルを作成する（High-end Object Server）

### (1) ディレクトリ及びファイルの配置の決定

クラスタリングシステムでは、オブジェクトサーバが使用するディレクトリ及びファイルを、それぞれのノードのローカルディスク又は共有ディスクに格納します。

なお、オブジェクトサーバでは、クラスタリングシステムによる信頼性を向上させるために、共有ディスクに格納するファイルを種類ごとに複数の物理ボリュームに分散して格納することをお勧めします。High-end Object Server を御使用の場合は、システムジャーナルファイル及びステータスファイルをそれぞれ 群、群に分けて、別ボリュームに格納することで、より信頼性が向上します。群、群に分ける方法については、「(4) オブジェクトサーバの定義ファイルの作成」を参照してください。

オブジェクトサーバが使用するディレクトリ及びファイルを格納するディスクについて、表 G-1 に示します。

表 G-1 オブジェクトサーバのディレクトリ及びファイルの格納ディスク

| ディレクトリ名又はファイル名                            | 配置するディスク        |                 |
|-------------------------------------------|-----------------|-----------------|
| オブジェクトサーバのインストールディレクトリ                    | ローカルディスク        |                 |
| オブジェクトサーバのホームディレクトリ                       | ローカルディスク        |                 |
| データベース                                    | 共有ディスク（ボリューム 1） |                 |
| 簡易ジャーナルファイル（Object Server）                | 共有ディスク（ボリューム 1） |                 |
| ユーザジャーナルファイル                              | 共有ディスク（ボリューム 1） |                 |
| システムジャーナルファイル<br>（High-end Object Server） | 群               | 共有ディスク（ボリューム 2） |
|                                           | 群               | 共有ディスク（ボリューム 3） |
| ステータスファイル<br>（High-end Object Server）     | 群               | 共有ディスク（ボリューム 2） |
|                                           | 群               | 共有ディスク（ボリューム 3） |

注 1 各ノードから、それぞれのディレクトリ及びファイルの絶対パスは、同じになるように設定してください。

注 2 共有ディスクに格納するディレクトリ又はファイルは、( ) 内に記述したボリューム番号が同じファイルを同じ物理ボリュームに、ボリューム番号が異なるファイルは異なる物理ボリュームに格納することをお勧めします。

## (2) オブジェクトサーバのインストール

オブジェクトサーバは、それぞれのノードのローカルディスクにインストールしてください。なお、MC/ServiceGuard を構成するサーバに Object Server と High-end Object Server は混在できません。また、各ノードにインストールするオブジェクトサーバは、完全に同一のバージョン・リビジョン番号のプログラムを使用してください。

## (3) オブジェクトサーバの OS への登録

インストールしたそれぞれのノードで、ローカルディスクにオブジェクトサーバのホームディレクトリを作成してください。オブジェクトサーバの OS への登録については、「8.2 システム管理コマンド」の xodsetup コマンドを参照してください。

それぞれのオブジェクトサーバのホームディレクトリの絶対パス名は、同じにしてください。また、所有者/グループは、次のように設定してください。

所有者：root

グループ：sys

## (4) オブジェクトサーバの定義ファイルの作成

オブジェクトサーバの定義ファイルとして、次のファイルを作成します。

Object Server の場合

- システム共通定義ファイル

High-end Object Server の場合

- システム共通定義ファイル
- ステータスサービス定義ファイル
- システムジャーナルサービス定義ファイル

これらのファイルは一つのノードの \$XODDIR/conf 下に作成して、それぞれのノードに複製してください。なお、それぞれのファイルの詳細な作成方法については、「7. オブジェクトサーバのファイル」を参照してください。

### (a) システム共通定義ファイルの作成

システム共通定義の ujfile パラメタで指定するユーザジャーナルを、共有ディレクトリ上に作成するように指定してください。

### (b) ステータスサービス定義ファイル及びシステムジャーナルサービス定義ファイルの作成（High-end Object Server）

ステータスファイル及びシステムジャーナルファイルは、共有ディレクトリ上に作成するように指定してください。

なお、信頼性を向上させるために、システムジャーナルファイル及びステータスファイルの出力先を、二つの物理ボリュームに分けて指定することをお勧めします。

システムジャーナルファイルの出力先を分ける記述例

システムジャーナルファイルは、ファイルグループごとに、定義の半分を群、定義の半分を群として、格納先を分けることをお勧めします。

システムジャーナルファイルの出力先を分けるための、システムジャーナルサービス定義ファイルの記述例を次に示します。

```

jnladdfg -g jnlfile1 ONL
jnladdpf -g jnlfile1 -a /OBJSVFILE1/XODFILEJNL/jnlfile1
jnladdfg -g jnlfile2 ONL
jnladdpf -g jnlfile2 -a /OBJSVFILE1/XODFILEJNL/jnlfile2
jnladdfg -g jnlfile3 ONL
jnladdpf -g jnlfile3 -a /OBJSVFILE1/XODFILEJNL/jnlfile3
jnladdfg -g jnlfile4 ONL
jnladdpf -g jnlfile4 -a /OBJSVFILE1/XODFILEJNL/jnlfile4
jnladdfg -g jnlfile5 ONL
jnladdpf -g jnlfile5 -a /OBJSVFILE2/XODFILEJNL/jnlfile5
jnladdfg -g jnlfile6 ONL
jnladdpf -g jnlfile6 -a /OBJSVFILE2/XODFILEJNL/jnlfile6
jnladdfg -g jnlfile7 ONL
jnladdpf -g jnlfile7 -a /OBJSVFILE2/XODFILEJNL/jnlfile7
jnladdfg -g jnlfile8 ONL
jnladdpf -g jnlfile8 -a /OBJSVFILE2/XODFILEJNL/jnlfile8

```

太字で記述しているファイルが 群，細字で記述しているファイルが 群になります。この例では，ファイルグループ jnlfile1 ~ jnlfile4 を 群，ファイルグループ jnlfile5 ~ jnlfile8 を 群として定義しています。

#### ステータスファイルの出力先を分ける記述例

ステータスファイルは，論理ファイルごとに 群， 群と分けるものと，一つの論理ファイル内の物理ファイルを 群， 群に分けるものを混在させることで，より信頼性を向上させることができます。例えば，stsfile1，stsfile2 及び stsfile3 という三つの論理ファイルを作成する場合，stsfile1 の A 系の物理ファイルと，stsfile2 の A 系及び B 系の物理ファイルを 群，stsfile1 の B 系の物理ファイルと，stsfile3 の A 系及び B 系の物理ファイルを 群とします。これによって，一つの物理ボリュームに障害が発生した場合にも，ステータスファイルに障害が発生しないようにできます。

ステータスファイルの出力先を分けるための，ステータスサービス定義ファイルの記述例を次に示します。

```

set sts_file_name_1 = "stsfile1",¥
"/OBJSVFILE1/XODFILESTS1/stsfile1A",¥
"/OBJSVFILE2/XODFILESTS2/stsfile1B"
set sts_file_name_2 = "stsfile2",¥
"/OBJSVFILE1/XODFILESTS1/stsfile2A",¥
"/OBJSVFILE1/XODFILESTS1/stsfile2B"
set sts_file_name_3 = "stsfile3",¥
"/OBJSVFILE2/XODFILESTS2/stsfile3A",¥
"/OBJSVFILE2/XODFILESTS2/stsfile3B"

```

太字で記述しているファイルが 群，細字で記述しているファイルが 群になります。この例では，論理ファイル stsfile1 の A 系のファイルと論理ファイル stsfile2 を 群，論理ファイル stsfile1 の B 系のファイルと論理ファイル stsfile3 を 群として定義しています。

#### (5) データベースの初期化

データベースのファイルは，すべて共有ディレクトリ上に作成します。

データベースの初期化には，xodbinit コマンドを実行します。このコマンドは，一つのノードだけで実行してください。ほかのノードでは実行しないでください。

## 付録 G クラスタリング機能を使用した運用 (HP-UX を御利用の場合)

xodbinit コマンドについては、「8.3 データベース管理コマンド」の xodbinit コマンドを参照してください。

### (6) システムジャーナルファイル及びステータスファイルの作成 (High-end Object Server)

システムジャーナルファイル及びステータスファイルは、すべて共有ディレクトリ上に作成します。

システムジャーナルファイルの初期設定には、xodjnlinit コマンドを実行します。このコマンドは、一つのノードだけで実行してください。ほかのノードでは実行しないでください。

また、ステータスファイルの初期設定には、xodstsinit コマンドを実行します。このコマンドは、一つのノードだけで実行してください。ほかのノードでは実行しないでください。

xodjnlinit コマンドについては、「8.10 システムジャーナルファイル管理コマンド (High-end Object Server)」の xodjnlinit コマンドを参照してください。

xodstsinit コマンドについては、「8.11 ステータスファイル管理コマンド (High-end Object Server)」の xodstsinit コマンドを参照してください。

## 付録 G.3 オブジェクトサーバ障害発生時のフェールオーバー機能

MC/ServiceGuard のクラスタリング機能を使用して、オブジェクトサーバに障害が発生した場合にフェールオーバーすることができます。このためには、MC/ServiceGuard に、オブジェクトサーバが起動している間、常駐しているプロセスが必要です。

これは、xodmonitor コマンドによって実行します。xodmonitor コマンドを実行すると、指定した時間間隔でオブジェクトサーバの稼働状態を監視するプロセスが MC/ServiceGuard に常駐します。このプロセスはオブジェクトサーバが停止するまで常駐しています。

xodmonitor コマンドについては、「8.14 クラスタリング機能用コマンド (HP-UX を御利用の場合)」の xodmonitor コマンドを参照してください。

## 付録 G.4 パッケージの登録

クラスタリング機能を使用するためには、Groupmax サーバシリーズを一つのパッケージとして登録しておく必要があります。ここでは、パッケージの登録方法について説明します。なお、以降、Groupmax サーバシリーズを登録したパッケージを、Groupmax パッケージと呼びます。

Object Server を御使用の場合のパッケージの構成例を図 G-2 に、High-end Object Server を御使用の場合のパッケージの構成例を図 G-3 に示します。

図 G-2 Object Server を御使用の場合のパッケージの構成例

サービスIPラベル : SVC1  
IPアドレス : 172.1.1.3

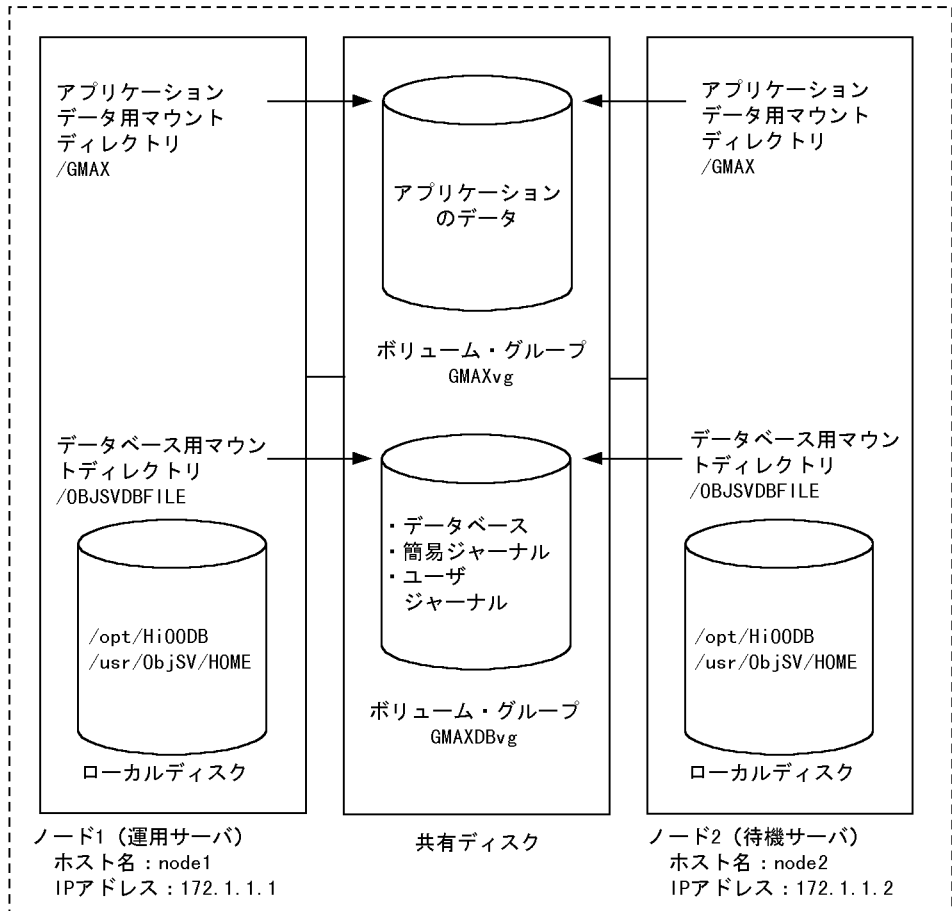
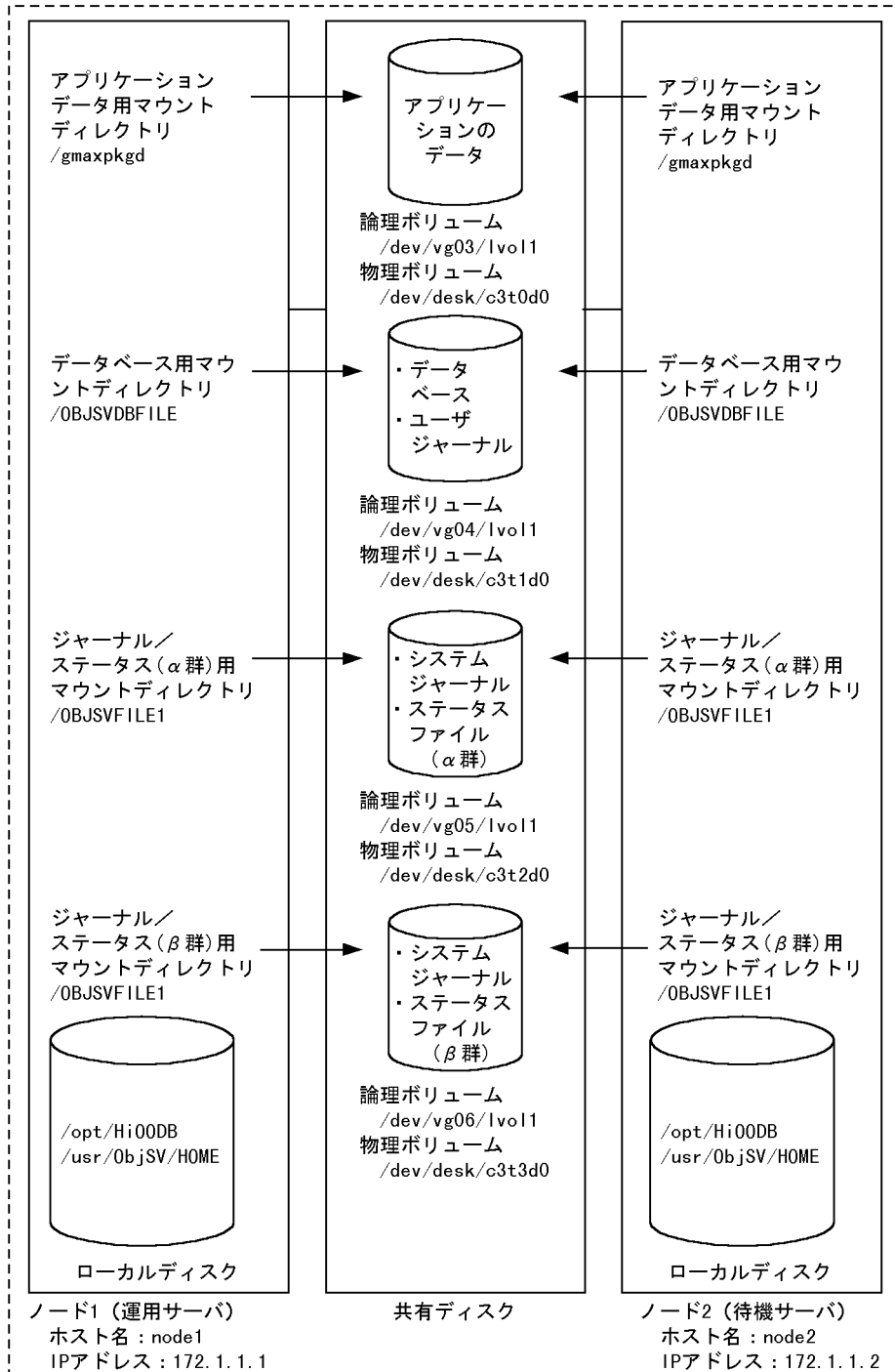


図 G-3 High-end Object Server を御使用の場合のパッケージの構成例

パッケージホスト名 : gmaxhost  
 パッケージIPアドレス : 172.1.1.3



パッケージは、次の手順で登録します。



1. クラスタ定義ファイルを設定する
2. パッケージ定義ファイルを作成する
3. パッケージ制御スクリプトを作成する

### (1) クラスタ定義ファイルの設定

Groupmax パッケージを追加するためには、クラスタ定義ファイルを設定する必要があります。なお、ここでは、必ず追加するパラメタについて説明します。

表 G-2 に、クラスタ定義ファイルに追加するパラメタを示します。

表 G-2 クラスタ定義ファイルに追加するパラメタ

| パラメタ                        | 説明                                                                   | 設定例                                              |
|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| MAX_CONFIGURE<br>D_PACKAGES | 最大パッケージ数を指定します。Groupmax パッケージの追加によって、最大パッケージ数を大きくする必要がある場合は変更してください。 | -                                                |
| VOLUME_GROUP                | Groupmax パッケージ用のボリューム・グループを追加してください。                                 | VOLUME_GROUP /dev/vg03<br>VOLUME_GROUP /dev/vg04 |
| FIRST_CLUSTER_L<br>OCK_VG   | 2 ノード構成の場合は必ず指定してください。                                               | FIRST_CLUSTER_LOCK_VG=/dev/vg03                  |

### (2) パッケージ定義ファイルの作成

Groupmax パッケージ用に、パッケージ定義ファイルを作成する必要があります。ここでは、Groupmax パッケージのパッケージ名称を gmaxpkg として、作成手順と指定例について説明します。

1. Groupmax パッケージ用のサブディレクトリを作成する

(例)

```
#mkdir /etc/cmcluster/gmaxpkg
#cd /etc/cmcluster/gmaxpkg
```

2. パッケージ定義ファイルのひな形を生成する

(例)

```
#cmmakepkg -p gmaxpkgconf.ascii
```

3. Groupmax パッケージ用パッケージ定義ファイルを編集する

エディタなどを使用して、パッケージ定義ファイルを編集、設定してください。

なお、ここでは、必ず設定するパラメタについて説明します。

表 G-3 に、Groupmax パッケージ用パッケージ定義ファイルに設定するパラメタを示します。

表 G-3 Groupmax パッケージ用パッケージ定義ファイルに追加するパラメタ

| パラメタ         | 説明             | 設定例                                   |
|--------------|----------------|---------------------------------------|
| PACKAGE_NAME | パッケージ名称        | gmaxpkg                               |
| NODE_NAME    | クラスタ環境のノード名の列挙 | node1<br>node2                        |
| RUN_SCRIPT   | 起動スクリプト名       | /etc/cmcluster/gmaxpkg/<br>control.sh |

| パラメタ                      | 説明                              | 設定例                               |
|---------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|
| RUN_SCRIPT_TIMEOUT        | 起動スクリプトのタイムアウト設定                | NO_TIMEOUT                        |
| HALT_SCRIPT               | 停止スクリプト名                        | /etc/cmcluster/gmaxpkg/control.sh |
| HALT_SCRIPT_TIMEOUT       | 停止スクリプトのタイムアウト設定                | NO_TIMEOUT                        |
| SERVICE_NAME              | サービス名称                          | "OBJECTSV"                        |
| SERVICE_FALL_FAST_ENABLED | サービスの障害をノードの障害とするかどうかの指定        | YES                               |
| SERVICE_HALT_TIMEOUT      | サービスの障害時の待ち時間                   | 300                               |
| PKG_SWITCHING_ENABLED     | 障害発生時にこのパッケージをフェールオーバーするかどうかの指定 | YES                               |

### (3) パッケージ制御スクリプトの作成

Groupmax パッケージ用に、パッケージ制御スクリプトを作成する必要があります。

作成手順と指定例について説明します。

1. パッケージ制御スクリプトのひな形を作成する

(例)

```
#cd /etc/cmcluster/gmaxpkg
#cmmakepkg -s control.sh
```

2. Groupmax パッケージ用パッケージ制御スクリプトを編集する

エディタなどを使用して、パッケージ制御スクリプトを編集、設定してください。

なお、ここでは、必ず設定するパラメタについて説明します。

表 G-4 に、Groupmax パッケージ用パッケージ制御スクリプトに追加するパラメタを示します。

表 G-4 Groupmax パッケージ用パッケージ制御スクリプトに追加するパラメタ

| パラメタ               | 説明                                                         | 設定例                                                                                        |
|--------------------|------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 環境変数               | XODDIR ,<br>XODCONFPATH の環境変数を指定します。                       | XODDIR=/usr/ObjSV/HOME<br>XODCONFPATH=/usr/ObjSV/HOME/conf<br>export XODDIR<br>XODCONFPATH |
| LV[0]              | オブジェクトサーバのデータベース格納用 LVM                                    | /dev/vg04/lvol1                                                                            |
| FS[0]              | オブジェクトサーバのデータベース格納用マウントディレクトリ                              | /OBJSVDBFILE                                                                               |
| FS_MOUNT_OPT[0]    | マウントオプション                                                  | "-o rw"                                                                                    |
| LV[1] <sup>1</sup> | High-end Object Server のシステムジャーナルファイル又はステータスファイルの 群格納用 LVM | /dev/vg05/lvol1                                                                            |

付録 G クラスタリング機能を使用した運用（HP-UX を御利用の場合）

| パラメタ                                   | 説明                                                               | 設定例                                                |
|----------------------------------------|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| FS[1] <sup>1</sup>                     | High-end Object Server のシステムジャーナルファイル又はステータスファイルの 群格納用マウントディレクトリ | /OBJSVFILE1                                        |
| FS_MOUNT_OPT[1] <sup>1</sup>           | マウントオプション                                                        | "-o rw"                                            |
| LV[2] <sup>1</sup>                     | High-end Object Server のシステムジャーナルファイル又はステータスファイルの 群格納用 LVM       | /dev/vg06/lvol1                                    |
| FS[2] <sup>1</sup>                     | High-end Object Server のシステムジャーナルファイル又はステータスファイルの 群格納用マウントディレクトリ | /OBJSVFILE2                                        |
| FS_MOUNT_OPT[2] <sup>1</sup>           | マウントオプション                                                        | "-o rw"                                            |
| IP[0]                                  | パッケージ IP アドレス                                                    | 172.1.1.3                                          |
| SUBNET[0]                              | サブネットアドレス                                                        | 172.1.1.0                                          |
| function<br>customer_defined_run_cmbs  | アプリケーション起動コマンドを列挙します。オブジェクトサーバから上位のアプリケーションサーバの順に記述します。          | \$XODDIR/bin/xodstart<br>上位アプリケーションサーバの起動コマンド      |
| function<br>customer_defined_halt_cmbs | アプリケーション停止コマンドを列挙します。上位アプリケーションサーバからオブジェクトサーバの順に記述します。           | 上位アプリケーションサーバの停止コマンド<br>\$XODDIR/bin/xodstop       |
| SERVICE_NAME[0] <sup>2</sup>           | オブジェクトサーバの稼働状況を監視する場合に指定します。                                     | "OBJECTSV"                                         |
| SERVICE_CMD[0] <sup>2</sup>            |                                                                  | "\$XODDIR/bin/<br>xodmonitor -d \$XODDIR<br>-t 10" |
| SERVICE_RESTART[0] <sup>2</sup>        |                                                                  | "-r 0"                                             |

注 1 High-end Object Server の場合に必要パラメタです。

注 2 オブジェクトサーバの障害発生時にフェールオーバーするために設定が必要なパラメタです。

---

## 付録 H クラスタリング機能を使用した運用（AIX を御利用の場合）

AIX でオブジェクトサーバを御利用の場合、HACMP for AIX の機能を使用して、クラスタリングシステムで運用できます。ここでは、オブジェクトサーバをクラスタリングシステムで運用する方法について説明します。

### 付録 H.1 HACMP for AIX のクラスタリング機能

オブジェクトサーバは、HACMP for AIX を使用してクラスタリングシステムで運用することができます。オブジェクトサーバのデータベースやジャーナルファイルを共有ディスクで管理することによって、可用性と信頼性を向上できます。

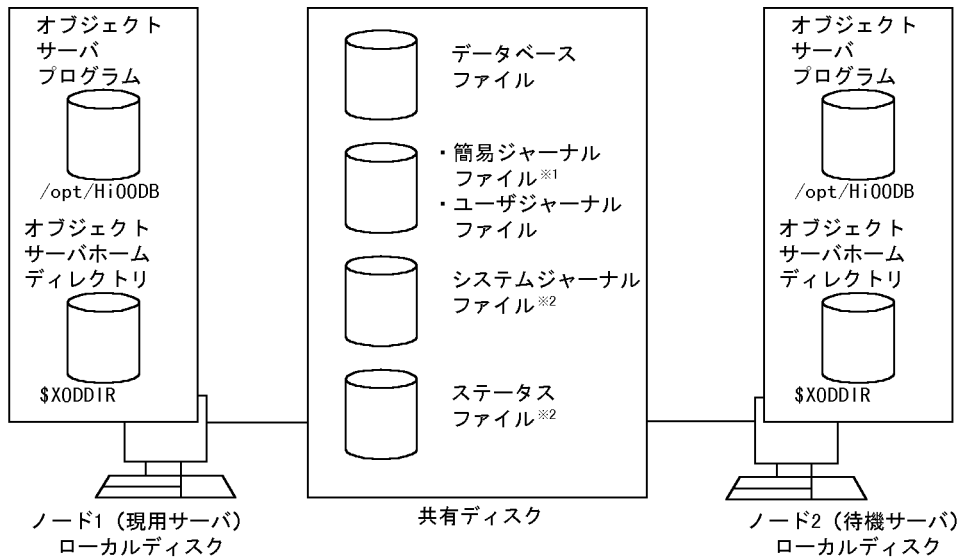
オブジェクトサーバが対応する機能は次のとおりです。また、待機ノードはフェールオーバーするまで動作しません。

- アダプタ障害、ハードディスク障害、CPU/OS 障害などのシステム障害時にフェールオーバーします。
- オブジェクトサーバの稼働状態を監視することによって、オブジェクトサーバの障害（ソフトウェア障害\*）によってフェールオーバーします。
- 運用系と待機系の 2 ノード間（カスケード構成、またはローテート構成）の切り替えのみフェールオーバーします。
- 共用ディスクのアクセスは、非コンカレント・アクセス機能のみサポートします。

\*：ソフトウェア障害に対応するには、HACMP/ES 機能でアプリケーション・サーバのモニタを設定する必要があります。

図 H-1 に、HACMP for AIX を使用して、オブジェクトサーバをクラスタリングシステムで構成した例を示します。

図 H-1 HACMP for AIX を使用したクラスタリングシステム構成例



注※1 Object Serverを御使用の場合に使用します。

注※2 High-end Object Serverを御使用の場合に使用します。

## 付録 H.2 クラスタリングシステムを使用する場合の環境設定

ここでは、クラスタリングシステムを使用する場合のオブジェクトサーバの環境設定について説明します。

環境設定は、次の流れで実行します。

1. ディレクトリ及びファイルの配置を決定する
2. オブジェクトサーバをインストールする
3. オブジェクトサーバを OS に登録する
4. オブジェクトサーバの定義ファイルを作成する
5. データベースを初期化する
6. システムジャーナルファイル及びステータスファイルを作成する（High-end Object Server）

### (1) ディレクトリ及びファイルの配置の決定

クラスタリングシステムでは、オブジェクトサーバが使用するディレクトリ及びファイルを、それぞれのノードのローカルディスク又は共有ディスクに格納します。

なお、オブジェクトサーバでは、クラスタリングシステムによる信頼性を向上させるために、共有ディスクに格納するファイルを種類ごとに複数の物理ボリュームに分散して格納することをお勧めします。High-end Object Server を御使用の場合は、システムジャーナルファイル及びステータスファイルをそれぞれ 群、群に分けて、別ボリュームに格納することで、より信頼性が向上します。群、群に分ける方法については、「(4) オブジェクトサーバの定義ファイルの作成」を参照してください。

オブジェクトサーバが使用するディレクトリ及びファイルを格納するディスクに

ついて、表 H-1 に示します。

表 H-1 オブジェクトサーバのディレクトリ及びファイルの格納ディスク

| ディレクトリ名又はファイル名                            |   | 配置するディスク        |
|-------------------------------------------|---|-----------------|
| オブジェクトサーバのインストールディレクトリ                    |   | ローカルディスク        |
| オブジェクトサーバのホームディレクトリ                       |   | ローカルディスク        |
| データベース                                    |   | 共有ディスク（ボリューム 1） |
| 簡易ジャーナルファイル（Object Server）                |   | 共有ディスク（ボリューム 1） |
| ユーザジャーナルファイル                              |   | 共有ディスク（ボリューム 1） |
| システムジャーナルファイル<br>（High-end Object Server） | 群 | 共有ディスク（ボリューム 2） |
|                                           | 群 | 共有ディスク（ボリューム 3） |
| ステータスファイル<br>（High-end Object Server）     | 群 | 共有ディスク（ボリューム 2） |
|                                           | 群 | 共有ディスク（ボリューム 3） |

注 1 各ノードから、それぞれのディレクトリ及びファイルの絶対パスは、同じになるように設定してください。

注 2 共有ディスクに格納するディレクトリ又はファイルは、( ) 内に記述したボリューム番号が同じファイルと同じ物理ボリュームに、ボリューム番号が異なるファイルは異なる物理ボリュームに格納することをお勧めします。

## (2) オブジェクトサーバのインストール

オブジェクトサーバは、それぞれのノードのローカルディスクにインストールしてください。なお、HACMP for AIX を構成するサーバに Object Server と High-end Object Server は混在できません。また、各ノードにインストールするオブジェクトサーバは、完全に同一のバージョン・リビジョン番号のプログラムを使用してください。

## (3) オブジェクトサーバの OS への登録

インストールしたそれぞれのノードで、ローカルディスクにオブジェクトサーバのホームディレクトリを作成してください。オブジェクトサーバの OS への登録については、「8.2 システム管理コマンド」の xodsetup コマンドを参照してください。

それぞれのオブジェクトサーバのホームディレクトリの絶対パス名は、同じにしてください。また、所有者/グループは、次のように設定してください。

所有者：root

グループ：sys

## (4) オブジェクトサーバの定義ファイルの作成

オブジェクトサーバの定義ファイルとして、次のファイルを作成します。

Object Server の場合

- システム共通定義ファイル

High-end Object Server の場合

- システム共通定義ファイル
- ステータスサービス定義ファイル

- システムジャーナルサービス定義ファイル

これらのファイルは一つのノードの \$XODDIR/conf 下に作成して、それぞれのノードに複写してください。なお、それぞれのファイルの詳細な作成方法については、「7. オブジェクトサーバのファイル」を参照してください。

**(a) システム共通定義ファイルの作成**

システム共通定義の ujfile パラメタで指定するユーザジャーナルを、共有ディレクトリ上に作成するように指定してください。

**(b) ステータスサービス定義ファイル及びシステムジャーナルサービス定義ファイルの作成 (High-end Object Server)**

ステータスファイル及びシステムジャーナルファイルは、共有ディレクトリ上に作成するように指定してください。

なお、信頼性を向上させるために、システムジャーナルファイル及びステータスファイルの出力先を、二つの物理ボリュームに分けて指定することをお勧めします。

システムジャーナルファイルの出力先を分ける記述例

システムジャーナルファイルは、ファイルグループごとに、定義の半分を群、定義の半分を群として、格納先を分けることをお勧めします。

システムジャーナルファイルの出力先を分けるための、システムジャーナルサービス定義ファイルの記述例を次に示します。

```
jnladdfg -g jnlfile1 ONL
jnladdpf -g jnlfile1 -a /OBJSVFILE1/XODFILEJNL/jnlfile1
jnladdfg -g jnlfile2 ONL
jnladdpf -g jnlfile2 -a /OBJSVFILE1/XODFILEJNL/jnlfile2
jnladdfg -g jnlfile3 ONL
jnladdpf -g jnlfile3 -a /OBJSVFILE1/XODFILEJNL/jnlfile3
jnladdfg -g jnlfile4 ONL
jnladdpf -g jnlfile4 -a /OBJSVFILE1/XODFILEJNL/jnlfile4
jnladdfg -g jnlfile5 ONL
jnladdpf -g jnlfile5 -a /OBJSVFILE2/XODFILEJNL/jnlfile5
jnladdfg -g jnlfile6 ONL
jnladdpf -g jnlfile6 -a /OBJSVFILE2/XODFILEJNL/jnlfile6
jnladdfg -g jnlfile7 ONL
jnladdpf -g jnlfile7 -a /OBJSVFILE2/XODFILEJNL/jnlfile7
jnladdfg -g jnlfile8 ONL
jnladdpf -g jnlfile8 -a /OBJSVFILE2/XODFILEJNL/jnlfile8
```

太字で記述しているファイルが群、細字で記述しているファイルが群になります。この例では、ファイルグループ jnlfile1 ~ jnlfile4 を群、ファイルグループ jnlfile5 ~ jnlfile8 を群として定義しています。

ステータスファイルの出力先を分ける記述例

ステータスファイルは、論理ファイルごとに群、群と分けるものと、一つの論理ファイル内の物理ファイルを群、群に分けるものを混在させることで、より信頼性を向上させることができます。例えば、stsfile1、stsfile2 及び stsfile3 という三つの論理ファイルを作成する場合、stsfile1 の A 系の物理ファイルと、stsfile2 の A 系及び B 系の物理ファイルを群、stsfile1 の B 系の物理ファイルと、stsfile3 の A 系及び B 系の物理ファイルを群とします。これ

によって、一つの物理ボリュームに障害が発生した場合にも、ステータスファイルに障害が発生しないようにできます。  
ステータスファイルの出力先を分けるための、ステータスサービス定義ファイルの記述例を次に示します。

```
set sts_file_name_1 = "stsfile1",¥  
"/OBJSVFILE1/XODFILESTS1/stsfile1A",¥  
"/OBJSVFILE2/XODFILESTS2/stsfile1B"  
set sts_file_name_2 = "stsfile2",¥  
"/OBJSVFILE1/XODFILESTS1/stsfile2A",¥  
"/OBJSVFILE1/XODFILESTS1/stsfile2B"  
set sts_file_name_3 = "stsfile3",¥  
"/OBJSVFILE2/XODFILESTS2/stsfile3A",¥  
"/OBJSVFILE2/XODFILESTS2/stsfile3B"
```

太字で記述しているファイルが 群, 細字で記述しているファイルが 群になります。この例では、論理ファイル stsfile1 の A 系のファイルと論理ファイル stsfile2 を 群, 論理ファイル stsfile1 の B 系のファイルと論理ファイル stsfile3 を 群として定義しています。

#### (5) データベースの初期化

データベースのファイルは、すべて共有ディレクトリ上に作成します。

データベースの初期化には、xodbinit コマンドを実行します。このコマンドは、一つのノードだけで実行してください。ほかのノードでは実行しないでください。xodbinit コマンドについては、「8.3 データベース管理コマンド」の xodbinit コマンドを参照してください。

#### (6) システムジャーナルファイル及びステータスファイルの作成 (High-end Object Server)

システムジャーナルファイル及びステータスファイルは、すべて共有ディレクトリ上に作成します。

システムジャーナルファイルの初期設定には、xodjnlinit コマンドを実行します。このコマンドは、一つのノードだけで実行してください。ほかのノードでは実行しないでください。

また、ステータスファイルの初期設定には、xodstsinit コマンドを実行します。このコマンドは、一つのノードだけで実行してください。ほかのノードでは実行しないでください。

xodjnlinit コマンドについては、「8.10 システムジャーナルファイル管理コマンド (High-end Object Server)」の xodjnlinit コマンドを参照してください。

xodstsinit コマンドについては、「8.11 ステータスファイル管理コマンド (High-end Object Server)」の xodstsinit コマンドを参照してください。

### 付録 H.3 オブジェクトサーバ障害発生時のフェールオーバー機能

HACMP for AIX のクラスタリング機能を使用して、オブジェクトサーバに障害が発生した場合にフェールオーバーすることができます。このためには、アプリケーション・サーバのモニタの設定において、モニター・メソッドに xodrunchk(シェール・スクリプトに指定してもかまいません)を指定します。また、この設定を行うに



は、HACMP/ES 機能がインストールされている必要があります。

xodrunchk コマンドについては、「8.15 クラスタリング機能用コマンド (AIX を御利用の場合)」の xodrunchk コマンドを参照してください。

#### 付録 H.4 クラスターの定義

HACMP/ES のクラスターとして登録する方法を説明します。

ここでは、Groupmax のリソース・グループの追加およびアプリケーション・サーバの追加方法について記述します。詳細は、AIX のマニュアル等を参照してください。

また、運用サーバをノード 1 (node1)、待機サーバをノード 2 (node2) として記述します。

Object Server を御使用の場合の構成例を図 H-2 に、High-end Object Server を御使用の場合の構成例を図 H-3 に示します。

図 H-2 Object Server を御使用の場合の構成例

パッケージホスト名 : gmaxhost  
パッケージIPアドレス : 172.1.1.3

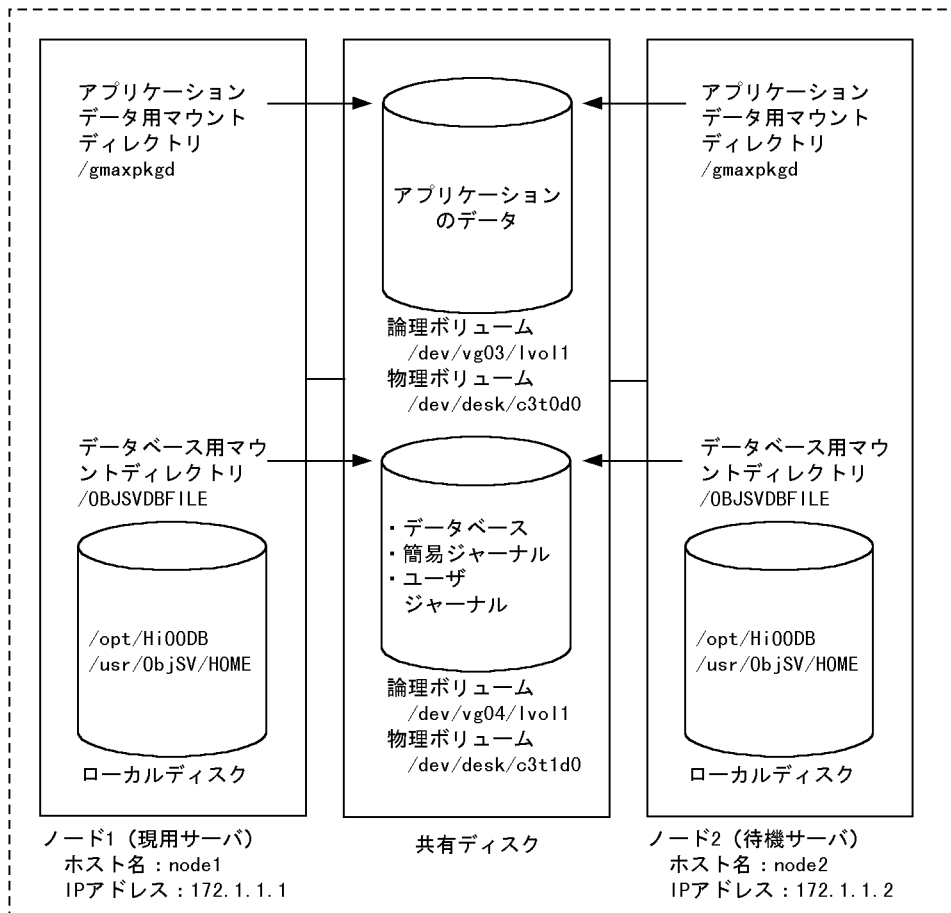
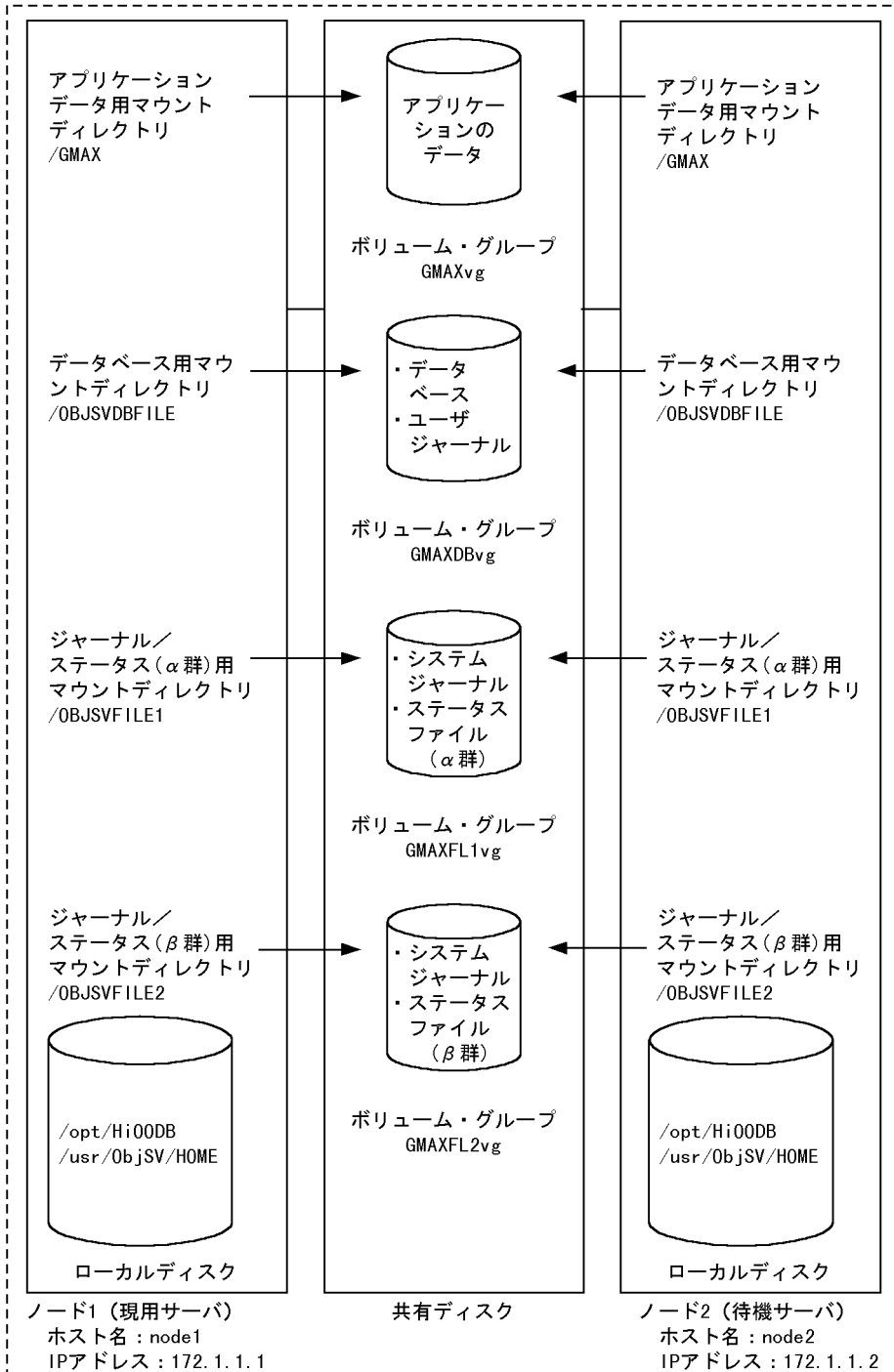


図 H-3 High-end Object Server を御使用の場合の構成例

サービスIPラベル : SVC1  
IPアドレス : 172.1.1.3



クラスターは、次の手順で登録します。

## 付録 H クラスタリング機能を使用した運用（AIX を御利用の場合）

1. リソース・グループの追加（ノード 1 で実行）
2. アプリケーション・サーバの追加（ノード 1 で実行）
3. リソース・グループの属性変更（ノード 1 で実行）
4. アプリケーション・サーバのモニタの設定（ノード 1 で実行）
5. クラスタ・リソースの同期化（ノード 1 で実行）
6. クラスタの検証（ノード 1 で実行）
7. クラスタ・サービスの始動（ノード 1 およびノード 2 で実行）

### (1) リソース・グループの追加（ノード 1 で実行）

Groupmax 用のリソース・グループを追加します。ここでは、リソース・グループ名称を GmaxA として、指定例について説明します。

なお、ここでは、必ず指定するフィールド値について説明します。

表 H-2 に、「リソース・グループの追加（Add a Resource Group）」で指定するフィールド値の設定例を示します。

表 H-2 「リソース・グループの追加」に指定するフィールド値

| フィールド名     | 説明                                           | フィールド値の設定例  |
|------------|----------------------------------------------|-------------|
| リソース・グループ名 | リソース・グループ名称                                  | GmaxA       |
| ノード関係      | カスケード（Cascading）、又はローテート（Rotating）を選択してください。 | ローテート       |
| 参加ノード名     | このリソース・グループの所有またはテークオーバーが可能なノードの名前を入力します。    | node1 node2 |

### (2) アプリケーション・サーバのモニタの設定（ノード 1 で実行）

Groupmax 用のアプリケーション・サーバを追加し、Groupmax の始動スクリプト、Groupmax の停止スクリプトを登録します。ここでは、サーバ名称を Gmax\_aps とし、始動スクリプトの名称を Gmax\_start とし、停止スクリプト名称を Gmax\_stop として、指定例について説明します。

なお、ここでは、必ず指定するフィールド値について説明します。

表 H-3 に、「アプリケーション・サーバの追加（Add an Application Server）」で指定するフィールド値の設定例を示します。

表 H-3 「アプリケーション・サーバの追加」に指定するフィールド値

| フィールド名 | 説明          | フィールド値の設定例 |
|--------|-------------|------------|
| サーバ名   | サーバ名称を指定する。 | Gmax_aps   |

| フィールド名  | 説明                                                   | フィールド値の設定例                                                 |
|---------|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 始動スクリプト | 開始用のスクリプトのパス名を指定します。このスクリプトは、各ノードで同じ場所に置いておく必要があります。 | /opt/Groupmax/bin/<br>Gmax_start<br>(スクリプトの作成例は、付録 H-5 参照) |
| 停止スクリプト | 停止用のスクリプトのパス名を指定します。このスクリプトは、各ノードで同じ場所に置いておく必要があります。 | /opt/Groupmax/bin/<br>Gmax_stop<br>(スクリプトの作成例は、付録 H-5 参照)  |

### (3) リソース・グループの属性変更 (ノード 1 で実行)

「(1) リソース・グループの追加」で作成したリソース・グループ GmaxA に対していくつかの項目を設定します。ここでは、サービス IP ラベルを SVC1 として、指定例について説明します。

なお、ここでは、必ず指定するフィールド値について説明します。

表 H-4 に、「リソース・グループのリソース / 属性の変更 / 表示 (Change/Show Resources/Attributes for a Resource Group)」で指定するフィールド値の設定例を示します。

表 H-4 「リソース・グループのリソース / 属性の変更 / 表示」に指定するフィールド値

| フィールド名                  | 説明                                                                          | フィールド値の設定例                                                                                                                                  |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| サービス IP ラベル             | このグループで使用するサービス IP ラベルを選択します。                                               | SVC1                                                                                                                                        |
| ファイルシステム (デフォルトは「すべて」)  | 共用ディスクのマウントディレクトリ名を指定します。                                                   | <b>Object Server の例</b><br>/GMAX, /OBJSVDBFILE<br><b>High-end Object Server の例</b><br>/GMAX, /OBJSVDBFILE, /<br>OBJSVFILE1, /<br>OBJSVFILE2 |
| ボリューム・グループ              | このリソース・グループを取得またはテークオーバーするときにオンに変更する必要がある共用ボリューム・グループを指定します。                | <b>Object Server の例</b><br>GMAXvg, GMAXDBvg<br><b>High-end Object Server の例</b><br>GMAXvg,<br>GMAXDBvg, GMAXFL1vg,<br>GMAXFL2vg             |
| アプリケーション・サーバー           | リソース・グループに含めるアプリケーション・サーバーを指定します。(付録 H.4(2) で指定したサーバ名を指定します。)               | Gmax_aps                                                                                                                                    |
| IP 構成の前にファイルシステムをマウントする | テークオーバーにおいて、故障ノードのファイルシステムをマウントする時機を、故障ノードの IP アドレスを引き継ぐより先にするか後にするかを指定します。 | はい                                                                                                                                          |

### (4) アプリケーション・サーバのモニタの設定 (ノード 1 で実行)

Groupmax のサービスを監視させ、サービスがダウンした場合に、フェールオー

## 付録 H クラスタリング機能を使用した運用（AIX を御利用の場合）

バさせる必要がある場合に設定します。ここでは、モニター・メソッドを Gmax\_mtr として、指定例について説明します。また、この設定を行うためには HACMP/ES 機能がインストールされている必要があります。

なお、ここでは、必ず指定するフィールド値について説明します。

表 H-5 に、「ユーザー定義アプリケーション・モニターの追加（Add Custom Application Monitor）」で指定するフィールド値の設定例を示します。

表 H-5 「ユーザー定義アプリケーション・モニターの追加」に指定するフィールド値

| フィールド名            | 説明                                                                     | フィールド値の設定例                                                   |
|-------------------|------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| モニター・メソッド         | 指定したアプリケーションの健全性をカスタム・モニターするためのスクリプトまたは実行可能ファイルを指定します。                 | /opt/Groupmax/bin/<br>Gmax_mtr<br>(スクリプトの作成例は、<br>付録 H-5 参照) |
| モニター間隔            | アプリケーションの健康状態を検査するためのポーリング間隔（秒単位）を指定します。                               | 5                                                            |
| モニターを停止するシグナル     | ユーザ定義モニター・メソッドがモニター間隔以内に戻らなかった場合に、そのメソッドを強制終了する信号を指定します。               | 15                                                           |
| 安定化間隔             | モニターを監視するまでの待ち時間（秒単位）を指定します。                                           | 60                                                           |
| 再始動カウント           | 他のアクションを実行する前にアプリケーションの再始動を試みる回数を指定します。                                | 0                                                            |
| 再始動間隔             | アプリケーションが再始動カウントをリセットする前に安定状態を持続しなければならない間隔（秒単位）を指定します。                | 0                                                            |
| アプリケーション障害時のアクション | アプリケーションが再始動カウント以内に再始動できない場合に実行するアクションを指定します。「フォールオーバー（fallover）」を選択する | fallover                                                     |

### (5) クラスタ・リソースの同期化（ノード1で実行）

ノード1で定義したクラスタ・リソースをノード2と同期させます。また、同期化中は画面に出力されるエラーメッセージに注意し、正常に終了することを確認してください。エラーが発生した場合は適切な処置を行い、再度同期化を行ってください。

### (6) クラスタの検証（ノード1で実行）

クラスタ・トポロジおよびリソースを検証します。また、検証中は画面に出力されるエラーメッセージに注意し、正常に終了することを確認してください。エラーが発生した場合は適切な処置を行い、再度トポロジおよびリソースの同期化を行ってから検証を再実行してください。

(7) クラスタ・サービスの始動 (ノード1およびノード2で実行)

各ノードでクラスタ・サービスを始動させ、クラスタを利用可能にします。

## 付録 H.5 スクリプトの作成例

スクリプトファイルの作成例を説明する。

### (1) 始動スクリプトの作成例

```
#!/bin/sh
# 始動スクリプトの例 Gmax_start
XODDIR=/usr/ObjSV/HOME
XODCONFPATH=/usr/ObjSV/HOME/conf
export XODDIR XODCONFPATH

# Object Server起動
/opt/HiOODB/bin/xodstart
if [ $? != 0 ]
then
    exit 255
fi

#Address Server起動
# ここにAddress Server起動スクリプトを記述する

# Workflow Server起動
# ここにWorkflow Server起動スクリプトを記述する

exit 0
```

### (2) 停止スクリプトの作成例

```
#!/bin/sh
# 停止スクリプトの例 Gmax_stop
XODDIR=/usr/ObjSV/HOME
XODCONFPATH=/usr/ObjSV/HOME/conf
export XODDIR XODCONFPATH

# Workflow Server停止
# ここに Workflow Server停止スクリプトを記述する

# Address Server停止
# ここに Address Server停止スクリプトを記述する

# Object Server停止
/opt/HiOODB/bin/xodstop
if [ $? != 0 ]
then
    exit 255
fi
exit 0
```

### (3) 監視スクリプトの作成例

```
#!/bin/sh
# 監視スクリプトの例Gmax_mtr
XODDIR=/usr/ObjSV/HOME
XODCONFPATH=/usr/ObjSV/HOME/conf
export XODDIR XODCONFPATH

# Object Server監視
${XODDIR}/bin/xodrunchk
if [ $? != 0 ]
then
    echo "Gmax_mtr : Object Server down!!"
    exit 255
fi

# Address Server監視
# ここにAddress Serverの監視スクリプトを記述する。

# Workflow Server監視
# ここにWorkflow Serverの監視スクリプトを記述する。

echo "All Groupmax Server is Active!!"
exit 0
```



## 付録I プロセスの状態表示の出力例

ここでは、「xodpinfo (プロセスの状態表示)」の「図 8-1 xodpinfo コマンドの処理結果の出力フォーマット」の表示内容について説明します。

### 1 枠内の説明

a...a

システム ID (最大 11 バイト)

b...b

コマンドを実行した時刻 (YYYY/MM/DD hh:mm:ss)  
未取得時は「\*\*\*\*/\*\*/\* \*\*.\*.\*」と表示されます。

c...c

コマンドを実行したホスト名 (最大 144 バイト)  
未取得時は「\*\*\*\*\*」と表示されます。

d...d

コマンドを実行した環境変数「XODDIR」の値 (最大 144 バイト)

ee

システム共通定義ファイル「xodrc」内の system\_id の値 (最大 2 バイト)  
未設定の場合は空白。未取得時は「\*\*」と表示されます。

vv-rr

バージョン・リビジョン (5 バイト)

### 2 枠内の説明

プロセスの状態が表示されます。

### 3 枠内の説明

プロセスの管理情報が表示されます。

a...a

接続可能なプロセス数 (10 進数左詰め)  
システム共通定義ファイル「xodrc」の prc\_process\_count の値を示します。

b...b

接続中プロセス数 (10 進数左詰め)

c...c

オブジェクトサーバの開始モード (最大 7 バイト)

- AP : アプリケーションモード
- UTL : ユティリティモード
- RECVUTL : 回復ユティリティモード

d...d

## 付録I プロセスの状態表示の出力例

サーバプロセス「precmd」のプロセス ID (10 進数左詰め)

ee

稼働中バックアップの取得が可能か否かを示します (最大 2 バイト)。

- NG: 稼働中バックアップの取得は不可。
- OK: 稼働中バックアップの取得は可能。

f...f

稼働中バックアップ中によりウェイト中プロセス有無を示します (10 進数左詰め)。

- 0: ウェイト中のプロセスは存在しません。
- 1 以上: ウェイト中のプロセスが存在します。

### 4 枠内の説明

個々のプロセス情報が表示されます。サーバプロセスとコマンド/ユティリティ/アプリケーションプロセス (以下, 接続中プロセス) の数分表示されます。

a...a

プロセス ID (10 進数左詰め)

b

ステータス (1 バイト)

- s: サーバプロセスが開始処理中
- l: オブジェクトサーバに接続要求中
- r: オブジェクトサーバに接続中
- e: オブジェクトサーバに終了通知を行い終了処理中の状態
- d: オブジェクトサーバに終了通知を行わず終了した状態
- f: オブジェクトサーバが強制終了中

c...c

ユーザ ID (10 進数左詰め)

接続中プロセスの場合は 0 と表示されます。

d...d

グループ ID (10 進数左詰め)

接続中プロセスの場合は 0 と表示されます。

e...e

サーバ名 (最大 9 バイト)

接続中プロセスの場合は「OMS」と表示されます。

f...f

ロードモジュール名 (最大 15 バイト)

接続中プロセスの場合は「\*\*\*\*\*」と表示されます。

g...g

サービスグループ名 (最大 32 バイト)

接続中プロセスの場合は「プログラム名, 実行ファイル名」が表示されます。プ

ログラム名が特定できない場合，実行ファイル名が特定できない場合及び設定されていない場合は，「\*\*\*\*\*」と表示されます。

h...h

クリティカル状態監視カウンタ（10進数左詰め）  
0以外の場合はクリティカル状態であることを示します。

i...i

クリティカル状態監視マスク（16進数の8バイト）  
クリティカル状態のステータスが表示されます。

j...j

プロセス生成時刻（YYYY/MM/DD hh:mm:ss）  
プロセスが生成された時刻を示します。

k...k

プロセス異常終了検知時刻（YYYY/MM/DD hh:mm:ss）  
プロセスの終了通知を行わないで終了したことを検知した時の時間が表示されます。  
「\*\*\*\*/\*\*/\*\* \*\*:\*:\*」以外の場合はプロセスの終了要求を行わないで終了したことを示します。

l...l

重複プロセス ID 接続要求ステータス（10進数左詰め）  
0以外の場合はこのプロセス情報に関する後処理が完了していない時に，このプロセス情報の「a...a」に示すプロセス ID と同じプロセス ID を持つプロセスから接続要求が行われたことを示します。

### 5 枠内の説明

トランザクションの状態が表示されます。

### 6 枠内の説明

トランザクションの管理情報が表示されます。

a...a

ラン ID（10進数左詰め）

b...b

トランザクションマネージャ状態（最大10バイト）

- START：マネージャ開始
- INIT1：テーブルエリア確保
- INIT2：テーブル初期化
- INIT3：チェーン回復
- INIT4：テーブル生成完
- PROCESS：関連プロセス起動済み
- ONLINE：マネージャオンライン
- PREPARE：終了準備処理中

## 付録I プロセスの状態表示の出力例

- PREPAREEND : 終了準備処理終了
- END : 終了開始

c...c

システム共通定義ファイル「xodrc」の trn\_tran\_process\_count の値 (10 進数左詰め)。

d...d

カレントトランザクション通番 (10 進数左詰め)。

e...e

サーバプロセス「trnd」を開始した時刻 (YYYY/MM/DD hh : mm : ss)。

### 7 枠内の説明

個々のトランザクション情報が表示されます。実行中トランザクションの数分表示されます。

a...a

トランザクション実行中のプロセスのプロセス ID (異常終了時は 0) (10 進数左詰め)。

b...b

トランザクション実行中に異常終了したプロセスのプロセス ID (実行中は 0) (10 進数左詰め)。

c...c

トランザクション通番 (10 進数左詰め)。

d...d

トランザクション第 1 状態 (最大 15 バイト)。

- BEGINNING : トランザクション開始処理中状態
- ACTIVE : 実行中状態
- PREPARE : コミット (一相目) 処理中状態
- COMMIT : コミット処理中状態
- ROLLBACK\_ACTIVE : ロールバック処理待ち状態
- ROLLBACK : ロールバック処理中状態
- FORGETTING : トランザクション終了処理中状態

e

トランザクション第 2 状態 (1 バイト)。

- u : コマンド / ユティリティ / アプリケーションプロセス実行中状態
- r : 回復プロセス実行中状態
- p : 回復プロセス解放待ち

f...f

ジャーナル取得状態 (最大 6 バイト)。

- c : cj 取得済み
- h : hj 取得済み

- p : pj 取得済み
- d : dj 取得済み
- t : tj 取得済み
- b : bj 取得済み

cj 取得済みと pj 取得済みの場合 , JNL=cp と表示されます。

h

データベースへのアクセスモード (1 バイト)

- r : 更新モード (このトランザクションではデータベースを更新する可能性あり)
- s : 参照モード (このトランザクションではデータベースを参照のみ)

iii

稼働中バックアップ開始コマンドがこのトランザクションの終了を待っているか否かを示します (最大 3 バイト)。

稼働中バックアップ開始コマンドの実行中に有用な情報です。

- ON : このトランザクションの終了を待っています。
- OFF : このトランザクションの終了を待っていません。

j...j

通信情報 , IP アドレス (16 進数の 8 バイト)

k...k

通信情報 , データ受信用ポート番号 (10 進数左詰め)

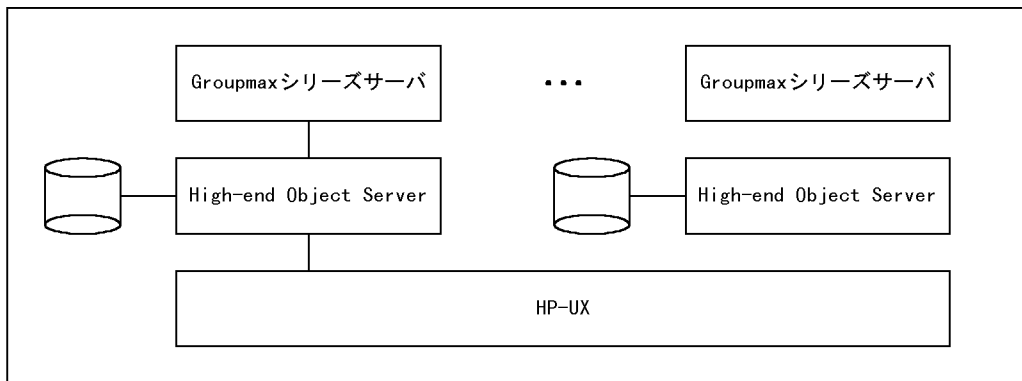
## 付録 J マルチオブジェクトサーバ (マルチ OMS) (High-end Object Server) (HP-UX を御利用の場合)

HP-UX 上で動作する High-end Object Server では、一つのマシン (1 筐体) 上に複数のオブジェクトサーバを動作できる機能 (マルチサービス機能) を提供しています。ここでは、マルチサービス機能の運用方法について説明します。なお、従来の 1 筐体上に一つのオブジェクトサーバが動作する環境と区別するため、1 筐体上に複数のオブジェクトサーバを動作できる機能をマルチサービス、そのオブジェクトサーバをマルチオブジェクトサーバ (マルチ OMS) と呼びます。

### 付録 J.1 他のプログラムとの関係

サーバマシン上のマルチ OMS を含む Groupmax シリーズのマルチサービスのシステム構成を図 J-1 に示します。

図 J-1 Groupmax シリーズのマルチサービスのシステム構成



### 付録 J.2 環境設定

マルチ OMS の環境設定をする手順は、「2. オブジェクトサーバの環境設定」と同じです。異なるのは、OMS を複数設定する点です。ここでは、通常の OMS と操作方法の異なる箇所についてだけ説明します。

#### (1) システム管理者の登録

OMS ごとに、別々のシステム管理者を登録します。システム管理者の登録については、「2.3.1 システム管理者の登録と環境設定」を参照してください。

#### (2) オブジェクトサーバの OS への登録

OMS ごとに、`xodmltup` コマンドで、オブジェクトサーバを OS に登録します。`xodsetup` コマンドを使用しないでください。

`xodmltup` コマンドの実行例を次に示します。

- `xodmltup` コマンドを <パス名> で実行する場合

/opt/HiOODB/bin/xodmltup -s オブジェクトサーバのホームディレクトリ

- /opt/HiOODB/bin にカレントディレクトリを移動して xodmltup コマンドを実行する場合

```
cd /opt/HiOODB/bin
```

```
xodmltup -s オブジェクトサーバのホームディレクトリ
```

なお、xodmltup コマンドを実行すると、/etc/inittab ファイル内にオブジェクトサーバの一部である「prcd」が登録されます。

#### <参考> prcd プロセスとオブジェクトサーバの自動起動

オブジェクトサーバの起動コマンドである xodstart コマンドは、prcd プロセスが既に起動されていることを前提に動作します。オブジェクトサーバを自動起動させる場合、UNIX の ps コマンドを使用し prcd プロセス (\$XODDIR/lib/servers/prcd) が存在していることを確認した後、prcd プロセスの起動が完了するのを待つため数分待って、xodstart コマンドを発行してください。なお、タイミングの要因で xodstart コマンドが失敗することがあります。この場合は、数秒の間隔を空け、xodstart コマンドの発行を数回再試行してください。

オブジェクトサーバの OS への登録については、「8.2 システム管理コマンド」の「xodmltup (マルチサービス用のオブジェクトサーバの OS への登録・削除) (High-end Object Server) (HP-UX を御利用の場合)」を参照してください。

注意：

上書きインストール (プログラムのバージョンアップ) やアンインストール (プログラムの削除) など、オブジェクトサーバのロードモジュールの入れ替えや削除を行う場合は、OS へ登録したホームディレクトリをすべて xodmltup -d コマンドを実行し OS の登録から削除後、行ってください。

### (3) システム管理者による環境設定

システム管理者が実施する環境設定について説明します。

#### (a) ホームディレクトリの作成

OMS ごとに、異なるオブジェクトサーバのホームディレクトリを作成します。ホームディレクトリの作成については、「2.4.1 ホームディレクトリの作成」を参照してください。

#### (b) 環境変数の設定

オブジェクトサーバのシステム管理者は、操作する OMS を環境変数 (XODDIR 及び XODCONFPATH) で切り分けます。操作する OMS のホームディレクトリの絶対パス名を XODDIR に指定します。また、環境変数 (PATH) に各 OMS の \$XODDIR/bin を設定すると、PATH 中で先に指定した OMS のコマンドしか使用できません。そこで、各 OMS を操作し分けるには、それぞれの OMS 用のウィンドウを用意し、それぞれのウィンドウで環境変数を設定して運用することをお勧めします。環境変数については、「2.4.2 環境変数の設定」を参照してください。

#### (c) システム共通定義ファイルの作成

オブジェクトサーバがシステムログに出力するメッセージを、どの OMS が出力し

## 付録 J マルチオブジェクトサーバ (マルチ OMS) (High-end Object Server) (HP-UX を御利用の場合)

たメッセージであるのかを区別する必要があります。そこで、各 OMS の出力するメッセージに OMS 識別子を付加するようにシステム共通定義ファイルに `logprint_system_id` パラメタを設定します。また、OMS ごとに、異なる OMS 識別子を `system_id` パラメタに設定します。各パラメタの設定については、「7.2.2 システム共通定義の項目」を参照してください。また、メッセージの出力形式については、「付録 K.1 メッセージの出力形式」を参照してください。なお、`system_id` パラメタを変更した場合は、ステータスファイルやシステムジャーナルファイルを再度初期設定する必要があります。

### (d) データベースの初期化

OMS ごとに、オブジェクトサーバのデータベース用ディレクトリを分け、データベースを異なるように作成します。データベースの初期化については、「2.4.4 データベースの初期化」を参照してください。

### (e) システムファイルの作成

OMS ごとに、ステータスファイルやシステムジャーナルファイルを異なるように作成します。システムファイルの作成については、「2.4.5 システムファイルの作成 (High-end Object Server)」を参照してください。



## 付録 K メッセージ

ここではオブジェクトサーバのメッセージを示します。まず、メッセージの形式及びマニュアルの記述形式を説明します。

### 付録 K.1 メッセージの出力形式

#### (1) メッセージの形式

システムが出力するメッセージは、メッセージ ID とそれに続くテキストから構成されます。メッセージの形式は次のとおりです。

XXXXnnnn - Y メッセージテキスト

XXXX :

メッセージを出力したプログラムを表わします。

KFXO : オブジェクトサーバ

nnnnn :

メッセージの番号です。それぞれのメッセージに 5 けたの固有の番号がついています。

Y : メッセージの種類を表わします。次にその意味を示します。

I : システムの動作を通知します。

W : 処理は続行しますが、障害が発生したので警告します。

E : 障害が発生したので、処理を中断します。

メッセージテキスト : 出力されるメッセージのテキストを示します。なお、メッセージテキストの「XX」や「YY」などの文字は、メッセージが出力される状況によって変わる値です。説明が必要なものについては、メッセージテキストの後ろにその内容を示します。

システムログに出力する場合は、次のとおりです。

XXXXnnnn-Y ZZ メッセージテキスト

ZZ :

OMS 識別子です。

システム共通定義ファイルの logprint\_system\_id パラメタに Y を指定時に表示されます。

システム共通定義ファイルを読み込む以前にメッセージを表示しなければならない時など、OMS 識別子を表示できない場合は表示されません。

#### (2) マニュアルのメッセージの見方

このマニュアルでは、メッセージは番号順に並んでいます。各メッセージは、メッセージテキスト、要因、対処の順に説明してあります。

メッセージテキストの中の「XXX」などの文字は、メッセージ出力の状況によって変わる値です。説明が必要なものについては、メッセージテキストの後にその内容を示しています。

また、メッセージの説明に「システムコール」のエラー情報 (errno) が載っている場合があります。これはシステムの関数にエラーが起こったために表示される情報です。システムコールのエラー情報については、マニュアル「HI-UX/WE2 リファレンス 1」又は「HI-UX/WE2 リファレンス 2」等を参照してください。

なお、メッセージの説明中に「内部」という記述のあるコードは、プログラム内部処理で使用するものなので、マニュアルではその詳細を説明していません。

## 付録 K.2 メッセージの詳細

KFXO00100-E: XXシステムコールでエラーが発生しました。リターン情報= YY エラーが発生した関数: ZZ

XX:

発行したシステムコール名 (31 文字以内)

YY:

システムコールのリターンコード (errno)

ZZ:

エラーが発生した関数名 (31 文字以内)

要因

オブジェクトサーバの関数内で発行したシステムコールでエラーが発生しました。

対処

リターンコード (errno) を参照して原因を調査し、必要であればシステム定義を変更してください。コアファイルが出力されている場合はそのダンプを保存し、システム管理者に連絡してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO00101-W: 共用メモリプールの使用量がXX%になりました。

XX:

共用メモリプール全体での使用中エリアの割合。けた数は 2 けたから 3 けた

要因

共用メモリプールの使用量が 80% を超え、加えて未使用量が 2MB 以下になった場合に出力されます。オブジェクトサーバの起動が完了すれば、動作上の問題はありますが、データベースへのエリアの追加など、共用メモリの使用量が変化する運行をする場合には注意してください。

対処

システム共通定義の static\_shmpool\_size に指定した値を見直してください。定義値を変更するときは、オブジェクトサーバを停止してください。  
システム管理者に連絡して今後の運用に影響しないか確認してください。

KFXO00102-W: 共用メモリサブプールの使用量がXX%になりました。

XX:

共用メモリサブプール全体での使用中エリアの割合。けた数は 3 けた

要因

共用メモリサブプールの使用量が 100% になった場合に出力されます。

対処

システム共通定義の dynamic\_shmpool\_size の指定した値を見直してください。定義値を変更するときは、オブジェクトサーバを停止してください。

システム管理者に連絡して今後の運用に影響しないか確認してください。

KFXO00103-E : 共用メモリプールが破壊されました。ロケーション=XX (YY, ZZ)

XX :

破壊されたセグメントの共用メモリプールの先頭からのロケーション (10 進数)

YY :

破壊されたセグメントの先頭 8 バイトの内容

ZZ :

破壊されたセグメントの末尾 8 バイトの内容

要因

共用メモリプールの先頭からロケーションで示すバイト位置のセグメントが破壊されました。

対処

共用メモリプールが破壊された原因を調査してください。

ユーザプログラムに原因がない場合、このメッセージで表示されたロケーション及びセグメントの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、コアファイルが出力されている場合、そのコアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO00104-E : 共用メモリサブプールが破壊されました。ロケーション=XX (YY, ZZ)

XX :

破壊されたセグメントの共用メモリサブプールの先頭からのロケーション (10 進数)

YY :

破壊されたセグメントの先頭 8 バイトの内容

ZZ :

破壊されたセグメントの末尾 8 バイトの内容

要因

共用メモリサブプールの先頭からロケーションで示すバイト位置のセグメントが破壊されました。

対処

共用メモリサブプールが破壊された原因を調査してください。

ユーザプログラムに原因がない場合、このメッセージで表示されたロケーション及びセグメントの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、コアファイルが出力されている場合、そのコアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO00105-E : AA (BB) (pid=CC) killed by code=DD info[EE]

AA :

アポートプロセスのサーバ名 (8 文字以内)。サーバ名が決定できない場合は "\*\*\*\*\*" を表示します。

BB :

AA のサーバのサービスグループ名 ( 31 文字以内 ) 。ダウンしたプロセスが関連プログラムの場合は、プログラム名、実行ファイル名と表示されます。

プログラム名が特定できない場合は、"\*\*\*\*\*" と表示されます。

実行ファイル名は以下のように表示されます。

- AIX の場合、ファイル名の先頭から 15 文字以内で表示されます。
- HI-UX/WE2 の場合、実行ファイル名の最後の文字から 15 文字以内で表示されます。実行ファイル名がパス名を含むなどで 60 文字を超えている場合は 46 文字目から 15 文字を表示されます。
- HP-UX の場合、ファイル名の先頭から 14 文字以内で表示されます。
- 特定できない場合は、"\*\*\*\*\*" と表示されます。

CC :

AA のサーバのプロセス ID

DD :

アポートコード ( 7 文字以内の異常停止要因コード )

EE :

付加情報

要因

異常が発生したためオブジェクトサーバのサービスを停止しました。

対処

xodlogcat コマンドによって異常停止した原因を調査し、オブジェクトサーバ又はオブジェクトサーバを使用しているプログラムを再度起動してください。コアファイルが出力されている場合はコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイル及びアポートした日時 ( 年、月、日、時、分、秒 ) をファイル名とするファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、この二つのファイルも同時に保存してください。

(1) メッセージに「code=p000406 info [PRCIHEL,call\_hello2=-00306 又は -00307]」が表示されている場合

通信エラーが発生しており、/etc/hosts 又は DNS のうちどちらかに設定誤りがあると考えられますので、正しい設定にしてください。

(2) メッセージに「code=r902101 info [PRC ERROR=238]」が表示されている場合

TCP/IP 環境で DNS サーバを使用してホスト名解決をしている場合はホスト名解決が正常に行われているか、nslookup コマンドなどで確認してください。

xodstart コマンド実行時に次のメッセージがシステムコンソールに出力されてオブジェクトサーバが起動できない場合は、「8.2 システム管理コマンド」の xodstart コマンドの注意事項を参照してください。

- KFX001815-E システムでエラーが発生しました。名称：semctl 関数値

=-1 errno=22

- KFXO00105-E YYY (ZZZ) (pid=XXXX) killed by code=ascmw11 info[adm scmdw]

KFXO01815-E のメッセージの詳細については、KFXO01815-E の説明を参照してください。

KFXO00106-E : XX failed , pid=YY , type=ZZ

XX :

"malloc(aa....aa)", "realloc(bb....bb , aa....aa)", 又は "calloc(cc....cc , aa....aa)" のどれかが表示されます。

aa....aa : オブジェクトサーバ内部で発行した malloc , realloc 又は calloc 関数に指定したサイズ

bb....bb : オブジェクトサーバ内部で発行した realloc 関数に指定した領域のアドレス

cc....cc : オブジェクトサーバ内部で発行した calloc 関数に指定した配列の要素数

YY :

malloc , realloc 又は calloc 関数を発行したプロセスのプロセス ID

ZZ :

種別コード ( オブジェクトサーバの各コンポーネントで設定した識別情報 )

要因

C 標準関数の malloc , realloc 又は calloc がエラーとなったため、プロセス固有領域を確保できませんでした。

対処

システムを継続して運用できる場合は、そのまま処理を続行します。継続できない場合はオブジェクトサーバを異常終了します。

次に示す対処方法のどれかを実施してください。

- システムが処理を続行中であれば、必要のないプロセスを停止させてください。
- システム定義を見直してください。
- システムのスワップ領域を追加してください。
- UAP で必要のないエリアを確保していないか見直してください。
- 主記憶装置を増設してください。

このメッセージが繰り返し出力される場合は、メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO00107-E : XX ( YY ) failed . errno=ZZ

XX :

システムコール名 ( 最大 15 文字の半角英数字 )

YY :

システムコールを呼び出したモジュール又は関数名 ( 最大 63 文字の半角英数字 )

ZZ :

システムコールエラー時の `errno` 値 (最大 3 けたの 10 進数)

要因

オブジェクトサーバ内部で発行したシステムコールでエラーが発生しました。  
YY がファイル名で `errno` が 2 の場合、システムがセットアップされていない可能性があります。

対処

システムコール名と `errno` 値を基に原因を調査して、ユーザプログラムを修正、システム定義を変更又はシステムのメモリ容量を見直してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に `$XODDIR/spool` ディレクトリ下に `shmdump` ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、`shmdump` ファイルも同時に保存してください。

KFXO00108-I : 時刻の取得に失敗したので `xodtrace` ファイルにトレース情報を出力します。

要因

オブジェクトサーバ内部で発行したシステムコール `time()` でエラーが発生したので、`xodtrace` という名称のファイルにトレース情報を出力します。

KFXO00109-E : トレースファイルをオープンできませんでした。エラーコード : XX

エラーコード :

システムコールエラー時の `errno` 値 (最大 3 けたの 10 進数)

要因

オブジェクトサーバ内部で発行したシステムコール `open()` でエラーが発生しました。

対処

コアファイル及びログファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に `$XODDIR/spool` ディレクトリ下に `shmdump` ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、`shmdump` ファイルも同時に保存してください。

KFXO00110-E : トレースファイルの書き込みに失敗しました。エラー位置 : XX エラーコード : XX

エラー位置 :

エラーが発生した `write` を特定する番号

エラーコード :

システムコールエラー時の `errno` 値 (最大 3 けたの 10 進数)

要因

オブジェクトサーバ内部で発行したシステムコール `write()` でエラーが発生しました。

対処

コアファイル及びログファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に `$XODDIR/spool` ディレクトリ下に `shmdump` ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、`shmdump` ファイルも同時に保存してください。

KFXO00112-E : トレースファイルの書き込みに失敗しました。エラー位置 : XX

エラー位置 :

エラーが発生した write を特定する番号

要因

ファイルに書き込みをする時、残っている領域又は記憶媒体の最大容量を上回るバイト数の書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。

対処

不要なファイルを削除して、空き領域を作成してください。

KFXO00200-E : オプションの指定方法に誤りがあります。

要因

指定できないオプションを指定しています。または、オプションの後に指定値がありません。

対処

正しいオプションを指定してください。

KFXO00201-E : コマンド引数又はオプションの数が許容範囲を越えています。

要因

オプションの数は 32 個以下にしてください。コマンド引数の数は 64 個以下にしてください。

対処

コマンド引数又はオプションの数を許容範囲以内にしてください。

KFXO00202-E : コマンド引数又はオプションの長さが許容範囲を超えています。

要因

コマンド引数の合計長 (バイト) は、(256 - コマンド引数の指定数) 以下にしてください。また、フラグ引数 (オプションで指定した引数) の合計長 (バイト) は、(256 - フラグ引数の指定数) 以下にしてください。

対処

複数のファイル名、エリア名等を指定できるオプションに指定した引数の長さの総和が上限を超えないように、指定するファイル名及びエリア名などの指定数を減らしてください。複数のファイル名、エリア名等を指定できるオプションのないコマンドの場合は、オプションに指定した引数の文字数を減らしてください。

KFXO00212-W : XX用のバッファが確保できなかったためトレース情報は取得できません。

PID=YY バッファサイズ=ZZ

XX :

12 文字以内で "MODULE TRACE" 又は "UAP TRACE"

YY :

バッファが確保できなかったプロセス ID

ZZ :

確保しようとしたバッファのサイズ

要因

トレース情報を出力するバッファがプロセス固有領域に確保できませんでした。

対処

## 付録K メッセージ

トレースを取得する必要がなければ、そのまま処理を続行させてください。  
トレースを取得する必要がある場合は、このプロセスを終了させて、トレース  
のバッファサイズを見直してください。

KFXO00215-E : 定義ファイルをオープンできません。ファイル名 : XX エラー番号=YY

XX :

定義ファイル名 (最大 63 文字出力)

YY :

システムコールのエラー番号 (errno)。なお、エラー番号が 0 の場合は、パス名  
の記述に誤りがあります。

要因

定義ファイルをオープンできませんでした。

対処

障害を取り除いた後で、オブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO00216-E : 変数の指定値に誤りがあります。ファイル名 : XX YY行目 ZZ

XX :

定義ファイル名 (最大 63 文字出力)

YY :

エラーが発生した行 (最大 5 けたまで出力)

ZZ :

変数名 (先頭から 31 文字目までを出力)

要因

定義ファイルに記述されている変数の指定値が誤っています。

対処

エラーとなった変数名の指定値を訂正してください。

KFXO00217-E : コマンド名に誤りがあります。ファイル名 : XX YY行目 ZZ

XX :

定義ファイル名 (最大 63 文字出力)

YY :

エラーが発生した行 (最大 5 けたまで出力)

ZZ :

コマンド名 (先頭から最大 9 文字目までを出力)

要因

定義ファイルに記述されているコマンド名が解析できません。

対処

エラーとなったコマンド名を訂正してください。

KFXO00218-E : オプション名に誤りがあります。ファイル名 : XX YY行目 ZZ

XX :

定義ファイル名 (最大 63 文字出力)

YY :

エラーが発生した行 (最大 5 けたまで出力)

ZZ :



オプション名 (先頭から最大 3 文字目までを出力)

要因

定義ファイルに記述されているオプション名に誤りがあります。

対処

エラーとなったオプション名を訂正してください。

KFXO00219-E: コマンドの引数に誤りがあります。ファイル名: XX YY行目 ZZ

XX:

定義ファイル名 (最大 63 文字出力)

YY:

エラーが発生した行 (最大 5 けたまで出力)

ZZ:

コマンド名 (先頭から最大 9 文字目までを出力)

要因

定義ファイルに記述されているコマンド名が解析できません。

対処

エラーとなったコマンドの引数を訂正してください。

KFXO00220-E: オプションの引数に誤りがあります。ファイル名: XX YY行目 ZZ

XX:

定義ファイル名 (最大 63 文字出力)

YY:

エラーが発生した行 (最大 5 けたまで出力)

ZZ:

オプション名 (先頭から最大 3 文字目までを出力)

要因

定義ファイルに記述されているオプションの引数に誤りがあります。

対処

エラーとなったオプションの引数を訂正してください。

KFXO00221-E: メモリが足りないため、定義ファイルの解析ができません。要求メモリ量=XX

要因

定義ファイルの解析処理で、メモリ容量が不足しました。

対処

次に示す対処方法のどれかを実施してください。

- システムが処理を続行中であれば、必要のないプロセスを停止させてください。
- UAP で必要のないエリアを確保していないか見直してください。
- システム定義を見直してください。
- システムのスワップ領域を追加してください。
- 主記憶装置を増設してください。

このメッセージが繰り返し出力される場合は、メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する

## 付録K メッセージ

前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO00223-E : オプションの指定が重複しています。ファイル名 : XX YY行目 ZZ

XX :

定義ファイル名 (最大 63 文字出力)

YY :

エラーが発生した行 (最大 5 けたまで出力)

ZZ :

オプション名 (先頭から最大 3 文字目まで出力)

要因

オプションの指定が重複しています。

対処

重複して指定しているオプションの、どちらか一方を削除してください。

KFXO00224-E : XXシステムコール (関数) でエラーが発生しました。エラー情報=YY エラーの発生した関数名 (コマンド) : ZZ

XX :

発行したシステムコール名又はオブジェクトサーバの関数名 (31 文字以内)

YY :

システムコール又は関数のリターンコード

ZZ :

エラーが発生したオブジェクトサーバ関数名又はコマンド名 (31 文字以内)

要因

プログラム内で発行したシステムコール又はオブジェクトサーバの関数がエラーとなりました。

対処

システムコールの場合は、リターンコードを参照して原因を調査し、システム定義を変更してください。

オブジェクトサーバの関数の場合は、モジュールトレース又はコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO00240-E : 環境変数を設定できません。ファイル名 : XX YY行目

XX :

ファイル名 (最大 63 文字出力)

YY :

エラーが発生した行 (最大 5 けたまで出力)

要因

環境変数の設定に記述されている変数の指定値に誤りがあります。

対処

putenv コマンドで指定する環境変数値を訂正してください。

KFXO00241-E : I/Oエラーが発生しました。ファイル名 : XX

ファイル名 :

## 最大 63 文字出力

## 要因

定義情報を解析するために使用する定義ファイルの読み出しがエラーとなりました。

## 対処

障害を取り除いて、オブジェクトサーバを再起動してください。  
障害を取り除けない場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO00242-E : 定義ファイルをオープンできません。定義ファイル名 : XX エラー番号=YY

XX :

定義ファイル名 (最大 63 文字出力)

YY :

システムコールのエラー番号 (errno)。なお、エラー番号が 0 の場合は、パス名称の記述に誤りがあります。

## 要因

次に示す要因のため、定義ファイルをオープンできません。

1. システム共通定義ファイル (\$XODCONFPATH/xodrc) がない
2. 環境変数 (XODDIR 又は XODCONFPATH) にオブジェクトサーバのシステム管理者のホームディレクトリのパス名が設定されていない
3. B シェルで \$XODDIR にパス名を設定した後に、export コマンドを実行していない
4. システム共通定義 (xodrc ファイル) に対してオブジェクトサーバのシステム管理者に参照権限がない
5. 環境変数 (XODCONFPATH) に設定したパス名に、オブジェクトサーバのシステム管理者が参照できる権限がないディレクトリがある
6. 環境変数 (XODDIR 又は XODCONFPATH) に設定したパス名が存在しない

## 対処

エラー番号で示す障害を取り除いてください。パス名称に誤りがある場合は、そのパス名称又はファイル名を訂正してください。  
ただし、エラー番号は、一つのコードで複数の要因を記述している場合があります。上記の要因の中から該当する要因を特定し、それぞれ対処してください (要因と対処の番号は対応しています)。

1. システム共通定義ファイルを作成してください。
2. 環境変数 (XODDIR 及び XODCONFPATH) が設定されていることを確認してください。設定されていない場合は、環境変数を設定してください。

[ B シェルの例 ]

```
XODDIR=/usr/ObjSV/HOME
XODCONFPATH=$XODDIR/conf
export XODDIR XODCONFPATH
```

3. export コマンドを実行してください。

[ B シェルの例 ]

```
export XODDIR XODCONFPATH
```

4. オブジェクトサーバのシステム管理者のユーザ ID を使って、システム共通

定義ファイルに参照権限を与えてください。chmod コマンドで xodrc に参照権限を付与してください。

5. chmod コマンドで該当ディレクトリに参照権限を付与してください。

6. 次のコマンドを実行して確認してください。

```
cd $XODDIR
```

```
pwd
```

ここで、表示されたパス名をオブジェクトサーバのシステム管理者のホームディレクトリへのパス名称と一致させてください。

```
cd $XODCONFPATH
```

cd コマンドが正常に終了することを確認してください。

KFXO00243-E : このレコードは最大レコード長を超えています。ファイル名 : XX YY行目  
XX :

ファイル名 (最大 63 文字出力)

YY :

エラーが発生した行 (最大 5 けたまで出力)

要因

定義情報レコード長が最大レコード長 (80 バイト) を超えています。

対処

エラーとなった定義情報を 1 行 80 バイトに収まるよう訂正するか又は継続行に分けて記述してください。

KFXO00244-E : 変数名の指定に誤りがあります。ファイル名 : XX YY行目  
XX :

ファイル名 (最大 63 文字出力)

YY :

エラーが発生した行 (最大 5 けたまで出力)

要因

指定された変数に次の誤りがあるため、解析できません。

- 変数名が記述されていません。
- 指定された変数名に誤りがあります。

対処

変数名を正しく指定してください。又は定義ファイルと定義内容の関係が正しいか見直してください。

KFXO00246-E : XXの記述形式に誤りがあります。ファイル名 : YY ZZ行目  
XX :

エラーが発生した定義名 (set , putenv など)

YY :

ファイル名 (最大 63 文字出力)

ZZ :

エラーが発生した行 (最大 5 けたまで出力)

要因

定義名の記述形式に誤りがあります。

対処

該当する定義情報を訂正してください。

KFXO00247-E : コマンド名に誤りがあります。 XX

要因

コマンド名に誤りがあります。

対処

コマンド名を訂正してください。

KFXO00248-E : オプション名に誤りがあります。 XX

要因

オプション名に誤りがあります。

対処

コマンドのオプション名を訂正してください。

KFXO00249-E : コマンドの引数に誤りがあります。 XX

要因

コマンドの引数に誤りがあります。

対処

コマンドの引数を訂正してください。

KFXO00250-E : オプションの引数に誤りがあります。 XX

要因

オプションの引数に誤りがあります。

対処

コマンドのオプションの引数を訂正してください。

KFXO00251-E : オプションの指定が重複しています。 XX

要因

オプションの指定が重複しています。

対処

同じオプションが二つ以上指定されている場合は、どちらか一方を削除してください。

KFXO00306-E : RPCのためのメモリ不足が発生しました。自プロセスID=XX 自プロセスのポート番号=YY

要因

RPCのために発行した socket() や send() などのシステムコールがメモリ不足によって異常終了しました。

対処

次のように対処してください。

- ネットワークが正常に動作しているか確認してください。
- システムの電源を切り、再起動してください。
- このエラーが繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO00330-W : XX (pid=YY) で不当なデータを受信しました。ポート番号 : ZZ,受信データ : AA

XX :

プロセスのサーバ名 (8 バイト以内)

## 付録K メッセージ

特定できない場合は、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

YY:

プロセスの ID

ZZ:

受信したプロセスのポート番号

AA:

受信したデータの先頭から 16 進で 12 バイト分

(例) 000000000000000000000000

要因

不当なデータを受信しました。受信したデータを無視します。

対処

通信設定ファイル (services ファイル) でメッセージ内の「ポート番号」に示すポート番号を使用していないかを確認してください。使用している場合は設定値を変更してください。使用していない場合は、このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO00340-W: プロセス間通信処理中にメモリ不足が発生しました。PID=XX, ポート番号=YY

XX:

プロセスの ID

YY:

自ポート番号

要因

プロセス間通信のために発行した socket() や send() などのシステムコールで一時的にメモリ不足が発生しました。

対処

メモリ不足が解消されるまで通信処理を再試行するため、一時的に応答時間が長くなります。次のように対処してください。

- システムの使用状況を調査して、実メモリの見積もりを見直してください。
- 実メモリのうち OS がバッファ・キャッシュとして使用する割合が動的になっている場合は、Groupmax として使用できる実メモリが不足しないような値に変更してください。

KFXO00403-E: 排他サービスを開始できません。理由コード=XX

要因

排他サービスの開始・再開処理中に障害が発生しました。

対処

次に理由コードとその対処を示します。

| 理由コード | 内容                  | 対処                         |
|-------|---------------------|----------------------------|
| 10    | 定義解析開始処理でエラーが発生しました | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください |
| 20    | 通信障害が発生しました         | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください |

| 理由コード | 内容                        | 対処                                                      |
|-------|---------------------------|---------------------------------------------------------|
| 30    | 領域が不足しています                | メモリ資源を取りすぎていないか確認してください。メモリ資源を取りすぎている場合は、不要な資源を解放してください |
| 40    | 共用メモリが不足しています             | システム共通定義の共用メモリプールサイズを見直してください                           |
| 50    | ステータスファイルのアクセスエラーが発生しました  | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください                              |
| 60    | デッドロック情報を出力するディレクトリがありません | \$XODDIR/spool/delckinf ディレクトリを作成してください                 |

KFXO00412-E：排他サービスの終了中にエラーが発生しましたが、このまま続行します。理由コード=XX

要因

他サービスの終了中にエラーが発生しました。

対処

次に理由コードとその対処を示します。これらの方法で対処した後に、再起動してください。

| 理由コード | 内容          | 対処                         |
|-------|-------------|----------------------------|
| 10    | 通信障害が発生しました | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください |

KFXO00420-E：排他サービス関係の定義解析中にエラーが発生しました。

要因

排他サービス関係の定義情報を解析中にエラーが発生しました。

対処

排他サービス関係の定義情報を見直してください。

KFXO00430-E：XXコマンドが実行できませんでした。理由コード=XX

要因

パラメタの指定誤り及び実行時のエラーによって、コマンドの実行ができなくなったため、処理を中断しました。

対処

理由コードを参照して対処した後に、再度起動してください。

| 理由コード | 内容          | 対処                                                      |
|-------|-------------|---------------------------------------------------------|
| 10    | 通信障害が発生しました | システムの起動が完了しているかを確認してください。又は、前に出力された障害メッセージに従って対策してください  |
| 30    | 領域不足が発生しました | メモリ資源を取りすぎていないか確認してください。メモリ資源を取りすぎている場合は、不要な資源を解放してください |

## 付録K メッセージ

| 理由コード | 内容                     | 対処                           |
|-------|------------------------|------------------------------|
| 40    | バージョンの不一致が発生しました       | Object Server を再インストールしてください |
| 50    | ネームサーバデーモンがまだ起動されていません | ネームサーバデーモンが起動されているか、見直してください |

KFXO00432-I：使用方法：xodlckpl

### 要因

xodlckpl コマンド（排他制御テーブルのプール情報の表示）の使用方法を表示します。このメッセージは、次の要因によって出力されました。

- コマンドのオプション又は引数の使用方法に誤りがありました。

### 対処

正しい使用方法でコマンドを入力してください。

KFXO00433-E：排他サービスはコマンドの実行環境が整っていないので、XXコマンドが実行できません。

### 要因

オブジェクトサーバの内部プロセスが未起動又は終了中のためコマンドを実行できません。

### 対処

システムの起動完了後、コマンドを入力してください。

KFXO00437-E：コマンドの形式が不正のため、XXコマンドが実行できません。

### 要因

コマンドの形式に誤りがあるため、コマンドが実行されません。

### 対処

コマンドを正しく入力してください。

KFXO00440-I：デッドロックが発生しました。サーバ名：XX

### 要因

排他処理でデッドロックが発生しました。

### 対処

デッドロックが発生した処理を再実行してください。

KFXO00441-I：デッドロック情報を出力しました。ファイル名：XX

### 要因

デッドロックを検出したため、デッドロック情報をファイルに出力しました。

### 対処

出力されたデッドロック情報を調べ、必要があればデッドロックの原因を取り除いてください。調査の終了したデッドロック情報や調査の必要がないデッドロック情報は削除してください。

KFXO00442-E：デッドロック情報が出力できません。理由コード=XX

### 要因

障害のため、デッドロック情報が出力できません。

### 対処

理由コードによって対策してください。



| 理由コード | 内容                       | 対処                                                                                                |
|-------|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10    | 環境変数 XODDIR の値の取得に失敗しました | XODDIR の値が設定されているかどうか、見直してください                                                                    |
| 20    | ファイルのオープンに失敗しました         | \$XODDIR/spool/delckinf ディレクトリがあるか、確認してください。ファイルの数が多すぎないか、確認してください。ファイルの数が多すぎる場合は不要なファイルを削除してください |
| 30    | ファイルへの書き込みに失敗しました。       | ファイルの数が多すぎないか、確認してください。ファイルの数が多すぎる場合は、不要なファイルを削除してください                                            |
| 40    | 時刻の取得に失敗しました             | 繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください                                                                       |
| 50    | 領域不足が発生しました              | メモリ資源をとりすぎていないか確認してください。メモリ資源を取りすぎている場合は、不要な資源を解放してください                                           |

KFXO00460-E：メモリ不足が発生しました。サイズ=XXバイト 領域種別：YY

サイズ：

確保しようとしたサイズ (10 けた以内の数字)

領域種別：

メモリ不足が発生した領域の種別 (15 文字以内の英数字)

次のどれかが表示されます。

- STATIC\_SHMPOOL：静的共用メモリ領域
- DYNAMIC\_SHMPOOL：動的共用メモリ領域
- PROCESS：プロセス領域

要因

メモリ不足が発生しました。

対処

次のように対処してください。

- 確保しようとした領域が共用メモリの場合は、該当する定義の指定値を見直してください。
- プロセス領域の場合は、プロセス数などを見直してください。
- 繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO00480-W：排他資源管理プールの使用量が80%になりました。

要因

排他資源管理プールの使用量が 80% に達した時に出力されます。

対処

システム管理者に連絡して今後の運用に影響しないか確認してください。

システム共通定義の lck\_limit 指定値を見直してください。

KFXO00481-E：排他資源管理プールが不足しました。

要因

排他資源プールがすべて使用中で、新たに確保できなかった場合に出力されます。

対処

システム管理者に連絡して、今後の運用に影響しないか確認してください。

KFXO00601-E：ネームサービス実行中に共用メモリが不足しました。不足した共用メモリ=XX  
不足したサイズ=YY

要因

ネームサービス実行中に共用メモリ容量が不足しました。

対処

共用メモリ容量を見直して、定義変数の指定値を変更してください。

KFXO00606-E：定義変数 (local\_domain\_name) に指定されたノード名は未定義です。定義  
ファイル:SERVER

ノード名 =XX

要因

/etc/hosts もしくはネットワーク環境ファイルに自ホストのノード名が設定されて  
いません。

対処

/etc/hosts もしくはネットワーク環境ファイルを修正してオブジェクトサーバを  
再起動してください。

KFXO00700-E：XXシステムコールでエラーが発生しました。リターン情報=YY エラーが発  
生した関数名：ZZ

XX：

システムコール名

YY：

システムコールのリターンコード (errno)

ZZ：

エラーが発生した関数名

要因

システムコールでエラーが発生しました。

対処

システムコールのリターンコードに示された障害を取り除いてください。

KFXO00701-E：ファイルシステムの異常のため処理が続行できません。

要因

ファイルを操作するシステムコールが異常終了しました。

対処

補助記憶装置に電源が入っているか確認してください。

システムの電源を切って、再起動してください。

繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO00703-E：メモリ不足が発生しました。サイズ=XXバイト 領域種別：YY

サイズ：

確保しようとした領域のサイズ (10 けた以内の数字)

領域種別：

メモリ不足が発生した領域の種別 (15 文字以内の英数字)。

次のどちらかが表示されます。

- STATIC\_SHMPOOL：静的共用メモリ領域

- PROCESS : プロセス領域

## 要因

メモリ不足が発生しました。

## 対処

次のように対処してください。

- 確保しようとした領域が共用メモリの場合は、定義の指定値を見直してください。
- プロセス領域の場合は、プロセス数などを見直してください。
- 繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO00705-E : 定義ファイルの解析中にエラーを検出しました。

## 要因

定義ファイルを解析中にエラーを検出しました。

## 対処

定義ファイルを訂正し、xodstart コマンドを入力してください。

KFXO00710-E : 共用メモリを利用できないため処理が続行できません。

## 要因

プロセスサーバデーモン又はコマンドで共用メモリを利用できません。

## 対処

オブジェクトサーバが動作している場合はオブジェクトサーバを終了して電源を切り、システムを再起動してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO00712-E : システム障害のため処理が続行できません。

## 要因

プログラム不良又はハードウェア不良のため処理が続行できません。

## 対処

ログファイル及びコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO00713-E : サーバ名XXに対するロードモジュールYYがありません。

## 要因

\$XODDIR/lib/servers の下にロードモジュールがありません。

## 対処

\$XODDIR/lib/servers の下にロードモジュールがあるか確認して、システムを組み込み直してください。

KFXO00714-E : サーバ名XXに対するロードモジュールYYが実行可能ファイルではありません。

## 要因

\$XODDIR/lib/servers の下のロードモジュールは実行可能ファイルではありません。

## 対処

\$XODDIR/lib/servers の下のロードモジュールに実行許可を与えてください。

## 付録K メッセージ

KFXO00715-E : 続行不可能なエラーが発生しました。(要因コード: XX) xodsetup -dを投入してください。

### 要因

処理続行不可能なエラーが発生しました。エラーの要因を、要因コードに示します。

- 1 : /etc/inittab の内容が不正
- 2 : メモリ容量の不足
- 3,5,104,105 : ステータスファイルのアクセスに失敗
- 4,13,101 : ステータスファイルのオープンに失敗
- 6,102 : ステータスファイルの書き込みに失敗
- 7 : システムが3回連続してダウン
- 8 : ステータスファイルの内容不正
- 9,10,14 : ステータスファイルの書き込みに失敗
- 11,15,103 : ステータスファイルのクローズに失敗
- 12, 16, 20 : 共用メモリのアクセスエラー

KFXO00717-E : システムが3回連続ダウンしました。

### 要因

オブジェクトサーバを再開する処理で、システムが3回連続ダウンしました。

### 対処

このメッセージの前に出力されたメッセージに従って対策してください。

KFXO00719-E : メッセージ出力障害が発生しました。出力しようとしたメッセージIDはXXです。

### 要因

メッセージ出力障害が発生しました。

### 対処

このメッセージの前の障害対策、及び出力しようとしたメッセージに従って対処してください。

KFXO00760-E : ユティリティが動作しているため、サーバ実行モードを変更できません。

### 要因

コマンドが動作しているため、サーバ実行モードを変更できません。

### 対処

動作しているコマンドの処理が終了してから、サーバ実行モードをアプリケーションプログラム実行モードに変更してください。

KFXO00761-E : サーバ実行モードは既にA P実行モードです。

### 要因

サーバ事項モードは既にアプリケーションプログラム実行モードであるため、サーバ実行モードの変更は不要です。

KFXO00762-I : サーバ実行モードをA P実行モードに変更しました。

### 要因

サーバ事項モードをアプリケーションプログラム実行モードに変更しました。

KFXO00803-E : スケジューラを開始できません。理由コード=XX

## 要因

スケジューラの正常開始・再開処理中に障害が発生しました。

## 対処

次に理由コードとその対処を示します。

| 理由コード | 内容                    | 対処                                            |
|-------|-----------------------|-----------------------------------------------|
| 1     | 共用メモリを確保出来ません         | 定義で指定したメモリサイズを見直してください                        |
| 2     | 定義情報を解析中にエラーが発生しました   | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください                    |
| 3     | 閉塞用ファイルのアクセスに失敗しました   | 不要なファイルを削除してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。 |
| 4     | ステータスファイルのアクセスに失敗しました | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください。                   |
| 5     | 通信障害が発生しました           | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください                    |
| 6     | キュー情報ファイルのアクセスに失敗しました | 不要なファイルを削除してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。 |

KFXO00855-E：メモリ不足が発生しました。サイズ=XXバイト 領域種別：YY

## サイズ：

確保しようとしたサイズ (10 けた以内の数字)

## 領域種別：

メモリ不足が発生した領域の種別 (15 文字以内の英数字)。

次のどれかが表示されます。

- STATIC\_SHMPOOL：静的共用メモリ領域
- DYNAMIC\_SHMPOOL：動的共用メモリ領域
- PROCESS：プロセス領域

## 要因

領域の確保ができませんでした。

## 対処

次のように対処してください。

- 確保しようとした領域が共用メモリの場合は、定義の指定値を見直してください。
- プロセス領域の場合は、プロセス数などを見直してください。
- 繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO00955-E：トランザクションサービスを開始できません。理由コード=XX

## 要因

トランザクションサービスを開始できません。

## 対処

次に理由コードとその対処を示します。

付録K メッセージ

| 理由コード | 内容                           | 対処                                           |
|-------|------------------------------|----------------------------------------------|
| 0001  | プロセスメモリが不足しました               | プロセス数を少なくしてください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。 |
| 0100  | 共用メモリが不足しました                 | 共用メモリを見積もり直し、適切な値に変更してください。                  |
| 0200  | 定義解析開始処理でエラーが発生しました          | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください                   |
| 0201  | トランザクションサービス定義の解析に失敗しました     | トランザクションサービス定義を見直してください                      |
| 0300  | 通信障害が発生しました                  | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください                   |
| 0600  | ネームサービスへのサービス情報の登録に失敗しました    |                                              |
| 1000  | ステータスファイルの読み込みに失敗しました        |                                              |
| 1001  | ステータスファイルの書き込みに失敗しました。       |                                              |
| 1002  | ステータスレコードの確保に失敗しました          |                                              |
| 1100  | ジャーナルサービスの使用の開始時にエラーが発生しました  |                                              |
| 1800  | 回復プロセスの起動に失敗しました             |                                              |
| 1801  | システムマネージャにサーバ完了報告時エラーが発生しました |                                              |

KFXO00956-E：トランザクションサービスを終了中に障害が発生しましたが、このまま続行します。理由コード=XX

要因

トランザクションサービスを終了中に障害が発生しました。

対処

次に理由コードとその対処を示します。

| 理由コード | 内容                        | 対処                                                               |
|-------|---------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 0001  | プロセスメモリが不足しました            | プロセス数を少なくしてから、再度オブジェクトサーバを起動してください。それでも多発する場合は、システム管理者に連絡してください。 |
| 0300  | 通信障害が発生しました               | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください                                       |
| 0601  | ネームサービスへのサービス情報の削除に失敗しました |                                                                  |
| 1001  | ステータスファイルの書き込みに失敗しました     |                                                                  |
| 1003  | ステータスファイルの解放に失敗しました       |                                                                  |

| 理由コード | 内容                        | 対処 |
|-------|---------------------------|----|
| 1101  | ジャーナルサービス使用終了時にエラーが発生しました |    |
| 1802  | 回復プロセスの終了に失敗しました          |    |

KFXO00958-I：システム終了中のため、新たなトランザクションの受付は中止します。

要因

システムに計画停止、終了指示がされたため、新たなトランザクションの受け付けを中止します。トランザクションサービスは終了処理に備えます。

KFXO00961-E：トランザクション回復サービスを開始できません。理由コード=XX

要因

トランザクション回復サービスの開始中に、理由コードに示すエラーが発生しました。トランザクション回復サービスを開始できません。

対処

以下に理由コードとその対処を示します。対処してから、オブジェクトサーバを再起動してください。

| 理由コード | 内容                              | 対処                         |
|-------|---------------------------------|----------------------------|
| 0200  | 定義解析開始処理でエラーが発生しました             | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください |
| 0300  | 通信障害が発生しました                     |                            |
| 0800  | 回復プロセスのスケジュールサービスの登録に失敗しました     |                            |
| 1801  | システムマネージャへのサービス完了報告時にエラーが発生しました |                            |

KFXO00962-E：トランザクション回復サービスの終了中に障害が発生しましたが、このまま続行します。理由コード=XX

要因

トランザクション回復サービスの終了中に障害が発生しました。

対処

次に理由コードとその対処を示します。

| 理由コード | 内容          | 対処                         |
|-------|-------------|----------------------------|
| 0300  | 通信障害が発生しました | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください |

KFXO00965-E：メモリ不足が発生しました。サイズ=XXバイト 領域種別=YY

XX：

確保しようとしたサイズ (10 けた以内の数字)

YY：

メモリ不足が発生した領域の種別 (15 文字以内の文字列)

次のどれかが表示されます。

- STATIC\_SHMPOOL：静的共用メモリ領域
- DYNAMIC\_SHMPOOL：動的共用メモリ領域

## 付録K メッセージ

- PROCESS：プロセス領域

### 要因

領域を確保できませんでした。

### 対処

次のように対処してください。

- 確保しようとした領域が共用メモリの場合は、該当する定義の指定値を見直してください。
- プロセス領域の場合は、プロセス数などを見直してください。
- 繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO00990-I：トランザクションの回復が完了しました。ルートノード名=WW トランザクション通番=XX，サーバ名=YY，完了種別=ZZ

WW：

ルートのオブジェクトサーバシステムノード ID(8文字の文字列)

XX：

トランザクション通番(10けた以内の数字)

YY：

サーバ名(8文字以内の文字列)

ZZ：

完了種別

- c：コミット
- r：ロールバック

### 要因

トランザクションの回復が完了しました。

KFXO00991-W：トランザクションの回復ができません。ルートノード名=WW トランザクション通番=XX，サーバ名=YY，決着種別=ZZ

WW：ルートのオブジェクトサーバシステムノード ID(8文字の文字列)

XX：トランザクション通番(10けた以内の数字)

YY：サーバ名(4文字以内の文字列)

ZZ：決着種別

- c：コミット
- r：ロールバック

### 要因

トランザクションの回復ができません。

### 対処

リソースマネージャで発生した障害(このメッセージの前に出力されたメッセージ)を取り除いてください。

KFXO01001-I：現用ステータス論理ファイルをXXに決定し、ステータスサービスを開始しました。

XX：

現用ステータス論理ファイル名(8文字以内の英数字)

### 要因

ステータスサービスの開始処理を始めました。



KFXO01005-E : ステータスサービスを開始できません。理由コード : XX

XX :

エラー内容を示す理由コード (10 けたの数字)

要因

ステータスサービス開始で理由コードによるエラーが発生しました。

対処

理由コードによって対策し、再度オブジェクトサーバを起動してください。

| 理由コード      | 内容                                          | 対処                                                                                                                                                                                               |
|------------|---------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 0000000001 | 定義環境エラー                                     | 以前に出力されたエラーメッセージに従ってください                                                                                                                                                                         |
| 0000000003 | ステータスサービス定義エラー                              | ステータスサービス定義を見直してください                                                                                                                                                                             |
| 0000000004 | 現用ステータスファイルがありません。                          | 現用ステータスファイルを準備してください                                                                                                                                                                             |
| 0000000005 | メモリ不足発生 (テーブル確保時)                           | プロセス数を減らしてください                                                                                                                                                                                   |
| 0000000006 | メモリ不足発生 (テーブル確保時)                           | プロセス数を減らしてください                                                                                                                                                                                   |
| 0000000007 | ステータスファイル障害発生                               | 以前に出力されたエラーメッセージに従ってください                                                                                                                                                                         |
| 0000000008 | ステータスファイル管理レコードバッファ常駐化エラー発生                 | 以前に出力されたエラーメッセージに従ってください                                                                                                                                                                         |
| 0000000009 | スワップ処理エラー発生                                 | 以前に出力されたエラーメッセージに従ってください                                                                                                                                                                         |
| 0000000010 | ステータスファイル障害発生                               | ステータスファイル障害を取り除いてください                                                                                                                                                                            |
| 0000000011 | ステータスファイル現用決定時刻取得エラー発生                      | 以前に出力されたエラーメッセージに従ってください                                                                                                                                                                         |
| 0000000012 | プロセス間通信環境設定エラー発生                            | 以前に出力されたエラーメッセージに従ってください                                                                                                                                                                         |
| 0000000013 | プロセス間通信に失敗しました                              | 以前に出力されたエラーメッセージに従ってください                                                                                                                                                                         |
| 0000000014 | 定義環境情報取得エラー                                 | 以前に出力されたエラーメッセージに従ってください                                                                                                                                                                         |
| 0000000015 | 現用ステータスファイルと、論理ファイル名が一致しません                 | sts_last_active_file 文に前回の Object Server までの最新の現用ステータス論理ファイル名を指定してください。sts_lats_active_file 文に現用ステータス論理ファイル名が正しく指定してあった場合、再開できません。その場合は、全ステータスファイルを初期化 (xodstsinit) し、再度 Object Server を起動してください |
| 0000000016 | 前回の Object Server までの最新の現用ステータスファイルが確定できません | sts_last_active_file 文に前回の Object Server までの最新の現用ステータス論理ファイル名を指定してください                                                                                                                           |

KFXO01006-E : ステータスサービス定義のXX文に指定誤りがあります。理由コード : YY

付録K メッセージ

XX :  
 ステータスサービス定義文 (32 文字以内の英数字)  
 YY :  
 エラーの内容を示す理由コード (10 けたの数字)  
 要因  
 ステータスサービス定義の解析中にエラーが発生しました。  
 対処  
 理由コードによって対策し、再度オブジェクトサーバを起動してください。

| 理由コード      | 内容                      | 対処                   |
|------------|-------------------------|----------------------|
| 0000000001 | 定義の内容が重複しています           | ステータスサービス定義を見直してください |
| 0000000002 | 定義文誤り                   | ステータスサービス定義を見直してください |
| 0000000003 | 定義文指定値エラー               | ステータスサービス定義を見直してください |
| 0000000004 | 定義文指定文字数不正              | ステータスサービス定義を見直してください |
| 0000000005 | 定義に指定したファイル名がありません      | ステータスサービス定義を見直してください |
| 0000000006 | 定義の組み合わせで指定できない定義文があります | ステータスサービス定義を見直してください |

KFXO01008-I : 予備ステータスファイルとして使用できないファイルがあります。ファイル名 : XX 理由コード : YY

XX :  
 ステータスファイルのパス名 (63 けた以内の英数字) , 又はステータス論理ファイル名 (10 けたの数字)  
 YY :  
 エラーの内容を示す理由コード (10 けたの数字)  
 要因  
 予備ステータスファイルとして使用できないファイルがあります。  
 対処  
 理由コードによって対策してください。

| 理由コード      | 内容                     | 対処                            |
|------------|------------------------|-------------------------------|
| 0000000001 | 現用ステータスファイルとレコード長が不一致  | 現用ステータスファイルのレコード長に合わせてください    |
| 0000000002 | A 系と B 系ファイルのレコード数の不一致 | A 系と B 系ファイルのレコード数をおなじにしてください |
| 0000000003 | A 系と B 系ファイルのレコード長の不一致 | A 系と B 系ファイルのレコード長をおなじにしてください |

KFXO01010-E : 最新の情報を持つステータスファイルでエラーが発生しました。ステータス物理ファイル名 : XX 理由コード : YY

XX :

ステータス物理ファイル名 (63 けた以内の英数字)

YY :

エラーの内容を示す理由コード (10 けたの数字)

要因

最新の情報を持つステータスファイルでエラーが発生しました。

対処

理由コードによって以下の動作をします。A 系, B 系両方共障害が発生した場合は, 開始処理を中止します。

| 理由コード      | 内容                                       | 対処                                                                      |
|------------|------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 0000000001 | A 系と B 系ファイルのレコード数または, レコード長の不一致         | A 系と B 系ファイルのレコード数又は, レコード長を同じにして xodstsinit コマンドで初期設定してください            |
| 0000000002 | A 系と B 系ファイルのレコード数または, レコード長の不一致, かつ異常検知 | A 系と B 系ファイルのレコード数又は, レコード長を同じにして xodstsinit コマンドで初期設定してください            |
| 0000000003 | A 系と B 系ファイルのレコード更新番号の不一致                | B 系ファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください                                     |
| 0000000004 | A 系と B 系ファイルのレコード更新不正検知                  | A 系と B 系ファイルをコマンドで初期設定してください                                            |
| 0000000005 | レコード入力エラー発生                              | KFXO01040-E メッセージに従ってください                                               |
| 0000000006 | ファイル更新未完了を検知しました                         | 対策する必要はありません。ただし, A 系と B 系共に障害となった場合, xodstsinit コマンドで障害ファイルを初期設定してください |

KFXO01040-E : ステータス物理ファイルで XX エラーが発生しました。ステータス物理ファイル名 : YY 理由コード : ZZ

XX :

エラー内容

- create : ファイルの作成
- fstat ; ファイルの状態報告
- open : ファイルの o p e n
- close : ファイルの c l o s e
- read : レコードの入力
- write : レコードの出力
- logicai : レコード整合性
- filecheck : レコード妥当性
- delete : ファイルの削除
- clsdel : ファイルのクローズ後削除

YY :

ステータス物理ファイル名 (63 けた以内の英数字)

ZZ :

## 付録K メッセージ

エラーの内容を示す理由コード (10 けたの数字)

要因

ステータス物理ファイルでエラーが発生しました。(10 文字以内の英数字)

対処

理由コードによって対策してください。

| 理由コード     | 内容                                       | 対処                                                        |
|-----------|------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 000000001 | ステータスレコードの整合性番号不一致                       | このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください。                       |
| 000000002 | 入出力レコード番号がステータスファイルの範囲外                  | システム管理者に連絡してください。                                         |
| 000000003 | ステータスファイルの更新未完了状態                        | このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください。又は、オブジェクトサーバを起動してください。 |
| 000000004 | ファイルシステムエラー                              | システム管理者に連絡してください。                                         |
| 000000005 | ステータスファイル管理レコード (S M R) 内バイトマップ不正        | このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください。                       |
| 000000006 | このファイルはステータスファイルとして未定義                   | このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください。                       |
| 000000007 | 障害ファイル初期化エラー                             | このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください。                       |
| 000000008 | 定義したファイルとファイル実体の不一致 (レコード長, レコード数)       | このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください。                       |
| 000000009 | ステータスファイル管理レコード (S T R) 内データプロトコルバージョン不正 | このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください。                       |
| 000000010 | ステータスファイル管理レコード (S T R) 内タイムスタンプ不正       | このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください。                       |
| 000000011 | ステータスファイル管理レコード (S H R) 内ファイル状態情報不正      | このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください。                       |
| 000000020 | ファイルのアクセス権限がありません。                       | ステータスファイルのアクセス権限を付加してください。                                |
| 000000022 | 排他エラー                                    | ステータスファイルの排他解除後, 再度実行してください。                              |
| 000000023 | ロックセグメント不足                               | ファイルシステムの環境を見直してください。                                     |
| 000000024 | ファイルの書き込み権限がありません。                       | ステータスファイルの書き込み権限を付加してください。                                |
| 000000025 | ファイル数, 上限値オーバー                           | ファイルシステムの環境を見直してください。                                     |
| 000000026 | ステータスファイル用に未初期化                          | ファイルシステムを初期化してください。                                       |
| 000000027 | I / O エラー                                | このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください。                       |

| 理由コード     | 内容               | 対処                                                  |
|-----------|------------------|-----------------------------------------------------|
| 000000028 | メモリ不足            | プロセスの動作できるメモリを確保してください。                             |
| 000000029 | ファイルがありません。      | xodstsinit コマンドで初期設定してください。又は、ステータスサービス定義を見直してください。 |
| 000000031 | ファイル名不正          | コマンドの引数に指定したステータスファイル名、又はステータスサービス定義を見直してください。      |
| 000000032 | ファイルステータスフラグ重複指定 | システム管理者に連絡してください。                                   |
| 000000033 | モード引数不正          | システム管理者に連絡してください。                                   |
| 000000034 | flags 引数不正       | システム管理者に連絡してください。                                   |
| 000000035 | レコード数引数不正        | システム管理者に連絡してください。                                   |
| 000000036 | レコード長引数不正        | システム管理者に連絡してください。                                   |
| 000000037 | ファイルがありません       | xodstsinit コマンドで初期設定してください。又はステータスサービス定義を見直してください。  |
| 000000038 | 領域を確保できません。      | ファイルシステムの環境を見直してください。                               |
| 000000039 | ファイルシステムバージョン不一致 | ファイルシステムの環境を見直してください。                               |
| 000000040 | ファイル記述子不正        | システム管理者に連絡してください。                                   |
| 000000041 | バッファアドレス不正       | システム管理者に連絡してください。                                   |
| 000000042 | レコード番号引数不正       | システム管理者に連絡してください。                                   |

KFXO01041-I: ステータスサービスは、エラーが発生したファイルを close後、閉塞状態にします。エラーが発生したファイルを xodstsrnコマンドで削除した後、xodstsinitコマンドと xodstsopn コマンドを使用して、予備ステータスファイルにしてください。

**要因**

ステータスサービスで、エラーが発生しました。

**対処**

このメッセージに従ってください。

KFXO01042-E: ステータス論理ファイルで容量不足エラーが発生しました。ステータス論理ファイル名: XX

XX:

ステータス論理ファイル名 (8文字以内の英数字)

**要因**

ステータス論理ファイル容量不足エラーが発生しました。

**対処**

ステータスファイル容量を見直してください。

KFXO01043-I: ステータス論理ファイルでフラグメンテーションが発生しました。ステータス論理ファイル名: XX

XX:

ステータス論理ファイル名 (8文字以内の英数字)

**要因**

## 付録K メッセージ

ステータス論理ファイルでフラグメンテーションが発生しました。

対処

ステータスファイル容量を見直してください。

KFXO01050-E : プロセス間通信エラーが発生しました。

要因

イーサネットボードやケーブルなどのハードウェア障害、ネットワーク定義の設定誤り。

目的ノードが実行中ではありません。又は、そのノードでオブジェクトサーバが実行中ではありません。

目的プロセスが実行中ではありません。

対処

オブジェクトサーバ動作環境を OS の提供するコマンドなどで調査して障害要因を取り除いた後、再度ステータスサービスにサービス要求をしてください。

KFXO01060-I : ステータスファイルのXXをオープンしました。

XX :

ステータスファイルのパス名 (63 文字以内の英数字)、又は、ステータス論理ファイル名 (8 文字以内の英数字)

要因

ステータスファイルのオープンを完了しました。

KFXO01061-I : ステータスファイルのXXをクローズしました。

XX :

ステータスファイルのパス名 (63 文字以内の英数字)、又は、ステータス論理ファイル名 (8 文字以内の英数字)

要因

ステータスファイルのクローズを完了しました。

KFXO01062-I : ステータスファイルのswapを開始しました。

要因

ステータスファイルの swap を開始しました。

KFXO01063-I : ステータスファイルのswapを完了しました。現用ステータス論理ファイル名 : XX

XX : 現用ステータス論理ファイル名 (8 文字以内の英数字)

要因

ステータスファイルの swap を完了しました。

KFXO01064-E : ステータスファイルのスワップ処理でエラーが発生しました。理由コード : XX

XX :

理由コード (10 けたの数字)

要因

ステータスファイルのスワップ処理でエラーが発生しました。

対処

理由コードによって対策してください。

| 理由コード      | 内容                               | 対処                                                  |
|------------|----------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 0000000001 | 予備ステータスファイルがありません                | ステータスファイルを準備し、再度 Object Server を起動してください            |
| 0000000002 | スワップ作業領域確保エラー                    | プロセス数を見直してください                                      |
| 0000000003 | 予備ステータスファイル用入出力バッファ確保エラー         | プロセス数を見直してください                                      |
| 0000000004 | スワップ処理ができる予備ステータスファイルがありません      | ステータスファイルを準備してください                                  |
| 0000000005 | 現用 B 系ステータスファイルの管理レコードバッファリングエラー | ステータスファイルの障害を取り除き、再度 Object Server を起動してください        |
| 0000000006 | レコード入出力エラー                       | ステータスファイルの障害を取り除き、再度 Object Server を起動してください        |
| 0000000007 | タイムスタンプ取得エラー                     | システム管理者に連絡してください。障害を取り除き、再度 Object Server を起動してください |
| 0000000008 | 現用ファイルがありません                     | システム管理者に連絡してください。障害を取り除き、再度 Object Server を起動してください |
| 0000000009 | 現用ファイルの状態エラー                     | システム管理者に連絡してください。障害を取り除き、再度 Object Server を起動してください |

KFXO01070-E : XXコマンド処理でエラーが発生しました。理由コード : YY

XX :

コマンド名 (10 文字以内の英数字)

YY :

理由コード (10 けたの数字)

要因

コマンドでエラーが発生しました。

対処

理由コードによって対策してください。以前に出力されたメッセージも調査してください。障害を取り除いた後、再度コマンドを入力してください。

| 理由コード      | 内容                                          | 対処                                                                   |
|------------|---------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 0000000001 | ステータスファイル管理レコード (STR) 情報不正                  | コマンドに指定した引数を見直してください                                                 |
| 0000000002 | ステータスファイル管理レコード (SHR) 情報不正                  | コマンドに指定した引数を見直してください                                                 |
| 0000000003 | 現用ファイルとレコード長が異なります。又は、A 系と B 系のファイル容量が異なります | xodstsls コマンドでステータスファイルのレコード長、レコード数を調査し、xodstsininit コマンドで初期設定してください |

付録K メッセージ

| 理由コード     | 内容                                          | 対処                                                                              |
|-----------|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 000000004 | ファイルの状態がコマンドを入力できる状態ではありません                 | xodstsls コマンドでステータスファイルのレコード長、レコード数を調査し、ファイル状態を正しく設定してから再度コマンドを実行してください         |
| 000000005 | 基本ファイルシステムエラー                               | 他のエラーメッセージに従って対策してください                                                          |
| 000000006 | ステータスサービス定義に定義されていないファイル名を指定しました            | コマンドで指定した引数を見直してください                                                            |
| 000000007 | プロセス間通信エラー                                  | オブジェクトサーバ動作環境を OS の提供するコマンドなどで調査して障害要因を取り除いてください                                |
| 000000008 | スワップ先予備ファイルなし                               | 予備ステータスファイルを準備してください                                                            |
| 000000009 | スワップ処理エラー                                   | ステータスファイルを準備して、再度オブジェクトサーバを起動してください                                             |
| 000000010 | システムコールエラー                                  | 障害を取り除いて、再度コマンドを実行してください                                                        |
| 000000011 | ファイル使用中 (open), 又は他のコマンドが実行中                | ステータスファイルをクローズしてください。又は、他のコマンドの終了を待ってください                                       |
| 000000012 | システム定義解析エラー                                 | システム定義を見直してください                                                                 |
| 000000013 | プロセス間通信初期化エラー (xo_brpc_open, xo_brpc_close) | 障害を取り除いて、再度コマンドを実行してください                                                        |
| 000000014 | コマンドが受付状態ではありません                            | オブジェクトサーバ起動中に再度コマンドを実行してください                                                    |
| 000000015 | RPC 電文内データ長不正                               | システム管理者に連絡してください                                                                |
| 000000016 | 現用ファイルを指定しました                               | xodstsls コマンドでファイル状態を調査し、コマンドに指定した引数を見直してください又は、ステータスファイルをスワップし、再度コマンドを実行してください |
| 000000017 | 指定ファイルの状態は変更済みです                            | xodstsls コマンドでファイル状態を確認してください                                                   |
| 000000018 | ファイルチェックで異常を検出しました                          | エラーが発生したファイルを xodstsinic コマンドで初期設定してください                                        |
| 000000043 | オンライン中のためステータスファイルを削除できません                  | オフラインで再度コマンドを実行してください                                                           |

KFXO01091-E : メモリ不足が発生しました。

要因

ステータスサービスのプロセスでメモリ不足が発生しました。

対処

プロセス数を減らしてください。

KFXO01099-E : XX関数でエラーが発生しました。エラーコード=YY OMS関数をコールした関数名 : ZZ

XX :

関数名 (32 けた以内の英数字)



YY :

オブジェクトサーバ関数の内部リターンコード (10 けた以内の英数字)

ZZ :

オブジェクトサーバ関数を発行した関数名 (32 けた以内の英数字)

要因

オブジェクトサーバ関数でエラーが発生しました。

対処

前後に出力された、メッセージによって原因を調査してください。

KFXO1101-I : ジャーナルサービスを回復中です。ランID=XX

XX :

ラン ID

要因

ジャーナルサービスを回復中です。

KFXO01103-E : ジャーナルサービスを開始できません。理由コード=XX

XX :

障害の内容を示す理由コード (4 けた以内の数字)

要因

ジャーナルサービスの開始処理中にエラーが発生しました。

対処

理由コードによって対策してください。

| 理由コード | 内容                            | 対処                            |
|-------|-------------------------------|-------------------------------|
| 101   | 領域不足発生                        | メモリ使用量を見直してください               |
| 103   | ネットワーク障害が発生しました               | OS の提供するコマンドでノードの接続状態を調べてください |
| 405   | 定義解析エラー発生                     | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください    |
| 503   | ステータスファイルで入出力エラー発生            | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください    |
| 504   | サービスプロセス起動中にエラーが発生            | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください    |
| 508   | チェックポイントダンプサービスプロセス起動中にエラーが発生 | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください    |

KFXO01104-W : 前回のジャーナルサービス状態をステータスファイルから回復できません。ステータスファイルなしで再開始を続行します。理由コード=XX

XX : 障害の内容を示すコード (4 けた以内の数字)

要因

前回のジャーナルサービス状態をステータスファイルから回復できません。

対処

理由コードによって対策してください。

付録K メッセージ

| 理由コード | 内容                       | 対処                                                                     |
|-------|--------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 502   | 前回のオンライン状態がステータスファイル中にある | 前回立ち上げ時のステータスファイルの書き込みに失敗しています。再開始不成功の場合は、Object Server を再度立ち上げ直してください |
| 503   | ステータスファイルで入出力エラー発生       | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください                                             |

KFXO01108-W：ジャーナルサービスの終了中に障害が発生しましたが、このまま続行します。

理由コード=XX

XX：障害の内容を示す理由コード（10けた以内の数字）

要因

ジャーナルサービスを終了中に障害が発生しました。

対処

理由コードによって対策してください。

| 理由コード | 内容                 | 対処                         |
|-------|--------------------|----------------------------|
| 101   | 領域不足発生             | メモリ使用量を見直してください            |
| 103   | ネットワーク障害が発生しました    | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください |
| 503   | ステータスファイルで入出力エラー発生 | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください |

KFXO01109-W：ジャーナルサービス関係の定義解析中に軽度エラーが発生しました。解析中ファイル名：XX,レコード番号=YY,理由コード=ZZ

XX：

解析中の定義ファイル名

YY：

エラーのあったレコード番号（10けた以内の数字）

ZZ：

障害の内容を示す理由コード（4けた以内の数字）

要因

ジャーナルサービス関係の定義解析中にエラーが発生しました。

対処

必要があればシステムを停止し、理由コードによって対策した後、システムを再度立ち上げてください。

| 理由コード | 内容                                  | 対処                                                     |
|-------|-------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 408   | jnladdfg 定義コマンドに誤りがあります             | -g オプションが未指定の場合は、指定してください。ファイルグループ名が他と重複していないか確認してください |
| 409   | jnladdpf 定義コマンドの -g オプション指定に誤りがあります | -g オプションが未指定の場合は、指定してください                              |

| 理由コード | 内容                                    | 対処                        |
|-------|---------------------------------------|---------------------------|
| 411   | jnladdpf 定義コマンドに -a オプション指定に誤りがあります   | -a オプションが未指定の場合は、指定してください |
| 413   | jnladdfg 定義数が最大値を超えました                | 定義数を減らしてください              |
| 415   | 同一ファイルグループ名の jnladdpf 定義コマンドが二つ以上あります | 定義を修正してください               |

KFXO01113-E : XXジャーナルファイルサービスを開始できません。理由コード=YY

XX :

ジャーナルファイルサービス種別 (sys 固定)

YY :

障害の内容を示す理由コード (4けた以内の数字)

要因

ジャーナルサービスの開始, 再開処理中にエラーが発生しました。

対処

理由コードによって対策した後, 再度起動してください。対策できない場合は, システム管理者に連絡してください。

| 理由コード | 内容                                    | 対処                                                                |
|-------|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 101   | 領域不足発生                                | メモリ使用量を見直してください                                                   |
| 103   | ネットワーク障害が発生しました                       | OS の提供するコマンドでノードの接続状態及び Object Server の提供するコマンドで各サーバの実行状態を調べてください |
| 405   | 定義解析エラー発生                             | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください                                        |
| 414   | 有効なジャーナルファイルグループの数が, 最小世代数に達していません    | ONL 指定された jnladdfg 定義を修正してください                                    |
| 416   | jnladdpf 定義コマンドが定義されていないファイルグループがあります | 定義を修正してください                                                       |
| 503   | ステータスファイルの入出力処理でエラー発生                 | 原因を調査し, 障害を回復後, 再起動してください                                         |
| 504   | ジャーナル I/O サービスプロセスの起動中にエラー発生          | 原因を調査し, 障害を回復後, 再起動してください                                         |
| 510   | ジャーナルファイルのチェック処理でエラー発生                | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください                                        |
| 513   | サーバリカバリジャーナルサービスの起動中にエラー発生            | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください                                        |

KFXO01114-W : XXジャーナルファイルサービスの終了中に障害が発生しましたが, このまま続行します。理由コード=YY

XX :

## 付録K メッセージ

ジャーナルファイルサービス種別 (sys 固定)

YY :

障害の内容を示す理由コード (4けた以内の数字)

要因

ジャーナルファイルサービスの終了中に障害が発生しました。

対処

必要があれば、理由コードによって対策してください。

| 理由コード | 内容                  | 対処                                                                 |
|-------|---------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 101   | 領域不足発生              | メモリ使用量を見直してください                                                    |
| 103   | ネットワーク障害が発生しました     | OS の提供するコマンドでノードの接続状態及び Object Server の提供するコマンドで各サーバの実行状態をしらべてください |
| 503   | ステータスファイルで入出力エラー発生  | 次回立ち上げに備えて、エラー原因を調査し、対策してください                                      |
| 511   | ジャーナルファイル終了処理でエラー発生 | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください                                         |

KFXO01115-E : XXジャーナルファイルのI/Oサービスを開始できません。理由コード=YY

XX :

ジャーナルファイルサービス種別 (sys 固定)

YY :

障害の内容を示す理由コード (4けた以内の数字)

要因

ジャーナルファイル I/O サービス開始中にエラーが発生しました。

対処

理由コードによって対策してください。

| 理由コード | 内容                 | 対処                                                                |
|-------|--------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 101   | 領域不足発生             | メモリ使用量を見直してください                                                   |
| 103   | ネットワーク障害が発生しました    | OS の提供するコマンドでノードの接続状態及び Object Server の提供するコマンドで各サーバの実行状態を調べてください |
| 405   | 定義解析エラー発生          | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください                                        |
| 503   | ステータスファイルで入出力エラー発生 | 原因を調査し障害を回復後、システムを再度起動してください                                      |

KFXO01116-W : XXジャーナルファイルのI/Oサービスの終了中に障害が発生したが、このまま続行します。理由コード=YY

XX :

ジャーナルファイルサービス種別 (sys 固定)

YY :

障害の内容を示す理由コード (4けた以内の数字)

要因

ジャーナルファイル I/O サービス開始中にエラーが発生しました。

対処

必要があれば、理由コードによって対策してください。

| 理由コード | 内容                 | 対処                                                                 |
|-------|--------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 101   | 領域不足発生             | メモリ使用量を見直してください                                                    |
| 103   | ネットワーク障害が発生しました    | OS の提供するコマンドでノードの接続状態及び Object Server の提供するコマンドで各サーバの実行状態をしらべてください |
| 503   | ステータスファイルで入出力エラー発生 | 次回立ち上げに備えて、原因を調査し、対策してください                                         |

KFXO01119-E：ジャーナルのコマンドサービスを開始できません。理由コード=XX

XX：

障害の内容を示す理由コード（4けた以内の数字）

要因

ジャーナルのコマンドサービス開始中にエラーが発生しました。

対処

理由コードによって対策してください。

| 理由コード | 内容                 | 対処                                                                 |
|-------|--------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 101   | 領域不足発生             | メモリ使用量を見直してください                                                    |
| 103   | ネットワーク障害が発生しました    | OS の提供するコマンドでノードの接続状態及び Object Server の提供するコマンドで各サーバの実行状態をしらべてください |
| 405   | 定義解析エラー発生          | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください                                         |
| 503   | ステータスファイルで入出力エラー発生 | 原因を調査し障害を回復後、システムを再度起動してください                                       |

KFXO01120-W：ジャーナルのコマンドサービスの終了中に障害が発生しましたが、このまま続行します。理由コード=XX

XX：

障害の内容を示す理由コード（4けた以内の数字）

要因

ジャーナルのコマンドサービスの終了中にエラーが発生しました。

対処

必要があれば、理由コードによって対策してください。

| 理由コード | 内容     | 対処              |
|-------|--------|-----------------|
| 101   | 領域不足発生 | メモリ使用量を見直してください |

付録K メッセージ

| 理由コード | 内容                 | 対処                                                                |
|-------|--------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 103   | ネットワーク障害が発生しました    | OS の提供するコマンドでノードの接続状態及び Object Server の提供するコマンドで各サーバの実行状態を調べてください |
| 503   | ステータスファイルで入出力エラー発生 | 次回立ち上げに備えて、原因を調査、対策してください                                         |

KFXO01121-E：メモリ不足が発生しました。サイズ=XX,領域種別：YY

XX：

確保しようとしたサイズ(10けた以内の数字)

YY：

メモリ不足の発生した領域の種別

- STATIC\_SHMPOOL：静的共用メモリ領域

要因

メモリ不足が発生しました。

対処

システム定義を見直して再度立ち上げなおしてください。

KFXO01125-E：サーバ：AA(BB)はジャーナルサービスを使用できません。理由コード=CC-DD

AA：

サーバ名(8文字以内の英数字)

BB：

Object Server 内部コード

CC：

障害の内容を示す理由コード(4けた以内の数字)

DD：

Object Server 内部コード

要因

ジャーナルサービスでエラーが発生しました。

対処

理由コードによって対策してください。

| 理由コード | 内容                  | 対処                |
|-------|---------------------|-------------------|
| 101   | 領域不足発生              | メモリ使用量を見直してください   |
| 905   | ステータスファイルでアクセスエラー発生 | エラー原因を調査、対策してください |

KFXO01180-E：ジャーナル読み込み時,ブロック抜けを検出しました。前入力位置：AA,BB,現入力位置：CC,DD

AA：

ブロック抜けの直後に読み込んだジャーナルファイルグループ名(8文字以内の英数字)

読み込んだジャーナルブロックが存在しない場合 \*\*\*\*\* を表示します。

BB：

ブロック抜けの直後に読み込んだジャーナルブロック番号(8けた以内の16進

形式)

読み込んだジャーナルブロックが存在しない場合 \*\*\*\*\* を表示します。

CC :

現在読み込んだジャーナルファイルグループ名 (8文字以内の英数字)

DD :

現在読み込んだジャーナルブロック番号 (8けた以内の16進形式)

要因

ジャーナル読み込み時、ブロック抜けを検出しました。

対処

KFXO01181-E, KFXO01183-E, KFXO01184-E のメッセージが出力されている場合は、このメッセージのプログラムの処置に従ってください。原因が不明の場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO01181-E : ジャーナル読み込み時、リード障害が発生しました。入力位置 : AA,BB,理由コード=CC-DD

AA :

ファイルグループ名 (8文字以内の英数字)

BB :

ジャーナルブロック番号 (8けた以内の16進形式)

CC :

理由コード (4けた以内の数字)

- 209 : 入力中のファイルグループで、入出力エラーが発生しました。
- 213 : 入力中のファイルグループに、未オープン状態のファイルが存在します。
- 214 : 入力中のファイルグループに、閉塞中のファイルが存在します。
- 215 : 入力中のファイルグループに、読み込み不可状態のファイルが存在します。

DD :

Object Server 内部コード

要因

ジャーナル読み込み時、リード障害が発生しました。

対処

このメッセージの理由コード、又は、KFXO01203-E メッセージが出力されている場合は、このメッセージのプログラムの処置に従って対策してください。

KFXO01182-I : ジャーナルブロックを読み込む世代を切り替えます。切り替え元 : AA,BB,切り替え先 : CC,DD

AA :

切り替え元のファイルグループ名 (8文字以内の英数字)

BB :

切り替え元の世代番号 (8けた以内の16進形式)

CC :

切り替え先のファイルグループ名 (8文字以内の英数字)

## 付録K メッセージ

DD :

切り替え先の世代番号 (8けた以内の16進形式)

要因

ジャーナルブロックを読み込む世代を切り替えます。

KFXO01183-E : ジャーナルブロックを読み込み時,世代抜けを検出しました。入力範囲 : AA,BB  
~CC,DD,世代抜け範囲 : EE~FF

AA :

ジャーナルブロックを読み込む,先頭のファイルグループ名(8文字以内の英数字)

BB :

ジャーナルブロックを読み込む,先頭のジャーナル世代番号(8けた以内の16進形式)

CC :

ジャーナルブロックを読み込む,最終のファイルグループ名(8文字以内の英数字)

DD :

ジャーナルブロックを読み込む,最終のジャーナル世代番号(8けた以内の16進形式)

EE :

世代の抜けた先頭世代番号(8けた以内の16進形式)

FF :

世代の抜けた最終世代番号(8けた以内の16進形式)

要因

ジャーナルブロックを読み込む時,世代抜けを検出しました。

対処

KFXO01240-E メッセージを基に原因を調査してください。

KFXO01184-E : ジャーナル読み込み時,不正なジャーナルデータを検出しました。入力位置 :  
XX,YY

XX :

不正なジャーナルデータを検出したジャーナルファイルグループ名(8文字以内の英数字)

YY :

読み込もうとしたジャーナルブロック番号(8けた以内の16進形式)

要因

ジャーナル読み込み時,不正なジャーナルデータを検出しました。

対処

ジャーナルファイルが破壊された可能性があります。このジャーナルファイルの運用を中止し,ジャーナルファイルを再作成してください。

KFXO01200-E : ジャーナル要素ファイルのオープンに失敗しました。要素ファイル名 : AA,理由コード=BB-CC,DD-EE

AA :



要素ファイル名（8文字以内の英数字）

BB :

a 系理由コード（4けた以内の数字）

CC :

a 系 Object Server 内部コード

DD :

b 系理由コード（4けた以内の数字）

EE :

b 系 Object Server 内部コード

要因

ジャーナル要素ファイルのオープンに失敗しました。

対処

理由コードによって対策してください。対策できない場合は、システム管理者に連絡してください。

| 理由コード | 内容                         | 対処                                                                                                    |
|-------|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 101   | 領域不足発生                     | メモリ使用量を見直してください                                                                                       |
| 202   | 対応するファイルがありません             | システムジャーナルサービス定義で使用する jnladdpf コマンドの物理ファイルの指定を見直してください                                                 |
| 203   | path 指定ファイル初期化不正           | システムジャーナルサービス定義で使用する jnladdpf コマンドの物理ファイルの指定を見直してください                                                 |
| 209   | I/O エラー発生                  | 他にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従ってください。メッセージが出力されていない場合は、ファイルを再作成してください。同じ現象が繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください |
| 210   | ファイルシステムのバージョン不一致          | システムジャーナルサービス定義で使用する jnladdpf コマンドの物理ファイルの指定を見直してください                                                 |
| 211   | 指定ファイルアクセス権限なし             | アクセス権限を与えてください                                                                                        |
| 212   | 指定ファイルなし                   | システムジャーナルサービス定義で使用する jnladdpf コマンドの物理ファイルの指定を見直してください                                                 |
| 218   | 指定ファイルは、ジャーナルファイルとして使用できない | 再度ファイルを作成してください                                                                                       |
| 219   | 指定ファイルは、ジャーナルファイルとして使用できない | 再度ファイルを作成してください                                                                                       |
| 220   | 指定ファイルは、ジャーナルファイルではない      | システムジャーナルサービス定義で使用する jnladdpf コマンドの物理ファイルの指定を見直してください                                                 |

付録K メッセージ

| 理由コード | 内容                    | 対処                                         |
|-------|-----------------------|--------------------------------------------|
| 221   | ロックセグメント不足発生          | OS のシステム構築時に、指定したレコードロックセグメント数を見直してください    |
| 222   | 該当する要素ファイルは、他のプロセスで使用 | 要素ファイル、又は要素ファイルが存在するファイルグループの運用状態を確認してください |

KFXO01201-E：ジャーナル要素ファイルのクローズに失敗しました。要素ファイル名：AA,理由コード=BB-CC,DD-EE

AA：

要素ファイル名（8文字以内の英数字）

BB：

a系理由コード（4けた以内の数字）

CC：

a系 Object Server 内部コード

DD：

b系理由コード（4けた以内の数字）

EE：

b系 Object Server 内部コード

要因

ジャーナル要素ファイルのクローズに失敗しました。

対処

理由コードによって対策してください。対策できない場合は、システム管理者に連絡してください。

| 理由コード | 内容           | 対処                                      |
|-------|--------------|-----------------------------------------|
| 101   | 領域不足発生       | メモリ使用量を見直してください                         |
| 209   | I/O エラー発生    | 他にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従ってください      |
| 221   | ロックセグメント不足発生 | OS のシステム構築時に、指定したレコードロックセグメント数を見直してください |

KFXO01202-E：ジャーナル要素ファイルのライトに失敗しました。要素ファイル名：AA,理由コード=BB-CC,DD-EE

AA：

要素ファイル名（8文字以内の英数字）

BB：

a系理由コード（4けた以内の数字）

CC：

a系 Object Server 内部コード

DD：

b系理由コード（4けた以内の数字）

EE：

b系 Object Server 内部コード

## 要因

ジャーナル要素ファイルのライトに失敗しました。

## 対処

理由コードにより対策してください。対策できない場合は、システム管理者に連絡してください。

| 理由コード | 内容        | 対処                                                                                                    |
|-------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 209   | I/O エラー発生 | 他にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従ってください。メッセージが出力されていない場合は、ファイルを再作成してください。同じ現象が繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください |

KFXO01203-E：ジャーナル要素ファイルのリードに失敗しました。要素ファイル名：AA,理由コード=BB-CC,DD-EE

AA：

要素ファイル名（8文字以内の英数字）

BB：

a系理由コード（4けた以内の数字）

CC：

a系 Object Server 内部コード

DD：

b系理由コード（4けた以内の数字）

EE：

b系 Object Server 内部コード

## 要因

ジャーナル要素ファイルのリードに失敗しました。

## 対処

理由コードにより対策してください。対策できない場合は、システム管理者に連絡してください。

| 理由コード | 内容        | 対処                                                                                                    |
|-------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 209   | I/O エラー発生 | 他にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従ってください。メッセージが出力されていない場合は、ファイルを再作成してください。同じ現象が繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください |

KFXO01204-E：ジャーナル要素ファイルの操作中に障害が発生しました。理由コード=XX-YY

XX：

理由コード（4けた以内の数字）

YY：

Object Server 内部コード

## 要因

要素ファイルの操作中（オープン/クローズ、又はリード/ライト）に障害が発生しました。

## 対処

## 付録K メッセージ

理由コードにより対策してください。対策できない場合は、システム管理者に連絡してください。

| 理由コード | 内容              | 対処                                                                  |
|-------|-----------------|---------------------------------------------------------------------|
| 101   | 領域不足発生          | メモリ使用量を見直してください                                                     |
| 103   | ネットワーク障害が発生しました | OS の提供するコマンドでノードの接続状態及び ,Object Server の提供するコマンドで各サーバの実行状態をしらべてください |

KFXO01215-I : XXジャーナルのYYをオープンしました。

XX :

オープンしたジャーナルファイルグループが存在するジャーナルファイル種別 (sys 固定)

YY :

オープンしたファイルグループ名 (8文字以内の英数字)

要因

ジャーナルファイルグループをオープンしました。

KFXO01216-I : XXジャーナルのYYをクローズしました。

XX :

クローズしたジャーナルファイルグループが存在するジャーナルファイル種別 (sys 固定)

YY :

クローズしたファイルグループ名 (8文字以内の英数字)

要因

ジャーナルファイルグループをクローズしました。

KFXO01220-E : XXジャーナルのスワップ要因が発生しましたが、交代するジャーナルファイルグループがないため、スワップできません。

XX :

ジャーナルファイル種別 (sys 固定)

要因

スワップ要因が発生しましたが、スワップできません。

対処

待機中のジャーナルファイルがない場合は、ジャーナルファイルを追加してください。待機中のジャーナルファイルがアンロード待ち状態、オブジェクトサーバの回復処理でリード中、コマンド処理で使用中の場合はジャーナルファイルを、使用できる状態にしてください。

KFXO01221-I : AAをBBジャーナルファイルの現用として割り当てました。世代番号=CC,先頭ブロック番号=DD

AA :

割り当てたのジャーナルファイルグループのジャーナルファイルグループ名 (8文字以内の英数字)

BB :

ジャーナルファイル種別 (sys 固定)

CC :

ジャーナル世代番号 (8 けた以内の 16 進形式)

DD :

ファイル内の先頭ジャーナルブロック番号 (8 けた以内の 16 進形式)

要因

ジャーナルファイルグループにジャーナルファイルを割り当てました。

KFXO01222-I : AAをBBジャーナルファイルから切り離しました。世代番号=CC,先頭ブロック番号=DD,最終ブロック番号=EE

AA :

切り離したジャーナルファイルグループのジャーナルファイルグループ名 (8 文字以内の英数字)

BB :

ジャーナルファイル種別 (sys 固定)

CC :

ジャーナル世代番号 (8 けた以内の 16 進形式)

DD :

ファイル内の先頭ジャーナルブロック番号 (8 けた以内の 16 進形式)

EE :

ファイル内の最終ジャーナルブロック番号 (8 けた以内の 16 進形式)

0 の場合は, ジャーナルが 1 件も出力されていないファイルを示します。

要因

ジャーナルファイルグループにジャーナルファイルを切り離しました。

KFXO01223-E : ジャーナルのスワップ処理中に障害が発生しました。理由コード=XX

XX :

理由コード (4 けた以内の数字)

要因

ジャーナルのスワップ処理中に障害が発生しました。

対処

理由コードにより対策してください。

| 理由コード | 内容              | 対処                                                                 |
|-------|-----------------|--------------------------------------------------------------------|
| 101   | 領域不足発生          | メモリ使用量を見直してください                                                    |
| 103   | ネットワーク障害が発生しました | OS の提供するコマンドでノードの接続状態及び ,Object Server の提供するコマンドで各サーバの実行状態を調べてください |
| 105   | タイムアウトが発生しました   | 前に出力されているスワップ処理の障害メッセージに従って対策してください                                |

KFXO01240-E : ジャーナルファイルとして使用できないファイルがあります。ファイル種別 : AA,ファイルグループ名 : BB,要素ファイル名 : CC,系種別 : DD,理由コード=EE

AA :

障害の発生したジャーナルファイル種別 (sys 固定)

付録K メッセージ

BB :

障害の発生したジャーナルファイルグループ名 (8文字以内の英数字)

CC :

障害の発生したジャーナル要素ファイル名 (8文字以内の英数字)

DD :

障害の発生した系種別 (a : A系)

EE :

障害の発生した理由コード (4けた以内の数字)

要因

ジャーナルファイルとして使用できないファイルがあります。

対処

理由コードによって対策してください。

| 理由コード | 内容                            | 対処                                                                                           |
|-------|-------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 223   | 定義された最大レコードデータを取得できる容量がない     | 最大レコードデータ長が正しいか、確認してください。ファイル容量の見積りが正しいか、確認してください                                            |
| 601   | 物理ファイルのオープンに失敗しました            | KFXO01200-E, KFXO01203-E メッセージに従って対策してください                                                   |
| 602   | 物理ファイルの管理情報の読み込みに失敗しました       | KFXO01200-E, KFXO01203-E メッセージに従って対策してください                                                   |
| 603   | 物理ファイル上の管理情報が破壊されています         | KFXO01200-E, KFXO01203-E メッセージに従って対策してください                                                   |
| 604   | 物理ファイル上の使用システム情報がこのファイルと違います  | このシステムで使用してもいいファイルか確認してください。使用しても良い場合は、このファイルを初期化してください。他のシステムで使用している場合は、定義上のファイル構成を変更してください |
| 605   | 物理ファイル上のファイル構成が現ファイル構成と違います   | ファイル構成が変更されている場合は、定義上のファイル構成を元に戻してください。ファイル構成が変更されていない場合は、このファイルを初期化してください                   |
| 606   | このファイルは、前回の使用で障害が発生した可能性があります | ジャーナル情報を引き上げた後、ファイル状態の変更、又はファイルの初期化をしてください                                                   |

KFXO01250-I : XXジャーナルのYYはジャーナル情報が引上げられていません。ジャーナル情報を引上げてください。

XX :

このジャーナルファイルグループが存在するジャーナルファイル種別 (sys 固定)

YY :

ジャーナル情報が引上げられていないジャーナルファイルグループ名 (8文字以内の英数字)

要因

このジャーナルファイルグループはジャーナル情報が引上げられていません。

対処

xodjnlunl コマンドを入力して、ジャーナル情報を引き上げてください。

KFXO01251-E : XXジャーナルのYYは状態が不正です。ファイルグループ状態を変更してください。

XX :

このジャーナルファイルグループが存在するジャーナルファイル種別 (sys 固定)

YY :

ジャーナルファイルグループ状態が不正なジャーナルファイルグループ名 (8文字以内の英数字)

要因

このジャーナルファイルグループはジャーナルファイルグループ状態が不正です。

対処

xodjnlunl コマンドを入力して、ジャーナル情報を引き上げるか、xodjnlchg コマンドを入力してファイルグループ状態を変更してください。

KFXO01255-W : XXジャーナルは使用可能ジャーナルファイルグループが最低必要な数を満たしていません。ジャーナルファイルグループをオープンしてください。

XX :

このジャーナルファイルグループのオープンの必要なジャーナルファイル種別 (sys 固定)

要因

使用できるジャーナルファイルグループが必要な数を満たしていません。

対処

xodjnl opn コマンドを入力して、クローズ中のファイルグループをオープンしてください。

KFXO01256-E : XXジャーナルは使用可能ジャーナルファイルグループがありません。

XX :

ジャーナルファイル種別 (sys 固定)

要因

ジャーナル情報の取得先として使用できるジャーナルファイルグループがないため、現用ジャーナルファイルグループが決定できません。

対処

KFXO01113-E メッセージを基に対策してください。

KFXO01257-E : XXジャーナルの現用ファイルグループが回復できません。

XX :

ジャーナルファイル種別 (sys 固定)

要因

前回オンラインで使用したファイルが全て初期化されているため、現用ジャーナルファイルグループを回復できません。

対処

オブジェクトサーバを正常開始してください。

KFXO01258-W : XXジャーナルの交代先ジャーナルファイルグループが見つかりませんでした

## 付録K メッセージ

が、リランスワップの指定を無視して処理を続行します。

XX :

ジャーナルファイル種別 (sys 固定)

要因

交代先ジャーナルファイルグループが見つかりません。

KFXO01260-E : システム回復対象のジャーナル世代ファイルが存在しないため、回復処理を中止します。

要因

システム回復対象のジャーナル世代ファイルが存在しません。

対処

KFXO01240-E メッセージを基に対策してください。

KFXO01261-E : ジャーナルブロック読み込み時に障害が発生したため、回復処理を中止します。

要因

ジャーナルブロック読み込み時に障害が発生しました。

対処

KFXO01180-E , KFXO01181-E , KFXO01183-E , KFXO01184-E メッセージを基に対策してください。

KFXO01262-I : ジャーナルブロックの読み込みを開始しました。読み込み開始位置 : XX,YY,ZZ

XX :

読み込み開始したファイルグループ名 (8文字以内の英数字)

YY :

読み込み開始したジャーナル世代番号 (8けた以内の16進形式)

ZZ :

読み込み開始したジャーナルブロック番号 (8けた以内の16進形式)

要因

ジャーナルブロック読み込みを開始しました。

KFXO01263-I : ジャーナルブロックの読み込みを終了しました。読み込み終了位置 : XX,YY,ZZ

XX :

読み込み終了したファイルグループ名 (8文字以内の英数字)

YY :

読み込み終了したジャーナル世代番号 (8けた以内の16進形式)

ZZ :

読み込み終了したジャーナルブロック番号 (8けた以内の16進形式)

要因

ジャーナルブロック読み込みを終了しました。

KFXO01270-E : ジャーナルファイルがI/Oエラーのため使用できません。要素ファイル名 : XX,系種別 : YY

XX :

障害の発生した要素ファイル名 (8文字以内の英数字)

YY :

障害の発生した系種別 (a 固定)



## 要因

ジャーナルで I/O エラーが発生しました。

## 対処

他にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従ってください。  
メッセージが出力されていない場合は、ファイルを再作成してください。

KFXO01271-I: アンロードが終了しました。開始ブロック番号=XX,終了ブロック番号=YY

## XX:

アンロード済先頭ジャーナルブロック番号 (8 けた以内の 16 進数形式)

## YY:

アンロード済最終ジャーナルブロック番号 (8 けた以内の 16 進数形式)

## 要因

ジャーナルアンロードコマンドでのアンロードが終了しました。

KFXO01272-E: ジャーナルファイルはアンロード可能な状態ではありません。要素ファイル名: AA,系種別: BB,理由コード=CC-DD

## AA:

障害の発生した要素ファイル名 (8 文字以内の英数字)

## BB:

障害の発生した系 (a 固定)

## CC:

理由コード (4 けた以内の数字)

## DD:

オブジェクトサーバ内部コード

## 要因

アンロードしようとしたファイルグループに、アンロード可能でないものがあります。

## 対処

理由コードによって対策してください。

| 理由コード | 内容                           | 対処                                          |
|-------|------------------------------|---------------------------------------------|
| 220   | 物理ファイルは、ジャーナルファイルではありません     | ファイルグループの要素ファイル名を見直してください                   |
| 603   | 物理ファイル上のジャーナル管理情報が破壊されています   | 該当するファイルグループのアンロードを中止し、オブジェクトサーバから切り離してください |
| 605   | 物理ファイル上の構成と定義ファイルの構成が異なっています | ジャーナルの定義を変更していないか確認してください                   |
| 1603  | 物理ファイルは、アンロード済です             | コマンドに指定したファイルグループ名を見直してください                 |
| 1607  | 物理ファイルは、オブジェクトサーバで未使用です      | コマンドに指定したファイルグループ名を見直してください                 |

KFXO01273-E: ジャーナルファイルはステータス変更可能な状態ではありません。要素ファイル名: AA 系種別: BB 理由コード: CC-DD

## 付録K メッセージ

AA :

障害が発生した要素ファイル名 (8 文字以内の英数字)

BB :

障害が発生した系 (a 固定)

CC :

理由コード (4 けた以内の数字)

DD :

オブジェクトサーバ内部コード

要因

ステータス変換をしようとしたファイルグループに、ステータス変換が可能でないものがあります。

対処

理由コードによって対策してください。対策できない場合は、システム管理者に連絡してください。

| 理由コード | 内容                            | 対処                                           |
|-------|-------------------------------|----------------------------------------------|
| 220   | 物理ファイルは、ジャーナルファイルではありません。     | ファイルグループの要素ファイル名を見直してください。                   |
| 603   | 物理ファイル上のジャーナル管理情報が破壊されています。   | 該当するファイルグループのアンロードを中止し、オブジェクトサーバから切り離してください。 |
| 605   | 物理ファイル上の構成と定義ファイルの構成が異なっています。 | ジャーナルの定義を変更していないか確認してください。                   |
| 1603  | 物理ファイルはアンロード済みです。             | コマンドに指定したファイルグループ名を見直してください。                 |
| 1607  | 物理ファイルはオブジェクトサーバで未使用です。       | コマンドに指定したファイルグループ名を見直してください。                 |

KFX001274-E : ジャーナル要素ファイルのオープンに失敗しました。要素ファイル名 : AA,理由コード=BB-CC,DD-EE

AA :

要素ファイル名 (8 文字以内の英数字)

BB :

a 系理由コード (4 けた以内の数字)

CC :

a 系オブジェクトサーバ内部コード

DD :

b 系理由コード (4 けた以内の数字)

EE :

b 系オブジェクトサーバ内部コード

要因

ジャーナル要素ファイルのオープンに失敗しました。

対処

理由コードによって対策してください。

| 理由コード | 内容               | 対処                                                    |
|-------|------------------|-------------------------------------------------------|
| 101   | 領域不足発生           | 現在実行中のプロセスの終了を待って、再度コマンドを実行してください                     |
| 202   | 対応するファイルがありません   | システムジャーナルサービス定義で使用する jnladdpf コマンドの物理ファイルの指定を見直してください |
| 203   | path 指定ファイル初期化不正 | システムジャーナルサービス定義で使用する jnladdpf コマンドの物理ファイルの指定を見直してください |
| 209   | I/O エラー発生        | 他にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従ってください                    |

KFXO01280-E : XXコマンドが実行できませんでした。理由コード=YY-ZZ

XX :

実行できなかったコマンド名

YY :

理由コード (4 けた以内の数字)

ZZ :

オブジェクトサーバ内部コード

要因

コマンドが実行できませんでした。

対処

理由コードによって対策してください。

| 理由コード | 内容                       | 対処                                                                                       |
|-------|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 101   | 領域不足発生                   | 現在実行中のプロセスの終了を待って、再度コマンドを実行してください。直前にシステムコールのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従ってください            |
| 102   | 共用メモリのセグメント数が、最大値を超えています | 直前にシステムコールのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従ってください                                              |
| 103   | ネットワーク障害が発生しました          | オブジェクトサーバの実行状態を確認してください。又は、OS の提供するコマンドでノードの接続状態を調べてください                                 |
| 104   | 共用メモリ上の必要な情報が参照できません     | オブジェクトサーバの提供するコマンドでジャーナルサービスの実行状態を調べてください。ジャーナルサービスがオンライン状態でない場合は、オンライン状態になってから再実行してください |
| 106   | 共用メモリが使用できません            | 直前に出力されているシステムコールのメッセージに従って対策してください                                                      |
| 107   | システムコールでエラーが発生しました       | 直前に出力されているシステムコールのメッセージに従って対策してください                                                      |
| 201   | ファイル名が不正です               | ファイル名を正しく指定し直し、再度コマンドを実行してください                                                           |
| 202   | 対応するファイルがありません           | 正しいファイル名を指定してください                                                                        |

付録K メッセージ

| 理由コード | 内容                                          | 対処                                                                                 |
|-------|---------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 203   | path で指定した装置がオブジェクトサーバのファイルシステム用に初期化されていません | ファイル名を見直してください。ファイル名が正しい場合は、オブジェクトサーバ用に初期化してください                                   |
| 204   | ファイルが既に存在しています                              | ファイル名を見直してください。ファイル名が正しい場合は、ファイルを削除した後に、初期化してください                                  |
| 205   | ファイルを作成する領域が確保できません                         | ファイルのバックアップをして xodmkfs コマンドでファイルを再作成した後、ファイルのリストアをしてください                           |
| 206   | ファイルシステム初期化時に指定したファイル数の上限を超えました             | ファイルを作成する装置を変更してください。又は、いらぬファイルを削除してください                                           |
| 209   | I/O エラーが発生しました                              | I/O エラーの原因を調査してください                                                                |
| 210   | オブジェクトサーバのファイルシステムのバージョンが不一致                | オブジェクトサーバのファイルシステムを作成し直してください                                                      |
| 211   | 指定ファイルに対するアクセス権限がありません                      | アクセス権限の確認をしてください                                                                   |
| 212   | ファイルが存在しません                                 | ファイル名を正しく指定し直し、再度コマンドを実行してください                                                     |
| 216   | 指定されたファイルは jnl ではありません                      | ファイル名を正しく指定し直し、再度コマンドを実行してください                                                     |
| 217   | 指定したファイルはオブジェクトサーバで使用中です                    | xodjnlls コマンドでファイルを確認し、再度コマンドを実行してください                                             |
| 221   | ロックセグメント不足発生                                | OS のシステム構築時に、指定したレコードロックセグメント数を見直してください                                            |
| 222   | 該当するジャーナルファイルは、他のプロセスで使用しています               | ジャーナルファイルの運用状態を確認してください                                                            |
| 224   | オンライン中のため、ジャーナルファイルを削除できません                 | オフラインで再度コマンドを実行してください                                                              |
| 301   | ファイルが既に存在します                                | ファイル名を正しく指定し直し、再度コマンドを実行してください                                                     |
| 302   | 指定したファイル名はディレクトリです                          | ファイル名を正しく指定し直し、再度コマンドを実行してください                                                     |
| 303   | unload ジャーナルファイルのオープンに失敗しました                | ファイル名を正しく指定し直し、再度コマンドを実行してください。直前にファイルのオープンエラーメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って対策してください |
| 304   | unload ジャーナルファイルのクローズに失敗しました                | 直前に出力されている close システムコールのメッセージに従って対策してください                                         |
| 305   | unload ジャーナルファイルのアクセスに失敗しました                | 直前に出力されている write システムコールのメッセージに従って対策してください                                         |

| 理由コード | 内容                                | 対処                                                                                       |
|-------|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 403   | ファイルのオープンエラーが発生しました               | 直前に出力されているファイルのオープンエラーメッセージに従って対策してください                                                  |
| 404   | ファイルのオープンエラーが発生しました               | 直前に出力されているファイルのオープンエラーメッセージに従って対策してください                                                  |
| 405   | 定義解析エラー発生                         | 直前に出力されている定義解析エラーメッセージに従って対策してください                                                       |
| 701   | ファイルグループが存在しません                   | xodjnlls コマンドでファイルを確認し、必要なら再度コマンドを実行してください。直前に定義解析エラーメッセージが出力されている場合は、このメッセージを基に対策してください |
| 702   | ファイルグループのオープンに失敗しました              | KFXO01200-E,KFXO01201-E メッセージの理由コードによって、調査してください                                         |
| 703   | ファイルグループのクローズに失敗しました              | KFXO01200-E,KFXO01201-E メッセージの理由コードによって、調査してください                                         |
| 704   | このファイルグループは既にオープンされています           | xodjnlls コマンドでファイルを確認し、正しいファイルグループ名を指定して再度コマンドを実行してください                                  |
| 705   | このファイルグループは既にクローズされています           | xodjnlls コマンドでファイルを確認し、正しいファイルグループ名を指定して再度コマンドを実行してください                                  |
| 706   | このファイルグループはクローズできる状態ではありません       | xodjnlls コマンドでファイルを確認し、正しいファイルグループ名を指定して再度コマンドを実行してください                                  |
| 707   | このファイルグループシステムで使用中です              | xodjnlls コマンドでファイルを確認し、正しいファイルグループ名を指定して再度コマンドを実行してください                                  |
| 708   | 上書きできるファイルグループがなくなるために、クローズできません  | ファイルグループを構成する物理ファイルを増やすか、ファイルの内容をアンロードして上書きできる状態にしてから再度コマンドを実行してください                     |
| 709   | 同一世代のファイルグループがあるので、オープンをやめました     | このファイルグループを構成する物理ファイルを xodjnlrm コマンドで削除した後、xodjnlinit で再度作成してください                        |
| 1101  | オープン対象物理ファイルのすべてのオープンに失敗しました      | KFXO01240-E メッセージにしたがってください                                                              |
| 1601  | アンロード、又はステータス変更可能なジャーナルファイルがありません | 指定したファイルグループ名を見直してください                                                                   |
| 1602  | ジャーナルファイルのブロックぬけを検知しました           | このファイルグループのアンロードを中止して、システム管理者に連絡してください                                                   |
| 1603  | このファイルグループはアンロード済み状態です            | 指定したファイルグループ名を見直してください                                                                   |
| 1604  | -n オプションの指定値が範囲外です                | 指定値を 20 ~ 262144 の間に再度コマンドを実行してください                                                      |

## 付録K メッセージ

| 理由コード | 内容                            | 対処                                                |
|-------|-------------------------------|---------------------------------------------------|
| 1605  | -s オプションの指定値が範囲外です            | 指定値を 80 ~ 1048576 の間にして再度コマンドを実行してください            |
| 1606  | OMS 稼働中のデータベースのバックアップが可能な状態です | OMS 稼働中のデータベースのバックアップが可能な状態を解除してから再度コマンドを実行してください |

KFXO01281-E : コマンドの形式が誤っています。

要因

コマンドの形式が誤っています。

対処

正しい使用方法で再度コマンドを入力してください。

KFXO01282-E : XXオプションで指定されたYYが見つかりません。

XX :

オプションコード (-g 固定)

YY :

ファイルグループ名

要因

オプションの引数に誤りがあります。

対処

オプションの引数を正しく指定し直し、再度コマンドを実行してください。

KFXO01285-E : スワップ処理中のためコマンドが実行できませんでした。

要因

スワップ処理中のためコマンドが実行できません。

対処

スワップ処理の終了を待って、再度コマンドを実行してください。

KFXO01286-E : 交代用ジャーナルファイルグループがないためスワップできませんでした。

要因

交代用ジャーナルファイルグループがないためスワップできませんでした。

対処

待ち状態のジャーナルファイルをアンロード状態にし、交代先を用意してください。又は、予備状態のジャーナルファイルをオンラインに割り当て、交代先を用意してください。

KFXO01300-E : 領域の確保に失敗しました。

要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再度実行してください。

KFXO01301-E : ジャーナル編集ファイルのオープンに失敗しました。エラーコード : XX

XX :

システムコールの open() で発生したエラーコードを示す。

## 要因

ファイルをオープンしようとした時、システムコールの `open()` でエラーが発生しました。

## 対処

エラーコード (`errno`) からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO01302-E : ジャーナル編集ファイルの書き込みに失敗しました。エラーコード : XX

## XX :

システムコールの `write()` で発生したエラーコードを示す。

## 要因

ファイルに書き込みをしようとした時、システムコールの `write()` でエラーが発生しました。

## 対処

エラーコード (`errno`) からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO01303-E : ジャーナル編集ファイルの読み込みに失敗しました。エラーコード : XX

## XX :

システムコールの `read()` からリターンしたのエラーコードを示す。

## 要因

ファイルの読み込みをしようとした時、システムコールの `read()` でエラーが発生しました。

## 対処

エラーコード (`errno`) からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO01304-E : ジャーナル編集ファイルのポインタの移動に失敗しました。エラーコード : XX

## XX :

システムコールの `lseek()` からリターンしたエラーコードを示す。

## 要因

ファイルポインタの移動をしようとした時、システムコールの `lseek()` でエラーが発生しました。

## 対処

エラーコード (`errno`) からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO01305-W : ジャーナル編集ファイルのクローズに失敗しましたが、処理を続行します。エラーコード : XX

## XX :

## XX :

システムコールの `close()` からリターンしたエラーコード (`errno`) を示す。

## 要因

システムコールの `close()` で、エラーが発生しました。

## 対処

ジャーナル編集ファイルがあれば削除してください。

KFXO01306-W : ジャーナル編集ファイルの削除に失敗しましたが、処理を続行します。エラーコード : XX

## XX :

## XX :

システムコールの `unlink()` で発生したエラーコード (`errno`) を示す。

## 付録K メッセージ

### 要因

ジャーナルファイルの削除をしようとした時、システムコールの unlink() で、エラーが発生しました。

### 対処

ジャーナルファイルを削除してください。

KFXO01310-I : システムジャーナルの情報がありません。

### 要因

システムジャーナルサービス定義 (\$XODDIR/conf/sysjnl) にジャーナルファイルグループの定義が無かった場合に出力されます

### 対処

システムジャーナルサービス定義にジャーナルファイルグループの定義を追加して、再度システムジャーナルの情報取得を実行してください

KFXO01311-E : ワークファイルのオープンに失敗しました。ファイル名 : XX エラー番号 : YY

### XX :

オープンに失敗したファイルのファイル名

### YY :

fopen() で返されたエラー番号

### 要因

ワークファイルをオープンしようとした時、fopen() でエラーが発生したため、処理が続行できません

### 対処

エラー番号を参照してエラーの原因を取り除いて、当該操作を再度実施してください

KFXO01312-E : ワークファイルのクローズに失敗しました。ファイル名 : XX エラー番号 : YY

### XX :

クローズに失敗したファイルのファイル名

### YY :

fclose() で返されたエラー番号

### 要因

ワークファイルをクローズしようとした時、fclose() でエラーが発生したため、処理が続行できません

### 対処

エラー番号を参照してエラーの原因を取り除いて、当該操作を再度実施してください

KFXO01321-E : ジャーナルファイルのオープンに失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : XX

### ファイル名 :

オープンに失敗したファイルのファイル名

### エラーコード :

システムコールの open() で発生したエラーコード



## 要因

ファイルをオープンしようとしたとき、システムコールの `open()` でエラーが発生しました。

## 対処

エラーコード (`errno`) からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO01322-E: ジャーナルファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名: XX エラーコード: XX

## ファイル名:

書き込みに失敗したファイルのファイル名

## エラーコード:

システムコールの `write()` で発生したエラーコード

## 要因

ファイルに書き込みをしようとしたとき、システムコールの `write()` でエラーが発生しました。

## 対処

エラーコード (`errno`) からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO01323-E: ジャーナルファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名: XX エラーコード: XX

## ファイル名:

読み込みに失敗したファイルのファイル名

## エラーコード:

システムコールの `read()` からリターンしたのエラーコード

## 要因

ファイルの読み込みをしようとしたとき、システムコールの `read()` でエラーが発生しました。

## 対処

エラーコード (`errno`) からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO01324-E: ジャーナルファイルのポインタの移動に失敗しました。ファイル名: XX エラーコード: XX

## ファイル名:

ポインタの移動に失敗したファイルのファイル名

## エラーコード:

システムコールの `lseek()` からリターンしたエラーコード

## 要因

ファイルポインタの移動をしようとしたとき、システムコールの `lseek()` でエラーが発生しました。

## 対処

エラーコード (`errno`) からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO01325-W: ジャーナルファイルのクローズに失敗しましたが、処理を続行します。ファイル名: XX エラーコード: XX

## ファイル名:

クローズに失敗したファイルのファイル名

## 付録K メッセージ

エラーコード：

システムコールの close() からリターンしたエラーコード (errno)

要因

システムコールの close() で、エラーが発生しました。

対処

エラー番号を参照してエラーの原因を取り除き、当該操作を再度実施してください

KFXO01326-W：ジャーナル取得時刻の設定に失敗しましたが、処理を続行します。

要因

時刻の取得に失敗しました。

対処

繰り返し発生す場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO01327-E：ジャーナルファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名：XX

要因

ジャーナルファイルに書き込みをしようとしたとき、write が残っている領域、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。

対処

不要なファイルを削除し、空き領域を作成してください。

KFXO01627-E：メモリ不足で処理を続行できません。

要因

サービス・グループ登録処理でメモリ不足が発生したため、処理を打ち切りました。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、オブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO01628-E：ネットワーク障害のため、OMSを開始できません。

要因

ネットワーク障害が発生したため、処理を打ち切りました。

対処

ネットワーク機器が正常に動作しているか、また、ネットワークの設定が正しいか確認してください。このエラーが繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO01631-E：通信障害のため、OMSを開始できません。

要因

通信障害が発生したため、処理を打ち切りました。

対処

ネットワーク機器が正常に動作しているか、また、ネットワークの設定が正しいか確認してください。このエラーが繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO01632-E：定義解析中にエラーが発生したため、OMSを開始できません。

要因

定義解析中にエラーが発生したため、処理を打ち切りました。

対処

直前に出力されているメッセージに従ってエラー原因を取り除いて、オブジェクトサーバを再起動してください。

KFX001644-I：デフォルト値を採用して、OMSを開始します。

要因

デフォルト値（システム共通定義の省略値）を採用して、オブジェクトサーバを開始しました。

KFX001645-E：OMSを開始できません。理由コード=XX

要因

理由コードで示すエラーが発生したため、オブジェクトサーバを開始できません。

対処

理由コードが示すエラー原因を取り除いて、オブジェクトサーバを再起動してください。

理由コードを次に示します。

| 理由コード | 内容                        | 対処                               |
|-------|---------------------------|----------------------------------|
| -604  | プロセス固有メモリの領域が確保できません      | プロセス固有領域の大きさを見直してください            |
| 46200 | オブジェクトサーバの開始処理でエラーが発生しました | 直前に出力されたメッセージに従って対策してください        |
| その他   | -                         | このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください |

KFX001699-E：OMSが異常を検知しました。理由コード=XX 詳細コード=XX ファイル名=XX 場所=XX

理由コード：

エラー原因を示す内部コード

詳細コード：

エラーとなった関数の内部エラーコード

ファイル名：

アボートしたファイル名

場所：

ファイル中の行番号

要因

理由コードで示すエラーが発生しました。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときはコアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFX001800-I：OMS開始中です。

## 付録K メッセージ

### 要因

オブジェクトサーバ開始中です。

KFX001801-E：動作環境が整っていないので，開始できません。要因：XX

### 要因

オブジェクトサーバが開始できません。

### 対処

要因コードからオブジェクトサーバの動作環境を見直してください。オブジェクトサーバの動作環境を修正してから，再起動してください。

| 要因コード      | 内容                                         | 対処                                                                                                                                             |
|------------|--------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ENV_DCDIR  | XODDIR の設定に誤りがあります。又は，ディレクトリ参照時にエラーが発生しました | 環境変数 XODDIR を設定又は設定内容を見直してください                                                                                                                 |
| MEMORY     | メモリ不足が発生しました                               | SHM_EINVAL，SHM_ENOMEM，SHM_ENOSPC を参照してください                                                                                                     |
| PAUSE      | システム障害が発生又はシステムが前処理中です                     | 同時に出力されているメッセージを参照してください。メッセージが出力されていない場合，しばらくしてから再実行してください。又は，システムを再度セットアップしてください                                                             |
| PROGRAM    | 前提プログラムがありません                              | 前提プログラムを組み込んでください                                                                                                                              |
| SETUP      | システムがセットアップされていません                         | システムをセットアップしてください                                                                                                                              |
| SHM_EINTR  | 共用メモリを確保しようとしたときに，シグナルが発生しました              | シグナル発生要因を調査し，再度オブジェクトサーバを起動してください                                                                                                              |
| SHM_EINVAL | 共用メモリ容量が制限を超えています                          | オブジェクトサーバシステム共通定義で指定する dynamic_shmpool_size 又は static_shmpool_size の値を小さくしてください                                                                |
| SHM_EMFILE | オープンファイル数が制限を超えています                        | オープンしているファイル数を減らしてください                                                                                                                         |
| SHM_ENOMEM | 要求された共用メモリが確保できません                         | 実メモリを増やしてください                                                                                                                                  |
| SHM_ENOSPC | 共用メモリ識別子の数が制限を超えています                       | 起動しているプログラム数を減らすことなどによって，システム上の共用メモリ面数を減らしてください。又は，UNIX システムの共用メモリ識別子の最大面数を大きくしてください。HI-UX/WE2 を御使用の場合は，マニュアル「HI-UX/WE2 システム管理 タスク編」を参照してください。 |
| VERSION    | OS のバージョンが異なります                            | 正しいバージョンの OS を組み込んでください                                                                                                                        |

KFX001802-E：同じOMS識別子のOMSが動作中のため開始できません。

### 要因

同じ OMS 識別子を持ったオブジェクトサーバが動作中のため開始できません。

## 対処

動作中のオブジェクトサーバの終了を待ってから再起動してください。

KFXO01803-I : OMSの開始モードを決定しました。開始モード : XX

## XX :

決定した開始モードを示します。

- S : 正常開始
- R : 再開始

## 要因

オブジェクトサーバの開始モードを決定しました。

KFXO01809-I : OMSがオンライン状態になりました。

## 要因

オブジェクトサーバがオンライン状態になりました。

KFXO01810-I : スケジュールを開始します。

## 要因

スケジュールを開始します。

KFXO01812-E : サーバXX開始中にエラーが発生しました。要因 : YY

## 要因

開始できないサーバがあります。

## 対処

要因コードからオブジェクトサーバの動作環境を見直してください。また、`xodlogcat` を入力してメッセージを確認し、オブジェクトサーバの動作環境を修正してから、再起動してください。

| 要因コード              | 内容                | 対処                                                                               |
|--------------------|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| COMMUNICATION      | プロセス間通信に障害が発生しました | このメッセージの前の障害メッセージに従って対処してください                                                    |
| CONFIGURATION      | 定義解析に失敗しました       | 定義の記述を見直してください                                                                   |
| DEFINE FILE UNREAD | 定義の読み込みに失敗しました    | このメッセージの前の障害メッセージに従って対処してください                                                    |
| EXIST              | 既にサーバが起動しています     | 該当するサーバを <code>kill</code> コマンドで終了させてから、 <code>xodsetup -d</code> を実行し、再起動してください |
| FORK FAILED        | 起動に失敗しました         | このメッセージの前の障害メッセージに従って対処してください                                                    |
| LOCK               | 排他エラーが発生しました      | 排他サービスに関するメッセージに従って対処してください。または、排他サービス定義を見直してください                                |
| MAX PROCESSES      | 最大プロセス数を越えました     | システム共通定義の最大プロセス数を見直してください。または、不要なプロセスを終了させてください                                  |
| MEMORY             | メモリ不足が発生しました      | 実メモリサイズ又はスワップエリアサイズを見直してください                                                     |

付録K メッセージ

| 要因コード               | 内容                  | 対処                                                                                                                                                                                                                                      |
|---------------------|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| NO RPC ENVIRONMENT  | R P C 環境が開始していません   | このメッセージの前の障害メッセージに従って対処してください                                                                                                                                                                                                           |
| NO SCHEDULER        | スケジューラが停止しています      | 起動しているサーバがあれば kill コマンドで終了させてください。その後、xodsetup -d を実行して、再起動してください                                                                                                                                                                       |
| NO SERVICE PRODUCER | プロセスサービスが開始していません   | pred プロセスを起動させてください                                                                                                                                                                                                                     |
| NO_SERVER           | サーバがありません           | オブジェクトサーバを組み込み直してください                                                                                                                                                                                                                   |
| PRC ERROR           | プロセスサービスでエラーが発生しました | このメッセージの前の障害メッセージに従って対処してください                                                                                                                                                                                                           |
| SCD NOT UP          | スケジューラが開始していません     | 起動しているサーバがあれば、kill コマンドで終了させてください。その後、xodsetup -d を実行して、再起動してください                                                                                                                                                                       |
| SERVER DOWN         | サーバが異常終了しました        | ダウンしたサーバに対して、次の処置をしてください                                                                                                                                                                                                                |
| ダウンしたサーバ名：<br>_nam  |                     | 残っているプロセスを kill コマンドで終了させてから、xodsetup -d を実行して、再起動してください                                                                                                                                                                                |
| : _log              |                     | \$XODDIR/spool の権限又は所有者を確認してください                                                                                                                                                                                                        |
| サーバ共通               |                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ xodsetup -d を実行して、再起動してください</li> <li>・ すべての資源の権限は正しいか確認してください。権限が無い場合は、権限を与えて再実行してください</li> <li>・ すべての資源の所有者は同じか確認してください。違う場合は、所有者を同じにしてください</li> <li>・ このメッセージの前のメッセージに従って対処してください</li> </ul> |
| SHARED MEMORY       | 共用メモリを確保できませんでした    | システム共通定義の static_shmpool_size の指定値を見直してください。または、実メモリを増やしてください                                                                                                                                                                           |
| STOPPING NOW        | 終了処理中です             | 終了の処理が完了してから、再起動してください。終了しない場合は kill コマンドで終了させてください                                                                                                                                                                                     |

KFX001815-E : システムでエラーが発生しました。名称 : XX 関数値=YY errno=ZZ

XX :

異常終了したシステムコール又はサブルーチン名

YY :

異常終了したシステムコール又はサブルーチンの関数値

ZZ :

異常終了したときの errno の値

要因

システムでエラーが発生しました。

対処

エラーの原因を調査して取り除いてください。

なお、xodstart コマンド実行時に次のメッセージがシステムコンソールに出力されてオブジェクトサーバが起動できない場合は、「8.2 システム管理コマンド」の xodstart コマンドの注意事項を参照してください。

- KFXO01815-E システムでエラーが発生しました。名称：semctl 関数値 =-1 errno=22
- KFXO00105-E YYY (ZZZ) (pid=XXXX) killed by code=ascmw11 info[ adm scmdw]  
KFXO00105-E のメッセージの詳細については、KFXO00105-E の説明を参照してください。

KFXO01820-E : サーバTTがダウンしました。pid : UU , サービスグループ名 : VV , 走行モード : WW , クリティカル状態 : XX 0xYY , 終了状態 : ZZ

TT :

異常終了したサーバ名

UU :

異常終了したプロセスのプロセス ID

VV :

異常終了したサーバのサービスグループ名 (31 文字以内)

ダウンしたプロセスが関連プログラムの場合は、プログラム名、実行ファイル名と表示されます。

プログラム名が特定できない場合は、"\*\*\*\*\*" と表示されます。

実行ファイル名は以下のように表示されます。

- AIX の場合、ファイル名の先頭から 15 文字以内で表示されます。
- HI-UX/WE2 の場合、実行ファイル名の最後の文字から 15 文字以内で表示されます。実行ファイル名がパス名を含むなどで 60 文字を超えている場合は 46 文字目から 15 文字を表示されます。
- HP-UX の場合、ファイル名の先頭から 14 文字以内で表示されます。
- 特定できない場合は、"\*\*\*\*\*" と表示されます。

WW :

異常終了直前のサーバの走行モード

OMS :

オブジェクトサーバ処理中

USER :

ユーザ処理中

XX : Y :

クリティカル状態

N :

## 付録K メッセージ

クリティカル状態でない

YY :

クリティカル情報

ZZ :

wait(2) で返されるプロセス終了状態

要因

オブジェクトサーバのサーバが停止しました。

対処

このメッセージの前に出力されたメッセージ又はトラブルシュート情報(ダンブ、トレースなど)によって、異常終了の要因を調査して、対策してください。

KFXO01821-E : OMSの続行が不可能なエラーが発生したため、OMSを停止します。

要因

オブジェクトサーバの続行が不可能なエラーが発生したため、オブジェクトサーバを停止します。

対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを参照して、エラー原因を取り除いてください。

KFXO01822-W : <警告> 共用メモリサイズが前回よりも小さくなっています。種別 : XX

種別 :

サイズが小さくなった共用メモリの種別

- static : 静的共用メモリ
- dynamic : 動的共用メモリ

要因

共用メモリが前回よりも小さくなっています。

対処

定義を見直し、必要な場合は、共用メモリサイズを変更してオブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO01826-I : OMSディレクトリ=UU OMSバージョン=VV 静的共用メモリ量=WWKB  
動的共用メモリ量=XXKB システムランID=YY OMS識別子=ZZ

要因

システムを開始するときに、その環境を表示します。

KFXO01827-I : OMSをユティリティ実行モードで起動しました。

要因

オブジェクトサーバをユティリティ実行モードで起動しました。

KFXO01828-I : OMSを回復ユティリティ実行モードで起動しました。

要因

オブジェクトサーバを回復ユティリティ実行モードで起動しました。

KFXO01829-E : 前回OMSが異常終了しリランが必要です。一旦通常モードで起動してDBを回復してください。DBをバックアップからリストアした場合は、強制正常開始してください。

要因

前回起動時に、オブジェクトサーバが正常終了していないため、DBが壊れている可能性があります。



## 対処

DB をバックアップからリストアし、バックアップ時点の DB をそのまま使用する場合は、強制正常開始モードでオブジェクトサーバを起動してください。データベース環境設定ユティリティ（データベースの初期化を除く）、及びデータベース保守ユティリティの xodbreog コマンドを使用する場合は、一旦通常モードでオブジェクトサーバを起動して DB を回復し、正常終了させた後、ユティリティ実行モードで起動してください。DB のバックアップを取得する場合は、正常終了後に取得してください。

KFXO01830-E：前回OMSが異常終了しリランが必要です。一旦通常モードで起動してDBを回復してください。DBをバックアップからリストアした場合は、強制正常開始か、回復ユティリティ実行モードで起動してください。

## 要因

前回起動時に、オブジェクトサーバが正常終了していないため、DB が壊れている可能性があります。

## 対処

DB をバックアップからリストアし、バックアップ時点の DB をそのまま使用する場合は、強制正常開始モードでオブジェクトサーバを起動してください。データベース保守ユティリティのデータベースの回復とバックアウトを使用する場合は、回復ユティリティ実行モードで起動してください。データベース環境設定ユティリティ（データベースの初期化を除く）、及びデータベース保守ユティリティのデータベースの再編成を使用する場合は、一旦通常モードでオブジェクトサーバを起動して DB を回復し、正常終了させた後、ユティリティ実行モードで起動してください。DB のバックアップを取得する場合は、正常終了後に取得してください。

KFXO01840-I：OMS終了中です。

## 要因

オブジェクトサーバ終了中です。

KFXO01841-I：OMSが停止しました。

## 要因

オブジェクトサーバが停止しました。

KFXO01845-E：OMS停止中のため、コマンドの入力はできません。

## 要因

オブジェクトサーバ停止中です。

KFXO01849-W：サーバの終了を待ち合わせます。サーバ名：XX

## 要因

システムの終了を待ち合わせます。

## 対処

表示されたサーバを終了させてください。

KFXO01860-E：コマンドが誤っています。使用方法：XX

## XX：

該当するコマンドの形式です。次のコマンドが表示されます。

## 付録K メッセージ

- xodclear : 障害時リラン前環境クリアコマンド
- xodpinfo : プロセス状態表示コマンド

### 要因

コマンドに誤りがあります。

### 対処

コマンドを再度入力してください。

KFXO01861-E : コマンドでエラーが発生しました。要因 : XX

### 要因

コマンドでエラーが発生しました。次に、メッセージに表示される要因とエラーの内容を示します。

| 要因              | 内容                                                                                |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| COMMUNICATION   | プロセス間通信エラーが発生しました                                                                 |
| DEFINE FILE     | 定義ファイルの内容に誤りがあります                                                                 |
| FILE IO         | ファイルの操作に失敗しました                                                                    |
| INITIALIZING    | Object Server 起動処理中のため、コマンドを受け付けられません。Object Server の起動が完了するのを待って、再度コマンドを入力してください |
| MEMORY          | メモリ不足が発生しました                                                                      |
| PARAM           | 引数に誤りがあります                                                                        |
| SERVER NAME LEN | サーバ名の長さが正しくありません                                                                  |
| SHARED MEMORY   | 共用メモリのアクセスに失敗しました                                                                 |
| STATUS          | サーバの追加及び削除に失敗しました                                                                 |
| SYSTEM STATUS   | システムのステータステーブルを参照できません                                                            |
| TIMEOUT         | 時間内にシステム初期化処理が終了しませんでした                                                           |

### 対処

オブジェクトサーバの起動が完了するのを待って、再度コマンドを入力してください。

要因コードで示されたエラーの原因を対策してください。

対策できない場合、システム管理者に連絡してください。

KFXO01863-E : システムの状態がXXでないため、コマンドが実行できません。コマンド名 : YY

### XX :

コマンド入力できる状態を示します。

- ONLINE : オンライン中
- OFFLINE : オフライン中

### YY :

入力したコマンド名を示します。

- xodstart : システム開始コマンド
- xodstop : システム終了コマンド
- xodclear : 障害時リラン前環境クリアコマンド
- xodpinfo : プロセス状態表示コマンド

### 要因

システムの状態と実行しようとしたコマンドが合っていません。

## 対処

次のどれかの方法で対処してください。

- xodstart の場合、システムステータスが表示された状態になる (KFXO01803-I に表示される)のを待って、コマンドを再入力してください。
- xodstop の場合、システムステータスが表示された状態になるのを待って、コマンドを再入力してください。
- xodstop -f を入力してください。
- xodclear の場合、オブジェクトサーバを正常終了させてから、コマンドを再入力してください。
- xodpinfo の場合、オブジェクトサーバを稼働させてから、再度コマンドを入力してください。

KFXO01864-E : コマンドでタイムオーバが発生しました。コマンド名 : xodstop

## 要因

コマンドでタイムオーバが発生しました。連携するアプリケーションプログラムが停止を完了していない場合にも発生します。

## 対処

連携するアプリケーションプログラムとオブジェクトサーバの停止の順序を見直してください。連携するアプリケーションプログラムの停止を完了している場合、以下の対処に従ってください。

コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してシステム管理者に連絡してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO01867-E : 共用メモリの利用ができないため、処理が続行できません。

## 要因

共用メモリを利用できる状態になっていません。

## 対処

システムが動作中かどうかを確認して、コマンドを入力してください。

KFXO01869-E : システムがインストールされていないか、システムダウン中のためコマンドが受け付けられません。

## 要因

コマンドが受け付けられません。

## 対処

システムが動作中かどうかを確認して、コマンドを入力してください。

KFXO01870-E : メモリ不足のため、定義ファイルを解析できません。

## 要因

定義ファイルを解析中にメモリが不足しました。

## 対処

プロセス数を少なくするか、他プロセスで使用しているメモリ量を少なくしてください。

KFXO01871-E : 通信障害が発生しました。サーバ名 : XX return\_code=YY

## 付録K メッセージ

### 要因

通信エラーが発生しました。

### 対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを参照して、エラー要因を取り除いてください。その後、再度オブジェクトサーバを起動してください。

KFXO01872-E : OMS起動中のデータベースのバックアップが可能な状態です。OMSを停止できません。

### 要因

OMS を停止できません。

### 対処

OMS 起動中のデータベースのバックアップが可能な状態を解除してから再度コマンドを実行してください。

KFXO01891-E : 環境変数が設定されていません。

### 要因

環境変数の XODDIR , XODCONFPATH が設定されていません。

### 対処

環境変数 XODDIR , XODCONFPATH を設定してください。

KFXO01896-E : 環境をすべてクリアできませんでした。情報出力先 : XX

XX : xodclear のメッセージを格納しているファイル名

### 要因

xodclear コマンドが正常終了しませんでした。

### 対処

情報出力先ファイルの出力されているメッセージをもとに対処してください。

KFXO01897-E : ディレクトリ(XX)がありません。

XX : 存在しないディレクトリ名

### 要因

ディレクトリがありません。

### 対処

存在していないディレクトリを作成してください。存在しないディレクトリ名が \$XODDIR/spool の場合、ユーザがディレクトリを移動した可能性がありますので、ディレクトリを作成してください。また、元の spool ディレクトリ下にジャーナルファイル (ファイル名 : jnlfile) が存在すれば、それを \$XODDIR/spool 下にコピーしてください。

存在しないディレクトリ名が \$XODDIR/spool 以外の場合、ディレクトリを作成してください。

KFXO01898-I : コマンド(XX)が正常に終了しました。

XX : コマンド名

### 要因

コマンド (XX) が正常に終了しました。

KFXO01902-E : メモリ不足が発生したためログサービスを開始できません。

### 要因

メモリが不足したため、ログサービスを開始できません。

対処

不要なプロセスを消去してください。

KFXO01903-E：通信障害が発生したためログサービスを開始できません。

要因

通信障害が発生したためログサービスを開始できません。

対処

通信障害の要因を調査し、障害を取り除いてください。

KFXO01910-I：ログファイルをXXからYYに切り替えました。

要因

ログファイルを切り替えます。このメッセージ以降のログメッセージは、切り替え後のログファイルに出力されます。

対処

複数世代のメッセージをログファイルに保存したい場合は、このメッセージ出力後、直ちに切り替え前のメッセージファイルを退避してください。

KFXO01911-E：ログファイル（XX）の前処理でエラーが発生しました。

要因

ログファイルに対して、このメッセージ以前に出力された KFXO00107-E メッセージ（エラーが発生したシステムコールが stat 又は open のもの）で示される要因によって、エラーが発生しました。

対処

ログファイルのエラーを取り除いてください。

KFXO01912-E：ログファイル（XX）のオープン処理でエラーが発生しました。

要因

ログファイルに対し、このメッセージ以前に出力された KFXO00107-E メッセージ（エラーが発生したシステムコールが open のもの）で示される要因によって、エラーが発生しました。

対処

ログファイルのエラーを取り除いてください。

KFXO01913-E：ログファイルの切り替え処理でエラーが発生したため、ログメッセージの出力先を標準エラー出力へ変更しました。

要因

ログファイルの切り替え処理でエラーが発生しました。  
ログメッセージの出力先を標準エラー出力に変更した後、処理を続行します。  
ただしログメッセージコンソール出力オプションが指定されている場合、標準エラー出力へ出力中は、コンソール出力機能は抑止されます。

対処

このメッセージ出力以前に出力された KFXO01912-E メッセージの要因を調査して、ログファイルをオープンできる状態にしてください。

KFXO01914-E：ログファイル（XX）にI/Oエラーが発生したため、ログメッセージの出力先を標準エラー出力へ変更しました。

要因

## 付録K メッセージ

ログファイルに入出力エラーが発生しました。  
ログメッセージの出力先を標準エラー出力に変更した後、処理を続行します。  
ただしログメッセージコンソール出力オプションが指定されている場合、標準エラー出力へ出力中は、コンソール出力機能は抑止されます。

### 対処

入出力エラーの原因（ディスク一杯であるなど）を調査してください。

KFXO01915-I：ログメッセージの出力先を標準エラーからログファイル（XX）へ変更しました。

### 要因

ログファイルのオープン（再試行）が成功したので、ログメッセージの出力先を標準エラー出力からログファイルへ切り替えました。

ログメッセージの出力先をログファイルに変更した後、処理を続行します。

### 対処

ログメッセージコンソール出力オプションが指定されている場合、コンソール出力機能の抑止を解除します。

KFXO01917-W：メッセージ出力レベルが不正です。レベルをXXに設定しました。

### 要因

システム共通定義ファイルに指定したメッセージ出力レベルが不正です。

### 対処

次に起動する前には正しい値を指定してください。

KFXO01921-W：システムコンソールメッセージ退避ファイルの出力に失敗しました。要因=XX  
errno=YY

### XX：

エラーが発生したファイル名

### YY：

要因コード

### 要因

システムコンソールメッセージ退避ファイルへシステムコンソールメッセージの出力に失敗しました。

### 対処

要因コードによって対策してください。

| 要因コード  | 対策                                  |
|--------|-------------------------------------|
| CLOSE  | システムコールの errno 値によりエラーの原因を取り除いてください |
| GETENV | 環境変数 XODDIR が正しく設定されているか確認してください    |
| OPEN   | システムコールの errno 値によりエラーの原因を取り除いてください |
| WRITE  | システムコールの errno 値によりエラーの原因を取り除いてください |

KFXO01950-I：使用方法：xodlogcat [-niNldtHp]

### 要因

xodlogcat コマンド（ログメッセージ出力機能）の使用方法を表示します。

### 対処

正しい使用方法でコマンドを再入力してください。

KFXO01951-E：メモリ不足が発生しました。

## 要因

ログサービスのコマンド実行中にプロセス固有メモリが不足しました。

## 対処

不要なプロセスを消去してください。

KFXO01952-E : ログサービスで異常が発生しました。保守情報 : XX

## 要因

ログサービスで異常が発生しました。

## 対処

このメッセージを記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO01953-E : ログファイル格納ディレクトリの取得に失敗しました。

## 要因

ログファイル格納ディレクトリの取得に失敗しました。

## 対処

\$XODDIR を設定してから、再実行してください。

KFXO01954-E : ログファイル (XX) がオープンできません。

## 要因

ログファイルがない、又はログファイルに対する読み込み権がないため、オープンできません。

## 対処

このログファイルに対する読み込み権がない場合は、読み込み権を与えてください。

KFXO01955-E : ファイル (XX) で I/O エラーが発生しました。

## 要因

ログファイルで、このメッセージ以前に出力された KFXO00107-E メッセージで示される要因によって、エラーが発生しました。

## 対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを調査して、ログファイルのエラー要因を取り除いてください。

KFXO01956-E : ログファイル (XX) で I/O エラーが発生しました。

## 要因

ディスクで I/O エラーが発生したため、ファイルの処理を中止しました。

## 対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを調査して、ログファイルのエラー要因を取り除いてください。取り除けない場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO01957-E : ファイル (XX) はログファイルではありません。

## 要因

xodlogcat コマンドのオプションで指定したファイル名に誤りがあります。または、ログファイルの内容が壊れています。

## 対処

正しいファイル名を指定してください。ログファイルが壊れている場合は、オブジェクトサーバを再起動してください。

## 付録K メッセージ

KFXO01959-I : 出力するログメッセージはありません。

要因

xodlogcat コマンドを実行しようとしたますが、出力するログメッセージがありません。

KFXO01978-E : コマンド引数の指定が誤っています。

要因

コマンド引数の指定がありません。又は、使用できる個数より多くのコマンド引数が指定されています。

対処

このメッセージの直後に出力される、使用方法のメッセージに従って、コマンドを入力してください。

KFXO01984-E : \*\*\* message(XXXX) cannot be output :message file not found \*\*\*

XXXX :

出力できなかったメッセージの番号

要因

メッセージオブジェクトファイルがないために、メッセージが出力できません。

対処

\$XODDIR/lib の下に msgtxt があることを確認してください。ある場合は、環境変数 (XODDIR) を設定し直してください。ない場合は、システムを組み込み直してください。

KFXO01985-E : \*\*\* message(XXXX) cannot be output :message file I/O error \*\*\*

XXXX :

出力できなかったメッセージの番号

要因

メッセージオブジェクトファイルに入出力エラーが発生しました。

対処

繰り返し発生する場合は、このメッセージ及び出力できなかったメッセージ ID を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO01986-E : \*\*\* message(XXXX) cannot be output :message file access denied \*\*\*

XXXX :

出力できなかったメッセージの番号

要因

メッセージオブジェクトファイルにアクセス権がないために、メッセージが出力できません。

対処

メッセージオブジェクトファイルに読み込み許可がない場合は、読み込み許可を与えてください。また、メッセージオブジェクトファイルのパスを構成するディレクトリに検索許可がない場合は、検索許可を与えてください。

KFXO02102-E : チェックポイントダンプサービス XX が開始できません。理由コード=YY

XX :

チェックポイントダンプ io プロセスのサーバ名

YY :



障害の内容を示す理由コード（10けた以内の数字）

要因

チェックポイントダンプサービスが開始できません。

対処

理由コードによって対策し、再度オブジェクトサーバを開始してください。

| 理由コード | 内容                | 対処                                       |
|-------|-------------------|------------------------------------------|
| -147  | 共用メモリプールの容量不足     | 定義で指定した共用メモリサイズを見直してください                 |
| -201  | メモリ不足             | プロセス固有、及び共用メモリの使用状況を見直してください             |
| -1807 | メモリ不足             | プロセス固有、及び共用メモリの使用状況を見直してください             |
| -2105 | メモリ不足             | プロセス固有、及び共用メモリの使用状況を見直してください             |
| -306  | ネットワーク障害発生        | OSの提供するコマンドでノードの接続状態を調べてください             |
| -641  | ネットワーク障害発生        | Object Serverの提供するコマンドで各サーバの実行状態を調べてください |
| -363  | 定義読み込み失敗          | 前に出力された障害メッセージに従って対策してください               |
| -604  | メモリ不足             | プロセス固有、及び共用メモリの使用状況を見直してください             |
| -700  | プロセス間通信エラー        | エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください              |
| -1033 | プロセス間通信エラー        | エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください              |
| -1851 | プロセス間通信エラー        | エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください              |
| -1006 | ステータスファイル I/O エラー | エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください              |
| -1012 | 作業領域不足            | プロセス固有、及び共用メモリの使用状況を見直してください             |
| -1015 | バッファ面数不足          | ステータスサービス定義の内容を見直してください                  |
| -1018 | ステータスファイル容量不足     | ステータスサービス定義の内容を見直してください                  |
| -1039 | スワップ処理エラー         | エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください              |
| -1800 | ステータス書き込みエラー      | エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください              |
| -1801 | ステータス読み込みエラー      | エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください              |
| -1802 | 定義解析エラー           | システム管理者に連絡してください                         |
| -1806 | 内部ファイル書き込みエラー     | エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください              |

KFX002104-W：前回のチェックポイントダンプサービス状態をステータスファイルから回復できません。ステータスファイルなしで回復を続行します。理由コード=XX

## 付録K メッセージ

XX :

障害の内容を示す理由コード (10 けた以内の数字)

要因

チェックポイントダンプサービスが開始できません。

対処

理由コードによって対策してください。

| 理由コード | 内容                 | 対処                                    |
|-------|--------------------|---------------------------------------|
| -1021 | 回復用のステータスコードがありません | ステータスサービス定義の内容を見直してください               |
| -2117 | ステータスファイルの内容不正     | ステータスサービス定義の内容を見直してください               |
| -2127 | リソースのラン ID が不正     | 前回の Object Server で使用した定義と同一が確認してください |

KFXO02105-W : チェックポイントダンプサービスの終了中に障害が発生しましたが、このまま続行します。理由コード=XX

XX :

障害の内容を示す理由コード (10 けた以内の数字)

要因

チェックポイントダンプサービスの終了中に障害が発生しました。

対処

理由コードによって対策してください。

| 理由コード | 内容                                 | 対処                            |
|-------|------------------------------------|-------------------------------|
| -144  | 共用メモリのアクセスができません                   | システム管理者に連絡してください              |
| -604  | プロセス固有メモリ又は、共用メモリが不足しました           | プロセス固有、及び共用メモリの使用状況を見直してください  |
| -607  | 指定された登録者 ID のサービス情報はありますか          | システム管理者に連絡してください              |
| -630  | 同一サービスグループ名とユーザキーで登録されているサービス情報が存在 | システム管理者に連絡してください              |
| -641  | ネットワーク障害発生                         | OS の提供するコマンドでノードの接続状態を調べてください |
| -700  | プロセス間通信エラー                         | エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください   |
| -1851 | プロセス間通信エラー                         | エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください   |
| -702  | ステータス不正                            | エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください   |

KFXO02110-E : XXサービスに対するチェックポイントダンプサービス実行中、プロセス固有の領域不足が発生しました。

XX :

サービス名

## 要因

チェックポイントダンプサービスの実行中に領域不足が発生しました。

## 対処

プロセス数を減らしてください。

KFXO02111-E : XXサービスに対するチェックポイントダンプサービス実行中、障害が発生しました。理由コード=YY 関数名 : ZZ

XX :

サービス名

YY :

理由コード (10 けた以内の数字)

ZZ :

エラーが発生した関数名

## 要因

チェックポイントダンプサービスの実行中、障害が発生しました。

## 対処

理由コードにより対策してください。

| 理由コード | 内容                        | 対処                                                                      |
|-------|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| -306  | ネットワーク障害が発生しました           | OS の提供するコマンドでノードの接続状態を調べてください                                           |
| -641  | ネットワーク障害が発生しました           | OS の提供するコマンドでノードの接続状態を調べてください                                           |
| -307  | 送受信タイムアウト                 | OS の提供するコマンドでノードの接続状態を調べてください                                           |
| -304  | メモリ不足                     | メモリの使用量を見直してください。                                                       |
| -318  | 予期しないエラーが発生しました           | OS の提供するコマンドでノードの接続状態を調べてください。Object Server の提供するコマンドで各サーバの実行状態を調べてください |
| -600  | 予期しないエラーが発生しました           | OS の提供するコマンドでノードの接続状態を調べてください。Object Server の提供するコマンドで各サーバの実行状態を調べてください |
| -604  | プロセス固有メモリ又は、共用メモリが確保できません | プロセス固有メモリ、及び共用メモリの使用状況を確認してください                                         |
| -700  | プロセス間通信エラー                | エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください                                             |
| -1851 | プロセス間通信エラー                | エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください                                             |
| -2011 | 領域を確保できません                | メモリ使用量を見直してください                                                         |
| -2021 | 領域を確保できません                | メモリ使用量を見直してください                                                         |
| その他   | 予期しないエラーが発生しました           | システム管理者に連絡してください                                                        |

KFXO02157-E : チェックポイントダンプサービスの開始又は終了中、共用メモリ障害が発生しました。理由コード=XX 関数名 : YY

XX :

## 付録K メッセージ

理由コード（10けた以内の数字）

YY:

エラーが発生した関数名

要因

チェックポイントダンプサービスの開始又は終了中、共用メモリ障害が発生しました。

対処

理由コードにより対策してください。

| 理由コード | 内容           | 対処                       |
|-------|--------------|--------------------------|
| -147  | 共用メモリ不足      | 定義で指定した共用メモリサイズを見直してください |
| -144  | 共用メモリアクセスエラー | システム管理者に連絡してください         |

KFXO02158-E：チェックポイントダンプサービスの開始又は終了中、ステータスファイルに障害が発生しました。理由コード=XX 関数名：YY

XX:

理由コード（10けた以内の数字）

YY:

エラーが発生した関数名

要因

チェックポイントダンプサービスの開始又は終了中、ステータスファイルに障害が発生しました。

対処

理由コードにより対策してください。

| 理由コード | 内容            | 対処                           |
|-------|---------------|------------------------------|
| -1006 | I/O エラー       | I/O エラーの発生した原因を調査し対策してください   |
| -1012 | 作業領域不足        | メモリの使用量を見直してください             |
| -1015 | バッファ面数不足      | ステータスサービスの定義内容を見直してください      |
| -1018 | ステータスファイル容量不足 | ステータスサービスの定義内容を見直してください      |
| -1033 | プロセス間通信エラー    | エラー原因を調査し、対策後システムを再度起動してください |
| -1039 | スワップ処理エラー     | エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください  |

KFXO02159-E：チェックポイントダンプサービスの開始又は終了中、メモリ不足が発生しました。

要因

チェックポイントダンプサービスの開始又は終了中、メモリ不足が発生しました。

対処

メモリ資源をとりすぎているか確認してください。不要な資源は解放してく

ださい。又は、定義で指定した共用メモリサイズを見直し、対策後、再度起動してください。

KFXO02160-E：チェックポイントダンプサービスの開始又は終了中、システムサービスへの要求で障害が発生しました。 理由コード=XX 関数名：YY

XX：

理由コード（10けた以内の数字）

YY：

エラーが発生した関数名

要因

チェックポイントダンプサービスの開始又は終了中に障害が発生しました。

対処

理由コードにより対策してください。

| 理由コード | 内容                          | 対処                                       |
|-------|-----------------------------|------------------------------------------|
| -1800 | ステータス書き込みエラー                | I/O エラーの発生した原因を調査し対策してください               |
| -1801 | ステータス読み込みエラー                | メモリの使用量を見直してください                         |
| -1802 | サーバの定義解析エラー                 | ステータスサービスの定義内容を見直してください                  |
| -1803 | サーバダウン                      | ステータスサービスの定義内容を見直してください                  |
| -1807 | メモリ不足                       | Object Server の提供するコマンドでサーバの実行状態を調べてください |
| -1809 | 強制停止使用としましたが、サーバはクリティカル状態です | エラー原因を調査し、対策後システムを再度起動してください             |
| -1851 | プロセス間通信エラー                  | エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください              |

KFXO02173-E：チェックポイントダンプ処理でステータスファイル障害が発生しました。 理由コード=XX

XX：

理由コード

要因

チェックポイントダンプ処理でステータスファイル障害が発生しました。

対処

理由コードに従って対策してください。

| 理由コード | 内容            | 対処                         |
|-------|---------------|----------------------------|
| -1006 | I/O エラー       | I/O エラーの発生した原因を調査し対策してください |
| -1012 | 作業領域が確保できません  | メモリの使用量を見直してください           |
| -1015 | バッファ面数不足      | ステータスサービスの定義を見直してください      |
| -1018 | ステータスファイル容量不足 | ステータスサービスの定義を見直してください      |

付録K メッセージ

| 理由コード | 内容             | 対処                                       |
|-------|----------------|------------------------------------------|
| -1033 | プロセス間通信エラー     | Object Server の提供するコマンドでサーバの実行状態を調べてください |
| その他   | 予期せぬエラーが発生しました | システム管理者に連絡してください                         |

KFXO02179-I : XXサービスのチェックポイントダンプ取得契機をスキップしました。 スキップ回数=YY ジャーナル世代番号=ZZ

XX :

サービス名

YY :

チェックポイントダンプ取得契機をスキップした回数の累計 (10 進数)

ZZ :

チェックポイントダンプ取得契機をスキップしたジャーナル世代番号 (16 進数)

要因

前回のジャーナルファイルスワップによってチェックポイントダンプを取得中なので、チェックポイントダンプ取得契機をスキップしました。

対処

システムサービス定義中の jnl\_cdinterval の値を大きくする、又はジャーナルファイルの容量を大きくしてください。

KFXO02182-E : メモリ不足が発生しました。 サイズ=XX 領域種別 : YY

XX :

確保しようとしたサイズ (10 けた以内の数字)

YY :

メモリ不足が発生した領域の種別 (15 文字以内の英数字)

要因

メモリ不足が発生しました。

対処

システム定義を見直し、対策後、オブジェクトサーバを再度起動してください。

KFXO02200-E : トランザクションジャーナルサービスを使用するXXサーバ用の共用メモリが取得できないため、当該サーバにサービスを提供できません。

XX :

サーバ名

要因

共用メモリ不足が発生しました。

対処

共用メモリの容量を見直してから、オブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO02201-E : トランザクションジャーナルサービスを使用するXXサーバ用のプロセスメモリを取得できないため、当該サーバにサービスを提供できません。

XX :

サーバ名

要因

サーバメモリ不足が発生しました。

対処

プロセス数を少なくして、再度オブジェクトサーバを起動してください。多発する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO02202-E : トランザクションジャーナルサービスを使用する各サーバの開始モードが不一致のため、サービスを提供できません。

要因

トランザクションジャーナルサービスを使用する各サーバの開始モードが不一致です。

対処

再度オブジェクトサーバを起動してください。多発する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO02210-E : メモリ不足が発生しました。サイズ=XXバイト 領域種別 : YY

XX :

確保しようとした領域サイズ (10 けた以内の数字)

YY :

メモリ不足が発生した領域の種別 (15 文字以内の英数字)

- STATIC\_SHMPOOL : 静的共用メモリ
- DYNAMIC\_SHMPOOL : 動的共用メモリ
- PROCESS : プロセス固有メモリ

要因

プロセスメモリ不足が発生しました。

対処

領域種別によって対策してください。繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

- 静的共用メモリ : 定義の指定値を見直してください。
- 動的共用メモリ : 定義の指定値を見直してください。
- プロセス固有メモリ : プロセス数を少なくしてください。

KFXO02220-E : ジャーナル不正を検知したため、トランザクションの回復ができません。

要因

システムジャーナルファイルが壊れています。それにもかかわらず、この不正なジャーナルファイルを使って High-end Object Server を全面回復しようとしています。

対処

High-end Object Server を再度起動してください。繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO10000-E : アンロードジャーナルファイルのオープンに失敗しました。ファイル名 : XX  
エラーコード : YY

ファイル名 :

オープンしようとしたファイル名

エラーコード :

システムコールの open() で返されたエラーコード

要因

ファイルをオープンしようとした時、システムコールの open() でエラーが発生

## 付録K メッセージ

しました。

対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO10001-E：指定されたファイルはアンロードジャーナルファイルではありません。ファイル名：XX

ファイル名：

指定されたファイル名

要因

指定されたファイルはアンロードジャーナルファイルではありませんでした。  
又は指定されたファイルが破壊されている可能性があります。

対処

指定したファイルを見直して再実行してください。

KFXO10002-E：指定されたアンロードジャーナルファイルは存在しません。ファイル名：XX

ファイル名：

指定されたファイル名

要因

指定されたファイルがありませんでした。

対処

指定したファイルを見直して再実行してください。

KFXO10003-E：指定されたアンロードジャーナルファイルにアクセスできません。ファイル名：XX

ファイル名：

指定されたファイル名

要因

指定されたファイルにアクセスできませんでした。

対処

指定したファイルを見直して再実行してください。

KFXO10004-E：アンロードジャーナルファイルアクセス中に入出力エラーが発生しました。ファイル名：XX

ファイル名：

指定されたファイル名

要因

指定されたファイルをアクセスしている時に入出力エラーが発生しました。

対処

指定したファイルを見直して再実行してください。

KFXO10005-E：アンロードジャーナルファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名：XX  
エラーコード：YY

ファイル名：

読み込もうとしたファイル名

エラーコード：

システムコールの read() で返されたエラーコード

要因



ファイルの読み込みをしようとした時、システムコールの read() でエラーが発生しました。

対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO10006-E : アンロードジャーナルファイルのポインタの移動に失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

ファイル名 :

ポインタを移動しようとしたファイル名

エラーコード :

システムコールの lseek() で返されたエラーコード

要因

ファイルのポインタの移動をしようとした時、システムコールの lseek() でエラーが発生しました。

対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO10090-E : メモリ不足のためメッセージが出力できませんでした。メッセージ番号 : XX  
メッセージ番号 :

出力できなかったメッセージ番号

要因

メモリ不足によりメッセージが出力できませんでした。

対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させてください

KFXO10091-E : メッセージが出力できませんでした。エラーコード : XX メッセージ番号 : YY

エラーコード :

オブジェクトサーバシステム内部のエラーコード

メッセージ番号 :

出力できなかったメッセージ番号

要因

内部矛盾によりメッセージが出力できませんでした。

対処

システム管理者に連絡してください。

KFXO10100-E : システム共通定義ファイルのujfileパラメタの-nオペランドが指定されていません。

要因

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタの -n オペランドが指定されていません。

対処

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタの -n オペランドを指定してください。

KFXO10101-E : システム共通定義ファイルのujfileパラメタの-eオペランドが指定されていません。

要因

システム共通定義ファイルの `ujfile` パラメタの `-e` オペランドが指定されていません。

対処

システム共通定義ファイルの `ujfile` パラメタの `-e` オペランドを指定してください。

KFXO10102-W : UJ出力ファイルのオープンに失敗しましたが処理を続行します。UJ出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名 :

オープンに失敗したファイル名

エラーコード :

システムコールの `open()` で返されたエラーコード

要因

システム共通定義ファイルの `ujfile` パラメタに指定した UJ 出力ファイルをオープンしようとした時、システムコールの `open()` でエラーが発生しました。別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10103-E : UJ出力ファイルのオープンに失敗しました。UJ出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名 :

オープンに失敗したファイル名

エラーコード :

システムコールの `open()` で返されたエラーコード

要因

システム共通定義ファイルの `ujfile` パラメタに指定した UJ 出力ファイルをオープンしようとした時、システムコールの `open()` でエラーが発生しました。オープンできる UJ 出力ファイルがないため、処理を中止します。

対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO10104-W : UJ出力ファイルの書き込みに失敗しましたが処理を続行します。UJ出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名 :

書き込みに失敗したファイル名

エラーコード :

システムコールの `write()` で返されたエラーコード

要因

システム共通定義ファイルの `ujfile` パラメタに指定した UJ 出力ファイルを書き込みしようとした時、システムコールの `write()` でエラーが発生しました。別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10105-E : UJ出力ファイルの書き込みに失敗しました。UJ出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名 :

書き込みに失敗したファイル名

エラーコード :

システムコールの write() で返されたエラーコード

要因

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルを書き込みしようとした時、システムコールの write() でエラーが発生しました。書き込める UJ 出力ファイルがないため、処理を中止します。

対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO10106-W : UJ出力ファイルの読み込みに失敗しましたが処理を続行します。UJ出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名 :

読み込みに失敗したファイル名

エラーコード :

システムコールの read() で返されたエラーコード

要因

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルを読み込みしようとした時、システムコールの read() でエラーが発生しました。別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10107-E : UJ出力ファイルの読み込みに失敗しました。UJ出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名 : 読み込みに失敗したファイル名

エラーコード : システムコールの read() で返されたエラーコード

要因

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルを読み込もうとした時、システムコールの read() でエラーが発生しました。読み込みできる UJ 出力ファイルがないため、処理を中止します。

対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO10108-W : システム共通定義ファイルに定義したファイルはUJ出力ファイルではありませんでしたが処理を続行します。ファイル名=XX

ファイル名 :

システム共通定義ファイルに定義したファイル名

要因

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定したファイルは UJ 出力ファイルではありませんでした。別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10109-E : システム共通定義ファイルに定義したファイルはUJ出力ファイルではありませんでした。ファイル名=XX

ファイル名 :

システム共通定義ファイルに定義したファイル名

## 付録K メッセージ

### 要因

システム共通定義ファイルの `ujfile` パラメタに指定したファイルは UJ 出力ファイルではありませんでした。読み込める UJ 出力ファイルがないため、処理を中止します。

### 対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO10110-E : システム共通定義ファイルの `ujfile` パラメタに定義したファイル名が重複しています。ファイル名=XX

### ファイル名 :

`ujfile` パラメタに定義したファイル名

### 要因

システム共通定義ファイルの `ujfile` パラメタの `-n` オペランドと `-e` オペランドに指定したファイル名が重複しています。

### 対処

システム共通定義ファイルの `ujfile` パラメタを見直し、再実行してください。

KFXO10111-E : 共用メモリの確保に失敗しました。

### 要因

システムで使用する共用メモリの確保に失敗しました。

### 対処

共用メモリの容量を見直してから、オブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO10112-W : UJ出力ファイルのポインタの移動に失敗しましたが処理を続行します。UJ出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

### UJ 出力ファイル名 :

ポインタの移動に失敗したファイル名

### エラーコード :

システムコールの `lseek()` で返されたエラーコード

### 要因

システム共通定義ファイルの `ujfile` パラメタに指定した UJ 出力ファイルのポインタを移動しようとした時、システムコールの `lseek()` でエラーが発生しました。

別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10113-E : UJ出力ファイルのポインタの移動に失敗しました。UJ出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

### UJ 出力ファイル名 :

ポインタの移動に失敗したファイル名

### エラーコード :

システムコールの `lseek()` で返されたエラーコード

### 要因

システム共通定義ファイルの `ujfile` パラメタに指定した UJ 出力ファイルのポインタを移動しようとした時、システムコールの `lseek()` でエラーが発生しました。

読み込める UJ 出力ファイルがないため、処理を中止します。

対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO10114-W : UJ出力ファイルの書き込みに失敗しましたが処理を続行します。UJ出力ファイル名=XX

UJ 出力ファイル名 :

書き込みに失敗したファイル名

要因

UJ 出力ファイルに書き込みしようとした時、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10115-E : UJ出力ファイルの書き込みに失敗しました。UJ出力ファイル名=XX

UJ 出力ファイル名 :

書き込みに失敗したファイル名

要因

UJ 出力ファイルに書き込もうとした時、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。書き込める UJ 出力ファイルがないため、処理を中止します。

対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO10120-E : UAP履歴情報取得中、領域の確保に失敗しました。

要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させてください。

KFXO10121-E : UAP履歴情報取得中、領域の増分に失敗しました。

要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させてください。

KFXO10123-E : UAP履歴情報取得中、ロックの確保に失敗しました。エラーコード=XX

エラーコード :

オブジェクトサーバシステムの内部エラーコード

要因

UAP 履歴情報取得中、共用メモリのロックの確保に失敗しました。  
システム共通定義ファイルの ujerror パラメタの指定に従います。

対処

エラーコードの詳細情報が必要な場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO10125-E : UAP履歴情報取得中、ロックの解除に失敗しました。エラーコード=XX

## 付録K メッセージ

エラーコード：

オブジェクトサーバシステムの内部エラーコード

要因

UAP 履歴情報取得中、共用メモリのロックの解除に失敗しました。  
システム共通定義ファイルの `ujerror` パラメタの指定に従います。

対処

エラーコードの詳細情報が必要な場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO10126-W：UAP履歴情報取得中、UJ出力ファイルのオープンに失敗しましたが処理を続行します。UJ出力ファイル名=XX，エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名：

オープンに失敗したファイル名

エラーコード：

システムコールの `open()` で返されたエラーコード

要因

UAP 履歴情報取得中、システム共通定義ファイルの `ujfile` パラメタに指定した UJ 出力ファイルをオープンしようとした時、システムコールの `open()` でエラーが発生しました。別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10127-E：UAP履歴情報取得中、UJ出力ファイルのオープンに失敗しました。UJ出力ファイル名=XX，エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名：

オープンに失敗したファイル名

エラーコード：

システムコールの `open()` で返されたエラーコード

要因

UAP 履歴情報取得中、システム共通定義ファイルの `ujfile` パラメタに指定した UJ 出力ファイルをオープンしようとした時、システムコールの `open()` でエラーが発生しました。システム共通定義ファイルの `ujerror` パラメタの指定に従います。

対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO10128-W：UAP履歴情報取得中、UJ出力ファイルの書き込みに失敗しましたが処理を続行します。UJ出力ファイル名=XX，エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名：

書き込みに失敗したファイル名

エラーコード：

システムコールの `write()` で返されたエラーコード

要因

UAP 履歴情報取得中、システム共通定義ファイルの `ujfile` パラメタに指定した UJ 出力ファイルを書き込もうとした時、システムコールの `write()` でエラーが発生しました。別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10129-E：UAP履歴情報取得中、UJ出力ファイルの書き込みに失敗しました。UJ出力ファ

イル名=XX, エラーコード=YY

**要因**

UAP 履歴情報取得中, システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルを書き込みしようとした時, システムコールの write() でエラーが発生しました。システム共通定義ファイルの ujerror パラメタの指定に従います。

**対処**

エラーコードからエラーの要因を取り除いて, 再実行してください。

KFXO10130-W: UAP履歴情報取得中, 時刻の取得に失敗しましたが処理を続行します。UJ出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名:

時刻の取得に失敗したファイル名

エラーコード:

システムコールの time() で返されたエラーコード

**要因**

UAP 履歴情報取得中, システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルの作成時刻を取得しようとした時, システムコールの time() でエラーが発生しました。別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10131-E: UAP履歴情報取得中, 時刻の取得に失敗しました。UJ出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名:

時刻の取得に失敗したファイル名

エラーコード:

システムコールの time() で返されたエラーコード

**要因**

UAP 履歴情報取得中, システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルの作成時刻を取得しようとした時, システムコールの time() でエラーが発生しました。システム共通定義ファイルの ujerror パラメタの指定に従います。

**対処**

エラーコードからエラーの要因を取り除いて, 再実行してください。

KFXO10132-W: UAP履歴情報取得中, UJ出力ファイルの書き込みに失敗しましたが処理を続行します。UJ出力ファイル名=XX

UJ 出力ファイル名:

書き込みに失敗したファイル名

**要因**

UJ 出力ファイルに書き込みもうとした時, 記憶媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため, 要求バイト数分書き込めませんでした。別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10133-E: UAP履歴情報取得中, UJ出力ファイルの書き込みに失敗しました。UJ出力ファイル名=XX

UJ 出力ファイル名 :

書き込みに失敗したファイル名

要因

UJ 出力ファイルに書き込もうとした時、記憶媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。書き込める UJ 出力ファイルがないため、処理を中止します。

対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO10140-W : UJ出力ファイルのヘッダ作成中、時刻の取得に失敗しましたが処理を続行します。UJ出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名 :

時刻の取得に失敗したファイル名

エラーコード :

システムコールの time() で返されたエラーコード

要因

UJ 出力ファイルのヘッダ作成中、システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルの作成時刻を取得しようとした時、システムコールの time() でエラーが発生しました。別の UJ 出力ファイルがあるため、処理を続行します。

KFXO10141-E : UJ出力ファイルのヘッダ作成中、時刻の取得に失敗しました。UJ出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名 :

時刻の取得に失敗したファイル名

エラーコード :

システムコールの time() で返されたエラーコード

要因

UJ 出力ファイルのヘッダ作成中、システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルの作成時刻を取得しようとした時、システムコールの time() でエラーが発生しました。UJ 出力ファイルがないため、処理を中止します。

対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO10150-E : OMSシステムが起動されていません。

要因

オブジェクトサーバが起動されていません。

対処

オブジェクトサーバが起動されていることを確認してから、再実行してください。

KFXO10151-E : 共用メモリがアクセスできません。エラーコード=XX

エラーコード :

オブジェクトサーバシステムの内部エラーコード

要因



システムで使用する共用メモリがアクセスできません。

対処

オブジェクトサーバが起動されていることを確認してから、再実行してください。繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO10152-E : UJ出力ファイルのアンロードに失敗しました。ファイル名 : XX , エラーコード=YY

ファイル名 :

アンロードに失敗したファイル名

エラーコード :

システムコールの `system()` で返されたエラーコード

要因

UJ 出力ファイルのアンロード時にシステムコールの `system()` でエラーが発生しました。

対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO10153-E : UJアンロード処理実行中、ロックの確保に失敗しました。エラーコード=XX

エラーコード :

オブジェクトサーバシステムの内部エラーコード

要因

`xodujunl` コマンド実行中、共用メモリのロックの確保に失敗しました。

対処

エラーコードの詳細情報が必要な場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO10154-E : UJアンロード処理実行中、ロックの解除に失敗しました。エラーコード=XX

エラーコード :

オブジェクトサーバシステムの内部エラーコード

要因

`xodujunl` コマンド処理実行中、共用メモリのロックの解除に失敗しました。

対処

エラーコードの詳細情報が必要な場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO10155-E : 引数の指定に誤りがあります。

要因

`xodujunl` コマンドの引数を正しく指定していません。

対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO10156-I : 使用方法 : `xodujunl -f` UJ出力ファイル名 `-o` アンロード先ファイル名

要因

出力ファイルのアンロードユティリティの引数を正しく指定していません。

対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO10157-E : UJ出力ファイル名とアンロード先ファイル名が重複しています。

要因

`xodujunl` コマンドに指定した UJ 出力ファイル名とアンロード先ファイル名が

## 付録K メッセージ

重複しています。

対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO10158-E：指定されたファイルはUJ出力ファイルではありません。ファイル種別=XX

ファイル種別：

指定されたファイル種別

要因

xodujunl コマンドに指定したファイルは UJ 出力ファイルではありません。又は、障害発生によって UJ 出力ファイルとして使用できなくなったファイルです。

対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO10159-E：UJ出力ファイルのアンロードに失敗しました。ファイル種別：XX

ファイル種別：

アンロードしようとした UJ ファイル種別

要因

システムコールの system() の cp でエラーが発生しました。

対処

残りの記憶媒体の物理的なバイト数を調べ、UJ 出力ファイルのバイト数よりも多い空きを作成し、再実行してください。

KFXO10160-E：領域不足のため、メッセージが出力できませんでした。メッセージ番号：XX

メッセージ番号：

出力できなかったメッセージ番号

要因

メモリ不足によってメッセージが出力できませんでした。

対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させたりしてください。

KFXO10161-E：メッセージが出力できませんでした。エラーコード=XX，メッセージ番号：YY

エラーコード：

オブジェクトサーバシステムの内部エラーコード

メッセージ番号：

出力できなかったメッセージ番号

要因

内部矛盾によってメッセージが出力できませんでした。

対処

システム管理者に連絡してください。

KFXO10162-E：UJ出力ファイルの削除に失敗しました。ファイル名：XX，エラーコード=YY

ファイル名：

削除に失敗したファイル名

エラーコード：

システムコールの unlink() で返されたエラーコード

## 要因

UJ 出力ファイルのアンロードができたため、UJ 出力ファイルを削除しようとした時、システムコールの unlink() でエラーが発生しました。

## 対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。

KFXO10163-I : UJ出力ファイルのアンロードが終了しました。

## 要因

UJ 出力ファイルのアンロードコマンドでのアンロードが終了しました。

KFXO10164-I : OMSとの接続に失敗しました。エラーコード=XX

## エラーコード :

エラーの発生した要因を表すコード

## 要因

オブジェクトサーバとの接続に失敗しました。

## 対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中のエラーコードに対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO11000-E : 使用方法 : XX

## 使用方法 :

実行したコマンドの使用方法

## 要因

コマンドの引数を正しく指定していません。

## 対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO11001-E : 既に実行されています。コマンド名 : XX

## コマンド名 :

実行したコマンド名

## 要因

このコマンドは既に実行されています。

KFXO11002-I : OMS稼働中のデータベースのバックアップが可能な状態になりました。

## 要因

OMS 稼働中のデータベースのバックアップができます。

KFXO11003-I : OMS稼働中のデータベースのバックアップが可能な状態を解除しました。

## 要因

OMS 稼働中のデータベースのバックアップはできません。

KFXO11004-E : コマンド (XX) が異常終了しました。

## コマンド :

異常終了したコマンド名

## 要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーが発生したため、コマンドが異常終了しました。

## 対処

## 付録K メッセージ

このメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再実行してください。

KFXO11006-E : OMSが起動されていません。

要因

OMS が起動されていないため、実行できませんでした。

対処

OMS を起動してから、再実行してください。

KFXO11007-E : OMSの実行モードがアプリケーション実行モードではありません。

要因

OMS をアプリケーション実行モードで起動していないため実行できません。

対処

OMS をアプリケーション実行モードで起動し、再実行してください。

KFXO11008-E : コマンド (XX) がユーザの要求により中断されました。

コマンド :

中断したコマンド名

要因

ユーザの要求により、コマンドを中断しました。

中断したコマンド名が XOstrBK の場合 :

XOstrBK コマンドの実行中に XOstpBK コマンドが投入されたため、XOstrBK コマンドの処理が中断しました。

KFXO11010-E : パラメタ値が不正です。オプション : XX

オプション :

不正なパラメタ値を指定したオプション

要因

パラメタ値が正しく設定されていません。

対処

パラメタ値を正しく設定し、再実行してください。

KFXO11011-E : OMSとの接続時にエラーが発生しました。詳細エラー番号 : XX

詳細エラー番号 :

接続時に発生した詳細エラー番号

要因

OMS との接続時にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO11012-E : 共用メモリの取得に失敗しました。詳細エラー番号 : XX

詳細エラー番号 :

取得失敗時の詳細エラー番号

要因

共用メモリの取得に失敗しました。

対処

OMS が起動しているか又は環境変数 XODDIR が正しいか確認してください。

どちらでもない場合は、「付録 K.4 詳細コード」を参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO11013-E：メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX

要求サイズ：

確保しようとした領域長（単位：バイト）

要因

メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO11014-E：指定時間（XX）を超過したため強制終了しました。

指定時間：

コマンド実行時に指定したタイムアウト時間（単位：秒）

要因

指定時間を超過したため強制終了しました。

対処

実行中のアプリケーションを終了して再実行してください。

KFXO11015-E：稼働中バックアップ用ジャーナルファイルを出力できません。理由コード：XX

エラーコード：YY

理由コード：

障害の内容を示す理由コード

エラーコード：

出力失敗時のエラーコード

要因

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルを出力できません。

対処

理由コードによって対策してください。理由コードが 999 以外はエラーコードを無視してください。

| 理由コード | 内容                                                    | 対処                                                                          |
|-------|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 1     | 稼働中バックアップ開始宣言コマンドのジャーナルオプションで指定したディレクトリが存在しません。       | ディレクトリを作成してください。                                                            |
| 2     | 稼働中バックアップ開始宣言コマンドのジャーナルオプションで指定したディレクトリにアクセス権限がありません。 | アクセス権限を与えてください。                                                             |
| 5     | 稼働中バックアップ開始宣言コマンドのジャーナルオプションで指定したパスが正しくありません。         | /で始まる絶対パスで指定してください。                                                         |
| 999   | -                                                     | 「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。 |

KFXO11016-I：稼働中バックアップバックアウトを開始します。

## 付録K メッセージ

### 要因

稼働中バックアップバックアウトを開始します。

KFXO11017-E：稼働中バックアップ用ジャーナルファイルではありません。

### 要因

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルではありません。

### 対処

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルを指定してください。

KFXO11018-E：稼働中バックアップ用ジャーナルファイルが存在しません。

### 要因

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルが存在しません。

### 対処

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルを所定の場所に設定してください。

KFXO11019-E：稼働中バックアップ用ジャーナルファイルのオープンに失敗しました。詳細エラー番号：XX

### 詳細エラー番号：

オープン失敗時の詳細エラー番号

### 要因

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルのオープンに失敗しました。

### 対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO11020-E：稼働中バックアップ用ジャーナルファイルの読み込みに失敗しました。詳細エラー番号：XX

### 詳細エラー番号：

読み込み失敗時の詳細エラー番号

### 要因

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルの読み込みに失敗しました。

### 対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO11021-I：稼働中バックアップバックアウトコマンドが正常終了しました。

### 要因

稼働中バックアップバックアウトコマンドが正常終了しました。

KFXO11022-E：稼働中バックアップバックアウトコマンドが異常終了しました。

### 要因

稼働中バックアップバックアウトコマンドが異常終了しました。

### 対処

このメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再実行してください。このメッセージ以前にメッセージ「KFXO11024-E」が出力されている場合は、DBをバックアップから回復してください。出力されていなければDBをバックアップから回復する必要はありません。

KFXO11024-E : バックアウト処理で異常を検知しました。DBをバックアップから回復してください。

**要因**

バックアウト処理で異常を検知しました。

**対処**

このメッセージ以前に出力されたエラーを対処し、DBをバックアップから回復してください。

KFXO11025-E : 稼働中バックアップ用ジャーナルファイルの書き込みに失敗しました。物理エリア名 : XX ページ番号 : YY エラーコード : ZZ

**物理エリア名 :**

回復情報を出力しようとした DB の物理エリア名

**ページ番号 :**

回復情報を出力しようとした DB のページ番号

**エラーコード :**

システムコールの write() で発生したエラーコード

**要因**

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルに書き込もうとしたとき、システムコールの write() でエラーが発生しました。

**対処**

稼働中バックアップ開始宣言コマンド実行中にエラーが出力された場合は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」が示すエラーの要因を取り除き、コマンドを再実行してください。

上記以外でエラーが出力された場合は、バックアップを取得できます。したがって、エラーコードが示すエラーの要因を取り除いた後、バックアップの取得を続行してください。

KFXO11026-E : 稼働中バックアップ用ジャーナルファイルの書き込みに失敗しました。

**要因**

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルに書き込むとき、残っている容量又は記憶媒体の最大容量を上回るバイト数の書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。

**対処**

不要なファイルを削除し、空き領域を作成してください。稼働中バックアップ開始宣言コマンド実行中にエラーが出力された場合は、空き領域を作成した後、コマンドを再実行してください。

上記以外でエラーが出力された場合は、バックアップを取得できます。したがって、空き領域を作成した後、バックアップの取得を続行してください。

KFXO11027-E : 稼働中バックアップ用ジャーナルファイルが存在します。

**要因**

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルが存在します。

**対処**

稼働中バックアップ開始宣言コマンドのジャーナルオプションを指定した場合は、指定したファイルを削除するか又はファイル名を変更してください。指定していない場合は、デフォルトのファイルを削除してください。

## 付録K メッセージ

KFXO11028-E : OMS稼働中のデータベースのバックアップが可能な状態です。

要因

OMS 稼働中のデータベースのバックアップが可能な状態では実行できません。

対処

バックアップの取得を続行してください。

KFXO11029-E : トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。詳細エラー番号 : XX

詳細エラー番号 :

トランザクション開始中に発生した詳細エラー番号

要因

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO11030-W : OMS稼働中のデータベースのバックアップが可能な状態です。データベースへの更新を許可されていないため、停止しているプロセスがあります。

要因

OMS 稼働中のデータベースのバックアップが可能な状態であるため、データベースへの更新を許可されていません。

対処

データベースのバックアップ後、OMS 稼働中のデータベースのバックアップが可能な状態を解除してください。

KFXO30001-E : オブジェクト管理で異常を検知しました。理由コード=XX, 詳細コード=XX, ファイル名=XX, 発生場所=XX

理由コード :

エラーの原因を示す内部コード。

詳細コード :

表 K-2 の詳細コードを示す。

ファイル名 :

エラーが発生したファイル名を示す。

発生場所 :

エラーが発生したファイルの箇所を示す。

要因

オブジェクト管理で内部矛盾を検出しました。

対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO30002-E : コミット処理中にエラーが発生しました。理由コード=VV, 詳細コード=XX, 詳細エラー番号=XX, ファイル名=XX, 発生場所=XX

理由コード :

エラーの原因を示す内部コード。

詳細コード :

表 K-2 の詳細コードを示す。

詳細エラー番号 :



発生したエラーの詳細エラー番号を示す。

ファイル名：

エラーが発生したファイル名称を示す。

発生場所：

エラーが発生したファイルの個所を示す。

要因

データベースのコミット処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO30003-E：指定された物理オブジェクトIDに対応するオブジェクトがデータベースに存在しません。または物理オブジェクトIDの内容が不正です。物理オブジェクトID=XX，詳細コード=XX

物理オブジェクト ID：

指定された物理オブジェクト ID

詳細コード：

エラーの要因を示す詳細コード（表 K-2）

要因

指定された物理オブジェクト ID に対応するオブジェクトがデータベースに存在しません。

対処

データベースファイルを保存して、エラーが発生するまでの操作と、このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO30004-E：OIDインデックスから取得した物理オブジェクトIDによる参照に失敗しました。OID=XX，物理オブジェクトID=XX，詳細コード=XX

物理オブジェクト ID：

OID インデックスから取得した物理オブジェクト ID

詳細コード：

エラーの要因を示す詳細コード（表 K-2）

要因

OID インデックスから取得した物理オブジェクト ID が不正です。

対処

データベースファイルを保存し、このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルも保存してください。

KFXO30005-E：オブジェクトの参照でエラーが発生しました。参照されたオブジェクト ID=XX，参照元オブジェクトID=XX，参照元オブジェクト内のオフセット値=XX，詳細コード=XX

参照されたオブジェクト ID：

参照に失敗したオブジェクト ID

参照元オブジェクト ID：

参照に失敗したオブジェクト ID を保持していたオブジェクトの ID

参照元オブジェクト内のオフセット値：

参照元オブジェクト内で、参照に失敗したオブジェクト ID を保持している領域を示すオフセットの値

詳細コード：

エラーの要因を示す詳細コード（表 K-2）

要因

オブジェクトの参照でエラーが発生しました。

対処

データベースファイルを保存して、このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO30006-E：オブジェクト格納要求でエラーが発生しました。ファイル名=XX，発生場所=XX，エリア番号=XX，タイプ番号=XX，OID=XX，サイズ=XX，クラスタリング用物理オブジェクトID=XX，詳細コード=XX

ファイル名：

xo\_sm\_store() を発行しているファイル名

発生場所：

xo\_sm\_store() を発行している行番号

エリア番号：

格納要求しているオブジェクトのエリア番号

タイプ番号：

格納要求しているオブジェクトの物理タイプ番号

OID：

格納要求しているオブジェクトの OID

サイズ：

格納要求しているオブジェクトのサイズ

クラスタリング用物理オブジェクト ID：

クラスタリング指定 PID（ない場合は a110）

詳細コード：

エラーの要因を示す詳細コード（表 K-2）

要因

xo\_sm\_store() 要求でエラーが返されました。

対処

エラーが発生するまでの操作と、このメッセージの内容を記録してください。KFXO30002-E のメッセージも出力されますのでそちらも参照してください。

KFXO30007-E：オブジェクト削除要求でエラーが発生しました。ファイル名=XX，発生場所=XX，タイプ番号=XX，OID=XX，物理オブジェクトID=XX，詳細コード=XX

ファイル名：

xo\_sm\_delete() を発行しているファイル名

発生場所：

xo\_sm\_delete() を発行している行番号

タイプ番号：

削除要求しているオブジェクトの物理タイプ番号

OID :

削除要求しているオブジェクトの OID (ない場合は a110)

物理オブジェクト ID :

削除要求しているオブジェクトの PID

詳細コード :

エラーの要因を示す詳細コード (表 K-2)

要因

xo\_sm\_delete() 要求でエラーが返されました。

対処

エラーが発生するまでの操作と、このメッセージの内容を記録してください。

KFXO30002-E のメッセージも出力されますのでそちらも参照してください。

KFXO30008-E : オブジェクトIDインデクス削除要求でエラーが発生しました。ファイル名=XX, 発生場所=XX, OID=XX, 詳細コード=XX

ファイル名 :

xo\_sm\_delete\_oid() を発行しているファイル名

発生場所 :

xo\_sm\_delete\_oid() を発行している行番号

OID :

削除要求しているオブジェクトの OID

詳細コード :

エラーの要因を示す詳細コード (表 K-2)

要因

xo\_sm\_delete\_oid() 要求でエラーが返されました。

対処

エラーが発生するまでの操作と、このメッセージの内容を記録してください。

KFXO30002-E のメッセージも出力されますのでそちらも参照してください。

KFXO30009-E : オブジェクトIDインデクス追加要求でエラーが発生しました。ファイル名=XX, 発生場所=XX, OID=XX, 詳細コード=XX

ファイル名 :

xo\_sm\_add\_oid() を発行しているファイル名

発生場所 :

xo\_sm\_add\_oid() を発行している行番号

OID :

追加要求しているオブジェクトの OID

詳細コード :

エラーの要因を示す詳細コード (表 K-2)

要因

xo\_sm\_add\_oid() 要求でエラーが返されました。

対処

エラーが発生するまでの操作と、このメッセージの内容を記録してください。

KFXO30002-E のメッセージも出力されますのでそちらも参照してください。

## 付録K メッセージ

KFXO30010-E：オブジェクトサイズ変更あり更新要求でエラーが発生しました。ファイル名=XX，発生場所=XX，タイプ番号=XX，OID=XX，物理オブジェクトID=XX，詳細コード=XX

ファイル名：

xo\_sm\_amodify() を発行しているファイル名

発生場所：

xo\_sm\_amodify() を発行している行番号

タイプ番号：

更新要求しているオブジェクトの物理タイプ番号

OID：

更新要求しているオブジェクトの OID ( ない場合は a110)

物理オブジェクト ID：

更新要求しているオブジェクトの PID

詳細コード：

エラーの要因を示す詳細コード ( 表 K-2)

要因

xo\_sm\_amodify() 要求でエラーが返されました。

対処

エラーが発生するまでの操作と，このメッセージの内容を記録してください。

KFXO30002-E のメッセージも出力されますのでそちらも参照してください。

KFXO30011-E：オブジェクト更新要求でエラーが発生しました。ファイル名=XX，発生場所=XX，タイプ番号=XX，OID=XX，物理オブジェクトID=XX，更新情報数=XX，詳細コード=XX

ファイル名：

xo\_sm\_pmodify() を発行しているファイル名

発生場所：

xo\_sm\_pmodify() を発行している行番号

タイプ番号：

更新要求しているオブジェクトの物理タイプ番号

OID：

更新要求しているオブジェクトの OID ( ない場合は a110)

物理オブジェクト ID：

更新要求しているオブジェクトの PID

更新情報数：

更新位置，データ等の更新情報の数

詳細コード：

エラーの要因を示す詳細コード ( 表 K-2)

要因

xo\_sm\_pmodify() 要求でエラーが返されました。

対処

エラーが発生するまでの操作と，このメッセージの内容を記録してください。

KFXO30002-E のメッセージも出力されますのでそちらも参照してください。

KFXO30012-E：格納バッファフラッシュ要求でエラーが発生しました。ファイル名=XX，発生場所=XX，詳細コード=XX

ファイル名：

xo\_sm\_buf\_flush() を発行しているファイル名

発生場所：

xo\_sm\_buf\_flush() を発行している行番号

詳細コード：

エラーの要因を示す詳細コード (表 K-2)

要因

xo\_sm\_buf\_flush() 要求でエラーが返されました。

対処

エラーが発生するまでの操作と、このメッセージの内容を記録してください。

KFXO30002-E のメッセージも出力されますのでそちらも参照してください。

KFXO30013-E：ブランチ情報が不正です。ファイル名=XX，発生場所=XX，エリア番号=XX，タイプ番号=XX，OID=XX，物理オブジェクトID=XX，サイズ=XX，ブランチ番号=XX，ブランチ位置=XX，ブランチ種別=XX，次のブランチ情報位置=XX

ファイル名：

矛盾を検出した処理が入っているファイル名

発生場所：

矛盾を検出した処理のある行番号

エリア番号：

矛盾を検出したオブジェクトのエリア番号

タイプ番号：

矛盾を検出したオブジェクトの物理タイプ番号

OID：

矛盾を検出したオブジェクトの OID (ない場合は all 0)

物理オブジェクト ID：

矛盾を検出したオブジェクトの PID (ない場合は all 0)

サイズ：

矛盾を検出したオブジェクトのサイズ

ブランチ番号：

先頭からのブランチ情報順 (0 から開始)

ブランチ位置：

矛盾を検出したブランチ情報のオフセット

ブランチ種別：

矛盾を検出したブランチ情報の種別

次のブランチ情報位置：

矛盾を検出したブランチ情報の次のブランチ情報へのオフセット

要因

act 時又はコミット時のブランチ情報チェックで次のエラーが検出されました。

- ブランチ情報が不正
- 次のブランチ情報位置がオブジェクト領域から外れている

対処

データベースファイルを保持し、エラーが発生するまでの操作、このメッセージで表示された内容を記録してください。KFXO30001-E 又は KFXO30002-E

のメッセージも出力されますのでそちらも参照してください。

KFXO30014-E：最終ブランチ情報の位置情報が正しくありません。ファイル名=XX，発生場所=XX，エリア番号=XX，タイプ番号=XX，OID=XX，物理オブジェクトID=XX，サイズ=XX，ヘッダ内最終ブランチ位置=XX，ブランチ位置=XX，ブランチ種別=XX，次のブランチ情報位置=XX

ファイル名：

矛盾を検出した処理が入っているファイル名

発生場所：

矛盾を検出した処理のある行番号

エリア番号：

矛盾を検出したオブジェクトのエリア番号

タイプ番号：

矛盾を検出したオブジェクトの物理タイプ番号

OID：

矛盾を検出したオブジェクトのOID（ない場合は all 0）

物理オブジェクトID：

矛盾を検出したオブジェクトのPID（ない場合は all 0）

サイズ：

矛盾を検出したオブジェクトのサイズ

ヘッダ内最終ブランチ位置：

オブジェクトヘッダ内に持つ最終ブランチ情報へのオフセット

ブランチ位置：

矛盾を検出したブランチ情報のオフセット

ブランチ種別：

矛盾を検出したブランチ情報の種別

次のブランチ情報位置：

矛盾を検出したブランチ情報の次のブランチ情報へのオフセット

要因

act 時又はコミット時のブランチ情報チェックで、オブジェクトヘッダ内の最終ブランチ情報への位置が指すブランチ情報が不正です。最終ブランチの次の位置情報がオブジェクトヘッダの位置を示すチェックも含まれます。

対処

データベースファイルを保持し、エラーが発生するまでの操作、このメッセージで表示された内容を記録してください。KFXO30001-E 又は KFXO30002-E のメッセージも出力されますのでそちらも参照してください。

KFXO30016-E：格納しようとしたオブジェクトのオブジェクト識別子は既に存在します。

ID=XX，タイプ番号=XX，ファイル名=XX，発生場所=XX

ID：

重複している OID

タイプ番号：

格納しようとしたオブジェクトのタイプ番号

ファイル名：

xo\_sm\_add\_oid() を発行しているファイル名

発生場所：

xo\_sm\_add\_oid() を発行している行番号

要因

オブジェクト識別子が重複しています。

対処

データベースファイルを保持し、エラーが発生するまでの操作、このメッセージで表示された内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力されている場合は、コアファイルも保持してください。

KFXO30002-E 又は KFXO30018-E のメッセージが出力されますので参照してください。

KFXO30017-E：オブジェクト管理で異常を検知しました。理由コード=XX，詳細コード=XX，ファイル名=XX，発生場所=XX

理由コード：

エラーの原因を示す

詳細コード：

エラーの要因を示す詳細コード

ファイル名：

エラーが発生したファイル名を示す

発生場所：

エラーが発生したファイルの箇所を示す

要因

オブジェクト管理で異常を検知しました。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力前に別のメッセージが出力されている場合は、そのメッセージも記録してください。

KFXO30018-E：コミット処理中にエラーが発生しました。理由コード=XX，詳細コード=XX，詳細エラー番号=XX，ファイル名=XX，発生場所=XX

理由コード：

エラーの原因を示す

詳細コード：

エラーの要因を示す詳細コード

詳細エラー番号：

発生したエラーの詳細エラー番号

ファイル名：

エラーが発生したファイル名を示す

発生場所：

エラーが発生したファイルの箇所を示す

要因

オブジェクト管理で異常を検知しました。

対処

詳細コード及び詳細エラー番号の対応方法を参照してください。このメッセージ出力前に別のメッセージが出力されている場合は、そのメッセージも参照し

## 付録K メッセージ

てください。

KFXO30019-E：オブジェクト内の矛盾を検知しました。オブジェクトID=XX，物理オブジェクトID=XX，オブジェクト種別=XX，オフセット位置=XX，詳細コード=XX，ファイル名=XX，発生場所=XX

オブジェクト ID：

矛盾を検知したオブジェクトの OID

物理オブジェクト ID：

矛盾を検知したオブジェクトの物理オブジェクト ID

オブジェクト種別：

矛盾を検知したオブジェクトのオブジェクト種別

オフセット位置：

矛盾を検知したオブジェクト内のオフセット位置

詳細コード：

エラーの要因を示す詳細コード

ファイル名：

エラーが発生したファイル名を示す。

発生場所：

エラーが発生したファイルの箇所を示す。

要因

オブジェクト内の矛盾を検知しました。

対処

データベースファイルを保存し、このエラーが発生するまでの操作、及びこのメッセージで表示された内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO30020-E：ブランチ情報が不正です。ファイル名=XX，発生場所=XX，エリア番号=XX，タイプ番号=XX，OID=XX，物理オブジェクトID=XX，ブランチ番号=XX，ブランチ位置=XX，ブランチ種別=XX，ブランチ情報=XX

ファイル名：

矛盾を検出した処理が入っているファイル名

発生場所：

矛盾を検出した処理のある行番号

エリア番号：

矛盾を検出したオブジェクトのエリア番号

タイプ番号：

矛盾を検出したオブジェクトの物理タイプ番号

OID：

矛盾を検出したオブジェクトの OID( ない場合は all 0)

物理オブジェクト ID：

矛盾を検出したオブジェクトの PID( ない場合は all 0)

ブランチ番号：

先頭からのブランチ情報順 (0 から開始)

ブランチ位置：

矛盾を検出したブランチ情報のオフセット

ブランチ種別：



矛盾を検出したブランチ情報の種別

ブランチ情報：

ブランチ情報のバイナリ表示

要因

act 時又はコミット時のブランチ情報チェックで次の矛盾が検出されました。

- ブランチ情報が不正
- 次のブランチ情報位置がオブジェクト領域から外れている

対処

データベースファイルを保持し、エラーが発生するまでの操作、このメッセージで表示された内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO30017-E, 又は KFXO30018-E のメッセージが出力されますので参照してください。

KFXO30021-E：最終ブランチ情報の位置情報が正しくありません。ファイル名=XX，発生場所=XX，エリア番号=XX，タイプ番号=XX，OID=XX，物理オブジェクトID=XX，ヘッダ内最終ブランチ位置=XX，ブランチ位置=XX，ブランチ種別=XX，ブランチ情報=XX

ファイル名：

矛盾を検出した処理が入っているファイル名

発生場所：

矛盾を検出した処理のある行番号

エリア番号：

矛盾を検出したオブジェクトのエリア番号

タイプ番号：

矛盾を検出したオブジェクトの物理タイプ番号

OID：

矛盾を検出したオブジェクトの OID( ない場合は all 0)

物理オブジェクト ID：

矛盾を検出したオブジェクトの PID( ない場合は all 0)

ヘッダ内最終ブランチ位置：

オブジェクトヘッダ内に持つ最終ブランチ情報へのオフセット

ブランチ位置：

矛盾を検出したブランチ情報のオフセット

ブランチ種別：

矛盾を検出したブランチ情報の種別

ブランチ情報：

ブランチ情報のバイナリ表示

要因

act 時又はコミット時のブランチ情報チェックで、オブジェクトヘッダ内の最終ブランチ情報への位置が指すブランチ情報が不正です。これは、最終ブランチの次の位置情報がオブジェクトヘッダの位置を示すチェックも含まれます。

対処

データベースファイルを保持し、エラーが発生するまでの操作、このメッセージで表示された内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO30017-E 又は KFXO30018-E のメッセージも出力されますので参照して

ください。

KFXO30022-E：ブランチ情報に設定されている物理オブジェクトIDが不正です。ファイル名=XX，発生場所=XX，詳細コード=XX，タイプ番号=XX，OID=XX，ブランチ位置=XX，ブランチ種別=XX，ブランチ情報内の物理オブジェクトID=XX

ファイル名：

矛盾を検出した処理が入っているファイル名

発生場所：

矛盾を検出した処理の入っている行番号

詳細コード：

エラーの要因を示す詳細コード

タイプ番号：

矛盾を検出したオブジェクトのタイプ番号

OID：

矛盾を検出したオブジェクトの OID

ブランチ位置：

矛盾を検出したブランチ情報のオフセット

ブランチ種別：

矛盾を検出したブランチ種別

ブランチ情報内の物理オブジェクト ID：

ブランチ情報が保持する物理オブジェクト ID

要因

ブランチ情報に設定されている物理オブジェクト ID が不正です。

対処

データベースファイルを保存し，ここのメッセージで表示された内容を記録して，システム管理者に連絡してください。

KFXO30099-I 又は KFXO41999-I のメッセージも出力されますので参照してください。

KFXO30023-E：ユニバーサル関連操作で矛盾を検知しました。関連ID=XX，関連種別=XX，関連元オブジェクトID=XX，関連先オブジェクトID=XX，詳細エラーコード=XX，物理オブジェクトID=XX，オブジェクト種別=XX

関連 ID：

操作中のユニバーサル関連の関連 ID。

関連種別：

操作中のユニバーサル関連の関連種別

関連元オブジェクト ID：

関連元オブジェクトの OID を示す。

関連先オブジェクト ID：

関連先オブジェクトの OID を示す。

詳細エラーコード：

エラーの要因を示す詳細コード

物理オブジェクト ID：

矛盾を検知したシステムオブジェクトの物理オブジェクト ID。

## オブジェクト種別：

矛盾を検出したシステムオブジェクトのオブジェクト種別。

## 要因

ユニバーサル関連で矛盾を検知しました。

## 対処

データベースファイルを保存し、このエラーが発生するまでの操作、及びこのメッセージで表示された内容を記録して、システム管理者に連絡してください。KFXO30001-E、又は KFXO30017-E のメッセージが出力されませんので参照してください。

KFXO30024-E：ストリングオブジェクトの参照元オブジェクトが異なっています。ファイル名=XX，発生場所=XX，OID=XX，物理オブジェクトID=XX，オフセット値=XX，ストリングオブジェクトの物理オブジェクトID=XX，参照元オブジェクトのOID=XX

## ファイル名：

矛盾を検出した処理が入っているファイル名

## 発生場所：

矛盾を検出した処理の入っている行番号

## OID：

ストリングオブジェクトを保持しているオブジェクトの OID

## 物理オブジェクト ID：

ストリングオブジェクトを保持しているオブジェクトの物理オブジェクト ID

## オフセット値：

ストリングオブジェクトを保持しているオブジェクト内の領域を示すオフセット値

## ストリングオブジェクトの物理オブジェクト ID：

ストリングオブジェクトの物理オブジェクト ID

## 参照元 OID：

ストリングオブジェクトが保持する参照元オブジェクトの OID

## 要因

ストリングが保持する参照元オブジェクトが本体オブジェクトと異なっています。

## 対処

データベースファイルを保存し、このメッセージで表示された内容を記録して、システム管理者に連絡してください。KFXO30099-I、又は KFXO41999-I のメッセージが出力されますので参照してください。

KFXO30025-E：リストオブジェクトが不正です。ファイル名=XX，発生場所=XX，先頭OID=XX，先頭物理オブジェクトID=XX，物理オブジェクトID=XX，続きの物理オブジェクトID=XX

## ファイル名：

矛盾を検出した処理が入っているファイル名

## 発生場所：

矛盾を検出した処理の入っている行番号

## 先頭 OID：

リストオブジェクトの先頭オブジェクトの OID

## 付録K メッセージ

先頭物理オブジェクト ID :

リストオブジェクトの先頭オブジェクトの物理オブジェクト ID

物理オブジェクト ID :

矛盾を検知したリストオブジェクトの物理オブジェクト ID

続き物理オブジェクト ID :

矛盾を検知したリストオブジェクトの続きリストオブジェクトの物理オブジェクト ID

要因

リストオブジェクトが不正です。

対処

データベースファイルを保存し、このエラーが発生するまでの操作、エラーログを保持して、システム管理者に連絡してください。KFXO30001-E, 又は KFXO30017-E のメッセージが出力されますので参照してください。

KFXO30026-I : トランザクション情報 : 関連プログラム名 = XX, ユーザ名 = XX, 付加情報 = XX

関連プログラム名 :

このメッセージの前に出力しているメッセージを出力したトランザクションの関連プログラム名

ユーザ名 :

このメッセージの前に出力しているメッセージを出力したトランザクションのユーザ名

付加情報 :

トランザクション毎に関連プログラムが設定した付加情報。設定されていない場合は、何も出力しません

要因

このメッセージの前に出力しているメッセージを参照してください。

KFXO30027-E : 1エリアに定義されたタイプの数が増え、1000件を超えました。エリア名=XX

エリア名 :

エリア名

要因

1 エリアに定義されたタイプの数が増え、1000 件を超えました。

対処

ほかのエリアに定義してください。又は、エリア名に表示されたエリアの中の不要なタイプを削除してから、再実行してください。

エリア名が文書データベース用のとき、不要なフォーム文書データベースを削除してください。又は、文書データベース用にユーザデータベースのエリアを追加してください。

KFXO30028-E : 1エリアに定義されたインデックスの数が増え、2000件を超えました。エリア名=XX  
エリア名 : エリア名

要因

1 エリアに定義されたインデックスの数が増え、2000 件を超えました。

対処

ほかのエリアに定義してください。又は、エリア名に表示されたエリアの中の

不要なインデクスを削除してから、再度実行してください。  
 エリア名が文書データベース用のとき、不要なフォーム文書データベースを削除してください。又は、文書データベース用にインデクスのエリアを追加してください。

KFXO30029-E：オブジェクト管理テーブルの不正を検知しました。OID=XX，PID=XX，タイプ番号=XX，オブジェクト管理テーブルの内容=XX

OID：

矛盾を検知したオブジェクト管理テーブルを持つオブジェクトのオブジェクト ID

PID：

矛盾を検知したオブジェクト管理テーブルを持つオブジェクトの物理オブジェクト ID

タイプ番号：

矛盾を検知したオブジェクト管理テーブルを持つオブジェクトの物理タイプ ID

オブジェクト管理テーブルの内容：

不正を検知したオブジェクト管理テーブルのバイナリ表示

要因

オブジェクト管理テーブルで異常を検知しました。

対処

このエラーが発生するまでの操作，エラーログ，及びコアファイルを保持して，システム管理者に連絡してください。KFXO30001-E，又は KFXO30017-E のメッセージが出力されるので参照してください。

KFXO30098-I：コンポジットオブジェクトの要素オブジェクト情報：要素オブジェクト  
 OID=XX，ブロック番号=XX，スロット番号=XX，先頭ブロックOID=XX，ブロックPID=XX，コンポジットオブジェクト制御情報=XX

要素オブジェクト OID：

コンポジットオブジェクトの要素オブジェクトのオブジェクト ID( ない場合はすべて 0)

ブロック番号：

要素オブジェクトのブロック番号 ( 1 から開始)

スロット番号：

要素オブジェクトのスロット番号 ( 0 から開始)

先頭ブロック OID：

コンポジットオブジェクトの先頭ブロックのオブジェクト ID

ブロック PID：

要素オブジェクトを保持するブロックの物理オブジェクト ID

コンポジットオブジェクト制御情報：

要素オブジェクトを保持するブロックのコンポジットオブジェクト制御情報

要因

このメッセージの前に出力しているメッセージを参照してください。このメッセージは、前に出力しているメッセージの内容がコンポジットオブジェクトに関係がある場合の付加メッセージとして出力します。

## 付録K メッセージ

KFXO30099-I：物理オブジェクトID情報：物理オブジェクトID=XX，エリア名=XX，エリア番号=XX，ページID=XX，スロット番号=XX

物理オブジェクト ID：

このメッセージの前に出力しているメッセージに関連のある物理オブジェクト ID

エリア名：

物理オブジェクト ID に対応するエリア名。エリア名が特定できないときは，"\*\*\*\*\*" を表示する。

エリア番号：

物理オブジェクト ID に対応するエリア番号

ページ ID：

物理オブジェクト ID に対応するページ ID

スロット番号：

物理オブジェクト ID に対応するスロット番号

要因

このメッセージの前に出力しているメッセージを参照してください。

KFXO30100-I：オブジェクト保守情報：OID=XX，PID=XX，タイプ番号=XX，詳細コード=XX，ファイル名=XX，発生場所=XX

OID：

オブジェクト ID

PID：

物理オブジェクト ID

タイプ番号：

物理タイプ ID

詳細コード：

詳細コード

ファイル名：

ファイル名称

発生場所：

ファイルの箇所

要因

オブジェクト管理保守情報。

KFXO30101-I：関連保守情報：関連元OID=XX，関連先OID=XX，RL=XX，関連ID=XX，関連種別=XX，詳細コード=XX，ファイル名=XX，発生場所=XX

関連元 OID：

関連元オブジェクト ID

関連先 OID：

関連先オブジェクト ID

RL：

RL のオブジェクト ID

関連 ID：

関連 ID

関連種別：

関連種別

詳細コード：

表 K-2 の詳細コード

ファイル名：

ファイル名称

発生場所：

ファイルの個所

要因

オブジェクト管理保守情報です。

KFXO30200-W：コミット処理中にエラーが発生したため、トランザクションをロールバックしました。詳細コード=XX，詳細エラー番号=XX，ファイル名=XX，発生場所=XX

詳細コード：

ロールバック原因のエラーコード

詳細エラー番号：

ロールバック原因の詳細エラー番号

ファイル名：

エラーが発生したファイル名称

発生場所：

エラーが発生したファイルの箇所

要因

コミット処理中にエラーが発生したため、トランザクションをロールバックしました。

対処

必要であれば詳細コード，及び詳細エラー番号からロールバックの原因を取り除いてください。このメッセージ出力前に別のメッセージが出力されている場合は，参照してください。

KFXO38001-W：常駐指定の構文に誤りがあります。ファイル名=XX，行番号=XX

ファイル名：

エラーの発生したシステム共通定義ファイルの名称

行番号：

エラーの発生した行番号

要因

システム共通定義ファイル中の常駐指定の構文に誤りがあります。

対処

指定方法に間違いがないかチェックしてください。間違いがない場合，システム管理者に連絡してください。

KFXO38002-W：常駐指定されたスキーマ名に誤りがあります。スキーマ名=XX

スキーマ名：

指定されたスキーマ名

要因

システム共通定義ファイルで常駐指定されたスキーマ名は，作成済みのスキーマの名称と異なります。

対処

常駐したい場合は、システム共通定義ファイルを訂正し、システムを再起動してください。常駐しなくてもよい場合は、対処する必要はありません。次回のシステム起動までにシステム共通定義ファイルを訂正してください。

KFXO38003-W：常駐指定されたタイプが常駐可能なタイプではありません。スキーマ名=XX，タイプ名=XX

スキーマ名：

指定されたスキーマ名

タイプ名：

指定されたタイプ名

要因

システム共通定義ファイルで常駐指定されたタイプが常駐可能なタイプではありません。

対処

指定方法に間違いがないかチェックしてください。間違いがない場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO38004-W：常駐指定されたタイプが定義されていません。スキーマ名=XX，タイプ名=XX

スキーマ名：

指定されたスキーマ名

タイプ名：

指定されたタイプ名

要因

システム共通定義ファイルで常駐指定されたタイプが定義されていません。

対処

指定方法に間違いがないかチェックしてください。間違いがない場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO38005-E：常駐指定タイプの検索中に異常を検知しました。詳細コード=XX，詳細エラー番号=XX，ファイル名=XX，発生場所=XX

詳細コード：

エラーコード（表 K-2）

詳細エラー番号：

詳細エラー番号（表 K-2）

ファイル名：

エラーが発生したファイル名称

発生場所：

エラーが発生したファイルの箇所

要因

常駐指定タイプの検索中にオブジェクト管理で内部矛盾を検知しました。

対処

データベースファイルを保存して、エラーが発生するまでの操作と、このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO38006-W：常駐指定タイプの検索を正常に処理することができませんでした。詳細コード=XX，詳細エラー番号=XX，ファイル名=XX，発生場所=XX



詳細コード：

エラーコード（表 K-2）

詳細エラー番号：

詳細エラー番号（表 K-2）

ファイル名：

エラーが発生したファイル名称

発生場所：

エラーが発生したファイルの箇所

要因

常駐指定タイプの検索を正常に処理できませんでした。

対処

データベースファイルを保存して、エラーが発生するまでの操作と、このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO38007-W：常駐するオブジェクトのタイプが定義されていますが、常駐化ページプールが定義されていません。常駐化ページプールの用途=XX

常駐化ページプールの用途：

指定した常駐化ページプールの用途

要因

常駐するオブジェクトのタイプが定義されていますが、用途の一致した常駐化ページプールが定義されていません。

対処

常駐したい場合は、用途の一致した常駐化ページプールをシステム共通定義ファイルに記述し、システムを再起動してください。常駐しなくてもよい場合は、対処する必要はありません。次回のシステム起動までに、システム共通定義ファイルを訂正してください。常駐対象にしないときは、常駐するオブジェクトのタイプ指定をシステム共通定義ファイルから外してください。

KFXO38008-W：常駐化ページプールが定義されていますが、常駐するオブジェクトのタイプが指定されていません。常駐化ページプールの用途=XX

常駐化ページプールの用途：

指定した常駐化ページプールの用途

要因

常駐化ページプールの用途と一致するタイプの常駐が定義されていません。

対処

常駐したい場合は、常駐するオブジェクトのタイプをシステム共通定義ファイルに記述し、システムを再起動してください。常駐しなくてもよい場合は、対処する必要はありません。次回のシステム起動までに、システム共通定義ファイルを訂正してください。常駐対象にしないときは、常駐化ページプールの用途に示す常駐化ページプールの定義をシステム共通定義ファイルから外してください。

KFXO38009-W：常駐指定のタイプ数が制限を超えています。最大数：XX

要因

常駐指定のタイプ数が制限を超えています。

対処

## 付録K メッセージ

指定方法に間違いがないかチェックしてください。間違いがない場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO38010-E：定義解析処理でメモリ不足が発生しました。

### 要因

定義解析処理中にメモリ不足が発生したため処理を打ち切りました。

### 対処

以下の対処方法のどれかを実施してください。

- 必要のないプロセスを停止してください。
- U A P で必要のないエリアを確保していないか見直してください。
- システム定義を見直してください。
- システムのスワップ領域を追加してください。
- 主記憶装置を増設してください。

KFXO38011-E：常駐指定タイプが重複しています。タイプ名=XX

### タイプ名：

重複しているタイプ名

### 要因

システム共通定義ファイル内の常駐指定タイプが重複しています。

### 対処

指定方法に間違いがないかチェックしてください。間違いがない場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO38012-E：定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生しました。

### 要因

定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生したため、処理を打ち切りました。

### 対処

作業を打ち切り、サーバを終了させてシステム管理者に連絡してください。

KFXO40008-E：スロット値がページの範囲外です。物理タイプID=AA,ファイル名=BB,ページ番号=CC,スロット番号=DD

### 物理タイプ ID：

物理オブジェクトの物理タイプ ID

### ファイル名：

不正を検知したページの存在するファイル名

### ページ番号：

不正を検知したページのページ番号

### スロット番号：

不正を検知したスロットのスロット番号

### 要因

スロット値がページの範囲外です。エラーの詳細情報は、\$XODDIR/spool ディレクトリの下に pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

### 対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40009-E：ページの物理順スキャン処理において、スロットの不正を検知しました。物理タイプID=AA,ファイル名=BB,ページ番号=CC,スロット番号=DD

物理タイプ ID：

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ファイル名：

不正を検知したページの存在するファイル名

ページ番号：

不正を検知したページのページ番号

スロット番号：

不正を検知したスロットのスロット番号

要因

次の要因が考えられます。エラーの詳細情報は、\$XODDIR/spool ディレクトリの下での pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

1. スロット値が ZCT2 長未満である。
2. スロット値が 8192-ZCT1 長 - スロット長 \* 割り当てスロット数で計算される値より大きい。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40010-E：ページの物理順スキャン処理において、スロットの不正を検知しました。ページ上の物理オブジェクトの終端がページの範囲外です。物理タイプID=AA,ファイル名=BB,ページ番号=CC,スロット番号=DD

物理タイプ ID：

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ファイル名：

不正を検知したページの存在するファイル名

ページ番号：

不正を検知したページのページ番号

スロット番号：

不正を検知したスロットのスロット番号

要因

ページ上の物理オブジェクトの終端がページの範囲外です。エラーの詳細情報は、\$XODDIR/spool ディレクトリの下での pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40120-E：ジャーナル不正を検知しました。物理オブジェクト ID のエリア番号、ページ ID、スロット番号のいずれかが NULL です。エリア番号=AA, ページ ID=BB, スロット番号=CC, 回復操作=DD

エリア番号：

## 付録K メッセージ

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号  
ページ ID :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID  
スロット番号 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号  
回復操作 :

回復処理の操作を示す

### 要因

以下の要因が考えられます。

1. エリア番号が NULL.
2. ページ ID が NULL.
3. スロット番号が NULL.

### 対処

本メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。本メッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40121-E: ジャーナル不正を検知しました。物理オブジェクトサイズが P 形式のサイズ (16バイト) 未満になっています。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページID=CC, スロット番号=DD, オブジェクトサイズ=EE, 回復操作=FF

エリア名 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア  
名

エリア番号 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号  
ページ ID :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID  
スロット番号 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号  
オブジェクトサイズ :

ジャーナルレコード中のオブジェクトサイズ (バウンダリ調整前のサイズ)

回復操作 :

回復処理の操作を示す

### 要因

amodify 対象の物理オブジェクトサイズが P 形式のサイズ (16バイト) 以下  
になっています。

### 対処

本メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。本メッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40123-E: ジャーナル不正を検知しました。ファイルジャーナルレコードヘッダ (FJN) 中のエリア番号が NULL です。エリア番号=XX, ページ ID=YY, 回復操作=ZZ

エリア番号 :

FJN (ファイルジャーナルレコードヘッダ) 中のエリア番号

ページ I D :

F J N (ファイルジャーナルレコードヘッダ) 中のページ I D

回復操作 :

回復処理の操作を示す

要因

FJN (ファイルジャーナルレコードヘッダ) のエリア番号が NULL です。

対処

本メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。本メッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40124-E : ジャーナル不正を検知しました。ファイルジャーナルレコードヘッダ (FJN) 中のページ I D が NULL です。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページ I D=CC, 回復操作=DD

エリア名 :

FJN (ファイルジャーナルレコードヘッダ) のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号 :

FJN (ファイルジャーナルレコードヘッダ) のエリア番号

ページ ID :

FJN (ファイルジャーナルレコードヘッダ) のページ ID

回復操作 :

回復処理の操作を示す

要因

FJN (ファイルジャーナルレコードヘッダ) のページ ID が NULL です。

対処

本メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。本メッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40125-E : ジャーナル不正を検知しました。当該更新データサイズが総更新データサイズを超えています。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページ I D=CC, スロット番号=DD, 更新データカウンタ=EE, 更新データサイズ=FF, 総更新データサイズ=GG, 回復操作=HH

エリア名 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号

ページ ID :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID

スロット番号 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号

更新データカウンタ :

部分更新するデータのカウンタ (初期値は 0)

更新データサイズ :

部分更新するデータのサイズ

総更新データサイズ :

部分更新する総データサイズ

回復操作 :

回復処理の操作を示す

要因

更新データサイズが総更新データサイズを超えています。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40126-E : 回復処理中にジャーナル不正を検知しました。物理オブジェクト長はP形式のサイズ (16バイト) 未満、又はページ長を越えています。エリア名=XX エリア番号=XX 物理タイプID=XX ページID=XX スロット番号=XX 物理オブジェクト長=XX 回復操作=XX

エリア名 :

ジャーナルレコード中のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号 :

ジャーナルレコード中のエリア番号

物理タイプ ID :

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID :

ジャーナルレコード中のページ ID

スロット番号 :

ジャーナルレコード中のスロット番号

物理オブジェクト長 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト長 (パウンダリ調整前のサイズ)

回復操作 :

回復処理の操作

要因

次の要因が考えられます。

1. 物理オブジェクト長が P 形式のサイズ (16 バイト) 未満である。
2. 物理オブジェクト長がページ長を超えている。

対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40130-E : ジャーナルと D B の内容が不一致です。物理オブジェクト ID のエリア番号は常駐エリア情報中の最大エリア番号を超えているか、常駐エリア情報エントリ中のエリア番号と不一致です。エリア番号=AA, ページ ID=BB, スロット番号=CC, 回復操作=DD

エリア番号 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号

ページ ID :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID

スロット番号：

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号

回復操作：

回復処理の操作を示す

要因

データベースの回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) で全て指定されていないか、複数回に分けてデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) を実行している場合、アンロードジャーナルの入力順が時系列になっていません。または、データベース回復ユティリティ (xodbkout コマンド) で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

対処

アンロードジャーナルの指定が正しいか確認し、データベース回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) から再実行してください。

KFXO40131-E：ジャーナルとDBの内容が不一致です。物理オブジェクトIDに該当する物理オブジェクトがページ内に存在しません。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページID=CC, スロット番号=DD, 割り当てスロット数=EE, 回復操作=FF

エリア名：

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号：

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号

ページ ID：

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID

スロット番号：

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号

割り当てスロット数：

物理オブジェクト ID に該当するページに割り当てられているスロット数

回復操作：

回復処理の操作を示す

要因

データベースの回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) で全て指定されていないか、複数回に分けてデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) を実行している場合、アンロードジャーナルの入力順が時系列になっていません。または、データベース回復ユティリティ (xodbkout コマンド) で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

対処

アンロードジャーナルの指定が正しいか確認し、データベース回復ユティリ

ティ (xodbrstr コマンド) から再実行してください。

KFXO40132-E : ジャーナルとDBの内容が不一致です。物理オブジェクトIDに該当する物理オブジェクトが既にページ内に存在します。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページID=CC, スロット番号=DD, 割り当てスロット数=EE, 回復操作=FF

エリア名 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号

ページ ID :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID

スロット番号 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号

割り当てスロット数 :

物理オブジェクト ID に該当するページに割り当てられているスロット数

回復操作 :

回復処理の操作を示す

要因

データベースの回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) で全て指定されていないか、複数回に分けてデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) を実行している場合、アンロードジャーナルの入力順が時系列になっていません。または、データベース回復ユティリティ (xodbkout コマンド) で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

対処

アンロードジャーナルの指定が正しいか確認し、データベース回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) から再実行してください。

KFXO40133-E : ジャーナルとDBの内容が不一致です。ページのコンパクションを行ないましたが、ページ中に物理オブジェクトの更新に必要な空き領域を確保できませんでした。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページID=CC, スロット番号=DD, オブジェクトサイズ=EE, 空き領域サイズ=FF, 回復操作=GG

エリア名 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号

ページ ID :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID

スロット番号 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号

オブジェクトサイズ :



全更新対象の物理オブジェクトサイズ (バウンダリ調整後のサイズ)

空き領域サイズ :

データページ制御情報内の空き領域サイズ

回復操作 :

回復処理の操作を示す

要因

データベースの回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) で全て指定されていないか、複数回に分けてデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) を実行している場合、アンロードジャーナルの入力順が時系列になっていません。または、データベース回復ユティリティ (xodbkout コマンド) で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

対処

アンロードジャーナルの指定が正しいか確認し、データベース回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) から再実行してください。

KFXO40134-E : ジャーナルと D B の内容が不一致です。ファイルジャーナルレコードヘッダ ( F J N ) のエリア番号が常駐エリア情報中の最大エリア番号を超えているか、常駐エリア番号情報エントリ中のエリア番号と不一致です。エリア番号=XX, ページID=YY, 回復操作=ZZ

エリア番号 :

FJN (ファイルジャーナルレコードヘッダ) のエリア番号

ページ ID :

FJN (ファイルジャーナルレコードヘッダ) のページ ID

回復操作 :

回復処理の操作を示す

要因

データベースの回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) で全て指定されていないか、複数回に分けてデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) を実行している場合、アンロードジャーナルの入力順が時系列になっていません。または、データベース回復ユティリティ (xodbkout コマンド) で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

対処

アンロードジャーナルの指定が正しいか確認し、データベース回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) から再実行してください。

KFXO40135-E : ジャーナルと D B の内容が不一致です。コンパクション後に補間スロットの作成のための領域が確保できません。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページID=CC, スロット番号=DD, オブジェクトサイズ=EE, 空き領域サイズ=FF, 回復操作=GG

エリア名 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号

ページ ID :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID

スロット番号 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号

オブジェクトサイズ :

全更新対象の物理オブジェクトサイズ (バウンダリ調整後のサイズ)

空き領域サイズ :

データページ制御情報内の空き領域サイズ

回復操作 :

回復処理の操作を示す

要因

データベースの回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) で全て指定されていないか、複数回に分けてデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) を実行している場合、アンロードジャーナルの入力順が時系列になっていません。または、データベース回復ユティリティ (xodbkout コマンド) で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

対処

アンロードジャーナルの指定が正しいか確認し、データベース回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) から再実行してください。

KFXO40136-E : ジャーナルとDBの内容が不一致です。データベース上の物理オブジェクトサイズとジャーナルレコードの部分更新データ情報のオフセットが不整合です。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページID=CC, スロット番号=DD, 更新データカウンタ=EE, 更新データサイズ=FF, 更新データ先頭オフセット=GG, 更新データ最終オフセット=HH, 更新前オブジェクトサイズ=II, 回復操作=JJ

エリア名 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号

ページ ID :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID

スロット番号 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号

更新データカウンタ :

部分更新するデータのカウンタ

更新データサイズ :

部分更新するデータのサイズ

更新データ先頭オフセット :

部分更新するデータの先頭オフセット

更新データ最終オフセット :

部分更新するデータの最終オフセット

更新前オブジェクトサイズ :

部分更新する前のオブジェクトサイズ

回復操作 :

回復処理の操作を示す

要因

データベースの回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) で全て指定されていないか、複数回に分けてデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) を実行している場合、アンロードジャーナルの入力順が時系列になっていません。または、データベース回復ユティリティ (xodbkout コマンド) で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

対処

アンロードジャーナルの指定が正しいか確認し、データベース回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) から再実行してください。

KFXO40137-E : ジャーナルとDBの内容が不一致です。サイズ縮小全更新処理のロールバック回復のため、DBページ上の該当オブジェクトのページ内オフセットからジャーナルレコード上のオブジェクトサイズ分だけ更新するとページの範囲外を更新することになります。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページID=CC, スロット番号=DD, スロット値=EE, 更新前オブジェクトサイズ=FF, 更新後オブジェクトサイズ=GG, 回復操作=HH

エリア名 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号

ページ ID :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID

スロット番号 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号

更新前オブジェクトサイズ :

スロット値の示すデータベース上の更新前オブジェクトサイズ

更新後オブジェクトサイズ :

ジャーナルレコード中の更新後オブジェクトサイズ

回復操作 :

回復処理の操作を示す

要因

データベースの回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) で全て指定されていないか、複数回に分けてデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) を実行している場合、アンロードジャーナルの入力順が時系列になっていません。または、データベ

ス回復ユティリティ (xodbkout コマンド) で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

対処

アンロードジャーナルの指定が正しいか確認し、データベース回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) から再実行してください。

KFXO40140-E: 回復処理中にページ不正を検知しました。物理オブジェクトIDから求められたスロット値はページの有効範囲外です。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページID=CC, スロット番号=DD, スロット値=EE, 割り当てスロット数=FF, 回復操作=GG

エリア名:

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号:

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号

ページ ID:

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID

スロット番号:

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号

スロット値:

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号のスロット値

割り当てスロット数:

物理オブジェクト ID に該当するページに割り当てられているスロット数

回復操作:

回復処理の操作を示す

要因

以下の要因が考えられます。

1. スロット値が ZCT1 長未満である。
2. スロット値が  $8192 - ZCT1 \text{ 長} - \text{スロット長} * \text{割り当てスロット数}$  で計算される値より大きい。

対処

本メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。本メッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40141-E: 回復中にページ不正を検知しました。ページ上の回復対象物理オブジェクトのサイズがページの範囲を超えています。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページID=CC, スロット番号=DD, スロット値=EE, 更新前オブジェクトサイズ=FF, 更新後オブジェクトサイズ=GG, 回復操作=HH

エリア名:

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号:

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号

ページ ID :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID

スロット番号 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号

スロット値 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロットのスロット  
値

更新前オブジェクトサイズ :

スロット値の示すデータベース上の更新前オブジェクトサイズ

更新後オブジェクトサイズ :

ジャーナルレコード中の更新後オブジェクトサイズ

回復操作 :

回復処理の操作を示す

要因

ページ上の回復対象物理オブジェクトのサイズがページの範囲を超えています。

対処

本メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。本メッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40142-E : 回復処理中にページ不正を検知しました。物理オブジェクトIDから求められた物理オブジェクト長はP形式のサイズ(16バイト)未満、又はページ長を越えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX, スロット番号=XX, 物理オブジェクト長=XX, 回復操作=XX

エリア名 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア  
名

エリア番号 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号

物理タイプ ID :

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID

スロット番号 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号

物理オブジェクト長 :

ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号の物理  
オブジェクト長 (バウンダリ調整前のサイズ)

回復操作 :

回復処理の操作を示す

要因

次の要因が考えられます。

1. 物理オブジェクト長が P 形式のサイズ (16 バイト) 未満である。
2. 物理オブジェクト長がページ長を超えている。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40150-E：データページのコンパクション処理の物理オブジェクト転送時、ページの不正を検知しました。転送先の先頭オフセット又は終端オフセットがデータ操作作業領域の終端を越えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX, 転送先の先頭オフセット値=XX, 物理オブジェクト長=XX

エリア名：

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：

不正を検知したページのページ ID。

転送先の先頭オフセット値：

データ操作作業領域の先頭アドレスからのオフセット

物理オブジェクト長：

転送しようとした物理オブジェクトの物理オブジェクト長（パウンダリ調整後のサイズ）

要因

データページのコンパクション処理の物理オブジェクト転送時、ページの不正を検知しました。転送先の先頭オフセット又は終端オフセットがデータ操作作業領域の終端を超えています。エラーの詳細情報（データ操作作業領域上のページ及びコンパクション前のキャッシュ上のページの内容）は、\$XODDIR/spool ディレクトリの下に pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40151-E：データページのコンパクション処理の物理オブジェクト転送時、物理オブジェクト長の不正を検知しました。物理オブジェクト長がP形式のサイズ（16バイト）未満です。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX, スロット番号=XX, 物理オブジェクト長=XX

エリア名：

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：

不正を検知したページのページ ID

スロット番号：

不正を検知したスロットのスロット番号

物理オブジェクト長：

不正を検知した物理オブジェクトの物理オブジェクト長（バウンダリ調整後のサイズ）

要因

データページのコンパクション処理の物理オブジェクト転送時、物理オブジェクト長の不正を検知しました。物理オブジェクト長が P 形式のサイズ（16 バイト）未満です。エラーの詳細情報は、\$XODDIR/spool ディレクトリの下 pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40152-E：データページのコンパクション処理の未使用エリアの初期化時、ページの不正を検知しました。データ操作作業領域上に作成されたコンパクション後のページの未使用エリア先頭オフセット又は終端オフセットがデータ操作作業領域の終端を越えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX, 未使用エリア先頭オフセット=XX, 未使用エリア長=XX

エリア名：

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：

不正を検知したページのページ ID

未使用エリア先頭オフセット：

データ操作作業領域上の未使用エリア先頭オフセット

未使用エリア長：

データ操作作業領域上の未使用エリア長

要因

データページのコンパクション処理の未使用エリアの初期化時、ページの不正を検知しました。データ操作作業領域上に作成されたコンパクション後のページの未使用エリア先頭オフセット又は終端オフセットがデータ操作作業領域の終端を超えています。エラーの詳細情報（データ操作作業領域上のページ及びコンパクション前のキャッシュ上のページの内容）は、\$XODDIR/spool ディレクトリの下 pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40160-E：オブジェクトの削除において、物理オブジェクト長の不正を検知しました。物

## 付録K メッセージ

理オブジェクト長はP形式のサイズ(16バイト)未満,又はページ長を越えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX, スロット番号=XX, 物理オブジェクト長=XX

エリア名:

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号:

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID:

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID:

不正を検知したページのページ ID

スロット番号:

不正を検知したスロットのスロット番号

物理オブジェクト長:

不正を検知した物理オブジェクトの物理オブジェクト長(バウンダリ調整前のサイズ)

要因

次の要因が考えられます。

1. 物理オブジェクト長が P 形式のサイズ(16 バイト)未満である。
2. 物理オブジェクト長がページ長を超えている。

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40161-E: オブジェクトの部分更新において,物理オブジェクト長の不正を検知しました。物理オブジェクト長はP形式のサイズ(16バイト)未満,又はページ長を越えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX, スロット番号=XX, 物理オブジェクト長=XX

エリア名:

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号:

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID:

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID:

不正を検知したページのページ ID

スロット番号:

不正を検知したスロットのスロット番号

物理オブジェクト長:

不正を検知した物理オブジェクトの物理オブジェクト長(バウンダリ調整前のサイズ)

要因

次の要因が考えられます。



1. 物理オブジェクト長が P 形式のサイズ (16 バイト) 未満である。
2. 物理オブジェクト長がページ長を超えている。

## 対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40162-E : オブジェクトの全体更新において、物理オブジェクト長の不正を検知しました。物理オブジェクト長はP形式のサイズ (16バイト) 未満、又はページ長を越えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX, スロット番号=XX, 物理オブジェクト長=XX

エリア名 :

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号 :

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID :

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID :

不正を検知したページのページ ID

スロット番号 :

不正を検知したスロットのスロット番号

物理オブジェクト長 :

不正を検知した物理オブジェクトの物理オブジェクト長 (バウンダリ調整前のサイズ)

## 要因

次の要因が考えられます。

1. 物理オブジェクト長が P 形式のサイズ (16 バイト) 未満である。
2. 物理オブジェクト長がページ長を超えている。

## 対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40165-E : オブジェクトのフェッチにおいて、物理オブジェクト長の不正を検知しました。物理オブジェクト長はP形式のサイズ (16バイト) 未満、又はページ長を越えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX, スロット番号=XX, 物理オブジェクト長=XX

エリア名 :

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号 :

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID :

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID :

不正を検知したページのページ ID

## 付録K メッセージ

スロット番号：

不正を検知したスロットのスロット番号

物理オブジェクト長：

不正を検知した物理オブジェクトの物理オブジェクト長（バウンダリ調整前のサイズ）

要因

次の要因が考えられます。

1. 物理オブジェクト長が P 形式のサイズ（16 バイト）未満である。
2. 物理オブジェクト長がページ長を超えている。

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40166-E：タイプキャンにおいて、物理オブジェクト長の不正を検知しました。物理オブジェクト長はP形式のサイズ（16バイト）未満、又はページ長を越えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX, スロット番号=XX, 物理オブジェクト長=XX

エリア名：

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：

不正を検知したページのページ ID

スロット番号：

不正を検知したスロットのスロット番号

物理オブジェクト長：

不正を検知した物理オブジェクトの物理オブジェクト長（バウンダリ調整前のサイズ）

要因

次の要因が考えられます。

1. 物理オブジェクト長が P 形式のサイズ（16 バイト）未満である。
2. 物理オブジェクト長がページ長を超えている。

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40401-E：エリア中のデータページが不足しました。エリア名=XX

要因

オブジェクトの挿入又は更新時に、エリアの増分に失敗しました。さらに、エリア中のすべてのデータページにも、領域不足のため挿入又は更新処理ができません。

対処

次の手順に従ってエリアを拡張してください。

1. データベース構成変更用パラメタの作成

なお、Groupmax サーバ環境設定コマンドを使用すると、データベース構成変更パラメタを簡単に作成できます。Groupmax サーバ環境設定コマンドについては、「付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定」を参照してください。

2. ファイルの最大割り当て量の変更

xodflalt コマンドを使用して -s オペランドと -m オペランドの値を確認してください。

a=「手順 1 で作成した構成変更パラメタの -s オペランドの値 × 手順 1 で作成した構成変更パラメタの -m オペランドの値」、b=「現在の area パラメタの -s オペランドの値 × 現在の file パラメタの -m オペランドの値」とします。

a>b の場合は、ファイルの最大割り当て量を設定し直してください。

変更後の -m オペランドの値

= a ÷ 現在の area パラメタの -s オペランド

3. ファイルの追加

xodfladd コマンドを使用してファイルを追加してください。ファイルのあるパーティションに十分な空き容量がないときは、他のパーティションにファイルを追加してください。また、Groupmax サーバ環境設定コマンドを使用して作成した構成変更パラメタによってエリアごとにファイルが増えているときは、ファイルを追加してください。

4. メールの自動削除デーモンの起動

不足しているデータページのエリアがメール用のエリアである場合、メールの自動削除デーモンを起動してください。これは自動削除デーモンがエリアからメールを削除するので、ある程度計画的運用が必要となります。メールの自動削除デーモンの起動については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。なお、メールの自動削除デーモンでメールを削除した後、定期的に xodbreog コマンドを実行してデータベースを再編成することをお勧めします。

5. エリア再構成手順 1 ~ 4 が実行できないときは、エリアを再構成してください。

KFXO40402-E : エリア中のインデクスページが不足しました。エリア名=XX

要因

インデクスに対する、キーの追加又は更新時に、エリアの増分に失敗しました。さらに、エリア中のすべてのインデクスページにも、領域不足のため挿入又は更新処理ができません。

対処

次の手順に従ってエリアを拡張してください。

1. データベース構成変更用パラメタの作成

なお、Groupmax サーバ環境設定コマンドを使用すると、データベース構成変更パラメタを簡単に作成できます。Groupmax サーバ環境設定コマ

ドについては、「付録 D Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定」を参照してください。

2. ファイルの最大割り当て量の変更

xodflalt コマンドを使用して -s オペランドと -m オペランドの値を確認してください。

a=「手順 1 で作成した構成変更パラメタの -s オペランドの値×手順 1 で作成した構成変更パラメタの -m オペランドの値」、b=「現在の area パラメタの -s オペランドの値×現在の file パラメタの -m オペランドの値」とします。

a>b の場合は、ファイルの最大割り当て量を設定し直してください。

変更後の -m オペランドの値

$$= a \div \text{現在の area パラメタの -s オペランド}$$

3. ファイルの追加

xodfladd コマンドを使用してファイルを追加してください。ファイルのあるパーティションに十分な空き容量がないときは、他のパーティションにファイルを追加してください。また、Groupmax サーバ環境設定コマンドを使用して作成した構成変更パラメタによってエリアごとにファイルが増えているときは、ファイルを追加してください。

4. メールの自動削除デーモンの起動

不足しているデータページのエリアがメール用のエリアである場合、メールの自動削除デーモンを起動してください。これは自動削除デーモンがエリアからメールを削除するので、ある程度計画的運用が必要となります。メールの自動削除デーモンの起動については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。なお、メールの自動削除デーモンでメールを削除した後、定期的に xodbreog コマンドを実行してデータベースを再編成することをお勧めします。

5. エリア再構成手順 1 ~ 4 が実行できないときは、エリアを再構成してください。

KFXO40411-E：物理オブジェクトの挿入処理（当該ページの割り当てスロット数が割り当て可能最大スロット数と等しい、又はP形式の物理オブジェクト長の空き領域がない）において、ページ使用率管理ビットの更新要求（満杯）がエラーリターンしました。要因：当該ページは未使用状態 エリア名=XX，エリア番号=XX，物理タイプID=XX，ページID=XX

エリア名：

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：

当該ページのページ ID

要因

物理オブジェクトの挿入処理（当該ページの割り当てスロット数が割り当て可

能最大スロット数と等しい，又は P 形式の物理オブジェクト長の空き領域がない)で，ページ使用率管理ビットを満杯に更新しようとしたが，当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

**対処**

このメッセージの内容を記録し，システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後，コアファイルが出力された場合は，コアファイルを保存してください。

KFXO40412-E：物理オブジェクトの挿入処理（当該ページに物理オブジェクトを挿入するだけの空き領域がない）において，ページ使用率管理ビットの更新要求（満杯）がエラーリターンしました。要因：当該ページは未使用状態 エリア名=XX，エリア番号=XX，物理タイプID=XX，ページID=XX

エリア名：

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：

当該ページのページ ID

**要因**

物理オブジェクトの挿入処理（当該ページに物理オブジェクトを挿入するだけの空き領域がない）で，ページ使用率管理ビットを満杯に更新しようとしたが，当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

**対処**

このメッセージの内容を記録し，システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後，コアファイルが出力された場合は，コアファイルを保存してください。

KFXO40413-E：物理オブジェクト挿入でのページ更新処理において，ページ使用率管理ビットの更新要求（満杯）がエラーリターンしました。要因：当該ページは未使用状態 エリア名=XX，エリア番号=XX，物理タイプID=XX，ページID=XX

エリア名：

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：

当該ページのページ ID

**要因**

物理オブジェクト挿入でのページ更新処理で，ページ使用率管理ビットを満杯に更新しようとしたが，当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

**対処**

## 付録K メッセージ

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40414-E：物理オブジェクトの削除処理において、ページ使用率管理ビットの更新要求（空き有）がエラーリターンしました。要因：当該ページは未使用状態 エリア名=XX，エリア番号=XX，物理タイプID=XX，ページID=XX

エリア名：

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：

当該ページのページ ID

要因

物理オブジェクトの削除処理で、ページ使用率管理ビットを空き有に更新しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40415-E：物理オブジェクトの全体又は部分更新でのページ更新処理において、ページ使用率管理ビットの更新要求（満杯）がエラーリターンしました。要因：当該ページは未使用状態 エリア名=XX，エリア番号=XX，物理タイプID=XX，ページID=XX

エリア名：

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：

当該ページのページ ID

要因

物理オブジェクトの全体又は部分更新でのページ更新処理で、ページ使用率管理ビットを満杯に更新しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40416-E：物理オブジェクト挿入（ロードモード）処理（当該ページの割り当てスロット数が割り当て可能最大スロット数と等しい、又はP形式の物理オブジェクト長の空き領域がな

い)において、ページ使用率管理ビットの更新要求(満杯)がエラーリターンしました。要因:当該ページは未使用状態 エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX

エリア名:

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号:

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID:

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID:

当該ページのページ ID

要因

物理オブジェクト挿入(ロードモード)処理(当該ページの割り当てスロット数が割り当て可能最大スロット数と等しい,又はP形式の物理オブジェクト長の空き領域がない)で、ページ使用率管理ビットを満杯に更新しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40417-E:物理オブジェクト挿入(ロードモード)処理(当該ページに物理オブジェクトを挿入するだけの空き領域がない)において、ページ使用率管理ビットの更新要求(満杯)がエラーリターンしました。要因:当該ページは未使用状態 エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX

エリア名:

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号:

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID:

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID:

当該ページのページ ID

要因

物理オブジェクト挿入(ロードモード)処理(当該ページに物理オブジェクトを挿入するだけの空き領域がない)で、ページ使用率管理ビットを満杯に更新しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40418-E:物理オブジェクト挿入のためのページサーチ処理(当該ページに物理オブジェクトを挿入するだけの空き領域がない)において、ページ使用率管理ビットの更新要求(満杯)がエラーリターンしました。要因:当該ページは未使用状態 エリア名=XX, エリア番号

## 付録K メッセージ

=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX

エリア名:

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号:

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID:

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID:

当該ページのページ ID

要因

物理オブジェクト挿入のためのページサーチ処理（当該ページに物理オブジェクトを挿入するだけの空き領域がない）で、ページ使用率管理ビットを満杯に更新しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40421-E: 物理オブジェクトの全体更新での物理オブジェクト削除処理において、ページを解放しようとしたが、当該ページのページ使用・未使用管理ビットが未使用状態です。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX

エリア名:

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号:

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID:

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID:

当該ページのページ ID

要因

物理オブジェクトの全体更新での物理オブジェクト削除処理で、ページを解放しようとしたが、当該ページのページ使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40422-E: 物理オブジェクトの削除処理（P形式の物理オブジェクト削除後のページが空）において、ページを解放しようとしたが、当該ページのページ使用・未使用管理ビットが未使用状態です。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX

エリア名:

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号:

当該ページを格納するエリアのエリア番号



物理タイプ ID :

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID :

当該ページのページ ID

要因

物理オブジェクトの削除処理 (P 形式の物理オブジェクト削除後のページが空) で、ページを解放しようとしたが、当該ページのページ使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40423-E : 物理オブジェクトの削除処理 (P形式以外の物理オブジェクト削除後のページが空) において、ページを解放しようとしたが、当該ページのページ使用・未使用管理ビットが未使用状態です。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX

エリア名 :

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号 :

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID :

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID :

当該ページのページ ID

要因

物理オブジェクトの削除処理 (P 形式以外の物理オブジェクト削除後のページが空) で、ページを解放しようとしたが、当該ページのページ使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40431-E : ページの物理順スキャン処理において、カレントページIDの不正を検知しました。ページIDが当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページID以下です。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX

エリア名 :

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号 :

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID :

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID :

当該ページのページ ID

## 付録K メッセージ

### 要因

ページの物理順スキャン処理で、カレントページ ID の不正を検知しました。  
ページ ID が当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページ ID 以下です。

### 対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。この  
メッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存し  
てください。

KFXO40432-E：ページの物理順スキャン処理において、カレントページIDの不正を検知しまし  
た。ページIDが当該ファイルの最終ページIDを超えています。エリア名=XX，エリア番号=XX，  
物理タイプID=XX，ページID=XX

エリア名：

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：

当該ページのページ ID

### 要因

ページの物理順スキャン処理で、カレントページ ID の不正を検知しました。  
ページ ID が当該ファイルの最終ページ ID を超えています。

### 対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。この  
メッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存し  
てください。

KFXO40433-E：ページの物理順スキャン処理において、カレントページIDの不正を検知しまし  
た。ファイル番号がエリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号を超えて  
います。エリア名=XX，エリア番号=XX，物理タイプID=XX，ページID=XX

エリア名：

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：

当該ページのページ ID

### 要因

ページの物理順スキャン処理で、カレントページ ID の不正を検知しました。  
ファイル番号がエリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番  
号を超えています。

### 対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。この  
メッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存し

てください。

KFXO40434-E：ページの物理順スキャン処理において、取得したページが空ページであった時、カレントページIDの不正を検知しました。ページIDが当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページID以下です。エリア名=XX，エリア番号=XX，物理タイプID=XX，ページID=XX

エリア名：

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：

当該ページのページ ID

要因

ページの物理順スキャン処理で、取得したページが空ページであったとき、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページ ID 以下です。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40435-E：ページの物理順スキャン処理において、取得したページが空ページであった時、カレントページIDの不正を検知しました。ページIDが当該ファイルの最終ページIDを超えています。エリア名=XX，エリア番号=XX，物理タイプID=XX，ページID=XX

エリア名：

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：

当該ページのページ ID

要因

ページの物理順スキャン処理で、取得したページが空ページであったとき、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの最終ページ ID を超えています。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40436-E：ページの物理順スキャン処理において、取得したページが空ページであった時、カレントページIDの不正を検知しました。ファイル番号がエリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号を超えています。エリア名=XX，エリア番号=XX，物理タイプ

## 付録K メッセージ

ID=XX, ページID=XX

エリア名:

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号:

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID:

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID:

当該ページのページ ID

要因

ページの物理順スキャン処理で、取得したページが空ページであったとき、カレントページ ID の不正を検知しました。ファイル番号がエリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号を超えています。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40437-E: タイプスキャンにおいて、取得したページが空ページであった時、カレントページIDの不正を検知しました。ページIDが当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページID以下です。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX

エリア名:

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号:

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID:

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID:

当該ページのページ ID

要因

タイプスキャンで、取得したページが空ページであったとき、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページ ID 以下です。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40438-E: タイプスキャンにおいて、取得したページが空ページであった時、カレントページIDの不正を検知しました。ページIDが当該ファイルの最終ページIDを超えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX

エリア名:

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号:

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID :

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID :

当該ページのページ ID

要因

タイプスキャンで、取得したページが空ページであったとき、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの最終ページ ID を超えています。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40439-E : タイプスキャンにおいて、取得したページが空ページであった時、カレントページIDの不正を検知しました。ファイル番号がエリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号を超えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX

エリア名 :

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号 :

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID :

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID :

当該ページのページ ID

要因

タイプスキャンで、取得したページが空ページであったとき、カレントページ ID の不正を検知しました。ファイル番号がエリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号を超えています。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40440-E : タイプスキャンにおいて、要求ID数分のオブジェクトを取得していない、又はページに該当するオブジェクトがない時、カレントページIDの不正を検知しました。ページIDが当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページID以下です。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX

エリア名 :

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号 :

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID :

物理オブジェクトの物理タイプ ID

## 付録K メッセージ

ページ ID :

当該ページのページ ID

要因

タイプスキャンで、要求 ID 数分のオブジェクトを取得していない、又はページに該当するオブジェクトがないとき、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページ ID 以下です。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40441-E : タイプスキャンにおいて、要求ID数分のオブジェクトを取得していない、又はページに該当するオブジェクトがない時、カレントページIDの不正を検知しました。ページIDが当該ファイルの最終ページIDを超えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX

エリア名 :

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号 :

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID :

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID :

当該ページのページ ID

要因

タイプスキャンで、要求 ID 数分のオブジェクトを取得していない、又はページに該当するオブジェクトがないとき、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの最終ページ ID を超えています。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40442-E : タイプスキャンにおいて、要求ID数分のオブジェクトを取得していない、又はページに該当するオブジェクトがない時、カレントページIDの不正を検知しました。ファイル番号がエリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号を超えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプID=XX, ページID=XX

エリア名 :

当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号 :

当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID :

物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID :

当該ページのページ ID

## 要因

タイプスキャンで、要求 ID 数分のオブジェクトを取得していない、又はページに該当するオブジェクトがないとき、カレントページ ID の不正を検知しました。ファイル番号がエリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号を超えています。

## 対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40501-E : インデクス情報ファイル用バッファの確保時に、メモリ不足が発生しました。  
要求サイズ=XX

## 要求サイズ :

確保しようとした領域長 (単位 : バイト)

## 要因

インデクス情報ファイル用バッファの確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

## 対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO41001-E : ディレクトリに不正があります。要因 : 未使用の STMB 中にセグメント管理情報存在 エリア名=XX エリア番号=XX ページID=XX タイプ・インデクスID=XX セグメントID=XX ファイル名=XX

## 要因

未使用の STMB にセグメント管理情報が存在します。

## 対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO41002-E : ディレクトリに不正があります。要因 : STMB 中の次セグメント ID 不正 エリア名=XX エリア番号=XX タイプ・インデクスID=XX 次セグメントID=XX

## 要因

同一タイプ又はインデクスの STMB 検索中に STMB 中の次セグメント ID の不正を検出しました。

## 対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO41003-E : ディレクトリに不正があります。 要因 : ARTM 中の先頭または最終セグメ

## 付録K メッセージ

ントID不正 エリア名=XX エリア番号=XX ページID=XX タイプID=XX 先頭セグメントID=XX 最終セグメントID=XX

### 要因

メッセージに示したタイプの先頭セグメント ID または最終セグメント ID が 0 になっています。

### 対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO41004-E: ディレクトリに不正があります。 要因: S B M B に空きセグメントが存在するにもかかわらず該当ページが使用中 エリア名=XX エリア番号=XX ページID=XX セグメントID=XX ファイル名=XX

### 要因

新セグメントを確保しようとしたが、空きセグメント内の先頭ページ又は 2 ページ目が使用中でした。

### 対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO41005-E: ディレクトリに不正があります。 要因: A R T M 中に同一タイプID存在または A R I M 中に同一インデクスID存在 エリア名=XX エリア番号=XX ページID=XX タイプ・インデクスID=XX ファイル名=XX

### 要因

タイプ又はインデクス定義を実行したときに、既に同一のタイプ ID 又はインデクス ID がありました。

### 対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO41010-E: マスタディレクトリ中にタイプ及びインデクスを定義できるだけの領域がありません。

### 要因

マスタディレクトリの中にタイプ及びインデクスを定義できるだけの領域がありません。マスタディレクトリの初期割り当て量が不足しています。

### 対処

必要のないタイプ又はインデクスを削除した後、再実行してください。または、



マスタディレクトリの初期割り当て量を大きくしてデータベースを再作成してください。

KFXO41011-E : 1エリア内に定義できるタイプの数が1000を超えました。エリア名=XX

**要因**

一つのエリア内に定義できるタイプの数が制限を超えました。

**対処**

他のエリアに定義してください。又は、このエリアに既に定義されている不要なタイプを削除した後で、再度実行してください。

KFXO41012-I : エリアの最終ファイルのXX%目に当たるセグメントの使用を開始しました。エリア名=YY

**XX%目 :**

最終ファイルのセグメント使用率。80% , 90% , 100%のどれかを表示します。

**エリア名 :**

使用中のエリア名

**要因**

エリアの最終ファイルの XX%目に当たるセグメントの使用を開始しました。このメッセージは、データベースの初期化ユティリティ ( xodbinit コマンド) とオブジェクトサーバ開始時にタイプ又はインデクスが定義されていなかったエリア、及びタイプ又はインデクスの数が 2 以上であったエリアに対して出力されます。ただし、オブジェクトサーバ開始時に KFXO41057-W 又は KFXO41058-W が出力されている場合は、オブジェクトサーバ開始時に定義されていたタイプ又はインデクスの数が 1 であったエリアに対しても出力されません。

KFXO41013-E : データディレクトリにインデクス管理情報を定義できるだけの領域がありません。

**要因**

データディレクトリにインデクス管理情報を定義できるだけの領域がありません。データディレクトリの初期割り当て量が不足しています。

**対処**

xodfladd コマンドでデータディレクトリ用エリアにファイルを追加するか、又は必要のないインデクスを削除した後で、再度実行してください。

KFXO41014-E : ファイルの増分処理でエラーが発生しました。

**要因**

ファイルの増分処理でエラーが発生しました。

**対処**

このメッセージの前に出力される、次に示すメッセージを参考にして、原因を調査してください。

- KFXO41059-E
- KFXO43160-E
- KFXO44120-E
- KFXO44130-E
- KFXO44135-E

## 付録K メッセージ

- KFXO44140-E
- KFXO44150-E
- KFXO45130-E

KFXO41015-I：ファイル中のセグメント管理用領域をすべて使ったため、以降増分はできません。エリア名=XX

### 要因

ファイルの中のセグメント管理用領域をすべて使いました。以降、このファイルの増分はできません。

### 対処

必要があれば、xodbreog コマンドでデータベースを再編成してください。又は容量を拡張して、データベースを再作成してください。

KFXO41016-E：1エリア内に定義できるインデックスの数が2000を超えました。エリア名=XX

### 要因

一つのエリア内に定義できるインデックスの数が制限を超えました。

### 対処

他のエリアに定義してください。または、このエリアに既に定義されている必要のないインデックスを削除して、再実行してください。

KFXO41037-E：ファイルシステム満杯のため、ファイルの増分に失敗しました。エリア名=AA

### 要因

データベース回復コティリティ (xodbrecv コマンド) によって KFXO41999-I で示されたファイルを増分しようとしたましたが、ファイルシステムにファイルを増分するための十分な領域がありません。

### 対処

不要なファイルを削除する等して、増分に必要な領域を確保後、再度実行してください。

KFXO41038-W：ディレクトリ情報のメモリ常駐化処理においてデータベースの入力エラーが発生しましたが、このまま続行します。詳細コード=XX

### 詳細コード：

エラーの要因を示す詳細コード（表 K-2）

### 要因

ディレクトリ情報のメモリ常駐化処理においてデータベースの入力エラーが発生しました。

### 対処

必要があれば、直前に出力されているメッセージに従って対処してください。

KFXO41039-W：インデックスのルートページのメモリ常駐化処理においてデータベースの入力エラーが発生しましたが、このまま続行します。詳細コード=XX

### 詳細コード：

エラーの要因を示す詳細コード（表 K-2）

### 要因

インデックスのルートページのメモリ常駐化処理においてデータベースの入力エラーが発生しました。

### 対処

必要があれば、直前に出力されているメッセージに従って対処してください。

KFXO41043-W：ディレクトリ情報のメモリ常駐化処理においてディレクトリの不正を検知しましたが、このまま続行します。詳細コード=XX

詳細コード：

エラーの要因を示す詳細コード

要因

ディレクトリ情報のメモリ常駐化処理でディレクトリの不正を検知しました。

対処

必要があれば、直前に出力されているメッセージに従って対処してください。

KFXO41051-I：ファイルの大きさが最大割当量に達していたため、当該ファイルの増分は行いません。エリア名：XX

要因

KFXO41999-I メッセージに表示されるファイルの大きさが最大割り当て量に達していました。

対処

必要があれば、xodbreog コマンドでデータベースを再編成してください。又は xodflalt コマンドでファイルの最大割り当て量を増やしてください。

KFXO41052-I：ファイルシステム満杯のため、以降当該ファイルの増分はできません。エリア名：XX

要因

KFXO41999-I メッセージに示されるファイルを増分するための十分な領域が、ファイルシステムにありません。オブジェクトサーバを終了するまで、該当するファイルを増分できません。

対処

必要があれば、xodbreog コマンドでデータベースを再編成してください。又は不要なファイルを削除するなど増分に必要な領域を確保して、オブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO41053-I：ファイルの最大割当量のXX%目に当たるセグメントの使用を開始しました。エリア名=XX

XX%目：

ファイルの最大割当量に対するセグメント使用率（80%，90%，100%のどれかを表示）

エリア名：

当該エリアのエリア名

要因

KFXO41999-I メッセージに示されるファイルの最大割当量の XX%目に当たるセグメントの使用を開始しました。

KFXO41054-I：ファイルの大きさが2ギガバイト以上になるため、当該ファイルの増分は行いませんでした。エリア名=XX

エリア名：

当該エリアのエリア名

要因

## 付録K メッセージ

KFXO41999-I メッセージに示されるファイルの大きさが2ギガバイト以上になるため、増分は行いませんでした。

### 対処

必要があれば、`xodbreog` コマンドでデータベースを再編成してください。又は `xodfladd` コマンドで当該エリアにファイルを追加してください。

KFXO41055-I：エリアの最終ファイルのXX%目に当たるページの使用を開始しました。エリア名=XX

### XX%目：

最終ファイルのページ使用率（80%，90%，95%のどれかを表示）

### エリア名：

使用中のエリア名

### 要因

エリアの最終ファイルのXX%目に当たるページの使用を開始しました。このメッセージはオブジェクトサーバ開始時に定義されていたタイプ又はインデクス数が1であったエリアに対して出力されます。

### 対処

必要があれば、データベースの再編成ユーティリティ（`xodbreog` コマンド）でデータベースを再編成してください。

KFXO41056-I：ファイルの増分を行いました。エリア名=XX ファイルサイズ=XXKB

### エリア名：

ファイルの増分を行ったファイルの定義されているエリア名

### ファイルサイズ：

増分後のファイルサイズ（キロバイト）

### 要因

KFXO41999-I メッセージに示されたファイルの増分を行いました。

### 対処

必要があれば、データベースの再編成ユーティリティ（`xodbreog` コマンド）でデータベースを再編成してください。

KFXO41057-W：エリア内の物理タイプ数・インデクス数の取得に失敗しました。タイプ又はインデクスの数が1のエリアに対してもKFXO41012-Iメッセージでエリアの使用率を通知する場合があります。エラーコード=XX 詳細エラー番号=XX

### エラーコード：

ディクショナリ検索処理中に発生したエラーコード

### 詳細エラー番号：

ディクショナリ検索処理中に発生したエラーの詳細コード

### 要因

ディクショナリからのエリア内の物理タイプ数・インデクス数の取得に失敗しました。

### 対処

メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。メッセージ中の詳細エラー番号が0のときは、このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO41058-W：エリア内の物理タイプ数・インデクス数の取得処理が実行できませんでした。タイプ又はインデクスの数が1のエリアに対してもKFXO41012-Iメッセージでエリアの使用率を通知します。

要因

ディクショナリからのエリア内の物理タイプ数・インデクス数の取得処理が実行できませんでした。

対処

このメッセージの出力前のメッセージに従って対処してください。

KFXO41059-E：現在時刻の取得に失敗しました。エリア名=XX エリア番号=XX

エリア名：

現在時刻の設定対象エリア名

エリア番号：

現在時刻の設定対象エリア番号

要因

現在時刻の取得に失敗しました。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO41101-E：ファイルの増分回復でジャーナル不正を検知しました。要因：ファイルジャーナルレコードヘッダ (FJN) 中のエリア番号がNULLです。

要因

ファイルジャーナルレコードヘッダ (FJN) 中のエリア番号が N U L L です。

対処

本メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。本メッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO41102-E：ファイルの増分回復でジャーナルとデータベースの内容不一致を検知しました。要因：ファイルジャーナルレコードヘッダ (FJN) 中のエリア番号がエリア情報常駐テーブル中の最大エリア番号を超えているか、エリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア番号と一致していません。エリア番号=AA

要因

データベース回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) で全て指定されていないか、複数回に分けてデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) を実行している場合、アンロードジャーナルファイルの入力順が時系列になっていません。または、データベース回復ユティリティ (xodbkout コマンド) で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

対処

アンロードジャーナルファイルの指定が正しいか確認し、データベース回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) から再実行してください。

## 付録K メッセージ

KFXO41103-E : ファイルの増分回復でジャーナル不正を検知しました。要因 : ジャーナルレコード中のファイル番号が0未満です。エリア名=XX エリア番号=YY ファイル番号=ZZ

### 要因

ジャーナルレコード中のファイル番号が0未満です。

### 対処

本メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。本メッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO41104-E : ファイルの増分回復でジャーナルとデータベースの内容不一致を検知しました。要因 : ジャーナルレコード中のファイル番号がエリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号を超えています。エリア名=AA エリア番号=BB エリア内最大ファイル番号=CC ファイル番号=DD

### 要因

データベース回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) で全て指定されていないか、複数回に分けてデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) を実行している場合、アンロードジャーナルファイルの入力順が時系列になっていません。または、データベース回復ユティリティ (xodbkout コマンド) で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

### 対処

アンロードジャーナルファイルの指定が正しいか確認し、データベース回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) から再実行してください。

KFXO41105-E : ファイルの増分回復でジャーナル不正を検知しました。要因 : ジャーナルレコード中の増分セグメント数が0以下です。エリア名=AA エリア番号=BB ファイル番号=CC 増分セグメント数=DD

### 要因

ジャーナルレコード中の増分セグメント数が0以下です。

### 対処

本メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。本メッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO41201-E : マスタディレクトリの不正を検知しました。MICB中のARIMのエントリ番号が1~2000ではありません。エリア名=XX エリア番号=XX ページID=XX オフセット=XX インデクスID=XX ARIMのエントリ番号=XX ファイル名=XX

### エリア名 :

マスタディレクトリのエリア名

### エリア番号 :

マスタディレクトリのエリア番号

### ページ ID :

不正な MICB が存在するページのページ ID

### オフセット :

不正な MICB のページの先頭からのオフセット

インデクス ID :

不正な MICB のインデクス ID

ARIM のエントリ番号 :

MICB 中の ARIM のエントリ番号

ファイル名 :

不正を検知したファイル名

要因

MICB 中の ARIM のエントリ番号が 1 ~ 2000 ではありません。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO41202-E : インデクス管理情報の削除時、データディレクトリの不正を検知しました。インデクス管理情報中のブロック名称がDDXCではありません。エリア名=XX エリア番号=XX ページID=XX オフセット=XX インデクスID=XX ブロック名称=XX ファイル名=XX

エリア名 :

データディレクトリのエリア名

エリア番号 :

データディレクトリのエリア番号

ページ ID :

不正なインデクス管理情報が存在するページのページ ID

オフセット :

不正なインデクス管理情報のページの先頭からのオフセット

インデクス ID :

不正なインデクス管理情報のインデクス ID

ブロック名称 :

不正なブロック名称 (先頭 4 バイト)

ファイル名 :

不正を検知したファイル名

要因

インデクス管理情報の削除時、データディレクトリの不正を検知しました。インデクス管理情報中のブロック名称が DDXC ではありません。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO41203-E : インデクス管理情報の削除時、データディレクトリの不正を検知しました。DDXC中のキーの構成属性数が1~16ではありません。エリア名=XX エリア番号=XX ページID=XX オフセット=XX インデクスID=XX キーの構成属性数=XX ファイル名=XX

エリア名 :

データディレクトリのエリア名

エリア番号 :

## 付録K メッセージ

データディレクトリのエリア番号

ページ ID :

不正な DDXC が存在するページのページ ID

オフセット :

不正な DDXC のページの先頭からのオフセット

インデクス ID :

不正な DDXC のインデクス ID

キーの構成属性数 :

DDXC 中のキーの構成属性数

ファイル名 :

不正を検知したファイル名

要因

インデクス管理情報の削除時、データディレクトリの不正を検知しました。

DDXC 中のキーの構成属性数が 1 ~ 16 ではありません。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO41204-E : インデクス管理情報の取得時、データディレクトリの不正を検知しました。DDXC中のキーの構成属性数が1~16ではありません。エリア名=XX エリア番号=XX ページID=XX オフセット=XX インデクスID=XX キーの構成属性数=XX ファイル名=XX

エリア名 :

データディレクトリのエリア名

エリア番号 :

データディレクトリのエリア番号

ページ ID :

不正な DDXC が存在するページのページ ID

オフセット :

不正な DDXC のページの先頭からのオフセット

インデクス ID :

不正な DDXC のインデクス ID

キーの構成属性数 :

DDXC 中のキーの構成属性数

ファイル名 :

不正を検知したファイル名

要因

インデクス管理情報の取得時、データディレクトリの不正を検知しました。

DDXC 中のキーの構成属性数が 1 ~ 16 ではありません。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO41205-E : インデクス管理情報の削除時、データディレクトリの不正を検知しました。



DDXCエントリが存在するにもかかわらずDDFC中のDDXC使用・未使用管理ビットが未使用状態です。 エリア名=XX エリア番号=XX DDFCのページID=XX DDXCのページID=XX オフセット=XX インデクスID=XX

エリア名：

データディレクトリのエリア名

エリア番号：

データディレクトリのエリア番号

DDFC のページ ID：

DDFC のページ ID

DDXC のページ ID：

DDXC のページ ID

オフセット：

DDXC のページの先頭からのオフセット

インデクス ID：

インデクス ID

要因

インデクス管理情報の削除時，データディレクトリの不正を検知しました。 DDXC エントリが存在するにもかかわらず DDFC 中の DDXC 使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

対処

このメッセージの内容を記録し，システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後，コアファイルが出力された場合は，コアファイルを保存してください。

KFXO41307-E：エリア内の使用済ページ数がエリア内の割当ページ数を超えています。 エリア名=XX エリア番号=XX 使用済ページ数=XX 割当ページ数=XX

エリア名：

該当するエリアのエリア名

エリア番号：

該当するエリアのエリア番号

使用済ページ数：

エリア内の使用済ページ数

割当ページ数：

エリア内の割当ページ数

要因

エリア内の使用済ページ数がエリア内の割当ページ数を超えています。

対処

このメッセージの内容を記録し，システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後，コアファイルが出力された場合は，コアファイルを保存してください。

KFXO41506-E：インデクス定義のルートページ作成処理においてインデクスIDの不正を検出しました。 エリア名：XX エリア番号：XX インデクスID：XX

要因

インデクス定義のルートページ作成中に，ディレクトリ及びメモリ内のテーブ

ル破壊又は内部矛盾によってインデクス ID の不正を検出しました。

対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO41998-E : ファイル名=XX

ファイル名 :

このメッセージの前に出力されたメッセージに関連のあるファイル名

要因

このメッセージの前に出力しているメッセージを参照してください。

KFXO41999-I : ファイル名=XX

ファイル名 :

このメッセージの前に出力されたメッセージに関連のあるファイル名

要因

このメッセージの前に出力しているメッセージを参照してください。

KFXO42000-E : インデクスページのページ制御情報が破壊されています。エリア名=XX , エリア番号=XX , インデクスID=XX , ページID=XX , 要因コード=XX

要因

インデクスページのページ制御情報が破壊されています。

対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42001-E : インデクスエントリが破壊されています。エリア名=XX , エリア番号=XX , インデクスID=XX , ページID=XX , スロット番号=XX , 要因コード=XX

要因

インデクスエントリが破壊されています。

対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42002-E : インデクスページポインタが不正です。エリア名=XX , エリア番号=XX , インデクスID=XX , ポイント元ページID=XX , ポインタ種別=XX , ポインタ先ページID=XX

要因

インデクスページポインタが不正です。

## 対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42003-E: インデクスページのページ種別が不正です。エリア名=XX, エリア番号=XX, インデクスID=XX, ページID=XX, 要求されたページ種別=XX, 実際のページ種別=XX

## 要因

インデクスページポインタのポイント先が不正です。

## 対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42004-E: インデクスページポインタが自ページをポイントしています。エリア名=XX, エリア番号=XX, インデクスID=XX, ページID=XX, ポインタ種別=XX

## 要因

インデクスページポインタが自ページをポイントしています。

## 対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42005-E: インデクスのルートページのページ種別、またはレベルが不正です。エリア名=XX, エリア番号=XX, インデクスID=XX, ページID=XX, ページ種別=XX, レベル=XX

## 要因

インデクスのルートページのページ種別又はレベルが不正です。

## 対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42006-E: インデクスのリーフページのページ種別、またはレベルが不正です。エリア名=XX, エリア番号=XX, インデクスID=XX, ページID=XX, ページ種別=XX, レベル=XX

## 要因

インデクスのリーフページのページ種別又はレベルが不正です。

対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42007-E：インデクスページのページ制御情報が破壊されています。インデクス上位ページが垂直ポインタを保持していません。又は、リーフページが垂直ポインタを保持していません。エリア名=XX, エリア番号=XX, インデクスID=XX, ページID=XX, ページレベル=XX, 垂直ポインタ=XX

要因

インデクス上位ページが垂直ポインタを保持していません。又は、リーフページが垂直ポインタを保持しています。

対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42010-E：インデクスページのコンパクション処理において、スロットの不正を検知しました。スロット値がページの範囲外です。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクスID = XX, ページID = XX, スロット番号 = XX, スロットのオフセット値 = XX

インデクスエリア名：

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：

当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：

不正を検知したページのページ ID

スロット番号：

不正を検知したスロットのスロット番号

スロットのオフセット値：

不正を検知したスロットのオフセット値

要因

インデクスページのコンパクション処理において、スロットの不正を検知しました。スロット値がページの範囲外です。エラーの詳細情報は、\$XODDIR/spool ディレクトリの下に pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42011-E: インデクスページのコンパクション処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。ページ上のインデクスエントリの終端がページの範囲外です。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクスID = XX, ページID = XX, スロット番号 = XX, インデクスエントリ長 = XX

インデクスエリア名:

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号:

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID:

当該インデクスのインデクス ID

ページ ID:

不正を検知したページのページ ID

スロット番号:

不正を検知したスロットのスロット番号。

インデクスエントリ長:

不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長

要因

インデクスページのコンパクション処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。ページ上のインデクスエントリの終端がページの範囲外です。エラーの詳細情報は、\$XODDIR/spool ディレクトリの下の pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42012-E: インデクスページのコンパクション処理のインデクスエントリ転送時、インデクスページの不正を検知しました。転送先の先頭オフセット又は終端オフセットがコンパクション用作業領域の終端を越えています。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクスID = XX, ページID = XX, 転送先の先頭オフセット値 = XX, インデクスエントリ長 = XX

インデクスエリア名:

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号:

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID:

当該インデクスのインデクス ID

ページ ID:

不正を検知したページのページ ID

転送先の先頭オフセット値:

コンパクション用作業領域の先頭アドレスからのオフセット

インデクスエントリ長:

不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長

要因

インデクスページのコンパクション処理のインデクスエントリ転送時、インデクスページの不正を検知しました。転送先の先頭オフセット又は終端オフセットがコンパクション用作業領域の終端を超えています。エラーの詳細情報（コンパクション用作業領域上のページ及びコンパクション前のキャッシュ上のページの内容）は、\$XODDIR/spool ディレクトリの下 の pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42013-E：インデクスページのコンパクション処理のインデクスエントリ転送時、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長がインデクスエントリの最小長（8バイト）未満です。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクスID = XX, ページID = XX, スロット番号 = XX, インデクスエントリ長 = XX

インデクスエリア名：

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：

当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：

不正を検知したページのページ ID

スロット番号：

不正を検知したスロットのスロット番号

インデクスエントリ長：

不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長。

要因

インデクスページのコンパクション処理のインデクスエントリ転送時、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長がインデクスエントリの最小長（8バイト）未満です。エラーの詳細情報は、\$XODDIR/spool ディレクトリの下 の pdmp プロセス ID ファイルに出力されます

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42014-E：インデクスページのコンパクション処理において、作業領域上でコンパクションされたインデクスエントリ領域の転送時、インデクスページの不正を検知しました。作業領域からバッファ上に転送しようとしたインデクスエントリ領域長がページ長を超えています。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクスID = XX, ページID = XX, インデクスエントリ領域長 = XX

インデクスエリア名：

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号  
インデクス ID :

当該インデクスのインデクス ID

ページ ID :

不正を検知したページのページ ID

インデクスエントリ領域長 :

転送しようとしたインデクスエントリ領域の長さ

要因

インデクスページのコンパクション処理において、作業領域上でコンパクションされたインデクスエントリ領域の転送時、インデクスページの不正を検知しました。作業領域からバッファ上に転送しようとしたインデクスエントリ領域長がページ長を超えています。エラーの詳細情報（コンパクション用作業領域上のページ及びコンパクション前のキャッシュ上のページの内容）は、  
\$XODDIR/spool ディレクトリの下 の pdmp プロセス ID ファイルに出力されま  
す。

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。この  
メッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存  
してください。

KFXO42015-E : インデクスページのコンパクション処理において、作業領域上でコンパクションされたスロット領域の転送時、インデクスページの不正を検知しました。スロット領域の転送先オフセットがバッファの終端を越えています。又は、転送先オフセットにスロット領域長を加算した値がバッファの終端を越えています。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクスID = XX, ページID = XX, 転送先のオフセット値 = XX, スロット領域長 = XX

インデクスエリア名 :

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号 :

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID :

当該インデクスのインデクス ID

ページ ID :

不正を検知したページのページ ID

転送先のオフセット値 :

バッファの先頭アドレスからのオフセット

スロット領域長 :

転送しようとしたスロット領域の長さ

要因

インデクスページのコンパクション処理において、作業領域上でコンパクションされたスロット領域の転送時、インデクスページの不正を検知しました。スロット領域の転送先オフセットがバッファの終端を超えています。又は、転送先オフセットにスロット領域長を加算した値がバッファの終端を超えています。エラーの詳細情報（コンパクション用作業領域上のページ及びコンパクション前のキャッシュ上のページの内容）は、  
\$XODDIR/spool ディレクトリの下 の

pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42016-E：インデクスエントリの挿入処理において、インデクスページの不正を検知しました。インデクスエントリの転送先オフセットがバッファの終端を越えています。又は、転送先オフセットにインデクスエントリ長を加算した値がバッファの終端を越えています。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクスID = XX, ページID = XX, 転送先のオフセット値 = XX, インデクスエントリ長 = XX

インデクスエリア名：

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：

当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：

不正を検知したページのページ ID

転送先のオフセット値：

バッファの先頭アドレスからのオフセット

インデクスエントリ長：

転送しようとしたインデクスエントリのインデクスエントリ長

要因

インデクスエントリの挿入処理において、インデクスページの不正を検知しました。インデクスエントリの転送先オフセットがバッファの終端を超えています。又は、転送先オフセットにインデクスエントリ長を加算した値がバッファの終端を超えています。エラーの詳細情報は、\$XODDIR/spool ディレクトリの下 の pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42017-E：インデクスページのコンパクション処理において、作業領域上でコンパクションされたスロット領域の転送時、インデクスページの不正を検知しました。スロット領域の転送元の先頭アドレスがコンパクション用作業領域の先頭アドレス + Z C T 2 長未満です。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクスID = XX, ページID = XX, 転送先のオフセット値 = XX

インデクスエリア名：

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：

当該インデクスのインデクス ID



ページ ID :

不正を検知したページのページ ID

転送先のオフセット値 :

コンパクション用作業領域の先頭アドレスからスロット領域の転送元先頭アドレスまでのオフセット

要因

インデクスページのコンパクション処理において、作業領域上でコンパクションされたスロット領域の転送時、インデクスページの不正を検知しました。スロット領域の転送元先頭アドレスがコンパクション用作業領域先頭アドレス + ZCT 2 長未満です。エラーの詳細情報 (コンパクション用作業領域上のページ及びコンパクション前のキャッシュ上のページの内容) は、\$XODDIR/spool ディレクトリの下に pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42018-E : インデクスページのコンパクション処理において、作業領域上でコンパクションされたスロット領域の転送時、インデクスページの不正を検知しました。スロット領域の転送元先頭アドレスがバッファ先頭アドレス + ZCT 2 長未満です。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクスID = XX, ページID = XX, 転送先のオフセット値 = XX

インデクスエリア名 :

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号 :

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID :

当該インデクスのインデクス ID

ページ ID :

不正を検知したページのページ ID

転送先のオフセット値 :

バッファ先頭アドレスからスロット領域の転送元先頭アドレスまでのオフセット

要因

インデクスページのコンパクション処理において、作業領域上でコンパクションされたスロット領域の転送時、インデクスページの不正を検知しました。スロット領域の転送元先頭アドレスがバッファ先頭アドレス + ZCT 2 長未満です。エラーの詳細情報 (コンパクション用作業領域上のページ及びコンパクション前のキャッシュ上のページの内容) は、\$XODDIR/spool ディレクトリの下に pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42021-E : インデクス検索の次リーフページの検索処理において、水平ポインタが示す

## 付録K メッセージ

リーフページを入力した時、リーフページのページ種別が上位またはリーフでないか、またはレベルが1ではありません。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, インデクスID = XX, ポイント元ページID = XX, ポインタ種別 = XX, ポイント先ページID = XX, ページ種別 = XX, レベル = XX

### 要因

インデクス検索の次リーフページの検索処理において、水平ポインタが示すリーフページを入力した時、リーフページのページ種別が上位またはリーフでないか、またはレベルが1ではありません。

### 対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42022-E: インデクス検索開始エントリを求める処理でのルートページから検索対象のリーフページを求める処理において、上位ページのページ種別が上位またはリーフでないか、またはレベルが直前に入力したページのレベル - 1 ではありません。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, インデクスID = XX, ポイント元ページID = XX, ポインタ種別 = XX, ポイント先ページID = XX, ページ種別 = XX, レベル = XX

### 要因

インデクス検索開始エントリを求める処理でのルートページから検索対象のリーフページを求める処理において、上位ページのページ種別が上位またはリーフでないか、またはレベルが直前に入力したページのレベル - 1 ではありません。

### 対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42023-E: インデクス検索開始エントリを求める処理でのリーフページから検索対象のインデクスエントリのサーチ処理において、水平ポインタが示すリーフページを入力した時、リーフページのページ種別が上位またはリーフでないか、またはレベルが1ではありません。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, インデクスID = XX, ポイント元ページID = XX, ポインタ種別 = XX, ポイント先ページID = XX, ページ種別 = XX, レベル = XX

### 要因

インデクス検索開始エントリを求める処理でのリーフページから検索対象のインデクスエントリのサーチ処理において、水平ポインタが示すリーフページを入力した時、リーフページのページ種別が上位またはリーフでないか、またはレベルが1ではありません。

### 対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが

出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42024-E：インデクス検索の検索開始または再位置付け処理でのPID/OIDリストページの検索処理において、PID/OIDディレクトリページからポイントされるページのページ種別がPID/OIDリストページではありません。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, インデクスID = XX, ポイント元ページID = XX, ポインタ種別 = XX, ポイント先ページID = XX, ページ種別 = XX

#### 要因

インデクス検索の検索開始または再位置付け処理での PID/OID リストページの検索処理において、PID/OID ディレクトリページからポイントされるページのページ種別が PID/OID リストページではありません。

#### 対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42025-E：インデクス検索の次PID/OIDリストページの検索処理において、水平ポインタが示すページを入力した時、ページ種別がPID/OIDリストページではありません。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, インデクスID = XX, ポイント元ページID = XX, ポインタ種別 = XX, ポイント先ページID = XX, ページ種別 = XX

#### 要因

インデクス検索の次 PID/OID リストページの検索処理において、水平ポインタが示すページを入力した時、ページ種別が PID/OID リストページではありません。

#### 対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42026-E：インデクスメンテナンスのルートページからメンテナンス対象のリーフページを検索する処理において、上位ページのページ種別が上位またはリーフでないか、またはレベルが直前に入力したページのレベル - 1 ではありません。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, インデクスID = XX, ポイント元ページID = XX, ポインタ種別 = XX, ポイント先ページID = XX, ページ種別 = XX, レベル = XX

#### 要因

インデクス更新のルートページからメンテナンス対象のリーフページを検索する処理において、上位ページのページ種別が上位またはリーフでないか、またはレベルが直前に入力したページのレベル - 1 ではありません。

#### 対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存

してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42027-E: インデクスメンテナンスのルートページからメンテナンス対象のリーフページを検索する処理において、リーフページのページ種別が上位またはリーフでないか、またはレベルが1ではありません。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, インデクスID = XX, ポイント元ページID = XX, ポインタ種別 = XX, ポイント先ページID = XX, ページ種別 = XX, レベル = XX

**要因**

インデクス更新のルートページからメンテナンス対象のリーフページを検索する処理において、リーフページのページ種別が上位またはリーフでないか、またはレベルが1ではありません。

**対処**

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42028-E: インデクスメンテナンスのPID/OIDディレクトリページからメンテナンス対象のPID/OIDリストページを検索する処理において、PID/OIDディレクトリページの水平ポインタが示すページを入力した時、ページ種別がPID/OIDディレクトリページではありません。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, インデクスID = XX, ポイント元ページID = XX, ポインタ種別 = XX, ポイント先ページID = XX, ページ種別 = XX

**要因**

インデクス更新のPID/OIDディレクトリページからメンテナンス対象のPID/OIDリストページを検索する処理において、PID/OIDディレクトリページの水平ポインタが示すページを入力した時、ページ種別がPID/OIDディレクトリページではありません。

**対処**

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42029-E: インデクスメンテナンスのPID/OIDディレクトリページからメンテナンス対象のPID/OIDリストページを検索する処理において、PID/OIDディレクトリページからポイントされるページのページ種別がPID/OIDリストページではありません。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, インデクスID = XX, ポイント元ページID = XX, ポインタ種別 = XX, ポイント先ページID = XX, ページ種別 = XX

**要因**

インデクス更新のPID/OIDディレクトリページからメンテナンス対象のPID/OIDリストページを検索する処理において、PID/OIDディレクトリページからポイントされるページのページ種別がPID/OIDリストページではありません。

## 対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42031-E：インデクスマテナンスの重複PID/OIDエントリからPID/OIDを削除する処理において、PID/OIDディレクトリページのエントリポインタが指すPID/OIDリストページ内の総PID/OID数が0となったため、PID/OIDリストページを解放しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。エリア名=XX，エリア番号=XX，インデクスID=XX，ページID=XX，PID=XX，キー値=XX

エリア名：

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

エリア番号：

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：

当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：

当該ページのページ ID

PID：

物理オブジェクトの PID

キー値：

インデクスから削除しようとしたキー値（最大 80 文字の 16 進数。80 文字を超える場合は、前 80 文字を表示する）

## 要因

インデクスマテナンスの重複 PID/OID エントリから PID/OID を削除する処理で、PID/OID ディレクトリページのエントリポインタが指す PID/OID リストページ内の総 PID/OID 数が 0 となったため、PID/OID リストページを解放しようとしたが、当該ページのページ使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

## 対処

このメッセージで表示された内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42032-E：インデクスマテナンスの重複PID/OIDエントリからPID/OIDを削除する処理において、当該キー値の持つ総重複キー数が0となったため、PID/OIDリストページを解放しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。インデクスエリア名=XX，インデクスエリア番号=XX，インデクスID=XX，ページID=XX，PID=XX，キー値=XX

インデクスエリア名：

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID :

当該インデクスのインデクス ID

ページ ID :

当該ページのページ ID

PID :

物理オブジェクトの PID

キー値 :

インデクスから削除しようとしたキー値 (最大 80 文字の 16 進数。80 文字を超える場合は、前 80 文字を表示する)

要因

インデクスメンテナンスの重複 PID/OID エントリから PID/OID を削除する処理で、当該キー値の持つ総重複キー数が 0 となったため、PID/OID リストページを解放しようとしたが、当該ページのページ使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

対処

このメッセージで表示された内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42033-E : インデクスメンテナンスの重複PID/OIDエントリから PID/OIDを削除する処理において、当該キー値の持つ総重複キー数が0となったため、PID/OIDディレクトリページを解放しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクスID=XX, ページID=XX, PID=XX, キー値=XX

インデクスエリア名 :

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号 :

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID :

当該インデクスのインデクス ID

ページ ID :

当該ページのページ ID

PID :

物理オブジェクトの PID

キー値 :

インデクスから削除しようとしたキー値 (最大 80 文字の 16 進数。80 文字を超える場合は、前 80 文字を表示する)

要因

インデクスメンテナンスの重複 PID/OID エントリから PID/OID を削除する処理で、当該キー値の持つ総重複キー数が 0 となったため、PID/OID ディレクトリページを解放しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

対処

このメッセージで表示された内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42034-E：インデクスマンテナンスの重複PID/OIDエントリからPID/OIDを削除する処理において、当該キー値の持つ総重複キー数が0となったため、PID/OIDディレクトリページの垂直ポインタが指すPID/OIDリストページを解放しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。エリア名=XX，エリア番号=XX，インデクスID=XX，ページID=XX，PID=XX，キー値=XX

エリア名：

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

エリア番号：

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：

当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：

当該ページのページ ID

PID：

物理オブジェクトの PID

キー値：

インデクスから削除しようとしたキー値（最大 80 文字の 16 進数。80 文字を超える場合は、前 80 文字を表示する）

要因

インデクスマンテナンスの重複 PID/OID エントリから PID/OID を削除する処理で、当該キー値の持つ総重複キー数が 0 となったため、PID/OID ディレクトリページの垂直ポインタが指す PID/OID リストページを解放しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

対処

このメッセージで表示された内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42040-E：インデクスマンテナンスの重複キーエントリからPID/OIDを削除する処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長（8バイト）未満、又はページ長を越えています。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクスID = XX, ページID = XX, スロット番号 = XX, インデクスエントリ長 = XX

インデクスエリア名：

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：

当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：

不正を検知したページのページ ID

スロット番号：

不正を検知したスロットのスロット番号

インデクスエントリ長：

不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長

要因

インデクスメンテナンスの重複キーエントリから PID/OID を削除する処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長がインデクスエントリの最小長（8バイト）未満であるか、又はページ長を超えています。

対処

このメッセージで表示された内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42041-E：インデクスメンテナンスのインデクスエントリ削除処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長（8バイト）未満、又はページ長を越えています。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクスID = XX, ページID = XX, スロット番号 = XX, インデクスエントリ長 = XX

インデクスエリア名：

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：

当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：

不正を検知したページのページ ID

スロット番号：

不正を検知したスロットのスロット番号

インデクスエントリ長：

不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長

要因

インデクスメンテナンスのインデクスエントリ削除処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長がインデクスエントリの最小長（8バイト）未満であるか、又はページ長を超えています。

対処

このメッセージで表示された内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42042-E：インデクスメンテナンスのページスプリットでのスプリット前半部の作成処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長（8バイト）未満、又はページ長を越えています。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクスID = XX, ページID = XX, スロット番号 = XX, インデクスエントリ長 = XX



インデクスエリア名：

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：

当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：

不正を検知したページのページ ID

スロット番号：

不正を検知したスロットのスロット番号

インデクスエントリ長：

不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長

要因

インデクスメンテナンスのページスプリットでのスプリット前半部の作成処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長がインデクスエントリの最小長（8 バイト）未満であるか、又はページ長を超えています。

対処

このメッセージで表示された内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42043-E：インデクスメンテナンスのページスプリットでのスプリット後半部の作成処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長（8 バイト）未満、又はページ長を超えています。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクス ID = XX, ページ ID = XX, スロット番号 = XX, インデクスエントリ長 = XX

インデクスエリア名：

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：

当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：

不正を検知したページのページ ID

スロット番号：

不正を検知したスロットのスロット番号

インデクスエントリ長：

不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長

要因

インデクスメンテナンスのページスプリットでのスプリット後半部の作成処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長（8 バイト）未満、又はページ長を超えています。

対処

このメッセージで表示された内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42044-E：重複PID/OIDディレクトリ/リストページ作成のリーフエントリメンテナンス処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長（8バイト）未満，又はページ長を越えています。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクスID = XX, ページID = XX, スロット番号 = XX, インデクスエントリ長 = XX

インデクスエリア名：

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：

当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：

不正を検知したページのページ ID

スロット番号：

不正を検知したスロットのスロット番号

インデクスエントリ長：

不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長

要因

重複 PID/OID ディレクトリ / リストページ作成のリーフエントリメンテナンス処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長がインデクスエントリの最小長（8バイト）未満であるか、又はページ長を超えています。

対処

このメッセージで表示された内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42045-E：インデクスメンテナンスの重複キーエントリにPID/OIDを追加する処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長（8バイト）未満，又はページ長を越えています。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクスID = XX, ページID = XX, スロット番号 = XX, インデクスエントリ長 = XX

インデクスエリア名：

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：

当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：

不正を検知したページのページ ID

スロット番号：

不正を検知したスロットのスロット番号

インデクスエントリ長：

不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長

要因

インデクスメンテナンスの重複キーエントリに PID/OID を追加する処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長がインデクスエントリの最小長（8 バイト）未満であるか、又はページ長を超えています。

対処

このメッセージで表示された内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42046-E：回復処理中にインデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長（8バイト）未満、又はページ長を超えています。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクスID = XX, ページID = XX, スロット番号 = XX, インデクスエントリ長 = XX

インデクスエリア名：

当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：

当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：

当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：

不正を検知したページのページ ID

スロット番号：

不正を検知したスロットのスロット番号

インデクスエントリ長：

不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長

要因

回復処理中にインデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長がインデクスエントリの最小長（8 バイト）未満であるか、又はページ長を超えています。

対処

このメッセージで表示された内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42104E：重複インデクスのリーフエントリにサブPID/OIDを追加する時、不当にエントリ挿入不可エラーが発生しました。インデクスエリア名=XX， インデクスエリア番号=XX， インデクスID=XX， ページID=XX， 未使用エリア長=XX， 総空きエリア長=XX， 未使用領域長=XX， 追加エントリ長=XX

要因

重複インデクスのリーフエントリにサブ PID/OID を追加する時、不当にエント

り挿入不可エラーが発生しました。

対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42105-E: インデクスメンテナンスにおいて、インデクスとデータエリアの矛盾を検知しました。登録しようとしたPIDは既に存在します。 インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクスID=XX, データエリア名=XX, データエリア番号=XX, 物理タイプID=XX, PID=XX, キー値=XX

要因

インデクスの更新中に、インデクスとデータエリアの矛盾を検知しました。登録しようとした PID は既に存在します。エラーの詳細情報は \$XODDIR/spool ディレクトリの下での pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42106-E: インデクスメンテナンスにおいて、インデクスとデータエリアの矛盾を検知しました。削除しようとしたPIDがインデクスに存在しません。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクスID=XX, データエリア名=XX, データエリア番号=XX, 物理タイプID=XX, PID=XX, キー値=XX

要因

インデクスの更新中に、インデクスとデータエリアの矛盾を検知しました。削除しようとした PID がインデクスに存在しません。エラーの詳細情報は \$XODDIR/spool ディレクトリの下での pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42108-E: インデクスメンテナンスにおいて、インデクスとデータエリアの矛盾を検知しました。削除しようとしたキー値がインデクスに存在しません。 インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクスID=XX, データエリア名=XX, データエリア番号=XX, 物理タイプID=XX, PID=XX, キー値=XX

要因

インデクスの更新中に、インデクスとデータエリアの矛盾を検知しました。削

除しようとしたキーがインデクスに存在しません。エラーの詳細情報は \$XODDIR/spool ディレクトリの下での pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

**対処**

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42117-E : インデクスメンテナンスにおいて、インデクスページ間の矛盾を検知しました。上位ページに追加しようとしたキーが、既に上位ページに存在しています。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクスID=XX, ページID=XX, スロット番号=XX, キー値=XX

**要因**

インデクスの更新中に、インデクスページ間の矛盾を検知しました。上位ページに追加しようとしたキーが、既に上位ページに存在しています。

**対処**

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42119-E : 不正なジャーナルを検知しました。ファイル名=XX, 場所=YY

ファイル名 = エラーを検知したファイル名

場所 = ファイル中の行番号

**要因**

回復処理中に不正なジャーナルを検知しました。

**対処**

このメッセージで表示された内容を記録し、ジャーナルを保存してシステム管理者に連絡してください。

KFXO42120-E : ジャーナルの内容と D B の内容が合っていません。エリア名 = AA, エリア番号 = BB, インデクスID = CC, ページID = DD, ファイル名=EE, 場所=FF

エリア名 = 当該エリアのエリア名称

エリア番号 = 当該エリアのエリア番号

インデクス ID= 当該インデクスのインデクス ID

ページ ID= 当該ページのページ ID

ファイル名 = エラーを検知したファイル名

場所 = ファイル中の行番号

**要因**

回復処理中にジャーナルと DB の不整合を検知しました。

**対処**

アンロードジャーナルを使用して回復した場合は、指定したアンロードジャー

ナルが正しいか確認し、正しいアンロードジャーナルを指定して回復をやり直してください。全面回復、及び部分回復処理中に発生した場合は、このメッセージで表示された内容を記録し、ジャーナルと DB を保存してシステム管理者に連絡してください。

KFXO42121-E：インデクスのロールバック中にインデクスページが不足したためインデクスの回復ができません。インデクスを閉塞状態にします。エリア名 = AA, エリア番号 = BB, インデクスID = CC, 物理タイプID = DD

エリア名 = 当該インデクスの存在するインデクスエリア名

エリア番号 = 当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID = 当該インデクスのインデクス ID

物理タイプ ID = 物理オブジェクトの物理タイプ ID

要因

オブジェクトサーバの再開始時、トランザクションの異常終了時、及びデータベース回復ユティリティ (xodbkout コマンド) でのインデクスのロールバック処理中にインデクスページが不足したためファイル増分を試みたが失敗しました。

対処

データベース再編成ユティリティ (xodbreog コマンド) のインデクス再作成機能を使用してインデクス ID, 物理タイプ ID で示されたインデクスを再作成してください。エリア名で示されたものが OID インデクスの場合、オブジェクトの再編成機能を使用してください。オブジェクトの再編成機能を実行することで、OID インデクスが再作成されます。また、繰り返しこのエラーが発生しないように、ファイルシステム中に空きを十分確保するか、構成変更ユティリティ (xodfladd コマンド) によりエリアにファイルを追加しインデクスページを十分確保するか、最大割当量の指定を見直す必要があれば構成変更ユティリティ (xodflalt コマンド) により最大割当量を大きくしてください。

KFXO42124-I：データベースの入力エラーが発生したためエラー情報ファイルの編集出力処理を行いませんでした。エリア名=XX, エリア番号=XX, インデクスID=XX, ページID=XX, 詳細コード=XX

要因

データベースの入力エラーが発生したため当該ページのエラー情報ファイルの編集出力処理を行いませんでした。

KFXO42400-E：インデクス情報テーブルの不正を検知しました。インデクスエリア番号が不正です。インデクスエリア番号=XX, インデクスID=XX

要因

インデクスの更新中に、インデクス情報テーブルの不正を検知しました。インデクスエリア番号が不正です。

対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファ

イルも同時に保存してください。

KFXO42401-E : インデクス情報テーブルの不正を検知しました。インデクスIDが不正又は当該インデクスIDのインデクスは当該エリアに存在しません。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクスID=XX

**要因**

インデクス情報テーブルの不正を検知しました。インデクス ID が不正です。または、メッセージに示したインデクス ID のインデクスはこのエリアにありません。

**対処**

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42402-E : インデクス情報テーブルの不正を検知しました。キー長が1~255ではありません。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクスID=XX, キー長=XX

**要因**

インデクスの更新中に、インデクス情報テーブルの不正を検知しました。キー長が 1 ~ 255 ではありません。

**対処**

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42533-E : インデクスロードにおいて、ワークファイルから上位エントリレコードの入力時、インデクスIDの不正を検知しました。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, 処理中のインデクスID=XX, 入力したインデクスID=XX

インデクスエリア名 :

インデクスロード処理中のインデクスエリア名

インデクスエリア番号 :

インデクスロード処理中のインデクスエリア番号

処理中のインデクス ID :

インデクスロード処理中のインデクス ID

入力したインデクス ID :

上位エントリレコード中のインデクス ID

**要因**

ワークファイルから上位エントリレコードの入力時、処理しようとしたインデクス ID と入力したインデクス ID が不整合です。

**対処**

このメッセージで表示された内容を記録して、システム管理者に連絡してくだ

## 付録K メッセージ

さい。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42534-E：インデクスロードにおいて、ワークファイルから上位エントリレコードの入力時、直前のキーより昇順でないキー値を検出しました。インデクスエリア名=XX,インデクスエリア番号=XX,インデクスID=XX,直前のキー値=XX,入力したキー値=XX

インデクスエリア名：

インデクスロード処理中のインデクスエリア名

インデクスエリア番号：

インデクスロード処理中のインデクスエリア番号

インデクス ID：

インデクスロード処理中のインデクス ID

直前のキー値：

直前に入力した上位エントリレコード中のキー値

入力したキー値：

不正を検出したキー値

要因

ワークファイルから上位エントリレコードの入力時、直前のキーより昇順でないキー値を検出しました。

対処

このメッセージで表示された内容を記録し、システム管理者に連絡してください。またコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42535-E：インデクスロードにおいて、ワークファイル中の上位エントリレコード数が不正です。インデクスエリア名=XX,インデクスエリア番号=XX,インデクスID=XX,出力済みのレコード数=XX,入力したレコード数=XX

インデクスエリア名：

インデクスロード処理中のインデクスエリア名

インデクスエリア番号：

インデクスロード処理中のインデクスエリア番号

インデクス ID：

インデクスロード処理中のインデクス ID

出力済みのレコード数：

直前に出力した上位エントリレコード数

入力したレコード数：

入力した上位エントリレコード数

要因

直前に出力した上位エントリレコード数と入力した上位エントリレコード数が不一致です。

対処

このメッセージで表示された内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO43110-E：物理エリア中のページの更新カウンタが一致していません。エリア名=XX, エリア番号=XX, タイプID=XX, ページID=XX



**要因**

システム運用時、物理エリアの中のページ（データ/インデクス）の更新カウンタが一致していません。

**対処**

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO43111-E：スレーブディレクトリページ又はデータディレクトリページの更新カウンタが一致していません。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, ページID = XX

**エリア名：**

当該ページが存在する物理エリアの名称

**エリア番号：**

物理エリアの存在するエリア番号

**ページ ID：**

ページ ID

**要因**

システム運用時、スレーブディレクトリページ又はデータディレクトリページの更新カウンタが一致していません。

**対処**

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO43120-E：要求されたページ種別と、実際のページ種別が一致していません。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, タイプID = XX, ページID = XX

**要因**

要求されたページ種別と、実際にバッファに読み込んだページ種別が一致していません。

**対処**

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO43130-E：ページ中のエリア番号と、ページの存在するエリアが一致していません。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, タイプID = XX, ページID = XX

**要因**

ページ中のエリア番号と、ページのあるエリアが一致していません。

**対処**

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファ

## 付録K メッセージ

イルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO43140-E：ページ中のIDタイプ番号と、ページの存在する物理タイプが一致していません。エリア名=XX， エリア番号=XX， タイプID=XX， ページID=XX

### 要因

ページの中の ID タイプ番号と、ページのある物理タイプが一致していません。

### 対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO43150-E：ファイル中のページのページ番号が、ファイル中のページ位置と対応していません。エリア名=XX， エリア番号=XX， タイプID=XX， ページID=XX

### 要因

ファイルの中のページのページ番号が、ファイル中のページ位置と対応していません。

### 対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に、\$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO43160-E：ファイルに書き込もうとしたキャッシュ中のページの更新カウンタが一致していません。エリア名=XX， エリア番号=XX， タイプID=XX， ページID=XX

### 要因

ファイルに書き込もうとしたキャッシュ中のページの更新カウンタが一致していません。エラーの詳細情報は \$XODDIR/spool ディレクトリの下の pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

### 対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO43161-E：更新しようとしたキャッシュ中のページの更新カウンタが一致していません。エリア名=XX， エリア番号=XX， タイプID=XX， ページID=XX

エリア名：

当該ページが存在する物理エリア名

エリア番号：

物理エリアの存在するエリア番号

要因

更新しようとしたキャッシュ中のページの更新カウンタが一致していません。

対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO43162-E：更新した後のキャッシュ中のページの更新カウンタが一致していません。エリア名=XX，エリア番号=XX，タイプID=XX，ページID=XX

エリア名：

当該ページが存在する物理エリア名

エリア番号：

物理エリアの存在するエリア番号

要因

更新した後のキャッシュ中のページの更新カウンタが一致していません。

対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO43170-E：要求されたインデクスIDと、ページ中のインデクスIDが一致していません。エリア名=XX，エリア番号=XX，インデクスID=XX，ページID=XX

要因

要求されたインデクス ID と、ページ中のインデクス ID が一致していません。

対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO43180-E：データベースへの書き込み中にエラーが発生しました。OMSを停止します。

要因

データベースへの書き込み中にエラーが発生しました。

対処

直前に出力されているメッセージに従い、対策を行ってください。

KFXO43200-I：常駐ページプールの使用率が100%になりました。プール名=XX，用途=XX

プール名：

使用率が 100% になった常駐ページプール名

用途：

使用率が 100% になった常駐ページプールの用途

要因

常駐ページプールの使用率が 100% になりました。

対処

このメッセージを出力した後は、この常駐ページプールへの常駐処理はされませんが、処理を続行します。システム共通定義 (xodrc) の resiobj パラメタを

## 付録K メッセージ

追加した場合や、ユーザ数の増加など、連携プログラムの業務規模が当初の見積りより大きくなっている場合は、システム共通定義 (xodrc) の resipool パラメタの指定値を見直してください。

KFXO44120-E: 物理エリアオープン処理でエラーが発生したため、物理エリアがオープンできませんでした。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理エリア番号=XX, エラー番号=XX

エリア名:

エラーの発生したページがあるエリア名

物理エリアがマスタディレクトリの場合は、エリア名が表示されない場合があります。

エリア番号:

オープンしようとした物理エリアがあるエリアの番号

物理エリア番号:

オープンしようとした物理エリアの番号

エラー番号:

open() システムコールで返されたエラー番号

要因

open() システムコールで、エラー番号で示されたエラーが発生しました。このメッセージに続いてエラーの発生したファイル名が出力されます。

対処

エラー番号から原因を調べて、対策してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO44125-E: 物理エリアのファイルまたはパスが存在しないため、物理エリアがオープンできません。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, 物理エリア番号 = XX

エリア名:

オープンしようとした物理エリアがあるエリア名

エリア番号:

オープンしようとした物理エリアがあるエリアの番号

物理エリア番号:

オープンしようとした物理エリアの番号

要因

オープンしようとした物理エリアのファイル又はパスがありません。このメッセージに続いてエラーの発生したファイル名が出力されます。

対処

データベースをバックアップから回復してください。バックアップからの回復ができないとき、ユーザ用エリア又はインデクス用エリアの場合は、xodarint コマンドでエリアを再初期化してください。

KFXO44126-E: 物理エリアのファイルは存在しますが、サイズが0バイトです。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, 物理エリア番号 = XX

エリア名:

物理エリアのあるエリア名

エリア番号:

物理エリアのあるエリアの番号

物理エリア番号:

## 物理エリアの番号

## 要因

物理エリアのファイルサイズが何らかの原因で 0 バイトになっています。このメッセージに続いてエラーの発生したファイル名が出力されます。

## 対処

データベースをバックアップから回復してください。バックアップからの回復ができないとき、ユーザ用エリア又はインデクス用エリアの場合は、xodarint コマンドでエリアを再初期化してください。

KFXO44130-E: 物理エリアに対するアクセス権がないため、オープンすることができません。  
エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理エリア番号=XX

## エリア名:

エラーの発生したファイルがあるエリアの名称  
マスタディレクトリの場合は、エリア名が表示されない場合があります。

## エリア番号:

オープンしようとした物理エリアがあるエリアの番号

## 物理エリア番号:

オープンしようとした物理エリアの番号

## 要因

この物理エリア(ファイル)に対するアクセス権がないため、オープンできませんでした。

## 対処

物理エリア(ファイル)に対するアクセス権を見直し、再度実行してください。

KFXO44135-E: DB初期設定ユティリティが実行中、または、他のプロセスが物理エリアを使用中のため、オープンすることができません。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理エリア番号=XX

## エリア名:

エラーの発生したファイルがあるエリア名  
マスタディレクトリの場合は、エリア名が表示されない場合があります。

## エリア番号:

オープンしようとした物理エリアがあるエリアの番号

## 物理エリア番号:

オープンしようとした物理エリアの番号

## 要因

データベースの初期設定が実行中である、または他のプロセスがこの物理エリアを使用中であるため、オープンできませんでした。

## 対処

同時に実行中のプログラムを確認して、プログラムが終了した後に再実行してください。

KFXO44140-E: 物理エリア制御でエラーが発生しました。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理エリア番号=XX, エラー番号=XX

## エリア名:

エラーの発生したファイルがあるエリア名  
マスタディレクトリの場合は、エリア名が表示されない場合があります。

## 付録K メッセージ

エリア番号：

物理エリアの存在するエリア番号

物理エリア番号：

物理エリアの番号

エラー番号：

fcntl() システムコールで返されたエラー番号

要因

fcntl() システムコールで、エラー番号で示されたエラーが発生しました。

対処

エラー番号から原因を調べて対策してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO44150-E：割り当てセグメント数と物理エリアに割り当たっているセグメント数が一致していません。エリア名=XX， エリア番号=XX， 物理エリア番号=XX

エリア名：

エラーの発生したファイルがあるエリア名

マスタディレクトリの場合は、エリア名が表示されない場合があります。

エリア番号：

物理エリアのあるエリアの番号

物理エリア番号：

物理エリアの番号

要因

ディレクトリ及び共用メモリ上で管理している物理エリアの割り当てセグメント数（ページ数）と、実際の物理エリアに割り当てられているセグメント数（ページ数）が一致していません。使用中のデータベースを xodbinit コマンドで初期化した場合、オブジェクトサーバではこのエラーが発生します。

対処

オブジェクトサーバを再起動してください。初期化してはならないデータベースを誤って初期化した場合は、オブジェクトサーバを停止して、バックアップによりデータベースを回復した後で再起動してください。

KFXO45110-E：物理エリアの読み込みで、エラーが発生しました。エリア名=XX， エリア番号=XX， 物理エリア番号=XX， ページ番号=XX， エラー番号=XX

エリア名：

エラーの発生したページがあるエリア名

マスタディレクトリの場合は、エリア名が表示されない場合があります。

エリア番号：

物理エリアのあるエリア番号

物理エリア番号：

物理エリアの番号

ページ番号：

ページ番号

エラー番号：

read() システムコールのエラー番号

要因

read() システムコールで、エラーが発生しました。

対処

エラー番号から原因を調べて対策してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO45120-E：物理エリアの読み込みで、読み込みできたサイズと、ページ長とが一致していません。エリア名=XX， エリア番号=XX， 物理エリア番号=XX， ページ番号=XX

エリア名：

エラーの発生したページがあるエリア名  
マスタディレクトリの場合は、エリア名が表示されない場合があります。

エリア番号：

物理エリアがあるエリアの番号

物理エリア番号：

物理エリアの番号

ページ番号：

ページ番号

要因

実際に read() したサイズと、ページのサイズが一致していません。

対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO45130-E：物理エリアの書き込みで、エラーが発生しました。エリア名=XX， エリア番号=XX， 物理エリア番号=XX， ページ番号=XX， エラー番号=XX

エリア名：

エラーの発生したページがあるエリア名

エリア番号：

物理エリアがあるエリアの番号

物理エリア番号：

物理エリアの番号

ページ番号：

ページ番号

エラー番号：

write() システムコールのエラー番号

要因

write() システムコールで、エラーが発生しました。

対処

エラー番号から原因を調べて対策してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO46001-E：定義解析処理でメモリ不足が発生しました。

要因

定義解析処理中にメモリ不足が発生したため、処理を打ち切りました。

## 付録K メッセージ

### 対処

直前に出力されているメッセージに従って原因を取り除いて、オブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO46002-E：定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生しました。

### 要因

定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生したため、処理を打ち切りました。

### 対処

直前に出力されているメッセージに従って原因を取り除いて、オブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO46003-E：マスタディレクトリのファイル名の指定がありません。

### 要因

システム共通定義にマスタディレクトリのファイル名が指定されていないため、処理が続行できません。

### 対処

システム共通定義にマスタディレクトリのファイル名の定義 (dbm\_master) を追加して、オブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO46004-E：マスタディレクトリ用入力バッファ領域の確保時、メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX

### 要求サイズ：

確保しようとした領域長（単位：バイト）

### 要因

マスタディレクトリの入力バッファ領域を確保するときに、メモリ容量が不足したため、処理を続行できません。

### 対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてからオブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO46005-E：マスタディレクトリのオープンに失敗しました。エラー番号=XX

### 要因

マスタディレクトリのオープン時、open() システムコールでエラー番号で示すエラーが発生したため、処理を続行できません。オープンしようとしたファイル名は、このメッセージに続いて出力されます。

### 対処

システム共通定義の dbm\_master パラメタで指定されたマスタディレクトリのファイル名が正しいか (xodbininit コマンドでマスタディレクトリを作成するときに、このファイル名を指定したか)、及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中に存在するか確認し、又はエラー番号を参照して、エラーの原因を取り除いて、オブジェクトサーバを再起動してください。

エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO46006-E：マスタディレクトリの入力時、lseek()システムコールでエラーが発生しました。エラー番号=XX 制御ブロック名=XX



**要因**

マスタディレクトリ中の各制御ブロックの入力時、`lseek()` システムコールでエラー番号で示すエラーが発生したため、処理を続行できません。入力しようとしたファイル名は、このメッセージの後に出力されます。

**対処**

エラー番号に従って、エラーの原因を取り除いて、オブジェクトサーバを再起動してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO46007-E : マスタディレクトリの入力に失敗しました。エラー番号=XX 制御ブロック名=XX

**要因**

マスタディレクトリ中の各制御ブロックの入力時、`read()` システムコールでエラー番号で示すエラーが発生したため、処理を続行できません。入力しようとしたファイル名は、このメッセージの後に出力されます。

**対処**

エラー番号に従って、エラーの原因を取り除いて、オブジェクトサーバを再起動してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO46008-E : マスタディレクトリが初期化されていません。

**要因**

マスタディレクトリが初期化されていない又は正常終了していないため、処理を続行できません。又は、システム共通定義の `dbm_master` パラメタで指定したマスタディレクトリのファイル名は、マスタディレクトリでないか、マスタディレクトリの内容が不正である場合もあります。このメッセージに続いてシステム共通定義の `dbm_master` パラメタに指定されたマスタディレクトリのファイル名が出力されます。

**対処**

システム共通定義の `dbm_master` パラメタを見直してください。マスタディレクトリが不正な場合は、バックアップから回復してください。初期化されていない又は初期化が正常終了していない場合は、マスタディレクトリを `xodbinit` コマンドで初期化した後、オブジェクトサーバを再起動してください。このエラーが `xodbinit` コマンドの実行時に発生した場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO46009-E : マスタディレクトリへの出力に失敗しました。エラー番号=XX 制御ブロック名=XX

**エラー番号 :**

`write()` システムコールで返されたエラー番号

**制御ブロック名 :**

出力に失敗した制御ブロック名

**要因**

マスタディレクトリ中の各制御ブロックへの出力時、`write()` システムコールで、エラー番号に示すエラーが発生したため、処理が続行できません。出力しよう

としたファイル名は、このメッセージに続いて出力されます。

対処

エラー番号に従って、エラーの原因を取り除いて、オブジェクトサーバを再起動してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO46010-I：マスタディレクトリのクローズに失敗しました。エラー番号=XX

要因

マスタディレクトリのクローズ時、close() システムコールでエラー番号で示すエラーが発生しました。このメッセージに続いてマスタディレクトリのファイル名が出力されます。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO46011-E：共有メモリの確保時、メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX

要求サイズ：

確保しようとした領域長（単位：バイト）

要因

静的共用メモリの確保時、メモリ容量が不足したため、処理が続行できません。計算により得られた領域長がオーバーフローした場合、要求サイズに -1 を表示します。

対処

システム共通定義の static\_shmpool\_size を増やしてからオブジェクトサーバを再起動してください。構成変更コマンドでエリアを追加した場合、追加したエリア数分だけ static\_shmpool\_size の指定値を増やす必要があります。static\_shmpool\_size の指定値を増やせない場合及び要求サイズに -1 が表示された場合は、静的共用メモリの所要量を削減できるように、システム共通定義の定義値を見直して、変更してからオブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO46012-E：ローカルメモリの確保時、メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX

要求サイズ：

確保しようとした領域長（単位：バイト）

要因

ローカルメモリの確保時、メモリ容量が不足したため、処理が続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてからオブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO46013-E：ジャーナル使用開始処理時、メモリ不足が発生しました。

要因

ジャーナル使用開始処理でメモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてからオブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO46014-E：エリア情報の取得時に、エラーが発生しました。理由コード=XX エリア名=XX エリア番号=XX ファイル番号=XX

理由コード：

エラーの要因及びその内容

エリア名：

エラーが発生したエリア名

ファイルがマスタディレクトリの場合、エリア名が表示されない場合がある。

エリア番号：

エラーが発生したエリア番号

( 1 : マスタディレクトリ その他 : ユーザ情報 )

ファイル番号：

エラーが発生したファイル番号

要因

エリア情報の取得時に、理由コードで示すエラーが発生したため、処理を続行できません。このメッセージの後に、エラーが発生したファイル名が出力されます。

対処

原因を取り除いて、オブジェクトサーバを再起動してください。次に理由コードを示します。

| 理由コード | 内容                      | 対処                                                                                                                                          |
|-------|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 41004 | マスタディレクトリの内容が不正です       | xodbinit コマンドが正常終了しているか確認してください。正常に終了していた場合は、データベースをバックアップから回復してください                                                                        |
| 41005 | スレイブディレクトリの内容が不正です      | xodbinit コマンドが正常終了しているか確認してください。正常に終了していた場合は、データベースをバックアップから回復してください。バックアップからの回復ができない場合、ユーザ用エリア又はインデクス用エリアの場合は、xodarint コマンドでエリアを再初期化してください |
| その他   | オブジェクトサーバの内部にエラーが発生しました | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください                                                                                                                 |

KFXO46018-E : ジャーナルサーバのサービス情報取得に失敗しました。理由コード=XX

理由コード：

エラーの原因を示す

要因

ジャーナルサーバのサービス情報取得時、理由コードで示すエラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

理由コードから原因を取り除いて、オブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO46019-E : 格納制御のプロセス初期化処理で、メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX

要求サイズ：

確保しようとした領域長 ( 単位 : バイト )

要因

格納制御のプロセス初期化処理でメモリ不足が発生したため、処理を続行できません。

対処

## 付録K メッセージ

不要なプロセスを終了させるか又はシステムのメモリサイズを増やして、オブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO46020-E：格納制御定義解析処理で、メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX

### 要因

格納制御定義解析処理で、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

### 対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてからオブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO46021-E：グローバルキャッシュ名が重複しています。グローバルキャッシュ名=XX

### 要因

システム定義ファイルの gcache パラメタで指定したグローバルキャッシュ名が重複しているため、処理が続行できません。

### 対処

システム定義ファイルの gcache パラメタのグローバルキャッシュ名が重複しないように定義し直してオブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO46022-E：グローバルキャッシュの用途が重複しています。グローバルキャッシュの用途=XX

### 要因

システム定義ファイルの gcache パラメタで指定したグローバルキャッシュの用途が重複しているため、処理が続行できません。

### 対処

システム定義ファイルの gcache パラメタのグローバルキャッシュの用途が重複しないように定義し直して、オブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO46023-E：常駐ページプール名が重複しています。常駐ページプール名=XX

常駐ページプール名：

重複している常駐ページプール名

### 要因

システム共通定義ファイル中の resipool パラメタで指定した常駐ページプール名が重複しているため、処理が続行できません。

### 対処

システム共通定義ファイル中の resipool パラメタで指定した常駐ページプール名を他と重複しないように指定し直して、オブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO46024-E：常駐ページプールの用途が重複しています。常駐ページプールの用途=XX

常駐ページプールの用途：

重複している常駐ページプールの用途

### 要因

システム共通定義ファイル中の resipool パラメタで指定した常駐ページプールの用途が重複しているため、処理が続行できません。

### 対処

システム共通定義ファイル中の resipool パラメタで指定した常駐ページプールの用途を他と重複しないように指定し直して、オブジェクトサーバを再起動し

てください。

KFXO46025-E : グローバルキャッシュ名の指定がありません。ファイル名=XX 行番号=XX

**要因**

ファイル名に示されるシステム定義ファイルの gcache パラメタに、グローバルキャッシュ名の定義 (-n オペランド) がないため、処理が続行できません。

**対処**

エラーのあった gcache パラメタにグローバルキャッシュ名の定義 (-n オペランド) を追加し、オブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO46026-E : グローバルキャッシュの用途の指定がありません。ファイル名=XX, 行番号=XX

**要因**

ファイル名に示されるシステム定義ファイルの gcache パラメタに、グローバルキャッシュの用途の定義 (-u オペランド) がないため、処理が続行できません。

**対処**

エラーのあった gcache パラメタにグローバルキャッシュの用途の定義 (-u オペランド) を追加し、オブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO46027-E : 常駐ページプール名の指定がありません。ファイル名=XX, 行番号=XX

**ファイル名 :**

エラーの発生したシステム定義ファイルの名称

**行番号 :**

エラーの発生した resipool パラメタのある行番号

**要因**

ファイル名で示すシステム共通定義ファイル中の resipool パラメタの定義に常駐ページプール名の定義 (-n オペランド) がないため、処理が続行できません。

**対処**

エラーのあったシステム共通定義ファイル中の resipool パラメタに常駐ページプール名の定義 (-n オペランド) を追加して、オブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO46028-E : 常駐ページプールの用途の指定がありません。ファイル名=XX, 行番号=XX

**ファイル名 :**

エラーの発生したシステム定義ファイルの名称

**行番号 :**

エラーの発生した resipool パラメタのある行番号

**要因**

ファイル名で示すシステム共通定義ファイル中の resipool パラメタの定義に常駐ページプールの用途の定義 (-u オペランド) がないため、処理が続行できません。

**対処**

エラーのあったシステム共通定義ファイル中の resipool パラメタに常駐ページプールの用途の定義 (-u オペランド) を追加して、オブジェクトサーバを再起動してください。

## 付録K メッセージ

KFXO46029-E：常駐ページプールの面数の指定がありません。ファイル名=XX，行番号=XX

ファイル名：

エラーの発生したシステム定義ファイルの名称

行番号：

エラーの発生した resipool パラメタのある行番号

要因

ファイル名で示すシステム共通定義ファイル中の resipool パラメタの定義に常駐ページプールの面数の定義（-m オペランド）がないため、処理が続行できません。

対処

エラーのあったシステム共通定義ファイル中の resipool パラメタに常駐ページプールの面数の定義（-m オペランド）を追加して、オブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO46030-E：全面回復処理中にシステム制御ジャーナル入力処理でエラーが発生しました。

要因

全面回復処理中にシステム制御ジャーナル入力処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従い、対策を行ってください。

KFXO46031-E：全面回復処理中にデータベースのロールフォワード処理でエラーが発生しました。

要因

全面回復処理中にデータベースのロールフォワード処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従い、対策を行ってください。

KFXO46032-E：全面回復処理中にデータベースのロールバック処理でエラーが発生しました。

要因

全面回復処理中にデータベースのロールバック処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って、対策してください。

KFXO46035-E：バックグラウンドライトプロセスの起動に失敗しました。理由コード=XX

理由コード：

エラーの要因を示す

要因

バックグラウンドライトプロセスの起動時に理由コードで示すエラーが発生しました。

対処

理由コードからエラーの要因を取り除いて、オブジェクトサーバを再起動してください。

| 理由コード | 内容                         | 対処                              |
|-------|----------------------------|---------------------------------|
| -1800 | ステータス書き込みエラー               | 直前に出力されているメッセージに従い、対策を行ってください。  |
| -1802 | バックグラウンドライトプロセスの定義解析エラー    | 直前に出力されているメッセージに従い、対策を行ってください。  |
| -1803 | 起動中にバックグラウンドライトプロセスがダウンした。 | 直前に出力されているメッセージに従い、対策を行ってください。  |
| -1851 | プロセス間通信エラー                 | 直前に出力されているメッセージに従い、対策を行ってください。  |
| その他   | -                          | 本メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。 |

KFXO46039-E：部分回復処理中にシステム制御ジャーナル入力処理でエラーが発生しました。  
理由コード=XX

理由コード：

エラーの原因を示す

要因

部分回復処理中にシステム制御ジャーナル入力処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従い、対策を行ってください。

KFXO46040-E：部分回復処理中にデータベースのロールバック処理でエラーが発生しました。  
理由コード=XX

理由コード：

エラーの原因を示す

要因

部分回復処理中にデータベースのロールバック処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従い、対策を行ってください。

KFXO46041-E：最大追加エリア数を超えたため、エリア追加を回復できません。エリア名=XX,  
エリア番号=YY

エリア名：

エリア追加の回復ができなかったエリア名

エリア番号：

エリア追加の回復ができなかったエリアの番号

要因

データベースの回復に使用したバックアップの取得以降に追加されたエリアの数が、システム共通定義の `add_area_limit` で指定した最大追加エリア数を超えていたため、エリア追加を回復できません。

対処

構成変更ユティリティ (`xodaradd` コマンド) の処理結果 (`xodresult` ファイル) から、データベースの回復に使用したバックアップの取得以降に追加したユーザ用、インデクス用エリアの数を確認し、システム共通定義の `add_area_limit` を見直す。そして、データベース回復ユティリティ (`xodbrstr`) の再実行後、シ

## 付録K メッセージ

ステム共通定義の `add_area_limit` を追加したエリア数以上に変更し、オブジェクトサーバを再起動しデータベース回復ユティリティ（`xodbrecv` コマンド、`xodbkout` コマンド）を実行する。

KFXO46042-E：全面回復処理中にFJ通番不正を検知しました。

### 要因

全面回復処理中に FJ 通番不正を検知しました。

### 対処

本メッセージ、及び本メッセージの次に出力されたメッセージの内容を記録し、データベースとジャーナルを保存してシステム管理者に連絡してください。

KFXO46043-E：ジャーナルにより回復しようとしたページがDB中にありません。エリア名 = XX, エリア番号 = YY, ページID = ZZ

### エリア名：

当該エリアのエリア名称

### エリア番号：

当該エリアのエリア番号

### ページ ID：

当該ページのページ ID

### 要因

ジャーナルにより回復しようとしたページが DB 中にありません。

### 対処

本メッセージ、及び本メッセージの次に出力されたメッセージの内容を記録し、データベースとジャーナルを保存してシステム管理者に連絡してください。

KFXO46044-E：データベースとジャーナルの不整合を検知しました。

### 要因

データベースとジャーナルの不整合が発生しました。

### 対処

不整合を検知した後、オブジェクトサーバが異常終了しなかった場合は、強制正常開始モードでオブジェクトサーバを起動してください。

不整合を検知した後、オブジェクトサーバが異常終了した場合は、回復ユティリティ実行モードで起動してください。異常終了時に強制正常開始モードで起動すると、回復ユティリティを実行しないで再起動するため、データベースが壊れる可能性があります。

オブジェクトサーバを再起動した後、不適切なバックアップからデータベースをリストアしたり、誤ってシステムをリランしていないか確認してください。それでも不整合が生じる場合は、データベースとジャーナルを保存してシステム管理者に連絡してください。

KFXO46990-I：ジャーナル種別=AA, ジャーナル識別子=BB, ジャーナルレコード番号=CC, ジャーナル取得日時=DD

### ジャーナル種別：

更新ジャーナルの種別を示すコード

次のどれかが表示されます。

F：DB 更新ジャーナル



C : メモリ更新ジャーナル

上記以外 : 上記以外のジャーナル

ジャーナル識別子 :

ジャーナルを取得した処理を識別するコード ( 5 けた以内の 1 0 進数 )

ジャーナルレコード番号 :

ジャーナルレコード番号 ( 10 けた以内の 10 進数 )

ジャーナル取得日時 :

yy-mm-dd hh:mm:ss

( 西暦の下 2 けた - 月 - 日 時 : 分 : 秒 )

要因

このメッセージの前に出力されたメッセージに関連のあるジャーナルの詳細情報を表示します。要因についてはこのメッセージの前に出力されているメッセージを参照してください。

KFXO46998-E : 指定されたマスタディレクトリは、Bibliotheca/OMで初期化されたものです。

要因

システム共通定義の dbm\_master で指定されたマスタディレクトリは、Bibliotheca/OM ( バージョン 01-02 以前 ) の xodbinit で初期化されたものです。なお、このメッセージに続いてマスタディレクトリのファイル名が出力されます。

対処

環境変数 XODCONFPATH 及び PATH の値、システム共通定義の dbm\_master の指定を修正して、オブジェクトサーバを再起動してください。誤ってマスタディレクトリを Bibliotheca/OM の xodbinit で初期化していた場合は、オブジェクトサーバの xodbinit で初期化して、オブジェクトサーバを再起動してください。

KFXO46999-E : OMS格納制御が異常を検知しました。理由コード=XX 詳細コード=XX ファイル名=XX 場所=XX

理由コード :

エラーの要因及びその内容

詳細コード :

エラーとなった関数のエラーコード

ファイル名 :

アボートしたファイル名

場所 :

ファイル中の行番号

要因

データベースが不正です。又はオブジェクトサーバ格納制御で内部矛盾を検知しました。

対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときはコアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存し

## 付録K メッセージ

てください。

KFXO50000-I : DB初期設定ユティリティを開始します。

要因

xodbinit コマンドを開始したときに出力されます。

KFXO50002-E : ノードIDが不正な値です。

要因

ノード ID に半角数字 (0 ~ 9) 以外の値を指定しています。

対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO50003-E : ノードIDが指定すべき範囲を越えています。最小値 : XX 最大値 : XX

要因

ノード ID は 1 以上 16382 以下の値を指定しなければなりません。

対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO50004-E : 引数の指定に誤りがあります。

要因

xodbinit コマンドの引数が正しく指定されていません。

対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO50005-E : 使用方法 : xodbinit [ -n ノードID ] -f ファイル名

要因

xodbinit コマンドの引数が正しく指定されていません。

対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO50006-E : 領域の確保に失敗しました。

要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再実行してください。

KFXO50007-E : 現在時刻の取得に失敗しました。エラーコード : XX

要因

システムコールの time() の引数が不正のためエラーが発生しました。

対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、再実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO50008-E : ディクショナリ定義中にエラーが発生しました。エラーコード : XX 詳細コード : XX

要因

ディクショナリ定義中にエラーが発生しました。

対処

次に、各エラーコードに対する対処を示します。

| エラーコード | 対処                                                                                      |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 46200  | このエラーメッセージより前に出力されたエラーメッセージで示された障害を取り除いて、再実行してください                                      |
| 45110  | このエラーメッセージより前に出力されたエラーメッセージで示された障害を取り除いて、再実行してください。詳細コードはシステムコールの read() で発生したエラーコードです  |
| 45130  | このエラーメッセージより前に出力されたエラーメッセージで示された障害を取り除いて、再実行してください。詳細コードはシステムコールの write() で発生したエラーコードです |
| 45120  | このエラーメッセージより前に出力されたエラーメッセージで示された障害を取り除いて、再実行してください                                      |
| 44120  | このエラーメッセージより前に出力されたエラーメッセージで示された障害を取り除いて、再実行してください。詳細コードはシステムコールの open() で発生したエラーコードです  |
| 44140  | このエラーメッセージより前に出力されたエラーメッセージで示された障害を取り除いて、再実行してください。詳細コードはシステムコールの fcntl() で発生したエラーコードです |
| 41014  | マスタディレクトリ又はデータディレクトリの容量を大きくして、再実行してください。どちらの容量が不足しているかは、このエラーメッセージより前のエラーメッセージを参照してください |
| 40402  | OID インデクスの容量を大きくして、再実行してください                                                            |
| 40401  | ディクショナリの容量を大きくして、再実行してください                                                              |
| その他    | 他の OMS を起動中でないことを確認して、再実行してください                                                         |

KFXO50009-E：エリアの定義が不足しています。

要因

必須のエリアが定義されていません。

対処

初期設定パラメタファイルを見直し、不足しているエリアを定義してください。そして、再実行してください。

KFXO50010-E：ファイルの定義が不足しています。エリア名：XX

要因

エリアに対応するファイルが定義されていません。

対処

初期設定パラメタファイルを見直し、メッセージに表示されたエリアに対応するファイルを定義してください。そして、再実行してください。

KFXO50100-E：ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

要因

ファイルをオープンしようとしたとき、システムコールの open() でエラーが発生しました。次の要因が考えられます。

- ファイル名中に指定されているパスがファイルシステムに存在しない(エラーコード 2)

- アクセス中のファイルが削除されました。
- オープンしているファイルを、再度オープンしようとしてしました。

対処

エラー番号に従って、エラーの要因を取り除いてから、再実行してください。  
エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO50103-E : ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : XX

要因

ファイルに書き込みをしようとしたとき、システムコールの `write()` でエラーが発生しました。

対処

エラー番号を参照して、エラーの要因を取り除いてから、再実行してください。  
エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO50104-E : ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名 : XX

ファイル名 :

書き込みに失敗したファイルのファイル名

要因

ファイルに書き込みをする時、記憶媒体の最大容量を上回るバイト数の書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。システムコールの `ulimit()` を使用して、プロセスで書き込めるファイルの限界を設定している場合、その限界より多いバイトの書き込みを要求したときもこのエラーになります。

対処

不要なファイルを削除して、空き領域を作成してください。

KFXO50105-E : ファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : XX

要因

ファイルの読み込みをしようとした時、システムコールの `read()` でエラーが発生しました。

対処

エラー番号を参照して、エラーの要因を取り除いてから、再実行してください。  
エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO50107-E : ファイルが既に存在しています。ファイル名 : XX

要因

ファイルをオープンしようとした時、既に同じ名称のファイルがありました。  
`xodbnit` コマンドが割り込みなどで強制終了したとき、初期化の途中のファイルが残っている場合があるために、このエラーになることがあります。

対処

既存のファイルを削除又は移動するか、あるいは使用していない別のファイル名を指定して、再実行してください。

KFXO50108-E : ファイルの削除に失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : XX

**要因**

xodbininit コマンド実行中に生成したファイルを削除するときに、システムコールの `unlink()` でエラーが発生しました。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

**対処**

エラーコードを参照して、エラーの要因を取り除いてから、`xodbininit` コマンドを再実行してください。

KFXO50109-E : ファイルのロックに失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : XX

**要因**

ファイルに対して書き込みロックをしようとした時、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

**対処**

エラー番号を参照して、エラーの要因を取り除いてから、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO50110-E : ファイルのロック解除に失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : XX

**要因**

ファイルに対して書き込みロックの解除をしようとしたとき、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

**対処**

エラー番号を参照して、エラーの要因を取り除いてから、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO50111-E : ファイルフラグの設定に失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : XX

**要因**

ファイルに対して同期書きのためのファイルフラグを設定しようとしたとき、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

**対処**

エラー番号を参照して、エラーの要因を取り除いてから、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO50112-E : ファイルフラグの解除に失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : XX

**要因**

ファイルの同期書きのためのファイルフラグを解除しようとしたとき、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

**対処**

エラー番号を参照して、エラーの要因を取り除いてから、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO50113-E : これ以上ファイルをオープンできません。

**要因**

一つのプロセスでオープンできるファイルの最大数 100 を超えたのでオープン

## 付録K メッセージ

できませんでした。

(オープンしたファイルは書き込みが終了した後、必ずクローズしています。しかし、クローズエラーになった場合には、処理が継続されて、オープンしたままのファイルが発生することがあります。そのようなファイルが、100を超えた場合にこのメッセージが出力されます)。

対処

再実行してください。

KFXO50114-E: ファイルステータスの取得に失敗しました。ファイル名: XX エラーコード: XX

要因

ファイルのステータスを取得しようとしたとき、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

対処

エラー番号を参照して、エラーの要因を取り除いてから、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO50115-E: ファイルポインタの移動に失敗しました。ファイル名: XX エラーコード: XX

要因

ファイルポインタの移動をしようとしたとき、システムコールの `lseek()` でエラーが発生しました。

対処

エラー番号を参照して、エラーの要因を取り除いてから、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO50200-E: ユーザ用、インデクス用エリアの合計が最大数を超えています。最大数: XX

要因

初期設定パラメタファイルに定義されたユーザのエリアとインデクスのエリアの合計数が 3174 個を超えています。

対処

ユーザ用、インデクス用エリア数の合計を 3174 個以下に定義し直して、再実行してください。

KFXO50201-E: エリア名が重複しています。エリア名: XX

要因

初期設定パラメタファイルに定義されたエリア名が重複しています。

対処

エリア名が重複しないように定義し直して、再実行してください。

KFXO50202-E: エリア数が最大数を超えています。エリア名: XX 用途: XX 最大数: XX

要因

初期設定パラメタファイルに定義されたエリアの定義数が最大値を超えています。

対処

該当するエリアの定義数を最大値以下に定義し直して、再実行してください。

KFXO50203-E : エリアの定義順序が不正です。エリア名 : XX

要因

初期設定パラメタファイルに定義されたエリアの定義順序が不正です。

対処

初期設定パラメタファイルに定義順序に従ってエリアを定義して、再実行してください。

KFXO50204-E : areaコマンドが定義されていません。

要因

初期設定パラメタファイルに、エリアを定義するための area パラメタが定義されていません。

対処

初期設定パラメタファイルに area パラメタによってエリアを定義して、再実行してください。

KFXO50205-E : 1エリア中のファイル数が最大数を超過しています。エリア名 : XX 最大数 : XX

要因

初期設定パラメタファイルに、一つのエリアの中のファイル数が最大数 16 を超えて定義されています。

対処

一つのエリアの中のファイル数が最大数以下になるように定義し直して、再実行してください。

KFXO50206-E : ファイル名が重複しています。エリア名 : XX ファイル名 : XX

要因

初期設定パラメタファイルに定義したファイル名が重複しています。

対処

ファイル名が重複しないように定義し直して、再実行してください。

KFXO50208-E : areaコマンドのオプションが定義されていません。エリア名 : XX オプション : XX

要因

初期設定パラメタファイルに定義した area パラメタのオプションが定義されていません。

対処

area パラメタのオプションを定義して、再実行してください。

KFXO50209-E : fileコマンドのオプションが定義されていません。ファイル名 : XX オプション : XX

要因

初期設定パラメタファイルに定義した file パラメタのオプションが定義されていません。

対処

file パラメタのオプションを定義して、再実行してください。

KFXO50211-E : セグメントサイズと初期割当量を掛けた値が最大値を超過しています。エリア

## 付録K メッセージ

名 : XX ファイル名 : XX 最大値 : XX

### 要因

初期設定パラメタファイルに定義したエリアのセグメントサイズとファイルの初期割当量の積が最大値を超えています。

### 対処

セグメントサイズと初期割当量を見直して、再実行してください。

KFXO50212-E : XX番目のareaコマンドのオプションが定義されていません。オプション : XX

### 要因

初期設定パラメタファイルに定義したエリアのオプションが定義されていません。

### 対処

area パラメタにオプションを定義して、再実行してください。

KFXO50213-E : エリア名 <XX > のXX番目のfileコマンドのオプションが定義されていません。  
オプション : XX

### 要因

初期設定パラメタファイルに定義したファイルのオプションが定義されていません。

### 対処

file パラメタにオプションを定義して、再実行してください。

KFXO50214-E : 最大割当量が初期割当量より大きく定義されていません。エリア名 : XX ファイル名 : XX

### 要因

初期設定パラメタファイルに定義した最大割当量が初期割当量より大きく定義されていません。

### 対処

最大割当量に初期割当量より大きい値を指定して、再実行してください。

KFXO50215-E : セグメントサイズと最大割当量を掛けた値が最大値を超えています。エリア名 : XX ファイル名 : XX 最大値 : XX

### 要因

初期設定パラメタファイルに定義したエリアのセグメントサイズとファイルの最大割当量の積が最大値を超えています。

### 対処

セグメントサイズと最大割当量を見直して、再実行してください。

KFXO50216-E : ファイル名の長さが定義範囲を超えています。エリア名 : XX ファイル名 : XX 最小値 : XX 最大値 : XX

### 要因

初期設定パラメタファイルのファイル名の長さが、定義できる範囲を超えています。

### 対処

ファイル名の長さを定義できる範囲で定義し直して、再実行してください。

KFXO50217-E : 定義されたファイル名が ' / ' から始まっていません。エリア名 : XX ファイル名 : XX



## 要因

初期設定パラメタファイルのファイル名が '/' で始まっていません。

## 対処

ファイル名を '/' からパス名付きで定義し直して、再実行してください。

KFXO50220-W : ジャーナルファイルの削除に失敗しましたが、処理を続行します。エラーコード : XX

## 要因

ジャーナルファイルを削除しようとしたとき、システムコールの unlink() でエラーが発生しました。

## 対処

ジャーナルファイルを削除してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO50221-E : ファイルのサイズが最大値を超えます。エリア名 : XX ファイル名 : XX  
ファイルサイズ : XXKB 最大値 : XXKB

## エリア名 :

ファイルサイズが最大値を超えるファイルを定義してあるエリアのエリア名

## ファイル名 :

ファイルサイズが最大値を超える定義がしてあるファイルのファイル名

## ファイルサイズ :

初期設定パラメタファイルに定義してあるセグメントサイズと初期割り当て量から計算されたファイルサイズ (単位 : キロバイト)

## 最大値 :

ファイルサイズの最大値 (単位 : キロバイト)

## 要因

初期設定パラメタファイルに定義してあるエリアのセグメントサイズとファイルの初期割り当て量から計算されるファイルサイズが、最大値を超えています。ファイルサイズの計算式は、「7.5 初期設定パラメタファイル」を参照してください。

## 対処

セグメントサイズと初期割当量を見直して、再実行してください。

KFXO50300-I : DB初期設定ユティリティが正常終了しました。

## 要因

xodbinit コマンドが正常終了しました。

KFXO50301-E : DB初期設定ユティリティが異常終了しました。再起動してください。

## 要因

このエラーメッセージより前に出力されたエラーに示す原因で、xodbinit コマンドが異常終了しました。

## 対処

このエラーメッセージより前に出力されたエラーに対処した後で、再起動してください。

KFXO50997-I : シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

## 要因

## 付録K メッセージ

割り込みキー及び中断キーが押されたか kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

### 対処

オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル xodresult 中に出力された KFXO50300-I メッセージが出力されていない場合、必要であれば再実行してください。

KFXO51000-I : DB回復中です。

### 要因

DB 回復を開始した時に出力されます。

KFXO51006-E : 領域の確保に失敗しました。

### 要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

### 対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再実行してください。

KFXO51100-E : ジャーナルファイルのオープンに失敗しました。エラーコード : XX

### 要因

ファイルをオープンしようとした時、システムコールの open() でエラーが発生しました。

### 対処

エラーコードが示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO51103-E : ジャーナルファイルの書き込みに失敗しました。status : XX エラーコード : YY

### status :

トランザクション ID を示す

### 要因

ファイルに書き込みをしようとした時、システムコールの write() でエラーが発生しました。

### 対処

エラーコードが示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO51104-E : ジャーナルファイルの書き込みに失敗しました。物理エリア名 : XX ページ番号 : YY エラーコード : ZZ

### 要因

ファイルに書き込みをしようとした時、システムコールの write() でエラーが発生しました。

### 対処

エラーコードが示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO51105-E : ジャーナルファイルの読み込みに失敗しました。エラーコード : XX

### 要因

ファイルの読み込みをしようとした時、システムコールの read() でエラーが発

生しました。

対処

エラーコードが示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO51106-E : ジャーナルファイルの情報取得に失敗しました。エラーコード : XX

要因

ファイル情報を取得しようとした時、システムコールの `stat()` でエラーが発生しました。

対処

エラーコードが示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO51107-E : ジャーナルファイルの書き込みに失敗しました。

要因

ファイルに書き込みをする時、残っている領域又は記憶媒体の最大容量を上回るバイト数の書き込み要求をしたため、要求バイト数書き込めませんでした。

対処

不要なファイルを削除して、空き領域を作成してください。

KFXO51108-E : ジャーナルファイルの切捨てに失敗しました。status : XX エラーコード : XX

status :

トランザクション ID

エラーコード :

システムコールの `SetEndOfFile()` で発生したエラーコード

要因

ファイルを切捨てしようとしたとき、システムコールの `SetEndOfFile()` でエラーが発生しました。

対処

エラーコードからエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO51115-E : ジャーナルファイルのポインタの移動に失敗しました。エラーコード : XX

要因

ファイルポインタの移動をしようとした時、システムコールの `lseek()` でエラーが発生しました。

対処

エラーコードが示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO51116-W : ジャーナルファイルのバックアップ取得に失敗しましたが、処理を続行します。エラーコード : XX

要因

システムコールの `system()` で、エラーが発生しました。

対処

ジャーナルファイルのバックアップを取得してください。

KFXO51117-W : ジャーナルファイルの削除に失敗しましたが、処理を続行します。エラーコード : XX

要因

ジャーナルファイルの削除をしようとした時、システムコールの `unlink()` で、

## 付録K メッセージ

エラーが発生しました。

対処

ジャーナルファイルを削除してください。

KFXO51118-W: ジャーナルファイルのバックアップ取得に失敗しましたが、処理を続行します。

要因

システムコールの system() の cp で、エラーが発生しました。ジャーナルファイルのバイト数が残りの記憶媒体の容量を上回ったため、バックアップが取得できなかった可能性があります。

対処

残りの記憶媒体のバイト数を調べて空き領域を作成し、ジャーナルファイルのバックアップを取得してください。

KFXO51140-I: 前回の起動時に設定したジャーナルファイルはXXです。

XX:

前回のジャーナルファイル名

要因

簡易ジャーナルファイルの設定が変更されています。

KFXO51141-I: 前回のジャーナルファイルはありません。ファイル名: XX

XX:

前回のジャーナルファイル名

要因

前回のジャーナルファイルがないときに出力されます。

KFXO51142-E: 前回の起動時に設定したジャーナルファイル中に、回復しなければならないジャーナルが存在しています。前回設定ジャーナルファイル名: XX

XX:

前回の起動時に設定したジャーナルファイル名

要因

ジャーナルの出力先ファイル名が定義によって変更されましたが、前回の起動時に設定したジャーナルファイル中に回復しなければならないジャーナルが残っています。

対処

まず、前回設定したジャーナルファイル中に存在するジャーナルを回復するために、ジャーナルの出力先ファイル名の定義を前回の定義に戻して Object Server を起動してください。その後、Object Server を正常終了させてから、ジャーナルの出力先ファイル名の定義を変更してください。

データベースをバックアップから回復したときなど、前回のジャーナルが不要な場合は、Object Server を強制正常開始モードで起動してください。

KFXO51143-E: ジャーナル情報ファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名: XX 要因:

XX エラーコード: XX

ファイル名:

ジャーナル情報ファイルのファイル名

要因:

エラーが発生したシステムコール

エラーコード：

システムコールのエラー番号（表 K-3）

要因

ジャーナル情報ファイルの読み込み処理でシステムコールエラーが発生しました。

対処

前回、Object Server が正常終了している場合は、ファイル名の指すファイルを削除して、Object Server を起動してください。

前回、Object Server が正常終了していない場合は、ファイル名、要因、エラーコードに基づいて対処してください。次に、要因ごとの対処について示します。

| 要因     | 内容                      | 対策                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| open() | ファイル名の指すファイルにアクセスできません。 | 次の内容を確認して、対策してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>システム共通定義の dbm_master パラメタの指定が正しいか、見直してください。</li> <li>ファイルとファイルの存在するディレクトリに Object Server の読み取り権限と更新権限があるか見直してください。</li> <li>エラーコードを参照して対処してください。エラーコードの意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。</li> </ul> |
| read() | ファイル名の指すファイルが読み込めません。   | 次の内容を確認して、対策してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ファイルに Object Server の読み取り権限と更新権限があるか、見直してください。</li> <li>エラーコードを参照して対処してください。エラーコードの意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。</li> </ul>                                                                     |

KFXO51144-E：ジャーナル情報ファイルの内容不正を検知しましたが、処理を続行します。

ファイル名：XX

ファイル名：

ジャーナル情報ファイルのファイル名

要因

ジャーナル情報ファイルの内容が不正であることを検知しました。ジャーナルファイルの変更チェックをスキップします。

対処

前回のジャーナルファイルの変更チェックをしないうえ、前回のジャーナルが回復されていない場合があります。

次に示す項目のすべてに該当する場合は、対処が必要です。

- 前回の起動時以降にシステム共通定義の jnl\_output\_file パラメタでジャーナルの出力先ファイル名の定義を変更している。
- 前回、Object Server が異常終了している。

この場合、次の手順で対処してください。

- Object Server を正常終了します。
- システム共通定義の jnl\_output\_file パラメタを、変更前の定義に戻します。変更前の定義については、前回の起動時に出力された KFXO51150-I メッセージを参照してください。

3. ファイル名の指すジャーナル情報ファイルを削除します。
4. Object Server を起動します。

また、ファイル名の指すファイルがユーザのファイルとして既に存在していた場合にも、このメッセージが出力されます。Object Server はそのファイルをジャーナル情報ファイルとして使用しますが、その場合、元にあったファイルは \$XODDIR/spool/xodjnlinfo2 として退避されています。必要に応じてそこから復元してください。ただしこの場合は、ジャーナル情報ファイルとは別名称にしてください。

KFXO51145-E : ジャーナル情報ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名 : XX 要因 : XX エラーコード : XX

ファイル名 :

ジャーナル情報ファイルのファイル名

要因 :

エラーが発生したシステムコール

エラーコード :

システムコールのエラー番号

要因

ジャーナル情報ファイルの書き込み処理でシステムコールエラーが発生しました。

対処

ファイル名で示されたファイルを削除して、Object Server を起動してください。ファイル名で示されたファイルが存在しない場合、又はファイルを削除して起動しても繰り返しこのメッセージが出力される場合は、ファイル名、要因、エラーコードに基づいて対処してください。要因ごとの対策について次に示します。

| 要因      | 内容                           | 対策                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------|------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| open()  | ファイル名の指すファイルの作成又は書き込みができません。 | 次の内容を確認して、対処してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• システム共通定義の dbm_master パラメタの指定が正しいか見直してください。</li> <li>• ファイルとファイルの存在するディレクトリに Object Server の読み取り権限と更新権限があるか見直してください。</li> <li>• エラーコードを参照して対処してください。エラーコードの意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。</li> </ul> |
| write() | ファイル名の指すファイルに書き込めません。        | 次の内容を確認して、対処してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ディスクが満杯の場合は空きを用意してください。</li> <li>• ファイルに Object Server の読み取り権限と更新権限があるか見直してください。</li> <li>• エラーコードを参照して対処してください。エラーコードの意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。</li> </ul>                                    |

KFXO51146-E : ジャーナル情報ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名 : XX

ファイル名 :

ジャーナル情報ファイルのファイル名

要因

ジャーナル情報ファイルにすべての情報が書き込めませんでした。

対処

次の内容を見直した後、ファイル名の指すファイルを削除して、Object Server を起動してください。

- ディスクが満杯の場合は空きを用意してください。
- ファイル名の指すファイルに Object Server の読み取り権限と更新権限があるか見直してください。

KFXO51147-E：前回のジャーナルファイルの読み込みに失敗しましたが、処理を続行します。

ファイル名：XX 要因：XX エラーコード：XX

ファイル名：

前回のジャーナルファイルのファイル名

要因：

エラーが発生したシステムコール

エラーコード：

システムコールのエラー番号（表 K-3）

要因

ジャーナルの出力先ファイル名が定義によって変更されたため、前回のジャーナルファイルのチェックをしましたが、ジャーナルファイルの読み込み処理中にシステムコールエラーが発生しました。

対処

前回のジャーナルファイル中に回復しなければならないジャーナルが存在するかのチェックをスキップします。

前回、Object Server が正常終了している場合は問題ありません。

前回、Object Server が異常終了している場合は、次に示す手順で対処してください。

1. Object Server を正常終了します。
2. システム共通定義の `jnl_output_file` パラメータを、変更前の定義に戻します。
3. ジャーナル情報ファイルを削除します。ジャーナル情報ファイルのファイル名は、<マスタディレクトリファイルの格納ディレクトリ> `/xodjnlinfo` です。
4. ファイル名、要因、エラーコードに基づいてジャーナルファイルの対処をします。
5. Object Server を起動します。

次に手順 4. の要因ごとの対策について示します。

| 要因     | 内容                      | 対策                                                                                                                                                                                                                        |
|--------|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| open() | ファイル名の指すファイルにアクセスできません。 | <p>次の内容を確認して、対処してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファイルとファイルの存在するディレクトリに Object Server の読み取り権限と更新権限があるか、見直してください。</li> <li>エラーコードを参照して対処してください。エラーコードの意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。</li> </ul> |
| read() | ファイル名の指すファイルが読み込めません。   | <p>次の内容を確認して、対処してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファイルに Object Server の読み取り権限と更新権限があるか、見直してください。</li> <li>エラーコードを参照して対処してください。エラーコードの意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。</li> </ul>                 |

KFXO51150-I : ジャーナルファイルを設定します。ファイル名:XX

ファイル名 :

ジャーナルファイル名

要因

Object Server の開始時に出力されます。ただし、High-end Object Server では出力されません。

KFXO51200-E : 物理エリアのオープンに失敗しました。物理エリア名 : XX エラーコード : YY

要因

物理エリアをオープンしようとした時、システムコールの open() でエラーが発生しました。

対処

エラーコードが示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO51201-E : ポインタの移動に失敗しました。物理エリア名 : XX ページ番号 : YY エラーコード : ZZ

要因

ポインタを移動しようとした時、システムコールの lseek() でエラーが発生しました。

対処

エラーコードが示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO51202-E : 物理エリアの書き込みに失敗しました。物理エリア名 : XX ページ番号 : YY エラーコード : ZZ

要因

物理エリアに書き込みをしようとした時、システムコールの write() でエラーが発生しました。

対処

エラーコードが示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO51203-E : 物理エリアのロックに失敗しました。物理エリア名 : XX エラーコード : YY

要因

物理エリアの読み込みをしようとした時、システムコールの fcntl() でエラーが



発生しました。

対処

エラーコードが示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。  
エラーコードが 13 の場合は、オブジェクトサーバと連携するプログラムをすべて停止してから再実行してください。

KFXO51300-I : DB回復が正常終了しました。

要因

DB 回復が正常終了しました。

KFXO51301-E : DB回復が異常終了しました。

要因

このエラーメッセージの前に出力されたエラーが原因で、DB 回復が異常終了しました。

対処

このエラーメッセージの前に出力されたエラーを対処した後で、再起動してください。

KFXO51400-E : 領域不足のためメッセージが出力できませんでした。メッセージ番号 : XX

要因

領域不足のために、メッセージが出力できませんでした。

対処

スワップエリアサイズを拡大してください。または、不要なプロセスを終了させてください。

KFXO51401-E : メッセージが出力できませんでした。エラーコード : XX メッセージ番号 : YY

要因

内部矛盾が発生したために、メッセージが出力できませんでした。

対処

システム管理者に連絡してください。

KFXO52000-I : DBバックアップを開始します。ファイル名=XX

要因

当該 DB バックアップファイルの処理を開始します。

KFXO52001-I : DBバックアップが正常終了しました。ファイル名=XX

要因

当該 DB バックアップファイルの処理が正常に終了しました。

KFXO52002-E : DBバックアップを中止します。ファイル名=XX

要因

当該 DB バックアップファイルの処理を中止します。

対処

このメッセージ以前に出力されたエラーに対処した後で、再実行してください。

KFXO52010-I : DBエリアのバックアップを開始します。エリア名=XX

要因

当該 DB エリアの処理を開始します。

## 付録K メッセージ

KFXO52011-I : DBエリアのバックアップが正常終了しました。エリア名=XX

要因

当該 DB エリアの処理が正常に終了しました。

KFXO52012-E : DBエリアのバックアップを中止します。エリア名=XX

要因

当該 DB エリアの処理を中止します。

対処

このメッセージ以前に出力されたエラーに対処した後で、再実行してください。

KFXO52013-W : DBエリアが障害閉塞中です。エリア名=XX

要因

処理しようとしている DB エリアが、障害閉塞中です。

対処

エラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO52014-I : シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

要因

割り込みキー及び中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

KFXO52090-I : DBバックアップユティリティを開始します。

要因

xodbkup コマンドを開始した時に出力されます。

KFXO52091-I : DBバックアップユティリティが正常終了しました。

要因

xodbkup コマンドが正常終了しました。

KFXO52092-E : DBバックアップユティリティが異常終了しました。

要因

このメッセージ以前に出力されたエラーにより xodbkup コマンドが異常終了しました。

対処

このメッセージ以前に出力されたエラーに対処した後で、再実行してください。

KFXO52093-E : DBバックアップユティリティが正常終了しました。警告エラーが発生していますので、必要なら再実行してください

要因

障害が発生しましたが処理を続行し、xodbkup コマンドが正常終了したときに出力されます。

対処

必要なら警告エラー要因を取り除き再実行してください。

KFXO52100-E : システム共通定義にデータベースの指定がありません。

要因

システム共通定義にデータベースの指定がないため、処理を続行できません。

対処

システム共通定義ファイルにマスタディレクトリのファイル名の定義

(dbm\_master) を追加した後で、再実行してください。

KFXO52101-E : 定義されたデータベースは、Bibliotheca/OMで初期化されたものです。ファイル名=XX

要因

システム共通定義で指定されたデータベースは、Bibliotheca/OM で初期化されているため、処理を続行できません。

対処

環境変数 XODCONFPATH 及び PATH の値、システム共通定義の dbm\_master の指定を正しくするか、オブジェクトサーバの DB 初期設定ユーティリティで初期化した後で、再実行してください。

KFXO52103-E : データベースが初期化されていません。ファイル名=XX

要因

データベースが初期化されていないか、初期化が正常終了していないため、処理を続行できません。

対処

データベースを DB 初期設定ユーティリティで初期化した後で、再実行してください。

KFXO52108-E : システム共通定義解析中にメモリ不足が発生しました。

要因

システム共通定義解析中にメモリ不足が発生したため、処理を続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO52109-E : システム共通定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生しました。

要因

システム共通定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生したため、処理を続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従い原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO52110-I : 使用方法 : xodbckup {-b DBバックアップファイル名|-f パラメタファイル名}

要因

引数の指定に誤りがあります。

対処

使用方法に従い、再実行してください。

KFXO52111-E : 引数の指定に誤りがあります。

要因

引数の指定が誤っています。

対処

KFXO52110-I で表示する使用方法に従い、再実行してください。

KFXO52120-E : DBバックアップファイル名の指定に誤りがあります。

## 付録K メッセージ

### 要因

DB バックアップファイル名が 175 バイトを超過しています。

### 対処

バックアップファイル名を正しく指定して、再実行してください。

KFXO52121-E : パラメタファイル名の指定に誤りがあります。

### 要因

パラメタファイル名が 175 バイトを超過しています。

### 対処

パラメタファイル名を正しく指定して、再実行してください。

KFXO52200-E : backupパラメタがパラメタファイルの先頭に存在しません。

### 要因

backup パラメタがパラメタファイルの先頭に存在しません。

### 対処

パラメタファイルを正しく定義し直して、再実行してください。

KFXO52201-E : backupパラメタがパラメタファイルの先頭以外に存在しています。

### 要因

backup パラメタがパラメタファイルの先頭以外に存在しています。

### 対処

パラメタファイルを正しく定義し直して、再実行してください。

KFXO52210-E : backupパラメタにオペランドが指定されていません。XX行目 オペランド : YY

### 要因

backup パラメタにオペランドが指定されていません。

### 対処

パラメタファイルを正しく定義し直して、再実行してください。

KFXO52220-E : areaパラメタにオペランドが指定されていません。XX行目 オペランド : YY

### 要因

area パラメタにオペランドが指定されていません。

### 対処

パラメタファイルを正しく定義し直して、再実行してください。

KFXO52221-E : エリア名が重複しています。エリア名=XX

### 要因

area パラメタにエリア名を重複指定しています。

### 対処

パラメタファイルを正しく定義し直して、再実行してください。

KFXO52222-E : 指定されたエリアは存在しません。エリア名=XX

### 要因

指定されたエリアはデータベースに定義されていません。

### 対処

パラメタファイルを正しく定義し直して、再実行してください。

KFXO52800-E : 物理エリアのオープンに失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

### 要因

open() システムコールでエラーが発生しました。

対処

エラーの要因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO52801-E：これ以上物理エリアをオープンできません。ファイル名=XX

要因

1 プロセスでオープンできるファイルの最大数を超過しました。

対処

エラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO52807-E：物理エリアのステータス取り出しに失敗しました。ファイル名：XX エラー番号：YY

要因

fstat() システムコールでエラーが発生しました。

対処

エラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO52808-E：物理エリアのファイル制御に失敗しました。ファイル名：XX エラー番号：YY

要因

fcntl() システムコールでエラーが発生しました。

対処

エラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO52809-E：物理エリアのクローズに失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

要因

close() システムコールでエラーが発生しました。

対処

エラーの要因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO52810-E：物理エリアのポインタ移動に失敗しました。ファイル名=XX ページ番号=YY  
エラー番号=ZZ

要因

lseek() システムコールでエラーが発生しました。

対処

エラーの要因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO52811-E：物理エリアの読み込みに失敗しました。ファイル名=XX ページ番号=YY  
エラー番号=ZZ

要因

read() システムコールでエラーが発生しました。

対処

エラーの要因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO52812-E：物理エリアの読み込みサイズが、ページ長と一致していません。ファイル名

## 付録K メッセージ

=XX ページ番号=YY

### 要因

実際に読み込みしたサイズが、ページ長と一致していません。

### 対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。またこのメッセージ出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO52880-E：ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

### 要因

open() システムコールでエラーが発生しました。

### 対処

エラーの要因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO52881-E：ファイルが既に存在しています。ファイル名=XX

### 要因

ファイルをオープンしようとした時、既に同一名のファイルが存在していました。

### 対処

既存のファイルを削除するか、移動した後、再実行してください。

KFXO52882-E：これ以上ファイルをオープンできません。ファイル名=XX

### 要因

1 プロセスでオープンできるファイルの最大数を超えたのでオープンできませんでした。

### 対処

エラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO52887-E：ファイルのステータス取り出しに失敗しました。ファイル名：XX エラー番号：YY

### 要因

stat() システムコールでエラーが発生しました。

### 対処

エラーの要因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO52888-E：ファイルの制御に失敗しました。ファイル名：XX エラー番号：YY

### 要因

fcntl() システムコールでエラーが発生しました。

### 対処

エラーの要因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO52889-E：ファイルのクローズに失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

### 要因

close() システムコールでエラーが発生しました。

## 対処

エラーの要因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO52890-E : ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

## 要因

write() システムコールでエラーが発生しました。

## 対処

エラー番号を参照してエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

| エラー番号 | 意味                                                   | 対処                                                                                                                                  |
|-------|------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 22    | ファイルサイズが 2 ギガバイト以上になりました。                            | 複数のバックアップファイルに分割してバックアップを取得してください。バックアップパラメタファイル中に area パラメタを記述することによって、エリア単位にバックアップを取得できます。これによって、複数のバックアップファイルに分割してバックアップを取得できます。 |
| 27    | ファイルが大きすぎます。プロセスで書き込めるファイルの大きさの限界又は最大ファイルの大きさに達しました。 |                                                                                                                                     |
| 上記以外  | -                                                    | 「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照して、エラーの要因を取り除いてください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。                                                        |

KFXO52891-E : ファイルの書き込み中に容量不足となりました。ファイル名=XX

## 要因

ファイルに書き込もうとした時、ユーザ限界 (ulimit) の設定値、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多い書き込み要求をしたため、要求分書き込めませんでした。

## 対処

不要なファイルを削除し、空き領域を確保した後、再実行してください。

KFXO52899-E : DBバックアップファイルの削除に失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

## 要因

実行中にエラーが発生したため、生成した DB バックアップファイルを削除しようとした時、unlink() システムコールでエラーが発生しました。

## 対処

エラーの要因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO52900-E : XXシステムコールでエラーが発生しました。エラー番号=YY

## 要因

システムコールでエラーが発生したため、処理を続行できません。

## 対処

## 付録K メッセージ

エラーの要因を取り除いて、再実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO52901-E : DBバックアップに必要なメモリの確保に失敗しました。要求サイズ=XX

### 要因

DB バックアップに必要なメモリ確保に失敗したため、処理を続行できません。

### 対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO53000-I : DBリストアユティリティを開始します。

### 要因

xodbrstr コマンドを開始したときに出力されます。

KFXO53001-I : DBリストアユティリティが正常終了しました。

### 要因

xodbrstr コマンドが正常終了しました。

KFXO53002-E : DBリストアユティリティが異常終了しました。

### 要因

当該エラーメッセージ以前に出力されたエラー要因により、xodbrstr コマンドが異常終了しました。

### 対処

当該エラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再起動してください。

KFXO53003-I : DBエリアのリストアを開始します。エリア名=XX

### 要因

当該 DB エリアのリストアを開始します。

KFXO53004-I : DBエリアのリストアが正常終了しました。エリア名=XX

### 要因

当該 DB エリアのリストアが正常終了しました。

KFXO53005-E : マスタディレクトリエリアのリストアが異常終了しました。

### 要因

当該エラーメッセージ以前に出力されたエラー要因により、マスタディレクトリエリアのリストアが異常終了しました。

### 対処

当該エラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再起動してください。

KFXO53006-E : DBエリアのリストアが異常終了しました。エリア名=XX

### 要因

当該エラーメッセージ以前に出力されたエラー要因により、マスタディレクトリエリア以外の DB エリアのリストアが異常終了しました。

### 対処

当該 DB エリアのリストアを行いたい場合は、当該エラーメッセージ以前に出



力されたエラーを対処した後、再起動してください。

KFXO53007-E：回復したエリアが1つもありません。

要因

バックアップファイルに無いエリア名を指定しているか、非マスタディレクトリエリア以外のエリアが何らかの要因で全てエラーとなったときに出力されません。

対処

エラー要因を取り除き再度実行してください。

KFXO53008-E：DBリストアユティリティの一部のエリア回復に異常が発生しました。

要因

xodbrstr コマンドの一部のエリア回復に異常が発生した時に出力されます。

対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再起動してください。

KFXO53100-E：マスタディレクトリのファイル名の指定がありません。

要因

システム共通定義にマスタディレクトリのファイル名が指定されていないため、処理が続行できません。

対処

システム共通定義にマスタディレクトリのファイル名の定義 (dbm\_master) を追加して再起動してください。

KFXO53101-E：引数の指定に誤りがあります。

要因

引数を正しく指定していません。

対処

正しい値を指定して、再度実行してください。

KFXO53102-E：バックアップファイル名の指定が誤っています。

要因

バックアップファイル名が 175 バイトを超過しています。

対処

バックアップファイル名を正しく指定し、再度実行してください。

KFXO53103-E：制御文ファイル名の指定が誤っています。

要因

制御文ファイル名が 175 バイトを超過しています。

対処

制御文ファイル名を正しく指定し、再度実行してください。

KFXO53104-E：制御文ファイル中に誤りがあります。

要因

制御文の指定が誤っています。

対処

制御文ファイル中のエラー要因を取り除き再度実行してください。

## 付録K メッセージ

KFXO53105-E : 制御文ファイルにバックアップファイル名の指定がありません。

要因

制御文ファイル中にバックアップファイル名の指定がありません。

対処

バックアップファイル名を指定し、再度実行してください。

KFXO53106-E : 制御文ファイルにエリア名の指定がありません。

要因

制御文ファイル中にエリア名の指定がありません。

対処

エリア名を指定し、再度実行してください。

KFXO53107-E : 制御文ファイル中に指定したエリア名が誤っています。

要因

(1) エリア名が 30 バイトを超過しています。

(2) エリア名が重複しています。

対処

エリア名を正し、再度実行してください。

KFXO53109-I : 使用方法 : xodbrstr {-b バックアップファイル名 | -f ファイル名}

要因

xodbrstr コマンドの引数を正しく指定していません。

対処

正しい値を指定して、再度実行してください。

KFXO53110-E : システム共通定義解析中にメモリ不足が発生しました。

要因

システム共通定義解析中にメモリ不足が発生したため、処理を続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO53111-E : システム共通定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生しました。

要因

システム共通定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生したため、処理を続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO53112-E : 先頭のバックアップレコードのサイズに不正を検知しました。指定したファイルはデータベースバックアップファイルではありません。ファイル名=XX

要因

先頭のバックアップレコードのサイズに不正を検知しました。指定したファイルはデータベースバックアップファイルではありません。

対処

xodbckup コマンドで取得したデータベースバックアップファイルを指定して、再度実行してください。

KFXO53113-E : 先頭のバックアップレコードの種別に不正を検知しました。指定したファイルはデータベースバックアップファイルではありません。ファイル名=XX

要因

先頭のバックアップレコードの種別に不正を検知しました。指定したファイルはデータベースバックアップファイルではありません。

対処

xodbckup コマンドで取得したデータベースバックアップファイルを指定して、再度実行してください。

KFXO53114-E : バックアップレコードのサイズに不正を検知しました。レコードサイズ 1=AA  
レコードサイズ 2=BB データベースバックアップファイル名=CC オフセット=DD

要因

バックアップレコードのサイズに不正を検知しました。

対処

当該メッセージの内容とデータベースバックアップファイルを保存し、システム管理者に連絡してください。

KFXO53115-E : バックアップレコードの種別に不正を検知しました。データベースバックアップファイル名=XX オフセット=YY

要因

バックアップレコードの種別に不正を検知しました。

対処

当該メッセージの内容とデータベースバックアップファイルを保存し、システム管理者に連絡してください。

KFXO53116-E : バックアップレコードの順序に不正を検知しました。レコード種別 1=AA  
レコード種別 2=BB データベースバックアップファイル名=CC オフセット=DD

要因

バックアップレコードの順序に不正を検知しました。

対処

当該メッセージの内容とデータベースバックアップファイルを保存し、システム管理者に連絡してください。

KFXO53117-E : データベースバックアップファイルとシステム共通定義ファイルのマスタディレクトリファイル名が一致していません。ファイル名 1=XX ファイル名 2=YY

要因

システム共通定義ファイルで定義していないデータベースをリストアしようとしています。

対処

指定したデータベースバックアップファイルは、現在運用しているデータベースで取得されたものか確認してください。

KFXO53200-E : ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

要因

ファイルをオープンしようとしたとき、システムコールの open() でエラーが発生しました。

対処

## 付録K メッセージ

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO53201-E : ファイルが存在しません。ファイル名 : XX

### 要因

指定されたファイルが存在しません。

### 対処

正しいファイルを指定して、再度実行する。

KFXO53202-E : ファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

### 要因

ファイルの読み込みをしようとしたとき、システムコールの read() でエラーが発生しました。

### 対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO53203-E : ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

### 要因

ファイルに書き込みをしようとしたとき、システムコールの write() でエラーが発生しました。

### 対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO53204-E : ファイルのクローズに失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

### 要因

ファイルをクローズしようとしたとき、システムコールの close() でエラーが発生しました。

### 対処

エラーコードからエラー要因を取り除いて、再度実行してください。

KFXO53205-E : ファイルポインタの移動に失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

### 要因

ファイルポインタの移動をしようとしたとき、システムコールの lseek() でエラーが発生しました。

### 対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO53206-E : ファイルのロックに失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

### 要因

ファイルに対して書き込みロックをしようとしたとき、システムコールの

fcntl() でエラーが発生しました。

対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。

KFXO53207-E : ファイルのロック解除に失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

要因

ファイルに対して書き込みロックの解除をしようとしたとき、システムコールの fcntl() でエラーが発生しました。

対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。

KFXO53208-E : 領域の確保に失敗しました。

要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再度実行してください。

KFXO53209-E : 現在時刻の取得に失敗しました。エラーコード : XX

要因

システムコールの time() の引数が不正であるためエラーが発生しました。

対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO53210-E : ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名 : XX

ファイル名 :

書き込みに失敗したファイルのファイル名

要因

ファイルに書き込みをしようとしたとき、write が残っている領域、または記憶媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。

対処

不要なファイルを削除し、空き領域を作成してください。

KFXO53211-E : ファイルの削除に失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

要因

ファイルを削除しようとしたとき、システムコールの unlink() でエラーが発生しました。

対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、当該ファイルを削除してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO53902-I : シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

要因

## 付録K メッセージ

割り込みキー及び中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

### 対処

必要があれば、再実行してください。

KFXO54000-I : DB回復ユティリティを開始します。

### 要因

xodbrecv コマンドを開始した時に出力されます。

KFXO54001-I : DB回復ユティリティが正常終了しました。

### 要因

xodbrecv コマンドが正常終了しました。

KFXO54002-I : 完結していないトランザクションが存在しています。データベースは不完全な状態です。

### 要因

指定されたアンロードジャーナルによりデータベースを回復しましたが、完結していないトランザクションが存在しています。

### 対処

以降のアンロードジャーナルを使用してデータベースを回復するか、xodbkout コマンドを使用して当該トランザクションをロールバックさせる必要があります。

KFXO54003-E : DB回復ユティリティが異常終了しました。

### 要因

当該エラーメッセージ以前に出力されたエラー要因により、xodbrecv コマンドが異常終了しました。

### 対処

当該エラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再起動してください。ただし、KFXO54019-E メッセージが出力されている場合はデータベースが不完全な状態である可能性があるため、xodbrstr コマンドから再度実行してください。

KFXO54004-E : 引数の指定に誤りがあります。オペランド名 : XX

### 要因

引数を正しく指定していません。

### 対処

正しい値を指定して、再度実行してください。

KFXO54005-E : 引数の指定に誤りがあります。

### 要因

文法上の誤りがあります。

### 対処

正しい指定をして、再度実行してください。

KFXO54006-E : 使用方法 : xodbrecv -j アンロードジャーナルファイル名 [-s y/n]

### 要因

xodbrecv コマンドを正しく指定していません。

## 対処

正しい値を指定して、再度実行してください。

KFXO54007-E : マスタディレクトリのファイル名の指定がありません。

## 要因

システム共通定義にマスタディレクトリのファイル名が指定されていないため、処理が続行できません。

## 対処

システム共通定義にマスタディレクトリのファイル名の定義 (dbm\_master) を追加して再起動してください。

KFXO54010-E : 領域の確保に失敗しました。

## 要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

## 対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再度実行してください。

KFXO54011-E : 現在時刻の取得に失敗しました。エラーコード : XX

## 要因

現在時刻の取得に失敗しました。エラーコード : XX

## 対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO54012-E : ソートマージでエラーが発生しました。

## 要因

SORT プログラムでエラーが発生しました。

## 対処

SORT プログラムから出力されているメッセージを参照し、エラーの要因を取り除いて、再度実行してください。

KFXO54014-E : 物理エリアファイルの内容が不正です。ファイル名 : XX

## 要因

データベースが DB リストアユーティリティによって、正しく回復されています。xodbrstr コマンドで、すべてのエリアが正しく回復されていることを確認してください。

## 対処

エラーの要因を取り除いて、再度実行してください。

KFXO54015-E : アンロードジャーナルファイルの内容が不正です。ファイル名 : XX

## 要因

アンロードジャーナルファイルの内容が不正です。指定されたファイルはアンロードジャーナルファイルでないか、ファイルが破壊されているか、もしくはアンロードジャーナルファイルの内容が重複していることが考えられます。

## 対処

## 付録K メッセージ

アンロードジャーナルファイル名を確認し、正しい指定をして、再度実行してください。

KFXO54016-E：指定されたアンロードジャーナルファイルは既に回復されています。ファイル名：XX

### 要因

指定されたアンロードジャーナルファイルの内容は既に回復されています。前回実行で使用したアンロードジャーナルファイルに続くファイルを指定してください。もし、再度データベースの回復をする場合は、xodbrstr コマンドから再実行してください。

### 対処

前回実行で使用したアンロードジャーナルファイルに続くファイルを指定して、再度実行してください。もし、再度データベースの回復をやり直す場合は、"\$XODDIR/spool/xodrecinf" のファイルを削除し、xodbrstr コマンドから再実行してください。

KFXO54017-E：アンロードジャーナルファイルの指定が不正です。

### 要因

アンロードジャーナルファイルの指定が不正です。アンロードジャーナルファイルが欠落しています。

### 対処

アンロードジャーナルファイル名を確認し、正しい指定をして、再度実行してください。

KFXO54018-E：バックアウト情報ファイルの内容が不正です。ファイル名：XX

### 要因

バックアウト情報ファイルの内容が不正です。ファイルが破壊されていることが考えられます。

### 対処

バックアウト情報ファイルが正しく削除されていることを確認し xodbrstr コマンドから再度実行してください。

KFXO54019-E：DB回復処理中に異常が発生しました。

### 要因

xodbrecv コマンド実行時、データベース更新途中で異常が発生しました。データベースが不完全な状態である可能性があります。

### 対処

直前に出力されているメッセージの要因を取り除いて、xodbrstr コマンドから再実行してください。

KFXO54020-I：シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

### 要因

割り込みキー及び中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

### 対処

必要があれば、再実行してください。

KFXO54021-E：ロールフォワード回復に失敗しました。エラーコード：XX



## 要因

データベースのロールフォワード回復でエラーが発生しました。

## 対処

イベントログに出力されている当該エラー要因のメッセージを参照し、エラーの要因を取り除いて、再度実行してください。

KFXO54022-E：システム共通定義解析中にメモリ不足が発生しました。

## 要因

システム共通定義解析中にメモリ不足が発生したため、処理を続行できません。

## 対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO54023-E：システム共通定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生しました。

## 要因

システム共通定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生したため、処理を続行できません。

## 対処

直前に出力されているメッセージに従って原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO54024-E：アンロードジャーナルファイルのジャーナルレコードに不正を検知しました。  
詳細コード=AA ファイル名=BB ブロック番号=CC レコード番号=DD ジャーナル取得日時=EE

## 要因

アンロードジャーナルファイルのジャーナルレコードに不正を検知した。

## 対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。なお、このメッセージ出力時に、不正を検知したジャーナルレコードのレコードダンブが `xodresult` へ出力されます。

KFXO54025-E：XXシステムコールでエラーが発生しました。エラー番号=YY

## 要因

システムコールでエラーが発生したため、処理を続行できません。

## 対処

エラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO54100-E：ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

## 要因

ファイルをオープンしようとした時、システムコールの `open()` でエラーが発生しました。

## 対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO54101-E：ファイルが存在しません。ファイル名：XX

## 要因

指定されたファイルが存在しません。

## 付録K メッセージ

### 対処

正しいファイルを指定して、再度実行してください。

KFXO54102-E : ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

### 要因

ファイルに書き込みをしようとした時、システムコールの write() でエラーが発生しました。

### 対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。

| エラー番号 | 意味                                                   | 対処                                                                           |
|-------|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 22    | ファイルサイズが2ギガバイト以上になりました。                              | 最新のバックアップファイルを使用して、回復に使用するアンロードジャーナルファイルの数を減らしてから、xodbrstr コマンドから再実行してください。  |
| 27    | ファイルが大きすぎます。プロセスで書き込めるファイルの大きさの限界又は最大ファイルの大きさに達しました。 |                                                                              |
| 上記以外  | -                                                    | 「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照して、エラーの要因を取り除いてください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。 |

KFXO54103-E : ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名 : XX

### 要因

ファイルに書き込みをしようとした時、write が残っている領域、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。

### 対処

不要なファイルを削除し、空き領域を作成する。

KFXO54104-E : ファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

### 要因

ファイルの読み込みをしようとした時、システムコールの read() でエラーが発生しました。

### 対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO54105-E : ファイルのロックに失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

### 要因

ファイルに対して書き込みロックをしようとした時、システムコールの fcntl() でエラーが発生しました。

### 対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。

KFXO54106-E : ファイルのロック解除に失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

## 要因

ファイルに対して書き込みロックの解除をしようとした時、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

## 対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。

KFXO54107-E : ファイルフラグの設定に失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

## 要因

ファイルに対して同期書きのためのファイルフラグを設定しようとした時、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

## 対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。

KFXO54108-E : ファイルフラグの解除に失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

## 要因

ファイルに対して行なった同期書きのためのファイルフラグの解除をしようとした時、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

## 対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。

KFXO54109-E : これ以上ファイルをオープンできません。

## 要因

ファイルをオープンしようとしたが、1 プロセスでオープンできるファイルの最大数 100 を超えたのでオープンできませんでした。

## 対処

再度実行してください。

KFXO54110-E : ファイルステータスの取得に失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

## 要因

ファイルのステータスを取得しようとした時、システムコールの `stat()` でエラーが発生しました。

## 対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO54111-E : ファイルポインタの移動に失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

## 要因

ファイルポインタの移動をしようとした時、システムコールの `lseek()` でエラーが発生しました。

## 対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO54112-E : ファイルの削除に失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

## 要因

## 付録K メッセージ

xodbrevc コマンドを実行中に、エラーが発生したため、xodbkout コマンドへ引き継ぐ情報を格納したファイルを削除しようとした時、システムコールの unlink() でエラーが発生しました。

### 対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、表示されているファイルを削除してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO54113-E : OMSとの接続時にエラーが発生しました。エラーコード : XX 詳細エラー番号 : YY

### 要因

オブジェクトサーバとの接続時にエラーが発生しました。

### 対処

詳細エラー番号の対応方法を参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO54114-E : OMSの実行モードが回復ユティリティ実行モードではありません。

### 要因

オブジェクトサーバを回復ユティリティ実行モードで起動していないため、xodbrevc コマンドを実行できません。

### 対処

回復ユティリティ実行モードでオブジェクトサーバを再起動し、xodbrevc コマンドを再起動してください。

KFXO54115-E : 同時に実行できない他のユティリティが実行中です。

### 要因

同時に実行できない他のユティリティが実行中のため、xodbrevc コマンドが実行できません。

### 対処

同時に実行できない他のユティリティの終了を待って、xodbrevc コマンドを再起動してください。

KFXO54116-E : OMSが起動されていません。

### 要因

オブジェクトサーバが起動されていないため、xodbrevc コマンドが実行できませんでした。

### 対処

オブジェクトサーバが起動されていない場合は、オブジェクトサーバを起動して、再度実行してください。

KFXO55000-I : DBバックアウトユティリティを開始します。

### 要因

xodbkout コマンドを開始した時に出力されます。

KFXO55001-I : DBバックアウトユティリティが正常終了しました。

### 要因

xodbkout コマンドが正常終了しました。

KFXO55002-E : DBバックアウトユティリティが異常終了しました。

要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーにより、xodbkout コマンドが異常終了しました。

対処

このメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再実行してください。ただし、KFXO55020-E メッセージが出力されている場合はデータベースが不完全な状態である可能性があるため、xodbrstr コマンドから再度実行してください。

KFXO55003-E : 引数指定に誤りがあります。

要因

引数を正しく指定していません。

対処

正しい値を指定し、再度実行してください。

KFXO55004-E : 使用方法 : xodbkout -j アンロードジャーナルファイル名

要因

引数を正しく指定していません。

対処

正しい値を指定して、再度実行してください。

KFXO55005-E : 領域の確保に失敗しました。

要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再度実行してください。

KFXO55006-E : 現在時刻の取得に失敗しました。エラーコード : XX

要因

システムコールの time() でエラーが発生しました。

対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO55007-E : アンロードジャーナルファイルの内容が重複しています。ファイル名 : XX

要因

同じ内容のアンロードジャーナルファイルを指定しています。

対処

正しく指定して、再度実行してください。

KFXO55008-E : OMSとの接続時にエラーが発生しました。エラーコード : XX 詳細エラー番号 : YY

要因

オブジェクトサーバとの接続時にエラーが発生しました。

対処

詳細コードを参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO55009-E：ロールバック回復に失敗しました。エラーコード：XX

要因

データベースのロールバック回復でエラーが発生しました。

対処

ログに出力されている当該エラー要因のメッセージを参照し、エラーの要因を取り除いて、再度実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO55010-I：バックアウト処理を行う未完結ジャーナルが存在しません。

要因

xodbrecv コマンドで回復したアンロードジャーナル中の全てのトランザクションは完結している為、xodbkout コマンドの実行は不要です。

KFXO55011-E：バックアウト情報ファイルの内容が不正です。ファイル名：XX

要因

バックアウト情報ファイルの内容が不正です。ファイルが破壊されていることが考えられます。

対処

エラーの要因を取り除いて、再度実行してください。

KFXO55012-E：バックアウト情報ファイルが存在しません。

要因

xodbrecv コマンドが実行されていないか、xodbkout コマンド実行済みです。

対処

既に xodbkout コマンドが実行済みであれば、処置は不要です。それ以外であれば xodbrstr コマンドから再実行してください。

KFXO55013-E：アンロードジャーナルファイルの内容が不正です。ファイル名：XX

要因

アンロードジャーナルファイルの内容が不正です。ファイル名の指定が誤っているか、ファイルが破壊されていることが考えられます。

対処

正しいアンロードジャーナルファイルを指定し、再度実行してください。

KFXO55014-E：指定したアンロードジャーナルファイルは、正しくありません。

要因

指定したアンロードジャーナルファイル名は、xodbrecv コマンドで回復されていません。

対処

正しいアンロードジャーナルファイルを指定し、再度実行してください。

KFXO55015-E：アンロードジャーナルファイルの指定が不足しています。

要因

アンロードジャーナルファイルは、xodbrecv コマンドで回復済みのファイルで、

かつ未完結トランザクションを含む必要があります。指定したアンロードジャーナルファイルは、xodbrecv コマンドで回復したアンロードジャーナルファイルで、バックアウトが必要な未完結トランザクションが全て含まれていません。

**対処**

正しいアンロードジャーナルファイルを指定し、再度実行してください。

KFXO55016-E : OMSの実行モードが回復ユティリティ実行モードではありません。

**要因**

オブジェクトサーバを回復ユティリティ実行モードで起動していないため、ユティリティを実行できません。

**対処**

回復ユティリティ実行モードでオブジェクトサーバを再起動し、再度実行してください。

KFXO55017-E : 同時に実行できない他のユティリティが実行中です。

**要因**

同時に実行できない他のユティリティが実行中のため、ユティリティが実行できません。

**対処**

同時に実行できない他のユティリティの終了を待って、再実行してください。

KFXO55018-E : OMSが起動されていません。

**要因**

オブジェクトサーバが起動されていないため、xodbkout コマンドが実行できませんでした。

**対処**

オブジェクトサーバが起動されていない場合は、オブジェクトサーバを起動して、再度実行してください。

KFXO55019-I : シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

**要因**

割り込みキー及び中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

**対処**

必要があれば、再実行してください。

KFXO55020-E : DB回復処理中に異常が発生しました。

**要因**

xodbkout コマンド実行時、データベース更新途中で異常が発生しました。データベースが不完全な状態である可能性があります。

**対処**

直前に出力されているメッセージの要因を取り除いて、xodbrstr コマンドから再実行してください。

KFXO55021-E : DBバックアウトユティリティが異常終了しました。一部のインデクスが回復されていません。

**要因**

インデクスの回復処理で、インデクスエリアの容量不足により、一部のインデクスが回復できませんでした。インデクスが不完全な状態です。エラーの詳細については、ログファイルのこのメッセージの前に出力されているメッセージ (KFXO42121-E) を参照してください。

対処

KFXO42121-E のメッセージの対策に従ってください。又は、`xodbrstr` コマンドから再実行してください。なお、繰り返しこのエラーが発生しないようにファイルシステム中に空きを十分確保してください。ファイルシステム中に十分な空きを確保してもこのエラーが発生する場合は、最大割り当て量に達していることが考えられるため、KFXO42121-E の対策に従ってください。

KFXO55100-E : ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

要因

ファイルをオープンしようとした時、システムコールの `open()` でエラーが発生しました。

対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO55101-E : ファイルポインタの移動に失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

要因

ファイルポインタの移動をしようとした時、システムコールの `lseek()` でエラーが発生しました。

対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO55102-E : ファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

要因

ファイルの読み込みをしようとした時、システムコールの `read()` でエラーが発生しました。

対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO55103-E : ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : YY

要因

ファイルに書き込みをしようとした時、システムコールの `write()` でエラーが発生しました。

対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。



KFXO55104-E : 読み込みファイルの長さが正しくありません。ファイル名 : XX

要因

ファイルの長さが不正です。ファイルが破壊されていることが考えられます。

対処

正しいファイルを指定し、再度実行してください。

KFXO55999-E : DBバックアウトユティリティが異常を検知しました。理由コード=AA 詳細コード =BB ファイル名=CC 場所=DD

要因

xodbkout コマンドで内部矛盾を検出しました。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときはコアファイルを保存してください。

KFXO56000-I : DB再編成ユティリティを開始します。

要因

xodbreog コマンドを開始した時に出力されます。

KFXO56001-I : DB再編成ユティリティが正常終了しました。

要因

xodbreog コマンドが正常終了したときに出力されます。

KFXO56002-E : DB再編成ユティリティが異常終了しました。再起動してください。

要因

xodbreog コマンドが異常終了したときに出力されます。

対処

エラー要因を取り除き再実行してください。なお、データベースの回復は不要です。

KFXO56003-E : 引数の指定に誤りがあります。

要因

コマンドの引数を正しく指定していません。

対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO56004-I : 使用方法 : xodbreog -f DB再編成パラメタファイルのファイル名

要因

xodbreog コマンドの引数を正しく指定していません。

対処

正しい値を指定して、再実行してください。このメッセージは KFXO56003-E とともに出力されます。

KFXO56005-E : 領域の確保に失敗しました。

要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再実行し

## 付録K メッセージ

てください。

KFXO56006-E：現在時刻の取得に失敗しました。エラーコード=XX

エラーコード：

システムコールの time() で発生したエラーコード

要因

システムコールの time() の引数が不正であるためエラーが発生しました。

対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、再実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO56016-E：オブジェクト操作メモリプールの管理テーブル領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX

要求サイズ：

確保しようとした領域長（単位：バイト）

要因

オブジェクト操作メモリプールの管理テーブル領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56017-E：オブジェクト操作メモリプール領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX

要求サイズ：

確保しようとした領域長（単位：バイト）

要因

オブジェクト操作メモリプール領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56018-E：パラメタファイル解析用作業領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。

要因

パラメタファイル解析用の作業領域確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56019-E：指定されたパラメタファイル中にパラメタの指定がありません。

要因

指定されたパラメタファイル中に、パラメタの指定が無いため、処理が続行できません。

対処

パラメタが正しく記述されたパラメタファイルを指定して、再実行してください。

KFXO56020-E : XXコマンドのオプションが定義されていません。オプション=XX

コマンド :

不正なパラメタ名

オプション名 :

定義不足のオプション名

要因

定義ファイルに定義した reorg 又は recreate のオプションが指定されていません。

対処

reorg 又は recreate のオプションを定義して、再実行してください。

KFXO56021-E : ファイル名の長さが定義範囲を超えています。コマンド=VV オプション=WW  
ファイル名=XX 最小値=YY 最大値=ZZ

オプション :

定義範囲を超えたファイル名が指定されているオプション名

ファイル名 :

定義範囲を超えたファイル名

最小値 :

ファイル名の長さの最小値

最大値 :

ファイル名の長さの最大値

要因

定義ファイルに定義したファイル名の長さが定義範囲を超えています。

対処

ファイル名の長さを定義範囲内に定義し直して、再実行してください。

KFXO56022-E : ファイル名が' / 'から始まっていません。コマンド : XX オプション : YY  
ファイル名 : ZZ

コマンド : ' / ' から始まっていないファイル名が定義されているパラメタ

オプション : ' / ' から始まっていないファイル名が定義されているオプション名

ファイル名 : ' / ' から始まっていないファイル名

要因

定義ファイルに定義したファイル名が' / ' から始まっていません。

対処

ファイル名を' / ' からパス名付きで定義し直して、再実行してください。

KFXO56023-E : メモリ不足のためメッセージが出力できませんでした。メッセージ番号 : XX  
メッセージ番号 :

出力しようとしたメッセージのメッセージ番号

要因

メモリ不足によってメッセージが出力できませんでした。

対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させてください。

## 付録K メッセージ

KFXO56024-E : メッセージが出力できませんでした。エラーコード : XX メッセージ番号 : XX

エラーコード :

内部矛盾の要因を表すエラーコード

メッセージ番号 :

出力しようとしたメッセージのメッセージ番号

要因

内部矛盾によってメッセージが出力できませんでした。

対処

システム管理者に連絡してください。

KFXO56025-E : OMSが起動されていません。

要因

オブジェクトサーバが起動されていないため、xodbreog コマンドが実行できませんでした。

対処

オブジェクトサーバが起動されていない場合は、オブジェクトサーバを起動して、再実行してください。

KFXO56026-E : OMSとの接続時にエラーが発生しました。エラーコード : XX 詳細エラー番号 : XX

エラーコード :

接続時に発生したエラーコード

詳細エラー番号 :

接続時に発生した詳細エラー番号

要因

オブジェクトサーバとの接続時にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO56027-E : トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。エラーコード : XX 詳細エラー番号 : YY

エラーコード :

トランザクション開始処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号 :

トランザクション開始中に発生した詳細エラー番号

要因

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO56028-E : コミット処理中にエラーが発生しました。エラーコード : XX 詳細エラー番号 :

号 : YY

エラーコード :

コミット処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号 :

コミット処理中に発生した詳細エラー番号

要因

コミット処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO56029-E : OMSの実行モードがユティリティ実行モードではありません。

要因

オブジェクトサーバをユティリティ実行モードで起動していないため、実行できません。

対処

ユティリティ実行モードでオブジェクトサーバを再起動し、再実行してください。

KFXO56030-E : 同時に実行できない他のユティリティが実行中です。

要因

同時に実行できないほかのユティリティが実行中のため、実行できません。

対処

同時に実行できないほかのユティリティの終了を待って、再実行してください。

KFXO56031-E : ディクショナリ情報再常駐化処理中にエラーが発生しました。エラーコード :

XX 詳細エラー番号 : YY

エラーコード :

ディクショナリ情報再常駐化処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号 :

ディクショナリ情報再常駐化処理中に発生した詳細エラー番号

要因

ディクショナリ再常駐化処理中にエラーが発生したため、実行できません。

対処

エラーコード及び詳細エラー番号からエラーの原因を取り除いて、再実行してください。

| エラーコード | 内容           | 対処                                                    |
|--------|--------------|-------------------------------------------------------|
| 32520  | ロックエラー       | 直前に出力されているメッセージ及び「付録 K.4 詳細コード」を参照して、対応方法に従い対策してください  |
| 32500  | データベース入出力エラー | 直前に出力されているメッセージ及び「付録 K.4 詳細コード」を参照して、対応方法に従い、対策してください |
| その他    | -            | このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください                      |

KFXO56032-E : インデクス名の長さ、またはインデクス番号の大きさが定義範囲を超えています

す。オプション：XX インデクス：XX 最小値：XX 最大値：XX

オプション：

定義範囲を超えたインデクス名又はインデクス番号が指定されているオプション名

インデクス：

定義範囲を超えたインデクス名又はインデクス番号

最小値：

インデクス名の長さ、またはインデクス番号の最小値

最大値：

インデクス名の長さ、またはインデクス番号の最大値

要因

定義ファイルに定義したインデクス名の長さ、又はインデクス番号の大きさが定義範囲を超えています。

対処

インデクス名の長さ、又はインデクス番号の大きさを定義範囲内に定義し直し、再実行してください。

KFXO56033-E：タイプ名の長さ、またはタイプ番号の大きさが定義範囲を超えています。オプション：XX タイプ：XX 最小値：XX 最大値：XX

オプション：

定義範囲を超えたタイプ名又はタイプ番号が指定されているオプション名

タイプ：

定義範囲を超えたタイプ名又はタイプ番号

最小値：

タイプ名の長さ又はタイプ番号の最小値

最大値：

タイプ名の長さ又はタイプ番号の最大値

要因

定義ファイルに定義したタイプ名の長さ、又はタイプ番号の大きさが定義範囲を超えています。

対処

タイプ名の長さ、又はタイプ番号の大きさを定義範囲内に定義し直し、再実行してください。

KFXO56034-I：シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

要因

割り込みキー又は中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

対処

処理結果ファイル (xodresult) によって、どこまで処理が完了しているかを確認した後で、必要があれば再実行してください。

KFXO56035-E：DB再編成ユティリティが異常終了しました。DBをバックアップから回復し再起動してください。

要因

xodbreog コマンドが異常終了しました。

## 対処

エラー原因を取り除いて、データベースをバックアップから回復し、xodbreog コマンドを再実行してください。

KFXO56036-I : DB再編成ユティリティが正常終了しました。警告エラーが発生していますので、必要なら再実行してください。

## 要因

警告エラーが発生しましたが処理を続行し、xodbreog コマンドが正常終了したときに出力されます。

## 対処

xodbreog コマンドは正常終了しました。しかし、警告エラーが発生していますので、必要なら直前に出力されているメッセージに従い、対処してください。

KFXO56037-I : DB再編成ユティリティ (reorg) が正常終了しました。

## 要因

xodbreog コマンド (reorg : オブジェクトの再編成) が正常終了したときに出力されます。

KFXO56038-I : DB再編成ユティリティ (reorg) が正常終了しました。警告エラーが発生していますので、必要なら再実行してください。

## 要因

障害が発生しましたが処理を続行し、xodreog コマンド (reorg : オブジェクトの再編成) が正常終了したときに出力されます。

## 対処

必要なら警告エラー要因を取り除き再度実行してください。

KFXO56039-I : DB再編成ユティリティ (recreate) が正常終了しました。

## 要因

xodbreog コマンド (recreate : インデクス再作成) が正常終了したときに出力されます。

KFXO56040-I : DB再編成ユティリティ (recreate) が正常終了しました。警告エラーが発生していますので、必要なら再実行してください。

## 要因

障害が発生しましたが処理を続行し、xodbreog コマンド (recreate : インデクス再作成) が正常終了したときに出力されます。

## 対処

必要なら警告エラー要因を取り除き再度実行してください。

KFXO56041-I : 再編成処理によるエリアの更新が終了しました。エリア数 = XX

エリア数 :

更新されたエリア数

## 要因

xodbreog コマンドのオブジェクトの再編成 area 文指定あり時及びインデクス再作成、又は xodbrecons コマンド (エリア再作成) によって更新されたエリア数を示します。

KFXO56042-I : 再編成処理によるエリアの更新が終了しました。エリア名 = XX

## 付録K メッセージ

エリア名：

更新されたエリア名

要因

xodbreog コマンドのオブジェクトの再編成 area 文指定あり時及びインデクス再作成，又は xodbrencs コマンド（エリア再作成）により更新されたエリア名を示します。また，直前に出力されているメッセージ（KFXO56041-I）のエリア数分，このメッセージが出力されていない場合は，何らかの矛盾によりすべての更新されたエリア名を表示できていません。

KFXO56043-E：areaコマンドの前にreorgコマンドが存在しません。

要因

area コマンドの前に reorg コマンドが存在しません。

対処

area コマンドの前に reorg コマンドを指定して，再実行してください。

KFXO56044-W：更新エリア名の出力処理時に，エリア名の取得処理に失敗しました。エリア番号 = XX

エリア番号：

該当するエリア番号

要因

更新エリア名の出力処理時に，エリア名の取得処理に失敗しましたが，処理を続行します。

KFXO56045-E：アンロードファイル名が指定されていません。コマンド：XX

コマンド：

コマンド名

要因

アンロードファイル名が指定されていないため，処理が続行できません。

対処

アンロードファイル名を指定して，再起動してください。

KFXO56047-E：DB再編成時刻の設定処理に失敗しました。エラーコード = XX

エラーコード：

DB 再編成時刻の設定処理中に発生したエラーコード

要因

DB 再編成時刻の設定処理に失敗したため，処理が続行できません。

対処

このメッセージの内容を記録し，システム管理者に連絡してください。

KFXO56048-E：オブジェクト常駐の解除処理に失敗しました。エラーコード = XX 詳細エラー番号：XX

エラーコード：

オブジェクト常駐の解除処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：

オブジェクト常駐の解除処理中に発生した詳細エラー番号

要因

オブジェクト常駐の解除処理に失敗したため，処理が続行できません。



## 対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO56049-E: ユーザエリア用のアンロードファイル名の指定個数が128を超えています。コマンド=XX オプション=XX

## コマンド:

エラーの発生したコマンド名

## オプション:

エラーの発生したオプション名

## 要因

定義ファイルの -u オプションに指定したアンロードファイル名個数が 128 を超えています。

## 対処

アンロードファイル名の指定個数を 128 以下に定義し直し、xodbreog コマンドを再起動してください。

KFXO56050-E: ユーザエリア用のアンロードファイル名の指定が重複しています。コマンド=XX オプション=XX ファイル名=XX

## コマンド:

エラーの発生したコマンド名

## オプション:

エラーの発生したオプション名

## ファイル名:

重複して指定されたアンロードファイル名

## 要因

定義ファイルの -u オプションに指定したアンロードファイル名が重複しています。

## 対処

アンロードファイル名を正しく指定し直し、xodbreog コマンドを再起動してください。

KFXO56100-E: スキーマ中にタイプ定義が存在しません。

## 要因

スキーマ中にタイプ定義がないため、オブジェクトの引き上げ処理が続行できません。

## 対処

スキーマ中にタイプを定義してあるデータベースに対して、再実行してください。

KFXO56101-E: オブジェクトの引き上げ用バッファの確保時に、メモリ不足が発生しました。

## 要因

オブジェクトの引き上げ用バッファの確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

## 対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

## 付録K メッセージ

KFXO56102-E: オブジェクトの引き上げ用作業領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。

### 要因

オブジェクトの引き上げ用作業領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

### 対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56103-E: タイプ中に物理形式のオブジェクト識別子を持つ本体オブジェクトが存在しません。タイプ名 = XX

### タイプ名:

処理中のタイプのタイプ名

### 要因

タイプ中に物理形式のオブジェクト識別子を持つ本体オブジェクトが存在したため、処理が続行できません。

### 対処

エリア単位のオブジェクトの再編成はできません。オブジェクトの再編成を行なうときは、area 文を指定せずに実行してください。

KFXO56104-E: 指定されたエリア名は存在しません。エリア名 = XX

### エリア名:

該当するエリア名

### 要因

area コマンドで指定されたエリア名は存在しないため、処理が続行できません。

### 対処

エリア名を正しく指定して、再起動してください。

KFXO56105-E: 指定されたエリア名は指定できない用途のエリア名です。エリア名 = XX

### エリア名:

該当するエリア名

### 要因

指定されたエリア名は指定できない用途のエリア名のため、処理が続行できません。

### 対処

ディクショナリエリア又はユーザエリアを指定して、再起動してください。

KFXO56106-E: ユーザデータベースのエリアが指定されているにもかかわらず、ユーザエリア用のアンロードファイルが指定されていません。エリア名 = XX

### エリア名:

該当するエリア名

### 要因

area コマンドにユーザデータベースのエリアが指定されているにもかかわらず、ユーザエリア用のアンロードファイルが指定されていないため、処理が続行できません。

### 対処

ユーザエリア用のアンロードファイルを指定して、再起動してください。

KFXO56107-E : ディクショナリのエリアが指定されているにもかかわらず、ディクショナリ用のアンロードファイルが指定されていません。エリア名 = XX

エリア名 :

該当するエリア名

要因

area コマンドにディクショナリのエリアが指定されているにもかかわらず、ディクショナリ用のアンロードファイルが指定されていないため、処理が続行できません。

対処

ディクショナリ用のアンロードファイルを指定して、再起動してください。

KFXO56108-E : エリア名の指定が重複しています。エリア名 = XX

エリア名 :

該当するエリア名

要因

area コマンドに指定されているエリア名が重複しているため、処理が続行できません。

対処

エリア名を正しく指定して、再起動してください。

KFXO56109-E : システムオブジェクトの入力に失敗しました。

要因

システムオブジェクトの入力に失敗したため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従い、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56111-W : オブジェクト識別子重複チェック用ハッシュテーブルの生成処理で、エラーが発生しました。アンロード処理でのオブジェクト識別子の重複チェックは行ないません。エラーコード = XX

エラーコード :

エラー要因

要因

オブジェクト識別子重複チェック用のハッシュテーブルの生成処理でエラーが発生しましたが、処理を続行します。ただし、アンロード処理でのオブジェクト識別子の重複チェックはしません。

対処

必要に応じてエラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

| エラーコード | 意味    | 対策                                                         |
|--------|-------|------------------------------------------------------------|
| 33001  | メモリ不足 | 不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、xodbreog コマンドを再起動してください。 |
| その他    | -     | このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。                           |

KFXO56112-W : オブジェクト識別子重複チェック用ハッシュテーブルの削除処理で、エラーが発生しました。エラーコード = XX

## 付録K メッセージ

エラーコード：

エラー要因

要因

オブジェクト識別子重複チェック用のハッシュテーブルの削除処理でエラーが発生しましたが、処理を続行します。

KFXO56113-W：オブジェクト識別子重複チェック用ハッシュエントリの登録処理で、エラーが発生しました。以降、アンロード処理でのオブジェクト識別子の重複チェックは行ないません。エラーコード=XX

エラーコード：

エラーの要因

要因

オブジェクト識別子重複チェック用のハッシュエントリの登録処理でエラーが発生しましたが、処理を続行します。ただし、このメッセージ以降アンロード処理でのオブジェクト識別子の重複チェックはしません。

対処

必要に応じてエラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

| エラーコード | 意味    | 対策                                   |
|--------|-------|--------------------------------------|
| 33001  | メモリ不足 | 不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください。 |
| その他    | -     | このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。     |

KFXO56200-E：アンロードファイルの内容が不正です。ファイル名：XX レコード種別：YY

ファイル名：

アンロードファイル名

レコード種別：

不正を検知したレコードの種別

要因

アンロードファイルの内容が、再編成処理で正常に作成されたものではありません。

又は、何らかの原因でアンロードファイルが破壊されています。

対処

再編成処理時に、アンロードファイルが破壊された時には、再実行してください。また、アンロードファイルが破壊されていない時には、システム管理者に連絡してください。

KFXO56201-E：オブジェクトの再登録用バッファの確保時に、メモリ不足が発生しました。

要因

オブジェクトの再登録用バッファの確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56202-E：オブジェクトの再登録用作業領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。

要因

オブジェクトの再登録作業領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56203-E：アンロードファイルの入力に失敗しました。レコード種別=XX

レコード種別：

入力しようとしたレコード

要因

アンロードファイルから、レコード種別で示すレコードの入力に失敗したため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56204-E：新旧物理オブジェクト識別子の対応表初期化処理で、エラーが発生しました。

エラーコード=XX

エラーコード：

エラー要因

要因

新旧物理オブジェクト識別子の対応表初期化処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

エラーコードからエラーの原因を取り除いて、データベースをバックアップから回復し、再実行してください。

| エラーコード | 意味    | 対策                                            |
|--------|-------|-----------------------------------------------|
| 33001  | メモリ不足 | 不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行させてください。 |
| その他    | -     | このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。             |

KFXO56205-E：新旧物理オブジェクト識別子の対応表後処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX

エラーコード：

エラー要因

要因

新旧物理オブジェクト識別子の対応表後処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO56206-E：アンロードファイル中にタイプ定義が存在しないタイプが登録されています。

要因

アンロードファイル中にタイプ定義がないタイプが登録されているため、処理が続行できません。

対処

## 付録K メッセージ

オブジェクトの引き上げ後にタイプ定義を変更していないか確認してください。変更している場合は、もう一度オブジェクトを引き上げてから、再実行してください。

KFXO56207-E：アンロードファイル中にユニバーサル関連定義が存在しないユニバーサル関連が登録されています。

### 要因

アンロードファイル中にユニバーサル関連定義がないユニバーサル関連が登録されているため、処理が続行できません。

### 対処

オブジェクトの引き上げ後にユニバーサル関連定義を変更していないか確認してください。変更している場合は、もう一度オブジェクトを引き上げてから、再実行してください。

KFXO56208-E：データベースへのオブジェクトの出力で終了処理に失敗しました。タイプ名=XX

### タイプ名：

処理中のタイプのタイプ名

### 要因

オブジェクトのデータベースへの出力で終了処理ができなかったため、処理が続行できません。

### 対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56209-E：データベースへのオブジェクトの出力で終了処理に失敗しました。ユニバーサル関連名=XX

### ユニバーサル関連名：

処理中のユニバーサル関連のユニバーサル関連名

### 要因

オブジェクトのデータベースへの出力で終了処理ができなかったため、処理が続行できません。

### 対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56210-E：未使用の物理タイプIDの解放処理に失敗しました。エラーコード=XX

### エラーコード：

未使用の物理タイプIDの解放処理中に発生したエラーコード

### 要因

未使用の物理タイプIDの解放処理に失敗したため、処理が続行できません。

### 対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

| エラーコード | 内容     | 対処                                                              |
|--------|--------|-----------------------------------------------------------------|
| 46202  | ロックエラー | 直前に出力されているメッセージに従って、対策してください                                    |
| その他    | -      | 直前にメッセージが出力されている場合はそのメッセージの内容と、このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください |

KFXO56211-E：オブジェクトの削除処理に失敗しました。タイプ名=XX エラーコード=YY

タイプ名：

処理中のタイプのタイプ名

エラーコード：

オブジェクトの削除処理中に発生したエラーコード

要因

オブジェクトの削除処理に失敗したため、処理が続きできません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56212-E：オブジェクトの削除処理に失敗しました。ユニバーサル関連名=XX エラーコード=YY

ユニバーサル関連名：

処理中のユニバーサル関連の名称

エラーコード：

オブジェクトの削除処理中に発生したエラーコード

要因

オブジェクトの削除処理に失敗したため、処理が続きできません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56213-E：OIDインデクス情報ファイル作成の開始処理に失敗しました。エラーコード=XX

エラーコード：

OID インデクス情報ファイル作成の開始処理中に発生したエラーコード

要因

OID インデクス情報ファイル作成の開始処理に失敗したため、処理が続きできません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

付録K メッセージ

| エラーコード | 内容                                   | 対処                                |
|--------|--------------------------------------|-----------------------------------|
| 56613  | ワークファイルに対する lseek() システムコールでエラーが発生した | 直前に出力されているメッセージに従って、対策してください      |
| その他    | -                                    | このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。 |

KFXO56214-E：OIDインデクス情報ファイル作成の終了処理に失敗しました。エラーコード=XX

エラーコード：

OID インデクス情報ファイル作成の終了処理中に発生したエラーコード

要因

OID インデクス情報ファイル作成の終了処理に失敗したため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

| エラーコード | 内容                                   | 対処                                |
|--------|--------------------------------------|-----------------------------------|
| 56616  | ワークファイルに対する write() システムコールでエラーが発生した | 直前に出力されているメッセージに従って、対策してください      |
| その他    | -                                    | このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。 |

KFXO56215-W：所有者が存在しないクラスタードストリングタイプが登録されています。タイプ名=XX

タイプ名：

該当するタイプ名

要因

データベース中に所有者が存在しないクラスタードストリングタイプが登録されています。そのタイプ中のオブジェクトを参照しているオブジェクトは、存在しないものとして、処理を続行します。

KFXO56216-W：クラスタードストリングタイプの所有者のタイプ定義が存在しません。タイプ名=XX 所有者のタイプ番号=XX

タイプ名：

該当するクラスタードストリングタイプ名

タイプ番号：

該当するクラスタードストリングタイプの所有者のタイプ番号

要因

データベース中にクラスタードストリングタイプの所有者のタイプ定義が存在しません。そのクラスタードストリングタイプ中のオブジェクトを参照しているオブジェクトは、存在しないものとして、処理を続行します。

KFXO56217-E：システムオブジェクトの入力に失敗しました。

要因



システムオブジェクトの入力に失敗したため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従い、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56300-E：スキーマ中にタイプ定義が存在しません。

要因

スキーマ中にタイプ定義がないため、処理が続行できません。

対処

スキーマ中にタイプを定義してあるデータベースに対して、再実行してください。

KFXO56301-E：指定したタイプは、定義されていません。タイプ名=XX

タイプ名：

処理対象のタイプのタイプ名

要因

指定したタイプは、定義されていないため、処理が続行できません。

対処

正しいタイプ名を指定して、再実行してください。

KFXO56302-E：指定したタイプには、インデクス定義が存在しません。タイプ名=XX

タイプ名：

処理対象のタイプのタイプ名

要因

指定したタイプには、インデクス定義がないため、処理が続行できません。

対処

インデクスを定義してあるタイプを指定して、再実行してください。

KFXO56303-E：指定したインデクスは、タイプ中に存在しません。タイプ名=XX インデクス名=YY

タイプ名：

処理対象のタイプのタイプ名

インデクス名：

処理対象のインデクスのインデクス名

要因

指定したインデクスは、指定したタイプ中がないため、処理が続行できません。

対処

正しいインデクス名を指定して、再実行してください。

KFXO56304-E：指定したタイプは、定義されていません。タイプ番号=XX

タイプ番号：

処理対象のタイプのタイプ番号

要因

指定したタイプは、定義されていないため、処理が続行できません。

対処

正しいタイプ番号を指定して、再実行してください。

KFXO56305-E：指定したタイプには、インデクス定義が存在しません。タイプ番号=XX

付録K メッセージ

タイプ番号：

処理対象のタイプのタイプ番号

要因

指定したタイプには、インデクス定義がないため、処理が続行できません。

対処

インデクスを定義してあるタイプを指定して、再実行してください。

KFXO56306-E：指定したインデクスは、タイプ中に存在しません。タイプ番号=XX インデクス番号=YY

タイプ番号：

処理対象のタイプのタイプ番号

インデクス番号：

処理対象のインデクスのインデクス番号

要因

指定したインデクスは、指定したタイプ中がないため、処理が続行できません。

対処

正しいインデクス番号を指定して、再実行してください。

KFXO56307-E：インデクス情報ファイルの作成処理に失敗しました。エラーコード=XX

エラーコード：

エラーの要因を示すコード

要因

エラーコードで示す要因によって、インデクス情報ファイルの作成処理に失敗したため、処理が続行できません。

対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

| エラーコード | 内容                         | 対処                               |
|--------|----------------------------|----------------------------------|
| 42400  | インデクス情報テーブル不正 (インデクスエリア不正) | 直前に出力されているメッセージに従って、対策してください     |
| その他    | -                          | このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください |

KFXO56308-E：指定されたエリア名は存在しません。エリア名=XX

エリア名：

該当するエリア名

要因

指定されたエリア名は存在しないため、処理が続行できません。

対処

エリア名を正しく指定して、再起動してください。

KFXO56309-E：指定されたエリア名は指定できない用途のエリア名です。エリア名=XX

エリア名：

該当するエリア名

要因

指定されたエリア名は指定できない用途のエリア名のため、処理が続行できません。

対処

ディクショナリエリア又はユーザエリアを指定して、再起動してください。

KFXO56310-E：指定されたエリアにインデクスは存在しません。エリア名=XX

エリア名：

該当するエリア名

要因

指定されたエリアにインデクスは存在しないため、処理が続行できません。

対処

必要であればエリア名を正しく指定して、再起動してください。

KFXO56311-W：ディクショナリ中にタイプ定義が存在しないインデクスが登録されています。

インデクス名=XX タイプ番号=XX

インデクス名：

該当するインデクス名

タイプ番号：

該当するタイプのタイプ番号

要因

ディクショナリ中にタイプ定義が存在しないインデクスが登録されています。  
このインデクスを無視して、処理を続行します。

KFXO56312-W：ディクショナリ中のタイプ定義とインデクス定義の内容に矛盾があります。インデクス名=XX タイプ番号=XX

インデクス名：

該当するインデクス名

タイプ番号：

該当するタイプのタイプ番号

要因

ディクショナリ中のタイプ定義とインデクス定義の内容に矛盾があります。このインデクスを無視して、処理を続行します。

KFXO56313-E：OIDインデクス情報ファイルの作成処理に失敗しました。エラーコード=XX

エラーコード：

エラーの要因

要因

エラーコードで示す要因によって、OID インデクスのインデクス情報ファイルの作成処理に失敗したため、処理が続行できません。

対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、xodbreog コマンドを再実行してください。

| エラーコード | 内容                                     | 対処                          |
|--------|----------------------------------------|-----------------------------|
| 56613  | ワークファイルに対する lseek() システムコールでエラーが発生しました | 直前に出力されているメッセージに従い、対策してください |

付録K メッセージ

| エラーコード | 内容                                     | 対処                              |
|--------|----------------------------------------|---------------------------------|
| 56616  | ワークファイルに対する write() システムコールでエラーが発生しました | 直前に出力されているメッセージに従い、対策してください     |
| 上記以外   | -                                      | このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください |

KFXO56314-E：エリア情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX

エラーコード：

エラーの要因

要因

エリア情報の取得処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

| エラーコード | 意味           | 対策                           |
|--------|--------------|------------------------------|
| 59010  | 入出力エラー       | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。 |
| 59020  | ディクショナリの内容不正 | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。 |

KFXO56315-E：スキーマ情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX 種別=XX

エラーコード：

エラーの要因

種別：

USER：ユーザ用

DICTIONARY：ディクショナリ用

要因

スキーマ情報の取得処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

| エラーコード | 意味           | 対策                           |
|--------|--------------|------------------------------|
| 59010  | 入出力エラー       | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。 |
| 59020  | ディクショナリの内容不正 | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。 |

KFXO56316-E：タイプ情報一覧の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX 種別=XX

エラーコード：

エラーの要因

種別：

USER：ユーザ用

DICTIONARY：ディクショナリ用

要因

タイプ情報一覧の取得処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

## 対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

| エラーコード | 意味           | 対策                           |
|--------|--------------|------------------------------|
| 59010  | 入出力エラー       | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。 |
| 59020  | ディクショナリの内容不正 | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。 |

KFXO56317-E：ユニバーサル関連情報一覧の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX 種別=XX

エラーコード：

エラーの要因

種別：

USER：ユーザ用

DICTIONARY：ディクショナリ用

要因

ユニバーサル関連情報一覧の取得処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

| エラーコード | 意味           | 対策                           |
|--------|--------------|------------------------------|
| 59010  | 入出力エラー       | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。 |
| 59020  | ディクショナリの内容不正 | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。 |

KFXO56318-E：スキーマが定義されていません。

要因

スキーマが定義されていないため、処理が続行できません。

対処

スキーマが定義してあるデータベースに対して、再実行してください。

KFXO56350-E：インデクス情報ファイル用バッファの確保時に、メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX

要求サイズ：

確保しようとした領域長（単位：バイト）

要因

インデクス情報ファイル用バッファの確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56351-E：インデクスロード処理に失敗しました。エラーコード=XX

エラーコード：

エラーの要因

要因

## 付録K メッセージ

エラーコードで示す要因によって、インデクスロード処理に失敗したため、処理が続行できません。

対処

エラーコードからエラーの原因を取り除いて、再実行してください。

| エラーコード | 内容                                      | 対処                              |
|--------|-----------------------------------------|---------------------------------|
| 42400  | インデクス情報テーブル不正（インデクスエリア不正）               | 直前に出力されているメッセージに従って、対策してください    |
| 42401  | インデクス情報テーブル不正（インデクス ID 不正又はインデクスが存在しない） |                                 |
| 40402  | インデクス格納領域不足                             |                                 |
| 56613  | ワークファイルに対する lseek() システムコールでエラーが発生した    |                                 |
| 56615  | ワークファイルに対する read() システムコールでエラーが発生した     |                                 |
| 56616  | ワークファイルに対する write() システムコールでエラーが発生した    |                                 |
| その他    | -                                       | このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください |

KFXO56352-E：インデクスロード用作業領域の確保時、メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX

要求サイズ：

確保しようとした領域長（単位：バイト）

要因

インデクスロード用作業領域の確保時、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56353-E：インデクス情報作成処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX

エラーコード：

エラーの要因

要因

インデクス情報作成処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

エラーコードからエラーの原因を取り除いて、再実行してください。

| エラーコード | 内容                       | 対処                           |
|--------|--------------------------|------------------------------|
| 45110  | read() システムコールエラー        | 直前に出力されているメッセージに従って、対策してください |
| 45120  | ページ破壊（リードしたサイズがページ長と不一致） |                              |
| 45130  | write() システムコールエラー       |                              |

| エラーコード | 内容                                                       | 対処 |                                  |
|--------|----------------------------------------------------------|----|----------------------------------|
| 44110  | 既に、1 プロセスで使用可能な最大物理エリア数を使用している                           |    |                                  |
| 44120  | open() システムコールエラー                                        |    |                                  |
| 44130  | 物理エリアに対するアクセス権がない、xodbinit コマンドが実行中、またはほかのプロセスが物理エリアを使用中 |    |                                  |
| 44140  | fcntl() システムコールエラー                                       |    |                                  |
| 44150  | ファイルサイズ不一致                                               |    |                                  |
| 43110  | ファイル内更新カウンタ不一致                                           |    |                                  |
| 43120  | ページ種別不一致                                                 |    |                                  |
| 43130  | エリア不一致                                                   |    |                                  |
| 43140  | 物理タイプ不一致                                                 |    |                                  |
| 43150  | ページ ID 不正                                                |    |                                  |
| 43160  | キャッシュ内更新カウンタ不一致                                          |    |                                  |
| 41016  | エリア障害                                                    |    |                                  |
| その他    | -                                                        |    | このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください |

KFXO56354-E : OIDインデクスの再作成時、オブジェクト識別子の重複を検知しました。

**要因**

OID インデクスの再作成時、オブジェクト識別子の重複を検知したため、処理が続行できません。

**対処**

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。なお、このメッセージの出力後に不正を検知した OID インデクスの情報が、xodresult に出力されます。

KFXO56355-E : OIDインデクスの更新時、オブジェクト識別子の重複を検知しました。

**要因**

オブジェクトの再編成においてエリア名を指定した場合、OID インデクスの更新時に、オブジェクト識別子の重複を検知したため、処理が続行できません。

**対処**

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。なお、このメッセージの出力後に不正を検知した OID インデクスの情報が、xodresult に出力されます。

KFXO56356-E : OIDインデクスの更新処理に失敗しました。エラーコード = XX

**エラーコード :**

エラーの要因

**要因**

エラーコードで示す要因により、OID インデクスの更新処理に失敗したため、処理が続行できません。

**対処**

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再起動してください。

付録K メッセージ

| エラーコード | 内容          | 対処                               |
|--------|-------------|----------------------------------|
| 40402  | インデクス格納領域不足 | 直前に出力されているメッセージに従い、対策してください      |
| その他    | -           | このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください |

KFXO56357-E：OIDインデクスの更新作業領域の確保時、メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX

要求サイズ：

確保しようとした領域長（単位：バイト）

要因

OID インデクスの更新作業領域の確保時、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56400-E：スキーマ定義情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX 種別=YY

エラーコード：

エラーの要因

種別：

USER= ユーザ用

DICTIONARY= ディクショナリ用

要因

スキーマ定義情報の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

エラーコードからエラーの原因を取り除いて、データベースをバックアップから回復し、再実行してください。

| エラーコード | 内容            | 対処                                  |
|--------|---------------|-------------------------------------|
| 32500  | データベースの入出力エラー | 直前に出力されているメッセージに従って、対策してください        |
| 32520  | ロック取得エラー      |                                     |
| 32005  | メモリ不足         | 不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください |
| その他    | -             | このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください    |

KFXO56401-E：タイプ定義情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX 種別=YY

エラーコード：

エラーの要因

種別：

USER= ユーザ用



DICTIONARY= ディクショナリ用

要因

タイプ定義情報の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

エラーコードからエラーの原因を取り除いて、データベースをバックアップから回復し、再実行してください。

| エラーコード | 内容            | 対処                                  |
|--------|---------------|-------------------------------------|
| 32500  | データベースの入出力エラー | 直前に出力されているメッセージに従い、対策してください         |
| 32520  | ロック取得エラー      |                                     |
| 32005  | メモリ不足         | 不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください |
| その他    | -             | このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください     |

KFXO56402-E：ユニバーサル関連定義情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX 種別=YY

エラーコード：

エラーの要因

種別：

USER= ユーザ用

DICTIONARY= ディクショナリ用

要因

ユニバーサル関連定義情報の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

エラーコードからエラーの原因を取り除いて、データベースをバックアップから回復し、再実行してください。

| エラーコード | 内容            | 対処                                  |
|--------|---------------|-------------------------------------|
| 32500  | データベースの入出力エラー | 直前に出力されているメッセージに従って、対策してください        |
| 32520  | ロック取得エラー      |                                     |
| 32005  | メモリ不足         | 不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください |
| その他    | -             | このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください    |

KFXO56403-E：属性定義情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX 種別=YY

エラーコード：

エラーの要因

種別：

USER= ユーザ用

DICTIONARY= ディクショナリ用

## 付録K メッセージ

### 要因

属性定義情報の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

### 対処

エラーコードからエラーの原因を取り除いて、データベースをバックアップから回復し、再実行してください。

| エラーコード | 内容            | 対処                                |
|--------|---------------|-----------------------------------|
| 32500  | データベースの入出力エラー | 直前に出力されているメッセージに従って対処してください。      |
| 32520  | ロック取得エラー      | 直前に出力されているメッセージに従って対処してください。      |
| 32005  | メモリ不足         | 不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリを増やしてください。 |
| その他    | -             | このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。 |

KFXO56404-E：ユニバーサル関連属性定義情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX

### エラーコード：

エラーの要因

### 要因

ユニバーサル関連属性定義情報の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

### 対処

次にエラーコードとその対処を示します。エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

| エラーコード | 内容            | 対処                                  |
|--------|---------------|-------------------------------------|
| 32500  | データベースの入出力エラー | 直前に出力されているメッセージに従い、対策してください         |
| 32520  | ロック取得エラー      |                                     |
| 32005  | メモリ不足         | 不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください |
| その他    | -             | このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください    |

KFXO56405-E：インデクス定義情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX

### エラーコード：

エラーの要因

### 要因

インデクス定義情報の取得処理において、エラーが発生したため、処理が続行できません。

### 対処

エラーコードからエラーの原因を取り除いて、データベースをバックアップから回復し、再実行してください。

| エラーコード | 内容            | 対処                                  |
|--------|---------------|-------------------------------------|
| 32500  | データベースの入出力エラー | 直前に出力されているメッセージに従って、対策してください        |
| 32520  | ロック取得エラー      |                                     |
| 32005  | メモリ不足         | 不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください |
| その他    | -             | このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください    |

KFXO56406-E：スキーマが定義されていません。

要因

スキーマが定義されていないため、処理が続行できません。

対処

スキーマが定義してあるデータベースに対して、再実行してください。

KFXO56407-E：エリア情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX

エラーコード：

エラーの要因

要因

エリア情報の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

| エラーコード | 内容            | 対処                              |
|--------|---------------|---------------------------------|
| 32500  | データベースの入出力エラー | 直前に出力されているメッセージに従い、対策してください     |
| 32520  | ロック取得エラー      |                                 |
| 32002  | キャッシュ一杯       |                                 |
| その他    | -             | このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください |

KFXO56408-E：ユニバーサル関連番号から物理タイプ番号の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX

エラーコード：

エラーの要因

要因

ユニバーサル関連番号から物理タイプ番号の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

| エラーコード | 内容            | 対処                                  |
|--------|---------------|-------------------------------------|
| 32005  | メモリ不足         | 不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください |
| 32500  | データベースの入出力エラー | 直前に出力されているメッセージに従い、対策してください         |

付録K メッセージ

| エラーコード | 内容       | 対処                              |
|--------|----------|---------------------------------|
| 32520  | ロック取得エラー |                                 |
| その他    | -        | このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください |

KFXO56409-E：クラスタードストリングタイプを使うタイプ番号の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX

エラーコード：

エラーの要因

要因

クラスタードストリングタイプを使うタイプ番号の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

| エラーコード | 内容            | 対処                                  |
|--------|---------------|-------------------------------------|
| 32005  | メモリ不足         | 不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください |
| 32500  | データベースの入出力エラー | 直前に出力されているメッセージに従い、対策してください         |
| 32520  | ロック取得エラー      |                                     |
| その他    | -             | このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください     |

KFXO56410-E：エリア中のインデクス情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX

エラーコード：

エラーの要因

要因

エリア中のインデクス情報の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

| エラーコード | 内容            | 対処                                  |
|--------|---------------|-------------------------------------|
| 32005  | メモリ不足         | 不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください |
| 32500  | データベースの入出力エラー | 直前に出力されているメッセージに従い、対策してください         |
| 32520  | ロック取得エラー      |                                     |
| その他    | -             | このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください     |

KFXO56411-W：ページ内に不正なスロットを検知しました。タイプ番号=XX

タイプ番号：

不正なスロットが存在するタイプのタイプ番号

要因

ページ内に不正なスロットを検知しました。当該スロットを無視して処理を続

行します。当該スロットの詳細な内容は \$XODDIR/spool ディレクトリ下の pdmp プロセス ID ファイルを参照してください。

**対処**

不正なスロットを検知したページがディクショナリエリアの場合は、ディクショナリエリアをバックアップから回復した後、xodbreog コマンドのインデクス再作成 (OID インデクスエリア指定) を実行してください。

KFXO56412-W : スロットの内容が不正なため、オブジェクトの入力に失敗しました。タイプ番号 = XX

**タイプ番号 :**

不正なスロットが存在するタイプのタイプ番号

**要因**

スロットの内容が不正なため、オブジェクトの入力に失敗しました。当該スロットの詳細な内容は \$XODDIR/spool ディレクトリ下の pdmp プロセス ID ファイルを参照してください。

**対処**

入力に失敗したオブジェクトがディクショナリエリアの場合は、ディクショナリエリアをバックアップから回復した後、xodbreog コマンドのインデクス再作成 (OID インデクスエリアを指定) を実行してください。

KFXO56413-W : データページが破壊されているため、ページの入力に失敗しました。タイプ番号 = XX

**タイプ番号 :**

破壊されたデータページが存在するタイプのタイプ番号

**要因**

データページが破壊されているためページの入力に失敗しました。不正なページを無視して処理を続行します。不正なページの詳細な内容は、\$XODDIR/spool ディレクトリの下での pdmp プロセス ID ファイルを参照してください。

**対処**

入力に失敗したページがディクショナリエリアの場合は、ディクショナリエリアをバックアップから回復した後、xodbreog コマンドのインデクス再作成 (OID インデクスエリアを指定) を実行してください。

KFXO56414-W : データページが破壊されているため、オブジェクトの入力に失敗しました。タイプ番号 = XX

**タイプ番号 :**

破壊されたデータページが存在するタイプのタイプ番号

**要因**

データページが破壊されているためオブジェクトの入力に失敗しました。不正なページの詳細な内容は、\$XODDIR/spool ディレクトリの下での pdmp プロセス ID ファイルを参照してください。

**対処**

入力に失敗したオブジェクトがディクショナリエリアの場合は、ディクショナリエリアをバックアップから回復した後、xodbreog コマンドのインデクス再作成 (OID インデクスエリアを指定) を実行してください。

## 付録K メッセージ

KFXO56500-E：アンロードファイルのレコード編集領域の確保時，メモリ不足が発生しました。レコード種別=XX

レコード種別：

メモリ不足が発生したレコード編集領域の用途

要因

アンロードファイルのレコード編集領域の確保時に，メモリ不足が発生したため，処理が続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか，システムのメモリサイズを増やしてから，データベースをバックアップから回復し，再実行してください。

KFXO56501-E：システムオブジェクトの入力に失敗しました。タイプ名=XX オブジェクト種別=YY

タイプ名：

システムオブジェクトがあるタイプのタイプ名

オブジェクト種別：

システムオブジェクトの種別

要因

タイプ名で示すシステムオブジェクトの入力に失敗したため，処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って，エラーの原因を取り除いて，再実行してください。

KFXO56502-E：オブジェクトの編集領域の確保時，メモリ不足が発生しました。オブジェクト種別=XX

オブジェクト種別：

システムオブジェクトの種別

要因

オブジェクトの編集領域の確保時に，メモリ不足が発生したため，処理が続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか，システムのメモリサイズを増やしてから，再実行してください。

KFXO56503-E：アンロードファイルの入力に失敗しました。タイプ名=XX レコード種別=YY

タイプ名：

処理中のタイプのタイプ名

レコード種別：

入力しようとしたレコード

要因

アンロードファイルから，レコード種別で示すレコードの入力に失敗したため，処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って，エラーの原因を取り除いて，再実行してください。

KFXO56504-E：データベースへのオブジェクトの出力処理に失敗しました。タイプ名=XX オブジェクト種別=YY

タイプ名：

処理中のタイプのタイプ名

オブジェクト種別：

出力しようとしたオブジェクト

要因

オブジェクトをデータベースへ出力できなかったため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56505-E：オブジェクトの更新処理に失敗しました。タイプ名=XX オブジェクト種別=YY

タイプ名：

処理中のタイプのタイプ名

オブジェクト種別：

更新しようとしたオブジェクト

要因

オブジェクトの更新処理に失敗したため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56506-E：コンポジットオブジェクト更新用領域の確保時、メモリ不足が発生しました。

要因

コンポジットオブジェクト更新用領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56507-E：B+treeオブジェクトのソート用作業領域の確保時、メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX

要求サイズ：

確保しようとした領域長（単位：バイト）

要因

B+tree オブジェクトのソート用作業領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56508-E：新旧物理オブジェクト識別子の対応表作成処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX PID登録数=YY

エラーコード：

エラー要因

## 付録K メッセージ

PID 登録数 :

新旧物理オブジェクト識別子の対応表に登録済みのエントリ数

要因

新旧物理オブジェクト識別子の対応表作成処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

次にエラーコードとその対処を示します。エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

| エラーコード       | 内容    | 対処                                  |
|--------------|-------|-------------------------------------|
| 56651, 33001 | メモリ不足 | 不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください |
| その他          | -     | このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください    |

KFXO56509-E : 新旧物理オブジェクト識別子の対応表検索処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX

エラーコード :

エラー要因

要因

新旧物理オブジェクト識別子の対応表検索処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO56510-E : アンロードファイルの出力に失敗しました。タイプ名=XX レコード種別=YY

タイプ名 :

処理中のタイプのタイプ名

レコード種別 :

出力しようとしたレコード

要因

アンロードファイルへの出力時、レコード種別で示すレコードの出力に失敗したため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56511-E : B+treeオブジェクトのソート用作業領域の確保時、メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX

要求サイズ :

確保しようとした領域長 (単位 : バイト)

要因

B+tree オブジェクトのソート用作業領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再



実行してください。

KFXO56512-E：オブジェクト識別子の変換作業領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。

**要因**

オブジェクト識別子の変換作業領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

**対処**

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56513-E：B+tree情報ファイルのレコード編集領域の確保時、メモリ不足が発生しました。レコード種別=XX

**レコード種別：**

メモリ不足が発生した B+tree 情報ファイルのレコード編集領域の用途

**要因**

B+tree 情報ファイルのレコード編集領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

**対処**

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56514-E：システムオブジェクトの入力に失敗しました。ユニバーサル関連名=XX オブジェクト種別=YY

**ユニバーサル関連名：**

システムオブジェクトが存在するユニバーサル関連のユニバーサル関連名

**オブジェクト種別：**

システムオブジェクトの種別

**要因**

ユニバーサル関連名で示すシステムオブジェクトの入力に失敗したため、処理が続行できません。

**対処**

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56515-E：アンロードファイルの入力に失敗しました。ユニバーサル関連名=XX レコード種別=YY

**ユニバーサル関連名：**

処理中のユニバーサル関連のユニバーサル関連名

**レコード種別：**

入力しようとしたレコード

**要因**

アンロードファイルから、レコード種別で示すレコードの入力に失敗したため、処理が続行できません。

**対処**

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

## 付録K メッセージ

KFXO56516-E : データベースへのオブジェクトの出力処理に失敗しました。ユニバーサル関連名=XX オブジェクト種別=YY

ユニバーサル関連名 :

処理中のユニバーサル関連のユニバーサル関連名

オブジェクト種別 :

出力しようとしたオブジェクト

要因

オブジェクトをデータベースへ出力できなかったため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56517-E : オブジェクトの更新処理に失敗しました。ユニバーサル関連名=XX オブジェクト種別=YY

ユニバーサル関連名 :

処理中のユニバーサル関連のユニバーサル関連名

オブジェクト種別 :

更新しようとしたオブジェクト

要因

オブジェクトの更新処理に失敗したため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56518-E : B+treeオブジェクトの出力処理に失敗しました。

要因

B+tree オブジェクトをデータベースへ出力できなかったため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56519-E : B+treeオブジェクトの更新処理に失敗しました。

要因

B+tree オブジェクトの更新処理に失敗したため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56520-E : アンロードファイルの出力に失敗しました。ユニバーサル関連名=XX レコード種別=YY

ユニバーサル関連名 :

処理中のユニバーサル関連のユニバーサル関連名

レコード種別 :

出力しようとしたレコード

要因

アンロードファイルへの出力時、レコード種別で示すレコードの出力に失敗し

たため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56521-E：コンポジットオブジェクト中にタイプ定義が存在しない要素があります。タイプ名=XX

タイプ名：

コンポジットオブジェクトのタイプ名

要因

コンポジットオブジェクト中にタイプ定義が存在しない要素があるため、処理が続行できません。

対処

コンポジットオブジェクト中の要素のタイプ定義を行なうか、不正な要素を削除した後、再実行してください。

KFXO56522-E：オブジェクト識別子の変換処理時に、オブジェクトの検索処理に失敗しました。タイプ名=XX

タイプ名：

処理中のタイプのタイプ名

要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、オブジェクトの検索処理に失敗したため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56523-E：オブジェクト識別子の変換処理時に、オブジェクトの検索処理に失敗しました。ユニバーサル関連名=XX

ユニバーサル関連名：

処理中のユニバーサル関連の関連名称

要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、オブジェクトの検索処理に失敗したため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56524-E：クラスタードストリングオブジェクト入力作業領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX

要求サイズ：

確保しようとした領域長（単位：バイト）

要因

クラスタードストリングオブジェクト入力作業領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再

## 付録K メッセージ

実行してください。

KFXO56525-E：オブジェクト識別子の変換処理時に、オブジェクト識別子の取得処理に失敗しました。エラーコード=XX

エラーコード：

オブジェクト識別子の取得処理中に発生したエラーコード

要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、オブジェクト識別子の取得処理に失敗したため、処理が続行できません。

対処

エラーコードからエラーの原因を取り除いて、再実行してください。

| エラーコード | 内容           | 対処                               |
|--------|--------------|----------------------------------|
| 31017  | ロック取得に失敗した   | 直前に出力されているメッセージに従って、対策してください     |
| 31025  | データベース入出力エラー |                                  |
| その他    | -            | このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください |

KFXO56526-W：ポイント先B + treeオブジェクトまたは、順序付きコレクションオブジェクトが見つかりません。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX オフセット=XX ポイント先のオブジェクト識別子=XX

タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：

オブジェクトの先頭からポイント先のオブジェクト識別子までのオフセット

ポイント先のオブジェクト識別子：

ポイント先 B + tree オブジェクト、または順序付きコレクションオブジェクトへのオブジェクト識別子

要因

ポイント先 B+tree オブジェクト、または順序付きコレクションオブジェクトが見つかりませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56527-W：文字列オブジェクトが見つかりません。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX オフセット=XX 文字列オブジェクトのPID=XX

タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：

オブジェクトの先頭から文字列オブジェクトへの PID までのオフセット

文字列オブジェクトの PID：

本体オブジェクトが指す文字列オブジェクトへの PID

要因

ストリングオブジェクトが見つかりませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56528-W：新オブジェクト識別子の参照時に、クラスタードストリングタイプのストリングオブジェクトが存在しないことを検知しました。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX  
PID=XX オフセット=XX クラスタードストリングのPID=XX

タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

PID：

本体オブジェクトの PID

オフセット：

オブジェクトの先頭からクラスタードストリングの PID までのオフセット

クラスタードストリングの PID：

クラスタードストリングの PID

要因

新オブジェクト識別子の参照時に、クラスタードストリングタイプのストリングオブジェクトがないことを検知しました。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56529-W：オブジェクト識別子の変換処理時に、コンポジットオブジェクトの要素よりポイントされたクラスタードストリングタイプのストリングオブジェクトが存在しないことを検知しました。タイプ名=XX 先頭コンポジットオブジェクトのオブジェクト識別子=XX 不正なコンポジットオブジェクトのPID=XX オフセット=XX クラスタードストリングのPID=XX

タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

先頭コンポジットオブジェクトのオブジェクト識別子：

先頭のコンポジットオブジェクトのオブジェクト識別子

不正なコンポジットオブジェクトの PID：

不正なクラスタードストリングへの PID があるコンポジットオブジェクトの PID

オフセット：

オブジェクトの先頭からクラスタードストリングの PID までのオフセット

クラスタードストリングの PID：

クラスタードストリングの PID

要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、コンポジットオブジェクトの要素からポイントされたクラスタードストリングタイプのストリングオブジェクトがないことを検知しました。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56530-W：リストオブジェクトが見つかりません。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX オフセット=XX リストオブジェクトのオブジェクト識別子=XX エラー種別=XX

タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：

オブジェクトの先頭からリストオブジェクトへのオブジェクト識別子までのオフセット

リストオブジェクトのオブジェクト識別子：

本体オブジェクトが指すリストオブジェクトへのオブジェクト識別子

エラー種別：

エラーが発生した要因

要因

リストオブジェクトが見つかりませんでした。リストオブジェクト生成抑止の定義がなかった場合は、初期化されたリストオブジェクトを生成し、処理を続行します。また、リストオブジェクト生成抑止の定義があった場合は、ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56531-W：続きのリストオブジェクトが見つかりません。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX オフセット=XX 続きのリストオブジェクトのPID=XX

タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：

本体オブジェクトの先頭から当該オブジェクトがある XO\_COL\_LIST(コレクション種別)までのオフセット

続きのリストオブジェクトのPID：

続きのリストオブジェクトへのPID

要因

続きのリストオブジェクトが見つかりませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56532-W：リレーション管理オブジェクト(RC)が見つかりません。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX RCのPID=XX

タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

RCのPID：

リレーション管理オブジェクト(RC)へのPID

要因

リレーション管理オブジェクト(RC)が見付かりませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56533-W：続きのリレーション管理オブジェクト(RC)が見つかりません。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX 続きのRCのPID=XX

タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

続きの RC の PID：

続きのリレーション管理オブジェクト (RC) への PID

要因

続きのリレーション管理オブジェクト (RC) が見付かりませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56534-W：オブジェクト識別子の変換処理時に、リレーション管理オブジェクト(RC)中の関連先のオブジェクトが存在しないことを検知しました。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX RCのPID=XX オフセット=XX 関連先のオブジェクト識別子=XX RC要素=XX

タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

RC の PID：

リレーション管理オブジェクト (RC) への PID

オフセット：

リレーション管理オブジェクト (RC) の先頭から関連先のオブジェクト識別子までのオフセット

関連先のオブジェクト識別子：

関連先オブジェクトのオブジェクト識別子

RC 要素：

リレーション管理オブジェクト (RC) 中の不正な要素

要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、リレーション管理オブジェクト (RC) 中の関連先のオブジェクトが存在しないことを検知しました。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56535-W：リレーションリストオブジェクト(RL)が見つかりません。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX オフセット=XX RLのオブジェクト識別子=XX 要素情報=XX エラー種別=XX

タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：

オブジェクト (ディクショナリ時は、本体オブジェクト。ユーザエリア時は、リレーション管理オブジェクト (RC)) の先頭からリレーションリストオブジェクト (RL) のオブジェクト識別子までのオフセット

RL のオブジェクト識別子：

リレーションリストオブジェクト (RL) のオブジェクト識別子

要素情報：

要素 (ディクショナリ時は、本体オブジェクト中の属性情報。ユーザエリア時

## 付録K メッセージ

は、リレーション管理オブジェクト (RC) 中の要素) の内容

エラー種別：

エラーが発生した要因

要因

リレーションリストオブジェクト (RL) が見つかりませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56536-W：続きのリレーションリストオブジェクト (RL) が見つかりません。タイプ名=XX  
オブジェクト識別子=XX 続きのRLのPID=XX オフセット=XX 要素情報=XX

タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

続きの RL の PID：

続きのリレーションリストオブジェクト (RL) への PID

オフセット：

オブジェクト (ディクショナリ時は、本体オブジェクト。ユーザエリア時は、リレーション管理オブジェクト (RC)) の先頭から要素情報までのオフセット

要素情報：

要素 (ディクショナリ時は、本体オブジェクト中の属性情報。ユーザエリア時は、リレーション管理オブジェクト (RC) 中の要素) の内容

要因

続きのリレーションリストオブジェクト (RL) が見つかりませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56537-W：オブジェクト識別子の変換処理時に、リレーションリストオブジェクト (RL) 中の関連元のオブジェクトが存在しないことを検知しました。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX RLのPID=XX 関連元のオブジェクト識別子=XX オフセット=XX 要素情報=XX

タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

RL の PID：

リレーションリストオブジェクト (RL) の PID

関連元のオブジェクト識別子：

関連元のオブジェクト識別子

オフセット：

オブジェクト (ディクショナリ時は、本体オブジェクト。ユーザエリア時は、リレーション管理オブジェクト (RC)) の先頭から要素情報までのオフセット

要素情報：

要素 (ディクショナリ時は、本体オブジェクト中の属性情報。ユーザエリア時は、リレーション管理オブジェクト (RC) 中の要素) の内容

要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、リレーションリストオブジェクト (RL) 中



の関連元のオブジェクトがないことを検知しました。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56538-W：オブジェクト識別子の変換処理時に、リレーションリストオブジェクト(RL)中の関連先のオブジェクトが存在しないことを検知しました。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX RLのPID=XX 関連先のオブジェクト識別子=XX オフセット=XX 要素情報=XX

タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

RLのPID：

リレーションリストオブジェクト (RL) のPID

関連先のオブジェクト識別子：

関連先のオブジェクト識別子

オフセット：

オブジェクト (ディクショナリ時は、本体オブジェクト。ユーザエリア時は、リレーション管理オブジェクト (RC)) の先頭から要素情報までのオフセット

要素情報：

要素 (ディクショナリ時は、本体オブジェクト中の属性情報。ユーザエリア時は、リレーション管理オブジェクト (RC) 中の要素) の内容

要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、リレーションリストオブジェクト (RL) 中の関連先のオブジェクトがないことを検知しました。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56539-W：新オブジェクト識別子の参照時に、リレーションメンバオブジェクト(RM)中の関連元またはリレーションリストオブジェクト(RL)のオブジェクトが存在しないことを検知しました。ユニバーサル関連名=XX RMのPID=XX タイプ番号=XX 論理タイプ番号=XX 関連元またはRLのオブジェクト識別子=XX

ユニバーサル関連名：

該当するオブジェクトがあるユニバーサル関連名

RMのPID：

リレーションメンバオブジェクト (RM) のPID

タイプ番号：

リレーションメンバオブジェクト (RM) のタイプ番号

論理タイプ番号：

論理タイプ番号

関連元またはRLのオブジェクト識別子：

関連元又はリレーションリストオブジェクト (RL) のオブジェクト識別子

[High-end] の場合

物理形式のアンロード前の旧オブジェクト識別子

要因

新オブジェクト識別子の参照時に、リレーションメンバオブジェクト (RM) 中の関連元、又はリレーションリストオブジェクト (RL) のオブジェクトが存在しな

いことを検知しました。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56540-W：オブジェクト識別子の変換処理時に、ディクショナリ本体オブジェクト中のディクショナリ用関連属性部にある関連先のオブジェクトが存在しないことを検知しました。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX PID=XX オフセット=XX 関連先のオブジェクト識別子=XX 属性情報=XX

タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

PID：

本体オブジェクトの PID

オフセット：

本体オブジェクトの先頭からディクショナリ用関連属性部までのオフセット

関連先のオブジェクト識別子：

関連先のオブジェクト識別子

属性情報：

本体オブジェクト中のディクショナリ用関連属性

要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、ディクショナリ本体オブジェクト中のディクショナリ用関連属性部にある関連先のオブジェクトがないことを検知しました。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56541-W：オブジェクト識別子の変換処理時に、リストオブジェクトのXO\_DATA\_OID型中のオブジェクト識別子に該当するオブジェクトが存在しないことを検知しました。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX オフセット=XX PID=XX XO\_DATA\_OID型のオフセット=XX XO\_DATA\_OID型中のオブジェクト識別子=XX

タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：

本体オブジェクトの先頭から当該オブジェクトがある XO\_COL\_LIST(コレクション種別)までのオフセット

PID：

不正なオブジェクト識別子があるオブジェクトの PID

XO\_DATA\_OID 型のオフセット：

オブジェクトの先頭から XO\_DATA\_OID 型までのオフセット

XO\_DATA\_OID 型中のオブジェクト識別子：

XO\_DATA\_OID 型中のオブジェクト識別子

要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、リストオブジェクトの XO\_DATA\_OID 型中のオブジェクト識別子に該当するオブジェクトが存在しないことを検知しました。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56542-W:ユニバーサル関連定義が存在しないユニバーサル関連が登録されています。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX 関連ID=XX

タイプ名:

該当するオブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子:

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

関連 ID:

該当するユニバーサル関連の関連 ID

要因

データベース中にユニバーサル関連定義が存在しないユニバーサル関連が登録されています。処理を続行します。

KFXO56543-W:新オブジェクト識別子の参照時に、続きのリストオブジェクトが2つ以上のリストオブジェクトよりポイントされていることを検知しました。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX 続きのリストオブジェクトのPID=XX 続きのリストオブジェクトをポイントしているオブジェクトのPID=XX

タイプ名:

該当するオブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子:

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

続きのリストオブジェクトの PID:

続きのリストオブジェクトへの PID

続きのリストオブジェクトをポイントしているオブジェクトの PID:

続きのリストオブジェクトをポイントしているオブジェクトへの PID

要因

新オブジェクト識別子の参照時に、続きのリストオブジェクトが2つ以上のリストオブジェクトからポイントされていることを検知しました。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56544-W:ページ内に不正なスロットを検知しました。タイプ番号=XX

タイプ番号:

不正なスロットが存在するタイプの番号

要因

ページ内に不正なスロットを検知しました。不正と思われるスロットを無視して処理を続行します。このスロットの詳細な内容は、\$XODDIR/spool ディレクトリ下の pdmp プロセス ID ファイルを参照してください。

対処

不正なスロットを検知したページがディクシヨナリエリアの場合は、ディクシヨナリエリアをバックアップから回復した後、xodbreog コマンドのインデクス再作成 (OID インデクスエリア指定) を実行してください。

KFXO56545-W:リロードしなかった不要なリストオブジェクトのオブジェクト識別子または、不正なオブジェクトのオブジェクト識別子の削除に失敗しました。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX オブジェクト種別=XX エラーコード=XX 詳細エラー番号=XX

タイプ名:

該当するオブジェクトが存在するタイプ名  
オブジェクト識別子：  
    該当するオブジェクト識別子  
オブジェクト種別：  
    該当するオブジェクトのオブジェクト種別  
エラーコード：  
    オブジェクト識別子の削除時に発生したエラーコード  
詳細エラー番号：  
    オブジェクト識別子の削除時に発生した詳細エラー番号  
要因

リロードしなかった不要なリストオブジェクトのオブジェクト識別子又は不正なオブジェクトのオブジェクト識別子の削除に失敗しました。該当するエラーを無視して処理を続行します。不正なオブジェクトの場合は、このメッセージ以前に修復された旨のメッセージが出力されています。また、OID インデクスに不要なエントリが残っているので、必要ならばインデクス再作成（OID インデクスエリアを指定）又はオブジェクトの再編成（area 文指定なし）を再実行してください。

KFXO56546-W：データページが破壊されているため、ページの入力に失敗しました。タイプ番号 = XX

タイプ番号：  
    破壊されたデータページが存在するタイプのタイプ番号  
要因

データページが破壊されているため、ページの入力に失敗しました。不正なページを無視して処理を続行します。不正なページの詳細な内容は、\$XODDIR/spool ディレクトリの下での pdmp プロセス ID ファイルを参照してください

対処  
    入力に失敗したページがディクショナリエリアの場合は、ディクショナリエリアをバックアップから回復した後、xodbreog コマンドのインデクス再作成（OID インデクスエリアを指定）を実行してください。

KFXO56547-W：ポイント先B+treeオブジェクトまたは、順序付きコレクションオブジェクトが入力できません。タイプ名 = XX オブジェクト識別子 = XX オフセット = XX ポイント先のオブジェクト識別子 = XX

タイプ名：  
    当該オブジェクトがあるタイプ名  
オブジェクト識別子：  
    本体オブジェクトのオブジェクト識別子  
オフセット：  
    オブジェクトの先頭からポイント先のオブジェクト識別子までのオフセット  
ポイント先のオブジェクト識別子：  
    ポイント先 B+tree オブジェクト又は順序付きコレクションオブジェクトへのオブジェクト識別子  
要因

ポイント先 B+tree オブジェクト又は順序付きコレクションオブジェクトが入力できませんでした。ポイント情報をクリアして処理を続行します。

KFXO56548-W : スtringオブジェクトが入力できません。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX オフセット=XX StringオブジェクトのPID=XX

タイプ名 :

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子 :

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット :

オブジェクトの先頭からStringオブジェクトへの PID までのオフセット

Stringオブジェクトの PID :

本体オブジェクトが指すStringオブジェクトへの PID

要因

Stringオブジェクトが入力できませんでした。ポイント情報をクリアして処理を続行します。

KFXO56549-W : リストオブジェクトが入力できません。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX オフセット=XX リストオブジェクトのオブジェクト識別子=XX

タイプ名 :

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子 :

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット :

オブジェクトの先頭からリストオブジェクトへのオブジェクト識別子までのオフセット

リストオブジェクトのオブジェクト識別子 :

本体オブジェクトが指すリストオブジェクトへのオブジェクト識別子

要因

リストオブジェクトが入力できませんでした。リストオブジェクト生成抑止の定義がなかった場合は、初期化されたリストオブジェクトを生成して処理を続行します。また、リストオブジェクト生成抑止の定義があった場合は、ポイント情報をクリアして処理を続行します。

KFXO56550-W : 続きのリストオブジェクトが入力できません。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX オフセット=XX 続きのリストオブジェクトのPID=XX

タイプ名 :

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子 :

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット :

本体オブジェクトの先頭から当該オブジェクトがある XO\_COL\_LIST(コレクション種別) までのオフセット

続きのリストオブジェクトの PID :

続きのリストオブジェクトへの PID

要因

続きのリストオブジェクトが入力できませんでした。ポイント情報をクリアして処理を続行します。

KFXO56551-W：リレーション管理オブジェクト(RC)が入力できません。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX RCのPID=XX

タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

RCのPID：

リレーション管理オブジェクト(RC)へのPID

要因

リレーション管理オブジェクト(RC)が入力できませんでした。ポイント情報をクリアして処理を続行します

KFXO56552-W：続きのリレーション管理オブジェクト(RC)が入力できません。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX 続きのRCのPID=XX

タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

続きのRCのPID：

続きのリレーション管理オブジェクト(RC)へのPID

要因

続きのリレーション管理オブジェクト(RC)が入力できませんでした。ポイント情報をクリアして処理を続行します

KFXO56553-W：リレーションリストオブジェクト(RL)が入力できません。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX オフセット=XX RLのオブジェクト識別子=XX 要素情報=XX

タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：

オブジェクト(ディクショナリ時：本体オブジェクト，ユーザエリア時：リレーション管理オブジェクト(RC))の先頭からリレーションリストオブジェクト(RL)のオブジェクト識別子までのオフセット

RLのオブジェクト識別子：

リレーションリストオブジェクト(RL)のオブジェクト識別子

要素情報：

要素(ディクショナリ時：本体オブジェクト中の属性情報，ユーザエリア時：リレーション管理オブジェクト(RC)中の要素)の内容

要因

リレーションリストオブジェクト(RL)が入力できませんでした。ポイント情報をクリアして処理を続行します。

KFXO56554-W: 続きのリレーションリストオブジェクト(RL)が入力できません。タイプ名 = XX オブジェクト識別子 = XX 続きのRLのPID = XX オフセット = XX 要素情報 = XX

タイプ名:

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子:

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

続きの RL の PID:

続きのリレーションリストオブジェクト (RL) への PID

オフセット:

オブジェクト (ディクショナリ時: 本体オブジェクト, ユーザエリア時: リレーション管理オブジェクト (RC)) の先頭から要素情報までのオフセット

要素情報:

要素 (ディクショナリ時: 本体オブジェクト中の属性情報, ユーザエリア時: リレーション管理オブジェクト (RC) 中の要素) の内容

要因

続きのリレーションリストオブジェクト (RL) が入力できませんでした。ポイント情報をクリアして処理を続行します。

KFXO56555-E: オブジェクト識別子の変換処理時に, リレーションリストオブジェクト(RL)が入力できません。タイプ名 = XX オブジェクト識別子 = XX オフセット = XX RLのオブジェクト識別子 = XX 要素情報 = XX

タイプ名:

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子:

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット:

オブジェクト (ディクショナリ時: 本体オブジェクト, ユーザエリア時: リレーション管理オブジェクト (RC)) の先頭からリレーションリストオブジェクト (RL) のオブジェクト識別子までのオフセット

RL のオブジェクト識別子:

リレーションリストオブジェクト (RL) のオブジェクト識別子

要素情報:

要素 (ディクショナリ時: 本体オブジェクト中の属性情報, ユーザエリア時: リレーション管理オブジェクト (RC) 中の要素) の内容

要因

オブジェクト識別子の変換処理時に, リレーションリストオブジェクト (RL) が入力できなかったため, 処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って, エラーの原因を取り除いて, 再実行してください。

KFXO56556-E: オブジェクト識別子の変換処理時に, 続きのリレーションリストオブジェクト (RL)が入力できません。タイプ名 = XX オブジェクト識別子 = XX 続きのRLのPID = XX オフセット = XX 要素情報 = XX

タイプ名:

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子:

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

続きの RL の PID:

続きのリレーションリストオブジェクト (RL) への PID

オフセット:

オブジェクト (ディクショナリ時: 本体オブジェクト, ユーザエリア時: リレーション管理オブジェクト (RC)) の先頭から要素情報までのオフセット

要素情報:

要素 (ディクショナリ時: 本体オブジェクト中の属性情報, ユーザエリア時: リレーション管理オブジェクト (RC) 中の要素) の内容

要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、続きのリレーションリストオブジェクト (RL) が入力できなかったため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56557-E: オブジェクト識別子の変換処理時に、リレーション管理オブジェクト (RC) が入力できません。タイプ名 = XX オブジェクト識別子 = XX RCのPID = XX

タイプ名:

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子:

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

RC の PID:

リレーション管理オブジェクト (RC) への PID

要因

オブジェクト識別子の変換処理時にリレーション管理オブジェクト (RC) が入力できなかったため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56558-E: オブジェクト識別子の変換処理時に、続きのリレーション管理オブジェクト (RC) が入力できません。タイプ名 = XX オブジェクト識別子 = XX 続きのRCのPID = XX

タイプ名:

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子:

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

続きの RC の PID:

続きのリレーション管理オブジェクト (RC) への PID

要因

オブジェクト識別子の変換処理時に続きのリレーション管理オブジェクト (RC) が入力できなかったため、処理が続行できません。



## 対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56559-E：オブジェクト識別子の変換処理時に、リストオブジェクトが入力できません。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX オフセット=XX リストオブジェクトのオブジェクト識別子=XX

## タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

## オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

## オフセット：

本体オブジェクトの先頭からリストオブジェクトへのオブジェクト識別子までのオフセット

## リストオブジェクトのオブジェクト識別子：

本体オブジェクトが指すリストオブジェクトへのオブジェクト識別子

## 要因

オブジェクト識別子の変換処理時にリストオブジェクトが入力できなかったため、処理が続行できません。

## 対処

直前に出力されたメッセージに従ってエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO56560-E：オブジェクト識別子の変換処理時に、続きのリストオブジェクトが入力できません。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX オフセット=XX 続きのリストオブジェクトのPID=XX

## タイプ名：

当該オブジェクトがあるタイプ名

## オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

## オフセット：

本体オブジェクトの先頭から当該オブジェクトがある XO\_COL\_LIST(コレクション種別)までのオフセット

## 続きのリストオブジェクトの PID：

続きのリストオブジェクトへの PID

## 要因

オブジェクト識別子の変換処理時に続きのリストオブジェクトが入力できなかったため、処理が続行できません。

## 対処

直前に出力されたメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再度実行してください。

KFXO56561-E：オブジェクト識別子の変換処理時に、順序付きコレクションオブジェクトが入力できません。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX オフセット=XX ポイント先のオブジェクト識別子=XX

## タイプ名：

## 付録K メッセージ

当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：

本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：

オブジェクトの先頭から順序付きコレクションオブジェクトのオブジェクト識別子までのオフセット

ポイント先のオブジェクト識別子：

順序付きコレクションオブジェクトへのオブジェクト識別子

要因

オブジェクト識別子の変換処理時に順序付きコレクションオブジェクトが入力できなかったため、処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56562-W：オブジェクト識別子重複チェック用ハッシュエントリの登録処理で、エラーが発生しました。以降、アンロード処理でのオブジェクト識別子の重複チェックは行ないません。エラーコード=XX

要因

オブジェクト識別子重複チェック用のハッシュエントリの登録処理でエラーが発生しましたが、処理を続行します。ただし、このメッセージ以降、アンロード処理でのオブジェクト識別子の重複チェックはしません。

対処

必要に応じてエラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

| エラーコード | 意味    | 対策                                   |
|--------|-------|--------------------------------------|
| 33001  | メモリ不足 | 不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください。 |
| その他    | -     | このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。     |

KFXO56563-E：不要なクラスタードストリングオブジェクトの削除処理に失敗しました。PID=XX エラーコード=XX

PID：

当該オブジェクトの PID

エラーコード：

オブジェクトの削除処理中に発生したエラーコード

要因

不要なクラスタードストリングオブジェクトの削除処理に失敗したため、処理が続行できません

対処

直前に出力されているメッセージに従ってエラーの原因を取り除き、再編成ユーティリティ (xodbreog コマンド) を再起動してください。

KFXO56601-E：アンロードファイルの入出力バッファの確保時に、メモリ不足が発生しました。

要因

アンロードファイルの入出力バッファの確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

## 対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56602-E：アンロードファイルのオープンに失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

## ファイル名：

オープンに失敗したファイルのファイル名

## エラー番号：

システムコールの open() で返されたエラー番号

## 要因

アンロードファイルのオープン時、open() システムコールでエラー番号で示すエラーが発生したため、処理が続行できません。

## 対処

エラー番号を参照してエラーの原因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

| エラー番号 | 要因                                                | 対処                                                                                       |
|-------|---------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2     | 再編成パラメタファイル、又は再構成パラメタファイルに指定したアンロードファイルのパスが存在しません | ディレクトリを作成するか、既に存在するディレクトリ名にパスを変更してください                                                   |
| 17    | 再編成パラメタファイル、又は再構成パラメタファイルに指定したファイルは既に存在しています      | 当該ファイルがアンロードファイルであれば、ファイルを削除してください。又は、再編成パラメタファイル若しくは再構成パラメタファイルに指定したアンロードファイル名を変更してください |

KFXO56603-E：アンロードファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

## ファイル名：

ファイルの読み込みに失敗したファイルのファイル名

## エラー番号：

システムコールの read() で返されたエラー番号

## 要因

アンロードファイルの読み込みをしようとした時、システムコールの read() でエラーが発生したため、処理が続行できません。

## 対処

エラー番号を参照してエラーの原因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO56605-E：アンロードファイルのポインタの移動に失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

## ファイル名：

## 付録K メッセージ

ポインタの移動に失敗したファイルのファイル名  
エラー番号：

システムコールの lseek() で返されたエラー番号

要因

アンロードファイルのポインタの移動をしようとした時、システムコールの lseek() でエラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

エラー番号を参照してエラーの原因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO56606-E：アンロードファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

ファイル名：

書き込みに失敗したファイルのファイル名

エラー番号：

システムコールの write() で返されたエラー番号

要因

アンロードファイルの書き込みをしようとした時、システムコールの write() でエラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

エラー番号を参照してエラーの原因を取り除いて、再実行してください。

| エラー番号 | 意味                                                   | 対処                                                                                                                                                                                      |
|-------|------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 22    | ファイルサイズが 2G バイト以上になりました。                             | 再編成パラメタファイル又は再構成パラメタファイルの -u オペランドに、ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称を追加して再実行してください。ただし、ユーザデータベースエリアのアンロードファイルには、空き領域が十分にあるパーティションのディレクトリを指定してください。また、ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称は、128 個まで指定できます。 |
| 27    | ファイルが大き過ぎます。プロセスで書き込めるファイルの大きさの限界又は最大ファイルの大きさに達しました。 |                                                                                                                                                                                         |
| 28    | デバイス内に空き領域がありません。                                    |                                                                                                                                                                                         |
| 上記以外  | -                                                    | 「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照して、エラーの要因を取り除いてください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。                                                                                                            |

KFXO56607-E：アンロードファイルのクローズに失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

ファイル名：

クローズに失敗したファイルのファイル名

エラー番号：

システムコールの close() で返されたエラー番号

要因

アンロードファイルをクローズしようとした時、システムコールの close() でエラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

エラー番号を参照してエラーの原因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO56608-E：処理結果ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

ファイル名：

オープンに失敗したファイルのファイル名

エラー番号：

システムコールの open() で返されたエラー番号

要因

処理結果ファイルをオープンしようとした時、システムコールの open() でエラーが発生しましたが、処理を続行します。

対処

処理結果ファイルを正しく出力したい場合は、エラー番号を参照してエラーの原因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO56609-E：処理結果ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

ファイル名：

書き込みに失敗したファイルのファイル名

エラー番号：

システムコールの write() で返されたエラー番号

要因

処理結果ファイルに書き込みをしようとした時、システムコールの write() でエラーが発生しましたが、処理を続行します。

対処

処理結果ファイルを正しく出力したい場合は、エラー番号を参照してエラーの原因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO56610-E：処理結果ファイルのクローズに失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

ファイル名：

クローズに失敗したファイルのファイル名

エラー番号：

システムコールの close() で返されたエラー番号

要因

## 付録 K メッセージ

処理結果ファイルをクローズしようとした時、システムコールの `close()` でエラーが発生しましたが、処理を続行します。

### 対処

処理結果ファイルの出力を正しく行ないたい場合は、エラー番号を参照してエラーの原因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO56611-E : ワークファイルのオープンに失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

ファイル名 :

オープンに失敗したファイルのファイル名

エラー番号 :

システムコールの `open()` で返されたエラー番号

### 要因

ワークファイルをオープンしようとした時、システムコールの `open()` でエラーが発生したため、処理が続行できません。

### 対処

エラー番号を参照してエラーの原因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO56612-E : ワークファイルの削除に失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

ファイル名 :

削除に失敗したファイルのファイル名

エラー番号 :

システムコールの `unlink()` で返されたエラー番号

### 要因

ワークファイルを削除しようとした時、システムコールの `unlink()` でエラーが発生したため、処理が続行できません。

### 対処

エラー番号を参照してエラーの原因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO56613-E : ワークファイルのポインタの移動に失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

ファイル名 :

ファイルポインタの移動に失敗したファイルのファイル名

エラー番号 :

システムコールの `lseek()` で返されたエラー番号

### 要因

ワークファイルのファイルポインタの移動をしようとした時、システムコールの `lseek()` でエラーが発生したため、処理が続行できません。

### 対処

エラー番号を参照してエラーの原因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照し

てください。

KFXO56615-E : ワークファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

ファイル名 :

ファイルの読み込みに失敗したファイルのファイル名

エラー番号 :

システムコールの read() で返されたエラー番号

要因

ワークファイルの読み込みをしようとした時、システムコールの read() でエラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

エラー番号を参照してエラーの原因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO56616-E : ワークファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

ファイル名 :

書き込みに失敗したファイルのファイル名

エラー番号 :

システムコールの write() で返されたエラー番号

要因

ワークファイルの書き込みをしようとした時、システムコールの write() でエラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

エラー番号を参照してエラーの原因を取り除いて、再実行してください。

| エラー番号 | 意味                                                   | 対処                                                                           |
|-------|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 22    | ファイルサイズが 2 ギガバイト以上になりました。                            | バックアップからの回復が必要であれば、バックアップから回復した後、このメッセージに続いて出力されるメッセージの対処に従ってください。           |
| 27    | ファイルが大きすぎます。プロセスで書き込めるファイルの大きさの限界又は最大ファイルの大きさに達しました。 |                                                                              |
| 上記以外  | -                                                    | 「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照して、エラーの要因を取り除いてください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。 |

エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO56617-E : ワークファイルのクローズに失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=YY

ファイル名 :

クローズに失敗したファイルのファイル名

エラー番号 :

システムコールの close() で返されたエラー番号

## 付録K メッセージ

### 要因

ワークファイルをクローズしようとした時、システムコールの close() でエラーが発生したため、処理が続行できません。

### 対処

エラー番号を参照してエラーの原因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO56618-E : アンロードファイルの書き込み中に容量不足となりました。ファイル名=XX  
ファイル名 :

書き込みに失敗したファイルのファイル名

### 要因

アンロードファイルに書き込もうとしたとき、ユーザ限界 (ulimit) の設定値、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多い書き込み要求をしたため、要求分書き込めませんでした。

### 対処

不要なファイルを削除し、xodreog コマンドを再起動してください。

KFXO56619-E : 処理結果ファイルの書き込み中に容量不足となりました。ファイル名=XX  
ファイル名 :

書き込みに失敗したファイルのファイル名

### 要因

アンロードファイルに書き込もうとしたとき、ユーザ限界 (ulimit) の設定値、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多い書き込み要求をしたため、要求分書き込めませんでした。また、処理は続行しますが、このメッセージ出力以降は、処理結果ファイルへの処理結果の出力は行ないません。

### 対処

処理結果ファイルの出力を正しく行ないたい場合は、不要なファイルを削除し、xodreog コマンドを再起動してください。

KFXO56620-E : ワークファイルの書き込み中に容量不足となりました。ファイル名=XX  
ファイル名 :

書き込みに失敗したファイルのファイル名

### 要因

ワークファイルに書き込もうとしたとき、ユーザ限界 (ulimit) の設定値、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多い書き込み要求をしたため、要求分書き込めませんでした。

### 対処

不要なファイルを削除し、再実行してください。

KFXO56622-E : ワークファイル用の作業領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX

### 要求サイズ :

確保しようとした領域長 (単位 : バイト)

### 要因

ワークファイル用の作業領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が



続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56623-E: アンロードファイルの削除に失敗しました。ファイル名=XX エラー番号=XX

ファイル名:

削除に失敗したファイルのファイル名

エラー番号:

システムコールの unlink() で返されたエラー番号

要因

xodbreog コマンドの正常終了時にアンロードファイルを削除しようとしたとき、システムコール unlink() でエラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

xodbreog コマンドは正常に終了しています。アンロードファイルが不要であれば、削除してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO56624-E: オブジェクト識別子重複情報ファイル用バッファの確保時に、メモリ不足が発生しました。

要因

オブジェクト識別子重複情報ファイル用バッファの確保時にメモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56625-E: オブジェクト識別子重複チェック用ハッシュエントリの検索処理で、エラーが発生しました。エラーコード = XX

エラーコード:

エラー要因

要因

オブジェクト識別子重複チェック用のハッシュエントリの検索処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。

KFXO56626-E: オブジェクト識別子の重複エラーを検知したため、OIDインデクスからOID情報を入力しようとしたがエラーが発生しました。エラーコード = XX

エラーコード:

エラー要因

要因

オブジェクト識別子の重複エラーを検知したため OID インデクスから OID 情報を入力しようとしたが、エラーが発生したため処理が続行できません。

対処

直前に出力されているメッセージに従ってエラーの原因を取り除き、再実行し

## 付録K メッセージ

てください。

KFXO56651-E：新旧物理オブジェクト識別子の対応表領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX PID登録数=XX

要求サイズ：

確保しようとした領域長（単位：バイト）

PID 登録数：

新旧物理オブジェクト識別子の対応表に登録済みのエントリ数

要因

新旧物理オブジェクト識別子の対応表領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56652-W：オブジェクト識別子重複チェック用テーブルの領域確保時に、メモリ不足が発生しました。以降、アンロード処理でのオブジェクト識別子の重複チェックは行ないません。要求サイズ=XX PID登録数=XX

要求サイズ：

確保しようとした領域長（単位：バイト）

PID 登録数：

新旧物理オブジェクト識別子の対応表に登録済みのエントリ数

要因

オブジェクト識別子重複チェック用テーブルの領域の確保時にメモリ不足が発生しましたが、処理を続行します。ただし、アンロード処理でのオブジェクト識別子の重複チェックはしません。

KFXO56998-E：再編成の処理で異常を検知しました。DBをバックアップから回復してください。理由コード=XX 詳細コード=XX ファイル名=XX 場所=XX

理由コード：

何の要因でアボートしたか、何の異常かを表すコード

詳細コード：

詳細コードを示す。(表 K-2)

ファイル名：

アボートしたファイル名

場所：

ファイル中の行番号

要因

内部矛盾を検知したため、アボートしました。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときは、コアファイルを保存してください。また、データベースをバックアップによって回復する必要があります。

KFXO56999-E：再編成の処理で異常を検知しました。理由コード=WW 詳細コード=YY ファイル名=YY 発生場所=ZZ

理由コード：

エラーの原因を示す内部コード。

詳細コード：

詳細コードを示す（表 K-2）。

ファイル名：

エラーが発生したファイル名を示す。

場所：

エラーが発生したファイルの箇所を示す。

要因

内部矛盾を検出しました。

対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときは、コアファイルを保存してください。なお、データベースの回復は不要です。

KFXO57000-I：DB構成変更ユティリティ（エリア追加）を開始します。

要因

xodaradd コマンドを開始したときに出力されます。コマンドの処理結果（オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「xodresult」）には、一つのエリア追加処理が正常終了するごとに出力されます。

KFXO57001-I：DB構成変更ユティリティ（エリア追加）が正常終了しました。

要因

xodaradd コマンドが正常終了したときに出力されます。コマンドの処理結果（オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル「xodresult」）には、一つのエリアの追加処理が正常終了する毎に出力されます。

KFXO57002-E：DB構成変更ユティリティ（エリア追加）が異常終了しました。

要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーによって、xodaradd コマンドが異常終了しました。

対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再実行してください。

KFXO57015-I：DB構成変更ユティリティ（エリア削除）を開始します。

要因

xodarrm コマンドを開始したときに出力されます。

KFXO57016-I：DB構成変更ユティリティ（エリア削除）が正常終了しました。

要因

xodarrm コマンドが正常終了したときに出力されます。

KFXO57017-E：DB構成変更ユティリティ（エリア削除）が異常終了しました。

要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーによって、xodarrm コマンドが異常終了しました。

## 付録K メッセージ

### 対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再起動してください。

KFXO57018-I：DB構成変更ユティリティ（ファイル追加）を開始します。

### 要因

xodfladd コマンドを開始した時に出力されます。

KFXO57019-I：DB構成変更ユティリティ（ファイル追加）が正常終了しました。

### 要因

xodfladd コマンドが正常終了した時に出力されます。

KFXO57020-E：DB構成変更ユティリティ（ファイル追加）が異常終了しました。

### 要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーによって xodfladd コマンドが異常終了しました。

### 対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処後、再起動してください。

KFXO57021-I：DB構成変更ユティリティ（ファイル属性変更）を開始します。

### 要因

xodflalt コマンドを開始した時に出力されます。

KFXO57022-I：DB構成変更ユティリティ（ファイル属性変更）が正常終了しました。

### 要因

xodflalt コマンドが正常終了した時に出力されます。

KFXO57023-E：DB構成変更ユティリティ（ファイル属性変更）が異常終了しました。

### 要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーによって xodflalt コマンドが異常終了しました。

### 対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再起動してください。

KFXO57024-I：エリア追加は完了済みです。エリア名：XX

### エリア名：

追加したエリアのエリア名

### 要因

エリアの追加完了後にエラーが発生したときに出力されます。このメッセージ以前にエラーが発生しましたが、エリア追加は完了しています。このため、エリア追加処理は無効にしないで処理を続行します。

KFXO57025-I：ファイル追加は完了済みです。エリア名：XX ファイル名：YY

### エリア名：

ファイル追加したエリアのエリア名を示します。

### ファイル名：

追加したファイルのファイル名を示します。

### 要因

ファイルの追加完了後にエラーが発生した時に出力されます。このメッセージ以前にエラーが発生しましたが、ファイル追加は完了しているため、ファイル追加処理は無効にしないで処理を続行します。

KFXO57026-I：ファイル属性変更は完了済みです。エリア名：XX ファイル名：YY

エリア名：

ファイル属性変更したエリアのエリア名を示します。

ファイル名：

変更するファイルのファイル名を示します。

要因

ファイル属性変更完了後にエラーが発生した時に出力されます。このメッセージ以前にエラーが発生しましたが、ファイル属性変更は完了しているため、ファイル属性変更処理は無効にしないで処理を続行します。

KFXO57027-I：DB構成変更ユティリティ（エリア追加）の一部のエリア追加に異常が発生しました。

要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーによって、xodaradd コマンドの一部のエリア追加ができませんでした。

対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再度実行してください。

KFXO57029-I：エリア削除は完了済みです。エリア名：XX

エリア名：削除したエリアのエリア名

要因

エリア削除完了後にエラーが発生したときに出力されます。このメッセージ以前にエラーが発生しましたが、エリア削除は完了しています。このため、エリア削除処理は無効にしないで処理を続行します。

対処

このメッセージ以前に、KFXO57508-E が出力されている場合は、メッセージに表示されているファイルを削除または移動してください。

KFXO57030-I：DB再構成ユティリティ（エリア再作成）を開始します。

要因

データベース再構成ユティリティの xodbrencs コマンド（エリア再作成）を開始した時に出力されます。

KFXO57031-I：DB再構成ユティリティ（エリア再作成）が正常終了しました。

要因

データベース再構成ユティリティの xodbrencs コマンド（エリア再作成）が正常終了した時に出力されます。

KFXO57032-E：DB再構成ユティリティ（エリア再作成）が異常終了しました。

要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーによりデータベース再構成ユティリティの xodbrencs コマンド（エリア再作成）が異常終了しました。

対処

## 付録K メッセージ

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再起動してください。

KFXO57033-I : DB再構成ユティリティ ( エリア再作成 ) の一部のエリア再作成に異常が発生しました。

### 要因

データベース再構成ユティリティの xodbrcons コマンド ( エリア再作成 ) の一部のエリア再作成に異常が発生した時に出力されます。

### 対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再起動してください。

KFXO57034-I : エリアの再初期化を開始します。エリア名 : XX

### 要因

エリアの再初期化を開始する時に出力されます。

KFXO57035-I : エリアのアンロードを開始します。エリア名 : XX

### 要因

エリアのアンロードを開始する時に出力されます。

KFXO57036-I : エリアのリロードを開始します。エリア名 : XX

### 要因

エリアのリロードを開始する時に出力されます。

KFXO57037-I : インデクスの再作成を開始します。エリア名 : XX

### 要因

インデクスの再作成を開始する時に出力されます。

KFXO57051-E : OMSが起動されていません。

### 要因

オブジェクトサーバが起動されていないため、データベース構成変更ユティリティが実行できませんでした。

### 対処

オブジェクトサーバを起動してから、再度、データベース構成変更ユティリティを実行してください。

KFXO57052-E : OMSとの接続時にエラーが発生しました。エラーコード : XX , 詳細エラー番号 : XX

### エラーコード :

接続時に発生したエラーコード

### 詳細エラー番号 :

接続時に発生したエラーの詳細コード

### 要因

オブジェクトサーバとの接続時にエラーが発生しました。

### 対処

次にエラーコードに対する対処を示します。

| エラーコード | 内容                            | 対処                                                                                |
|--------|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 85     | オブジェクトキャッシュ割り当てでメモリ不足が発生しました。 | オブジェクトサーバのメモリ所要量を見直してください。                                                        |
| その他    | -                             | 「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。 |

KFXO57053-E: トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。エラーコード: XX, 詳細エラー番号: XX

エラーコード:

トランザクション開始処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号:

トランザクション開始中に発生したエラーの詳細コード

要因

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO57055-E: コミット処理中にエラーが発生しました。エラーコード: XX 詳細エラー番号: XX

エラーコード:

コミット処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号:

コミット処理中に発生したエラーの詳細コード

要因

コミット処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO57056-E: ロールバック処理中にエラーが発生しました。エラーコード: XX 詳細エラー番号: XX

エラーコード:

ロールバック処理中に発生したエラーコードを示します。

詳細エラー番号:

ロールバック処理中に発生した詳細エラー番号を示します。

要因

ロールバック処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

## 付録K メッセージ

KFXO57057-E : バッファフラッシュ処理中にエラーが発生しました。詳細エラー番号 : XX  
詳細エラー番号 :

バッファフラッシュ処理中に発生したエラーの詳細コード

要因

バッファフラッシュ処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO57058-E : コミット開始処理宣言でエラーが発生しました。詳細エラー番号 : XX  
詳細エラー番号 :

発生したエラーの詳細コード

要因

コミット開始処理でエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO57059-E : OMSの実行モードがユティリティ実行モードではありません。

要因

オブジェクトサーバをユティリティ実行モードで起動していないため実行できません。

対処

オブジェクトサーバを停止させて、ユティリティ実行モードで再起動し、再実行してください。

KFXO57060-E : 同時に実行できない他のユティリティが実行中です。

要因

同時に実行できないほかのユティリティが実行中のため、ユティリティが実行できません。

対処

同時に実行できないほかのユティリティの終了を待って、再実行してください。

KFXO57100-E : 引数の指定に誤りがあります。

要因

コマンドの引数が正しく指定されていません。

対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO57101-I : 使用方法 : XX -f ファイル名

XX :

実行したコマンドの名称

要因

コマンドの引数を正しく指定していません。

対処



正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO57102-I : 使用方法 : xodarrm -n エリア名

要因

コマンドの引数を正しく指定していません。

対処

正しい値を指定して、再度実行してください。

KFXO57103-E : ファイルの定義が不足しています。エリア名 : XX

エリア名 :

ファイル定義が不足していたエリア名

要因

エリアに対応するファイルが定義されていません。

対処

パラメタファイルを見直して、不足しているエリアに対応するファイルを定義して、再実行してください。

KFXO57105-E : areaパラメタが定義されていません。

要因

パラメタファイルに、エリアを定義するための area パラメタが定義されていません。

対処

パラメタファイルに area パラメタによってエリアを定義して、再実行してください。

KFXO57106-E : ファイル名が重複しています。エリア名 : XX ファイル名 : XX

エリア名 :

重複したファイルを持つエリアのエリア名

ファイル名 :

重複したファイル名

要因

構成変更パラメタファイルに定義したファイル名が重複しています。

対処

ファイル名が重複しないように定義し直して、再実行してください。

KFXO57107-E : areaパラメタのオプションが定義されていません。エリア名 : XX オプション : XX

エリア名 :

オプションが定義されていない area パラメタに指定したエリア名

オプション名 :

定義不足のオプション名

要因

構成変更パラメタファイルに定義した area パラメタにオプションが定義されていません。

対処

area パラメタのオプションを定義し直して、再実行してください。

KFXO57108-E : fileパラメタのオプションが定義されていません。エリア名 : XX ファイル

## 付録K メッセージ

名 : XX オプション : XX

エリア名 :

area パラメタに指定したエリア名

ファイル名 :

オプションが定義されていない file パラメタに指定したファイル名

オプション名 :

定義不足のオプション名

要因

構成変更パラメタファイルに定義した file パラメタにオプションが定義されていません。

対処

file パラメタのオプションを定義し直して、再実行してください。

KFXO57109-I : 使用方法 : xodflalt -n エリア名 -f ファイル名 -m 最大割当量

要因

コマンドの引数を正しく指定していません。

対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO57110-E : エリアの用途が不正です。エリア名 : XX 用途 : XX

エリア名 :

不正な用途を指定したエリアのエリア名

用途 :

-u オプションに指定した不正な用途

要因

構成変更パラメタファイルに定義した area パラメタの -u オプションに指定したエリアの用途が不正です。

対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO57112-E : XX番目のareaパラメタのオプションが定義されていません。オプション : XX

XX 番目 :

構成変更パラメタファイル中の、オプションが定義されていない area パラメタの位置

オプション名 :

定義不足のオプション名

要因

構成変更パラメタファイルに定義したエリアにオプションが定義されていません。

対処

area パラメタにオプションを定義し直して、再実行してください。

KFXO57113-E : エリア名 <XX> のXX番目のfileパラメタのオプションが定義されていません。

オプション : XX

エリア名 :

オプションが定義されていないファイルをもつエリアのエリア名

XX 番目：

構成変更パラメタファイル中の、オプションが定義されていないファイルの位置

オプション名：

定義不足のオプション名

要因

構成変更パラメタファイルに定義したファイルにオプションが定義されていません。

対処

file パラメタにオプションを定義し直して、再実行してください。

KFXO57114-E：1つのエリア中に定義できるファイル数が最大数を超過しています。エリア名：

XX 最大数：XX

エリア名：

ファイルの最大値 16 個を超過して定義されたエリアのエリア名

最大数：

1 エリアに定義できるファイルの最大数（単位：個）

要因

一つのエリア中に定義できるファイル数が最大数 16 個を超過して定義されています。

対処

一つのエリア中のファイル数が最大数以下になるように定義し直して、再実行してください。

KFXO57116-E：ファイル名の長さが定義範囲を超過しています。エリア名：XX ファイル名：

XX 最小値：XX 最大値：XX

エリア名：

定義範囲を超過したファイル名が定義されているエリアのエリア名

ファイル名：

定義範囲を超過したファイル名

最小値：

ファイル名の長さ（単位：バイト）の最小値

最大値：

ファイル名の長さ（単位：バイト）の最大値

要因

構成変更パラメタファイルに定義したファイル名の長さが定義範囲を超過しています。

対処

ファイル名の長さを定義範囲内に定義し直して、再実行してください。

KFXO57117-E：定義されたファイル名が/から始まっていません。エリア名：XX ファイル名：

XX

エリア名：/から始まっていないファイルが定義されているエリアのエリア名

ファイル名：/から始まっていないファイル名

要因

定義ファイルに定義したファイル名が/から始まっていません。

## 付録K メッセージ

### 対処

ファイル名を 'l' からパス名付きで定義し直して、再実行してください。

KFXO57118-E：指定した最大割当量の値が不正な値です。

### 要因

xodflalt コマンドのオプション (-m) に指定した最大割当量の値に半角数字 0-9 以外の値を指定しています。

### 対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO57119-E：指定した最大割当量の値が指定すべき範囲を超えています。最小値：XX 最大値：YY

### 最小値：

指定できる最大割当量（単位：セグメント）の最小値を示します。

### 最大値：

指定できる最大割当量（単位：セグメント）の最大値を示します。

### 要因

xodflalt コマンドのオプション (-m) に指定した最大割当量の値は 1 以上 524,288 以下の値を指定しなければなりません。

### 対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO57120-E：areaパラメタが2つ以上指定されています。

### 要因

構成変更パラメタファイルに area パラメタが2個以上指定されています。

### 対処

area パラメタを1個にして、再実行してください。

KFXO57121-E：エリア名 <XX> のfileパラメタが2つ以上指定されています。

### エリア名：

2個以上 file パラメタが定義されているエリアのエリア名を示します。

### 要因

構成変更パラメタファイルに file パラメタが2個以上指定されています。

### 対処

file パラメタを1個にして、再実行してください。

KFXO57123-E：ユーザ用、インデクス用エリアの合計が最大数を超えています。最大数：XX

### 最大数：

定義可能なユーザ用、インデクス用エリアの合計の最大数

### 要因

構成変更パラメタファイルに定義されたユーザ用、インデクス用エリアの合計が最大数 3,174 個を超えています。

### 対処

ユーザ用、インデクス用エリアの合計を最大数以下に定義し直して、再実行してください。

KFXO57124-E：エリア名の長さが定義範囲を超えています。エリア名：XX 最小値：YY 最

大値 : ZZ

エリア名 :

定義範囲を超えたエリア名

最小値 :

エリア名の長さ (単位 : バイト) の最小値

最大値 :

エリア名の長さ (単位 : バイト) の最大値

要因

xodflalt コマンドまたは xodarrm コマンドのオプション (-n) に指定したエリア名は長さが定義範囲を超えています。

対処

エリア名の長さを定義範囲内に指定し直して、再実行してください。

KFXO57125-E : 用途がOIDINDEXのareaパラメタを複数指定しています。

要因

xodaradd コマンドの構成変更パラメタ中に -u OIDINDEX 指定の area パラメタが複数あります。

対処

構成変更パラメタ中の -u OIDINDEX 指定の area パラメタを 1 つにして再実行してください。

KFXO57126-E : ファイル名の長さが定義範囲を超えています。エリア名 : XX 最小値 : YY

最大値 : ZZ

エリア名 :

定義範囲を超えたエリア名

最小値 :

ファイル名の長さ (単位 : バイト) の最小値

最大値 :

ファイル名の長さ (単位 : バイト) の最大値

要因

xodflalt コマンドのオプション (-f) に指定したファイル名は長さが定義範囲を超えています。

対処

エリア名の長さを定義範囲内に指定し直して、再実行してください。

KFXO57127-E : recreate文を複数指定しています。

要因

recreate 文を複数指定しています。

対処

パラメタファイルを修正して、再度実行してください。

KFXO57128-E : recreate文がありません。

要因

recreate 文がありません。

対処

パラメタファイルを修正して、再度実行してください。

## 付録K メッセージ

KFXO57129-E : 用途がDICTIONARYのareaパラメタを複数指定しています。

要因

用途が DICTIONARY の area パラメタを複数指定しています。

対処

パラメタファイルを修正して、再度実行してください。

KFXO57130-E : パス名の長さが定義範囲を超えています。コマンド : XX オプション : XX

パス名 : XX 最小値 : XX 最大値 : XX

コマンド :

定義範囲を超えたパス名が指定されているコマンド名

オプション :

定義範囲を超えたパス名が定義されているオプション名

パス名 :

定義範囲を超えたパス名

最小値 :

パス名の長さ (単位 : バイト) の最小値

最大値 :

パス名の長さ (単位 : バイト) の最大値

要因

定義ファイルに定義したパス名の長さが定義範囲を超えています。

対処

ファイル名の長さを定義範囲内に指定し直して、再度実行してください。

KFXO57131-E : パス名が '/' から始まっていません。コマンド : XX オプション : XX パス

名 : XX

コマンド :

'/' から始まっていないパス名が指定されているコマンド名

オプション :

'/' から始まっていないパス名が指定されているオプション名

パス名 :

'/' から始まっていないパス名

要因

定義ファイルに定義したパス名が '/' から始まっていません。

KFXO57132-E : 用途がOIDINDEXのareaパラメタを複数指定しています。

要因

用途が OIDINDEX の area パラメタを複数指定しています。

対処

パラメタファイルを修正して、再実行してください。

KFXO57133-E : ユーザエリア用のアンロードファイル名の指定個数が128を超えています。コ

マンド : XX オプション : YY

コマンド :

エラーの発生したコマンド名

オプション :

エラーの発生したオプション名

## 要因

定義ファイルの -u オプションに指定したアンロードファイル名個数が 128 を超えています。

## 対処

アンロードファイル名の指定個数を 128 以下に定義し直し、再度実行してください。

KFXO57134-E : ユーザエリア用のアンロードファイル名の指定が重複しています。コマンド :  
XX オプション : YY ファイル名 : ZZ

## コマンド :

エラーの発生したコマンド名

## オプション :

エラーの発生したオプション名

## ファイル名 :

重複して指定されたアンロードファイル名

## 要因

定義ファイルの -u オプションに指定したアンロードファイル名が重複しています。

## 対処

アンロードファイル名を正しく指定し直し、再度実行してください。

KFXO57200-E : 指定できない用途のエリアが指定されています。エリア名 : XX 用途 : YY

## エリア名 :

エリア名

## 用途 :

エリアの用途

## 要因

構成変更パラメタファイルの area パラメタのオプション (-n), xodflalt コマンドのオプション (-n), または xodarrm コマンドのオプション (-n) に指定したエリア名は、指定できない用途のエリアが指定されています。

## 対処

正しい用途のエリアを指定して、再実行してください。

KFXO57202-E : 指定したエリアは既にシステム内に定義されています。エリア名 : XX

## エリア名 :

指定したエリア名

## 要因

構成変更パラメタファイルの area パラメタに指定したエリア名は既にシステム内に定義されています。

## 対処

システム内に定義されていないエリア名を指定して、再実行してください。

KFXO57203-E : 指定したファイルは既にシステム内に定義されています。エリア名 : XX ファイル名 : YY

## エリア名 :

指定したエリア名を示します。

## 付録K メッセージ

ファイル名 :

指定したファイル名を示します。

要因

構成変更パラメタファイルの file パラメタに指定したファイル名は既にシステム内に定義されています。

対処

システム内に定義されていないファイル名を指定して、再実行してください。

KFXO57204-E : 指定したエリアはシステム内に定義されていません。エリア名 : XX

エリア名 :

指定したエリア名を示します。

要因

構成変更パラメタファイルの area パラメタのオプション (-n), xodflalt コマンドのオプション (-n), または xodarrm コマンドのオプション (-n) に指定したエリア名はシステム内に定義されていません。

対処

システム内に定義されているエリア名を指定して、再実行してください。

KFXO57205-E : 指定したファイルはエリア内に定義されていません。エリア名 : XX ファイル名 : YY

エリア名 :

指定したエリア名を示します。

ファイル名 :

指定したファイル名を示します。

要因

xodflalt コマンドのオプション (-f) に指定したファイル名はエリア内に定義されていません。

対処

エリア内に定義されているファイル名を指定して、再実行してください。

KFXO57206-E : 指定したエリアは、共有メモリ上の管理領域で管理できなかったエリアであるため、このエリアに対して操作ができません。エリア名 : XX

エリア名 :

指定したエリア名を示します。

要因

構成変更パラメタファイルの area パラメタのオプション (-n), xodflalt コマンドのオプション (-n), または xodarrm コマンドのオプション (-n) に指定したエリアは、共有メモリ上の管理領域で管理できる個数を超えて追加されたエリアであるため、当該エリアに対して操作ができませんでした。

対処

指定したエリアに対して操作する場合は、オブジェクトサーバを再起動後、再実行してください。

KFXO57209-E : セグメントサイズと初期割当量を掛けた値が最大値を超えています。エリア名 : XX ファイル名 : XX 最大値 : XX

エリア名 :



該当するセグメントサイズが定義してあるエリアのエリア名  
ファイル名：

該当する初期割当量が定義してあるファイルのファイル名  
最大値：

セグメントサイズと初期割当量を掛けた場合の最大値

要因

構成変更パラメタファイルの area パラメタに定義したセグメントサイズと file  
パラメタに定義したファイルの初期割当量を掛けた値が最大値を超えています。

対処

セグメントサイズと初期割当量を見直して、再実行してください。

KFXO57210-E：最大割当量が初期割当量より大きく定義されていません。エリア名：XX ファ  
イル名：XX

エリア名：

該当する最大割当量が定義されているファイルが構成するエリアのエリア名

ファイル名：

該当する最大割当量が定義されているファイルのファイル名

要因

構成変更パラメタファイルに定義した最大割当量が初期割り当て量より小さく  
定義されています。

対処

最大割当量と初期割当量を見直して、最大割当量が初期割当量より大きくなる  
ように定義して、再実行してください。

KFXO57215-E：セグメントサイズと最大割当量を掛けた値が最大値を超えています。エリア  
名：XX ファイル名：XX 最大値：XX

エリア名：

該当するセグメントサイズが定義してあるエリアのエリア名

ファイル名：

該当する最大割当量が定義してあるファイルのファイル名

最大値：

セグメントサイズと最大割当量を掛けた場合の最大値

要因

構成変更パラメタファイルの area パラメタに定義したセグメントサイズと file  
パラメタに指定したファイルの最大割当量を掛けた値が最大値を超えています。

対処

セグメントサイズと最大割当量を見直して、再実行してください。

KFXO57216-E：指定した最大割当量と指定したエリアのセグメントサイズを掛けた値が最大値  
を超えています。エリア名：WW ファイル名：XX セグメントサイズ：YY 最大値：ZZ

エリア名：

指定したエリア名を示します。

ファイル名：

指定したファイル名を示します。

セグメントサイズ：

指定したエリアのセグメントサイズを示します。

最大値：

エリアのセグメントサイズとファイルの最大割当量を掛けた場合の最大値を示します。

要因

xodflalt コマンドのオプション (-m) に指定したファイルの最大割当量と (-n) に指定したエリアのセグメントサイズを掛けた値が最大値を超えています。

対処

セグメントサイズと最大割当量を見直して、再実行してください。

KFXO57217-I：エリアを追加するための共有メモリ上の管理領域で、管理できる個数以上のエリア追加が行われました。エリア名：XX

エリア名：

追加したエリアのエリア名

要因

一度オブジェクトサーバを起動してから終了するまでに、33 個以上のエリアを追加した場合に発生します。メッセージに出力されたエリアの追加処理は正常に終了していますが、オブジェクトサーバを再起動するまで、このエリアに対して、オブジェクトサーバと連携するプログラムのデータベースを作成できません。

注 Gmax Object Server では、33 個です。また Gmax High-end Object Server では、システム共通定義の add\_area\_limit の値 +1 です。

KFXO57218-E：1つのエリア中に定義できるファイル数が最大数に達しているため、追加できません。エリア名：XX 最大数：YY

エリア名：

ファイルの最大値 16 個を超えて追加しようとしたエリアのエリア名を示します。

最大数：

1 エリアに定義できるファイルの最大数 (個) を示します。

要因

一つのエリア中に定義できるファイル数が最大数 16 個を超えて追加しようとしています。

対処

誤ったエリア名を指定している場合は、エリア名を見直して再実行してください。エリア名が正しい場合は、これ以上ファイルを追加できないので、xodflalt コマンドで該当するエリアの既存ファイルの最大割当量を変更するか、xodbreog コマンドを実行して空き領域を確保してください。

KFXO57219-E：OIDインデクス用エリアは既に定義されています。エリア名：XX

エリア名：

OID インデクス用エリア

要因

既に OID インデクス用エリアがオブジェクトサーバに定義されているのに、xodaradd コマンドの構成変更パラメタ中に - u OIDINDEX 指定の area パラメタがありました。この area パラメタを無視し、処理を続行します。

## 対処

構成変更パラメタ中の -u オペランドを見直し、必要があれば再実行してください。

KFXO57220-E 削除しようとしたエリアにタイプ、インデクス又は拡張関連が定義されているため、削除できませんでした。エリア名：XX

エリア名：

削除しようとしたエリアのエリア名

## 要因

タイプ、インデクス又は拡張関連が定義されているエリアを削除しようとしたときに出力されます。

## 対処

誤ったエリアを指定した場合はエリアを見直して、再実行してください。エリア名が正しい場合は、エリア名に表示されたエリアの中に作成されている連携するプログラムの環境を削除してから、再実行してください。

KFXO57221-E：ファイルのサイズが最大値を超えます。エリア名：XX ファイル名：XX  
ファイルサイズ：XXKB 最大値：XXKB

エリア名：

ファイルサイズが最大値を超えるファイルを定義してあるエリアのエリア名

ファイル名：

ファイルサイズが最大値を超える定義がしてあるファイルのファイル名

ファイルサイズ：

データベースへのエリアの追加ユティリティ (xodaradd コマンド) の場合、構成変更パラメタファイルに定義してあるセグメントサイズと初期割当量から計算されたファイルサイズ

データベースへのファイルの追加ユティリティ (xodfladd コマンド) の場合、該当するエリアのセグメントサイズと構成変更パラメタファイルに定義してある初期割当量から計算されたファイルサイズ

データベースへのエリアの再作成ユティリティ (xodbrencs コマンド) の場合、再構成パラメタファイルに定義してあるセグメントサイズと初期割当量から計算されたファイルサイズ (単位：キロバイト)

最大値：

ファイルサイズの最大値 (単位：キロバイト)

## 要因

データベースへのエリアの追加ユティリティ (xodaradd コマンド) の場合、構成変更パラメタファイルに定義してあるエリアのセグメントサイズとファイルの初期割当量から計算されるファイルサイズが、最大値を超えています。データベースへのファイルの追加ユティリティ (xodfladd コマンド) の場合、該当するエリアのセグメントサイズと構成変更パラメタファイルに定義してあるファイルの初期割当量から計算されるファイルサイズが、最大値を超えています。ファイルサイズの計算式は、マニュアルを参照してください。データベースへのエリアの再作成ユティリティ (xodbrencs コマンド) の場合、再構成パラメタファイルに定義してあるエリアのセグメントサイズとファイルの初期割当量から計算されるファイルサイズが、最大値を超えています。ファイルサイズ

の計算式は、「7.6 構成変更パラメタファイル」を参照してください。

対処

セグメントサイズと初期割当量を見直して、再実行してください。

KFXO57222-E：指定したエリアはシステム内に定義されていません。エリア名：XX

エリア名：

指定したエリア名

要因

パラメタファイルに定義した area パラメタに指定したエリア名はシステム内に定義されていません。

対処

システム内に定義されているエリア名を指定して、再度実行してください。

KFXO57223-E：areaパラメタで指定された用途がシステム内のエリアの用途と不一致です。エリア名：XX 用途：XX

エリア名：

不適切な用途を指定したエリアのエリア名

用途：

-u オプションに指定した不適切な用途

要因

パラメタファイルに定義した area パラメタの -u オプションに指定したエリアの用途がシステム内のエリアの用途と不一致です。

対処

正しい値を指定して、再度実行してください。

KFXO57224-E：指定したエリアは、共有メモリ上の管理領域で管理できていないため、このエリアに対して操作ができません。エリア名：XX

エリア名：

指定したエリア名

要因

パラメタファイルに定義した area パラメタに指定したエリアは、共有メモリ上の管理領域で管理できる個数を超えて追加されたエリアであるため、このエリアに対して操作ができませんでした。

対処

このエリアに対して操作する場合は、オブジェクトサーバを再起動後、再度実行してください。

KFXO57225-E：指定したファイルは既にシステム内の他エリアに定義されています。エリア名：XX ファイル名：XX

エリア名：

指定したエリア名

ファイル名：

指定したファイル名

要因

パラメタファイルに定義した file パラメタに指定したファイル名は既にシステム内に定義されています。

## 対処

システム内に定義されていないファイル名を指定して、再度実行してください。

KFXO57500-E：領域の確保に失敗しました。確保しようとした領域の大きさ：XX

確保しようとした領域の大きさ：

確保に失敗した領域の大きさ（単位：バイト）

## 要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

## 対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再実行してください。

KFXO57501-E：現在時刻の取得に失敗しました。エラーコード：XX

エラーコード：

システムコールの `time()` で発生したエラーコード

## 要因

システムコールの `time()` の引数が不正であるため、エラーが発生しました。

## 対処

エラー番号が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO57502-E：ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：

オープンに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：

システムコールの `open()` で発生したエラーコード

## 要因

ファイルをオープンしようとしたときに、システムコールの `open()` でエラーが発生しました。

## 対処

エラー番号が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO57503-E：ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：

書き込みに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：

システムコールの `write()` で発生したエラーコード

## 要因

ファイルに書き込もうとしたときに、システムコールの `write()` でエラーが発生しました。

## 対処

エラー番号が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。エラー番

号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO57504-E : ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名 : XX

ファイル名 :

書き込みに失敗したファイルのファイル名

要因

ファイルに書き込もうとしたときに、記憶媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。システムコールの `ulimit()` を使用して、プロセスで書き込めるファイルの限界を設定している場合、その限界より多いバイトの書き込み要求をしたときもこのエラーになります。

対処

不要なファイルを削除して、空き領域を作成してください。

KFXO57505-E : ファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : XX

ファイル名 :

読み込みに失敗したファイルのファイル名

エラーコード :

システムコールの `read()` からリターンしたエラーコード

要因

ファイルを読み込もうとしたときに、システムコールの `read()` でエラーが発生しました。

対処

エラー番号が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO57506-E : ファイルが既に存在しています。ファイル名 : XX

ファイル名 :

既に存在していたファイルのファイル名

要因

ファイルをオープンしようとしたときに、指定したファイルが既に存在していました。データベース構成変更ユティリティ又は再構成ユティリティが割り込みなどで強制終了したとき、初期化の途中のファイルが残っている場合があるために、このエラーになることがあります。

対処

既存のファイルを削除又は移動するか、あるいは使用していない別のファイル名を指定して、再実行してください。

KFXO57508-E : ファイルの削除に失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : XX

ファイル名 :

削除に失敗したファイルのファイル名

エラーコード :

システムコールの `unlink()` で発生したエラーコード

要因

コマンド実行中にエラーが発生したため、生成したファイルを削除しようとし

たときに、システムコールの `unlink()` でエラーが発生しました。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

対処

エラーコードが示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO57509-E : ファイルのロックに失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : XX

ファイル名 :

書き込みロックに失敗したファイルのファイル名

エラーコード :

システムコールの `fcntl()` からリターンしたエラーコード

要因

ファイルに対して書き込みロックをしようとしたときに、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

対処

エラー番号が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO57510-E : ファイルのロック解除に失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : XX

ファイル名 :

書き込みロックの解除に失敗したファイルのファイル名

エラーコード :

システムコールの `fcntl()` で発生したエラーコード

要因

ファイルに対して書き込みロックの解除をしようとしたときに、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

対処

エラー番号が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO57511-E : ファイルフラグの設定に失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : XX

ファイル名 :

ファイルフラグの設定に失敗したファイルのファイル名

エラーコード :

システムコールの `fcntl()` で発生したエラーコード

要因

ファイルに対して同期書きのためのファイルフラグ (`O_SYNC`) を設定しようとしたときに、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

対処

エラー番号が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO57512-E : ファイルフラグの解除に失敗しました。ファイル名 : XX エラーコード : XX

ファイル名 :

ファイルフラグの解除に失敗したファイルのファイル名  
エラーコード：

システムコールの `fcntl()` で発生したエラーコード

要因

ファイルに対して実行した同期書きのためのファイルフラグ (`O_SYNC`) の解除をしようとしたときに、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

対処

エラー番号が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO57513-E：これ以上ファイルをオープンできません。

要因

ファイルをオープンしようとしたが、1 プロセスでオープンできるファイルの最大数 100 個を超えたのでオープンできませんでした。

対処

再実行してください。再実行してもエラーになる場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO57514-E：ファイルステータスの取得に失敗しました。ファイル名：XX，エラーコード：XX

ファイル名：

ステータスの取得に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：

システムコールの `fcntl()` からリターンしたエラーコード

要因

ファイルのステータスを取得しようとしたとき、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

対処

エラー番号が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO57515-E：ファイルポインタの移動に失敗しました。ファイル名：XX，エラーコード：XX

ファイル名：

ファイルポインタの移動に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：

システムコールの `lseek()` からリターンしたエラーコード

要因

ファイルポインタを移動しようとしたとき、システムコールの `lseek()` でエラーが発生しました。

対処

エラー番号が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。



KFXO57700-E : ディクショナリ検索処理中にエラーが発生しました。エリア名 : XX エラーコード : XX 詳細エラー番号 : XX

エリア名 :

構成変更処理中のエリアのエリア名

エラーコード :

ディクショナリ検索処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号 :

ディクショナリ検索処理中に発生したエラーの詳細コード

要因

ディクショナリ処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO57701-E : ディクショナリ更新処理中にエラーが発生しました。エリア名 : XX エラーコード : XX 詳細エラー番号 : XX

エリア名 :

構成変更処理中のエリアのエリア名

エラーコード :

ディクショナリ更新中に発生したエラーコード

詳細エラー番号 :

ディクショナリ更新中に発生したエラーの詳細コード

要因

ディクショナリ更新中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO57702-E : ディレクトリ更新処理中にエラーが発生しました。エリア名 : XX 詳細エラー番号 : XX

エリア名 :

構成変更処理中のエリアのエリア名

詳細エラー番号 :

ディレクトリ更新中に発生したエラーの詳細コード

要因

ディレクトリ更新処理中にエラーが発生しました。

対処

次に詳細コードに対するオペレーターの処置を示します。

## 付録K メッセージ

| 詳細コード                                              | 内容                    | 対処                                                                      |
|----------------------------------------------------|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 41029<br>41032<br>41033<br>41040<br>41041<br>41042 | ディレトリ更新処理中にエラーが発生しました | このメッセージを記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください |
| 上記以外                                               | ディレトリ更新処理中にエラーが発生しました | 「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください                   |

KFXO57703-E：グローバルキャッシュ割当て処理中にエラーが発生しました。エリア名：XX  
詳細エラー番号：XX

エリア名：

グローバルキャッシュを割り当てるエリアのエリア名

詳細エラー番号：

グローバルキャッシュ割り当て処理中に発生したエラーの詳細コード

要因

グローバルキャッシュ割り当て処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO57704-E：ディクショナリ操作中にロック取得が失敗しました。エリア名：XX エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：

構成変更処理中のエリアのエリア名

エラーコード：

ロック取得時に発生したエラーコード

詳細エラー番号：

ロック取得時に発生したエラーの詳細コード

要因

ディクショナリ操作中にロック取得が失敗しました。

対処

次にエラーコードに対するオペレータの処置を示します。

| エラーコード                          | 内容                        | 対処                                                    |
|---------------------------------|---------------------------|-------------------------------------------------------|
| 10 ~ 11,<br>14 ~ 16,<br>17 ~ 19 | ディクショナリ検索処理中にロック取得が失敗しました | 「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください |
| 12 ~ 13, 39                     | ディクショナリ更新処理中にロック取得が失敗しました | 「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください |

KFXO57705-E：ディクショナリ操作中にキャッシュが満杯になりました。エリア名：XX エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：

構成変更処理中のエリアのエリア名

エラーコード：

ディクショナリ操作中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：

ディクショナリ操作中に発生したエラーの詳細コード

要因

ディクショナリ操作中にキャッシュが満杯になりました。

対処

次にエラーコードに対するオペレータの処置を示します。

| エラーコード       | 内容                          | 対処                                                    |
|--------------|-----------------------------|-------------------------------------------------------|
| 20 ~ 24 , 26 | ディクショナリ検索処理中にキャッシュが満杯になりました | 「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください |
| 40           | ディクショナリ更新処理中にキャッシュが満杯になりました | 「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください |

KFXO57706-E：ディクショナリ操作中に入出力エラーが発生しました。 エリア名：XX エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：

構成変更処理中のエリアのエリア名

エラーコード：

ディクショナリ操作中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：

ディクショナリ操作中に発生した詳細エラー番号

要因

ディクショナリ操作中に入出力エラーが発生しました。

対処

次にエラーコードに対するオペレータの処置を示します。

| エラーコード                            | 内容                         | 対処                                                                             |
|-----------------------------------|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 30 ~ 31 ,<br>34 ~ 36 ,<br>38 ~ 39 | ディクショナリ検索処理中に入出力エラーが発生しました | このメッセージの前に出力されたエラーメッセージ及び「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください |
| 32 ~ 33,<br>37,<br>41             | ディクショナリ更新処理中に入出力エラーが発生しました | 同上                                                                             |

KFXO57707-E：ディレクトリ操作中にロック取得が失敗しました。 エリア名：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：

操作中のエリアのエリア名

詳細エラー番号：

ロック取得時に発生した詳細エラー番号

## 付録K メッセージ

### 要因

ディレクトリ操作中にロック取得が失敗しました。

### 対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO57708-E ディクショナリ更新処理中にエラーが発生しました。エリア名：XX エリア情報管理オブジェクトのOID：XX エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

### エリア名：

ディクショナリ更新処理中のエリア名

### エリア情報管理オブジェクトのOID：

更新要求したエリア情報管理オブジェクトのOID

### エラーコード：

ディクショナリ更新中に発生したエラーコード

### 詳細エラー番号：

ディクショナリ更新中に発生した詳細エラー番号

### 要因

ディクショナリ更新中にエラーが発生しました。

### 対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO57709-E：ディクショナリ操作中にメモリ不足が発生しました。 エリア名：XX エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

### エリア名：

操作中のエリアのエリア名

### エラーコード：

メモリ確保時に発生したエラーコード

### 詳細エラー番号：

メモリ確保時に発生した詳細エラー番号

### 要因

ディクショナリ操作中にメモリ不足が発生しました。

### 対処

次にエラーコードに対する対処を示します。

| エラーコード  | 内容                        | 対処                                                    |
|---------|---------------------------|-------------------------------------------------------|
| 49 ~ 51 | ディクショナリ検索処理中にメモリ不足が発生しました | 「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください |

KFXO57720-E：ユティリティ共通のディクショナリアクセスにおいてエラーが発生しました。 エリア名：XX

### エリア名：

再作成処理中のエリアのエリア名

### 要因

ユティリティ共通のディクショナリアクセスにおいてエラーが発生しました。

## 対処

このメッセージ以前に出力されたメッセージに従ってエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO57731-E : システム内の定義済みエリア数が最大数に達しています。エリア名 : XX 用途 : XX 最大数 : XX

## エリア名 :

最大数を超えていたエリアのエリア名

## 用途 :

最大数を超えていたエリアの用途

## 最大数 :

エリアの最大数 (単位 : 個)

## 要因

定義済みエリア数が最大数である 3,200 個に達しているため、これ以上エリアを追加できません。

## 対処

不要なエリアを `xodarrm` コマンドで削除するか、必要であれば、`xodbinit` コマンドで DB を再作成してください。

KFXO57732-E : ユーザ用、インデクス用のエリアの合計数が最大数に達しています。エリア名 : XX 用途 : XX 最大数 : XX

## エリア名 :

最大数を超えていたエリアのエリア名

## 用途 :

最大数を超えていたエリアの用途

## 最大値 :

ユーザ用、インデクス用エリア数の合計の最大数 (単位 : 個)

## 要因

ユーザ用とインデクス用のエリアの合計数が最大数である 3,174 個に達しているため、これ以上ユーザ用、又はインデクス用のエリアを追加できません。

## 対処

不要なエリアを `xodarrm` コマンドで削除するか、必要であれば、`xodbinit` コマンドで DB を再作成してください。

KFXO57733-E : マスタディレクトリ用エリアの容量が不足しました。

## 要因

マスタディレクトリ用エリア中にエリアを定義できるだけの領域がありません。

## 対処

不要なタイプ、インデクス、又はエリアを削除して、再実行してください。削除してもこのメッセージが出力される場合は、マスタディレクトリの初期割当量を大きくして、`xodbinit` コマンドで DB を再作成してください。

KFXO57740-E : 指定した最大割当量は、ファイルで管理できる大きさを超えています。エリア名 : XX ファイル名 : YY 管理できる最大セグメント数 : ZZ

## エリア名 :

指定したエリア名

## 付録K メッセージ

ファイル名 :

指定したファイル名

管理できる最大セグメント数 :

ファイルで管理できる最大セグメント数

要因

xodflalt コマンドのオプション (-m) に指定した最大割当量は、ファイルで管理できるセグメント数を示します。

対処

管理できる最大セグメント数以下の値を指定して、再実行してください。

KFXO57741-E : 指定した最大割当量が現在のセグメント数以下です。エリア名 : XX ファイル名 : YY 現在のセグメント数 : ZZ

エリア名 :

指定したエリア名

ファイル名 :

指定したファイル名

現在のセグメント数 :

指定したファイルの現在のセグメント数

要因

xodflalt コマンドのオプション (-m) に指定した最大割当量は現在のセグメント数以下の値を指定しています。

なお、当該エリアを初期化したときに指定したファイルの最大割当量は、指定値よりも大きな値に補正されている場合があります。その場合、現在のセグメント数は、当該エリアを初期化したときに指定したファイルの最大割当量よりも大きくなっている場合があります。どのように補正されるかについては、「7.5.2 初期設定パラメタの項目」の「(2) file パラメタ」の、-m オペランドの説明を参照してください。

対処

現在のセグメント数より大きい値を指定して、再実行してください。

KFXO57742-E : 削除しようとしたエリアのエリア番号がマスタディレクトリ中の最大エリア番号を越えています。エリア名 : XX エリア番号 : XX 最大エリア番号 : XX 詳細エラー番号 : XX

エリア名 :

指定したエリア名

エリア番号 :

指定したエリア名のエリア番号

最大エリア番号 :

マスタディレクトリ中の最大エリア番号

詳細エラー番号 :

更新中に発生した詳細エラー番号

要因

削除しようとしたエリアのエリア番号が、マスタディレクトリ中の最大エリア番号を越えています。

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。

KFXO57743-E：タイプに定義されたインデクスを作成未完状態にできませんでした。エリア名：XX エリア番号：XX タイプID：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：

タイプが定義されているエリアのエリア名

エリア番号：

タイプが定義されているエリアのエリア番号

タイプ ID：

該当するタイプのタイプ ID

詳細エラー番号：

ディレクトリ更新中に発生した詳細エラー番号

要因

タイプに定義されたインデクスを作成未完状態にできない場合に出力されます。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57744-W：アンロード処理で警告エラーが発生しました。

要因

アンロード処理で警告エラーが発生しました。

対処

必要であれば警告エラー要因を取り除いてください。

KFXO57745-E：アンロード処理でエラーが発生しました。

要因

アンロード処理でエラーが発生しました。

対処

エラー要因を取り除き再度実行してください。

KFXO57746-W：リロード処理で警告エラーが発生しました。

要因

リロード処理で警告エラーが発生しました。

対処

必要があれば警告エラー要因を取り除いてください。

KFXO57747-E：リロード処理でエラーが発生しました。

要因

リロード処理でエラーが発生しました。

対処

エラー要因を取り除き再度実行してください。

KFXO57748-W：インデクス再作成処理で警告エラーが発生しました。

要因

インデクス再作成処理で警告エラーが発生しました。

対処

必要があれば警告エラー要因を取り除いてください。

KFXO57749-E：インデクス再作成処理でエラーが発生しました。

要因

## 付録K メッセージ

インデクス再作成処理でエラーが発生しました。

対処

エラー要因を取り除き再度実行してください。

KFXO57977-E：データベースの更新処理でエラーが発生しました。再構成ユティリティの処理を中断します。

要因

再構成ユティリティにおいて、データベースの更新処理でエラーが発生しました。

対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処し、バックアップからデータベースを回復した後、オブジェクトサーバを再起動して、再度実行してください。

KFXO57978-E：再構成ユティリティが異常を検知しました。理由コード=XX ファイル名=XX 場所=XX

理由コード：

何の要因でアボートしたか、何の異常かを示すコード

ファイル名：

アボートしたファイル名

場所：

ファイル中の行番号

要因

再構成ユティリティで内部矛盾を検知したため、アボートしました。

対処

このメッセージの内容及び、このメッセージ以前に出力されたエラーメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときはコアファイルを保存してください。

KFXO57979-E：削除したエリアの回復処理中にジャーナル中の削除したエリアの用途不正を検知しました。エリア名=XX エリアの用途=XX ファイル名=XX

エリア名：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名

エリアの用途：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途

ファイル名：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名

要因

エリア削除ジャーナルを使って回復中に削除したエリアの用途の不正を検知しました。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57980-E：ファイル追加/削除の回復処理中にジャーナル中の追加したエリアの番号が共有メモリ上の最大エリア番号を超えていることを検知しました。エリア名=AA エリア番号=BB 最大エリア番号=CC ユティリティ名=DD

エリア名：



回復しようとしたエリアのジャーナル中のエリア名称を示します  
 エリア番号：

回復しようとしたエリアのジャーナル中のエリア番号を示します  
 最大エリア番号：

共有メモリ上の最大エリア番号を示します。

ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティを示します。

ARADD : xodaradd

ARRMV : xodarrm

FLADD : xodfladd

要因

ジャーナル中にあるエリア番号が、共有メモリ上の最大エリア番号を超えている場合に出力します。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57981-E : ファイル追加/削除の回復処理中にジャーナル中のファイル番号の不正を検知しました。エリア名=AA ファイル名=BB ファイル番号=CC ユティリティ名=DD

エリア名：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名を示します

ファイル名：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名を示します

ファイル番号：

回復しようとしたファイルのジャーナル中の不正なファイル番号を示します

ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティを示します。

ARADD : xodaradd

ARRMV : xodarrm

FLADD : xodfladd

BRCNS : xodbcns

要因

ジャーナル中のファイル番号が 0 ~ 15 の範囲外の場合、又はエリア追加で追加したファイルのファイル番号が昇順連続でない場合に出力します。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57982-E : ファイル追加/削除の回復処理中にジャーナル中のセグメントサイズと最大割当量を掛けた値が最大値を超えていることを検知しました。エリア名=AA エリアの用途=BB セグメントサイズ=CC ファイル名=DD 最大割当量=EE ユティリティ名=FF

エリア名：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名を示します

エリアの用途：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途を示します

セグメントサイズ：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのセグメントサイズを示し

## 付録K メッセージ

ます

ファイル名：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名を示します

最大割当量：

回復中のファイルのジャーナル中の最大割当量の値（単位：セグメント）を示します

ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティを示します。

ARADD：xodaradd

ARRMV：xodarrm

FLADD：xodfladd

BRCNS：xodbrencs

\*\*\*\*\*：以外

要因

ジャーナル中のセグメントサイズと最大割当量を掛けた値が最大値を超えている場合に出力します。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57983-E：ファイル追加 / 削除の回復処理中にジャーナル中のファイル名，又はファイル名の長さ不正を検知しました。エリア名=XX ファイル名=XX ファイル名の長さ=XX ユティリティ名=XX

エリア名：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名

ファイル名：

回復しようとしたジャーナル中の不正なファイルのファイル名

（ファイル名の長さが 0 バイト以下のときは \*\*\*\*\* を出力する。ファイル名の長さが 175 バイトを超えている場合は，200 バイトまで出力する）

ファイル名の長さ：

回復しようとしたファイルのファイル名の長さ（単位：バイト）

ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティ

ARADD：xodaradd

ARRMV：xodarrm

FLADD：xodfladd

BRCNS：xodbrencs

\*\*\*\*\*：以外

要因

ジャーナル中の回復しようとするファイル名が 2 ~ 175 バイトの範囲外である場合，又はファイルの名称が "/" から始まっていない場合に出力します。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57984-E：ファイル追加/削除の回復処理中にジャーナル中のエリア名，又はエリア名の長

さ不正を検知しました。エリア名=AA エリア名の長さ=BB ユティリティ名=CC

エリア名：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名を示します。エリア名の長さが0バイト以下の時は\*\*\*\*\*を出力する。エリア名の長さが30バイトを超えている場合は、50バイトまで出力する

エリア名の長さ：

回復しようとしたファイルのエリアのエリア名の長さ（単位：バイト）を示します

ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティを示します。

ARADD：xodaradd

ARRMV：xodarmv

FLADD：xodfladd

BRCNS：xodbcns

\*\*\*\*\*：以外

要因

ジャーナル中の回復しようとするファイルのあるエリアのエリア名称が1～30バイトの範囲外である場合に出力します。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57985-E：ファイル追加/削除の回復処理中にジャーナル中の最大割当量の値の不正を検知しました。エリア名=AA エリアの用途=BB セグメントサイズ=CC ページ長=DD ファイル名=EE 初期割当量=FF 最大割当量=GG ユティリティ名=HH

エリア名：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名を示します

エリアの用途：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途を示します

セグメントサイズ：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのセグメントサイズを示します

ページ長：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のページ長（単位：バイト）を示します

ファイル名：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名を示します

初期割当量：

回復しようとしたファイルのジャーナル中の初期割当量の値（単位：セグメント）を示します

最大割当量：

回復しようとしたファイルのジャーナル中の最大割当量の値（単位：セグメント）を示します

ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティを示します。

## 付録K メッセージ

ARADD : xodaradd

ARRMV : xodarrm

FLADD : xodfladd

BRCNS : xodbrcons

### 要因

ジャーナル中の最大割当量が0を除く2～524288の範囲外である場合に出力します

### 対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57986-E : ファイル追加/削除の回復処理中にジャーナル中の初期割当量の値の不正を検知しました。エリア名=AA エリアの用途=BB セグメントサイズ=CC ページ長=DD ファイル名=EE 初期割当量=FF ユティリティ名=GG

#### エリア名 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名を示します

#### エリアの用途 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途を示します

#### セグメントサイズ :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのセグメントサイズを示します

#### ページ長 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のページ長 (単位 : バイト)

#### ファイル名 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名を示します

#### 初期割当量 :

回復しようとしたファイルの初期割当量の値 (単位 : セグメント) を示します

#### ユティリティ名 :

ジャーナルを取得したユティリティを示します。

ARADD : xodaradd

ARRMV : xodarrm

FLADD : xodfladd

BRCNS : xodbrcons

### 要因

ジャーナル中の初期割当量が1～524288の範囲外である場合に出力します。ただし、ディクショナリ用エリアの場合は15～524288の範囲外である場合に出力します。

### 対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57987-E : ファイル追加/削除の回復処理中にジャーナル中のセグメントサイズの不正を検知しました。エリア名=AA エリアの用途=BB セグメントサイズ=CC ファイル名=DD ユティリティ名=EE

#### エリア名 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名を示します

#### エリアの用途 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途を示します  
セグメントサイズ：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのセグメントサイズを示します

ファイル名：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名を示します

ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティを示します。

ARADD : xodaradd

ARRMV : xodarrm

FLADD : xodfladd

BRCNS : xodbrencs

要因

ジャーナル中のセグメントサイズが 1 ~ 16000 の範囲外である場合に出力します。ただし、データディレクトリ用エリアの場合は 50 以外、データディクショナリ用エリアの場合は 8 以外である場合に出力します。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57988-E : ファイル追加/削除の回復処理中にジャーナル中の最大割当量が初期割当量よりも大きくないことを検知しました。エリア名=AA エリアの用途=BB セグメントサイズ=CC ページ長=DD ファイル名=EE 初期割当量=FF 最大割当量=GG ユティリティ名=HH

エリア名：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名を示します

エリアの用途：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途を示します

セグメントサイズ：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのセグメントサイズを示します

ページ長：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のページ長（単位：バイト）

ファイル名：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名を示します

初期割当量：

回復しようとしたファイルのジャーナル中の初期割当量の値（単位：セグメント）を示します

最大割当量：

回復しようとしたファイルのジャーナル中の最大割当量の値（単位：セグメント）を示します

ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティを示します。

ARADD : xodaradd

ARRMV : xodarrm

FLADD : xodfladd

## 付録K メッセージ

BRCNS : xodbrcons

### 要因

ジャーナル中の最大割当量が初期割当量より大きくない場合に出力します。

### 対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57989-E : ファイル追加/削除の回復処理中にジャーナル中のセグメントサイズと初期割当量を掛けた値が最大値を超えていることを検知しました。エリア名=AA エリアの用途=BB セグメントサイズ=CC ファイル名=DD 初期割当量=EE ユティリティ名=FF

### エリア名 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名を示します

### エリアの用途 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途を示します

### セグメントサイズ :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのセグメントサイズを示します

### ファイル名 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名を示します

### 初期割当量 :

回復中のファイルのジャーナル中の初期割当量の値 (単位 : セグメント) を示します

### ユティリティ名 :

ジャーナルを取得したユティリティを示します。

ARADD : xodaradd

ARRMV : xodarrm

FLADD : xodfladd

BRCNS : xodbrcons

### 要因

ジャーナル中のセグメントサイズと初期割当量を掛けた値が最大値を超えている場合に出力します。

### 対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57990-E : ファイル追加/削除の回復処理中にジャーナル中の 1 エリア内のファイル数の不正を検知しました。エリア名=AA エリアの用途=BB ファイル数=CC ファイル名=DD ユティリティ名=EE

### エリア名 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名を示します

### エリアの用途 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途を示します

### ファイル数 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリア内のファイル数 (単位 : 個) を示します

### ファイル名 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名を示します

ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティを示します。

ARADD : xodaradd

ARRMV : xodarrm

FLADD : xodfladd

BRCNS : xodbrcons

要因

ジャーナル中の 1 エリア内の回復対象のファイルの数が 16 個を超えている場合に出力します。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57991-E : ファイル追加/削除の回復処理中にジャーナル中のエリア番号の不正を検知しました。エリア名=AA エリア番号=BB エリアの用途=CC ファイル名=DD ユティリティ名=EE

エリア名：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名を示します

エリア番号：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア番号を示します

エリアの用途：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途を示します

ファイル名：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名を示します

ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティを示します。

ARADD : xodaradd

ARRMV : xodarrm

FLADD : xodfladd

BRCNS : xodbrcons

要因

回復するファイルのエリアのエリア番号が 3 ~ 3200 の範囲外である場合に出力します。

対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57992-E : ファイル追加/削除の回復処理中にジャーナル中の構成変更ユティリティのオペレーションコード不正を検知しました。エリア名=AA エリアの用途=BB ファイル名=CC ユティリティのオペレーションコード=DD

エリア名：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名を示します

エリアの用途：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途を示します

ファイル名：

回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名を示します

ユティリティのオペレーションコード：

ユティリティの不正なオペレーションコードを示します

## 付録K メッセージ

### 要因

ジャーナル中のファイルを追加 / 削除したユティリティのオペレーションコードが不正である場合に出力します。

### 対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57993-E : 追加したファイルの回復処理中にジャーナル中の追加したファイルのあるエリアの用途不正を検知しました。エリア名=AA エリアの用途=BB ファイル名=CC

#### エリア名 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名を示します

#### エリアの用途 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途を示します

#### ファイル名 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名を示します

### 要因

ファイル追加ジャーナルを用いて回復中にファイル追加したファイルのあるエリアのエリア用途不正を検知しました。

### 対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57994-E : 追加したファイルの回復処理中にジャーナル中の追加したエリアの用途不正を検知しました。エリア名=AA エリアの用途=BB ファイル名=CC

#### エリア名 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名を示します

#### エリアの用途 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途を示します

#### ファイル名 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名を示します

### 要因

エリア追加ジャーナルを用いて回復中にエリア追加したエリアの用途不正を検知した場合に出力します。

### 対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57995-E : ファイル追加/削除の回復処理中にジャーナル中のファイル情報のアイキャッチャ名が不正であることを検知しました。エリア名=AA ファイル名=BB アイキャッチャ名=CC ユティリティ名=DD

#### エリア名 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名を示します

#### アイキャッチャ名 :

ジャーナル中のファイル情報の不正なアイキャッチャ名を示します

#### ファイル名 :

回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名を示します

#### ユティリティ名 :

ジャーナルを取得したユティリティを示します。

ARADD : xodaradd



ARRMV : xodararm

FLADD : xodfladd

BRCNS : xodbrcons

**要因**

ジャーナル中のファイル情報のアイキャッチャ名が SAFJ でない場合に出力します。

**対処**

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57996-E : ファイル追加/削除の回復処理中にジャーナル中のエリア情報のアイキャッチャ名が不正であることを検知しました。エリア名=AA ファイル名=BB アイキャッチャ名=CC ユティリティ名=DD

**エリア名 :**

回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名を示します

**ファイル名 :**

回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名を示します

**アイキャッチャ名 :**

ジャーナル中のファイル情報の不正なアイキャッチャ名を示します

**ユティリティ名 :**

ジャーナルを取得したユティリティを示します。

ARADD : xodaradd

ARRMV : xodararm

FLADD : xodfladd

BRCNS : xodbrcons

**要因**

ジャーナル中のエリア情報のアイキャッチャ名が S A A J でない場合に出力します。

**対処**

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57997-I : シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

**要因**

割り込みキー及び中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

**対処**

必要があれば再実行してください。xodaradd コマンドで指定した構成変更パラメタファイル中に複数の area パラメタを指定している場合は、オブジェクトサーバのホームディレクトリ下のファイル xodresult 中に出力された KFXO57001-I メッセージを参照して、どのエリアの処理までが完了しているかを確認してください。xodbrcons コマンドでパラメタファイル中に複数の area パラメタを指定している場合は、xodresult に出力された KFXO57030-I メッセージを参照して、どのエリアの処置までが完了しているかを確認してください。

KFXO57998-I : 構成変更ユティリティ処理を中断します。

**要因**

## 付録K メッセージ

データベース構成変更ユティリティにおいて、データベースの更新処理でエラーが発生したため、オブジェクトサーバをアボートして処理を中断します。

### 対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーに対処した後、オブジェクトサーバを再起動して、再度実行してください。

KFXO57999-E：構成変更ユティリティが異常を検知しました。理由コード=XX ファイル名=XX 場所=XX

### 理由コード：

アボートした要因、又は何らかの異常

### ファイル名：

アボートしたファイル名

### 場所：

ファイル中の行番号

### 要因

データベースの構成を変更するユティリティで内部矛盾を検知したため、アボートしました。

### 対処

このメッセージの内容及びこのメッセージ以前に出力されたエラーメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときはコアファイルを保存してください。

KFXO58006-E：スキーマ情報表示ユティリティが異常終了しました。

### 要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーによってスキーマ情報表示ユティリティが異常終了した時に出力されます。

### 対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーに対処した後、再実行してください。

KFXO58100-I：ロールバック処理を行ないました。

### 要因

ロールバック処理を完了した時に出力されます。

### 対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーに対処した後、再度実行してください。

KFXO58101-E：OMSとの接続時にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

### エラーコード：

接続時に発生したエラーコード

### 詳細エラー番号：

接続時に発生した詳細エラー番号

### 要因

オブジェクトサーバとの接続時にエラーが発生しました。

### 対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応す

るユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO58102-E：トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：YY

エラーコード：

トランザクション開始処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：

トランザクション開始中に発生した詳細エラー番号

要因

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO58104-E：コミット処理中にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：YY

エラーコード：

コミット処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：

コミット処理中に発生した詳細エラー番号

要因

コミット処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO58105-E：ロールバック処理中にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：YY

エラーコード：

ロールバック処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：

ロールバック処理中に発生した詳細エラー番号

要因

ロールバック処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO58106-E：同時に実行できない他のユティリティが実行中です。

要因

同時に実行できない他のユティリティが実行中のため、ユティリティが実行できません。

対処

## 付録K メッセージ

同時に実行できない他のユティリティの終了を待って、再実行してください。

KFXO58107-E : OMSが起動されていません。

### 要因

オブジェクトサーバが起動されていないため、コマンドが実行できませんでした。

### 対処

オブジェクトサーバが起動されていない場合は、オブジェクトサーバを起動して、再度実行してください。

KFXO58108-I : シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

### 要因

割り込みキー及び中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

### 対処

各処理の終了メッセージにより、どこまで処理が完了しているか確認した後で、必要であれば再実行してください。

KFXO58205-I : 定義しているスキーマ数はXX件です。

### 要因

定義しているスキーマ名取得に成功した場合に出力されます。

KFXO58206-I : 定義しているスキーマはありません。

### 要因

定義しているスキーマが存在しない場合に出力されます。

KFXO58300-E : 領域の確保に失敗しました。確保しようとした領域の大きさ : XX

確保しようとした領域の大きさ :

確保に失敗した領域の大きさ (単位 : バイト)

### 要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

### 対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再度実行してください。

KFXO58403-E : スキーマ情報取得中にロック取得が失敗しました。詳細エラー番号 : XX

詳細エラー番号 :

スキーマ情報取得中に発生した詳細エラー番号

### 要因

スキーマ情報取得中にロック取得が失敗しました。

### 対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO58404-E : スキーマ情報取得中に入出力エラーが発生しました。詳細エラー番号 : XX

詳細エラー番号 :

スキーマ情報取得中に発生した詳細エラー番号

## 要因

スキーマ情報取得中に入出力エラーが発生しました。

## 対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO58405-E：スキーマ情報取得中に回復不可能なエラーが発生しました。エラーコード：XX  
詳細エラー番号：YY

## エラーコード

スキーマ情報取得中に発生したエラーコード

## 詳細エラー番号

スキーマ情報取得中に発生した詳細エラー番号

## 要因

スキーマ情報取得中に回復不可能なエラーが発生しました。

## 対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO59010-E：ディクショナリ検索処理中にエラーが発生しました。エリア名 = XX エリア番号 = XX ページID = XX エラーコード = XX 付加情報 = XX ファイル名 = XX 発生場所 = XX

## エリア名：

ディクショナリのエリア名

## エリア番号：

ディクショナリのエリアの番号

## ページ ID：

エラーが発生したページのページ ID

## エラーコード：

ディクショナリ検索処理中に発生したエラーコード

## 付加情報：

ディクショナリ検索処理中に発生したエラーの付加情報

## ファイル名：

エラーを発生したファイル名

## 発生場所：

エラーを発生したファイルの場所

## 要因

ディクショナリ検索処理中にエラーが発生しました。

## 対処

エラーコードからエラーの要因を取り除き、再度実行してください。次にエラーコードに対するオペレータの処置を示します。

| エラーコード | 内容                       | 対処                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 164    | ディクショナリの内容不正（ファイル定義なし）です | バックアップからディクショナリエリアを回復した後、再度実行してください。その後、「4.5.3 データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したディクショナリエリアと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル（ユーザエリア、インデクスエリア）を、バックアップから回復してください。そして、xodbreog コマンドを使用して OID インデクスを再作成してください。その後、xodarint コマンド正常終了時に出力される KFXO59103-I メッセージ又は KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください |
| 115    | ディクショナリの内容不正（タイプなし）です    | 同上                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| その他    | ディクショナリの内容不正です           | 同上                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

KFXO59012-E：ユティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、ディクショナリの不正を検知しました。エリア名：XX エリア番号：XX ページID：XX 付加情報：XX ファイル名：XX 発生場所：XX

エリア名：

ディクショナリのエリア名

エリア番号：

ディクショナリのエリア番号

ページ ID：

エラーが発生したページのページ ID

付加情報：

ディクショナリ検索処理中に発生したエラーの付加情報

ファイル名：

エラーが発生したファイル名称

発生場所：

エラーが発生したファイルの箇所

要因

ユティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、ディクショナリの不正を検知しました。

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO59013-I：ファイル名 = XX

ファイル名：

このメッセージの前に出力されているメッセージに関連のあるファイル名

要因

このメッセージの前に出力されているメッセージを参照してください。この

メッセージは、ファイル名の表示であり、ほかのメッセージの付加メッセージとして出力されます。

KFXO59014-E: ユティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、マスタディレクトリ、又はディクショナリファイルのオープンに失敗しました。ファイル名: XX エラーコード: XX

ファイル名:

オープンに失敗したファイルのファイル名

エラーコード:

システムコールの `open()` で発生したエラーコード

要因

ユティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、マスタディレクトリ又はディクショナリファイルを開こうとした時、システムコールの `open()` でエラーが発生しました。

対処

エラーコードからエラーの要因を取り除き、再度実行してください。エラーコードの意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO59015-E: ユティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、マスタディレクトリ、又はディクショナリファイルのオープン時、1 プロセスでオープンできるファイルの最大数を超えたのでファイルをオープンできません。

要因

ユティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、マスタディレクトリ又はディクショナリファイルを開こうとしましたが、1 プロセスでオープンできるファイルの最大数を超えたのでオープンできませんでした。

対処

再度実行してください。再度実行してもエラーになる場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO59016-E: ユティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、マスタディレクトリ、又はディクショナリファイルのファイルポインタの移動に失敗しました。ファイル名: XX エラーコード: XX

ファイル名:

ファイルポインタの移動に失敗したファイルのファイル名

エラーコード:

システムコールの `lseek()` からリターンしたエラーコード

要因

ユティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、マスタディレクトリ又はディクショナリファイルのファイルポインタの移動をしようとした時、システムコールの `lseek()` でエラーが発生しました。

対処

エラーコードからエラーの要因を取り除き、再度実行してください。エラーコードの意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO59017-E: ユティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、マスタディレクトリ、

又はディクショナリファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：

読み込みに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：

システムコールの read() からリターンしたのエラーコード

要因

ユティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、マスタディレクトリ又はディクショナリファイルの読み込みをしようとした時、システムコールの read() でエラーが発生しました。

対処

エラーコードからエラーの要因を取り除き、再度実行してください。エラーコードの意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO59050-E：マスタディレクトリのファイルではありません。または、マスタディレクトリの内容が不正か、マスタディレクトリが正しく初期化されていません。ファイル名：XX

ファイル名：

システム共通定義の dbm\_master パラメタで指定されたマスタディレクトリのファイル名

要因

次のどちらかの要因が発生しました。

- ユティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、システム共通定義の dbm\_master パラメタで指定されたマスタディレクトリのファイルがマスタディレクトリでないことを検知しました。
- マスタディレクトリの内容が不正か、マスタディレクトリが初期化されていないか、又は初期化が正常終了していません。

対処

このメッセージに続いて出力されるユティリティのメッセージに従ってください。

KFXO59070-E：ユティリティ共通のディクショナリアクセスでのマスタディレクトリ用エリアのエリア情報の取得処理において、マスタディレクトリの不正を検知しました。マスタエリア制御情報のブロック名称が MACB ではありません。エリア番号：XX ページID：XX オフセット：XX ブロック名称：XX

エリア番号：

マスタディレクトリのエリア番号

ページ ID：

不正な MACB が存在するページのページ ID

オフセット：

不正な MACB のページの先頭からのオフセット

ブロック名称：

不正なブロック名称（先頭 4 バイト）

要因

マスタエリア制御情報のブロック名称が MACB ではありません。

対処



次に示す手順でデータベースをバックアップから回復した後、再度実行してください。

1. バックアップからマスタディレクトリを回復してください。
2. 回復したマスタディレクトリと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル（ユーザエリア、インデクスエリア）をバックアップから回復してください。
3. データベース再編成ユティリティ（xodbreog コマンド）によって OID インデクスを再作成してください。

KFXO59071-E：ユティリティ共通のディクショナリアクセスでのディクショナリ用エリアのエリア情報の取得処理において、マスタディレクトリの不正を検知しました。マスタエリア制御情報にディクショナリ用エリアのエリア情報がありません。エリア番号：XX ページID：XX オフセット：XX

エリア番号：

マスタディレクトリのエリア番号

ページ ID：

不正な MACB が存在するページのページ ID

オフセット：

不正な MACB のページの先頭からのオフセット

要因

マスタエリア制御情報にディクショナリ用エリアのエリア情報がありません。

対処

次に示す手順でデータベースをバックアップから回復した後、再度実行してください。

1. バックアップからマスタディレクトリを回復してください。
2. 回復したマスタディレクトリと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル（ユーザエリア、インデクスエリア）をバックアップから回復してください。
3. データベース再編成ユティリティ（xodbreog コマンド）によって OID インデクスを再作成してください。

KFXO59080-E：ユティリティ共通のディクショナリアクセス処理中にロック取得が失敗しました。エリア名：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：

ディクショナリのエリア名

詳細エラー番号：

ロック取得時に発生した詳細エラー番号

要因

ユティリティ共通のディクショナリアクセス処理中にロック取得が失敗しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

## 付録K メッセージ

KFXO59099-E : ユティリティ共通のディクショナリアクセス処理中に異常を検知しました。理由コード=XX ファイル名=XX 場所=XX

理由コード :

アボート又は異常の理由コード

ファイル名 :

アボートしたファイル名

場所 :

ファイル中の行番号

要因

ユティリティ共通のディクショナリアクセス処理中に内部矛盾を検知したため、アボートしました。

対処

このメッセージの内容及びこのメッセージ以前に出力されたエラーメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときはコアファイルを保存してください。

KFXO59100-I : DBエリア再初期化ユティリティを開始します。

要因

DB エリア再初期化ユティリティを開始した時に出力されます。

KFXO59101-I : DBエリア再初期化ユティリティが正常終了しました。

要因

DB エリア再初期化ユティリティが正常終了した時に出力されます。連携するプログラムのデータの格納されていないユーザ用エリア及びインデクスが作成されていないインデクス用エリアの場合に出力されます。

KFXO59102-E : DBエリア再初期化ユティリティが異常終了しました。

要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーによって DB エリア再初期化ユティリティが異常終了しました。

対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再度実行してください。

KFXO59103-I : DBエリア再初期化ユティリティが正常終了しました。このエリアのオブジェクトはすべて削除されています。データベースの整合性の確保のため、データベース全体を再編成して下さい。その後、連携するプログラムにより、オブジェクトの再登録や整合性確保を実行してください。エリア名=XX

エリア名 :

ユーザ用エリア名

要因

連携するプログラムのデータの格納されているユーザ用エリアの再初期化が正常終了しました。

対処

再初期化によって、このエリアのオブジェクトはすべて削除されています。データベースの整合性の確保のため、データベース全体をデータベース再編成

ユティリティ (xodbreog) を使用して再編成してください。その後、連携するプログラムで、オブジェクトの再登録や整合性確保を実行してください。

KFXO59104-I : DBエリア再初期化ユティリティが正常終了しました。このエリア内のインデクスはすべて削除され未作成状態になっています。インデクスを再作成するか、又はデータベース全体を再編成して下さい。エリア名 = XX

エリア名 :

インデクス用エリア名

要因

インデクスの作成されているインデクス用エリアの再初期化が正常終了しました。

対処

再初期化によって、このエリア内のインデクスはすべて削除され、未作成の状態になっています。データベース再編成ユティリティ (xodbreog) のインデクス再作成機能を使用して、エリア名で示されたインデクスエリアのインデクスを再作成してください。又は、データベース全体を再編成してください。

KFXO59109-I : ファイル名 = XX

ファイル名 :

このメッセージの前に出力されているメッセージに関連のあるファイル名

要因

このメッセージの前に出力されているメッセージを参照してください。このメッセージは、ファイル名の表示であり、ほかのメッセージの付加メッセージとして出力されます。

KFXO59120-E : 引数の指定に誤りがあります。

要因

引数が正しく指定されていません。

対処

正しい値を指定して、再度実行してください。

KFXO59121-I : 使用方法 : xodarnt -n エリア名 [-i 割当量]

要因

コマンドの引数を正しく指定していません。

対処

正しい値を指定して、再度実行してください。

KFXO59124-E : エリア名の長さが定義範囲を超えています。エリア名 = XX 最小値 = XX 最大値 = XX

エリア名 :

定義範囲を超えたエリア名

最小値 :

エリア名の長さ (単位 : バイト) の最小値

最大値 :

エリア名の長さ (単位 : バイト) の最大値

要因

指定したエリア名称の長さが有効範囲を超えています。

## 付録K メッセージ

### 対処

エリア名の長さを定義範囲内に指定し直して、再度実行してください。

KFXO59125-E：指定した割当量の値が不正な値です。

### 要因

指定した割当量の値に半角数字 [0-9] 以外の値を指定しています。

### 対処

正しい値を指定して、再度実行してください。

KFXO59126-E：指定した割当量の値が指定すべき範囲を超えています。最小値 = XX 最大値 = XX

### 最小値：

指定できる割当量（単位：セグメント）の最小値

### 最大値：

指定できる割当量（単位：セグメント）の最大値

### 要因

指定した割当量の値は 1 以上 524288 以下の値を指定しなければなりません。

### 対処

正しい値を指定して、再度実行してください。

KFXO59127-E：指定したエリアはシステム内に定義されていません。エリア名 = XX

### エリア名：

指定したエリア名

### 要因

指定したエリア名はシステム内に定義されていません。

### 対処

システム内に定義されているエリア名を指定して、再度実行してください。

KFXO59130-E：システム共通定義解析処理でエラーが発生しました。

### 要因

システム共通定義解析処理でエラーが発生したため、処理を続行できません。

### 対処

直前に出力されているメッセージに従って原因を取り除き、再度実行してください。

KFXO59131-E：システム共通定義ファイルにマスタディレクトリのファイル名の指定がありません。

### 要因

システム共通定義にマスタディレクトリ指定がないため、処理を続行できません。

### 対処

システム共通定義ファイルにマスタディレクトリのファイル名の定義 (dbm\_master) を追加した後で、再度実行してください。

KFXO59132-E：システム共通定義のdbm\_masterパラメタで指定されたファイル名は、マスタディレクトリのファイル名ではありません。または、マスタディレクトリの内容が不正か、マスタディレクトリが正しく初期化されていません。

### 要因

システム共通定義の dbm\_master パラメタで指定されたファイル名は、マスタディレクトリのファイル名ではありません。又は、マスタディレクトリの内容が不正か、マスタディレクトリが初期化されていないか、若しくは初期化が正常終了していません。このメッセージに続いてシステム共通定義の dbm\_master パラメタに指定されたマスタディレクトリのファイル名が出力されます。

#### 対処

システム共通定義ファイルのマスタディレクトリのファイル名の定義 (dbm\_master) を確認し、正しいファイル名を定義して再度実行してください。マスタディレクトリが不正な場合 (例えば、ほかのファイルの内容を誤って上書きしてしまったり、ファイルシステムの異常でファイルが不正になったりした場合)、バックアップから回復した後、再度実行してください。初期化されていない、又は初期化が完了していない場合は、データベースをデータベース初期化ユティリティで初期化してください。

KFXO59140-E: セグメントサイズと割当量を掛けた値が最大値を超えています。エリア名 = XX  
セグメントサイズ = XX 割当量 = XX 最大値 = XX

エリア名:

指定したエリア名

セグメントサイズ:

エリアのセグメントサイズ

割当量:

指定した割当量

最大値:

セグメントサイズと割当量を掛けた場合の最大値

要因

セグメントサイズと割当量を掛けた値が最大値を超えています。

対処

割当量を見直して、再度実行してください。

KFXO59141-E: ファイルのサイズが最大値を超えます。エリア名 = XX ファイル名 = XX  
セグメントサイズ = XX 割当量 = XX 最大割当量 = XX ファイルサイズ = XX 最大値 = XX

エリア名:

指定したエリア名

ファイル名:

ファイルサイズが最大値を超えるファイル名

セグメントサイズ:

エリアのセグメントサイズ

割当量:

指定した割当量

最大割当量:

常に 0 を表示

ファイルサイズ:

エリアのセグメントサイズと割当量、及び最大割当量から計算されたファイルサイズ (単位: キロバイト)

最大値：

ファイルサイズの最大値（単位：キロバイト）

要因

エリアのセグメントサイズとファイルの割当量及び最大割当量から計算されるファイルサイズが、最大値を超えています。ファイルサイズの計算式は、「7.5 初期設定パラメタファイル」を参照してください。

対処

割当量を見直して、再度実行してください。

KFXO59142-E：指定したエリア中のすべてのファイルの実体が存在し、それらのファイルのサイズが0以外なので、再初期化不要な正常なエリアであると判断しました。エリア名 = XX

エリア名：

指定したエリア名

要因

指定したエリア中のすべてのファイルが存在し、それらのファイルのサイズが0以外です。

対処

誤ったエリアを指定した場合はエリア名を見直して、再度実行してください。エリア名の指定が正しい場合は、そのエリア中のどれかのファイルを削除又は移動して、再度実行してください。

KFXO59143-E：指定できない用途のエリアが指定されています。エリア名 = XX 用途 = XX

エリア名：

指定したエリア名

用途：

指定したエリアの用途

要因

指定したエリアには、指定できない用途のエリアが指定されています。

対処

ユーザ用又はインデクス用のエリアを指定して、再度実行してください。

KFXO59160-E：領域の確保に失敗しました。確保しようとした領域の大きさ = XX

確保しようとした領域の大きさ：

確保に失敗した領域の大きさ（単位：バイト）

要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再度実行してください。

KFXO59161-E：再初期化エリアのファイルのオープンに失敗しました。エリア名 = XX 用途 = XX ファイル名 = XX エラーコード = XX

エリア名：

指定したエリア名

用途：

指定したエリアの用途

ファイル名：

オープンに失敗したファイル名

エラーコード：

システムコールの open() で返されたエラーコード

要因

再初期化エリアのファイルをオープンしようとした時、システムコールの open() でエラーが発生しました。

対処

エラー番号からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO59162-E：再初期化エリアのファイルのオープン時、1 プロセスでオープンできるファイルの最大数を越えたのでファイルをオープンできません。

要因

再初期化エリアのファイルをオープンしようとしたが、1 プロセスでオープンできるファイルの最大数を越えたのでオープンできませんでした。

対処

再度実行してください。それでもエラーになる場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO59163-E：再初期化エリアのファイルのファイルポインタの移動に失敗しました。エリア名 = XX 用途 = XX ファイル名 = XX エラーコード = XX

エリア名：

指定したエリア名

用途：

指定したエリアの用途

ファイル名：

ファイルポインタの移動に失敗したファイル名

エラーコード：

システムコールの lseek() で返されたエラーコード

要因

再初期化エリアのファイルのファイルポインタの移動をしようとした時、システムコールの lseek() でエラーが発生しました。

対処

エラー番号からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO59164-E：再初期化エリアのファイルの読み込みに失敗しました。エリア名 = XX 用途 = XX ファイル名 = XX ページ番号 = XX エラーコード = XX

エリア名：

指定したエリア名

用途：

指定したエリアの用途

ファイル名：

読み込みに失敗したファイル名

ページ番号：

ページ番号

エラーコード：

システムコールの `read()` で返されたエラーコード

要因

再初期化エリアのファイルの読み込みをしようとした時、システムコールの `read()` でエラーが発生しました。

対処

エラー番号からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO59165-E：再初期化エリアのファイルの書き込みに失敗しました。エリア名 = XX 用途 = XX ファイル名 = XX エラーコード = XX

エリア名：

指定したエリア名

用途：

指定したエリアの用途

ファイル名：

書き込みに失敗したファイル名

エラーコード：

システムコールの `write()` で返されたエラーコード

要因

再初期化エリアのファイルに書き込みをしようとした時、システムコールの `write()` でエラーが発生しました。

対処

エラー番号からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO59166-E：再初期化エリアのファイルの書き込みに失敗しました。エリア名 = XX 用途 = XX ファイル名 = XX

エリア名：

指定したエリア名

用途：

指定したエリアの用途

ファイル名：

書き込みに失敗したファイル名

要因

再初期化エリアのファイルに書き込みをしようとした時、`write` が残っている領域、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。

対処

不要なファイルを削除して、空き領域を作成してください。



KFXO59172-E: 再初期化エリアのファイルの読み込みで、読み込みできたサイズと、ページ長とが一致していません。エリア名=XX 用途=XX ファイル名=XX ページ番号=XX

エリア名:

指定したエリア名

用途:

指定したエリアの用途

ファイル名:

読み込めたサイズとページ長とが一致しないファイル名

ページ番号:

ページ番号

要因

実際に read() したサイズと、ページのサイズが一致していません。

KFXO59175-E: マスタディレクトリ, 又はディクショナリファイルのオープンに失敗しました。エリア名=XX 用途=XX ファイル名=XX エラーコード=XX

エリア名:

指定したエリア名 (用途がマスタディレクトリの場合, エリア名が表示されない場合があります)

用途:

指定したエリアの用途

ファイル名:

オープンに失敗したファイル名

エラーコード:

システムコールの open() で返されたエラーコード

要因

マスタディレクトリ, 又はディクショナリファイルをオープンしようとした時, システムコールの open() でエラーが発生しました。

対処

エラー番号からエラーの要因を取り除き, 再度実行してください。

エラー番号の意味は, 「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

エラーの発生したエリアがマスタディレクトリの場合 (表示された用途が MASTER の場合), システム共通定義の dbm\_master パラメタで指定されたマスタディレクトリのファイル名が正しいか (データベース初期化ユティリティでマスタディレクトリを作成するときに, このファイル名を指定したかどうか), 及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中にあるのかも確認してから, 再度実行してください。

KFXO59176-E: マスタディレクトリ, 又はディクショナリファイルのオープン時, 1 プロセスでオープンできるファイルの最大数を越えたのでファイルをオープンできません。

要因

マスタディレクトリ, 又はディクショナリファイルをオープンしようとしたが, 1 プロセスでオープンできるファイルの最大数を越えたのでオープンできませんでした。

対処

再度実行してください。それでもエラーになる場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO59177-E : マスタディレクトリ, 又はディクショナリファイルのファイルポインタの移動に失敗しました。エリア名=XX 用途=XX ファイル名=XX エラーコード=XX

エリア名 :

指定したエリア名 (用途がマスタディレクトリの場合, エリア名が表示されない場合があります)

用途 :

指定したエリアの用途

ファイル名 :

ファイルポインタの移動に失敗したファイル名

エラーコード :

システムコールの `lseek()` で返されたエラーコード

要因

マスタディレクトリ, 又はディクショナリファイルのファイルポインタの移動をしようとした時, システムコールの `lseek()` でエラーが発生しました。

対処

エラー番号からエラーの要因を取り除き, 再度実行してください。エラー番号の意味は, 「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO59178-E : マスタディレクトリ, 又はディクショナリファイルの読み込みに失敗しました。エリア名=XX 用途=XX ファイル名=XX ページ番号=XX エラーコード=XX

エリア名 :

指定したエリア名 (用途がマスタディレクトリの場合, エリア名が表示されない場合があります)

用途 :

指定したエリアの用途

ファイル名 :

読み込みに失敗したファイル名

ページ番号 :

ページ番号

エラーコード :

システムコールの `read()` で返されたエラーコード

要因

マスタディレクトリ, 又はディクショナリファイルの読み込みをしようとした時, システムコールの `read()` でエラーが発生しました。

対処

エラー番号からエラーの要因を取り除き, 再度実行してください。エラー番号の意味は, 「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO59179-E : マスタディレクトリ, 又はディクショナリファイルの読み込みで, 読み込みできたサイズと, ページ長とが一致していません。エリア名=XX 用途=XX ファイル名=XX ページ番号=XX

## エリア名：

指定したエリア名（用途がマスタディレクトリの場合、エリア名が表示されない場合があります）

## 用途：

指定したエリアの用途

## ファイル名：

読み込めたサイズとページ長とが一致していないファイル名

## ページ番号：

ページ番号

## 要因

実際に read() したサイズと、ページのサイズが一致していません。

## 対処

バックアップからエラーの発生したエリアを回復した後、再度実行してください。その後、「4.5.3 データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したエリアと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル（ユーザエリア、インデクスエリア）をバックアップから回復してください。そして、xodbreog コマンドを使用して OID インデクスを再作成してください。その後、xodarint コマンド正常終了時に出力される KFXO59103-I メッセージ又は KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください。

KFXO59181-W：処理結果ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名=XX エラーコード=XX

## ファイル名：

オープンに失敗したファイル名

## エラーコード：

システムコールの open() で返されたエラーコード

## 要因

処理結果ファイルをオープンしようとした時、システムコールの open() でエラーが発生しましたが、処理を続行します。

## 対処

処理結果ファイルを正しく出力したい場合は、エラー番号からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO59182-W：処理結果ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名=XX エラーコード=XX

## ファイル名：

書き込みに失敗したファイル名

## エラーコード：

システムコールの write() で返されたエラーコード

## 要因

処理結果ファイルに書き込みをしようとした時、システムコールの write() でエラーが発生しましたが、処理を続行します。

## 対処

## 付録 K メッセージ

処理結果ファイルを正しく出力したい場合は、エラー番号からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO59183-W：処理結果ファイルの書き込み中に容量不足となりました。ファイル名 = XX

ファイル名：

書き込みに失敗したファイル名

要因

処理結果ファイルの出力先に十分な空き領域がないため、要求分を書き込めませんでした。又は、ユーザ限界 (ulimit) の設定値、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多い書き込み要求をしたため、要求分を書き込めませんでした。処理は続行されます、このメッセージ出力以降は、処理結果ファイルへの処理結果の出力は行われません。

対処

処理結果ファイルを正しく出力したい場合は、不要なファイルを削除し、再度実行してください。

KFXO59190-E：現在時刻の取得に失敗しました。エラーコード = XX

エラーコード：

システムコールの time() で返されたエラーコード

要因

システムコールの time() の引数が不正であるためエラーが発生しました。

対処

エラー番号からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO59200-E：ディクショナリ用エリアの先頭物理エリア名の取得処理において、マスタディレクトリの不正を検知しました。マスタエリア制御情報のブロック名称が MACB ではありません。エリア名 = XX エリア番号 = XX ページ ID = XX オフセット = XX ブロック名称 = XX

エリア名：

マスタディレクトリのエリア名

エリア番号：

マスタディレクトリのエリアの番号

ページ ID：

不正な MACB があるページのページ ID

オフセット：

不正な MACB のページの先頭からのオフセット

ブロック名称：

不正なブロック名称 (先頭 4 バイト)

要因

マスタエリア制御情報のブロック名称が MACB ではありません。

対処

バックアップからマスタディレクトリを回復した後、再度実行してください。その後、「4.5.3 データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参

照して、回復したマスタディレクトリと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル（ユーザエリア、インデクスエリア）をバックアップから回復してください。そして、xodbreog コマンドを使用して OID インデクスを再作成してください。その後、xodarint コマンド正常終了時に出力される KFXO59103-I メッセージ、又は KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください。

KFXO59201-E：タイプ情報の取得処理において、マスタディレクトリの不正を検知しました。マスタディレクトリ使用状態管理情報のブロック名称がMFCBではありません。エリア名=XX エリア番号=XX ページID=XX オフセット=XX ブロック名称=XX

エリア名：

マスタディレクトリのエリア名

エリア番号：

マスタディレクトリのエリアの番号

ページID：

不正な MFCB があるページのページID

オフセット：

不正な MFCB のページの先頭からのオフセット

ブロック名称：

不正なブロック名称（先頭 4 バイト）

要因

マスタディレクトリ使用状態管理情報のブロック名称がMFCBではありません。

対処

バックアップからマスタディレクトリを回復した後、再度実行してください。その後、「4.5.3 データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したマスタディレクトリと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル（ユーザエリア、インデクスエリア）をバックアップから回復してください。そして、xodbreog コマンドを使用して OID インデクスを再作成してください。その後、xodarint コマンド正常終了時に出力される KFXO59103-I メッセージ、又は KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください。

KFXO59202-E：インデクス情報の取得処理において、マスタディレクトリの不正を検知しました。マスタディレクトリ使用状態管理情報のブロック名称がMFCBではありません。エリア名=XX エリア番号=XX ページID=XX オフセット=XX ブロック名称=XX

エリア名：

マスタディレクトリのエリア名

エリア番号：

マスタディレクトリのエリアの番号

ページID：

不正な MFCB があるページのページID

オフセット：

不正な MFCB のページの先頭からのオフセット

ブロック名称：

不正なブロック名称（先頭 4 バイト）

要因

マスタディレクトリ使用状態管理情報のブロック名称が MFCB ではありません。

対処

バックアップからマスタディレクトリを回復した後、再度実行してください。その後、「4.5.3 データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したマスタディレクトリと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル（ユーザエリア、インデクスエリア）をバックアップから回復してください。そして、xodbreog コマンドを使用して OID インデクスを再作成してください。その後、xodarint コマンド正常終了時に出力される KFXO59103-I メッセージ、又は KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください。

KFXO59203-I：既存ファイルから現在割当量、及び最大割当量の情報の取得処理において、スレイブディレクトリの不正を検知しました。物理エリア情報のブロック名称が DSMB ではありません。エリア名 = XX エリア番号 = XX ページ ID = XX オフセット = XX ブロック名称 = XX

エリア名：

指定したエリア名

エリア番号：

指定したエリアの番号

ページ ID：

不正な DSMB があるページのページ ID

オフセット：

不正な DSMB のページの先頭からのオフセット

ブロック名称：

不正なブロック名称（先頭 4 バイト）

要因

物理エリア情報のブロック名称が DSMB ではありません。

KFXO59204-W：既存ファイルから現在割当量、及び最大割当量の情報の取得処理において、エラーが発生しました。ファイルの割当量を XX，最大割当量を指定なしとして処理を続行します。エリア名 = XX

割当量：

割当量（指定値、又は 1）（単位：セグメント）

エリア名：

指定したエリア名

要因

既存ファイルから現在割当量、及び最大割当量の情報の取得処理で、エラーが発生しましたが、処理は続行されます。

対処

割当量が 1 になった場合、割当量の変更が必要であれば、xodbrcons コマンドの

エリア再作成機能を使用して、エリア名で示されたエリアを再作成してください。また、最大割当量の指定が必要であれば、xodflalt コマンドを使用して、最大割当量を指定してください。

KFXO59205-E：インデクス管理情報（ARIM）のエントリ番号取得処理において、マスタディレクトリの不正を検知しました。MICB中のARIMのエントリ番号が1～2000ではありません。エリア名=XX エリア番号=XX ページID=XX オフセット=XX インデクスID=XX ARIMのエントリ番号=XX

エリア名：

マスタディレクトリのエリア名

エリア番号：

マスタディレクトリのエリアの番号

ページID：

不正な MICB があるページのページ ID

オフセット：

不正な MICB のページの先頭からのオフセット

インデクスID：

不正な MICB のインデクス ID

ARIM のエントリ番号：

MICB 中の ARIM のエントリ番号

要因

MICB 中の ARIM のエントリ番号が 1 ～ 2000 ではありません。

対処

バックアップからマスタディレクトリを回復した後、再度実行してください。その後、「4.5.3 データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したマスタディレクトリと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル（ユーザエリア、インデクスエリア）をバックアップから回復してください。そして、xodbreog コマンドを使用して OID インデクスを再作成してください。その後、xodarint コマンド正常終了時に出力される KFXO59103-I メッセージ、又は KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください。

KFXO59206-E：ディクショナリ用エリアの先頭物理エリア名の取得処理において、マスタディレクトリの不正を検知しました。マスタエリア制御情報にディクショナリ用エリアのエリア情報がありません。エリア名=XX エリア番号=XX ページID=XX オフセット=XX

エリア名：

マスタディレクトリのエリア名

エリア番号：

マスタディレクトリのエリアの番号

ページID：

不正な MACB があるページのページ ID

オフセット：

不正な MACB のページの先頭からのオフセット

要因

マスタエリア制御情報のブロック名称が M A C B ではありません。

対処

バックアップからマスタディレクトリを回復した後、再度実行してください。その後、「4.5.3 データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したマスタディレクトリと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル(ユーザエリア、インデクスエリア)をバックアップから回復してください。そして、xodbreog コマンドを使用して OID インデクスを再作成してください。その後、xodarint コマンド正常終了時に出力される KFXO59103-I メッセージ、又は KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください。

KFXO59207-E: マスタディレクトリ用エリアのエリア情報の取得処理において、マスタディレクトリの不正を検知しました。マスタエリア制御情報のブロック名称がMACBではありません。  
エリア番号=XX ページID=XX オフセット=XX ブロック名称=XX

エリア番号:

マスタディレクトリのエリアの番号

ページID:

不正な MACB があるページのページID

オフセット:

不正な MACB のページの先頭からのオフセット

ブロック名称:

不正なブロック名称(先頭4バイト)

要因

マスタエリア制御情報のブロック名称が M A C B ではありません。

対処

バックアップからマスタディレクトリを回復した後、再度実行してください。その後、「4.5.3 データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したマスタディレクトリと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル(ユーザエリア、インデクスエリア)をバックアップから回復してください。そして、xodbreog コマンドを使用して OID インデクスを再作成してください。その後、xodarint コマンド正常終了時に出力される KFXO59103-I メッセージ、又は KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください。

KFXO59208-E: マスタディレクトリ用エリアのエリア情報の取得処理において、マスタディレクトリの不正を検知しました。マスタエリア制御情報にマスタディレクトリ用エリアのエリア情報がありません。エリア番号=XX ページID=XX オフセット=XX

エリア番号:

マスタディレクトリのエリアの番号

ページID:

不正な MACB があるページのページID

オフセット:

不正な MACB のページの先頭からのオフセット

要因



マスタエリア制御情報のブロック名称が M A C B ではありません。

対処

バックアップからマスタディレクトリを回復した後、再度実行してください。その後、「4.5.3 データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したマスタディレクトリと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル(ユーザエリア、インデクスエリア)をバックアップから回復してください。そして、xodbreog コマンドを使用して OID インデクスを再作成してください。その後、xodarint コマンド正常終了時に出力される KFXO59103-I メッセージ、又は KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください。

KFXO59209-W: 既存ファイルの物理エリア情報から取得した現在割当量の値が、範囲外である不正を検知しました。ファイルの割当量をXXとして処理を続行します。エリア名=XX 用途=XX 現在割当量=XX

割当量:

変更後の割当量(指定値, 又は 1)(単位: セグメント)

エリア名:

指定したエリア名

用途:

指定したエリアの用途

現在割当量:

既存のファイルの物理エリア情報から取得した不正な現在割当量(単位: セグメント)

要因

物理エリア情報中の現在割当量が 1 ~ 524288 の範囲外である場合に出力されません。

対処

割当量が 1 になった場合、割当量の変更が必要であれば、再構成ユーティリティ(xodbreng)のエリア再作成機能を使用して、エリア名で示されたエリアを再作成してください。

KFXO59210-W: 既存ファイルの物理エリア情報から取得した最大割当量の値が、範囲外である不正を検知しました。ファイルの最大割当量を指定なしとして処理を続行します。エリア名=XX 用途=XX 最大割当量=XX

エリア名:

指定したエリア名

用途:

指定したエリアの用途

最大割当量:

既存のファイルの物理エリア情報から取得した不正な最大割当量(単位: セグメント)

要因

物理エリア情報中の最大割当量が 0 を除く 2 ~ 524288 の範囲外である場合に出力されます。

対処

最大割当量の指定が必要であれば、構成変更ユティリティ (xodflalt) を使用して、最大割当量を指定してください。

KFXO59211-E: ディクショナリのエリア情報から取得したセグメントサイズの値が範囲外である不正を検知しました。エリア名 = XX 用途 = XX セグメントサイズ = XX

エリア名:

指定したエリア名

用途:

指定したエリアの用途

セグメントサイズ:

不正なセグメントサイズ

要因

セグメントサイズが 1 ~ 16000 の範囲外である場合に出力されます。

対処

バックアップからディクショナリエリアを回復した後、再度実行してください。その後、「4.5.3 データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したディクショナリエリアと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル(ユーザエリア、インデクスエリア)をバックアップから回復してください。そして、xodbreog コマンドを使用して OID インデクスを再作成してください。その後、xodarint コマンド正常終了時に出力される KFXO59103-I メッセージ、又は KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください。

KFXO59212-W: ディクショナリのエリア情報から取得したセグメントサイズと既存ファイルの物理エリア情報から取得した現在割当量を掛けた値が、最大値を超えている不正を検知しました。ファイルの割当量をXXとして処理を続行します。エリア名 = XX 用途 = XX セグメントサイズ = XX 現在割当量 = XX 最大値 = XX

割当量:

変更後の割当量 (指定値, 又は 1) (単位: セグメント)

エリア名:

指定したエリア名

用途:

指定したエリアの用途

セグメントサイズ:

ディクショナリのエリア情報から取得したセグメントサイズ

現在割当量:

既存のファイルの物理エリア情報から取得した現在割当量 (単位: セグメント)

最大値:

セグメントサイズと現在割当量を掛けた場合の最大値

要因

セグメントサイズと最大割当量を掛けた値が最大値を超えています。

対処

割当量が 1 になった場合、割当量の変更が必要であれば、再構成ユティリティ (xodbrcons) のエリア再作成機能を使用して、エリア名で示されたエリアを再作成してください。

KFXO59213-W：ディクショナリのエリア情報から取得したセグメントサイズと既存ファイルの物理エリア情報から取得した最大割当量を掛けた値が、最大値を超えている不正を検知しました。ファイルの最大割当量を指定なしとして処理を続行します。エリア名 = XX 用途 = XX セグメントサイズ = XX 最大割当量 = XX 最大値 = XX

エリア名：

指定したエリア名

用途：

指定したエリアの用途

セグメントサイズ：

ディクショナリのエリア情報から取得したセグメントサイズ

最大割当量：

既存のファイルの物理エリア情報から取得した最大割当量（単位：セグメント）

最大値：

セグメントサイズと最大割当量を掛けた場合の最大値

要因

セグメントサイズと最大割当量を掛けた値が最大値を超えています。

対処

最大割当量の指定が必要であれば、構成変更ユティリティ（xodflalt）を使用して、最大割当量を指定してください。

KFXO59214-W：既存ファイルの物理エリア情報から取得した最大割当量の値が、割当量より大きくないためファイルの最大割当量を指定なしとして処理を続行します。エリア名 = XX 用途 = XX 最大割当量 = XX 割当量 = XX

エリア名：

指定したエリア名

用途：

指定したエリアの用途

最大割当量：

既存のファイルの物理エリア情報から取得した最大割当量（単位：セグメント）

割当量：

エリアの割当量（単位：セグメント）

要因

既存ファイルの物理エリア情報から取得した最大割当量の値が、割当量より大きくない場合に出力されます。

対処

最大割当量の指定が必要であれば、構成変更ユティリティ（xodflalt）を使用して、最大割当量を指定してください。

KFXO59215-W：既存ファイルから情報を参照し、割当量及び最大割当量を求めましたが、ファイルサイズが最大値を超えます。ファイルの割当量をXXとして処理を続行します。エリア名 = XX 用途 = XX セグメントサイズ = XX 割当量 = XX 最大割当量 = XX ファイルサイズ = XX 最大値 = XX

割当量：

変更後の割当量（指定値）（単位：セグメント）

エリア名：

指定したエリア名

用途：

指定したエリアの用途

セグメントサイズ：

エリアのセグメントサイズ

割当量：

既存のファイルの情報を参照して求められた割当量（単位：セグメント）

最大割当量：

既存のファイルの情報を参照して求められた最大割当量（単位：セグメント）

ファイルサイズ：

エリアのセグメントサイズと割当量及び最大割当量から計算されたファイルサイズ（単位：キロバイト）

最大値：

ファイルサイズの最大値（単位：キロバイト）

要因

エリアのセグメントサイズとファイルの割当量及び最大割当量から計算されるファイルサイズが、最大値を超えている場合に出力されます。ファイルサイズの計算式は、「7.5 初期設定パラメタファイル」を参照してください。

対処

割当量が1になった場合、割当量の変更が必要であれば、再構成ユーティリティ（xodbrems）のエリア再作成機能を使用して、エリア名で示されたエリアを再作成してください。

KFXO59216-W：インデクス管理情報（ARIM）の復旧処理において、マスタディレクトリの不正（MICB中のARIMのエントリ番号が重複）を検知しました。当該インデクスを復旧しないで、処理を続行します。エリア名=XX エリア番号=XX ページID=XX オフセット=XX インデクスID=XX ARIMのエントリ番号=XX

エリア名：

マスタディレクトリのエリア名

エリア番号：

マスタディレクトリのエリアの番号

ページID：

不正なMICBがあるページのページID

オフセット：

不正なMICBのページの先頭からのオフセット

インデクスID：

不正なMICBのインデクスID（復旧しなかったインデクスのインデクスID）

ARIMのエントリ番号：

MICB中のARIMのエントリ番号

要因

MICB中のARIMのエントリ番号が重複しています。

KFXO59217-W：既存ファイルから情報を参照し、割当量及び最大割当量を求めましたが、ファイルサイズが最大値を超えます。ファイルの割当量を1として処理を続行します。エリア名=XX 用途=XX セグメントサイズ=XX 割当量=XX 最大割当量=XX ファイルサイズ=

XX 最大値 = XX

エリア名 :

指定したエリア名

用途 :

指定したエリアの用途

セグメントサイズ :

エリアのセグメントサイズ

割当量 :

既存のファイルの情報を参照して求められた割当量 (単位 : セグメント)

最大割当量 :

既存のファイルの情報を参照して求められた最大割当量 (単位 : セグメント)

ファイルサイズ :

エリアのセグメントサイズと割当量から計算されたファイルサイズ (単位 : キロバイト)

最大値 :

ファイルサイズの最大値 (単位 : キロバイト)

要因

エリアのセグメントサイズとファイルの割当量から計算されるファイルサイズが、最大値を超えている場合に出力されます。ファイルサイズの計算式は、「7.5 初期設定パラメタファイル」を参照してください。

対処

割当量の変更が必要であれば、再構成ユティリティ (xodbrcons) のエリア再作成機能を使用して、エリア名で示されたエリアを再作成してください。

KFXO59218-W : ファイルの割当量をXX, 最大割当量を指定なしとして処理を続行しましたが、ファイルサイズが最大値を超えます。ファイルの割当量を1として処理を続行します。エリア名=XX 用途=XX セグメントサイズ=XX ファイルサイズ=XX 最大値=XX

割当量 :

割当量 (指定値, 又は 1) (単位 : セグメント)

エリア名 :

指定したエリア名

用途 :

指定したエリアの用途

セグメントサイズ :

エリアのセグメントサイズ

ファイルサイズ :

エリアのセグメントサイズと割当量から計算されたファイルサイズ (単位 : キロバイト)

最大値 :

ファイルサイズの最大値 (単位 : キロバイト)

要因

既存ファイルから現在割当量, 及び最大割当量の情報の取得処理で、エラーが発生し、エリアのセグメントサイズと仮定したファイルの割当量及び最大割当量から計算されるファイルサイズが、最大値を超えている場合に出力されます。ファイルサイズの計算式は、「7.5 初期設定パラメタファイル」を参照してくだ

さい。

対処

割当量の変更が必要であれば、再構成ユティリティ (xodbrcons) のエリア再作成機能を使用して、エリア名で示されたエリアを再作成してください。また、最大割当量の指定が必要であれば、構成変更ユティリティ (xodflalt) を使用して、最大割当量を指定してください。

KFXO59220-E: スレイブディレクトリ中のタイプ管理情報 (ARTM) の更新処理でエラーが発生しました。エリア名=XX 詳細エラー番号=XX タイプID=XX

エリア名:

スレイブディレクトリ更新処理中のエリアのエリア名

詳細エラー番号:

スレイブディレクトリ更新中に発生した詳細エラー番号

タイプID:

マスタディレクトリから求めた不正なタイプID

要因

スレイブディレクトリ中のタイプ管理情報 (ARTM) の更新処理でエラーが発生しました。

対処

次に、詳細エラー番号に対する対処を示します。

| 詳細エラー番号 | 内容                                             | 対処                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------|------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 59220   | マスタディレクトリから求めたタイプID中のセグメント番号、エントリ番号のどちらかが範囲外です | バックアップからマスタディレクトリを回復した後、再度実行してください。その後、「4.5.3 データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したエリアと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル(ユーザエリア、インデクスエリア)をバックアップから回復してください。そして、データベース再編成ユティリティ(xodbreog)を使用してOIDインデクスを再作成してください。その後、データベース再初期化ユティリティ正常終了時に出力されるKFXO59103-Iメッセージの指示に従ってください。バックアップからマスタディレクトリを回復しても、このエラーが発生する場合は、システム管理者に連絡してください |

KFXO59221-E: スレイブディレクトリ中のインデクス管理情報 (ARIM) の更新処理でエラーが発生しました。エリア名=XX 詳細エラー番号=XX インデクスID=XX

エリア名:

スレイブディレクトリ更新処理中のエリアのエリア名

詳細エラー番号:

スレイブディレクトリ更新中に発生した詳細エラー番号

インデクスID:

マスタディレクトリから求めた不正なインデクスID

要因

スレイブディレクトリ中のインデクス管理情報 (ARIM) の更新処理でエラーが発生しました。

## 対処

次に、詳細エラー番号に対する対処を示します。

| 詳細エラー番号 | 内容                                                 | 対処                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------|----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 59221   | マスタディレクトリから求めたインデクス ID 中のセグメント番号、エントリ番号のどちらかが範囲外です | バックアップからマスタディレクトリを回復した後、再度実行してください。その後、「4.5.3 データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したエリアと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル（ユーザエリア、インデクスエリア）をバックアップから回復してください。そして、データベース再編成ユティリティ (xodbreog) を使用して OID インデクスを再作成してください。その後、データベース再初期化ユティリティ正常終了時に出力される KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください。バックアップからマスタディレクトリを回復しても、このエラーが発生する場合は、システム管理者に連絡してください |

KFXO59397-I：シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

## 要因

割り込みキー及び中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

## 対処

必要があれば再度実行してください。

KFXO59399-E：DBエリア再初期化ユティリティが異常を検知しました。理由コード = XX  
ファイル名 = XX 場所 = XX

## 理由コード：

何の要因でアボートしたか、何の異常かを示すコード

## ファイル名：

アボートしたファイル名

## 場所：

ファイル中の行番号

## 要因

DB エリア再初期化ユティリティで内部矛盾を検知したため、アボートしました。

## 対処

このメッセージの内容及びこのメッセージ以前に出力されたエラーメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときは、コアファイルを保存してください。

KFXO59400-I：DBエリア情報表示ユティリティを開始します。

## 要因

DB エリア情報表示ユティリティを開始した時に出力されます。

KFXO59401-I：DBエリア情報表示ユティリティが正常終了しました。

## 要因

DB エリア情報表示ユティリティが正常終了した時に出力されます。

## 付録K メッセージ

KFXO59402-E : DBエリア情報表示ユティリティが異常終了しました。

要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーによって、DBエリア情報表示ユティリティが異常終了しました。

対処

このメッセージ以前に出力されたメッセージに従ってエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO59410-E : OMSが起動されていません。

要因

OMS が起動されていないため、DB エリア情報表示ユティリティが実行できませんでした。

対処

OMS が起動されていない場合は、OMS を起動して、再度実行してください。

KFXO59411-E : OMSとの接続時にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

エラーコード：

接続時に発生したエラーコード

詳細エラー番号：

接続時に発生した詳細エラー番号

要因

OMS との接続時にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、このメッセージで出力される詳細エラー番号に対応するオブジェクトサーバの詳細コードのユーザの処置に従ってください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

KFXO59412-E : トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

エラーコード：

トランザクション開始処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：

トランザクション開始中に発生した詳細エラー番号

要因

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、このメッセージで出力される詳細エラー番号に対応するオブジェクトサーバの詳細コードのユーザの処置に従ってください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

KFXO59413-E : コミット処理中にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

エラーコード：

コミット処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：



コミット処理中に発生した詳細エラー番号

要因

コミット処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、このメッセージで出力される詳細エラー番号に対応するオブジェクトサーバの詳細コードのユーザの処置に従ってください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

KFXO59414-E：ロールバック処理中にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

エラーコード：

ロールバック処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：

ロールバック処理中に発生した詳細エラー番号

要因

ロールバック処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、このメッセージで出力される詳細エラー番号に対応するオブジェクトサーバの詳細コードのユーザの処置に従ってください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

KFXO59415-E：同時に実行できない他のユティリティが実行中です。

要因

同時に実行できない他のユティリティが実行中のため、DB エリア情報表示ユティリティが実行できません。

対処

同時に実行できない他のユティリティの終了を待って、再度実行してください。

KFXO59416-E：OMSの実行モードが回復ユティリティ実行モードのため、実行できません。

要因

オブジェクトサーバを回復ユティリティ実行モードで起動しているため、DB エリア情報表示ユティリティが実行できません。

対処

必要に応じてデータベースの回復ユティリティを実行後、アプリケーション実行モード又はユティリティ実行モードでオブジェクトサーバを再起動してください。その後、再度実行してください。

KFXO59420-E：エリア数の取得処理中にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

エラーコード：

エリア数の取得処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：

エリア数の取得処理中に発生した詳細エラー番号

要因

エリア数の取得処理中にエラーが発生しました。

対処

## 付録K メッセージ

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、このメッセージで出力される詳細エラー番号に対応するオブジェクトサーバの詳細コードのユーザの処置に従ってください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

KFXO59421-E：エリア情報の参照処理中にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

エラーコード：

エリア情報の参照処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：

エリア情報の参照処理中に発生した詳細エラー番号

要因

エリア情報の参照処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、このメッセージで出力される詳細エラー番号に対応するオブジェクトサーバの詳細コードのユーザの処置に従ってください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

KFXO59430-E：ディクショナリ検索処理中にエラーが発生しました。エリア名：XX エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：

ディクショナリ検索処理中のエリアのエリア名

エラーコード：

ディクショナリ検索処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：

ディクショナリ検索処理中に発生した詳細エラー番号

要因

ディクショナリ検索処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO59431-E：ディクショナリ検索処理中にロック取得が失敗しました。エリア名：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：

ディクショナリ検索処理中のエリアのエリア名

詳細エラー番号：

ロック取得時に発生した詳細エラー番号

要因

ディクショナリ検索処理中にロック取得が失敗しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO59432-E：ディクショナリ検索処理中にオブジェクトキャッシュが満杯になりました。エリア名：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：

ディクショナリ検索処理中のエリアのエリア名  
詳細エラー番号：

ディクショナリ検索処理中に発生した詳細エラー番号

要因

ディクショナリ検索処理中にオブジェクトキャッシュが満杯になりました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO59433-E：ディクショナリ検索処理中に入出力エラーが発生しました。エリア名：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：

ディクショナリ検索処理中のエリアのエリア名

詳細エラー番号：

ディクショナリ検索処理中に発生した詳細エラー番号

要因

ディクショナリ検索処理中に入出力エラーが発生しました。

対処

このメッセージの以前に出力されたメッセージ、及び「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO59440-E：ディクショナリから取得したエリア番号は常駐エリア情報中の最大エリア番号を超えているか、常駐エリア情報エントリ中のエリア番号と不一致です。エリア名：XX エリア番号：XX

エリア名：

ディクショナリから取得したエリア名

エリア番号：

ディクショナリから取得した不正なエリア番号

要因

ディクショナリから取得したエリア番号は常駐エリア情報中の最大エリア番号を超えているか、常駐エリア情報エントリ中のエリア番号と不一致です。

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。

KFXO59441-E：常駐エリア情報と常駐ファイル情報の矛盾を検知しました。ファイル番号が常駐ファイル情報エントリ中のファイル番号と不一致です。エリア名：XX エリア番号：XX  
ファイル番号：XX

エリア名：

ディクショナリ又は常駐エリア情報から取得したエリア名

エリア番号：

ディクショナリから取得したエリア番号

ファイル番号：

常駐ファイル情報エントリ中のファイル番号と不一致のファイル番号

要因

常駐エリア情報と常駐ファイル情報の矛盾を検知しました。ファイル番号が常

## 付録K メッセージ

駐ファイル情報エントリ中のファイル番号と不一致です。

### 対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。

KFXO59450-E：領域の確保に失敗しました。確保しようとした領域の大きさ：XX

確保しようとした領域の大きさ：

確保に失敗した領域の大きさ（単位：バイト）

### 要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

### 対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させたりしてから、再度実行してください。

KFXO59497-I：シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

### 要因

割り込みキー及び中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

### 対処

必要に応じて再度実行してください。

KFXO59499-E：DBエリア情報表示ユーティリティが異常を検知しました。理由コード = XX  
ファイル名 = XX 場所 = XX

理由コード：

アボートした要因と異常の種類を表すコード

ファイル名：

アボートしたファイル名

場所：

ファイル中の行番号

### 要因

DB エリア情報表示ユーティリティで内部矛盾を検知したため、アボートしました。

### 対処

このメッセージの内容及びこのメッセージ以前に出力されたエラーメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときはコアファイルを保存してください。

KFXO59500-I：ディクショナリ情報表示ユーティリティを開始します。

### 要因

ディクショナリ情報表示ユーティリティ（xoddicls コマンド）を開始した時に出力されます。

KFXO59501-I：ディクショナリ情報表示ユーティリティが正常終了しました。

### 要因

ディクショナリ情報表示ユーティリティ（xoddicls コマンド）が正常終了した時に出力されます。

KFXO59502-E：ディクショナリ情報表示ユーティリティが異常終了しました。

## 要因

ディクショナリ情報表示ユーティリティ (xoddicls コマンド) が異常終了した時に出力されます。

## 対処

エラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO59503-E : 引数の指定に誤りがあります。

## 要因

xoddicls コマンドの引数を正しく指定していません。

## 対処

正しい値を指定して、再度実行してください。

KFXO59504-I : 使用方法 : xoddicls [-d ディクショナリエリアのファイル名] [-a]

## 要因

xoddicls コマンドの引数を正しく指定していません。

## 対処

正しい値を指定して、再度実行してください。

KFXO59505-E : 現在時刻の取得に失敗しました。エラーコード = XX

## エラーコード :

システムコールの time() で発生したエラーコード

## 要因

システムコールの time() の引数が不正であるためエラーが発生しました。

## 対処

エラーコードからエラーの要因を取り除き、再度実行してください。エラーコードの意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO59506-I : オンラインとして動作します。

## 要因

オンラインユーティリティとして動作した時に出力されます。

KFXO59507-I : オフラインとして動作します。

## 要因

オフラインユーティリティとして動作した時に出力されます。

KFXO59510-E : システム共通定義解析処理でエラーが発生しました。

## 要因

システム共通定義解析処理でエラーが発生したため、処理を続行できません。

## 対処

直前に出力されたメッセージに従ってエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO59511-E : パラメタファイル解析用作業領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。

## 要因

パラメタファイル解析用の作業領域確保時にメモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

## 対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、ディクショナリ情報表示ユーティリティ (xoddicls コマンド) を再起動してください。

KFXO59512-E : ファイル名の長さが定義範囲を超えています。オプション : XX 最小値 : XX  
最大値 : XX

オプション :

定義範囲を超えたファイル名が指定されているオプション名

最小値 :

ファイル名の長さの最小値

最大値 :

ファイル名の長さの最大値

要因

定義ファイルに定義したファイル名の長さが定義範囲を超えています。

対処

ファイル名の長さを定義範囲内に定義し直してから、ディクショナリ情報表示ユーティリティ (xoddicls コマンド) を再実行してください。

KFXO59513-E : ディクショナリエリアのファイル名 (-d オプション) の指定がなく、環境変数 XODCONFPATH も設定されていません。

要因

ディクショナリエリアのファイル名 (-d オプション) の指定がなく、環境変数 XODCONFPATH も設定されていないため、処理が続行できません。

対処

ディクショナリエリアのファイル名 (-d オプション) を指定するか、環境変数 XODCONFPATH を設定してから、再実行してください。

KFXO59514-E : システム共通定義ファイルのマスタディレクトリのファイル名が不正です。

要因

システム共通定義ファイルのマスタディレクトリのファイル名が不正なため、処理が続行できません。

対処

システム共通定義ファイルのマスタディレクトリのファイル名の定義 (dbm\_master) を確認して、正しいファイル名を指定して再実行してください。

KFXO59515-E : マスタディレクトリからディクショナリのファイル名の取得に失敗しました。  
エラーコード = XX

エラーコード :

エラーの要因

要因

マスタディレクトリからディクショナリのファイル名の取得に失敗したため、処理が続行できません。

対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、ディクショナリ情報表示ユーティリティ (xoddicls コマンド) を再実行してください。

| エラーコード | 意味             | 対策                                                                                                                                                                                                                           |
|--------|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 59010  | 入出力エラー         | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。<br>ただし、直前に KFXO59014-E メッセージが出力され、ファイル名がシステム共通定義の dbm_master パラメタに指定された内容であり、かつエラーコードが「2」となっている場合は、システム共通定義の dbm_master パラメタで指定されたマスタディレクトリのファイル名が正しいか、及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中に存在するかも、確認してください。 |
| 59070  | マスタディレクトリの内容不正 | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。                                                                                                                                                                                                 |
| その他    | -              | このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。                                                                                                                                                                                             |

KFXO59516-E：システム共通定義ファイルにマスタディレクトリのファイル名の指定がありません。

**要因**

システム共通定義にマスタディレクトリ指定がないため、処理を続行できません。

**対処**

システム共通定義ファイルにマスタディレクトリのファイル名の定義 (dbm\_master) を追加した後で、再実行してください。

KFXO59529-I：シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

**要因**

割り込みキー及び中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

KFXO59530-E：OMSとの接続時にエラーが発生しました。エラーコード=XX 詳細エラー番号=XX

**エラーコード：**

接続時に発生したエラーコード

**詳細エラー番号：**

接続時に発生した詳細エラー番号

**要因**

OMS との接続時にエラーが発生しました。

**対処**

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

KFXO59531-E：同時に実行できない他のユティリティが実行中です。

**要因**

同時に実行できない他のユティリティが実行中のため、ディクショナリ情報表示ユティリティ (xoddicls コマンド) が実行できません。

**対処**

## 付録K メッセージ

同時に実行できない他のユティリティの終了を待って、再度実行してください。

KFXO59532-E：OMSの実行モードが回復ユティリティ実行モードのため、実行できません。

### 要因

オブジェクトサーバを回復ユティリティ実行モードで起動しているため、ディクショナリ情報表示ユティリティ（xoddiels コマンド）が実行できません。

### 対処

必要に応じて、データベースの回復ユティリティを実行後にアプリケーション実行モード又はユティリティ実行モードでオブジェクトサーバを再起動してください。又は、オブジェクトサーバを停止してください。その後、再度実行してください。

KFXO59533-E：トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

### エラーコード：

トランザクション開始処理中に発生したエラーコード

### 詳細エラー番号：

トランザクション開始中に発生した詳細エラー番号

### 要因

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。

### 対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

KFXO59534-E：コミット処理中にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

### エラーコード：

コミット処理中に発生したエラーコード

### 詳細エラー番号：

コミット処理中に発生した詳細エラー番号

### 要因

コミット処理中にエラーが発生しました。

### 対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

KFXO59550-E：ディクショナリアクセスの準備処理で、エラーが発生しました。エラーコード = XX

### エラーコード：

エラーの要因

### 要因

ディクショナリアクセスの準備処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

### 対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、ディクショナリ情報表示ユティリ



ティ ( xoddicls コマンド ) を再度実行してください。

| エラーコード | 意味           | 対策                                                                                                                                                                                       |
|--------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 59010  | 入出力エラー       | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。<br>ただし、直前に KFXO59014-E メッセージが出力され、ファイル名が -d オプションに指定した内容であり、かつエラーコードが「2」となっている場合は、-d オプションに指定したディクショナリエリアのファイル名が正しいか及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中に存在するかも確認してください。 |
| 59020  | ディクショナリの内容不正 | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。                                                                                                                                                             |
| その他    | -            | このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。                                                                                                                                                         |

KFXO59551-E : -d オプションで指定されたディクショナリエリアのファイル名は、ディクショナリエリアの先頭ファイルではありません。

**要因**

-d オプションで指定されたディクショナリエリアのファイル名は、ディクショナリエリアの先頭ファイルでないため、処理が続行できません。

**対処**

-d オプションで指定されたディクショナリエリアのファイル名を確認し、正しいファイル名を指定して再度実行してください。

KFXO59552-E : システム情報取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード = XX

**エラーコード :**

エラーの要因

**要因**

システム情報取得処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

**対処**

エラーコードからエラーの原因を取り除き、ディクショナリ情報表示ユーティリティ ( xoddicls コマンド ) を再度実行してください。

| エラーコード | 意味           | 対策                                                                                                                                                                                   |
|--------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 59010  | 入出力エラー       | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。ただし、直前に KFXO59014-E メッセージが出力され、ファイル名が -d オプションに指定した内容であり、かつエラーコードが「2」となっている場合は、-d オプションに指定したディクショナリエリアのファイル名が正しいか及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中に存在するかも確認してください。 |
| 59020  | ディクショナリの内容不正 | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。                                                                                                                                                         |
| 59080  | ロックエラー       | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。                                                                                                                                                         |
| その他    | -            | このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。                                                                                                                                                     |

## 付録K メッセージ

KFXO59553-E：スキーマ情報取得の処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX 種別=XX

エラーコード：

エラーの要因

種別：

USER：ユーザ用

DICTIONARY：ディクショナリ用

要因

スキーマ情報取得の処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、ディクショナリ情報表示ユティリティ (xoddicls コマンド) を再度実行してください。

| エラーコード | 意味           | 対策                                                                                                                                                                                       |
|--------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 59010  | 入出力エラー       | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。<br>ただし、直前に KFXO59014-E メッセージが出力され、ファイル名が -d オプションに指定した内容であり、かつエラーコードが「2」となっている場合は、-d オプションに指定したディクショナリエリアのファイル名が正しいか及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中に存在するかも確認してください。 |
| 59020  | ディクショナリの内容不正 | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。                                                                                                                                                             |
| その他    | -            | このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。                                                                                                                                                         |

KFXO59554-W：スキーマが定義されていません。

要因

スキーマが定義されていません。

KFXO59555-E：ディクショナリ情報取得用バッファの確保時に、メモリ不足が発生しました。  
要求サイズ=XX

要求サイズ：

確保しようとした領域長 (単位：バイト)

要因

ディクショナリ情報取得用バッファの確保時にメモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、ディクショナリ情報表示ユティリティ (xoddicls コマンド) を再度実行してください。

KFXO59556-E：エリア情報一覧取得の処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX

エラーコード：

エラーの要因

要因

エリア情報一覧取得の処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

## 対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、ディクショナリ情報表示ユーティリティ (xoddicls コマンド) を再度実行してください。

| エラーコード | 意味           | 対策                                                                                                                                                                                       |
|--------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 59010  | 入出力エラー       | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。<br>ただし、直前に KFXO59014-E メッセージが出力され、ファイル名が -d オプションに指定した内容であり、かつエラーコードが「2」となっている場合は、-d オプションに指定したディクショナリエリアのファイル名が正しいか及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中に存在するかも確認してください。 |
| 59020  | ディクショナリの内容不正 | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。                                                                                                                                                             |
| その他    | -            | このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。                                                                                                                                                         |

KFXO59557-E: タイプ情報一覧取得の処理で、エラーが発生しました。エラーコード = XX 種別 = XX

エラーコード:

エラーの要因

種別:

USER: ユーザ用

DICTIONARY: ディクショナリ用

要因

タイプ情報一覧取得の処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、ディクショナリ情報表示ユーティリティ (xoddicls コマンド) を再度実行してください。

| エラーコード | 意味           | 対策                                                                                                                                                                                    |
|--------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 59010  | 入出力エラー       | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。<br>ただし、直前に KFXO59014-E メッセージが出力され、ファイル名が -d オプションに指定した内容で、エラーコードが「2」となっている場合は、-d オプションに指定したディクショナリエリアのファイル名が正しいか、及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中に存在するかも確認してください。 |
| 59020  | ディクショナリの内容不正 | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。                                                                                                                                                          |
| その他    | -            | このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。                                                                                                                                                      |

KFXO59558-E: ユニバーサル関連情報一覧取得の処理で、エラーが発生しました。エラーコード = XX

エラーコード:

エラーの要因

## 付録K メッセージ

### 要因

ユニバーサル関連情報一覧取得の処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

### 対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、ディクショナリ情報表示ユーティリティ (xoddicls コマンド) を再度実行してください。

| エラーコード | 意味           | 対策                                                                                                                                                                                       |
|--------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 59010  | 入出力エラー       | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。<br>ただし、直前に KFXO59014-E メッセージが出力され、ファイル名が -d オプションに指定した内容であり、かつエラーコードが「2」となっている場合は、-d オプションに指定したディクショナリエリアのファイル名が正しいか及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中に存在するかも確認してください。 |
| 59020  | ディクショナリの内容不正 | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。                                                                                                                                                             |
| その他    | -            | このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。                                                                                                                                                         |

KFXO59559-E：インデクス情報一覧取得の処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX

エラーコード：

エラーの要因

### 要因

インデクス情報一覧取得の処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

### 対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、ディクショナリ情報表示ユーティリティ (xoddicls コマンド) を再度実行してください。

| エラーコード | 意味           | 対策                                                                                                                                                                                       |
|--------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 59010  | 入出力エラー       | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。<br>ただし、直前に KFXO59014-E メッセージが出力され、ファイル名が -d オプションに指定した内容であり、かつエラーコードが「2」となっている場合は、-d オプションに指定したディクショナリエリアのファイル名が正しいか及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中に存在するかも確認してください。 |
| 59020  | ディクショナリの内容不正 | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください。                                                                                                                                                             |
| その他    | -            | このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。                                                                                                                                                         |

KFXO59599-E：ディクショナリ情報表示の処理で異常を検知しました。理由コード=XX 詳細コード=XX ファイル名=XX 場所=XX

理由コード：

アボートした要因と異常を示すコード

詳細コード：

アボートの要因となった（エラーリターンした）関数のエラーコード

ファイル名：

アボートしたファイル名

場所：

ファイル中の行番号

要因

ディクショナリ情報表示の処理で内部矛盾を検知したため、アボートしました。

対処

このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときにはコアファイルを保存してください。

KFXO60004-I : Database Extension Check Failed(Signal Interruption Received.)

要因

割り込みキー及び中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

対処

必要があれば再度実行してください。

KFXO60008-E : Database Extension Check Failed(Transaction Initiation Error. errcode=XX  
errno=XX)

errcode :

トランザクション開始処理中に発生したエラーのエラーコード

errno :

トランザクション開始処理中に発生したエラーの詳細エラー番号

要因

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO60010-E : Database Extension Check Failed(File Write Error. file=XX function=XX  
code=XX)

file :

書き込みに失敗したファイルのファイル名

function :

エラーが発生したシステムコール名

code :

システムコールの write() で発生したエラーのエラーコード

要因

ファイルに書き込もうとした時に、システムコールの write() でエラーが発生しました。

対処

エラーコードが示すエラーの要因を取り除いて、再度実行してください。

KFXO60011-E : Database Extension Check Failed(Disk Space Not Enough. file=XX function=XX)

## 付録K メッセージ

file :

書き込みに失敗したファイルのファイル名

function :

エラーが発生したシステムコール名

要因

ファイルに書き込もうとした時に、記録媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。システムコールの `ulimit()` を使用して、プロセスで書き込めるファイルの限界を設定している場合、その限界より多いバイトの書き込み要求をした時もこのエラーになります。

対処

不要なファイルを削除して、空き領域を作成してください。

KFXO60012-E : Database Extension Check Failed(Get Database Use Information From Directory Failed. errno=XX)

errno :

ディレクトリからのデータベース使用状況の取得中に発生したエラーの詳細エラー番号

要因

ディレクトリからのデータベース使用状況の取得に失敗しました。

対処

次に詳細エラー番号に対する対処を示します。

| 詳細エラー番号                 | 対処                                                                      |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 41002<br>41300<br>41301 | このメッセージを記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください |
| 41016<br>41307          | 以前に出力しているメッセージに従ってください                                                  |
| 上記以外                    | 「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください                   |

KFXO60013-E : Database Extension Check Failed(Get File Extension Time And Database Reorganization Utility Execution Time From Directory Failed. errno=XX)

errno :

ディレクトリからのファイル増分時刻・データベース再編成ユーティリティ実行時刻の取得中に発生したエラーの詳細エラー番号

要因

ディレクトリからのファイル増分時刻・データベース再編成ユーティリティ実行時刻の取得に失敗しました。

対処

次に詳細エラー番号に対する対処を示します。

| 詳細エラー番号        | 対処                                                                      |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 41300<br>41301 | このメッセージを記録してシステム管理者に連絡してください。どのメッセージ出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください |
| 上記以外           | 「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください                   |

KFXO60014-E : Database Extension Check Failed(Commitment Error. errcode=XX errno=XX)

errcode :

コミット処理中に発生したエラーのエラーコード

errno :

コミット処理中に発生したエラーの詳細エラー番号

要因

コミット処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO60015-E : Database Extension Check Failed(Rollback Error. errcode=XX errno=XX)

errcode :

ロールバック処理中に発生したエラーのエラーコード

errno :

ロールバック処理中に発生したエラーの詳細エラー番号

要因

ロールバック処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO60999-E : Database Extension Check Failed(Abnormality Detected. reasoncode=XX filename=XX location=XX)

reasoncode :

エラーの原因を示す内部コード

filename :

アポートしたファイル名

location :

ファイル中の行番号

要因

DB 増分契機チェックユティリティで内部矛盾を検出しました。

対処

このメッセージの内容及びこのメッセージ以前に出力されているエラーメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている時はコアファイルを保存してください。

KFXO61000-I : DBエリア使用状況表示ユティリティを開始します。

要因

## 付録K メッセージ

DB エリア使用状況表示ユーティリティの xodbuse コマンドを開始したときに出力されます。

KFXO61001-I : DBエリア使用状況表示ユーティリティが正常終了しました。

### 要因

DB エリア使用状況表示ユーティリティの xodbuse コマンドが正常終了したときに出力されます。

KFXO61002-E : DBエリア使用状況表示ユーティリティが異常終了しました。

### 要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーにより、DB エリア使用状況表示ユーティリティの xodbuse コマンドが異常終了しました。

### 対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再実行してください。

KFXO61003-W : 定義されていないエリアが指定されたため、エリアの使用状況を表示できません。エリア名称 = XX

### エリア名称 :

定義されていないエリア名称

### 要因

システム内に定義されていないエリア名称が -a でオプションで指定されています。

### 対処

システム内に定義されているエリア名を指定して、再実行してください。

KFXO61008-I : オンラインとして動作します。

### 要因

オンラインユーティリティとして動作したときに出力されます。

KFXO61009-I : オフラインとして動作します。

### 要因

オフラインユーティリティとして動作したときに出力されます。

KFXO61010-E : 領域の確保に失敗しました。確保しようとした領域の大きさ = XX

### 確保しようとした領域の大きさ :

確保に失敗した領域の大きさ (単位 : バイト)

### 要因

処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

### 対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO61011-E : システム共通定義解析処理でエラーが発生しました。

### 要因

システム共通定義解析処理でエラーが発生したため、処理を続行できません。

### 対処

直前に出力されているメッセージに従い原因を取り除き、再実行してください。



KFXO61013-E : システム共通定義ファイルにマスタディレクトリのファイル名の指定がありません。

**要因**

システム共通定義にマスタディレクトリ指定がないため、処理を続行できません。

**対処**

システム共通定義ファイルにマスタディレクトリのファイル名の定義 (dbm\_master) を追加した後で、再実行してください。

KFXO61014-E : 現在時刻の取得に失敗しました。エラーコード = XX

**エラーコード :**

システムコールの time() で発生したエラーコード

**要因**

システムコールの time() の引数が不正であるため、エラーが発生しました。

**対処**

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO61015-E : 指定された全てのエリアの使用状況を表示できませんでした。

**要因**

-a オプションで指定した全てのエリアの使用状況を表示できませんでした。

**対処**

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再実行してください。

KFXO61016-E : タイプ/インデクス名の取得処理でエラーが発生しました。タイプ/インデクス ID = XX エラーコード = YY 詳細エラー番号 = ZZ

**タイプ/インデクス ID :**

タイプ/インデクス名を取得しようとしたタイプ/インデクス ID

**エラーコード :**

タイプ/インデクス名の取得処理中に発生したエラーコード

**詳細エラー番号 :**

タイプ/インデクス名の取得処理中に発生した詳細エラー番号

**要因**

タイプ/インデクス名の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

**対処**

エラーコード及び詳細エラー番号からエラーの要因を取り除き、再実行してください。次にエラーコードに対するオペレータの処置を示します。

| エラーコード | 内容            | 対処                          |
|--------|---------------|-----------------------------|
| 32500  | データベースの入出力エラー | 直前に出力されているメッセージに従い、対処してください |

## 付録K メッセージ

| エラーコード | 内容       | 対処                              |
|--------|----------|---------------------------------|
| 32520  | ロック取得エラー | 直前に出力されているメッセージに従い、対処してください     |
| その他    | -        | このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください |

KFXO61017-E：マスタディレクトリのファイル名の指定がなく、環境変数XODCONFPATHも設定されていません。

### 要因

マスタディレクトリのファイル名の指定がなく、環境変数 XODCONFPATH も設定されていません。

### 対処

マスタディレクトリのファイル名を指定するか、環境変数 XODCONFPATH を設定して、再実行してください。

KFXO61018-W：指定されたエリアの使用状況表示はできません。エリア名称 = XX

### エリア名称：

使用状況を表示できないエリア名称

### 要因

-a オプションで使用状況を表示できないエリア名称が指定されています。

KFXO61019-E：マスタディレクトリが不正です。

### 要因

-m オプションで指定したマスタディレクトリのファイル名、又はシステム共通定義ファイルのマスタディレクトリのファイル名 (dbm\_master) が不正に定義されています。

### 対処

-m オプションで指定したマスタディレクトリのファイル名を確認し、正しいファイル名を指定して再実行してください。

又は、システム共通定義ファイルのマスタディレクトリのファイル名の定義 (dbm\_master) を確認し、正しいファイル名を定義して再実行してください。

KFXO61050-E：OMSとの接続時にエラーが発生しました。エラーコード = XX 詳細エラー番号 = YY

### エラーコード：

接続時に発生したエラーコード

### 詳細エラー番号：

接続時に発生した詳細エラー番号

### 要因

OMS との接続時にエラーが発生しました。

### 対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO61051-E：同時に実行できない他のユティリティが実行中です。

### 要因

同時に実行できない他のユティリティが実行中のため、DB エリア使用状況表示ユティリティが実行できません。

対処

同時に実行できない他のユティリティが終了した後、再実行してください。

KFXO61052-E：トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。エラーコード = XX 詳細エラー番号 = YY

エラーコード：

トランザクション開始処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：

トランザクション開始処理中に発生した詳細エラー番号

要因

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO61053-E：コミット処理中にエラーが発生しました。エラーコード = XX 詳細エラー番号 = YY

エラーコード：

コミット処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：

コミット処理中に発生した詳細エラー番号

要因

コミット処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO61054-E：ロールバック処理中にエラーが発生しました。エラーコード = XX 詳細エラー番号 = YY

エラーコード：

ロールバック処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：

ロールバック処理中に発生した詳細エラー番号

要因

ロールバック処理中にエラーが発生しました。

対処

「付録 K.4 詳細コード」を参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO61055-E：OMSの実行モードが回復ユティリティ実行モードのため、実行できません。

要因

オブジェクトサーバを回復ユティリティ実行モードで起動しているため、DB エリア使用状況表示ユティリティが実行できません。

対処

必要に応じて、データベースの回復ユティリティを実行してから、アプリケーション実行モード又はユティリティ実行モードでオブジェクトサーバを再起動してください。又は、オブジェクトサーバを停止してください。その後、再度実行してください。

KFXO61060-E: ディレクトリから取得したファイル名で示すファイルが、エリア情報常駐テーブルに定義されていません。ファイル名 = XX

ファイル名:

エリア情報常駐テーブルに定義されていないファイルのファイル名

要因

ディレクトリから取得したファイル名で示すファイルが、エリア情報常駐テーブルに定義されていません。構成変更ユティリティ (xodaradd) により、エリア情報常駐テーブルで管理できる個数以上のエリアが追加されたときに出力されます。

対処

オブジェクトサーバを再起動して、再実行してください。

KFXO61061-E: ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名 = XX エラーコード = YY

ファイル名:

オープンに失敗したファイルのファイル名

エラーコード:

fopen() 関数で発生したエラーコード

要因

ファイルをオープンしようとしたとき、fopen() 関数でエラーが発生しました。

対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO61062-E: ファイルポインタの移動に失敗しました。ファイル名 = XX エラーコード = YY

ファイル名:

ファイルポインタの移動に失敗したファイルのファイル名

エラーコード:

fseek() 関数からリターンしたときのエラーコード

要因

ファイルポインタを移動しようとしたとき、fseek() 関数でエラーが発生しました。

対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO61063-E : ファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名 = XX エラーコード = YY

ファイル名 :

読み込みに失敗したファイルのファイル名

エラーコード :

fread() 関数からリターンしたときのエラーコード

要因

ファイルを読み込もうとしたとき、fread() 関数でエラーが発生しました。

対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。エラー番号の意味は、「付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号」を参照してください。

KFXO61100-E : 引数の指定に誤りがあります。

要因

引数が正しく指定されていません。

対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO61101-I : 使用方法 : xodbuse [ -m マスタディレクトリファイル名称 ] [ -a エリア名称 [ , エリア名称 , ... ] ]

要因

コマンドの引数を正しく指定していません。

対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO61102-E : パラメタ解析用作業領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。

要因

パラメタ解析用作業領域を確保する時、メモリ不足が発生したため、処理を続行できません。

対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO61103-E : ファイル名称の長さが有効範囲を超えています。オプション = AA ファイル名称 = BB 最小値 = CC 最大値 = DD

オプション :

有効範囲を超えたファイル名称が指定されているオプション名

ファイル名称 :

有効範囲を超えているファイル名称

最小値 :

ファイル名称の長さ (単位 : バイト) の最小値

最大値 :

ファイル名称の長さ (単位 : バイト) の最大値

要因

指定したファイル名称の長さが有効範囲を超えています。

対処

## 付録K メッセージ

ファイル名称の長さを有効範囲内に指定し直して、再実行してください。

KFXO61104-E：エリア名称の長さが有効範囲を超えています。オプション = AA エリア名称 = BB 最小値 = CC 最大値 = DD

オプション：

有効範囲を超えたエリア名称が指定されているオプション名

エリア名称：

有効範囲を超えているエリア名称

最小値：

エリア名称の長さ(単位：バイト)の最小値

最大値：

エリア名称の長さ(単位：バイト)の最大値

要因

指定したエリア名称の長さが有効範囲を超えています。

対処

エリア名称の長さを有効範囲内に指定し直して、再実行してください。

KFXO61997-I：シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

要因

割り込みキー及び中断キーが押されたか、Kill コマンドまたは端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

対処

必要があれば再実行してください。

KFXO61999-E：DBエリア使用状況表示ユティリティが異常を検知しました。理由コード = XX  
ファイル名 = YY 場所 = ZZ

理由コード：

何の理由でアボートしたかを示すコード

ファイル名：

アボートしたファイル名

場所：

ファイル中の行番号

要因

DB エリア使用状況表示ユティリティで内部矛盾を検知したため、アボートしました。

対処

このメッセージの内容及び、このメッセージ以前に出力されたエラーメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときはコアファイルを保存してください。

KFXO90200-E：使用方法：gseset -n|-c|-r -f 情報ファイル名 [-o 出力先ディレクトリ名]

要因

gseset コマンドの使用方法に誤りがあります。

対処

gseset コマンドを正しく使用してください。

KFXO90201-E：情報ファイルの記述に誤りがあります。パラメタ名が間違っています。ファイ

ル名：XX 行数：XX行目 パラメタ名：XX

要因

gseset コマンドの `-f` オプションのファイル名で指定する情報ファイル中に示す行のパラメタ名が不当です。

対処

情報ファイルを修正した後、再実行してください。

KFXO90202-E：情報ファイルの記述に誤りがあります。値が間違っています。ファイル名：XX  
行数：XX行目 パラメタ名：XX 値：XX

要因

gseset コマンドの `-f` オプションのファイル名で指定する情報ファイル中に示す行のパラメタ名に指定した値が不当です。

対処

情報ファイルを修正した後、再実行してください。

KFXO90203-E：情報ファイルがありません。ファイル名：XX

要因

seset コマンドの `-f` オプションで指定するファイル名で示すファイルがありません。

対処

`-f` オプションで正しいファイル名を指定した後、再実行してください。

KFXO90204-E：情報ファイルの記述に誤りがあります。パラメタ名1の値がパラメタ名2を超えています。ファイル名：XX

要因

パラメタ名1で指定したパラメタ値は、パラメタ名2で指定したパラメタ値より小さくなければならないが、これを超えた値を指定しています。

対処

パラメタ名1で指定したパラメタ値 < パラメタ名2で指定したパラメタ値となるように修正した後、再実行してください。

KFXO90205-I：コマンド名が正常終了しました。

要因

コマンド名で示すコマンドが正常終了しました。

KFXO90206-E：コマンド名が異常終了しました。

要因

コマンド名で示すコマンドが異常終了しました。

対処

このメッセージ出力時に KFXO9xxx(xxx=000 ~ 999) を出力するので、これを参照してください。

KFXO90207-E：出力先ディレクトリがありません。ディレクトリ名称：XX

要因

gseset コマンドの `-o` オプションで指定したディレクトリ名で示すディレクトリがありません。

対処

## 付録K メッセージ

正しいディレクトリ名称を指定して、このコマンドを再実行してください。

KFXO90208-E：出力先ディレクトリにファイルが存在します。ファイル名：XX

### 要因

gseset コマンドの -o オプションで指定したディレクトリ下にファイル名で示すファイルが既に存在しています。

### 対処

必要ならば、ファイル名で示すファイルのバックアップを行い、ファイル名で示すファイルを削除した後、このコマンドを再実行してください。

KFXO90209-E：情報ファイルの記述に誤りがあります。パラメタが不足しています。ファイル名：XX パラメタ名：XX

### 要因

gseset コマンドの -f オプションのファイル名で指定する情報ファイル中にパラメタ名で示すパラメタ名が不足しています。

### 対処

情報ファイルを修正した後、再実行してください。

KFXO90210-E：情報ファイルの記述に誤りがあります。アドレス帳を指定して下さい。ファイル名：XX

### 要因

gseset コマンドの -f オプションのファイル名で指定した情報ファイル中に記述するアプリケーション構成にアドレス帳の指定が必要です。

### 対処

ファイル名で示す情報ファイル中に "ADDRESS=YES" を指定した後、再実行してください。

KFXO90211-E：情報ファイルの記述に誤りがあります。ファイル名：XX 行数：XX行目

### 要因

gseset コマンドの -f オプションのファイル名で指定した情報ファイル中の行数で示す行数の記述が不当です。

### 対処

ファイル名で示す情報ファイル中の行数で示す行を修正した後、再実行してください。

KFXO90212-E：情報ファイルの記述に誤りがあります。アプリケーションの指定がありません。ファイル名：XX

### 要因

gseset コマンドの -f オプションのファイル名で指定した情報ファイル中にアプリケーションの記述がありません。

### 対処

ファイル名で示す情報ファイル中にアプリケーションを指定した後、再実行してください。

KFXO90300-E：システムコール（システムコール名）でエラーが発生しました。詳細内容：  
（要因）

### 要因



システムコール名で示すシステムコール実行中に詳細内容で示す要因によりエラーが発生しました。

対処

詳細内容で示す要因を取り除いた後、再実行してください。

KFXO90301-E : システムコール (システムコール名) でエラーが発生しました。エラー番号 : XX

要因

システムコール名で示すシステムコール実行中にエラー番号で示す番号のエラーが発生しました。

対処

エラー番号で示す番号のエラー要因を取り除いた後、再実行してください。

KFXO90302-E : ファイルをオープンできません。ファイル名 : XX 詳細内容 : (要因)

要因

ファイル名で示すファイルのオープン時に詳細内容で示す要因によりファイルがオープンできません。

対処

詳細内容で示す要因を取り除いた後、再実行してください。

KFXO90303-E : メモリ不足が発生しました。

要因

メモリ不足により、このプログラムが動作できません。

対処

メモリ不足を解消した後、再実行してください。

KFXO90304-E : 環境変数 (環境変数名) が設定されていません。

要因

環境変数名で示す環境変数が設定されていません。

対処

環境変数名で示す環境変数を設定した後、再実行してください。

KFXO90305-E : ファイルが削除できません。ファイル名 : XX エラー番号 : XX

要因

ファイル名で示すファイルが、エラー番号で示すエラーにより削除できません。

対処

エラー番号で示すエラー要因を取り除いた後、再実行してください。

KFXO90306-E : ディレクトリが作成できません。ディレクトリ名 : XX エラー番号 : XX

要因

ディレクトリ名で示すディレクトリが、エラー番号で示すエラーにより作成できません。

対処

エラー番号で示すエラー要因を取り除いた後、再実行してください。

KFXO90307-E : システム共通定義ファイルが存在しません。

要因

システム共通定義ファイルが存在しません。

対処

システム共通定義ファイルを設定した後，再実行してください。

KFXO90308-E：システム共通定義ファイルの記述が間違っています。

要因

システム共通定義ファイルの記述に誤りがあります。

対処

システム共通定義ファイルを見直し，誤りを取り除いた後，再実行してください。

KFXO90309-E：ディレクトリが削除できません。ディレクトリ名：XX エラー番号：XX

要因

ディレクトリ名で示すディレクトリが，エラー番号で示すエラーにより削除できません。

対処

エラー番号で示すエラー要因を取り除いた後，再実行してください。

### 付録 K.3 アボートコード

アボートコードは，オブジェクトサーバが異常終了した場合に，メッセージ KFXO00105-E に表示されるコードで，異常終了の原因を表す保守情報です。以下にオブジェクトサーバのアボートコードを示します。なお，このメッセージの前に KFXO46999，KFXO57999，又は KFXO30000 のメッセージが出力されている場合は，それによって，異常が発生したファイル及びファイル中の行番号を調べられません。

また，表にないアボートコードが表示された場合，直前にメッセージが出力されていれば，そのメッセージに従って対処してください。メッセージが出力されていない場合は，コアファイルを保存して，システム管理者に連絡してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は，オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください。

表 K-1 オブジェクトサーバのアボートコード

| コード     | 要因                 | ユーザの処理                      |
|---------|--------------------|-----------------------------|
| areau21 | サーバの起動中にエラーが発生しました | 直前に表示されているメッセージに従って対策してください |
| areau22 | 同上                 | 同上                          |
| areau24 | 同上                 | 同上                          |
| areau25 | 同上                 | 同上                          |
| areau26 | 同上                 | 同上                          |
| areau21 | サーバの起動中にエラーが発生しました | 直前に表示されているメッセージに従って対策してください |
| areru22 | 同上                 | 同上                          |
| areru24 | 同上                 | 同上                          |
| areru25 | 同上                 | 同上                          |
| areru26 | 同上                 | 同上                          |

| コード     | 要因                 | ユーザの処理                                                         |
|---------|--------------------|----------------------------------------------------------------|
| atpre09 | サーバの終了中にエラーが発生しました | ログ，又は標準エラー出力に出力されている KFXO20006-I のメッセージに従って対処してください            |
| fa00000 | ファイルサービスで異常が発生しました | 正しくインストールされているか確認の上，再実行し，それでも発生する場合は取得情報を退避して，システム管理者に連絡してください |
| fa00001 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa00002 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa00003 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa10000 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa10002 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa10003 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa10004 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa10006 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa10007 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa20000 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa20001 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa20003 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa20004 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa20005 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa30000 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa30001 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa30002 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa30003 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa30004 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa30005 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa30006 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa30007 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa30008 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa30009 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa40000 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa40001 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa50000 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa50001 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa50002 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa50003 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa50004 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa00005 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa60000 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa60001 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa70000 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa70001 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa80000 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa80001 | 同上                 | 同上                                                             |
| fa80002 | 同上                 | 同上                                                             |

付録K メッセージ

| コード       | 要因                                                                      | ユーザの処理                                                                                                                                                                           |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| fa80003   | ファイルサービスで異常が発生しました                                                      | 正しくインストールされているか確認の上、再実行し、それでも発生する場合は取得情報を退避して、システム管理者に連絡してください                                                                                                                   |
| fa80004   | 同上                                                                      | 同上                                                                                                                                                                               |
| fa90000   | 同上                                                                      | 同上                                                                                                                                                                               |
| fa90001   | 同上                                                                      | 同上                                                                                                                                                                               |
| fa90002   | 同上                                                                      | 同上                                                                                                                                                                               |
| g000001   | ログサービスで異常が発生しました                                                        | 本コード及び直前に出力されたメッセージがあればその内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください |
| g000051   | 同上                                                                      | 同上                                                                                                                                                                               |
| g000052   | 同上                                                                      | 同上                                                                                                                                                                               |
| g000053   | 同上                                                                      | 同上                                                                                                                                                                               |
| g000054   | 同上                                                                      | 同上                                                                                                                                                                               |
| g000055   | 同上                                                                      | 同上                                                                                                                                                                               |
| g000056   | 同上                                                                      | 同上                                                                                                                                                                               |
| g000100   | 同上                                                                      | 同上                                                                                                                                                                               |
| g100001   | 同上                                                                      | 同上                                                                                                                                                                               |
| g200001   | メッセージを出力しようとしたが、メッセージテキストが編集できませんでした                                    | オブジェクトサーバが正しくインストールされているか確認して、再実行してください。それでもエラーが発生する場合は取得情報を退避してシステム管理者に連絡してください                                                                                                 |
| jclos20   | 排他解除待ちが発生しましたが、管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。OS ライブラリで管理するプロセス対応領域を確保できません | 再度メモリを見積もってください                                                                                                                                                                  |
| jcmcdc25  | jnl 開始に必要なシステムファイルがオープンできません                                            | オブジェクトサーバが正しく組み込まれているか確認してください                                                                                                                                                   |
| jjcmcdc27 | メモリ不足が発生しました                                                            | 再度メモリを見積もってください                                                                                                                                                                  |
| jcnt151   | ジャーナルファイルサービスプロセス、又はコマンドサービスプロセスの停止中にエラーが発生しました                         | KFXO01108-E メッセージに従って対策してください                                                                                                                                                    |
| jcnt152   | チェックポイントサービスプロセスの停止中にエラーが発生しました                                         | KFXO01108-E メッセージに従って対策してください                                                                                                                                                    |
| jcnt160   | jnl 開始に必要なシステムファイルがオープンできません                                            | オブジェクトサーバが正しく組み込まれているか確認してください                                                                                                                                                   |
| jcnt194   | メモリ不足が発生しました                                                            | 再度メモリを見積もってください                                                                                                                                                                  |

| コード                | 要因                                                                     | ユーザの処理                                                                                                        |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| jcom06             | 排他解除待ちが発生しましたが、管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。OSライブラリで管理するプロセス対応領域を確保できません | 再度メモリを見積もってください                                                                                               |
| jcom15             | 同上                                                                     | 同上                                                                                                            |
| jcsta04            | 同上                                                                     | 同上                                                                                                            |
| jefio25            | jnl 開始に必要なシステムファイルがオープンできません                                           | オブジェクトサーバが正しく組み込まれているか確認してください                                                                                |
| jefio52            | メモリ不足が発生しました                                                           | 再度メモリを見積もってください                                                                                               |
| jfct140            | ジャーナル IO プロセスの停止中にエラーが発生しました                                           | KFX001108-E メッセージに従って対策してください                                                                                 |
| jfct184            | jnl 開始に必要なシステムファイルがオープンできません                                           | オブジェクトサーバが正しく組み込まれているか確認してください                                                                                |
| jfct189            | メモリ不足が発生しました                                                           | 再度メモリを見積もってください                                                                                               |
| jlock07            | 管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。又は、待ち状態で、異常が発生しました                          | エラーメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って対策してください。エラーメッセージが出力されていない場合は、コアファイルを保存し、システム管理者に連絡してください                      |
| jlock08            | 排他解除待ちが発生しましたが、管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。OSライブラリで管理するプロセス対応領域を確保できません | 再度メモリを見積もってください                                                                                               |
| jlock12            | 同上                                                                     | 同上                                                                                                            |
| jlock17            | 同上                                                                     | 同上                                                                                                            |
| jmio103            | ネットワーク障害が発生しました                                                        | KFX001204-E メッセージの理由コードからエラーの原因を調査し対策してから、再度実行してください                                                          |
| jmio104<br>jmio105 | メモリ不足が発生しました                                                           | 再度メモリを見積もってください                                                                                               |
| jmio111            | ネットワーク障害が発生しました                                                        | KFX001204-E メッセージの理由コードからエラーの原因を調査し対策してから、再度実行してください。<br>KFX001204-E メッセージの理由コードからエラーの原因を調査し対策してから、再度実行してください |
| jmio227            | メモリ不足、又はネットワーク障害が発生しました                                                | KFX001204-E メッセージの理由コードからエラーの原因を調査し対策してから、再度実行してください。<br>KFX001204-E メッセージの理由コードからエラーの原因を調査し対策してから、再度実行してください |
| jmio228            | 同上                                                                     | 同上                                                                                                            |
| jmio229            | 同上                                                                     | 同上                                                                                                            |
| jmio230            | 同上                                                                     | 同上                                                                                                            |

付録K メッセージ

| コード     | 要因                                                                     | ユーザの処理                                                                                   |
|---------|------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| jopen20 | 排他解除待ちが発生しましたが、管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。OSライブラリで管理するプロセス対応領域を確保できません | 再度メモリを見積もってください                                                                          |
| jput08  | スワップ先がありません                                                            | ファイルを追加するか、アンロードし、ファイルが使用できるようにしてください                                                    |
| jput84  | 同上                                                                     | 同上                                                                                       |
| jput85  | 同上                                                                     | 同上                                                                                       |
| jput20  | 続行不可能なエラーが発生しました                                                       | KFXO02111-E メッセージの理由コードからエラーの原因を調査し対策してから、再度実行してください                                     |
| jput21  | 管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。又は、待ち状態で、異常が発生しました                          | エラーメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って対策してください。エラーメッセージが出力されていない場合は、コアファイルを保存し、システム管理者に連絡してください |
| jput27  | メモリ不足、ネットワーク障害、又はタイムアウトが発生しました                                         | KFXO01223-E メッセージの理由コードから、原因を調査し、対策してから、再度実行してください                                       |
| jput29  | メモリ不足、又はネットワーク障害が発生しました                                                | 原因を調査し対策してから、再度実行してください                                                                  |
| jput35  | 排他解除待ちが発生しましたが、管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。OSライブラリで管理するプロセス対応領域を確保できません | 再度メモリを見積もってください                                                                          |
| jput36  | 同上                                                                     | 同上                                                                                       |
| jput38  | 同上                                                                     | 同上                                                                                       |
| jput41  | 同上                                                                     | 同上                                                                                       |
| jput45  | 同上                                                                     | 同上                                                                                       |
| jput47  | 同上                                                                     | 同上                                                                                       |
| jput52  | 同上                                                                     | 同上                                                                                       |
| jput54  | 同上                                                                     | 同上                                                                                       |
| jput55  | 同上                                                                     | 同上                                                                                       |
| jput57  | 同上                                                                     | 同上                                                                                       |
| jput59  | 同上                                                                     | 同上                                                                                       |
| jswp104 | 同上                                                                     | 同上                                                                                       |
| jswp202 | 同上                                                                     | 同上                                                                                       |
| jswp204 | 同上                                                                     | 同上                                                                                       |
| jput81  | スワップ先がありません                                                            | ファイルを追加するか、アンロードし、ファイルが使用できるようにしてください                                                    |
| jstat03 | メモリ不足が発生しました                                                           | 不要なプロセスを消してください                                                                          |
| jswp107 | スワップ先がありません                                                            | ファイルを追加するか、アンロードし、ファイルが使用できるようにしてください                                                    |

| コード     | 要因                               | ユーザの処理                                                                                                                                                                       |
|---------|----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| jswp116 | 続行不可能なエラーが発生しました                 | KFXO02111-E メッセージの理由コードからエラーの原因を調査し対策してから、再度実行してください                                                                                                                         |
| jswp205 | メモリ不足、又はネットワーク障害が発生しました          | 原因を調査し、対策してから、再度実行してください                                                                                                                                                     |
| jswp210 | メモリ不足、ネットワーク障害、又はタイムアウトが発生しました   | KFXO01223-E メッセージに従って対策してください                                                                                                                                                |
| l040018 | システムが異常終了しました                    | 直前に出力されているメッセージに従って対策してください                                                                                                                                                  |
| namdmnA | ネームサービス(内部プロセス)を開始できないエラーが発生しました | このコード及び直前に出力されたメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください |
| namdmnB | 同上                               | 同上                                                                                                                                                                           |
| namdmnC | 同上                               | 同上                                                                                                                                                                           |
| namdmnD | ネームサービス(内部プロセス)を終了できないエラーが発生しました | このコード及び直前に出力されたメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください |
| namdmnE | 同上                               | 同上                                                                                                                                                                           |
| namdmnF | 同上                               | 同上                                                                                                                                                                           |
| namdmnG | 同上                               | 同上                                                                                                                                                                           |
| namdmn1 | ネームサービス(内部プロセス)を開始できないエラーが発生しました | このコード及び直前に出力されたメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください |
| namdmn2 | 同上                               | 同上                                                                                                                                                                           |
| namdmn3 | 同上                               | 同上                                                                                                                                                                           |
| namdmn4 | 同上                               | 同上                                                                                                                                                                           |
| namdmn5 | 同上                               | 同上                                                                                                                                                                           |
| namdmn6 | 同上                               | 同上                                                                                                                                                                           |
| namdmn7 | 同上                               | 同上                                                                                                                                                                           |
| namdmn8 | 同上                               | 同上                                                                                                                                                                           |

付録K メッセージ

| コード     | 要因                              | ユーザの処理                                                                                                                                                                       |
|---------|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| namdmn9 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                           |
| namsrv1 | ネームサービス(内部プロセス)の実行中に異常が発生しました   | このコード及び直前に出力されたメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください |
| namsrv2 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                           |
| namuti1 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                           |
| namuti2 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                           |
| namuti3 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                           |
| namuti4 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                           |
| namuti5 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                           |
| namuti6 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                           |
| namuti7 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                           |
| namuti8 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                           |
| olktl01 | 内部での排他処理中にシステムダウンを検知しました        | システムダウンの原因を取り除き、再実行してください                                                                                                                                                    |
| olkts01 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                           |
| olksl01 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                           |
| p000201 | 開始処理中に、システム障害が発生しました            | このコード及び直前に出力されたメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください |
| p000202 | プロセスサーバが使用している共用メモリの内容が破壊されています | このコード及び直前に出力されたメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください |
| p000406 | 通信関連のエラーが発生しました                 | /etc/hosts 又は DNS のうちどちらかの設定が誤っている可能性があります。正しい設定にしてください                                                                                                                      |
| p000415 | 開始処理中にメモリ不足が発生しました              | メモリを再度見積もり、再実行してください                                                                                                                                                         |
| p000416 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                           |



| コード     | 要因                                          | ユーザの処理                                                                                                                                                                       |
|---------|---------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| p000702 | 共用メモリの排他確保に失敗しました                           | このコード及び直前に出力されたメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください |
| p000710 | 共用メモリの排他解除に失敗しました                           | 同上                                                                                                                                                                           |
| p000713 | 開始処理中に、定義ファイルのオープンエラー又は I/O エラーが発生しました      | 同上                                                                                                                                                                           |
| p000715 | 同上                                          | 同上                                                                                                                                                                           |
| p000717 | 開始処理中に解析エラーが発生しました                          | 定義ファイルの内容に誤りがあります。定義ファイルの内容を見直し、再実行してください                                                                                                                                    |
| p000719 | 同上                                          | 同上                                                                                                                                                                           |
| p000721 | 同上                                          | 同上                                                                                                                                                                           |
| p000726 | 同上                                          | 同上                                                                                                                                                                           |
| p000733 | 開始処理中に、setgid システムコールがエラーリターンしました           | 直前に表示されたメッセージからエラーの原因を調査し、再実行してください                                                                                                                                          |
| p000734 | 開始処理中に、setuid システムコールがエラーリターンしました           | 直前に表示されたメッセージからエラーの原因を調査し、再実行してください                                                                                                                                          |
| p000736 | 開始処理中に、メモリ不足が発生しました                         | メモリを再度見積もり、再実行してください                                                                                                                                                         |
| p000737 | 同上                                          | 同上                                                                                                                                                                           |
| p000738 | 同上                                          | 同上                                                                                                                                                                           |
| p000739 | 開始処理中に、定義ファイルの解析エラーが発生しました                  | 定義ファイルの内容に誤りがあります。定義ファイルの内容を見直し、再実行してください                                                                                                                                    |
| p000741 | 同上                                          | 同上                                                                                                                                                                           |
| p000743 | 同上                                          | 同上                                                                                                                                                                           |
| p000745 | 開始処理中にメモリ不足又は通信障害が発生しました                    | このコードの内容とコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください                                         |
| p000748 | xodstart コマンドの実行時に、exec システムコールがエラーリターンしました | 直前に表示されたメッセージからエラーの原因を調査して、再実行してください                                                                                                                                         |
| p000749 | 開始処理中に、定義情報の解析中にメモリ不足が発生しました                | メモリを見積もり直して、再実行してください                                                                                                                                                        |
| p000750 | 同上                                          | 同上                                                                                                                                                                           |

付録K メッセージ

| コード     | 要因                                  | ユーザの処理                                                                                                                               |
|---------|-------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| p001005 | 共用メモリの排他確保に失敗しました                   | このコードの内容とコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください |
| p002001 | 共用メモリの排他解除に失敗しました                   | 同上                                                                                                                                   |
| p100155 | 強制停止時に排他解除に失敗しました                   | 同上                                                                                                                                   |
| p100211 | 終了処理が完了した時に、システム障害が発生しました           | 同上                                                                                                                                   |
| p100212 | 同上                                  | 同上                                                                                                                                   |
| p200001 | システム管理者のユーザ id, グループ id の取得に失敗しました  | このコードの内容とコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください |
| p200004 | 開始時に、共用メモリの初期化に失敗しました               | 直前に表示されているメッセージからエラーの原因を調査して、再実行してください                                                                                               |
| p200007 | 開始時に、カレントディレクトリの作成に失敗しました           | 同上                                                                                                                                   |
| p200008 | 開始時に、定義ファイルの I/O エラーが発生しました         | 同上                                                                                                                                   |
| p200009 | 開始時に、定義ファイルの解析エラーが発生しました            | 定義ファイルの内容を見直して、再実行してください                                                                                                             |
| p200011 | 共用メモリプールを対応付けるために十分なサイズの仮想空間がありません  | メモリを見積もり直して、再実行してください                                                                                                                |
| p200012 | システムで規定されている許容最大共用メモリアタッチ数の限度を超えました | 直前に表示されているメッセージからエラーの原因を調査して、再実行してください                                                                                               |
| p200013 | 共用メモリの確保に失敗しました                     | このコードの内容とコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください |
| p200017 | 開始時に、ネットワーク障害が発生しました                | 同上                                                                                                                                   |
| p200018 | 開始時に、ネームサービス情報の登録に失敗しました            | 同上                                                                                                                                   |
| p200019 | 開始時に、シグナルハンドラの登録に失敗しました             | 同上                                                                                                                                   |

| コード     | 要因                                                     | ユーザの処理                                                                                                                               |
|---------|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| p200020 | 同上                                                     | 同上                                                                                                                                   |
| p200024 | 開始時に、ネットワーク障害が発生しました                                   | 同上                                                                                                                                   |
| p200051 | 開始時に、共用メモリの入出力エラーが発生しました                               | 同上                                                                                                                                   |
| p200052 | 同上                                                     | 同上                                                                                                                                   |
| p210003 | 共用メモリの排他解除に失敗しました                                      | 同上                                                                                                                                   |
| p212007 | 異常終了後の後処理時に、メモリ不足が発生しました                               | メモリを見積もり直して、再実行してください                                                                                                                |
| p212008 | 共用メモリの内容が破壊されました                                       | このコードの内容とコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください |
| p212009 | 同上                                                     | 同上                                                                                                                                   |
| p212010 | 内部プロセスの異常終了後の後処理に失敗しました                                | 同上                                                                                                                                   |
| p260000 | 共用メモリの内容が破壊されました                                       | 同上                                                                                                                                   |
| p260012 | プロセスの固有メモリが確保できません。または、内部プロセス開始処理中、終了処理中、停止中のいずれかの状態です | 同上                                                                                                                                   |
| p260013 | RPC に失敗しました                                            | 同上                                                                                                                                   |
| q005040 | API サービスプロセスの起動に失敗しました                                 | OS システム上で起動可能なプロセス数、又は 1 ユーザが起動可能なプロセス数が上限を超えていないか確認してください                                                                           |
| q0050d0 | API サービスプロセスの起動に失敗しました                                 | インストールが正しく行われているか確認してください。OS システム上で起動可能なプロセス数、又は 1 ユーザが起動可能なプロセス数が上限を超えていないか確認してください                                                 |
| r140002 | 内部で開始処理が 2 回実行されました                                    | このコードの内容とコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください |
| r140004 | 同上                                                     | 同上                                                                                                                                   |

付録K メッセージ

| コード     | 要因                            | ユーザの処理                                                                                                                                                                                        |
|---------|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| r230091 | プロセス間通信でエラーが発生しました            | ネットワーク環境を見直してください。物理的な障害が発生している可能性があります。このエラーが繰り返し発生する場合は、コアファイルを保存してシステム管理者に連絡してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください          |
| r320002 | プロセス間通信に失敗しました                | システムのファイル識別子の上限を超えました。不要なプロセスを終了させるか、又はシステムのファイル識別子の上限値を大きくしてください                                                                                                                             |
| r320013 | 作業領域の確保に失敗しました                | 直前に表示されたメッセージに従って対策してください                                                                                                                                                                     |
| r390001 | スタックオーバーフローが発生しました            | システム共通定義のメインスタック量を適正值にチューニング(メインスタック量の定義値を増やす)してください                                                                                                                                          |
| tb03002 | メモリ不足が発生しました                  | プロセス数を見直して、不要なプロセスを終了させてください。このエラーが繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください                                                                                                                               |
| td00002 | 同上                            | 同上                                                                                                                                                                                            |
| t860004 | トランザクションサービスを開始できないエラーが発生しました | 直前に表示されたメッセージに従って対策してください                                                                                                                                                                     |
| xc0o001 | プロセス開始時にトレースエリアが取得できません       | メモリを再度見積もり、再実行してください                                                                                                                                                                          |
| xc0s000 | オブジェクトサーバの内部で続行不可能な障害が発生しました  | このコード及び直前に出力されている KFXO46999-E メッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください |
| xc0s001 | 同上                            | 同上                                                                                                                                                                                            |
| xc0s002 | 同上                            | 同上                                                                                                                                                                                            |
| xc0s003 | 同上                            | 同上                                                                                                                                                                                            |
| xc0s004 | 同上                            | 同上                                                                                                                                                                                            |
| xc0s005 | 同上                            | 同上                                                                                                                                                                                            |
| xc0s006 | 同上                            | 同上                                                                                                                                                                                            |
| xc0s007 | 同上                            | 同上                                                                                                                                                                                            |
| xc0s008 | 同上                            | 同上                                                                                                                                                                                            |
| xc0s009 | 同上                            | 同上                                                                                                                                                                                            |
| xc0s010 | 同上                            | 同上                                                                                                                                                                                            |

| コード     | 要因                                                      | ユーザの処理                                                                           |
|---------|---------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| xc0s011 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xc0s012 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xc0s013 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xc0s014 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xc0s015 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xc0s016 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xc0s017 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xc0s018 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xc0s019 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xc0s020 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xc0s021 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xc0s022 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xc0s023 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xc0s024 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xc0s025 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xj00001 | オブジェクトサーバの内部で続行不可能な障害が発生しました                            | 直前に表示されたメッセージに従って対策してください                                                        |
| xj00002 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xj00003 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xj00004 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xj00005 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xj00006 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xj00021 | 簡易ジャーナルファイルの設定でエラーが発生しました                               | 直前に表示されたメッセージに従って対策してください                                                        |
| xj00022 | 同上                                                      | 同上                                                                               |
| xj00024 | 簡易ジャーナルファイルのチェック処理でエラーが発生しました                           | 同上                                                                               |
| xm0E000 | XO_connect 関数で予期しないエラーが発生しました                           | このコード及び以前に出力されているメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合はコアファイルを保存してください。 |
| xm0E001 | XO_trn_begin 関数で予期しないエラーが発生しました                         | 同上                                                                               |
| xm0E002 | 格納制御の関数 (xo_sd_get_used_indexpage_inf) で予期しないエラーが発生しました | 同上                                                                               |
| xm0E003 | 格納制御の関数 (xo_sd_get_ext_reog_inf) で予期しないエラーが発生しました       | 同上                                                                               |
| xm0E004 | XO_trn_commit 関数で予期しないエラーが発生しました                        | 同上                                                                               |
| xm0E005 | XO_trn_rollback 関数で予期しないエラーが発生しました                      | 同上                                                                               |

付録K メッセージ

| コード     | 要因                                                           | ユーザの処理                                                                                  |
|---------|--------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| xm0E006 | XO_bucp_parse_start 関数で予期しないエラーが発生しました                       | このコード及び以前に出力されているメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合はコアファイルを保存してください。        |
| xm0M001 | オブジェクトサーバと接続するときのエラーコードに不正な値が返されました                          | このコード及び直前に出力されているKFXO57999-Eの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください |
| xm0M002 | トランザクション開始処理時のエラーコードに不正な値が返されました                             | 同上                                                                                      |
| xm0M003 | エリア存在チェック時のエラーコードに不正な値が返されました                                | 同上                                                                                      |
| xm0M004 | OID インデクスのエリア存在チェック時のエラーコードに不正な値が返されました                      | 同上                                                                                      |
| xm0M005 | ディレクトリ管理にエリアの追加を要求するときのエラーコードに不正な値が返されました                    | 同上                                                                                      |
| xm0M006 | グローバルキャッシュを割り当てるときに、エリアのページサイズを満たすバッファ長を持つグローバルキャッシュが見つかりません | 同上                                                                                      |
| xm0M007 | グローバルキャッシュを割り当てるときに、追加エリアの用途にあたるグローバルキャッシュが見つかりません           | 同上                                                                                      |
| xm0M008 | グローバルキャッシュを割り当てるときに、追加エリアが共用メモリ上の管理領域で管理されていませんでした           | 同上                                                                                      |
| xm0M009 | ディクショナリ管理にエリアの追加を要求したときのエラーコードに不正な値が返されました                   | 同上                                                                                      |
| xm0M010 | ディクショナリ管理にファイルの追加を要求したときのエラーコードに不正な値が返されました                  | 同上                                                                                      |
| xm0M011 | エリア名からエリア情報を取得したときのエラーコードに不正な値が返されました                        | 同上                                                                                      |
| xm0M012 | エリア名からファイル情報を取得したときのエラーコードに不正な値が返されました                       | 同上                                                                                      |
| xm0M013 | ディレクトリ管理にファイルの変更を要求するときの回復不能なエラーが発生しました。                     | 同上                                                                                      |

| コード     | 要因                                                    | ユーザの処理                                                                                         |
|---------|-------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| xm0M014 | ディクショナリ管理からシステム情報を取得するときのエラーコードに不正な値が返されました           | 同上                                                                                             |
| xm0M015 | ディクショナリ管理からファイル名を検査するときのエラーコードに不正な値が返されました            | 同上                                                                                             |
| xm0M017 | コミット処理時のエラーコードに不正な値が返されました                            | 同上                                                                                             |
| xm0M018 | ディレクトリ管理にファイル追加を要求したときに回復不能なエラーが発生しました。               | 同上                                                                                             |
| xm0M020 | ロールバック処理時のエラーコードに不正な値が返されました                          | 同上                                                                                             |
| xm0M022 | グローバルキャッシュ割り当て時に要因コード xm0M006 ~ xm0M008 以外のエラーが発生しました | 同上                                                                                             |
| xm0M023 | バッファフラッシュ処理時のエラーコードに不正な値が返されました                       | 同上                                                                                             |
| xm0M024 | コミット開始処理時のエラーコードに不正な値が返されました                          | 同上                                                                                             |
| xm0M993 | データベース構成変更ユティリティにおいて、データベースの更新処理でエラーが発生しました           | 直前に出力されている KFXO57998-E メッセージに従って対策してください                                                       |
| xm0M977 | データベースを再構成するユティリティにおいて、データベース更新処理でエラーが発生しました          | 直前に出力されている KFXO57977-E メッセージに従って対策してください                                                       |
| xm0O000 | xodbreog コマンドにおいて、処理結果出力要求でエラーが発生しました                 | このコード及び直前に出力されている KFXO56999-E メッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください |
| xm0O001 | xodbreog コマンドにおいて、ワークファイルの入出力処理でエラーが発生しました            | 同上                                                                                             |
| xm0O002 | 同上                                                    | 同上                                                                                             |
| xm0O003 | xodbreog コマンドにおいて、ワークファイルのオープン処理でエラーが発生しました           | このコード及び直前に出力されている KFXO56999-E メッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください |
| xm0O004 | xodbreog コマンドにおいて、パラメタファイルの解析処理でエラーが発生しました            | 同上                                                                                             |
| xm0O005 | xodbreog コマンドにおいて、コネクト関数でエラーが発生しました                   | 同上                                                                                             |
| xm0O006 | xodbreog コマンドにおいて、トランザクション開始処理でエラーが発生しました             | 同上                                                                                             |

付録K メッセージ

| コード     | 要因                                                | ユーザの処理                                                                                        |
|---------|---------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| xm00007 | xodbreog コマンドにおいて、パラメタ解析処理でエラーが発生しました             | 同上                                                                                            |
| xm00008 | xodbreog コマンドにおいて、コミット処理でエラーが発生しました               | 同上                                                                                            |
| xm00009 | xodbreog コマンドにおいて、格納制御でエラーが発生しました                 | 同上                                                                                            |
| xm00010 | xodbreog コマンドにおいて、タイプ定義情報の定義種別でエラーが発生しました         | 同上                                                                                            |
| xm00011 | xodbreog コマンドにおいて、論理オブジェクト種別にエラーが発生しました           | 同上                                                                                            |
| xm00020 | xodbreog コマンドにおいて、オブジェクトデータ追加処理でエラーが発生しました        | 同上                                                                                            |
| xm00021 | xodbreog コマンドにおいて、ディクショナリ情報にエラーが発生しました            | 同上                                                                                            |
| xm00022 | xodbreog コマンドにおいて、インデクス再編成処理でエラーが発生しました           | 同上                                                                                            |
| xm00023 | xodbreog コマンドにおいて、ワークファイルのオープン処理でエラーが発生しました       | 同上                                                                                            |
| xm00024 | xodbreog コマンドにおいて、タイプ定義情報取得処理でエラーが発生しました          | 同上                                                                                            |
| xm00025 | xodbreog コマンドにおいて、ユニバーサル関連情報取得処理でエラーが発生しました       | 同上                                                                                            |
| xm00026 | xodbreog コマンドにおいて、タイプ定義情報取得処理でエラーが発生しました          | 同上                                                                                            |
| xm00030 | xodbreog コマンドにおいて、インデクス情報ファイルにエラーが発生しました          | 同上                                                                                            |
| xm00031 | 同上                                                | 同上                                                                                            |
| xm00040 | xodbreog コマンドにおいて、定義情報取得処理でエラーが発生しました             | このコード及び直前に出力されているKFXO56999-E メッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください |
| xm00041 | 同上                                                | 同上                                                                                            |
| xm00042 | xodbreog コマンドにおいて、ディクショナリ管理処理時のエラーコードに不正な値が返されました | このコード及び直前に出力されているKFXO56999-E メッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください |



| コード     | 要因                                           | ユーザの処理                                                                                         |
|---------|----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| xm00043 | 同上                                           | 同上                                                                                             |
| xm00044 | 同上                                           | 同上                                                                                             |
| xm00045 | 同上                                           | 同上                                                                                             |
| xm00046 | 同上                                           | 同上                                                                                             |
| xm00050 | xodbreog コマンドにおいて、格納制御処理時のエラーコードに不正な値が返されました | このコード及び直前に出力されている KFXO56999-E メッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください |
| xm00051 | 同上                                           | 同上                                                                                             |
| xm00052 | 同上                                           | 同上                                                                                             |
| xm00053 | 同上                                           | 同上                                                                                             |
| xm00055 | 同上                                           | 同上                                                                                             |
| xm00056 | 同上                                           | 同上                                                                                             |
| xm00057 | xodbreog コマンドにおいて、内部処理でエラーが発生しました            | このコード及び直前に出力されている KFXO56999-E メッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください |
| xm00058 | xodbreog コマンドにおいて、格納制御処理時のエラーコードに不正な値が返されました | 同上                                                                                             |
| xm00059 | 同上                                           | 同上                                                                                             |
| xm00060 | xodbreog コマンドにおいて、サポートされていないデータ型を検知しました      | 同上                                                                                             |
| xm00061 | xodbreog コマンドにおいて、内部矛盾でエラーが発生しました            | 同上                                                                                             |
| xm00062 | 同上                                           | 同上                                                                                             |
| xm00063 | 同上                                           | 同上                                                                                             |
| xm00064 | xodbreog コマンドにおいて、内部矛盾が検知されました               | このコード及び直前に出力されている KFXO56999-E メッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください |
| xm00065 | xodbreog コマンドにおいて、オブジェクトのソート情報に不正が検知されました    | 同上                                                                                             |
| xm00066 | xodbreog コマンドにおいて、タイプ定義情報処理でエラーが発生しました       | 同上                                                                                             |
| xm00067 | xodbreog コマンドにおいて、タイプ番号不正が検知されました            | 同上                                                                                             |
| xm00070 | xodbreog コマンドにおいて、アンロードファイルアクセス要求でエラーが発生しました | 同上                                                                                             |

付録K メッセージ

| コード     | 要因                                                   | ユーザの処理                                                                                                                                                                                       |
|---------|------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| xm00071 | xodbreog コマンドにおいて、処理結果ファイルアクセス要求でエラーが発生しました          | 同上                                                                                                                                                                                           |
| xm00072 | xodbreog コマンドにおいて、物理OID 対応表アクセス要求でエラー発生しました          | 同上                                                                                                                                                                                           |
| xm00073 | xodbreog コマンドにおいて、ハッシュテーブル終了処理でエラーが発生しました            | 同上                                                                                                                                                                                           |
| xo00001 | 内部矛盾を検出しました                                          | このコード及び直前に出力されているKFXO30001-E メッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください |
| xo00002 | コミット処理中にエラーが発生しました                                   | このコード及び直前に出力されているKFXO30002-E メッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば、コアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください   |
| xs0B000 | ファイル中のマスタディレクトリページの更新カウンタが不一致です                      | このコード及び直前に出力されているKFXO46999-E メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合はコアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください   |
| xs0B001 | バッファ中のマスタディレクトリページの更新カウンタが不一致です                      | 同上                                                                                                                                                                                           |
| xs0B002 | データベース初期化時のバッファ中のページ更新カウンタが不一致です                     | 同上                                                                                                                                                                                           |
| xs0B003 | データベース初期化時のバッファ中のページ更新カウンタが不一致です                     | 同上                                                                                                                                                                                           |
| xs0B004 | システム運用時のファイル中のページ(データ/インデクス/スレーブディレクトリ)の更新カウンタが不一致です | 同上                                                                                                                                                                                           |

| コード     | 要因                                                                      | ユーザの処理                                                                                                                                                                                      |
|---------|-------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| xs0B005 | 要求されたページ種別と GET したページ種別が異なります                                           | このコード及び直前に出力されている KFXO46999-E メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合はコアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください |
| xs0B006 | ページ中のエリア番号とページの存在するエリアが異なります                                            | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0B007 | ページ中の ID タイプ番号とページの存在する物理タイプが異なります                                      | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0B008 | ファイル中のページ番号がページ位置と対応していません                                              | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0B010 | バッファ制御ブロックの status 値が不正です                                               | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0B011 | ロックモードが不正です                                                             | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0B012 | ロック要求エラーリターンしました                                                        | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0B100 | データ/インデクスページ GET 関数に対してディレクトリページの GET 要求が行われました                         | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0B103 | ディレクトリページ GET 関数に対してデータページ/インデクスページの GET 要求が行われました                      | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0B104 | 同一ディレクトリに対して2度以上の参照要求がありました                                             | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0B105 | 参照 GET されているディレクトリページに対する更新要求 GET が行われました                               | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0B106 | 参照/更新 GET されていないページに対する解放要求が行われました                                      | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0B107 | 更新要求されていないページに対するフリー要求が行われました                                           | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0B108 | 未更新データページに対する PUT 要求、またはデータページ PUT 関数を用いてディレクトリ/インデクスページの PUT 要求が行われました | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0B109 | 未更新データページに対する PUT 要求、またはインデクスページ PUT 関数を用いてデータ/ディレクトリページの PUT 要求が行われました | 同上                                                                                                                                                                                          |

付録K メッセージ

| コード     | 要因                                                                             | ユーザの処理 |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------|--------|
| xs0B110 | 未更新ディレクトリページに対する PUT 要求, またはディレクトリページ PUT 関数を用いてディレクトリ/インデクスページの PUT 要求が行われました | 同上     |
| xs0B111 | 未更新ページに対する PUT & FREE 要求が行われました                                                | 同上     |
| xs0B112 | 指定タイプ ID のページが GET 中にタイプ ID のフリー要求が行われました                                      | 同上     |
| xs0B113 | 指定インデクス ID のページが GET 中にインデクス ID のフリー要求が行われました                                  | 同上     |
| xs0B114 | 指定 ID ページフリー関数で ID 種別に誤りがありました                                                 | 同上     |
| xs0B115 | 要求モードに誤りがありました                                                                 | 同上     |
| xs0B117 | グローバルバッファのスレッド間ロック処理において, xo_bolk_thdlock 関数がエラーリターンしました                       | 同上     |
| xs0B118 | グローバルバッファのスレッド間アンロック処理において, xo_bolk_thdunlock 関数がエラーリターンしました                   | 同上     |
| xs0B119 | 不当にローカルキャッシュ満杯エラーが発生しました                                                       | 同上     |
| xs0B120 | 不当に OID インデクス用キャッシュ満杯エラーが発生しました                                                | 同上     |
| xs0B121 | RELEASE 時, GET カウンタが不正となりました                                                   | 同上     |
| xs0B122 | FREE 時, GET カウンタが不正となりました                                                      | 同上     |
| xs0B123 | FREE または PFREE 以外の要求コードが指定されました                                                | 同上     |
| xs0B124 | PUT 時, GET カウンタが不正となりました                                                       | 同上     |
| xs0B125 | 参照 GET ページに対して PUT 要求されました                                                     | 同上     |
| xs0B126 | マスタディレクトリページの実更新に失敗しました                                                        | 同上     |
| xs0B127 | 未確保新ページを入力しようとした                                                               | 同上     |
| xs0B128 | スレッド間ウエイトでエラーが発生しました                                                           | 同上     |
| xs0B129 | スレッド間ポストでエラーが発生しました                                                            | 同上     |
| xs0B130 | PUT 時, ページ種別不正となりました                                                           | 同上     |

| コード     | 要因                                                               | ユーザの処理 |
|---------|------------------------------------------------------------------|--------|
| xs0B131 | スレッドウエイต์でエラーが発生しました                                             | 同上     |
| xs0B138 | キャッシュページ破壊を検知しました                                                | 同上     |
| xs0F000 | ファイル read 時の lseek の引数に誤りがあります                                   | 同上     |
| xs0F001 | 書き込み時にファイルに割り当てられたページ番号より大きなページ番号が指定されました                        | 同上     |
| xs0F002 | ファイル write 時の lseek の引数に誤りがあります                                  | 同上     |
| xs0F003 | ディスク容量が不足し、1 ページ分の書き込みができません                                     | 同上     |
| xs0F004 | 引数が不正です                                                          | 同上     |
| xs0F005 | 非同期 write 出力要求時、ステータスフラグの取り出し、及びセットのため fcntl システムコールがエラーリターンしました | 同上     |
| xs0M001 | ページ使用中のときディレクトリ管理からページ未使用エラーが返されました                              | 同上     |
| xs0M002 | データ操作のロック要求で引数不正を検出しました                                          | 同上     |
| xs0M003 | 8 バイトバウンダリ調整後のオブジェクト長に不正があります                                    | 同上     |
| xs0M004 | フリーページ時の割当てスロット数が 0 ではありません                                      | 同上     |
| xs0M005 | 割当てスロット数と使用スロット数が異なるにもかかわらず、削除スロットが存在しません                        | 同上     |
| xs0M006 | スロットのオフセット値に不正があります                                              | 同上     |
| xs0M007 | ページ GET でエラーが発生しました                                              | 同上     |
| xs0M010 | オブジェクトが存在しません                                                    | 同上     |
| xs0M012 | ロード挿入ページサーチ時に新ページ以外のページが返されました                                   | 同上     |
| xs0M014 | 作業領域が確保されていません                                                   | 同上     |
| xs0M015 | 指定されていない物理オブジェクト形式が格納されています                                      | 同上     |
| xs0M016 | データ制御情報である使用スロット数が正しく格納されていません                                   | 同上     |
| xs0M017 | 割当てたスロット番号とページ制御情報が一致しません                                        | 同上     |
| xs0M019 | インデクスメンテナンスおよびインデクス ID リスト作成関数から、引数不正エラーが返却されました                 | 同上     |
| xs00000 | ファイルオープン時、指定されたエリア番号が大きすぎます                                      | 同上     |

付録K メッセージ

| コード     | 要因                              | ユーザの処理                                                                                                                                                                                     |
|---------|---------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| xs00001 | オープンできるファイル数をオーバーしてオープンしようとした   | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T001 | オブジェクトサーバの内部で続行不可能な障害が発生しました    | このコード及び直前に出力されているKFXO46999-E メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合はコアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください |
| xs0T002 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T010 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T020 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T021 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T022 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T023 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T024 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T030 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T031 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T032 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T033 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T040 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T041 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T042 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T043 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T050 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T051 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T052 | 同上                              | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T060 | C のライブラリ関数 (fopen) でエラーが発生しました  | このコード及び直前に出力されているKFXO46999-E メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合はコアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください |
| xs0T061 | C のライブラリ関数 (fwrite) でエラーが発生しました | 同上                                                                                                                                                                                         |
| xs0T062 | C のライブラリ関数 (fputc) でエラーが発生しました  | 同上                                                                                                                                                                                         |

| コード     | 要因                                           | ユーザの処理                                                                                                                                                                                      |
|---------|----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| xs0T070 | オブジェクトサーバの内部で続行不可能な障害が発生しました                 | このコード及び直前に出力されている KFXO46999-E メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合はコアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください |
| xs0T071 | 同上                                           | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0T080 | 同上                                           | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0T081 | 同上                                           | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0T090 | 同上                                           | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0T100 | 同上                                           | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0T101 | 同上                                           | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0T110 | 同上                                           | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0x011 | ワークファイルのオープン時のエラーコードに不正な値が返されました             | このコード及び直前に出力されている KFXO46999-E メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合はコアファイルを保存してください。同時に \$XODDIR/spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください |
| xs0X012 | ワークファイルの入力時のエラーコードに不正な値が返されました               | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0X013 | ワークファイルの出力時のエラーコードに不正な値が返されました               | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0X014 | 物理オブジェクト NEXT 検索時のエラーコードに不正な値が返されました         | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0X015 | 物理オブジェクト NEXT 検索中断時のエラーコードに不正な値が返されました       | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0X016 | インデクスエントリ追加時のエラーコードに不正な値が返されました              | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0X017 | ワークファイルの上位エントリレコードの不正を検知しました（インデクス ID が不正です） | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0X018 | ワークファイルの上位エントリレコードの不正を検知しました（キーが上昇順ではありません）  | 同上                                                                                                                                                                                          |
| xs0X019 | ワークファイルの上位エントリレコードの不正を検知しました（レコード数が不正です）     | 同上                                                                                                                                                                                          |

## 付録K メッセージ

| コード     | 要因                                                             | ユーザの処理 |
|---------|----------------------------------------------------------------|--------|
| xs0X020 | 新ページへのインデクスエントリ追加時に満杯を検知しました                                   | 同上     |
| xs0X021 | インデクス情報ファイル作成開始及びインデクス情報レコード作成関数のコールシーケンス不正を検知しました             | 同上     |
| xs0X022 | インデクス情報ファイル作成開始及びインデクス情報ファイル作成終了関数のコールシーケンス不正を検知しました           | 同上     |
| xs0X023 | OID インデクスへの追加時，同一OID を検知しました                                   | 同上     |
| xs03001 | ロック時のエラーコードに不正な値が返されました                                        | 同上     |
| xs03002 | アンロック時のエラーコードに不正な値が返されました                                      | 同上     |
| xs03011 | キャッシュ管理のエラーコードに不正な値が返されました                                     | 同上     |
| xs03033 | 内部関数のエラーコードに不正な値が返されました                                        | 同上     |
| xs03101 | ユーザ用エリアにタイプがないか，インデクス用エリアにインデクスがない，またはディレクトリ管理に対する入力情報に不正があります | 同上     |
| xs03540 | インデクスの定義情報に不正がありました                                            | 同上     |
| xs03550 | 解放すべきインデクス管理情報が存在しません                                          | 同上     |
| xs05003 | グローバルキャッシュの用途が不正です                                             | 同上     |

### 付録 K.4 詳細コード

オブジェクトサーバの詳細コードは，オブジェクトサーバを使用するプログラム，又はオブジェクトサーバのメッセージに表示されるコードです。メッセージの説明に参照指示があったときには，次の表から対処を調べてください。

表 K-2 オブジェクトサーバの詳細コード

| コード  | 要因                          | ユーザの処置                            |
|------|-----------------------------|-----------------------------------|
| -106 | このサーバは起動していません              | システムが異常終了している場合は，異常終了時の対策をとってください |
| -450 | このリソースは使用中です                | 操作を再実行してください                      |
| -452 | デッドロックが発生しました               | 操作を再実行してください                      |
| -453 | 排他制御の待ち時間が経過して要求がキャンセルされました | 操作を再実行してください                      |



| コード  | 要因                                                                                                                                                       | ユーザの処置                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -454 | 排他資源が不足しています                                                                                                                                             | システム共通定義の <code>lck_limit</code> の値を増やして、オブジェクトサーバを再起動してください。又は、データベースの排他資源の使用数が多くならないように、エラーになった若しくは実行中の <code>Groupmax</code> アプリケーションプログラムの指定を見直してください                                                                                                                                                       |
| -714 | 最大接続プロセス数を超えました                                                                                                                                          | クライアントの終了を待って再実行してください                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| -725 | オブジェクトサーバが終了処理中です                                                                                                                                        | オブジェクトサーバを再起動してください                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| -726 | このサービスを提供するプロセスがありません                                                                                                                                    | オブジェクトサーバが動作中でない場合は、動作してから操作を再実行してください                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| -727 | RPC 環境が開始されていません                                                                                                                                         | オブジェクトサーバが動作中でない場合は、動作してから操作を再実行してください                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| -734 | 共用メモリを確保していません                                                                                                                                           | オブジェクトサーバが動作中でない場合は、動作してから操作を再実行してください                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| -738 | 初期化できませんでした                                                                                                                                              | 次のどれかの方法で対処してください <ul style="list-style-type: none"> <li>オブジェクトサーバが起動処理中の場合は、オブジェクトサーバが動作してから操作を再実行してください</li> <li>オブジェクトサーバのホームディレクトリを示す環境変数が正しいかどうか見直してください</li> <li>メモリ不足の場合は、不要なプロセスを終了させて、再実行してください</li> </ul>                                                                                             |
| -739 | 次の要因が考えられます <ul style="list-style-type: none"> <li>オブジェクトサーバが起動されていません</li> <li>ファイルシステム、メモリなどの資源不足によって接続できませんでした</li> </ul>                             | オブジェクトサーバが動作中でない場合は、動作してから操作を再実行してください。動作中の場合はファイル及びメモリ使用状況を調べ、不足していれば、不要ファイル又はプロセスを終了させてください                                                                                                                                                                                                                   |
| -741 | オブジェクトサーバの開始時のモードが不正です                                                                                                                                   | このアプリケーションを実行できる開始時のモードでオブジェクトサーバを起動してください                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| -905 | 関数は不当なコンテキストです                                                                                                                                           | このプロセスを終了させて、再実行してください                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| -906 | リソースマネージャにエラーが発生しました                                                                                                                                     | メモリ不足のため、不要なプロセスを終了させて再実行してください                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| -907 | 次の要因が考えられます <ul style="list-style-type: none"> <li>オブジェクトサーバがダウンしました</li> <li>トランザクション管理領域のメモリ割り当てに失敗しました</li> <li>並行して実行するトランザクション数の上限を越えました</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>オブジェクトサーバが動作中でない場合は、動作してから操作を再実行してください</li> <li>メモリ不足の場合は、不要なプロセスを終了させて再実行してください</li> <li>システム共通定義の <code>trn_tran_process_count</code> の値を増やして、オブジェクトサーバを再起動してください。 <code>trn_tran_process_count</code> の値がクライアント数よりも多い場合は、メモリ不足のため、不要なプロセスを終了させて再実行させてください。</li> </ul> |

付録K メッセージ

| コード       | 要因                                                              | ユーザの処置                                                                                    |
|-----------|-----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| -1814     | サーバが起動していません                                                    | オブジェクトサーバが動作中でない場合は、動作してから操作を再実行してください。動作中の場合は、オブジェクトサーバのホームディレクトリを示す環境変数が正しいかどうか見直してください |
| -1816     | 環境変数が設定されていません                                                  | Object Server のホームディレクトリを示す環境変数が正しいかどうか見直してください。                                          |
| -1907     | メッセージテキストファイル中に指定メッセージ ID が存在していません<br>(オブジェクトサーバが正しく組み込まれていない) | オブジェクトサーバの組み込み手順に誤りがないか確認し、再実行してください                                                      |
| -1909     | 指定メッセージテキストファイルが存在していません(オブジェクトサーバが正しく組み込まれていない)                | オブジェクトサーバの組み込み手順に誤りがないか確認し、再実行してください                                                      |
| -1910     | メッセージテキストファイルの I/O エラー                                          | ファイルの I/O エラーの要因を取り除き、再実行してください。                                                          |
| -1911     | メッセージテキストファイルのアクセス権限がない                                         | 誤ってアクセス権限が変更されていないか確認し、再実行してください                                                          |
| 2<br>17   | システム作業用メモリの割り当てに失敗しました                                          | 不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください                                                                |
| 83        | ロックの取得に失敗しました                                                   | 排他資源が不足している場合は、システム共通定義の lck_limit の値を増やして、オブジェクトサーバを再起動してください。その他の場合は、操作を再実行してください       |
| 85<br>166 | システム作業用メモリの割り当てに失敗しました                                          | 不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください                                                                |
| 188       | OID インデクスが定義されていない                                              | OID インデクス用エリアを追加して、再実行してください                                                              |
| 31030     | フェッチ管理情報の割り当てに失敗しました                                            | 不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください                                                                |
| 31055     | 指定したオブジェクトは既に削除されている                                            | 既に削除したオブジェクトの OID を指定していないか確認してください。                                                      |
| 32002     | ディクショナリ操作でキャッシュが一杯です                                            | 不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください                                                                |
| 32003     | スキーマ定義中に OID をすべて使用しました                                         | 今後オブジェクトの生成はできません。オブジェクトの参照だけができます                                                        |
| 32005     | ディクショナリ操作でメモリの割り当てに失敗しました                                       | 不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください                                                                |
| 33001     | ハッシュ登録時にメモリの割り当てに失敗しました                                         | 不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください                                                                |
| 33004     | ハッシュディレクトリのサイズが大きくなり過ぎました                                       | 操作を再実行してください                                                                              |
| 34001     | 検索処理用のメモリの割り当てに失敗しました                                           | 不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください                                                                |

| コード                          | 要因                                                                                              | ユーザの処置                                                                                                                                                                              |
|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 34511                        | SCB 領域のメモリ割り当てに失敗しました                                                                           | 不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください                                                                                                                                                          |
| 34522                        | インデクス情報作成領域のメモリ割り当てに失敗しました                                                                      | 不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください                                                                                                                                                          |
| 35001                        | システム作業領域の割り当てに失敗しました                                                                            | 不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください                                                                                                                                                          |
| 36001                        | カーソル処理用のメモリ割り当てに失敗しました                                                                          | 不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください                                                                                                                                                          |
| 40109                        | 指定した OID がありません                                                                                 | 既に削除されたオブジェクトの OID を指定していないか確認してください                                                                                                                                                |
| 40110                        | PID 指定のオブジェクトがありません                                                                             | 既に削除されたオブジェクトの OID を指定していないか確認してください                                                                                                                                                |
| 40111                        | オブジェクト転送領域のメモリ割り当てに失敗しました                                                                       | 不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください                                                                                                                                                          |
| 42122                        | ロールバック処理が完了していない (KFXO42121-E エラーになったままインデクスの再作成が行われていない) インデクスをアクセスしました                        | オブジェクトサーバの再開始時、トランザクションの異常終了時及び xodbkout コマンドでのインデクスのロールバック処理中に出力された KFXO42121-E エラーメッセージの対処に従ってください                                                                                |
| 42123                        | xodbreog コマンドが正常に終了していないためインデクスが正しく作成されていません。又は、アクセスしようとしたインデクスは、xodarint コマンドで再初期化されたため未作成状態です | xodbreog コマンドの実行前に取得したバックアップによってデータベースを回復してください。又は、xodarint コマンドで出力された KFXO59104-I メッセージの対処に従って、xodbreog コマンドを使用してインデクスを再作成するか、データベース全体を再編成してください                                   |
| 44110                        | 連携するプログラムが、一つのプロセスから、90 個を超えたファイルにアクセスしました                                                      | 本エラーが多発する場合は、オブジェクトサーバの一つの初期設定パラメタで指定したマスタディレクトリ、データディレクトリ、ディクショナリ、OID インデクスのファイルの総数と、連携する一つのプログラムが使用するエリアのファイルの総数との和が 90 個以下になるように、オブジェクトサーバのデータベースをデータベース初期化ユティリティで初期化し、再作成してください |
| 4xyyy<br>(x, y は 0 ~ 9 のどれか) | オブジェクトサーバの格納制御でエラーが発生しました。またはオブジェクトサーバのオブジェクト管理の指定したパラメタに誤りがありました (内部矛盾発生)                      | オブジェクトサーバのログメッセージを調査して、KFXO4xnnn(4x はコードと共通。n は 0 ~ 9 のどれか) のメッセージが出力されている場合は、そのメッセージの対処に従ってください。出力されていない場合 (内部矛盾発生時) には、このコードの内容を記録して、システム管理者に連絡してください                             |
| 上記以外                         | 内部矛盾が発生しました                                                                                     | システム管理者に連絡してください                                                                                                                                                                    |

## 付録 K.5 UNIX システムコールのエラー番号

UNIX システムコールのエラー番号とその意味を表 K-3 に示します。メッセージ

の説明に参照指示があったときには、表 K-3 から対処を調べてください。

表 K-3 UNIX システムコールのエラー番号

| エラー番号 | 意味                                                                                                                                                                  |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1     | 当該ユーザは、当該ファイル又はディレクトリのオーナーではありません。又は当該ユーザは、スーパーユーザではありません。                                                                                                          |
| 2     | そのようなファイル又はディレクトリはありません。                                                                                                                                            |
| 3     | そのようなプロセスはありません。                                                                                                                                                    |
| 4     | 当該システム・コールの処理中に割込みがかかりました。                                                                                                                                          |
| 5     | I/O エラーが発生しました。                                                                                                                                                     |
| 6     | そのようなデバイス又はアドレスはありません。                                                                                                                                              |
| 7     | 当該システムコールの引数リストが長すぎます。システム管理者に連絡してください。                                                                                                                             |
| 8     | exec フォーマット・エラーが発生しました。                                                                                                                                             |
| 9     | 当該システムコールで指定されたファイル記述子（ファイル番号）が正しくありません。システム管理者に連絡してください。                                                                                                           |
| 10    | 子プロセスはありません。                                                                                                                                                        |
| 11    | 資源が一時的に使用可能ではありません。他プロセス又はユーザが使用中です。又は、プロセスが生成できません。                                                                                                                |
| 12    | メモリ不足です。                                                                                                                                                            |
| 13    | 許可されていません。ファイル又はディレクトリにアクセス権（パーミッション）がありません。ファイルを作成 / 削除しようとしたディレクトリに書き込みパーミッションがありません。更新するファイルに書き込みのパーミッションがありません。fcntl システムコールでこのエラーが発生した場合は、他のプロセスで当該ファイルが使用中です。 |
| 14    | 当該システムコールで指定されたアドレスが正しくありません（指定したアドレスがプロセスの領域の範囲外です）。システム管理者に連絡してください。                                                                                              |
| 15    | ブロック・デバイスでなければなりません。                                                                                                                                                |
| 16    | デバイスは動作中です。削除するディレクトリがマウントしてあるファイルシステムのマウント点です。                                                                                                                     |
| 17    | ファイルが既に存在します。                                                                                                                                                       |
| 18    | デバイスをまたがってリンクしています。                                                                                                                                                 |
| 19    | そのようなデバイスはありません。                                                                                                                                                    |
| 20    | ディレクトリではありません。                                                                                                                                                      |
| 21    | ディレクトリが指定されました。ファイルを指定してください。                                                                                                                                       |
| 22    | 当該システムコールで指定された引数が正しくありません。システム管理者に連絡してください。又は、ファイルサイズが、2G バイトに達しました。                                                                                               |
| 23    | ファイル・オープン数がシステムの上限を越えました（ファイルテーブルオーバーフローが発生しました）。                                                                                                                   |
| 24    | オープンされているファイルが多すぎます。又は、ロックされているファイルが多すぎます。                                                                                                                          |
| 25    | キャラクタ・デバイスではありません。                                                                                                                                                  |
| 26    | テキスト・ファイルはアクセス中です。                                                                                                                                                  |
| 27    | ファイルが大きすぎます。プロセスで書き込めるファイルの大きさの限界又は最大ファイルの大きさに達しました。                                                                                                                |
| 28    | デバイス内に空き領域がありません。                                                                                                                                                   |

| エラー番号 | 意味                                                                   |
|-------|----------------------------------------------------------------------|
| 29    | シークが正しくありません。パイプ又は FIFO ファイルにシークしています。システム管理者に連絡してください。              |
| 30    | 読み取り専用のファイル・システムです。                                                  |
| 31    | リンクが多すぎます。                                                           |
| 32    | 壊れているパイプです。プロセスによってまだ読み取り用にオープンしていないパイプに書き込もうとしました。システム管理者に連絡してください。 |
| 33    | 当該システムコールで指定された引数が適当な値ではありません。システム管理者に連絡してください。                      |
| 34    | 結果が大きすぎます。マシンの精度では、表現できません。                                          |
| 35    | メッセージ・キューに要求したタイプのメッセージはありません。                                       |
| 36    | 識別子が消去されました。                                                         |
| 45    | lockf でデッド・ロックが検出されました。                                              |
| 46    | ロックできません。システムのロックテーブルが一杯になりました。                                      |
| 47    | バイトシーケンスが正しくありません。指定した文字が適当な値ではありません。                                |
| 247   | ディレクトリは空ではありません。                                                     |
| 248   | ファイル名又はパス名が長すぎます。                                                    |
| 249   | シンボリック・リンクのレベルが多過ぎます。                                                |
| 251   | この機能は使えません。システム管理者に連絡してください。                                         |

---

## 付録 L 用語解説

Object Server だけの用語については、用語の後ろに (Object Server) と付けて表記しています。また、High-end Object Server だけの用語については、用語の後ろに (High-end Object Server) と付けて表記しています。

### (英字)

#### OMS

Object Management Server。システムで使用される略語で、オブジェクトサーバを指しています。

#### OMS 識別子

オブジェクトサーバを識別する記号です。ログメッセージなどに出力されます。OMS 識別子は、システム共通定義の「system\_id」で定義します。

### (ア行)

#### エリア

オブジェクトサーバのディレクトリ、ディクショナリ及びユーザデータベースなどを格納する領域です。エリアは、一つ又は複数のファイルから構成されます。その名称などは初期設定パラメタ又は構成変更パラメタで定義します。

#### オブジェクト

オブジェクトサーバで管理されるデータのことで、

#### オブジェクト管理ファイル

オブジェクトサーバのデータである、オブジェクトを格納するファイルのことです。マニュアル中では、オブジェクト管理ファイルのことをデータベースとも呼んでいます。

#### オブジェクトサーバ

マニュアル中では、Object Server 及び High-end Object Server を総称して「オブジェクトサーバ」と表しています。

#### オブジェクトサーバのシステム管理者

オブジェクトサーバのホームディレクトリを作成したユーザです。オブジェクトサーバのシステム管理者が、オブジェクトサーバのコマンドを実行できます。

### (カ行)

#### 簡易ジャーナル (Object Server)

データベースの整合性を保証するために、その時点でのデータベース更新情報を一時的に保存するファイルです。連携するプログラムに障害が起こったとき、Object Server は、簡易ジャーナルの情報によって、データベースを障害発生時の処理が開始される前の状態へと復旧します。

**クライアント**

データベースを利用する側を指します。オブジェクトサーバでは、Groupmax シリーズのクライアントプログラムが動作するパーソナルコンピュータを指します。

**グローバルキャッシュ**

オブジェクトサーバのデータベースページの入出力用のバッファキャッシュです。グローバルキャッシュは、システム共通定義ファイルの gcache パラメタに定義します。

**構成変更**

いったん初期化したオブジェクトサーバの、データベースの構成を変更することです。データベース構成変更ユティリティを使って、エリアを追加するなどの構成変更ができます。

例えば、新たにオブジェクトサーバと連携するプログラムを追加するときは、データベースの構成を変更する必要があります。

**(サ行)****サーバ**

データベースを提供する側を指します。オブジェクトサーバが動作するサーバマシンのことです。

**再初期化**

オペレーティングシステム障害、ファイルシステム障害、運用誤りなどが原因でデータベースエリア中のファイルが削除されたり不正になったりしたデータベースエリアを初期化し直すことです。

**再編成**

オブジェクトの追加、削除による、データベース中のオブジェクトの配置の乱れを修正して、オブジェクトを適切に配置し直すことです。データベースの再編成を実行すると、データベースのオブジェクトはいったんファイルにアンロードされてから、再びデータベースに登録されます。

**システム管理者**

オブジェクトサーバを運用管理するユーザです。オブジェクトサーバのシステム管理者がオブジェクトサーバのコマンドを実行できます。

**システム共通定義**

オブジェクトサーバシステムに共通する環境を決めるための情報です。システム共通定義は、システム共通定義ファイル「\$XODCONFPATH/xodrc」に記述します。このファイルは、オブジェクトサーバのシステム管理者が環境を設定するときを作成します。

**システムジャーナル (High-end Object Server)**

High-end Object Server が取得する履歴情報です。次に示すような履歴情報を取得します。

- システムの全面回復・部分回復に必要な情報

- システムのトレース情報  
システムジャーナルは、システムに障害が発生したときに、データベースを回復するために使用します。

#### システムディレクトリ

オブジェクトサーバのプログラムを組み込むためのディレクトリです。オブジェクトサーバのシステム管理者は、プログラムを組み込む前にシステムディレクトリを決定してください。

#### ジャーナル情報ファイル (Object Server)

Object Server が現在使用している簡易ジャーナルファイルの情報を格納するファイルです。マスタディレクトリファイルと同じディレクトリ内に xodjnlinfo という名称で作成されます。

Object Server の簡易ジャーナルファイルは任意に変更できるため、このジャーナル情報ファイルで管理され、次回 Object Server を開始又は再開するとき参照されます。

次の場合は、ジャーナル情報ファイルを Object Server の停止中に削除できます。

- 前回の終了時に Object Server が正常終了した場合
- Object Server を強制正常開始する場合

#### 初期設定パラメタ

オブジェクトサーバのデータベースファイルを初期化するための情報です。初期設定パラメタの設定値は、初期設定パラメタファイル (名称は任意) に記述します。このファイルは、オブジェクトサーバのシステム管理者がデータベースを初期化する前に作成します。

#### ステータスファイル (High-end Object Server)

システムの稼働状況や構成状況を格納するファイルです。ステータスファイルに格納される情報をシステムステータス情報と呼び、次のような情報が記録されます。

- システムの開始状態を自動的に決定するための情報
- システムの状態情報

システムステータス情報は、サーバの開始、終了、ファイルのオープン、クローズなど、状態が変化した時点で、最新の情報が格納されます。格納された情報は、システムに障害が発生した場合の回復に使用します。

#### セグメント

オブジェクトサーバのデータベースファイルの初期割り当て及び増分の単位です。セグメントの大きさは、初期設定、構成変更、再構成パラメタの「area -s」に、ページ数で指定します。

### (八行)

#### ページ

オブジェクトサーバでの、データの入出力の単位です。1 ページは 8,192 バイトです。



### ホームディレクトリ

オブジェクトサーバのコマンドを実行するためのディレクトリです。名称は、/usr/HiOODB 以外であれば任意です。このディレクトリは環境変数 \$XODDIR と結び付けて使用します。

ホームディレクトリの作成者が「オブジェクトサーバのシステム管理者」となります。

## (ヤ行)

### ユーザジャーナル

Groupmax Workflow Server の履歴情報を出力するファイルです。出力する情報の内容は、Groupmax Workflow Server で決まっています。オブジェクトサーバでは、正常時用ユーザジャーナル出力ファイル及び障害時用ユーザジャーナル出力ファイルを割り当てて使用します。



## 記号

\$XODCONFPATH/xodrc 17  
\$XODDIR/spool/save 99  
\$XODDIR/spool/save/xodtrace 107  
\$XODDIR/spool/save/YYMMDDhhmmss  
107  
\$XODDIR/spool/xodjnlinfo2 107  
\$XODDIR/conf/sts 20, 106  
\$XODDIR/conf/sysjnl 106, 21  
\$XODDIR/conf/xodrc 106  
\$XODDIR/sample/DBSINT.BAT 108  
\$XODDIR/sample/sts 108  
\$XODDIR/sample/sysjnl 108  
\$XODDIR/sample/xodrc 108  
\$XODDIR/spool/ 107  
\$XODDIR/spool/consolemsg 107  
\$XODDIR/spool/dclog1 107  
\$XODDIR/spool/dclog2 107  
\$XODDIR/spool/jnlfile 107, 108  
\$XODDIR/spool/jnlfile2 107  
\$XODDIR/spool/pdmp プロセス ID 107  
\$XODDIR/spool/save/\_サーバ名 n 107  
\$XODDIR/tmp/home/ 107  
\$XODDIR/tmp/home/\_サーバ名 108  
-a オペランド 141  
-d オプション 141  
-d オペランド 140  
-d オペランド 143  
-e オペランド 116  
-i オペランド 131, 136, 141, 144  
-m オペランド 117, 119, 133, 136, 145  
-n オプション 140  
-n オペランド 116, 117, 118, 129, 131,  
135, 136, 144  
-s オペランド 119, 130, 136, 144  
-t オペランド 120, 141  
-u オペランド 118, 119, 129, 135, 139,  
143, 144  
-w オペランド 140, 141  
-w オペランド 143  
/usr/HiOODB/bin 106

/usr/HiOODB/lib/server 106  
/xodresult 107

## A

add\_area\_limit パラメタ 115  
area パラメタ 128, 135, 140, 144, 147  
A系 80  
A系ステータスファイル 122

## B

backup パラメタ 146  
Bibliotheca/OM を同じサーバで使用する場  
合 227  
B系 80  
B系ステータスファイル 122

## D

dbm\_master パラメタ 115  
dynamic\_shmpool\_size パラメタ 114

## E

esetcons 230  
esetinit 230  
esetknl 230  
esetrc 230  
esetrreco 230  
esetreog 230

## F

file パラメタ 131, 136, 144

## G

gcache パラメタ 117  
Groupmax Address/Mail Server 5  
Groupmax Document Manager 5  
Groupmax Document Manager によって付  
けられた文書の属性 5  
Groupmax High-end Object Server 2  
Groupmax Object Server 2  
Groupmax Workflow Server 5

## 索引

Groupmax サーバ環境設定コマンドによる環境設定 228

Groupmax シリーズのシステム構成 5

gset コマンド 229

## H

HP-UX 版オブジェクトサーバを御利用の場合 307

## J

jnladdfg 124

jnladdpf 125

jnl\_cdinterval パラメタ 124

jnl\_output\_file パラメタ 116

jnl\_rerun\_swap パラメタ 124

jnl\_unload\_check パラメタ 123

## K

KFXO 94

## L

lck\_limit パラメタ 112

## O

OID インデクス 110, 132

OMS 752

OMS 識別子 752

OS の機能による回復方法 59

OS の機能による取得方法 55

## P

PATH 16

prc\_process\_count パラメタ 113

## R

recreate パラメタ 140, 142

reorg パラメタ 138

resiojb パラメタ 119

resipool パラメタ 118

## S

set 形式 123

set 形式の例 21

static\_shmpool\_size パラメタ 113

sts\_file\_name\_1 ~ sts\_file\_name\_7 パラメタ 121

sysloglevel パラメタ 113

system\_id パラメタ 112

## T

trn\_tran\_process\_count パラメタ 113

## U

ujerror パラメタ 116

ujfile パラメタ 116

UNIX カーネルパラメタの設定 13

UNIX システムコールのエラー番号 749

## X

xodaradd 32, 162

xodaradd コマンドの処理結果 32

xodaradd コマンドの処理結果の出力項目 33

xodaradd コマンドの処理結果の出力フォーマット 33

xodarint 73, 178

xodarint コマンドの処理結果 74

xodarint コマンドの処理結果の出力項目 74

xodarint コマンドの処理結果の出力フォーマット 74

xodarls 49, 185

xodarls コマンドの処理結果 49

xodarls コマンドの処理結果出力フォーマット 50

xodarls コマンドの処理結果の出力項目 50

xodarrm 34, 163

xodarrm コマンドの処理結果 34

xodarrm コマンドの処理結果の出力項目 35

xodarrm コマンドの処理結果の出力フォーマット 35

xodbckup 56, 170

xodbckup コマンドによる取得手順 55

xodbckup コマンドの処理結果 56

xodbckup コマンドの処理結果の出力項目 57

xodbckup コマンドの処理結果の出力フォーマット 57

xodbinit 18, 164

xodbinit コマンドの処理結果の出力項目 19

- xodbinit コマンドの処理結果の出力フォーマット 19
  - xodbkout 65, 171
  - xodbkout コマンドの処理結果の出力項目 66
  - xodbkout コマンドの処理結果の出力フォーマット 66
  - xodbrems 165
  - xodbrems コマンドの実行 67
  - xodbrems コマンドの処理結果 68
  - xodbrems コマンドの処理結果の出力項目 71
  - xodbrems コマンドの処理結果の出力フォーマット (インデクス用エリアを再作成する場合) 71
  - xodbrems コマンドの処理結果の出力フォーマット (ディクショナリ用エリアを再作成する場合) 69
  - xodbrems コマンドの処理結果の出力フォーマット (ユーザ用エリアを再作成する場合) 70
  - xodbrecv 64, 172
  - xodbrecv コマンドの処理結果の出力項目 65
  - xodbrecv コマンドの処理結果の出力フォーマット 64
  - xodbreog 40, 174
  - xodbreog コマンドの処理結果 40
  - xodbreog コマンドの処理結果の出力項目 42
  - xodbreog コマンドの処理結果出力フォーマット (インデクスの再作成) 42
  - xodbreog コマンドの処理結果の出力フォーマット (オブジェクトの再編成) 41
  - xodbrstr 63, 176
  - xodbrstr コマンドによる回復方法 59
  - xodbrstr コマンドの処理結果の出力項目 63
  - xodbrstr コマンドの処理結果の出力フォーマット 63
  - xodbuse 43, 183
  - xodbuse コマンドの処理結果 43
  - xodbuse コマンドの処理結果の出力項目 44
  - xodbuse コマンドの処理結果の出力フォーマット 44
  - xodclear 100, 206
  - XODCONFPATH 16
  - xoddicls 51, 185
  - xoddicls コマンドの処理結果 51
  - xoddicls コマンドの処理結果の出力項目 52
  - xoddicls コマンドの処理結果の出力フォーマット 52
  - XODDIR 14, 16
  - xodfladd 36, 167
  - xodfladd コマンドの処理結果 36
  - xodfladd コマンドの処理結果の出力フォーマット 37
  - xodflalt 38, 168
  - xodflalt コマンドの処理結果 38
  - xodflalt コマンドの処理結果の出力フォーマット 38
  - xodjnlchg 91, 188
  - xodjnlcls 91, 189
  - xodjnlinit 91, 189
  - xodjnlis 91, 191
  - xodjnlpfn 91, 195
  - xodjnlrm 91, 196
  - xodjnlswp 91, 196
  - xodjnlunl 91, 196
  - xodlckpl 180
  - xodlogcat 27, 181
  - xodmltup 160
  - xodmonitor 212
  - xodpinfo 209
  - xodprmod 155
  - xodras 206
  - xodresult 18, 32, 34, 36, 38, 40, 56, 63, 64, 65, 68, 74
  - xodschs 43, 183
  - xodsetup 14, 156
  - xodstart 157
  - xodstop 158
  - xodstscs 84, 199
  - xodstsinif 84, 200
  - xodstsls 84, 201
  - xodstsupn 84, 203
  - xodstsrn 84, 204
  - xodstsswp 84, 205
  - xodujunl 187
- あ**
- アプリケーションプログラムごとに回復する 60
  - アプリケーションプログラムごとに取得する 54

## 索引

アプリケーションプログラム実行モード 25  
アプリケーションプログラム実行モードへの  
変更 155  
アボートコード 724  
アンロード 88  
アンロードジャーナルファイル 89

## い

異常終了 26  
異常終了時の回復方法 94  
インストール 13  
インストール後に作成されるファイル 14  
インデクス 110

## え

エラー情報ファイル 107  
エリア 752  
エリアの再初期化 73  
エリアの削除 34  
エリアの削除に使用するコマンド 34  
エリアの追加 32, 136  
エリアの追加に使用するコマンド 32  
エリアの用途 128

## お

オフィスで使われるオブジェクトサーバ 3  
オブジェクト 752  
オブジェクト管理ファイル 752  
オブジェクトサーバ 752  
オブジェクトサーバが提供するコマンド 3  
オブジェクトサーバ管理ファイル 109  
オブジェクトサーバとは 2  
オブジェクトサーバの OS への登録 14  
オブジェクトサーバの OS への登録・削除  
156  
オブジェクトサーバの異常終了時の処置の流  
れ 101  
オブジェクトサーバの運用 23  
オブジェクトサーバの稼働状態の監視 212  
オブジェクトサーバの環境設定の順序 8  
オブジェクトサーバの起動 157  
オブジェクトサーバのシステム管理者 752  
オブジェクトサーバのシステムファイル 78  
オブジェクトサーバの終了 158  
オブジェクトサーバのファイル 105

オブジェクトサーバのファイル一覧 106  
オブジェクトサーバを運用するときの注意  
227  
オプション 153  
オプションの形式 153  
オプションの指定規則 153

## か

カーネルパラメタの変更情報 240  
開始形態 24  
開始方法 24  
回復に使用するファイル 103  
回復の対象となるファイル 59  
回復ユティリティ実行モード 25  
カレントワーキングディレクトリ 107  
簡易ジャーナル 85, 752  
簡易ジャーナルファイル 78, 107  
環境設定の準備 10  
環境変数の設定 14, 16  
環境を設定するときの注意 227

## き

強制終了 26  
強制正常開始 24  
共用メモリの最大値の指定 13

## く

クライアント 753  
クラスタリング機能を使用した運用 (HP-  
UX を御利用の場合) 308  
グローバルキャッシュ 117, 753

## け

計画停止 26  
現用 81, 87  
現用のファイルが出力障害になった場合 88  
現用のファイルグループが一杯になった場合  
88  
現用ファイルグループ 87

## こ

構成変更 753  
構成変更パラメタ 235  
構成変更パラメタの形式 135  
構成変更パラメタの項目 135

構成変更パラメタの指定方法 136  
 構成変更パラメタファイル 135  
 構成変更パラメタファイルの作成 32, 36  
 コマンド形式 123  
 コマンド形式の例 21  
 コマンド実行時の注意事項 152  
 コマンドによるスワップ 88  
 コマンドの一覧 150  
 コマンドの記述形式 153  
 コマンドの指定方法 153  
 コマンドの処理結果 65  
 コマンドの入力方法 153  
 コマンド引数 154  
 コマンド名 153

## さ

サーバ 753  
 サーバ管理コマンド 209  
 再開 24  
 再構成パラメタ 239  
 再構成パラメタの形式 142  
 再構成パラメタの項目 142  
 再構成パラメタファイル 142  
 再構成パラメタファイルの作成 67  
 再初期化 753  
 最大割り当て量の見積もり 37  
 再編成 753  
 再編成パラメタ 238  
 再編成パラメタの形式 138  
 再編成パラメタの項目 138  
 再編成パラメタファイル 138  
 再編成パラメタファイルの作成 40  
 サンプルファイル 108, 221, 230, 241  
 サンプルファイルの内容 222

## し

システム移行時の障害予防 303  
 システム回復用ジャーナル情報 86  
 システム環境を設定及び変更する 297  
 システム管理コマンド 155  
 システム管理者 753  
 システム管理者による環境設定 16  
 システム管理者の登録 12  
 システム共通定義 753  
 システム共通定義の形式 111

システム共通定義の項目 112  
 システム共通定義ファイル 111  
 システム共通定義ファイルサンプル 108  
 システム共通定義ファイルの作成 17  
 システムジャーナル 86, 753  
 システムジャーナルサービス定義の形式 123  
 システムジャーナルサービス定義の項目 123  
 システムジャーナルサービス定義ファイル  
 123  
 システムジャーナルサービス定義ファイルサ  
 ンプル 108  
 システムジャーナルサービス定義ファイルの  
 作成 21  
 システムジャーナルファイル 78  
 システムジャーナルファイル管理コマンド  
 188  
 システムジャーナルファイルのアンロード  
 88, 91, 196  
 システムジャーナルファイルの上書き 89  
 システムジャーナルファイルの運用に使用で  
 きるコマンド 91  
 システムジャーナルファイルのオープン  
 91, 195  
 システムジャーナルファイルのオープンとク  
 ローズ 90  
 システムジャーナルファイルのクローズ  
 91, 189  
 システムジャーナルファイルの構成 86  
 システムジャーナルファイルのコマンド 91  
 システムジャーナルファイルの再使用 89  
 システムジャーナルファイルの削除 91, 196  
 システムジャーナルファイルの作成 20, 86  
 システムジャーナルファイルの状態 86  
 システムジャーナルファイルの状態遷移 90  
 システムジャーナルファイルの情報の表示  
 90  
 システムジャーナルファイルの情報表示  
 91, 191  
 システムジャーナルファイルの初期化 91  
 システムジャーナルファイルの初期設定 189  
 システムジャーナルファイルのステータスの  
 変更 91  
 システムジャーナルファイルのステータス変  
 更 91, 188

## 索引

システムジャーナルファイルのスワップ  
87, 91, 196  
システムジャーナルファイルの操作 87  
システムジャーナルファイルの目的 86  
システム情報ファイル 107  
システムステータス情報 80  
システム制御ファイル 106  
システムディレクトリ 13, 754  
システム統合運用管理からオブジェクトサー  
バを起動する場合 25  
システムファイル 78  
システムファイル作成用バッチファイル 108  
システムファイルの運用 77  
システムファイルの作成 20  
システムファイルの保護 79  
実行モード 24  
ジャーナル情報ファイル 107  
ジャーナル情報ファイル (Object Server)  
754  
ジャーナルのファイルグループの指定 124  
ジャーナルの物理ファイルの指定 125  
ジャーナルファイルの運用 85  
ジャーナルファイル容量不足の対処 306  
終了形態 26  
終了方法 26  
障害回復に必要なファイル 102  
障害時の運用 100  
障害情報の取得 206  
障害対策 93  
障害対策コマンド 206  
障害発生後の起動環境の修復 100, 206  
障害予防 295  
詳細コード 746  
常駐ページプール 118  
省略値を使用したシステム共通定義の例 17  
初期設定パラメタ 231, 754  
初期設定パラメタの形式 127  
初期設定パラメタの項目 127  
初期設定パラメタの指定例 216  
初期設定パラメタファイル 126  
初期設定パラメタファイルの作成 16  
処理対象エリア名 147

## す

スーパユーザによる環境設定 12

スキーマ名の表示 43, 183  
ステータスサービス定義の形式 121  
ステータスサービス定義の項目 121  
ステータスサービス定義の注意事項 122  
ステータスサービス定義ファイル 121  
ステータスサービス定義ファイルサンプル  
108  
ステータスサービス定義ファイルの作成 20  
ステータスサービス定義ファイルの例 20  
ステータスファイル 78, 754  
ステータスファイル管理コマンド 199  
ステータスファイルに障害が起こったとき  
98  
ステータスファイルの運用 80  
ステータスファイルの運用に使用できるコマ  
ンド 84  
ステータスファイルのオープン 84, 203  
ステータスファイルのオープンとクローズ  
83  
ステータスファイルのクローズ 84, 199  
ステータスファイルの構成 80  
ステータスファイルのコマンド 84  
ステータスファイルの削除 83, 84, 204  
ステータスファイルの作成 20, 82  
ステータスファイルの作成と初期化 84  
ステータスファイルの状態 81  
ステータスファイルの状態遷移 84  
ステータスファイルの状態表示 83  
ステータスファイルの情報表示 84, 201  
ステータスファイルの初期設定 200  
ステータスファイルのスワップ 82, 84, 205  
ステータスファイルの操作 82  
ステータスファイルの定義 82  
ステータスファイルの目的 80  
スワップ 82  
スワップ先のファイルグループがない場合  
90

## せ

正常開始 24  
正常終了 26  
静的共用メモリ 113  
セグメント 130, 754  
セグメントサイズ 130



全面回復時に使用するジャーナルファイル  
89  
全面回復時のシステムジャーナルファイルの  
状態回復 91  
全面回復時の予約状態のオープン 89

## そ

その他の障害 98  
その他のファイルに障害が起こったとき 99

## た

待機 87  
待機ファイルグループ 87  
他のプログラムとの関係 5  
ダンプ退避ファイル 107

## つ

通常ファイル 10  
通信設定ファイルの設定 12

## て

定義ファイルの作成 16  
ディクショナリ 110, 132  
ディクショナリの情報表示 51, 185  
ディレクトリ構成の決定 10  
データディレクトリ 110, 132  
データベースエリア使用状況の表示 183  
データベースエリアの使用状況表示 43  
データベース管理コマンド 162  
データベース障害のメッセージが出力されて  
いないとき 94  
データベース障害のメッセージが出力されて  
いるとき 94  
データベース診断コマンド 183  
データベースの運用 31  
データベースのエリアの再作成 67, 165  
データベースのエリアの再作成に使用するコ  
マンド 67  
データベースのエリアの再初期化 178  
データベースのエリアの再初期化に使用する  
コマンド 73  
データベースのエリアの削除 163  
データベースのエリアの情報表示 49, 185  
データベースのエリアを拡張する 299  
データベースの回復 59, 172

データベースの回復に使用するコマンドの位  
置付け 61  
データベースの回復に使用するコマンドの運  
用の流れ 62  
データベースの構成変更 32  
データベースの再構成 67  
データベースの再初期化 73  
データベースの再初期化コマンド 178  
データベースの再編成 39, 174  
データベースの再編成に使用するコマンド  
39  
データベースの状態表示 43  
データベースの初期化 17, 164  
データベースのバックアウト 171  
データベースのバックアップ取得 170  
データベースのバックアップの取得 54  
データベースのファイルの属性変更 168  
データベースの保守コマンド 170  
データベースのリストア 176  
データベースファイル 109  
データベースファイルを一括して回復する  
60  
データベースファイルを一括して取得する  
54  
データベースファイルを削除する 298  
データベースへのエリアの追加 162  
データベースへのファイルの追加 167  
データベース満杯状態の回避 298  
データベース用ディレクトリの作成 18  
データベース容量の決定 10  
データベースを再編成する 298  
データベースを障害発生時点から見て最新の  
同期点の状態に回復する (High-end  
Object Server) 61  
データベースをバックアップ取得時点の状態  
に回復する 59

## と

動的共用メモリ 114  
登録情報 5  
トレースファイル 107

## は

バージョンアップ時の障害予防 305  
排他管理コマンド 180

## 索引

排他制御テーブルのプール使用率の表示 180  
バックアップからのデータベースファイルの  
回復方法 59  
バックアップの取得 295  
バックアップの対象となるファイル 54  
バックアップパラメタの形式 146  
バックアップパラメタの項目 146  
バックアップパラメタファイル 146  
バックアップパラメタファイルの作成 55  
バックアップファイル名 146  
バックアップを取得する時点 295  
バッチファイルによる High-end Object  
Server のシステムファイル環境設定  
221  
バッチファイルの使用方法 221

## ふ

ファイルグループ 86  
ファイルシステム領域 78  
ファイルの最大割り当て量 133  
ファイルの属性変更 37  
ファイルの属性変更を使用するコマンド 37  
ファイルの追加 35, 137  
ファイルの追加に使用するコマンド 36  
ファイル容量の計算式 219  
物理ファイル 86  
不要なオブジェクトを削除する 303  
フラグ引数 153  
プロセスの状態表示 209  
プロセスの状態表示の出力例 331

## へ

閉塞 81  
ページ 130, 754

## ほ

ホームディレクトリ 755  
ホームディレクトリの作成 16

## ま

マスタディレクトリ 110, 132  
マスタディレクトリファイルの格納ディレク  
トリ /xodjnlinfio 107  
マニュアルのメッセージの見方 339

マルチオブジェクトサーバ (マルチ OMS)  
( High-end Object Server )( HP-UX を  
御利用の場合 ) 336  
マルチサービス用のオブジェクトサーバの  
OS への登録・削除 160

## め

メッセージ 339  
メッセージの形式 339  
メッセージの出力形式 339  
メッセージの要因を調べるときの注意 227  
メッセージへの対処 94

## ゆ

ユーザジャーナル 91, 755  
ユーザジャーナル管理コマンド 187  
ユーザジャーナルのアンロード 187  
ユーザジャーナルファイル 78  
ユーザジャーナルファイルに障害が起こった  
とき 98  
ユーザデータベース 110  
ユティリティ実行モード 25

## よ

用語解説 752  
要素ファイル 86  
予備 81  
予約 81, 87

## れ

連携するアプリケーションプログラム 5  
連携するプログラム側からのデータベースの  
削除 34  
連携プログラム用データ格納ファイル 110

## ろ

ログファイルに障害が起こったとき 99  
ログファイルの運用 27  
ログファイルの作成 27  
ログメッセージ 27  
ログメッセージ管理コマンド 181  
ログメッセージの出力 27, 181  
ログメッセージの出力形式 28  
論理ファイル 80  
論理ファイル名 121

**わ**

ワークフロー管理情報 5



# ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内

ソフトウェアマニュアルについて、3種類のサービスをご案内します。ご活用ください。

## 1. マニュアル情報ホームページ

ソフトウェアマニュアルの情報をインターネットで公開しております。

URL <http://www.hitachi.co.jp/soft/manual/>

ホームページのメニューは次のとおりです。

|                  |                                                                     |
|------------------|---------------------------------------------------------------------|
| Web提供マニュアル一覧     | インターネットで参照できるマニュアルの一覧を提供しています。(詳細は「2. インターネットからのマニュアル参照」を参照してください。) |
| CD-ROMマニュアル情報    | 複数マニュアルを格納したCD-ROMマニュアルを提供しています。どの製品に対応したCD-ROMマニュアルがあるか、を参照できます。   |
| マニュアルに関するご意見・ご要望 | マニュアルに関するご意見、ご要望をお寄せください。                                           |

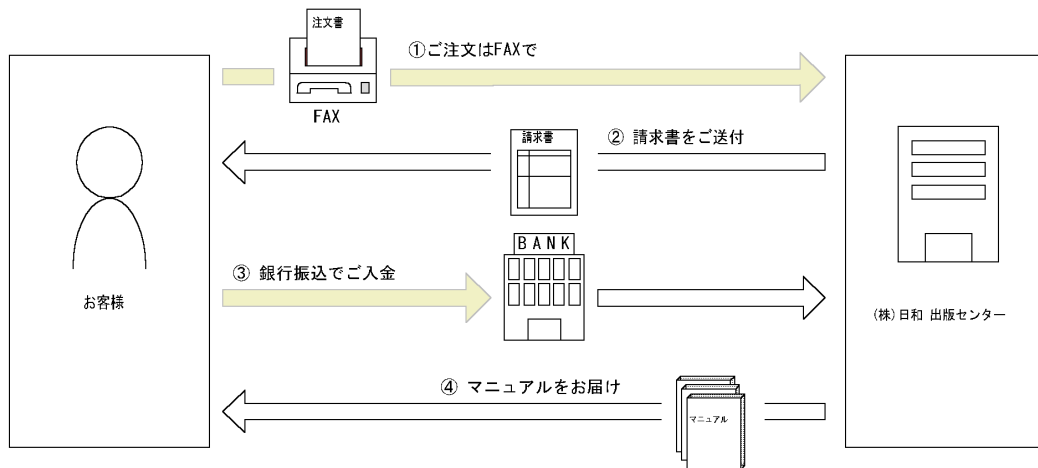
## 2. インターネットからのマニュアル参照(ソフトウェアサポートサービス)

ソフトウェアサポートサービスの契約をしていただくと、インターネットでマニュアルを参照できます。(本サービスの対象となる契約の種別、及び参照できるマニュアルは、マニュアル情報ホームページでご確認ください。参照できるマニュアルは、クライアント/サーバ系の日立オープンミドルウェア製品を中心に順次対象を拡大予定です。)

なお、ソフトウェアサポートサービスは、マニュアル参照だけでなく、対象製品に対するご質問への回答、問題解決支援、バージョン更新版の提供など、お客様のシステムの安定的な稼働のためのサービスをご提供しています。まだご契約いただいていない場合は、ぜひご契約いただくことをお勧めします。

## 3. マニュアルのご注文

裏面の注文書でご注文ください。



マニュアル注文書に必要事項をご記入のうえ、FAXでご注文ください。

ご注文いただいたマニュアルについて、請求書をお送りします。

請求書の金額を指定銀行へ振り込んでください。なお、送料は弊社で負担します。

入金確認後、7日以内にお届けします。在庫切れの場合は、納期を別途ご案内いたします。

(株) 日和 出版センター 行き

FAX 番号 0120-210-454 (フリーダイヤル)

## 日立マニュアル注文書

|                        |                              |
|------------------------|------------------------------|
| ご注文日                   | 年 月 日                        |
| 送付先ご住所                 | 〒<br>_____<br>_____<br>_____ |
| お客様名<br>(団体名, 又は法人名など) |                              |
| お名前                    |                              |
| 電話番号                   | ( )                          |
| FAX 番号                 | ( )                          |

| 資料番号 | マニュアル名 | 数量 |
|------|--------|----|
|      |        |    |
|      |        |    |
|      |        |    |
|      |        |    |
|      |        |    |
|      |        |    |
|      |        |    |
|      |        |    |
|      |        |    |
|      |        |    |
| 合計   |        |    |

マニュアルのご注文について、ご不明な点は  
(株) 日和 出版センター (TEL 03-5281-5054) へお問い合わせください。